

まえがき

本詩集は、引用・活用自由自在とされている『心に響く 漢詩名句辞典』（田中春泥著、ベレ出版者出版）から、その7割程度を抽出し、中国データベース「搜韻」により原詩を復元し、参考文献から引用して語釈をつけたものである。

漢詩を学ぶ者、楽しむ者にとって、名作の詩に触れることが肝要であり、名作の詩は、殆ど「名句」を含んでいる。よって、名句を含む詩をに触れることは、名作の詩に触れることにつながる。

さらには、これら名作の詩には、『心に響く 漢詩名句辞典』に取り上げられていない「名句」も含まれているので、筆者が適宜追加した。本文中に、太字で括弧されているのが「名句」である。

漢詩を創作することを趣味にしている者にとっては、名作の詩、特に「名句」を記唱することの重要性は、先賢の等しく説くところである。

本詩集はそのためにも役立つことと信じている。

なお、通釈を着けなかったのは、典故がある場合に通釈が膨大になること、参考文献の著作権に触れる恐れがある事によるものである。これらは、本詩集を使用する者、同好会等の団体によって、適宜、参考文献を参照されればよいと考える。「関連詩句」については、随時追加していく予定である。

単に名句を記唱することを目的とするのであれば、『心に響く 漢詩名句辞典』には名句の通釈も記載されているので、こちらを購入されることをお勧めする。

なお、各詩に記載する参考文献は代表的な物であり、この他に最期に記載する関係文献を参照している。

また、転記の手間を省略するために、各種のブログから語釈を引用した。主なものは

「詩詞世界」「Web 漢文大系」「漢詩の朗読」「漢文委員会」であるが、その他についても、思い出し次第適宜追加していく。とくに「詩詞世界」は、信頼できるブログであるので、文献扱いとしたものもある。

漢詩を学ぶ者、楽しむ者に対して作った物であるので、出所を明示すれば、著作権の一切を放棄するものである。教育材料作成についての電子データとして採用していただく事も歓迎である。

今後、参考文献を読み直して補充・整理していくと共に、「関連詩句」の充実を図りたいが、長い作業になると思われるので、ここに公開する。

利用方法としては、詩を知りたければ、▼をクリックすれば展開される。詩語を含む詩を知りたければ、検索機能を利用すれば、それを含む詩が分かるようになっている。

通常の電子データとして含まれていない物も有るので、転記の手間が省ける陀でも、役に立てば幸いである。

トップページ

<http://sankyokanjin2.jp/>

★南北朝 陶潜 歸園田居 其一 園田の居に帰る 其の一

少無適俗韻 少にして俗韻に適する無く

性本愛邱山 性本丘山を愛す

誤落塵網中 誤りて塵網の中に落ち

一去三十年 一たび去ること三十年

羈鳥戀舊林 羈鳥旧林を恋い

池魚思故淵 池魚故淵を思う

開荒南野際 荒を開く南野の際

守拙歸園田 拙を守りて園田に帰る

方宅十餘畝 方宅十餘畝

草屋八九間 草屋八九間

榆柳蔭後簷 榆柳後簷を蔭い

桃李羅堂前 桃李堂前に羅る

曖曖遠人村 曖々たり遠人の村

依依墟里煙 依々たり墟里の煙

狗吠深巷中 狗は吠ゆ深巷の中

鷄鳴桑樹巔 鷄は鳴く桑樹の嶺

戶庭無塵雜 戶庭塵雜無く

虛室有餘閑 虛室余閑有り

久在樊籠裡 久しく樊籠の裡に在りしも

復得返自然 復た自然に返るを得たり

【語釈】

俗韻：俗世間。性：生まれつき。邱山：岡や山、大自然。塵網：穢れた世の中。  
一去：あつという間に。舊林：もと住んでいた林。故淵：もと住んでいた淵。荒  
：荒地。拙：自分の下手な生き方。方宅：四角な宅地。畝：約1.82アール。  
榆柳：これと柳。後簷：家の後ろの軒。堂前：へやの前。曖曖：おぼろなさま。  
依依：遠くかすんで見えるさま。墟里：さびしい村ざと。深巷：里の小道の奥。  
塵雜：埃やごちやごちやとした雑多な物。虚室：がらんとした空間。餘閑：ゆつ  
たりとした静けさ。樊籠：鳥かご。自然：自由自在で拘束されないありさま。

(新釈漢文大系 詩人編 1) (陶淵明詩選)

★南北朝 陶潜 歸園田居 其三 田園の居に帰る 其の三

種豆南山下 豆を種う南山の下

草盛豆苗稀 草盛んにして豆苗稀なり

晨興理荒穢 晨に興きて荒穢を理え

帶月荷鋤歸 月を帯び鋤を荷いて帰る

道狹草木長 道狭くして草木長じ

夕露沾我衣 夕露 我が衣を沾す

衣沾不足惜 衣が濡るるは惜むに足らず

但使願無違 但だ願いをして違ふこと無からしめよ

【語釈】

南山：廬山。荒穢：荒れ果てて雑草の生い茂っている土地。

（陶淵明詩選）（新釈漢文大系 詩人編 1）

★南北朝 陶潜 飲酒二十首 其二 飲酒二十首 其の二

積善云有報 善を積めば報い有りと云うも

夷叔在西山 夷叔 西山に在り

善惡苟不應 善惡 苟にも応ぜざれば

何事空立言 何事ぞ 空言を立てん

九十行帶索 九十行 索を帶ずさえ

飢寒況當年

飢寒 況いむんや当年をや

不頼固窮節

固窮の節に頼たのむざれば

百世當誰傳

百世 當に誰にか伝つたうべし

【語釈】

積善：積み重ねた善い行い。有報：（善い）報いがある。夷叔：伯夷と叔齊のこと。西山：首陽山のこと河東蒲阪の華山の北で河曲の中にある、伯夷と叔齊はここに隠棲して飢え死にした。苟：かりそめにも。何事：どうしたこと。空：むなしく、無意味に。立言：議論を発表する。九十行帶索：九十歳になんなんとした榮啓期は、繩を帯にして、樂器を打ち鳴らして歌を唱うという行為をした。飢寒：飢えや寒さ、貧窮生活をいう。況：ましてや、いわんや。當年：かのとし。ここでは、壮年時代になる。固窮節：貧窮を固守する節操。百代の後。當誰傳：一体、誰が（後世に）伝えてくれるのか。

（新釈漢文体系 詩人編 1）（詩詞世界）

★南北朝 陶潜

飲酒二十首 其五

飲酒二十首 其五

結廬在人境 廬を結んで人境に在り

而無車馬喧 而も車馬の喧すしき無し

問君何能爾 君に問う何ぞ能く爾るやと

心遠地自偏 心遠ければ地自づから偏なり

採菊東籬下 菊を採る東籬の下

悠然見南山 悠然として南山を見る

山氣日夕佳 山氣 日夕に佳く

飛鳥相與還 飛鳥 相與に還る

此中有真意 此の中に真意有り

欲辨已忘言 弁げんと欲して已に言を忘る

【語釈】

人境…人里。而…それなのに。而…そうであること。籬…まがき、垣根。悠然…  
ゆったりとして。南山…廬山。山氣…山の気配、山にたなびく霞（嵐気）。日夕…  
…夕方。  
相與…飛鳥が群をなして一塊りになって。此中…第5句く第8句までに示した  
世界。

(新釈漢文大系 詩人編 1) (陶淵明詩選)

★南北朝 陶潜 飲酒二十首 其七 飲酒二十首 其の七

秋菊有佳色 秋菊 佳色あり

裛露掇其英 露に裛いて其の英を掇み

汎此忘憂物 此の忘憂の物に汎へて

遠我遺世情 我が遺世の情を遠ざく

一觴雖獨進 一觴独り進むと雖ども

杯盡壺自傾 杯尽きて壺自ら傾く

日入羣動息 日入りて群動息み

歸鳥趨林鳴 歸鳥林に趨きて鳴く

嘯傲東軒下 嘯傲す東軒の下

聊復得此生 聊か復た此の生を得たり

【語釈】

佳色：よい色香。裛：うるおす。掇：つみとる。英：はなびら。汎：浮かべる。  
忘憂物：憂いを消す物、酒のこと。遺世：世から遠ざかった。一觴：一杯。獨進  
：独りで飲み進む。羣動：多くの動く物の活動。息：収まる。趨：おもむく、(林  
に) 帰る。嘯傲：うそぶきくつろぐ。嘯傲：うそぶきくつろぐ。

(新釈漢文大系 詩人編 1) (陶淵明詩選) (詩詞世界)



★南北朝 陶潜

飲酒二十首 其八

飲酒二十首 其の八

陶潜

青松在東園

青松 東園に在り

衆草沒其姿

衆草 其の姿を沒す

凝霜殄異類

凝霜 異類を殄し

卓然見高枝

卓然として 高枝を見はす

連林人不覺

林に連なりては 人覺らず

獨樹衆乃奇

獨樹 衆乃ち奇とす

提壺挂寒柯

壺を提げて 寒柯に掛け

遠望時復爲

遠望 時に復た爲す

吾生夢幻間

吾が生は 夢幻の間

何事繼塵羈

何事ぞ 塵羈に繼がる

【語釈】

凝霜：厚く降りた霜。殄：亡ぼす。異類：異なる植物。卓然：抜きん出るさま。  
衆乃奇：多くの者がそこで始めてすばらしいとする。寒柯：寒々しい枝。何事…  
どうして〜のことがあるのか。繼：馬などをつなぐ。塵羈：余の煩わしい関係。

(新釈漢文大系 詩人編 1)

★南北朝 陶潜 飲酒二十首 其十四 飲酒二十首 其の十四

故人賞我趣 故人 我が趣を賞し

挈壺相與至 壺を挈ひきえて 相あい與ともに至る

班荆坐松下 荆けいを班しきて 松下に坐し

數斟已復醉 數斟すうしやくにして 已まに復た酔う

父老雜亂言 父老は 雜亂ざつらんして言ひ

觴酌失行次 觴酌しょうしやく 行次こうじを失す

不覺知有我 我の有るを 知るを覺えず

安知物爲貴 安んぞ知らん 物の貴しと爲すを

悠悠迷所留 悠々たるものは 留まる所に迷うも

酒中有深味 酒中に 深味あり

【語釈】

賞我趣：自分の心中を理解する。班荆：御座代わりに粗末な枝や草を敷く。觴酌：坏のやりとり。行次：順序。物爲貴：世俗の価値観によって振り回されること。悠悠：世の中のとりとめも無いさま。迷所留：未練がましいことにまどわされる。

(新釈漢文大系 詩人編 1)

★南北朝 陶潜

雜詩十二首其一

雜詩十二首其一

人生無根蒂

人生 根蒂なく

飄如陌上塵

飄として陌上の塵の如し

分散逐風轉

分散し 風を逐って轉じ

此已非常身

此れ已に常の身に非ず

落地爲兄弟

地に落ちては 兄弟と爲る

何必骨肉親

何ぞ必ずしも骨肉の親のみならんや

得歡當作樂

歡を得なば 当に樂しみを作すべし

斗酒聚比鄰

斗酒 比鄰を聚めよ

盛年不重來

盛年 重ねては來たらず

一日難再晨

一日 再びは晨なりがたし

及時當勉勵

時に及んで 當に勉勵すべし

歲月不待人

歲月は人を待たず

【語釈】

雜詩：作者が感じたことを気ままに詠よんだ無題詩のこと。根蒂：草木の根元と果実のへた、転じて、物事の拠り所。飄：風に舞いあがる形容。

陌：路。分散：分かれ散ること。逐風轉：風の吹くままに転がっていく。此：この身。已：もはや。もう。常身：一定不変の身、永遠に変わらぬ

い身体。落地：この地上に生まれ落ちて。何必：「なんぞかならずしもく（や）」と読み、「どうして〜である必要があるのか、いやないのだ」と訳す。

反語。骨肉親：血を分け合った人々。得歡：楽しいことがあったら。当作

樂：心ゆくまで楽しむべきである。斗酒：一斗（日本の一升くらい）の酒、

わずかな酒をいう。比鄰：近所の人々。聚：集める。盛年：若く元気盛んな時。不重來：二度とやって来ない。難再晨：朝は二度やって来ない。及時：よい時機を失わずに。勉勵：充実した時間を過ごす。歲月：時の流れ

（陶淵明詩選）（新釈漢文大系 詩人編 1）

★南北朝 陶潜

雜詩十二首 其二

雜詩十二首 其二

白日淪西阿

白日 西阿に淪み

素月出東嶺

素月 東嶺に出ず

遙遙萬里輝

遙々として万里に輝き

蕩蕩空中景

蕩々たり 空中の景

風來入房戶

風来つて 房戸に入り

夜中枕席冷

夜中 枕席冷やかなり

氣變悟時易

氣変じて 時の易わるを悟り

不眠知夕永

眠らずして夕の永きを知る

欲言無予和

言わんと欲するも 予に和するもの無く

揮杯勸孤影

杯を揮つて 孤影に勸む

日月擲人去

日月 人を擲ちて去り

有志不獲騁

志有るも 騁するを獲ず

念此懷悲悽

此を念いて 悲悽を懷き

終曉不能靜

曉を終うるまで 靜まる能はず

【語釈】

白日：輝く太陽。西阿：西方の山。淪：沈む。素月：明るく輝く月。遙遙：遙かに遠いさま。蕩蕩：広く行く渡るさま。房戸：家の戸口。枕席：枕と寝台の敷物。時易：四季がうつろう。騁：はばたく。悲悽：痛ましく悲しい感情。

★南北朝 陶潜

移居二首 其二

居を移す二首 其二

春秋多佳日 春秋 佳日多く

登高賦新詩 高きに登りて新詩を賦す

過門更相呼 門を過ぐれば更ごも相呼び

有酒斟酌之 酒有らば之を斟酌す

農務各自歸 農務には各自帰えり

閑暇輒相思 閑暇には輒ち相い思ふ

相思則披衣 相い思えば則ち衣を披き

言笑無厭時 言笑 厭く時無し

此理將不勝 此の理 將た勝らざらんや

無爲忽去茲 忽ち茲を去るを爲す無かれ

衣食當須紀 衣食 當に須く紀むべし

力耕不吾欺 力耕 吾を欺かず

【語釈】

佳日：おだやかな気候で天気の良い日。對的：酒をつぐ、酒を飲む。  
閑暇：農事の合間。輒：その時はいつも。披衣：上衣の袖を通さないで羽織る。  
言笑：楽しく語り合う。此理：こうした世界の道理、農事に励みつつ近隣と楽しいひとときを過ごす生き方をいう。將不勝：どうしてすぐれていないことがあるうか。去茲 転居してきた南柯を去る意と、こうした隣近所との理想的な関係をやめる意を含む。當須 どうしてもくしななければならない。紀：治める。調える。力耕：農事に務めること。

(新釈漢文大系 詩人編 1)

★南北朝 陶潜

己酉歳九月九日

己酉の歳 九月九日

靡靡秋已夕

靡々として 秋 已に夕れ

淒淒風露交

淒々として 風露交わる

蔓草不復榮

蔓草 復た榮えず

園木空自凋

園木 空しく自ら凋む

清氣澄餘滓

清き 余滓を 澄ませ、

杳然天界高

杳然として 天界高し

哀蟬無留響

哀蟬 響を留むる無く

叢雁鳴雲霄

叢雁 雲霄に鳴く

萬化相尋繹

万化 相い尋繹し

人生豈不勞

人生 豈に 勞せざらんや。

從古皆有沒

古え 從り 皆 没する有り、

念之中心焦

之を 念へば 中心焦る

何以稱我情

何を以ってか 我が情を称えん

濁酒且自陶

濁酒 且し 自ら陶しまん

千載非所知

千載 知る所に非ざれば

聊以永今朝

聊か 以て 今朝を永くせん

【語釈】

己酉：409年（東晉・安帝の義熙五年）。靡靡：遅々としている。秋已夕：秋はとつくに暮れた、とつくに晩秋になった。已：とつくに。すでに。夕：暮れる、動詞として使われる、非暮。淒淒：寒く冷ややかなさま、雲が湧き起こり雨もようつこと。風露：寒い風と、屋外の露きびしい自然の営みをいう。交：交互にやってくる。蔓草：はびこる草。不復：二度とは…ない。園木：庭木。空自：

むなしく自分から。凋：草木が萎えしなびる。清氣：（晩秋の）澄んだ空気。餘  
滓：余計な塵。杳然：はるかさま。天界高：大空が（澄み渡って）高くなつて  
いるように感じる。こと、秋の情景。哀蟬：（夏の盛りを終えて、）哀れな様子の  
秋口の蟬、寒蟬。叢雁：群れをなして飛ぶカキ。雲霄：そら。萬化：万物の変化、  
多くの物事の変化。尋繹：繰り返しておこなう、再三復習をする。豈不：なんと  
……ではないか。勞：苦勞する。從古：むかしから。沒：死没すること。念之：  
「從古皆有沒」のことをじっくりと思えば。中心：心の中。焦：こがれる。何以：  
…なにもものをもつて。稱：かなえる。我情：わたしの感情。わが思い。濁酒：濁  
っている酒。且：しばし。自：じぶんで。陶：よろこぶ、たのしむ。千載：千年。  
非所知：関知するところではない。聊：いささか。以永今朝：今日（一晚中）

（新釈漢文大系 詩人編 1）

★南北朝 陶潜

擬古九首 其七

擬古九首 其七

日暮天無雲

日暮れて天に雲無く

春風扇微和

春風 微和を扇ぐ

佳人美清夜

佳人 清夜を美とし

達曙酣且歌

曙に達するまで 酣よい且つ歌う

歌竟長歎息

歌い竟おれば 長歎息し

持此感人多

此を持って 人を感じしむること多し

皎皎雲間月

皎々こうこうたり 雲間の月

灼灼葉中華

灼々しやくしやくたり 葉中の華はな

豈無一時好

豈あに一時の好 無からんや

不久當如何

久しからざるは 応まさに如何いかんすべき

【語釈】

擬古…古い詩を根拠として作った詩。微和…春のおだやかな気配。扇…吹き寄せる。佳人…美女。美清夜…清々しい夜を楽しむ。皎皎…白く輝いて清いさま。灼灼…花が鮮やかに咲くさま。



★唐 孟浩然 もうこうねん

送杜十四之江南

杜十四の江南に之くを送る

荆吳相接水為鄉

荆吳 相接して 水を郷と為す

君去春江正淼茫

君の去る 春江 正に淼茫たり

日暮孤舟何処泊

日暮 孤舟 何れの処にか泊す

天涯一望斷人腸

天涯 一望 人の腸を断つ

【語釈】

杜十四…不詳。荆吳…荆（楚の国、湖北省地方）と吳（江蘇省の地方）。淼茫…水がはてしなく広がっている様。天涯…天の果て、ごく遠いところ。

（唐詩選）

参考詩句

「日暮孤舟江上泊，待明風雪逼人清。」明・謝士元

「小孤江畔海門關，日暮孤舟自去還。」明末清初 毛奇齡

「雲陰慘澹柳陰稀，遊子天涯一望時。」唐末・李咸用

「天涯一望鄉心切，腸斷秋山笛裏聲。」明・李東陽

★唐 孟浩然

春曉

しゅんぎょう  
春曉

春眠不覺曉

春眠 曉あかつきを覺えず

處處聞啼鳥

処々ていぢょう啼鳥を聞く

夜來風雨聲

夜來 風雨の聲

花落知多少

花落つること 知んぬ多少ぞ

【語釈】

春眠：春の夜の心地よい眠り。曉：夜が明けたこと。不覺：気づかない。  
處處：あちこちで。あちらこちらから。聞：自然に聞こえてくる。啼鳥：鳥  
のさえずり。夜來：昨夜、「来」は語調をととのえる助字。多少：疑問詞、ど  
れくらい。知多少：いったいどれくらい散ったことだろうか。

(唐詩選)

★唐 孟浩然

宿建德江

建德江に宿す

移舟泊烟渚

舟を移して 煙渚に泊まれば

日暮客愁新

日暮れて 客愁新たなり

野曠天低樹

野は広く 天は樹に低れ

江清月近人

江は清く 月は人に近し

【語釈】

建徳江：建徳市を流れる川。川霧で知られる。煙渚：川霧の立ち込める渚。客愁：旅の愁い。

(唐詩二百首)

★唐 孟浩然

送朱大入秦

朱大の秦に入るを送る

遊人五陵去

遊人 五陵に去り

寶劍直千金

宝劍 直千金

分手脫相贈

手を分かつとき 脱して相贈る

平生一片心

平生 一片の心

【語釈】

朱大：不詳、大は排行。秦：長安地方。遊人：…決まった生業や住居のない俠客、遊俠。五陵：五陵付近の地、五陵は、長安北郊の地名。相贈：相手に贈る、「相」は互いの意ではない。心：真心

(唐詩選)

★唐 孟浩然 洛中訪袁拾遺不遇

洛中に袁拾遺を訪いて遇わず

洛陽訪才子 洛陽に才子を訪えば

江嶺作流人 江嶺に流人と作れり

聞説梅花早 聞説く梅花早しと

何如此地春 何んぞ此の地の春に如かんや

【語釈】

袁拾遺：…不詳、袁は姓。拾遺は官名。洛陽才子：袁拾遺、「漢の賈誼の故事に基づく。江嶺：揚子江・五嶺の地方。聞説：聞くところによると。

（唐詩選）（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 孟浩然

臨洞庭

洞庭に臨む

八月湖水平

八月湖水平らかに

涵虚混太清

虚を涵して太清に混ず

氣蒸雲夢澤

氣は蒸す 雲夢沢

波撼岳陽城

波は撼がす 岳陽城

欲濟無舟楫

濟らんと欲するも 舟楫なく

端居恥聖明

端居 聖明に恥ず

坐觀垂釣者

坐に釣を垂るる者を觀て

徒有羨魚情

徒らに魚を羨むの情あり

【語釈】

洞庭：洞庭湖。臨：目の前にする。高い所から下を見る。虚：虚空。大空。涵：  
浸す。太清：天。道教用語。混：空と水とが一つに混ざり合う。氣蒸：水蒸  
氣が立ちのぼる。雲夢沢：今の湖北省南部から湖南省北部にかけてあったとい  
われる広大な湿地帯の名。氣蒸：水蒸氣が立ちのぼる。舟楫：舟と櫂。端居  
：なすこともなく、じっとしている。  
聖明：天子、天子の明德。

(唐詩選) (漢詩鑑賞事典)

★唐 孟浩然

歲暮歸南山

歲暮 南山に帰る

北闕休上書

北闕 上書を休め

南山歸敝廬

南山 敝廬に帰る

不才明主棄

不才 明主に棄てられ

多病故人疎

多病 故人に疎んぜらる

白髮催年老

白髮 年老を催し

青陽逼歲除

青陽 歲除に逼る

永懷愁不寐

永懷 愁えて寐ねず

松月夜窗虛

松月 夜窓に虚し

【語釈】

北闕：天子の宮城。上書：君主、役所などに文書をたてまつること。南山：終南山。敝廬：あばらや、自分の家の謙称。故人：友人。年老：年老いること。青陽：陽春。歲除：大晦日。永懷：長年の心の思い。松月：松にかかった月。

★唐 孟浩然

赴京途中遇雪

京けいに赴おもむく途中雪あに遇あう

迢遞秦京道

迢遞ちやうていたり 秦京しんけいの道

蒼茫藏暮天

蒼茫そうぼうたり 歲暮さいぼの天

窮陰連晦朔

窮陰きゆういん 晦朔かいさくに連なり

積雪滿山川

積雪 山川さんせんに満つ

落雁迷沙渚

落雁 沙渚さしよに迷い

饑鳥集野田

饑鳥 野田やでんに集う

客愁空佇立

客愁 空しく佇立ちよりつし

不見有人煙

人煙 有るを見ず

【語釈】

迢遞：遠く遙かなさま。秦京：秦の都咸陽。蒼茫：果てしなく広がって視界の  
すかなさま。窮陰：陰の気が窮まる旧曆十二月、冬の末。晦朔：旧曆十一月から  
旧曆十二月。沙渚：砂浜の渚。饑鳥：餓えた鴉。客愁：旅の愁い（を抱いた作者）。  
佇立：何時までもたたずむ。人煙：人家から立ち上るかまどの煙。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 孟浩然

自洛之越

洛自<sup>しよく</sup>り越<sup>く</sup>に之<sup>を</sup>く

遑遑三十載

遑々<sup>こうこう</sup>三十載

書劍兩無成

書劍<sup>しよけん</sup> 兩<sup>ふたつ</sup>ながら成<sup>なり</sup>る無し

山水尋吳越

山水<sup>さんすい</sup> 吳越<sup>ごえつ</sup>を尋<sup>たず</sup>ね

風塵厭洛京

風塵<sup>ふうじん</sup> 洛京<sup>らくけい</sup>を厭<sup>いと</sup>う

扁舟泛湖海

扁舟<sup>へんしゆ</sup>を湖海<sup>こかい</sup>に泛<sup>う</sup>かべ

長揖謝公卿

長揖<sup>ちやうぎ</sup> 公卿<sup>こうきやう</sup>に謝<sup>あが</sup>す

且樂杯中物

且<sup>しか</sup>く杯中<sup>しほち</sup>の物<sup>もの</sup>を樂<sup>たの</sup>しみ

誰論世上名

誰<sup>たれ</sup>か世上<sup>じよじやう</sup>の名<sup>な</sup>を論<sup>ろん</sup>ぜん

【語釈】

遑遑：慌ただしいさま。書劍：学問と劍術。吳越：春秋時代の吳と越の国。風塵：風に舞う塵埃，埃にまみれた俗世間。洛京：洛陽。湖海：南方の湖や海。長揖：手をこまねいてやや上に上げ、下まで下ろす挨拶の作法。公卿：三公九卿、高官を指す。杯中物：酒。

(新釈漢文大系 詩人編 3)



★唐 孟浩然

与諸子登峴山

諸子と峴山に登る

人事有代謝

人事に代謝あり

往來成古今

往來は古今を成す

江山留勝跡

江山勝跡を留め

我輩復登臨

我が輩復た登臨す

水落魚梁淺

水落ちて 魚梁淺く

天寒夢澤深

天寒くして 夢沢深し

羊公碑尚在

羊公の碑 尚お在り

讀罷淚沾襟

讀を罷わず 一に襟をぬらす

【語釈】

人事…人の世の営み。代謝…次々と入れ替わること。往來…ここでは栄枯盛衰という意味。古今…古代から今まで。江山…漢江と峴山。勝跡…優れて名高い景勝の地。漁梁…やな。夢澤…雲夢の沢（うんぼうのたく）湖北省の湿地帯。羊公…荊州の都督として陸抗と対峙していた羊祜は、荊州の領民を労わるはおろか相對していた呉の將兵にまで礼節を以て臨み敵味方問わずから尊崇を集めていた。そんな羊祜も病を得、重篤の身となると後任に杜預を推挙して没した。碑…羊祜が病死、死を惜しんだ民により生前彼が好んだ峴山に碑が建立された。その碑を見た者は皆在りし日の羊祜を偲んで涙を墮とすに及んだ。墮淚礪という。

★唐 孟浩然

宿桐廬江寄廣陵舊遊

桐廬江に宿して 広陵の旧遊に寄す

山暝聽猿愁

山暝くして 猿愁を聽き

滄江急夜流

滄江 急ぎて夜に流る

風鳴兩岸葉

風は鳴らす 兩岸の葉

月照一孤舟

月は照らす 一孤舟

建德非吾土

建徳は 吾が土に非ず

維揚憶舊遊

維揚は 旧遊を憶う

還將兩行淚

還た 兩行の涙を將つて

遙寄海西頭

遙かに 海西の頭に寄す

【語釈】暝…暗い。猿愁…猿のもの悲しい鳴き声。滄江…青い川、桐廬江（錢塘江の中流）を指す。吾土…自分の居住するところ、故郷。維揚…古代の揚州の發祥地で、江蘇省揚州市区の西部の地名。寄…手紙で詩を送る。海西…青海湖

26

（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 孟浩然

過故人莊

故人の莊に過ぎる

故人具鷄黍

故人 鷄黍を具え

邀我至田家

我を邀えて 田家に至らしむ

綠樹村邊合

綠樹 村邊に合し

青山郭外斜

青山 郭外に斜めなり

開軒面場圃

軒を開いて 場圃に面し

把酒話桑麻

酒を把って 桑麻を話す

待到重陽日

到るを待つ 重陽の日

還來就菊花

還た来つて 菊花に就かん

【語釈】

鷄黍：鶏ときび飯。田家：いななか家、農家。村邊：村の周り、村はずれ。郭外：城郭都市の外側、郊外。場圃：農家の前の穀物を干す広場。桑麻：桑と麻、田園。就：近づく

（唐詩三百首）

★唐 孟浩然

留別王侍御維

王侍御維に留別す

寂寂竟何待

寂寂 竟に何をか待たん

朝朝空自歸

朝朝 空しく自ら帰る

欲尋芳草去

芳草を尋ねて 去らんと欲するも

惜與故人違

故人と違わんことを惜む

當路誰相假

当路 誰か相仮さん

知音世所稀

知音 世に稀なる所

祗應守索寞

祗だ応に索寞を守るべし

還掩故園扉

還って故園の扉を掩さん

28

【語釈】

留別：旅立つ人が別れを告げること⇔送別。侍御：天子の側に仕える官。寂寂：ひっそりとして寂しいさま。竟：とうとう。朝朝：毎朝。芳草：よいかおりのする草。故人：古くからの友だち。違：離れる、遠ざかる。當路：重要な地位にしている者。要路にいる者。假：借りる。よる。請う。知音：知己。索寞：失意のさま、もの寂しいさま。故園：故郷。

(詩詞世界) (新釈漢文大系 詩人編 3 留別王維)

★唐 孟浩然

宿業師山房期丁大不至

業師の山房に宿して丁大を期するも至らず

夕陽度西嶺

夕陽 西嶺に度り

群壑倏已暝

群壑 倏ち已に暝し

松月生夜涼

松月 夜涼を生じ

風泉滿清聽

風泉 清聽を満たす

樵人歸欲盡

樵人 歸りて尽きんと欲し

煙鳥樓初定

煙鳥 樓みて初めて定まる

之子期末來

之子 期して未だ來たらず

孤琴候蘿逕

孤琴 蘿徑に候つ

【語釈】

度：過ぎてゆく。群壑：多くの谷。倏：たちまち、急速に。暝：暗い。松月：松にかかった月。夜涼：夜の涼しさ。風泉：？。清聽：静かにじつと聞き入る。煙鳥：？。棲：鳥が巢に宿りすむ。之子：友人に親しみを込めて言う言葉。期：約束して会う。蘿逕：つたかずらの茂っている小径。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 孟浩然

秦中感秋寄遠上人

秦中 秋を感じ遠上人えんしやうにんに寄す

一丘常欲臥

一丘 常に臥ふせんと欲するも

三徑苦無資

三徑さんけい 資 無きに苦くるしむ

北土非吾願

北土 吾が願あらに非あず

東林懷我師

東林 我が師を懷おもう

黃金燃桂盡

黃金 桂を燃やして尽き

壯志逐年衰

壯志 年を逐おいて衰おう

日夕涼風至

日夕にっせき 涼風至り

聞蟬但益悲

蟬を聞きき 但ただ益ますます悲しむ

【語釈】

秦中：関中の地。遠上人：未詳。一丘：ある丘。三徑：三本の道，故事有り、隱者の住まいを指す。無資：金銭がないこと。北土：北の地方、この場合は北の長安を言う。非吾願：宮仕えをして富貴を求めるのは本意でないこと。燃桂盡：都の物価が高く分不相応な暮らして金銭を使い果たしてしまったことを言う。壯志：壯年の者が抱く偉大な志。

(唐詩三百首) (新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 孟浩然

夏日南亭懷辛大

夏日南亭にて辛大を懷おもう

山光忽西落

山光 忽たちまち西に落ち

池月漸東上

池月 漸ようやく東に上る

散髮乘夕涼

髮を散じて 夕涼せきりように乗じ

開軒臥閑敞

軒を開きて 閑敞かんしょうに臥す

荷風送香氣

荷風 香氣を送り

竹露滴清響

竹露 清響せいきよう 滴したたる

欲取鳴琴彈

鳴琴を取りて弾かん欲するも

恨無知音賞

知音ちいんの賞する無きを恨む

感此懷故人

此に感じ 故人を懷い

中宵勞夢想

中宵ちゆうしやう 夢想むそうを勞す

【語釈】

南亭：南のあずまや。辛大 辛家の長男、大は排行。山光：山に落ちかかった夕日。池月：池に映った月。散發：正式な場所では髪を束ねて簪で止めていたのをほどく。軒 亭の長廊下の窓。閑敞：少し小高く、閑静な広々とした場所。清響：清らかな響き。荷風：池の蓮を抜けてきた風をいう。竹露：竹の葉の露。鳴琴：琴。知音：自分を理解してくれる人、辛大。賞：鑑賞する。中宵：真夜中。夢想：夢の中で思う。

(新釈漢文大系 詩人編 3) (漢文委員会)

★唐 孟浩然

早寒江上有懷

早寒江上にて懷い有り

木落雁南度

木落ち雁南に度り

北風江上寒

北風江上に寒し

我家襄水曲

我が家は襄水の曲

遙隔楚雲端

遙かに隔つ楚雲の端

鄉淚客中盡

鄉淚客中に尽き

孤帆天際看

孤帆天際に看る

迷津欲有問

津に迷よい問う有らんと欲すれば

平海夕漫漫

平海夕べに漫々たり

【語釈】

早寒：秋から冬にかけて寒さを感じるころ。襄水：漢水の支流で襄陽の付近を流れる。楚雲：長江中流域の雲。鄉淚：望郷の涙。天際：水平線、地平線。平海：満満と水をたたえた湖。漫漫：遠く果てしないさま。

(漢詩大系 詩人編 3)



★唐 孟浩然

秋登万山寄張五

秋に万山に登り張五に寄す

北山白雲裏

北山 白雲の裏

隱者自怡悅

隱者 自ら怡悦す

相望試登高

相望み 試みに登高し

心飛逐雁滅

心は雁の飛滅するに逐したが

愁因薄暮起

愁は薄暮に因りて起こり

興是清秋發

興は是れ清秋に発す

時見歸村人

時に見る 村に帰る人

平沙渡頭歇

平沙 渡頭歇む

天邊樹若薺

天邊 樹は薺なすなの若く

江畔洲如月

江畔 洲は月の如し

何當載酒來

何かまに酒を載せて来たり

共醉重陽節

共に 重陽節に酔わん

【語釈】

万山：孟浩然の故郷襄陽の西に位置する山。張五：未詳、五は排行。北山：万山のこと。怡悦：歡ぶ。試：軽い気持で。飛滅：飛んで消えてゆく。平沙：平たい砂原。渡頭：渡し場。何當：いつかとも読む、期待を込めて言う。載酒：酒を用意する。

★唐 王維

九月九日山東兄弟 九月九日山東の兄弟を憶う

独在異郷為異客

ひとり異郷に在つて 異客と為り

每逢佳節倍思親

佳節に逢う毎に 倍ます親を思ふ

遙知兄弟登高処

遙かに知る 兄弟高きに登る処

遍插茱萸少一人

遍く茱萸を挿して 一人を少くを

【語釈】

異客：旅人。佳節：祝い事の日。遙知…（これ以下の内容を）遠くから察する。  
遍あまねく、みんな。茱萸：ハジカミ、山椒の葉。

（唐詩選）

★唐 王維

少年行四首 其一

少年行四首 其一

新豐美酒斗十千

新豐の美酒 斗十千

咸陽遊俠多少年

咸陽の遊俠 少年多し

相逢意氣爲君飲

相逢いて意氣 君が為に飲む

繫馬高樓垂柳邊

馬を繫ぐ高樓 垂柳の辺

【語釈】

少年行：樂府題。いなせな若者や壯士を詠う。新豐：長安の東、華清宮のあるところ。斗十千：一斗（今の一升）が一万錢もする高級酒。咸陽：渭城。遊俠：勇気があり男気にとむ人。垂柳：しだれ柳。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

参考詩句

「浪説男兒食四方，新豐美酒幾時嘗。」（明・鄧林）

「舟行半日下丹陽，新豐美酒又聞香。」（明・顧清）

「繫馬高樓興未迴，銅瓶春色照寒梅。」（明・胡應麟）

「春風吹後滿天涯，繫馬高樓春日斜。」（明・葛一龍）

★唐 王維

少年行四首 其二 少年行四首 其二

出身仕漢羽林郎、

出身して漢に仕える羽林郎

初随驃騎戰漁陽。

初めて驃騎に随つて漁陽に戦う

孰知不向辺庭苦、

孰か知らん 辺庭に向つて苦しまざるを

縦死猶聞俠骨香。

縦い死すとも猶お俠骨の香を聞かん

【語釈】

「出身」…官吏になること。羽林郎…近衛兵（両家の若者から選ばれる）。驃騎…驃騎將軍、大將軍とほぼ同格。漁陽…北京の付近。辺庭…辺地、国境地帯。聞…臭いをかく。俠骨…おとこぎ

（唐詩選）

★唐 王維

送元二使安西

元二の安西に使いするを送る

渭城朝雨裏輕塵

渭城の朝雨 輕塵を潤し

客舍青青柳色新

客舍青青 柳色新たなり

勸君更盡一杯酒

君に勸む更に尽くせ 一杯の酒

西出陽關無故人

西のかた陽關を出でなば故人無からん

陽關：敦煌の近くにある関所、玉門関と共に西の外れ

【語釈】

元二：元家の二番目の男性。安西：甘肅省の外れ、安西都護府が置かれていた。  
渭城：今の咸陽。輕塵：軽い土埃。客舍：旅館。陽關：玉門関〔天山路〕と並ぶ西方外れの天山南路の関所、敦煌の近くにある。故人：古くからの友人

(唐詩選)

参考詩句

「停杯空疊陽關曲，客舍青青孰與論。」

「客舍青青記昔時，曉風殘月動離思。」

★唐 王維

送沈子歸江東

沈子の江東に帰るを送る

楊柳渡頭行客稀，

楊柳の渡頭行客稀に，

罟師盪槩向臨圻。

罟師 槩を盪かして 臨圻に向う。

唯有相思似春色，

唯 相思の春色に似たる有りて，

江南江北送君歸。

江南江北 君が帰るを送る。

【語釈】

沈子：…不明。江南：揚子江の南の地域。楊柳：…やなぎ。渡頭：渡し場のあたり。行客：旅人。罟師：網を使う漁師。盪槩：…かいを動かす。舟を漕ぐこと。臨圻：…対岸の曲がった岸辺。相思：…相手を思う心。春色：…春景色。

<https://kanbun.info/syubu/toushisen347.html>

(Web漢文体系)(唐詩選)

関連詩句

「關河日暮望空極，楊柳渡頭人獨歸。」(唐・趙嘏)

「魚向荻花江上買，酒從楊柳渡頭賒。」(明・陳昌)

「歸舟歸騎儼成行，江南江北互相望。」(唐・王勃)

「江南江北望煙波，入夜行人相應歌」(唐・劉禹錫)

★唐 王維

送韋評事

韋評事を送る

欲逐將軍取右賢，

將軍を逐いて 右賢を取らんと欲し

沙場走馬向居延。

沙場 馬を走らせて 居延に向かう

遙知漢使蕭關外，

遙かに知る 漢使 蕭關の外

愁見孤城落日邊。

愁え見る 孤城 落日の辺

【語釈】

評事：刑罰を判決する大理事の属官。右賢：右賢王（右賢王と共に匈奴の単于に継ぐ位）。沙場：「沙漠」。居延：甘肅省張掖の西北にあつた属国名。漢使：韋評事を指す。蕭關：寧夏回族自治区固原の東南にあつた関。孤城：ひとつだけぼつんとある砦。落日：夕日

（唐詩選）

参考詩句

「愁見孤城萬馬屯，山行飄若出塵樊。」（宋・鄧肅）

「愁見孤城秋色裡，不知風雨遍空山。」（明・李攀龍）

★唐 王維

與盧員外象過崔處士興宗林亭

盧員外象と崔處士興宗が林亭に過ぎる

綠樹重陰蓋四鄰

綠樹の重陰 四鄰を蓋い

青苔日厚自無塵

青苔日に厚くして 自から塵無し

科頭箕踞長松下

科頭箕踞す 長松の下

白眼看他世上人

白眼にして看る 他の世上の人

【語釈】

○崔處士…不祥。處士は官に使えないで民間にいる人。○重陰…深い影。四鄰…あたり。○青苔…青色の苔。○科頭…冠や頭巾をかぶらないむき出しの頭。○箕踞…両足を投げ出して座ること。○長松…隱者の隱語。○白眼…阮籍の故事に基づく、氣に入らない俗物を見る目（他の世上の人にはそうであったので、尋ねて行った王維・盧象・裴迪・王縉には青眼で見た。）

（唐詩選）（新釈漢文大系 詩人編 3）

参考詩句

「絃歌聲裡天峯寺，綠樹重陰午夢長。」（明・羅倫）

「園亭風日入清秋，綠樹重陰護四周。」（明・楊一清）

「科頭箕踞坐仙石，深杯共酌蒼顏紅。」（明・馮裕）

「科頭箕踞尋常事，細酌高吟且未休。」（明・王世貞）



★唐 王維

寒食汜上作

寒食汜上の作

廣武城邊逢暮春

廣武城邊暮春に逢い

汶陽歸客淚沾巾

汶陽の歸客 涙巾を沾す

落花寂寂啼山鳥

落花寂寂 山に啼く鳥

楊柳青青渡水人

楊柳青青 水を渡る人

【語釈】

寒食：寒食節、冬至から百五日目にあたる日の前後三日間。汜上：汜水の（河南省にある川の名）ほとり。廣武城：古城名、河南省滎陽の東北の廣武山上に東西二箇所ある。暮春：春の終わり。汶陽：山東省寧陽県地方。歸客：帰ってきた旅人（作者）。沾：ぬれる。巾：ハンカチ状の布。寂寂：もの寂しいさま。ひっそりとしたさま。楊柳：ヤナギの総称。青青：青々とした。

（詩詞世界）（新釈漢文大系 3）

「落花寂寂草綿綿，雲影山光盡宛然。」（唐・李玫）

「落花寂寂黃昏雨，深院無人獨倚門。」（唐・韋莊）

「楊柳青青宛地垂，桃紅李白花參差。」（唐・蘇頲）

「楊柳青青杏發花，年光誤客轉思家。」（唐・王翰）

★唐 王維

早秋山中作

早秋山中そつしゅうさんちゆうの作

無才不敢累明時

無才 敢えて 明時めいじを累つむわさず

思向東谿守故籬

東谿とうけいに向いて 故籬こりを守らんと 思う

豈厭尚平婚嫁早

豈あに尚平しやうへいの婚嫁こんかの早きを厭わんや

却嫌陶令去官遲

却って嫌う 陶令とうれいの官を去るの遅きを

草間蛩響臨秋急

草間の蛩響せうせうせう 秋に臨みて急に

山裏蟬聲薄暮悲

山裏の蟬聲 暮くれに薄りて悲しむ

寂寞柴門人不到

寂寞せきばくたる柴門さいもん 人 到らず

空林獨與白雲期

空林に独り 白雲と期す

【語釈】

明時：明らかに収まっている世。累：わずらわす。東谿：東にある溪。故籬：古い籬。婚嫁：縁組み。尚平婚嫁早：尚平が、家の縁組みを早く終えて隠棲したこと。陶令：陶淵明。陶令去官遲：陶淵明は彭沢県の県令となるが、8数日後に辞任した。蛩響：こおろぎの鳴き声。山裏：山中（中は平声、裏は仄声）。寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。柴門：粗末な門。空林：人気の無い林。

（王右丞集）

関連詩句

- 「寂寞柴門不徹局，槐花細細糝空庭。」（宋・陸游）  
「歸來對月思故人，寂寞柴門迹如掃。」（宋・程洵）  
「閑步偶尋芳草色，空林獨聽野鶯聲。」（宋・寇準）  
「空林獨立翻成笑，北雁何曾識故鄉。」（清・王以敏）

★唐 王維

積雨輞川莊作

積雨輞川莊の作

積雨空林烟火遲

積雨空林 烟火遅し

蒸藜炊黍餉東菑

藜を蒸し黍を炊ぎて 東菑に餉す

漠漠水田飛白鷺

漠漠たる水田 白鷺飛び

陰陰夏木轉黃鸝

陰陰たる夏木 黃鸝轉ず

山中習靜觀朝槿

山中の習靜 朝槿を観じ

松下清齋折露葵

松下の清齋 露葵を折る

野老与人爭席罷

野老 人と席を争い罷む

海鷗何事更相疑

海鷗 何事ぞ更に相疑うや

【語釈】

○積雨：長雨。○空林：人気の無い林。○烟火：かまどの煙。○藜：はまびし。○黍：きび。  
○東菑：東の畑（で働いている人）。○餉：弁当として送る。○漠漠：広々として果てしないさま。○白鷺：しらさぎ。○陰陰：木が茂って暗いさま。○黃鸝：ちようせんうぐいす。  
○轉：さえずる。○習靜：心を落ち着けて坐り、精神統一を行う。○觀朝槿：朝槿は木蓮。  
世の無常さについて達観すること。○清齋：精進料理。○露葵：フユアオイ。羹にする。○  
野老：田舎の老人、王維の自称。○海鷗：『列子』『黄帝篇』の寓話。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

関連詩句

「積雨空林喜報晴，杖藜隨意傍江行。」（元末明初・沈右）

「積雨空林歸杜宇，小溪新水浴鴛鴦。」（明・林廷選）

「漠漠水田香稻熟，清清池館落花飛。」（明・蘇葵）

「漠漠水田春日晚，飛飛野雉夕陽遲。」（明・葉春及）

「池塘脈脈春泉動，亭館陰陰夏木涼。」（宋・王安禮）

「陰陰夏木草堂幽，不盡閒情獨倚樓。」（明・王鏊）

「山中習靜類陶潛，況是無官病態兼。」（明・陳焯）

「山中習靜未忘言，響接漁樵野曲喧。」（明・李承芳）

「隆中舊事遺梁甫，松下清齋學網川。」（明・張寧）

「故舊相逢元有約，海鷗何事復驚飛。」（明・張寧）

「聞說裝成堪泛海，海鷗何事更驚飛。」（明・張萱）

★唐 王維

哭孟浩然

其二

孟浩然を哭す

其の二

故人不可見

故人見るべからず

漢水日東流

漢水日びに東流す

借問襄陽老

借問す 襄陽の老

江山空蔡州

江山 蔡州に空し

【語釈】

故人：親しい友人。漢水：襄陽の付近を流れ武漢で長江に合流する。借問：ちよつとお尋ねする。襄陽老：孟浩然のこと。蔡州：湖北省城陽市の東南。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 王維

雜詩三首 其二

雜詩三首 其二

君自故鄉來

君 故鄉ふるさと自ら來る

應知故鄉事

應まはに 故郷ふるさとの事を知るべし

來日綺窗前

來たりし日 綺窓きそうの前

寒梅着花未

寒梅 花を着けしや未いまだしや

【語釈】

故郷… 作者の故郷。綺窓… 美しい模様で飾った窓。未… 「いまだしや」と読み、「まだであるか」「まだでしょうか」と訳す、疑問の意を示す。

(唐詩三百首)

★唐 王維

鞏川集 孟城坳

鞏川集

孟城坳

新家孟城口

新たに家す 孟城もうじょうの口ほとり

古木餘衰柳

古木 衰柳すいりゅうを余す

來者復爲誰

來者は 復またた誰と為す

空悲昔人有

空しく悲しむ 昔人せきじんの有するを

【語釈】

孟城坳… 古い城跡のあった場所、坳は山間の平地。家… 居を構える、動詞。餘… があるだけ。來者… 将来この場所に來るもの。昔人… この場所を所有していた宋之問。

(新釈漢文大系 3)

★唐 王維

鞆川集 鹿柴

鞆川集 鹿柴

空山不見人

くうざん 人を見ず

但聞人語響

ただ 人語の響を聞く

返景入深林

へんけい 深林に入りて

復照青苔上

また 青苔の上を照らす

【語釈】

鹿柴：鹿を放し飼いにするための囲いの柵。空山：人かげのない、静かで物寂しい山。返景：夕日の照りかえしの光。夕日の光。「景」は、光。日差し。深林：奥深い林の中。復：そして。青苔：濃い緑の苔。

(唐詩選)

★唐 王維

鞆川集 辛夷塢

鞆川集 辛夷塢

木末芙蓉花

こずえ 木末の芙蓉花

山中發紅萼

山中 紅萼発く

澗戸寂無人

かんこ 寂として人無し

紛紛開且落

紛紛 開き且つ落つ

【語釈】

辛夷：コブシ。モクレン。塢：堤。木末：こずえ。芙蓉花：ハスの花。萼：草木の花。澗戸：谷川近くの家。寂：静か。紛紛：乱れ散るさま。

(詩詞世界) (新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

朝川集 敬湖

朝川集

敬湖

吹簫凌極浦

簫を吹けば 極浦を凌ぐ

日暮送夫君

日暮 夫君を送る

湖上一廻看

湖上 一たび廻り看れば

山青卷白雲

山青くして 白雲巻く

【語釈】

敬湖：輞谷の北口付近で狭くなった輞谷の流れが阻害されて出来た天然の湖。  
極浦：遙か遠くの水辺。夫君：ここでは友人。

（新釈漢文体系 詩人編 3）

★唐 王維

朝川集 樂家瀨

朝川集

樂家瀨

颯颯秋雨中

颯々たる 秋雨の中

淺淺石溜瀉

淺々として 石溜瀉ぐ

跳波自相濺

跳波 自ら相い濺ぎ

白鷺驚復下

白鷺 驚いて復た下る

【語釈】

樂家瀨：早瀬の名。颯颯：雨や風がさつと降ったり吹いたりする音の形容。淺淺  
…水の流れが速いさま。石溜：岩間を流れる水。跳波：跳ねる波。白鷺：しらさ  
ぎ。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

参考詩句

「秋江浩浩秋水白，秋風颯颯秋雨碧。」（清・陳文述）

★唐 王維

山中送別

山中送別

山中相送罷

山中相い送りて罷り

日暮掩柴扉

日暮れて柴扉を掩う

春草明年綠

春草 明年綠ならん

王孫歸不歸

王孫 帰るや帰らざるや

【語釈】

掩：閉ざす。柴扉：芝で作った粗末な扉。王孫：貴族の子供、『楚辞』の故事、相手のことを指す。

★唐 王維

臨高臺送黎拾遺

高台に臨み黎拾遺を送る

相送臨高臺

相送りて 高台に臨む

川原杳何極

川原 杳として何ぞ極らん

日暮飛鳥還

日暮れて 飛鳥還り

行人去不息

行人 去りて息わず

【語釈】

黎拾遺：黎昕。杳：遠くて果てがぼんやりしたさま。行人：旅人、黎拾遺。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

関連詩句

「日暮飛鳥歸，門前長春水。」(宋・張栻)

「相思千里間，日暮飛鳥沒。」(宋・釋文珩)



★唐 王維

息夫人

息夫人  
そくふじん

莫以今時寵

今時の寵を以って

能忘舊日恩

能く旧日の恩を忘るる莫し

看花滿眼淚

花を看れば滿眼の涙

不共楚王言

楚王と共に言わず

【語釈】

息夫人：春秋時代の息侯の妻、楚の文王が息を亡ぼし、自分の妻としたが口をきかなかった。今時寵：楚王の寵愛。舊日恩：息侯の恩。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

関連詩句

「空裏每看花滿眼，鏡中漸覺雪盈頭。」(元末明初・清濬)

「把酒頽齡心易醉，看花滿眼鬢成絲。」(明・趙完璧)

★唐 王維

雜詩三首 其三

雜詩三首

已見寒梅發

已に見る寒梅の発くを

復聞啼鳥聲

復た聞く啼鳥の声

愁心視春草

愁心 春草を視て

畏向玉階生

玉階に向って生ずるを畏る

【語釈】

寒梅：寒中に咲く梅。啼鳥：鳥のさえずり。愁心：愁いに沈んだ心。玉階：玉をちりばめた階段、宮殿のりつばな階段のこと。

(唐詩選)

★唐 王維

酌酒與裴迪

酒を酌んで裴迪に与う

酌酒與君君自寛

酒を酌んで君に与う 君自く寛うせよ

人情翻覆似波瀾

人情の翻覆 波瀾に似たり

白首相知猶按劔

白首の相知 猶お劔を按じ

朱門先達笑彈冠

朱門の先達 彈冠を笑う

草色全經細雨濕

草色全く 細雨を経て湿おい

花枝欲動春風寒

花枝動かんと欲して 春風寒し

世事浮雲何足問

世事浮雲 何んぞ問うに足らん

不如高臥且加餐

如かず 高臥して 且つ餐を加えんには

【語釈】

裴迪：王維の詩友。寛：気分をゆったりとさせる。翻覆：変わりやすいこと。波瀾：波。白首：しらがあたま。相知：友人。按劔：刀の柄つかに手をかけてかまえる。朱門：朱塗りの門。先達：先に栄達した人。彈冠：冠のほこりをはらって仕官の準備をすること。草色：若草の色、つまりらぬ人間・小人しようじんにとえる。細雨：きりさめ。春雨。花枝：花の枝、君子にたとえる、ここではとくに不遇な裴迪を指す。欲動：花のつぼみが開こうとする。世事：世の中のこと。浮雲：はかないことのとえ。何足問：とやかく問題にするほどのこともない。不如：「しにしかず」と読み、「しには及ばない」「しの方がよい」と訳す。高臥：世を避けて悠々と暮らす。且：ひとまず。加餐：食事をたくさん食べる。

(唐詩選)

参考詩句

「輕薄人情翻覆手，冰容却耐幽居久。」(宋・范成大)

「心事蹉跎忙裏過，人情翻覆靜中看。」(元・周權)

「白首相知有幾人，良宵難惜醉醺醺。」(宋・范純仁)

「黃金結交重然諾，白首相知忘故新。」(元末明初・黃哲)

「朱門先達如疇昔，留驩得接夔龍席。」（明・張元凱）

★唐 王維

酬張少府

張少府に酬ゆ

晚年唯好靜

晚年 唯だ靜を好み

萬事不關心

萬事 心に関せず

自顧無長策

自ら顧りみるに 長策無く

空知返舊林

空しく知る 旧林に返るを

松風吹解帶

松風 解帶を吹き

山月照彈琴

山月 彈琴を照らす

君問窮通理

君は窮通の理を問う

漁歌入浦深

漁歌 浦に入りて深し

【語釈】

張少府：不詳、小府は県尉（県の補佐官）の雅称。長策：世を動かすための優れた政策。旧林：住み慣れた林、輞川莊。窮通理：生きづまることと榮達することのことわり。漁歌：漁師が歌う歌（『漁父の辞』）

（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 王維

使至塞上

使して塞上に至る

單車欲問邊

單車 辺を問わんと欲し

屬國過居延

屬國 居延を過ぐ

征蓬出漢塞

征蓬 漢塞を出で

歸雁入胡天

歸雁 胡天に入る

大漠孤烟直

大漠 孤烟 直に

長河落日圓

長河 落日 円やかなり

蕭關蓬侯騎

蕭關にて 侯騎に蓬えは

都護在燕然

都護は 燕然に在りと

【語釈】

塞上：砦のあたり。單車：単独の車。単身で旅をすること。辺：国境地方。「屬國」：典属国（中国に帰順し、自治を認められた異民族の国々に関する事務をあつかう中国の官吏（作者のこと）。居延：甘肅省張掖の西北にあつた属国名。「孤蓬」：あてもなく旅を続ける人（作者自身。「胡天」：異民族の地方の空。大漠：大砂漠。孤烟：ただひとすじ立ちのぼる煙。

「長河」：はるかに流れゆく川。蕭關：寧夏回族自治区固原の東南にあつた関。

「都護」：異民族の住む地帯の行政・軍事を管掌する官。ここでは崔希逸をさす。

「燕然」：匈奴の領域内の山の名。

（唐詩選）

★唐 王維

輞川閑居贈裴秀才迪

輞川閑居裴秀才迪に贈る

寒山轉蒼翠

寒山 転た蒼翠

秋水日潺湲

秋水 日びに潺湲

倚杖柴門外

杖に倚る柴門の外

臨風聽暮蟬

風に臨みて暮蟬を聽く

渡頭餘落日

渡頭 落日を余し

墟里上孤煙

墟里 孤煙上る

復值接輿醉

復た 接輿の酔に値う

狂歌五柳前

狂歌す 五柳の前

【語釈】

輞川：輞川荘、王維の別荘。閑居：世俗から離れてのんびり暮らすこと。裴秀才：迪。裴迪、王維の親友。秀才：科挙の秀才科合格者。轉：次第に、益々。蒼翠：沓え沓えと色濃い山の緑。潺湲：澄んだ水が流れるさま。柴門：芝で作った粗末な門。暮蟬：秋の末に鳴く蟬。渡頭：渡し場のほとり。墟里：村落。接輿：春秋時代の楚の隱者。狂歌：縦にうたう。五柳：陶淵明の五本の柳になぞらえている。

(漢文新釈体系 詩人編 3)

参考詩句

「寒山蒼翠睡欲起，早禽得日鳴連朝。」(清・芳蓉君)

「秋水潺湲月亦圓，阮郎曾醉落花前。」(明・釋今沼)

「不知玉漏添如許，秋水潺湲一夜多。」(清・陳廷敬)

「渡頭落日閑，溪流一何迴。」(清・丁堯臣)

「待得漁樵歸去後，渡頭落日上輕煙。」(清・林占梅)

★唐 王維

渭川田家

いせん でんか  
渭川の田家

斜陽照墟落

斜陽 墟落を照らし

窮巷牛羊歸

窮巷 牛羊帰る

野老念牧童

野老 牧童を念い

倚杖候荆扉

杖に倚りて 荆扉に候つ

雉雊麥苗秀

雉 雊いて 麥苗秀いで

蠶眠桑葉稀

蚕 眠りて 桑葉稀れなり

田夫荷鋤至

田夫 鋤を荷いて至り

相見語依依

相見て 依々として語る

即此羨閑逸

即ち此れ 閑逸を羨やみ

悵然吟式微

悵然として 式微を吟ず

【語釈】

渭川：渭水、長安の北を東西に流れ、華陰県で黄河に合流する河。田家：農家。  
墟落：村落。窮巷：村の中の細い路地裏。野老：田舎の老人。荆扉：棘や草で織った粗末な扉。蠶眠：蚕が脱皮する前に眠るようになること。依依：親しげなさま。閑逸：のんびりとして自由なさま。悵然：思いが叶えられずに羨むさま。式微：『詩経』邶風にある篇名、田園に帰りたい気持ちを詠う。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

送丘爲落第歸江東

丘爲の落第して江東に帰るを送る

憐君不得意

憐む君が意を得ざることを

況復柳條春

況んや復た柳條の春なるをや

爲客黃金盡

客となりて黄金尽き

還家白髮新

家に還えりて白髮新たなり

五湖三畝宅

五湖三畝の宅

萬里一歸人

万里一たび帰る人

知禰不能薦

禰を知りて薦むる能わず

羞為獻納臣

獻納の臣為るを羞ず

【語釈】

丘爲：盛唐の詩人。落第：科挙に不合格となること。江東：長江下流の南岸地方。  
五湖：太湖とその他の五つの湖、丘爲の故郷の地。三畝宅：狭い屋敷。禰：後漢  
の文学者の禰衡、孔融に愛されてその推薦で仕官した、丘爲をならぞえている。  
獻納臣：皇帝に忠言をする官、王維はこのとき左補闕。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

送梓州李使君

梓州李使君を送る

萬壑樹參天

萬壑 樹は天に参わり

千山響杜鵑

千山 杜鵑響く

山中一半雨

山中 一半の雨

樹杪百重泉

樹杪 百重の泉

漢女輸幢布

漢女 幢布を輸し

巴人訟芋田

巴人 芋田を訟う

文翁翻教授

文翁 翻つて教授す

不敢倚先賢

敢えて 先賢に倚らざらんや

【語釈】

梓州：四川省三台県。李使君：不詳、使君は刺史のこと。萬壑：多くの谷あい。參天：高く伸びて天に達する。杜鵑：ホトトギス。一半雨：山が深く暗いため、晴れと雨とが交錯する。樹杪：木の梢。百重泉：木の梢から雨が泉のように落ちてくる。幢布：幢という木の花で織った布。輸：粗税として納めること。巴人：重慶地方の人。文翁：前漢の蜀の太守で、民の強化に努めた。翻：物事を反対の方向に転じる意。未開の土地で蜀を文化ある地に改めたこと。先賢：昔の賢人、文翁。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

参考詩句

「宣城入去春如錦，千山杜鵑紅映。」(清・崑木塚)



★唐 王維

積雨朝川莊作

積雨 朝川莊作

積雨空林煙火遲

積雨 空林 煙火遲し

蒸藜炊黍餉東菑

藜を蒸し黍を炊ぎて東菑に餉す

漠漠水田飛白鷺

漠々たる水田 白鷺飛び

陰陰夏木囀黃鸝

陰々たる夏木 黃鸝囀る

山中習靜觀朝槿

山中の習靜 朝槿を觀じ

松下清齋折露葵

松下の清齋 露葵を折る

野老與人爭席罷

野老 人と席を争いて罷むに

海鷗何処更相疑

海鷗 何処にか更に相疑わん

【語釈】

積雨：降り続く雨。空林：人氣のない静かな林。煙火：煮炊きをする煙。東菑：畑。餉：食べ物運ぶ。漠漠：細かいものが広がって満ちるさま（水田が雨でぼんやりしているさま）。陰陰：暗いさま。黃鸝：高麗鶯。習靜：心を落ち着けて坐り精神統一を行う。朝槿：木槿。觀朝槿：本質を見つめること（故事）。清齋：生臭さを絶つた精進の食事。露葵：フエア葵。野老：田舎の老人（作者）。爭席罷：席を争うことをやめる（和光同塵）。海鷗く…『列子』（黃帝篇）。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

参考詩句

「漠漠水田香稻熟，清清池館落花飛。」明・蘇葵

「漠漠水田春日晚，飛飛野雉夕陽遲。」明・葉春及

「漠漠水田新雨後，輕輕隄籟曉涼多。」清・弘曆

「棟間雲出認行軒，郊外陰陰夏木繁。」唐末・羅隱

「麥風澹蕩氣清和，又見陰陰夏木多。」宋・范浚

「山中習靜類陶潛，況是無官病態兼。」明・陳焯

「山中習靜未忘言，響接漁樵野曲喧。」明・李承芳  
「松下清齋破午炎，海榴邀客共巡簷。」明・歐大任  
「松下清齋折未曾，湘文檀暈碧稜稜。」清・彭孫適

★唐 王維

齊州送祖三 其一

齊州にて祖三を送る 其の一

相逢方一笑	相逢うて方めて一笑し
相送還成泣	相送りて還た泣を成す
祖帳已傷離	祖帳して已に離れを傷み
荒城復愁入	荒城に復入るを愁う
天寒遠山淨	天寒くして遠山淨らかに
日暮長河急	日は暮れて長河も急なり
解纜君已遙	解纜すれば君已に遙けし
望君猶佇立	君を望みて猶お佇立す

【語釈】

齊州…山東省済南市。粗三…祖詠（人名）の排行。粗長…送別の宴。解纜…纜（と  
もづな）を解くこと。佇立…たたずんで立つこと。

（漢詩大系）

★唐 王維

山居即事

山居即事  
さんきよそくじ

寂寞掩柴扉

寂寞として 柴扉を掩い

蒼茫對落暉

蒼茫として 落暉に對す

鶴巢松樹遍

鶴は松樹に巢いて遍く

人訪葦門稀

人の葦門を訪うこと稀なり

綠竹含新粉

綠竹 新粉を含み

紅蓮落故衣

紅蓮 故衣を落す

渡頭煙火起

渡頭 煙火起り

處處采菱歸

処々 菱を采りて歸る

【語釈】

寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。柴扉：柴で作った戸、粗末な住居。蒼茫：水面などの青青として果てしなく広いさま。落暉：夕日の光。葦門：柴や竹を編んで作った粗末な門。紅蓮：紅色の蓮。故衣：古くから着た衣〔花びらを例えている〕。渡頭：渡し場。煙火：ともしび。

（新釈漢文大系 詩人編 3）

関連詩句

「詩書筆硯帶煙霞，寂寞柴扉自一家。」（明・陳琛）

「山中桂樹偏翻甚，寂寞柴扉養暮年。」（明・王慎中）

「雲裡鶴巢松樹遍，風前仙梵雨花迷。」（明・張含）

「龍出洞門常作雨，鶴巢松樹不知年。」（明・何景明）

★唐 王維

過香積寺

香積寺に過ぎる

不知香積寺

香積寺を知らず、

數里入雲峰

數里雲峰に入る

古木無人逕

古木人徑無く、

深山何處鐘

深山何処の鐘ぞ。

泉聲咽危石

泉聲危石に咽び、

日色冷青松

日色青松に冷やかなり。

薄暮空潭曲

薄暮空潭の曲、

安禪制毒龍

安禪毒龍を制す。

【語釈】

香積寺：香積寺：長安の南、終南山山中にある寺。古木：冬枯れの木や林。雲峰：雲がかかっている高い峰。人逕：人の通う小径。危石：高くそばだっている石。空潭：人気がない淵。曲：ほとり。安禪：坐禅して雑念を去り、精神を統一すること。毒龍：人を害する龍のことで、人の心に住む邪念をいう

(詩詞世界) (新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

新晴野望

新晴野望  
しんせいやぼう

新晴原野曠

新晴原野曠  
ひろ

極目無氛垢

極目氛垢無し  
ふんこう

郭門臨渡頭

郭門渡頭に臨み  
かくもん ととう

村樹連谿口

村樹谿口に連なる  
けいこう

白水明田外

白水田外に明かに  
でんがい

碧峰出山後

碧峰山後に出ず  
へきほう

農月無閑人

農月閑人無く  
かんじん

傾家事南畝

家を傾けて南畝に事す  
なんぼ

【語釈】

新晴：雨上がりの晴。極目：見渡す限り。氛垢：塵埃。白水：清らかな水。碧峰  
：青緑の峰。農月：立夏以後の農事の急がしいとき。南畝：南の田畑。

(王右丞集)

★唐 王維

終南山

終南山  
しゅうなんざん

太一近天都

たいいつ 天都に近く

連山到海隅

連山 海隅に到る  
かいすう

白雲迴望合

白雲 迴りて望めば合し  
めぐ

青靄入看無

青靄 入りて看れば無し  
せいゐ

分野中峰變

分野 中峰に變じ  
ちゆうほう

陰晴衆壑殊

陰晴 衆壑に殊なる  
いんせい

欲投入處宿

人処に投じて宿せんと欲し

隔水問樵夫

水を隔だてて樵夫に問う  
しやうふ

【語釈】

終南山：長安の南郊外に連なる山脈。太一：太乙ともいう、終南山の主峰。天都：天の都。海隅：海のほとり。青靄：青いもや。分野：ある星に対応する地域。中峰：峰中とおなじ、峰ごとに。陰晴：曇と晴。衆壑：多くの谷。人處：人の住むところ。樵夫：きこり。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

中歳頗好道

晚家南山陲

興來每獨往

勝事空自知

行到水窮處

坐看雲起時

偶然值林叟

談笑無還期

終南別業

中歳頗る道を好み

晩に家す南山の陲

興来れば毎に独り往み

勝事 空しく自ら知る

行きて到る水窮るの処

坐して看る雲起ころの時

偶然 林叟に値い

談笑して還える期無し

終南別業

【語釈】

終南：終南山。別業：別荘。中歳：中年。頗：いささか。道：ここでは仏教。晩  
：晩年。家：家を構える。南山：終南山。陲：ほとり、周辺。毎：常に。ことあ  
るごとに。勝事：すぐれたこと。空：只の意。窮：おわる、水窮處は水源地。林  
叟：きこりの老人。

★唐 王維

山居秋暝

山居秋暝

空山新雨後

空山新雨の後、

天氣晚來秋

天氣晚來秋なり。

明月松間照

明月松間に照り、

清泉石上流

清泉石上に流る。

竹喧歸浣女

竹喧しく浣女帰り、

蓮動下漁舟

蓮動いて漁舟下る。

隨意春芳歇

隨意なれ春芳の歇むこと、

王孫自可留

王孫自ら留るべし。

【語釈】

空山：人気がない山。新雨：降ったばかりの雨、雨上がり。晩來：夕方。浣女：洗濯をする女。春芳：香りの良い春の花。歇：尽きる。王孫：貴公子

（詩詞世界）（新釈漢文大系 3）

参考詩句

「寶花天外飛晴雨，明月松間續夜鏡。」（明・黎民表）

「百道清泉石上流，白云初起乱峯秋。」（元末明初・張羽）

「清泉石上如斯逝，白鶴松間自在翔。」（清・弘曆）



★唐 王維

秋夜獨坐

しゅうやどくぞ

獨坐悲雙鬢

独坐 双鬢を悲しみ

空堂欲二更

空堂 二更ならんと欲す

雨中山果落

雨中山果落ち

燈下草蟲鳴

灯下草虫鳴く

白髮終難變

白髮 終に變じ難たく

黃金不可成

黄金 成すべからず

欲知除老病

老病を除くを知らんと欲せば

唯有學無生

唯だ 無生を学ぶ有るのみ

【語釈】

悲雙鬢…髪が白くなったことを悲しむ。空堂…人気がない堂。二更…夜の九時ころ。黄金…道教の錬金術で作られる不老長寿の薬金丹。無生…仏教用語、生と滅を超えた絶対的真理。

(新釈漢文大系 詩人編 3)

★唐 王維

送秘書晁監還日本國

秘書晁監が日本國に還るを送る

積水不可極

積水 極むべからず

安知滄海東

安んぞ 滄海の東を知らんや

九州何處遠

九州 何れの処か遠き

萬里若乘空

万里 空に乗ずるが若し

向國唯看日

國に向つて 唯だ日を見

歸帆但信風

歸帆 但だ風に信すのみ

鰲身映天黑

鰲身 天黒に映じ

魚眼射波紅

魚眼 波紅を射る

鄉樹扶桑外

鄉樹 扶桑の外

主人孤島中

主人 孤島の中

別離方異域

別離 方に異域

音信若爲通

音信若爲ぞ通ぜん

【語釈】

秘書晁監：秘書監の晁衡、阿倍仲麻呂。積水：海のこと。不可極：果てしなく広がっていて、極めようもない。安：「いづくんぞくん（や）」と読み、「どうして（する）のか、いやくない」と訳す。滄海：東方の大海原おおうなばら、その中に仙人が住む島があると伝えられた。九州：ここでは中国の外にある九つの国。何処遠：どこが一番遠いだろうか。万里：君の故国へ帰る万里の船旅。乗空：虚空を飛んでゆく、頼りない様子。向国：故国へ向われるには。唯看日：ただ太陽の出る方角を指すばかり。鰲身：大海の胴体。映天黒：空を背景に黒々とその姿を映うつす。魚眼：大魚の眼。射波紅：波を射るように紅あかく輝くことである。郷樹：故郷の木々。扶桑：東方の島にあり、日の出る所にあると伝えられた神木の名。

外：…（扶桑の木）さらに向こう。異域：…中国を遠く離れたよその地方。音  
信：便り、手紙。若為：…どのようにして。どうやって。通：…通わせる。

（唐詩選）

★唐 王維

送別

送別

下馬飲君酒

馬を下りて君に酒を飲ましむ

問君何所之

君に問う 何れにか之の所ぞと

君言不得意

君は言う 意を得ず

歸臥南山陲

南山の陲に歸臥せんと

但去莫復問

但だ去れ 復た問うこと莫からん

白雲無盡時

白雲尽くる時無し

【語釈】

歸臥：官を辞めて隠遁すること。南山：終南山（隱棲の地）

（唐詩選）（新釈漢文大系 詩人編 3）

★唐 王維

過李禕宅

李禕の宅に過ぎる

閑門秋草色

閑門 秋草の色

終日無車馬

終日 車馬無し

客來深巷中

客は来る 深巷の中

犬吠寒林下

犬は吠ゆ 寒林の下

散髮時未簪

散髮 時に未だ簪せず

道書行尚把

道書 行くいく尚お把ず

與我同心人

我と 同心の人

樂道安貧者

道を楽しみ 貧者を安んず

一罷宜城酌

一たび宜城の酌を罷め

還歸洛陽社

還た帰る 洛陽の社

【語釈】

李揖：王維の友人で、のちに延安太守となった。車馬：役人たちの車、馬の音も無い。深巷：奥地の村、ひなびた村。「散髮」：頭髪を束ねていないこと。替：冠を頭髪にとめるヘアピン。道書：道教を説いた仙人の書物。宜城：湖北省宜城は美酒を製造し、宜城春、竹葉酒と呼ばれる。洛陽社：洛陽の自社（里名）、隠者の住む場所。

（王維100選）

★唐 王維

春夜竹亭贈錢少府歸藍田

春夜竹亭ちくていにて 錢少府せんしょうふの藍田らんでんに帰るに贈る

夜靜羣動息

夜 靜せいかにして 群動息ぐんどうそくむ

時聞隔林犬

時に聞きく 林はやしを隔へつ 犬いぬ

却憶山中時

却かえりつて憶おもう 山中やまなかの時とき

人家澗西遠

人家かみせ 澗西かんせいに遠とほきを

羨君明發去

羨うらやむ 君きみが明發めいはつに去いり

采蕨輕軒冕

蕨わづらひを采とりて 軒冕けんべんを輕かろんずるを

【語釈】

錢少府：錢記、中唐十才子の筆頭にあげられる詩人、「小府」は県射の尊称。藍田：藍田県（西安市）、王維の別荘、輞川荘のあったところ。羣動息：あらゆるものの動きが止まる。山中時：輞川荘にいたとき。澗西：谷川の西。明發：明け方。采蕨：隱者の生活。軒冕：馬車と冠、高位高官のこと。

69

（新釈漢文大系 3）

★唐 王維

偶然作六首 其六

偶然の作六首 其の六

老來懶賦詩，

老來詩を賦するに懶く，

惟有老相隨。

惟老いの相隨う有り。

宿世謬詞客，

宿世詞客に謬る，

前身應畫師。

前身応に画師なるべし。

不能捨餘習，

余習を捨つる能わず，

偶被世人知。

偶たま世人に知らる。

名字本皆是，

名字本より皆是なるも，

此心還不知。

此心還つて知られず。

【語釈】

老來：年をとる。宿世：前世。詩客：詩人。前身：この世に生まれる前の身。餘習：余技。世人：世の中の人。名字：名と字、維摩詰のこと（在家の仏教者）。是：良い、正しい。

（新釈漢文大系 3）

★唐 王維

田園樂七首其六

田園樂でんえんらく 七首 其の六

桃紅復含宿雨

桃は紅にして復また宿雨しゆくうを含み

柳緑更帶春煙

柳は緑にして更まに春煙しゆんえんを帶おふ

花落家僮未掃

花落ちて家僮かじゆう未だ掃はらわず

鶯啼山客猶眠

鶯ういす啼いて山客さんかく猶なお眠る

【語釈】

宿雨：前日から降り続く雨。春煙：春靄。家僮：召使いの少年。山客：山に住む人。山に尋ねてきた人。

(詩詞世界) (新釈漢文大系) 3)

★唐 王維

答張五弟

張五弟に答う

終南有茅屋

終南に茅屋有り

前對終南山

前は終南山に對す

終年無客常閉關

終年客無くして常に關を閉ざし

終日無心長自閒

終日心無くして長く自閒なり

不妨飲酒復垂釣

妨げず酒を飲み復釣を垂るるを

君但能來相往還

君但だ能く來たらば相往還せよ

【語釈】

張五弟：張謹のこと王維を義理の兄とした。終南：終南山のあたり。終南山：終南山：終南山：長安西南郊にある山、隱棲の地。終年：一年中。関：門。終日：一日中。無心：心が何にもとらわれていないこと。一切の妄念がとりはられた心。また、一切は空であると同観する心。自閒：自然と落ち着いている。自然とさわやかで静かである。垂釣：釣り糸を垂れる。往還：往復する。

（詩詞世界）（漢詩大系）

関連詩句

「長時頻見紫雲生，終日無心自來去。」（明・王汝玉）

「君但能來長夜飲，不妨人作酒徒看。」（明・李攀龍）

「臨岐指點瀧西路，君但能來莫問津。」（明末清初・成鸞）



★唐 李白 りはく

峨眉山月歌

がびさんげつ  
峨眉山月の歌

峨眉山月半輪秋

がびさんげつ はんりん  
峨眉山月半輪の秋

影入平羌江水流

影は へいきやう 平羌江水に入つて流る

夜發清溪向三峽

夜 せいきい 清溪を發して三峽に向う

思君不見下渝州

思を君えども見えず ゆしやう 渝州に下る

【語釈】

峨眉山：四川省西部の名山、月の名所。平羌江：青衣江、峨眉山の東北の麓を流れ、岷江（長江の支流）に合流する。清溪：峨眉山の東南、岷江の畔にある宿場町。渝州：重慶

（李白100選）（漢詩大系8）

★唐 李白

黄鶴樓送孟浩然之廣陵

黄鶴樓にて孟浩然の廣陵に之くを送る

故人西辭黃鶴樓

故人 西のかた 黃鶴樓を辭し

煙花三月下揚州

煙花 三月 揚州に下る

孤帆遠影碧空盡

孤帆の遠影 碧空に尽き

唯見長江天際流

唯だ見る 長江の 天際に流るるを

【語釈】

黄鶴樓：…湖北省武漢市武昌区の樓閣。呉の黄武二年(223)の建立と伝えられ、何度も破壊と改修を繰り返してきた、「黄鶴の伝説」で名高い。之：…目的地に向かつて行くこと。広陵：…揚州(江蘇省揚州市)の古称。故人：…古くからの友人。辞：…辞去する。煙花：…春がすみの中に咲く花。孤帆：…ただ一艘いっそう浮かんで見える舟の帆。碧空：…青空。尽：…消える。唯：…「ただ」と読み、「ただ」だけである。「ただ」にすぎない」と訳す。天際：…空のはて、水平線の彼方。

74

(唐詩選)(漢詩体系 8)

参考詩句

「晴雨一川皆好景、烟花三月總牽愁。」北宋・郭載

「烟花三月忙中過、風雨連宵夢裏聽。」宋・虞儵

「身世孤舟觸處遊、烟花三月醉蘇州。」明・張弼

「孤帆遠影隨流水、黃叶西風下晚村。」晚清・費墨娟

★唐 李白

早發白帝城

早に白帝城を發す

朝辭白帝彩雲間

朝に辭す白帝彩雲の間

千里江陵一日還

千里の江陵一日にして還る

兩岸猿聲啼不盡

兩岸の猿声啼いて住まざるに

輕舟已過萬重山

輕舟已に過ぐ万重の山

【語釈】

早…：時間帶上、はやいこと。白帝…：白帝城のこと、昔の城市（都市）の名。朝…：あさ。辭…：辞去する。彩雲…：朝焼けや夕焼けの雲。江陵…：湖北省江陵県。猿聲…：四川東部の巫峡は、（もの悲しげに啼く）猿の声で有名。輕舟…：軽やかな小舟。萬重山…：幾重にも重なった多くの山々。

（漢詩大系 8）

★唐 李白

秋下荊門

秋 荊門を下る

霜落荊門江樹空

霜は荊門に落ちて 江樹空し

布帆無恙挂秋風

布帆 恙無く 秋風に掛く

此行不為鱸魚膾

此行 鱸魚の膾の為ならず

自愛名山入剡中

自ら名山を愛して 剡中に入る

【語釈】

荊門：長江の南岸、湖北省枝城市の西北にある山で、蜀と湖北・湖南地方との境目。江樹：秋の紅葉した木。布帆：帆掛け船。挂：ひっかかる、かかる。鱸魚：すずき。膾：なます。刺身。剡中：浙江省嵊州市。『唐詩選』

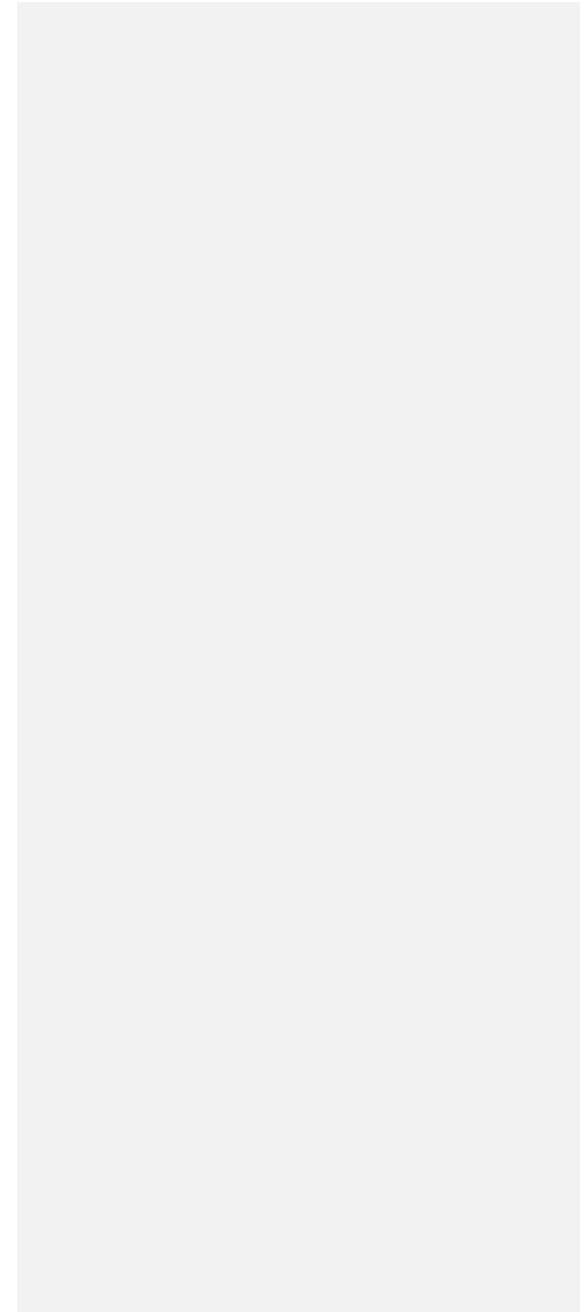
「自覺心能仗忠信，布帆無恙御風來。」北宋・劉敞

「蠟燭有心啼別夜，布帆無恙到南州。」北宋・賀鑄

「布帆無恙急藏去，明年更試春江船。」宋・張綱

「登臨回首值新秋，自愛名山覽勝遊。」明・李時行

「自愛名山一杖筇，敢言老子迹猶龍。」清・姚鼐



★唐 李白

越中覽古

越中覽古

越王勾踐破吳歸

越王勾踐 吳を破つて帰る

義士還家盡錦衣

義士 家に還つて 尽く錦衣す

宮女如花滿春殿

宮女 花の如く 春殿に満つ

只今惟有鷓鴣飛

只今 惟だ 鷓鴣の飛ぶ有るのみ

【語釈】

越中：春秋時代の越の国。覽古：懐古する。越王勾踐：春秋時代の越の王の勾踐。破：撃破する。吳：ここでは吳王・夫差の軍。義士：忠義の兵士。錦衣：にしきをきる。春殿：春の宮殿。只今：現在。鷓鴣：シヤコ。鳥の名。キジ科の鳥。悲しげな鳴き声でなく。

(唐詩選)

「参考詩句」

「只今惟有溫泉水，嗚咽聲中感慨多。」中唐・張繼

「只今唯有高眠好，風弄松聲水濺庵。」北宋・李觀

「解作江南斷腸句，只今唯有賀方回。」北宋・黃庭堅

★唐 李白

蘇台覽古

蘇台覽古

舊苑荒臺楊柳新

舊苑 荒台 楊柳 新たなり

菱歌清唱不勝春

菱歌 清唱 春に勝えず

只今惟有西江月

只今 惟だ 西江の月のみありて

曾照吳王宮裏人

曾て照らす 吳王宮裏の人

【語釈】

蘇台：姑蘇台、吳王夫差の宮殿があつた、江蘇省蘇州市の西・姑蘇山山頂にある。  
覽古：昔を懐かしむこと。旧苑：古い園。荒台：荒れた高台。菱歌：菱を取りながら歌う女性の歌。清唱：清らかに歌う。勝春：春の感傷に耐えられない。西江：姑蘇台の西を流れている川。吳王宮裏人：吳王夫差の宮殿にいた美女、西施のこと。

(唐詩選)(漢詩大系 8)

79

「舊苑荒臺古剝邊，桃花臨水尚依然。」明・鄭學醇

「舊苑荒台柳半殘，管弦何處楓橋月。」明末清初・薛始亨

「菱歌清唱棹舟迴，樹裏南湖似鑿開。」唐・白居易

★唐 李白

客中行

客中行

蘭陵美酒鬱金香

蘭陵の美酒 鬱金香

玉碗盛來琥珀光

玉碗 盛り来たる 琥珀の光

但使主人能醉客

但だ 主人をして 能く客をして 酔わしめば

不知何處是他鄉

知らず 何れの処か 是れ他郷

【語釈】

客中行：樂府題、旅先での歌。蘭陵：地名、山東省最南端の蒼山（の西南30キロメートル）、棗莊市（の東南東40キロメートル）の中間にある。鬱金香：ミヨウガ科の多年草でキゾメグサ（鬱金）の香。玉碗：玉杯。他郷：異郷。

（唐詩選）

参考詩句

「不知何處得雞豕，就中仍見繁桑麻。」盛唐 李白

「今夜不知何處宿，平沙萬里絕人煙。」唐 岑參

「昨夜秋風今夜雨，不知何處入空山。」中唐 盧綸

「不知何處香醪熟，願醉佳園芳樹中。」中唐 武元衡



★唐 李白

山中與幽人對酌

山中にて幽人と對酌す

兩人對酌山花開

兩人對酌すれば 山花開く

一杯一杯復一杯

一杯一杯また一杯

我醉欲眠卿且去

我酔うて眠らんと欲す 卿且く去れ

明朝有意抱琴來

明朝意あらば 琴を抱いて來たれ

【語釈】

幽人：世を遁れた人、隱者。對酌：差し向かいで酒を飲む。卿：きみ。且：し、しばらく。

(李白100選)

★唐 李白

山中問答

山中問答

問余何意棲碧山

余に問う 何の意あつて 碧山に棲むと

笑而不答心自閑

笑うて答えず 心自ら閑なり

桃花流水杳然去

桃花 流水 杳然として去る

別有天地非人間

別に天地の 人間に非ざる有り

【語釈】

何意：どういう訳で。碧山：緑の色濃い山奥。碧山：緑の色濃い山奥。自閑：自然と落ち着いている。自然とさわやかで静かである。杳然：はるかなさま。人間：俗世間。

（唐詩選）

関連詩句

「桃花流水兩堪傷，洞口煙波月漸長。」唐・湘妃廟

「桃花流水依然在，不見當時勸酒人。」

「桃花流水在人世，武陵豈必皆神仙。」北宋・蘇軾

「桃花流水隔人間，千古高風不可攀。」宋 龔伯擣

★唐 李白

與史郎中欽聽黃鶴樓上吹笛

史郎中欽と黄鶴樓上にて吹笛を聴く

一爲遷客去長沙

一たび遷客と爲りて長沙に去り

西望長安不見家

西のかた長安を望めども家を見ず

黃鶴樓中吹玉笛

黃鶴樓中玉笛を吹く

江城五月落梅花

江城五月「落梅花」

【語釈】

史郎中欽：郎中の官位にある史欽。黄鶴樓：武漢の西南の蛇山北黄鶴（長江右岸）にある樓。一爲：ひとたび…となつてすぐに。遷客：流罪に処せられた者。長沙：湖南省省都。玉笛：玉で作つた笛、笛の美称。江城：川沿いの町。落梅花：笛の演奏用の「梅花落」という曲名のこと、悲しみを誘う。

（唐詩選）

関連詩句

「江城五月江雨晴，荷花到處紅交橫。」北宋・王禹偁

「江城五月風雨餘，嶺南地僻少馳驅。」宋・楊學李

「江城五月見梅花，畫扇風生月影斜。」元末明初・宋禧

「麥風吹雨晝漫漫，信是江城五月寒。」明・皇甫汈

★唐 李白

春夜洛城聞笛

春夜洛城に笛を聞く

誰家玉笛暗飛聲

誰が家の玉笛か 暗に声を飛ばす

散入春風滿洛城

散じて春風に入りて 洛城に満つ

此夜曲中聞折柳

此の夜 曲中 折柳を聞く

何人不起故園情

何人か 故園の情を起さざらん

【語釈】

洛城：洛陽の街。玉笛：宝玉でできた笛、笛の美称。暗：暗闇に、密やかに。折柳：折楊柳、横吹曲で別れの情をうたった曲名。故園：故郷。故園情：故郷を思う気持ち、郷愁。

(唐詩選) (漢詩大系 8)

関連詩句

「誰家玉笛吹春怨，看見鷺黃上柳條。」南宋 姜夔

「誰家玉笛吹殘照，更聽鈎輦格磔聲。」南宋 李龔

「客窗孤枕難成寐，臥聽誰家玉笛吹。」明 于謙

「令人夢入梅花國，卻恨誰家玉篴聲。」明 張弼

「三奏未終天便曉，何人不起望鄉愁。」中唐 武元衡

「惟有賈甥兩垂淚，何人不起渭陽情。」明 林大春

★唐 李白

贈汪倫

汪倫に贈る

李白乗舟將欲行

李白 舟に乗って將に行かんと欲す

忽聞岸上踏歌聲

忽ち聞く岸上踏歌の聲

桃花潭水深千尺

桃花潭水深さ千尺

不及汪倫送我情

及ばず汪倫が我を送るの情に

【語釈】

汪倫：人名。涇県にある桃花潭の村人の名、常に美酒を醸造していて、李白を接待したという。忽：急に。踏歌：手を繋ぎ、両足で足踏みをしてリズムを取りながら歌う民間歌謡の一形式。踏歌：大勢足を踏み鳴らして拍子をつけて歌う歌。桃花潭：安徽省東南の涇県西南にある桃花潭。情：思い  
(唐詩選)

★唐 李白

陪族叔刑部侍郎曄及中書賈舍人至遊洞庭五首 其一

族叔刑部侍郎曄 及び中書賈舍人至に陪して洞庭に遊ぶ 五首其の一

洞庭西望楚江分

洞庭 西に望めば 楚江分かる

水盡南天不見雲

水尽きて 南天に雲を見ず

日落長沙秋色遠

日落ちて 長沙 秋色遠し

不知何處弔湘君

知らず 何れの処にか 湘君を弔わん

【語釈】

族叔曄：刑部侍郎（法務次官）の李曄（李白の叔父）。中書舍人（皇帝の秘書官）の賈至。洞庭：洞庭湖 楚江：長江・長沙：中国、湖南省の省都。洞庭湖の南、湘江下流の東岸に位置する。  
湘君：湘水の女神。舜の二妃、江湘の間に死し、俗に湘君という。（李白100選）

★唐 李白

哭晁卿衡

晁卿衡を哭す

日本晁卿辞帝都

日本の晁卿 帝都を辞す

征帆一片繞蓬壺

征帆 一片 蓬壺を繞る

明月不帰沈碧海

明月帰らず 碧海に沈み

白雲愁色滿蒼梧

白雲愁色 蒼梧に滿つ

【語釈】

晁衡：阿倍仲麻呂。晁卿衡：高官である阿倍仲麻呂。征帆：去って行く船。繞：曲がりくねりつつ、進むこと。蓬壺：東海の果てにあるという蓬莱山のこと、ここでは日本を指す。明月：仲麻呂の人柄を月に例えている。蒼梧：伝説上の皇帝・舜が行幸中に病死した場所。「旅の途上の死」という連想になる。

(唐詩選)

関連詩句

「彭蠡秋高水接天，征帆一片去茫然。」明・徐勃

「八月芙蓉湖水清，征帆一片挂離情。」明・張元凱

「三江風起白鷗飛，遠水征帆一片歸。」明・管訥

「予亦悠悠芳桂者，白雲愁色草萋萋。」明・李夢陽

「白雲愁色滿秋天，海上離心鴈影傳。」明・李攀龍

「白雲愁色滿吳門，疋馬孤舟不可論。」明・李攀龍

★唐 李白

少年行

少年行

五陵年少金市東

五陵の年少金市の東

銀鞍白馬度春風

銀鞍白馬春風を渡る

落花踏盡遊何處

落花を踏み尽くして何れの処にか遊ぶ

笑入胡姬酒肆中

笑って入る胡姬の酒肆の中

【語釈】

少年行：樂府題、いなせな若者や壯士を詠う。五陵：長安の北にある地名、富裕階層の住宅地。年少：わかもの。金市：長安の西の市場。銀鞍：銀色に耀くくら。度：わたる。胡姬：西域出身の美人女性。酒肆：酒場。

(唐詩選)

関連詩句

「銀鞍白馬不知數，龍箏鳳管相追隨。」北宋・郭祥正

「有客江邊問草堂，銀鞍白馬爛生光。」宋・王庭珪

「銀鞍白馬分明別，故苑夫容傷素秋。」明・顧璘

「落花踏盡遊何處，時雨來觀農扈春。」明末清初・黎景義

「落花踏盡遊何處，過後香風特地生。」清・黃之雋

★唐 李白

望天門山

天門山を望む

天門中斷楚江開

天門 中斷して 楚江開く

碧水東流至北迴

碧水 東に流れて 北に至って廻る

兩岸青山相對出

兩岸の青山 相對して出で

孤帆一片日邊來

孤帆 一片 日邊より来る

【語釈】

天門山：長江兩岸を夾んで門のように聳える二つの山の総称。安徽省当塗県にある博望山（東梁山）と和县にある梁山のこと。中斷：中が断ち切られること。・楚江：長江。・碧水：青い色をした川の流れ。廻：まわる，向きを変える。青山：木が青々と茂っている山。相對：向かい合う。出：（大空に）突き出る。孤帆：ただ、一そこの帆掛け船。日邊：太陽のある所。

（唐詩選）

関連詩句

「兩岸青山一水明，溶溶天上客舟輕。」北宋 黄裳

「五更畫角三州夢，兩岸青山四面窗。」南宋末 羅公升

「契翁來作濟人舟，兩岸青山浸碧流。」南宋 釋智愚

「兩岸青山春正曉，一聲鳴櫓下揚州。」元 于立

「亂後風煙異昔年，孤帆一片海東懸。」明 歐大任

「孤帆一片没浮雲，可惜舟中只有君。」明末清初 屈大均



★唐 李白

宣城杜鵑花

宣城の杜鵑花

蜀國會聞子規鳥

蜀国に會て子規鳥を聞き

宣城還見杜鵑花

宣城に還えつて杜鵑花を見る。

一叫一回腸一斷

一叫一回腸一斷

三春三月憶三巴

三春三月三巴を憶う

【語釈】

蜀國：現・四川省。李白の故郷の意として使われている。會聞：昔、聞いたことがある。子規鳥：ホトトギス。宣城：安徽省南部都市。杜鵑花：つつじ。一叫：一たび鳴く。一廻：一回。三春：春の三か月。三月：春の最後の月。三巴：現・四川省の東半分の郡名、李白之故郷。

（詩詞世界）（李大白集）

★唐 李白

登金陵鳳凰臺

金陵の鳳凰臺に登る

鳳凰臺上鳳凰遊

鳳凰台上 鳳凰遊ぶ

鳳去臺空江自流

鳳去り 台空しくして 江自から流る

吳宮花草埋幽徑

吳宮の花草は幽徑に埋もれ

晉代衣冠成古丘

晉代の衣冠は 古丘と成る

三山半落青天外

三山 半は落つ 青天の外

二水中分白鷺洲

二水 中分す 白鷺洲

總爲浮雲能蔽日

総て浮雲の能く日を蔽うが爲に

長安不見使人愁

長安見えず 人をして愁えしむ

【語釈】

金陵：南京市、六朝の古都、南朝の各朝の首都。鳳凰臺：〔南朝・宋の元嘉十四年（437年）に、孔雀のようで五色の模様鳳凰のある美しい鳴き声の鳥が集まったことに因って、築いた台、南京市の鳳凰山上にある。鳳凰：想像上の鳥、聖主が世に出ると現れるという、鳳は雄、凰は雌。江：長江。自：自然に、変わる。ことなく。吳宮：三国の呉の孫権が建業（金陵）においた宮殿。幽徑：奥深い小道、人気がない静かな小道。晉代：東晋。衣冠：権門富貴、貴族。三山：金陵の西南にある三つの山（山名不明）。一水：金陵を挟むように流れる二つの川（秦淮河と護城河）。白鷺洲：中州の名。浮雲：〔宦官の高力士を指していると思われる。日：（玄宗を指していると思われる）〕。

（漢詩大系 8）

★唐 李白

題東谿公幽居

東谿公の幽居に題す

杜陵賢人清且廉

杜陵の賢人 清且つ廉

東溪卜築歲將淹

東溪に卜築して 歲將に淹せんとす

宅近青山同謝朓

宅は青山に近く 謝朓と同じく

門垂碧柳似陶潛

門は碧柳を垂れて 陶潛に似たり

好鳥迎春歌後院

好鳥 春を迎えて後院に歌い

飛花送酒舞前簷

飛花 酒を送りて前簷に舞う

客到但知留一醉

客到りて 但だ一醉を留むるを知り

盤中祗有水晶鹽

盤中 祗だ有り 水晶鹽

【語釈】

東谿公…人名、隱者と思われる。杜陵…西安市東南。廉…潔白な様。卜築…家を建てる。青山…山の名、青林山ともいう、謝朓がここに住んだ。淹…閉じる、暮れる。謝朓…南北朝時代の南朝齊の詩人、同族の謝靈運・謝惠連とともに、六朝時代の山水詩人として名高く、あわせて「三謝」と称される。陶潛…陶淵明、五柳先生と呼ばれる。後院…裏庭。前簷…家の前軒。祗…ただ、まさに。水晶鹽…水晶のような岩塩。

(漢詩大系 8)

関連詩句

「飛花送酒舞前簷。好鳥迎春歌後院。」明・楊珉

「閒花照月愁洞房，好鳥迎春歌後院。」清・黃之雋

「試探他飛花送酒。早慰卻寸草懸情。」明・陳汝元

「青林白鳥閑書幌，細雨飛花送酒樽。」明 王恭  
「飛花送酒舞前簷。好鳥迎春歌後院。」明 楊珉  
「孤舟流水離情遠，小店飛花送酒頻。」明 蘇平

★唐 李白

江上吟

江上吟

木蘭之枻沙棠舟

木蘭の枻 沙棠の舟

玉簫金管坐兩頭

玉簫 金管 兩頭に坐す

美酒尊中置千斛

美酒 尊中 千斛を置き

載妓隨波任去留

妓を載せ波に随つて 去留に任す

仙人有待乘黃鶴

仙人待つ有つて 黃鶴に乘じ

海客無心隨白鷗

海客 無心にして 白鷗に随う

屈平詞賦懸日月

屈平の詞賦 日月を懸け

楚王臺榭空山丘

楚王の台榭 空しく山丘

興酣落筆搖五嶽

興 酣にして 筆を落とせば 五嶽を搖がし

詩成笑傲凌滄洲

詩成つて 笑傲すれば 滄洲を凌ぐ

功名富貴若長在

功名 富貴 若し 長えに在らば

漢水亦應西北流

漢水も亦た亦に西北に流るべし

【語釈】

江上吟…長江での歌。木蘭…香木。枻…かい。かじ。沙棠…棠(やまなし)に似た木。玉簫…立派なしょうのふえ。金管…立派な管楽器。兩頭…前後の(へさき)。尊…たる。千斛…極めて多量。妓…妓女。去留…去ると留まると。自然のなりゆき。黃鶴…仙人の乗る黄色い仙鶴、なお、これより、この詩が黃鶴樓のあたりで作られたと推定される。海客…海辺の人。『列子・黃帝篇』に出てくる海上之人。白鷗…白いカモメ。前出『列子・黃帝篇』に出てくる人の心を読むカモメ。屈平…屈原のこと。懸…つりさげる。かかげる。かける。臺榭…高台の上の御殿、樓閣。落筆…筆をおろす、書き始める。五嶽…五つの靈山。泰山、華山、衡山、嵩山の五山。笑傲…あざわらつていばる。滄洲…仙人の住むところ。滄浪洲。漢水…陝西省の方から東南方向に向かって流れ、襄陽を経て、漢陽で長江に注ぎ込む大河。

(新釈漢文大系 詩人編 李白 上)

★唐 李白

南陵別兒童入京

南陵にて兒童と別れ入京す

白酒新熟山中歸

白酒 新たに熟し 山中に帰る

黃雞啄黍秋正肥

黃雞 黍を啄ばみて 秋正に肥ゆ

呼童烹雞酌白酒

童を呼んで雞を烹 白酒を酌む

兒女嬉笑牽人衣

兒女 嬉びて笑み 人の衣を牽く

高歌取醉欲自慰

高歌し 酔を取り 自ら慰さめんと欲す

起舞落日爭光輝

起舞すれば 落日 光輝を争う

游說萬乘苦不早

万乘に遊説す 早からざりしに苦しむ

著鞭跨馬涉遠道

鞭を著り馬に跨がりて遠道を渉る

會稽愚婦輕買臣

會稽の愚婦 買臣を輕んず

余亦辭家西入秦

余も亦た家を辭して 西のかた秦に入る

仰天大笑出門去

天を仰ぎ 大笑して 門を出でて去る

我輩豈是蓬蒿人

我輩 豈に是れ蓬蒿の人ならんや

【語釈】

南陵：安徽省燕湖道南陵県。白酒：どぶろく。童：召使い。爭光輝：酔顔と落日の赤さを争う。萬乘：皇帝。會稽愚婦：朱買臣の故事。豈：強い否定。是：語調を強める助辞。蓬蒿人：世に埋もれて一生を送る人。

(漢詩大系 8)

(関連詩句)

「白酒新熟山中歸，黄花漠漠弄秋暉。」南宋・史鑄

「黃雞啄黍白酒熟，去家未久吾懷歸。」南宋・王炎

「養得黃雞啄黍秋，釀成白酒釀如油。」明・梁蘭

「楓柏頰紅葉滿枝，  
黃雞啄黍傍柴籬。」  
清 張英

★唐 李白

金陵酒肆留別

金陵の酒肆にて留別す

白門柳花満店香

白門の柳花 満店香し

吳姫壓酒喚客嘗

吳姫酒を圧して客を喚びて嘗なめしむ

金陵子弟來相送

金陵の子弟 来りて相送り

欲行不行各盡觴

行かんと欲して行かず 各觴を尽くす

請君問取東流水

請う君問取せよ東流の水に

別意與之誰短長

別意と之と誰か短長と

【語釈】

金陵：南京市。酒肆：居酒屋。留別：旅立つ人が詩を書き残して別れること。白門：金陵の西の門。柳花：柳絮。吳姫：吳（現南京や蘇州）の地方の妓女。圧酒：新しく醸した濁り酒をしぼって清酒にすること。嘗：味見。子弟：若者たち。問取：たずねる。之：長江の水の流れをさす。

（関連詩句）

「白門柳花覆大堤，東風吹來逐馬蹄。」明・王問

「春風初緑長干草，白門柳花飛満道。」明末・陳子龍

「我有一言人不解，請君問取北來僧。」北宋・鄒浩



★唐 李白

早春寄王漢陽

早春 王漢陽に寄す

聞道春還未相識

聞道く春還ると未だ相識らず

走傍寒梅訪消息

走りて寒梅に傍いて消息を訪う

昨夜東風入武昌

昨夜東風 武昌に入る

陌頭楊柳黃金色

陌頭の楊柳 黄金の色

碧水浩浩雲茫茫

碧水は浩浩 雲は茫茫

美人不來空斷腸

美人来らず 空しく断腸す

預拂青山一片石

預め払う青山 一片の石

與君連日醉壺觴

君と連日 壺觴に酔わん

【語釈】

聞道：聞くところによると。春還：春がやってくる。寒梅：寒中に咲く梅。消息：たより。東風：春風。武昌：湖北省武昌、重慶の一部。陌頭：町角。楊柳：柳の総称。浩浩：水のひろびろしたさま。壺：酒つぼ。觴：さかずき。

(関連詩句)

「忽見陌頭楊柳色，梅教夫婿覓封侯。」盛唐 王昌齡

「陌頭楊柳幾春風，當年曾識齊齋面。」南宋 韋奇

★唐 李白

靜夜思

せいやし

牀前看月光

牀前 月光を看る

疑是地上霜

疑うらくは是れ 地上の霜かと

舉頭望山月

頭を挙げて 山月を望み

低頭思故郷

頭を低れて 故郷を思ふ

(李白 100選) (唐詩選)

★唐 李白

秋浦歌十七首 其六

しゅうほ 秋浦の歌十七首 其の六

愁作秋浦客

愁いて 秋浦の客と作り

強看秋浦花

強いて 秋浦の花を看る

山川如剡縣

山川 剡縣の如く

風日似長沙

風日 長沙に似たり

【語釈】

剡縣：浙江省嵊県、風光明媚な地。長沙：長沙市、湖南省の省都。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

秋浦歌十七首 其十一

秋浦の歌十七首 其の十一

邏人横鳥道

邏人 鳥道に横たわり、

江祖出魚梁

江祖 魚梁に出ず。

水急客舟疾

水急にして客舟疾く、

山花拂面香

山花 面を払って香し。

【語釈】

邏人：安祿山の叛乱軍の憲兵。邏：見まわる。巡察する。鳥道：鳥だけが飛ぶような儉素な道。江祖：江祖石という石の名。魚梁：やな。客舟：旅客を乗せる舟。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

秋浦歌 其十五

秋浦の歌 其の十五

白髮三千丈

白髮三千丈

緣愁似箇長

愁いに縁って箇くの似く長し

不知明鏡裏

知らず 明鏡の裏

何處得秋霜

何れの処にか 秋霜を得たる

【語釈】

秋浦：安徽省貴池県にある貴池という池の入江の名。縁：「くによりて」「くによつて」と読み、「くのために」「くが原因で」と訳す。「因」と同じ。似箇：このように。「箇」は「これ」の意。「似」は「くのように」の意。明鏡：一点の曇りもない鏡。秋霜：秋の霜、白髮のたとえ。(漢詩大系 8)

★唐 李白

贈内

内に贈る

三百六十日

三百六十日

日日醉如泥

日々酔いて泥の如し

雖爲李白婦

李白の婦為りと雖ども

何異太常妻

何ぞ太常の妻と異ならん

【語釈】

太常：天子の祖先を祭る役、後漢の周沢の故事による。

(李白100選)

★唐 李白

夏日山中

夏日の山中

嬾搖白羽扇

白羽扇を揺かすに嬾うし

裸體青林中

裸体 青林の中

脫巾挂石壁

巾を脱して 石壁に挂く

露頂洒松風

頂を露して 松風を洒ぐ

【語釈】

白羽扇：白い羽で作った扇。洒：そそぐ、洗う。

(續國釈漢文大成 李大白集)

★唐 李白

杜陵絶句

杜陵絶句

南登杜陵上

南のかた 杜陵の上に登り

北望五陵間

北に望む 五陵の間

秋水明落日

秋水 落日明かに

流光滅遠山

流光 遠山に滅す

【語釈】

杜陵：漢の宣帝の陵。漢の高帝以下、五帝の陵墓。

（續国积漢文大系 李大白集）

★唐 李白

自遣

自ら遣る

對酒不覺暝

酒に対して 暝るるを覺えず

落花盈我衣

落花 我が衣に盈つ

醉起步溪月

酔起して 溪月に歩すれば

鳥還人亦稀

鳥は還りて 人亦た稀れなり

【語釈】

自遣：みづから 憂さを晴らす。對酒：酒に向かう。暝：日が暮れる。盈：（次第に多くなつて）みちる。酔起：酔いから醒める。溪月：谷川に出た月。

（漢詩大系 8）

★唐 李白

獨坐敬亭山

ひとり敬亭山に坐す

衆鳥高飛盡

衆鳥 高く飛んで尽き

孤雲獨去閒

孤雲 独り去って間なり

相看兩不厭

相看て 両つながら厭わぬるは

只有敬亭山

只 敬亭山 有るのみ

【語釈】

敬亭山…安徽省東南にある宜城市の北にある山。衆鳥…群れ飛ぶ鳥。孤雲…ぼつんと一つだけある雲。閒…ゆったりと落ちついて静かなさま。相看…お互いに見あつて。兩…双方、敬亭山と作者を指す。厭…あきる。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

白鷺鷥

白鷺鷥

白鷺下秋水

白鷺 秋水に下り

孤飛如墜霜

孤り飛んで 霜を墜すが如し

心閑且未去

心閑にして 且らく未だ去らず

獨立沙洲傍

独り立つ 沙洲の傍

【語釈】

白鷺…しらさぎ。秋水…澄み切った秋の水。沙洲…砂で出来た洲

★唐 李白

送殷淑三首 其二

殷淑を送る 三首 其二

白鷺洲前月

はくろしゅうぜん  
白鷺洲前の月

天明送客回

かみかえ  
天明 客の回るを送る

青龍山後日

せいりゅうざんご  
青龍山後の日

早出海雲來

早く海雲を出でて来たる

流水無情去

流水 無情に去り

征帆逐吹開

せいはんすい  
征帆 吹を逐いて開く

相看不忍別

相見て別るるに忍びず

更進手中杯

更に進む 手中の杯

【語釈】

殷淑…人名、不詳。白鷺洲…南京の長江中の州。天明…夜明け。青龍山…不詳。  
征帆…進み行く舟の帆。吹…風（仄字）。

（漢詩大系 8）

★唐 李白

宮中行樂詞 其三

宮中行樂詞 其三

盧橘爲秦樹

盧橘 秦樹と為り

蒲萄出漢宮

蒲萄 漢宮に出ず

煙花宜落日

煙花 落日に宜しく

絲管醉春風

糸管 春風に酔う

笛奏龍鳴水

笛を奏すれば 龍水に鳴き

簫吟鳳下空

簫を吟ずれば 鳳空より下る

君王多樂事

君王 樂事多し

何必向回中

何ぞ必しも回中に向わん

【語釈】

盧橘：南方原産の柑橘類。秦樹：漢の都長安の樹。蒲萄：西域原産の葡萄、武帝の時、漢にもたらされた。煙花：花霞。絲管：弦楽器と管楽器、音楽をいう。笛奏龍鳴水：笛の音は龍の鳴き声に似るといふ（『文選』「長笛の賦」）。簫吟鳳下空：簫史という笛の名人が簫を吹くと鳳凰が空から降りてきた（『列仙伝』）。回中：漢代に離宮の置かれた場所、陝西省宝鶏市千陽県。

（新釈漢文大系 詩人編 李白（上））



★唐 李白

訪戴天山道士不遇

戴天山の道士を訪ねて遇わず

犬吠水聲中

犬は吠ゆ 水声の中

桃花帶雨濃

桃花は 雨を帯びて濃し

樹深時見鹿

樹は深くして 時に鹿を見

溪午不聞鐘

溪は午にして 鐘を聞かず

野竹分青靄

野竹 青靄を分け

飛泉挂碧峰

飛泉 碧峰に挂かる

無人知所去

人の去く所を知る無し

愁倚兩三松

愁いて倚る 兩三松

【語釈】

戴天山：李白の故郷、四川省彰明県の北にある。樹：樹林。飛泉：滝。青靄：青色の霞。碧峰：緑深い峰。倚：よりかかる。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

送友人

友人を送る

青山横北郭

青山せいざん 北郭ほつかくに横たわり

白水遶东城

白水はくすい 东城とうじょうを遶めぐる

此地一爲別

此地一たび別れを為し

孤蓬万里征

孤蓬こほう 万里ばんりに征ゆく

浮雲遊子意

浮雲ふうん 遊子ゆうしの意

落日故人情

落日らくじつ 故人こじんの情じょう

揮手自茲去

手を揮ふるつて茲こゝより去れば

蕭蕭班馬鳴

蕭々しょうしょうとして 班馬はんば鳴く

【語釈】

青山：草木が青々と茂っている山。北郭：都市の城郭の北側。白水：夕日で白く光る川。東城：都市の東側の城郭。孤蓬：（風に飛ばされて）転がってゆく蓬。遊子：旅人。落日：夕陽。故人：旧知の友人。情：感情。揮手：手を振る。茲：ここ。蕭蕭：馬の嘶く声、また、もの寂しいさま。班馬：別れる馬。

★唐 李白

尋雍尊師隱居

雍尊師の隱居を尋ぬ

群峭碧摩天

群峭 碧にして 天を摩し

逍遙不記年

逍遙して 年を記さず

撥雲尋古道

雲を撥いて 古道を尋ね

倚石聽流泉

樹に倚つて 流泉を聴く

花暖青牛臥

花は暖にして 青牛臥し

松高白鶴眠

松は高くして 白鶴眠る

語來江色暮

語り来れば 江色暮れ

獨自下寒煙

ひとり自から 寒煙を下る

【語釈】

尊師雍：雍と言う名の尊師（道教の導師の尊称）。群峭：群がった高くけわしい峰。摩天：天をこするほど高いこと。逍遙：のんびりするさま。不記年：何歳になつたかわからない。撥雲：雲を開く。倚：寄りかかる。江色：寒煙と見える靄

★唐 李白

渡荆門送別

荆門を渡りて送別す

渡遠荆門外

渡ること遠し 荆門の外

來從楚國遊

來りて從う 楚國の遊

山隨平野盡

山は平野に隨いて尽き

江入大荒流

江は大荒に入りて流る

月下飛天鏡

月下て 天鏡飛び

雲生結海樓

雲生じて 海樓を結ぶ

仍憐故鄉水

なお憐れむ 故郷の水の

萬里送行舟

萬里 行舟を送るを

【語釈】

荆門：長江の南岸、湖北省枝城市の西北にある山で、蜀と湖北・湖南地方との境目。渡遠：故郷の蜀の国を出て、はるばる荆門の外（東）まで旅をしていること。從：欲しいままにする。楚國：長江下流一帯。隨：大荒：果てしない空間。天鏡：空を移動する月。海樓：蜃気楼。憐：いつくしむ。

(李白100選)

★唐 李白

太原早秋

太原の早秋

歳落衆芳歇

歳落ちて衆芳歇み

時當大火流

時は大火の流るるに当る

霜威出塞早

霜威塞を出でて早く

雲色渡河秋

雲色河を渡って秋なり

夢繞邊城月

夢は繞る辺城の月

心飛故國樓

心は飛ぶ故国の樓

思歸若汾水

帰らんと思えば汾水の若く

無日不悠悠

日として悠々たらざるは無し

【語釈】

衆芳：眾は衆。大火：火星。塞：太原のまちの城壁を示す。河：黄河。邊城：国境の町、田舎の町。故國：故郷。汾水：汾水は黄河から太原に別れた支流。悠悠：憂え悲しむさま。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

古風 其二十三

古風 其の二十三

秋露白如玉

秋露 白きこと 玉の如く

團團下庭綠

団々として 庭緑に下る

我行忽見之

我が行 忽ち 之を見

寒早悲歲促

寒早くして 歳の促すを悲しむ

人生鳥過目

人生 鳥 目を過ぐ

胡乃自結束

胡ぞ 乃ち 自ら結束す

景公一何愚

景公 一に 何ぞ愚なる

牛山淚相續

牛山 淚 相い續ぐ

物苦不知足

物苦はだ 足るを知らず

得隴又望蜀

隴を得て 又 蜀を望む

人心若波瀾

人心 波瀾の若し

世路有屈曲

世路 屈曲有り

三萬六千日

三万六千日

夜夜當秉燭

夜々 当に燭を秉るべし

【語釈】

團團：露の丸くなっている様。庭緑：庭中の草木。歲促：一年が終わる。鳥過目：鳥が眼を過ぎるほど短い。結束：窮屈に検束する。景公一何愚 牛山淚相續：『晏子春秋』「列子」の故事。得隴又望蜀：『後漢書』における光武帝の言。世路：世の中、世渡り。秉：握る。秉燭：明かりを灯して宴会をする。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

送蔡山人

蔡山人を送る

我本不棄世

我本世を棄てず

世人自棄我

世人 自ずから 我を棄つ

一乘無倪舟

一たび 無倪の舟に乗じ

八極縱遠極

八極は遠く極を 縦にす

燕客期躍馬

燕客 躍馬を期するに

唐生安敢譏

唐生 安んぞ 敢えて譏らんや

採珠勿驚龍

珠を採りて 龍を驚かすこと勿かれ

大道可暗歸

大道は 暗くして帰るべし

故山有松月

故山 松月有り

遲爾翫清暉

遅つ 爾が清暉を翫ぶを

【語釈】

蔡山人：山にすむという人。無倪舟：限り無く行く舟。八極：世界の八方に立つ柱、八方の遠い土地。極：船の舵。燕客：燕の地の旅人。躍馬：踊り跳ねる馬。唐生：人相見の唐氏。（史記：「蔡沢躍馬」の故事、史記「卷七十九「蔡沢列伝」）

（續国积漢文大成）

★唐 李白

月下獨酌 其一

月下獨酌

其の二

花間一壺酒

花間一壺の酒

獨酌無相親

獨り酌んで 相親しむもの無し

舉杯邀明月

杯を挙げて 明月を迎え

對影成三人

影に対して三人と成る

月既不解飲

月既に 飲を解せず

影徒隨我身

影徒に我が身に隨う

暫伴月將影

暫く月と影とを伴い

行樂須及春

行樂 須らく春に及ぶべし

我歌月徘徊

我歌えば 月徘徊し

我舞影零亂

我舞えば 影零亂す

醒時同交歡

醒むる時は 同に交歡し

醉後各分散

酔いて後は 各分散す

永結無情遊

永く無情の遊を結びて

相期遙雲漢

遥かなる雲漢に 相期す

【語釈】

月下獨酌：月光の下で、独り酒を飲むこと。花間：咲いている花の下。獨酌：独りだけで酒を飲むこと。相親：親しい人。舉杯：さかづきを持ち上げる。對：むきあう。影：影法師。既：…である上に。不解：理解しない。飲：飲酒。徒：…むだに、ただ。隨：つきしたがう。將：…と、…ともに。行樂：外出して、遊ぶこと。須：是非とも…する必要がある。及：到達する。徘徊：さまよい歩く。零亂：…乱れ動くさま。同：同じく、ともに。交歡：互いに親しく交わり楽しむこと。分散：分かれ散らばること。無情：人情を超越した、超俗的な。雲漢：天の川。相期：互いに日時を約束する。

(漢詩大系 8)



★唐 李白

月下獨酌 其二

月下獨酌 其二

天若不愛酒

天若し酒を愛せずんば

酒星不在天

酒星 天に在らず

地若不愛酒

地若し酒を愛せずんば

地應無酒泉

地に心こころに 酒泉無かるべし

天地既愛酒

天地 既に酒を愛す

愛酒不愧天

酒を愛すは天に愧じず

已聞清比聖

已に聞く 清を聖に比し

復道濁如賢

復た道う 濁は賢の如しと

賢聖既已飲

賢聖 既に已に飲す

何必求神仙

何ぞ必ずしも 神仙を求めんや

三杯通大道

三杯 大道に通じ

一斗合自然

一斗に合らう

但得酒中趣

但だ 酒中の趣おもしろさを得んのみ

勿爲醒者傳

醒者せいしやの為に 伝うる勿かれ

【語釈】

酒星：酒を司る星、酒旗星。酒泉：泉の名、甘肅省酒泉県の東北にある。賢聖：後漢末に曹操が禁酒令を出したとき、人々は暗号を定めて酒を飲んだ、濁酒を賢、清酒を聖と呼んだ。「飲中八仙歌」参照。大道：道教の「道」、無為、自然。自然：無我の境地。酒中趣：故事在り。

★唐 李白

對酒憶賀監其二

酒に對して賀監を憶う其の二

狂客歸四明

狂客 四明に帰れば

山陰道士迎

山陰の道士 迎う

敕賜鏡湖水

敕して 鏡湖の水を賜い

爲君臺沼榮

君の台沼の榮と爲す

人亡餘故宅

人亡くして 故宅を余し

空有荷花生

空しく 荷花の生ずる有り

念此杳如夢

此を念ずれば 杳として夢の如く

淒然傷我情

淒然として 我が情を傷ましむ

【語釈】

賀監：賀知章秘書監。狂客：奇抜な振る舞いをする文人。四明：浙江にある山の名、「四明狂客」は賀知章の自号。山陰：今の紹興市、賀知章の顧況。道士迎：賀知章は、道士と偽って故郷に帰ったので、道士が迎えたであろう。鏡湖：紹興の近郊にあった湖、賀知章が致仕する際に賜った。臺沼：高台や沼、築山と泉水。杳：はるか。淒然：すさまじい、ものさびしいさま。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

秋浦歌十七首 其二

秋浦の歌十七首 其二

秋浦猿夜愁

秋浦猿夜に愁い

黄山堪白頭

黄山白頭に堪えたり

清溪非隴水

清溪隴水に非ざるに

翻作斷腸流

翻つて断腸の流れを作す

欲去不得去

去らんと欲して去り得ず

薄遊成久遊

薄遊久遊と成る

何年是歸日

何れの年か是て 帰日ならん

雨淚下孤舟

雨淚孤舟に下る

【語釈】

黄山…山の名。秋浦の南方にある、風光明媚な地。白頭…白髪頭。堪…いまにもくしそうである。清溪…秋浦の近くにある、安徽省貴池地方を北西に流れて長江にそそぐ川。隴水…甘肅省隴山から長安方面に流れる渭水に合流する川の名、「隴頭歌」という古い歌に「隴頭の流水は、鳴声幽咽す。造かに秦川を望み、肝腸断絶す」とある。薄遊…しばらくの旅行。久遊…長い旅行。雨淚…雨のような涙。

(漢文委員会)

★唐 李白

宿巫山下

巫山ふさんの下したに宿す

昨夜巫山下

昨夜ふざん巫山ふさんの下

猿聲夢裏長

猿聲えんせい夢裏むりに長し

桃花飛綠水

桃花りよくすい綠水りよくすいに飛び

三月下瞿塘

三月くとう瞿塘くとうに下る

雨色風吹去

雨色うしよく風吹きて去り

南行拂楚王

南行なんこうして楚王そおうを払う

高丘懷宋玉

高丘そうぎよく宋玉そうぎよくを懐い

訪古一霑裳

古きを訪ねて一たび裳すもを霑うるおおす

【語釈】

巫山：巫山重慶市巫山県と湖北省の境にある名山。長江が山中を貫流して、巫峡を形成する。瞿塘：瞿塘峡、長江本流に位置する峡谷、巫峡、西陵峡と並び、三峽を構成する。頸聯、尾聯：楚王と巫山の巫女のご事。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

待酒不至

酒を待ちて至らず

玉壺繫青絲

玉壺ぎよくこ 青糸せいしに繫かけ

沽酒來何遲

沽酒こしゆ 來ること 何ぞ遅おそき

山花向我笑

山花 我に向いて笑わらう

正好銜杯時

正ただに杯はくを銜かむに好このき時

晚酌東窗下

晚酌 東窓の下

流鶯復在茲

流鶯 復た茲こゝに在あり

春風與醉客

春風と 醉客と

今日乃相宜

今日 乃すなわち 相宜あいよろし

【語釈】

玉壺：美しい酒壺。青絲：青い糸。沽酒 世間で売られている酒。銜：口にくわえる。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

友人會宿

友人と會宿す

滌蕩千古愁

滌蕩す 千古の愁

留連百壺飲

留連す 百壺の飲

良宵宜清談

良宵 宜しく清談すべし

皓月未能寢

皓月 未だ寢る能わず

醉來臥空山

酔い來れば 空山に臥す

天地即衾枕

天地 即ち衾枕

【語釈】

滌蕩…洗い除く。留連…さまよって去るに忍びない様子。宜…「宜しくしべし」と読み、「しする方が妥当である」「しするのが良い」と訳す。衾枕…寝具。

(漢詩大系)

★唐 李白

獨酌

独酌

春草如有意

春草 意有るが如く

羅生玉堂陰

羅生す 玉堂の陰

東風吹愁來

東風 愁いを吹いて来たり

白髮坐相侵

白髮 坐に相い侵かす

獨酌勸孤影

独酌 孤影に勧め

閑歌面芳林

閑歌 芳林に面す

長松爾何知

長松 爾 何をか知る

蕭瑟爲誰吟

蕭瑟として 誰が為にか吟ず

手舞石上月

手は舞う 石上の月

膝橫花間琴

膝は横たう 花間の琴

過此一壺外

此の一壺を過ぐすの外は

悠悠非我心

悠悠として 我が心に非らず

【語釈】

羅生：網の目のように連なって生えること。悠悠：閑暇、当然と酔って物も我も忘れた気持ち。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

送張舍人之江東

張舍人の江東に之くを送る

張翰江東去

張翰 江東に去り

正值秋風時

正に秋風の時に値う

天清一鴈遠

天清くして一鴈遠く

海關孤帆遲

海濶くして孤帆遅し

白日行欲暮

白日行くゆく暮れんと欲し

滄波杳難期

滄波杳として期し難たし

吳洲好見月

吳洲 好く月を見れば

千里幸相思

千里 幸に相い思える

【語釈】

白日：輝く太陽。杳：遙かなさま。難期：江東にいつ到着するかはかり難い。吳洲：吳（江東）の地。幸：冀望すること。

（漢詩大系 8）



★唐 李白

江行寄遠

江行して遠きに寄す

剗木出吳楚

剗木して 吳楚を出で

危檣百餘尺

危檣 百余尺

疾風吹片帆

疾風 片帆を吹き

日暮千里隔

日暮 千里を隔つ

別時酒猶在

別時の酒 猶お在りて

已爲異鄉客

已に 異郷の客と為る

思君不可得

君を思えども 得可からず

愁見江水碧

愁い見る 江水の碧

【語釈】

寄遠：別れて遠くなった共に寄せた。剗木：舟を準備すること。吳楚：江蘇省、安徽省、江西省、湖南省、湖北省あたり。危檣：不安定な木をえぐって作った大舟。片帆：一片の帆掛け船。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

對酒醉題屈突明府廳

酒に対して酔い 屈突明府の庁に題す

陶令八十日

陶令 八十日

長歌歸去來

長歌す 歸去來

故人建昌宰

故人 建昌の宰

借問幾時迴

借問す 幾時か廻ると

風落吳江雪

風は吳江の雪を落とし

紛紛入酒杯

紛紛して酒杯に入る

山翁今已醉

山翁 今 已に酔う

舞袖爲君開

舞袖 君が為に開かん

【語釈】

屈突明府：屈突の庁舎。陶令：陶淵明。八十日：陶淵明が彭沢県の県令となつてから80日で辞職したこと。長歌：長い詩を作る、声高らかに歌う。歸去來：帰去來の辞。故人：古くからの友人。建昌：遼寧省葫芦島市に位置する県。宰：県令（長官、屈突）。借問：ちよつと尋ねる。吳江：黄浦江の主要な支流。紛紛：乱れ飛ぶさま。山翁：李白のこと。舞袖：舞う袖。

★唐 李白

子夜呉歌其三

子夜呉歌其三

長安一片月

長安 一片の月

萬戸擣衣聲

萬戸 衣を擣つての聲

秋風吹不盡

秋風 吹いて尽きず

總是玉關情

總是是れ 玉關の情

何日平胡虜

何れの日か 胡虜を平らげて

良人罷遠征

良人 遠征を罷めん

【語釈】

子夜呉歌：歌曲の題名。一片月：一個の月。萬戸：多くの家。擣衣：砧で衣を叩いて柔らかくしつやを出す。玉關：玉門関。情：（玉門関の辺りに遠征している）夫を思う妻の心。胡虜：匈奴の蔑称。良人：妻の夫への呼称。

（唐詩選）

★唐 李白

雜古

把酒問月

酒を把つて月に問う

青天有月來幾時

青天 月有りて 来るは幾時ぞ

我今停杯一問之

我今 杯を停めて 一たび之に問わん

人攀明月不可得

人 明月を攀じんとするも 得べからず

月行却與人相隨

月は行きて却つて人と相い隨う

皎如飛鏡臨丹闕

皎として 飛鏡の丹闕に臨むが如し

綠烟滅盡清輝發

綠煙 滅し尽きて 清輝發し

但見宵從海上來

但だ見る 宵に海上從り來たるを

寧知曉向雲間沒

寧ぞ知らん 曉に雲間に向いて没するを

白兔擣藥秋復春

白兔は藥を搗く 秋復た春

嫦娥孤棲與誰鄰

嫦娥は 孤り棲みて 誰と隣せん

今人不見古時月

今人は見ず 古時の月

今月會經照古人

今月は會徑 古人を照らせり

古人今人若流水

古人 今人 流水の若く

共看明月皆如此

共に明月を看ること 皆此の如し

唯願當歌對酒時

唯だ願がう 歌に當りて酒に對する時

月光長照金樽裏月

月光 長えに 金樽の裏を照さんことを

【語釈】

有月：月が現れて。來……から。攀……よじのぼる。卻……反対に。隨……ついていく。くつついていく。皎……月ら明るい様。飛鏡……大空を飛ぶ鏡で、月の形容として使われている。丹闕……赤く色を塗った仙人の住む宮殿の門。綠煙……緑色の靄。清輝……清らかな光。白兔……白ウサギ、月に住むという。・搗藥……不老不死の薬をつく。秋復春……ずうつと。姮娥……「嫦娥」ともいう、西王母から与えた不死の仙

菓を盗んで飲み、月に逃げた。曾經：かつて。長：とこしえに。金樽：黄金の酒器。

(漢詩大系 8)

★唐 李白

送別

送別

尋陽五溪水

尋陽<sup>じんよう</sup> 五溪<sup>ごけい</sup>の水

沿洄直入巫山裏

沿洄<sup>えんかい</sup>し直ち<sup>ち</sup>に入る<sup>い</sup>巫山<sup>みせん</sup>の裏<sup>うち</sup>

勝境由來人共傳

勝境<sup>しょうきやう</sup>の由來<sup>ゆらい</sup>は 人<sup>ひと</sup>共<sup>ども</sup>に伝<sup>つた</sup>う

君到南中自稱美

君<sup>きみ</sup>は南中<sup>なんちゆう</sup>に到<sup>いた</sup>りて 自ら<sup>みづか</sup>美<sup>み</sup>と称<sup>なづ</sup>せん

送君別有八月秋

君<sup>きみ</sup>を送<sup>おく</sup>る 別<sup>わか</sup>に八月<sup>はつがつ</sup>の秋<sup>あき</sup>有<sup>あ</sup>り

颯颯蘆花復益愁

颯々<sup>さつさつ</sup> 蘆花<sup>あしな</sup> 復<sup>また</sup>た 益<sup>ますます</sup>愁<sup>さむ</sup>う

雲帆望遠不相見

雲帆<sup>うんぱん</sup> 望遠<sup>ぼうえん</sup>するも 相<sup>あ</sup>い見<sup>み</sup>えず

日暮長江空自流

日暮<sup>ひぐし</sup> 長江<sup>ちやうかう</sup> 空<sup>から</sup>しく自<sup>みづか</sup>ずから流<sup>なが</sup>る

【語釈】

尋陽：江西省九江市一帯。五溪：溪名（雄溪、楠溪、无溪、酉溪、辰溪）。沿洄：流れに沿って上下すること。巫山：重慶市巫山県と湖北省の境にある名山。勝境：景勝の地。颯颯：風の音の形容。雲帆：雲のように大きな帆。

★唐 李白

宣州謝朓樓餞別校書叔雲

宣州の謝朓樓にて校書叔雲を餞別す

棄我去者

我を棄てて去る者は

昨日之日不可留

昨日の日にして留む可からず

亂我心者

我が心を乱す者は

今日之日多煩憂

今日の日にして煩憂多し

長風萬里送秋雁

長風万里 秋雁を送る

對此可以酣高樓

此れに対し 以て高樓に 酣なる可し

蓬萊文章建安骨

蓬萊の文章 建安の骨

中間小謝又清發

中間の小謝 又た清發

俱懷逸興壯思飛

俱に 逸興を懷きて 壯思飛び

欲上青天覽明月

青天に上りて 明月を覽んと欲す

抽刀斷水水更流

刀を抽きて 水を断てば 水更に流れ

舉杯銷愁愁更愁

杯を挙げて 愁いを銷せば 愁更に愁う

人生在世不稱意

人生 世に在りて 意に稱わざれば

明朝散髮弄扁舟

明朝 髮を散じて 扁舟を弄せん

【語釈】

宣州：安徽省東南の宣州市。謝朓樓：謝朓（南北朝時代の齊の詩人）が住んでいた楼台の名前。校書叔雲：校書（宮中文書を整理する官）である李白の叔父の李雲。煩憂：わずらい、憂い。長風：遠くから吹いてくる風。酣：酒を飲んで楽しむ。蓬萊文章：漢の時代の文章。建安骨：後漢末、獻帝の建安年間に建康を中心に行われた、曹操、曹丕、曹植はじめ孔融・陳琳・徐幹・王粲・応璩・劉楨・阮籍ら「建安七子」と呼ばれた人々の気骨あふれる詩風。中間小謝：建安時代と唐

代の中間にあたる六朝時代。小謝：六朝時代に活躍した、謝朓。李白が尊敬していた詩人。謝靈雲を「大謝」という。清発：清らかであること。逸興：ともに風流心。壯思：ただけしい思い。髮：髪をおろす。出家する。

(漢詩大系 8)

(参考詩句)

「高鳥散飛驚大旆，長風萬里卷秋鞞。」唐 李羣玉

「浩蕩清淮天共流，長風萬里送歸舟。」北宋 蘇舜欽

「何處長風萬里浪，龍盤鼉抃蜃樓居。」宋 晁說之

「長風萬里至，河漢清人心。」宋 孔平仲

★唐 杜甫 とほ

絶句漫興九首其四

ぜつくまんきよう 絶句漫興九首其の四

二月已破三月來

二月已に破れ 三月來たる

漸老逢春能幾迴

よつや 漸く老い 春に逢うは 能く幾迴ぞ よく

莫思身外無窮事

思ふ莫かれ 身外無窮の事 みがいむきゆう

且盡生前有限杯

しばら 且くは 尽くさん 生前有限の杯 はい

【語釈】

漸…だんだんと。身外無窮…自分の力の及ばない未来無限のこと。

(杜甫詩注第九編)



★唐 杜甫

絶句漫興九首 其六

絶句漫興 九首其の六

懶慢無堪不出村

懶慢 堪うる無く 村を出ず

呼兒日在掩柴門

兒を呼び 日在れども 柴門を掩わしむ

蒼苔濁酒林中靜

蒼苔 濁酒 林中 靜かに

碧水春風野外昏

碧水 春風 野外 昏し

【語釈】

漫興：とりとめのないおもむき。懶慢：なまける、無精である。無堪：我慢できない。柴門：柴を編んでつくった粗末な門。掩：とじる。蒼苔：あああおとしたこけ。濁酒：どぶろく。碧水：緑色の水。野外：郊外。昏：薄暗い。

(新釈漢文体系 詩人編 杜甫 上)

(関連詩句)

「蒼苔濁酒林中靜，丹橘黃柑此地無。」宋・孔平仲

「曲池芳徑非夙昔，蒼苔濁酒同天涯。」宋末元初

「蒼苔濁酒同歌呼，白鬚紅頰醉相扶。」金末元初・元好問

「重岡如抱嶽如蹲，碧水春風野外昏。」明・張詡

「碧水春風俱涕淚，舉頭何日見長安。」明・沈鍊

★唐 杜甫

戲爲六絕句 其五

戲れに六絶句を爲す 其の五

不薄今人愛古人

薄かろんぜず 今人の古人を愛し

清詞麗句必爲鄰

清詞麗句 必ずりん鄰と爲すを

竊攀屈宋宜方駕

竊ひそかに屈宋を攀よじて宜しく駕がを方ならぶべきも

恐與齊梁作後塵

齊梁せいりょうと与ともに後塵と作らんことを恐る

【語釈】

清詞麗句：清らかな言葉や美しい詩句。爲鄰：近くにある。攀：なんとかその高みに達する。屈宋：屈原と宗玉。方駕：車を並べて走る。齊梁：齊や梁の詩人達。

(杜甫全詩訳注)

(参考詩句)

「大有閑塔白日長，清詞麗句祝春皇。」北宋・張詠

「領取精華一瓣香，清詞麗句配漁洋。」清・蔣士銓

「清詞麗句梅詩老，白髮蒼顏歐醉翁。」金末元初

「二十四橋明月夜，清詞麗句數司勳。」清・弘曆

★唐 杜甫

絶句

絶句

兩箇黃鸝鳴翠柳

兩箇の黄鸝 翠柳に鳴き

一行白鷺上青天

一行の白鷺 青天に上る

窓含西嶺千秋雪

窓には含む 西嶺 千秋の雪

門泊東吳萬里船

門には泊す 東吳 万里の船

【語釈】

兩箇：二つ、2羽。黄鸝：ちようせんうぐいす。一行：一列翠。柳：緑色の柳。  
白鷺：しらさぎ。窓含：窓枠に景色がはめこまれているようなさま。西嶺 成都  
西方の山。千秋：千年、非常に長い間。千秋雪：万年雪。東吳：吳の東の地方、  
江蘇省。  
(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

解悶

悶を解く

一辭故國十經秋

一たび故国を辞して 十たび秋を経たり

每見秋瓜憶故丘

秋瓜を見る毎に 故丘を憶う

今日南湖采薇蕨

今日 南湖 薇蕨を采る

何人爲覓鄭瓜州

何人か為に覓む鄭瓜州

【語釈】

解悶：憂さ晴らし。故国：ふるさと、ここでは長安を指す。秋瓜：秋の瓜。  
故丘：故郷の丘。南湖：湖の名(所在不明)。薇蕨：ぜんまいとわらび。覓  
：求める。鄭瓜州：杜甫の旧友、鄭審のこと。

(唐詩選)

★唐 杜甫

江畔獨步尋花七絕句其五

江畔に独歩し花を尋め七絶句

黄師塔前江水東

黄師の塔前 江水の東

春光嬾困倚微風

春光に嬾困して 微風に倚る

桃花一簇開無主

桃花一簇 開いて主無く

可愛深紅愛淺紅

深紅を愛す可きや 淺紅を愛すべきや

【語釈】

黄師塔：黄師塔とは黄姓の法師の墓。江水：錦江。懶困：けだるくなる。一簇：ひとむらがり。

(杜甫全詩訳注)

(参考詩句)

「春光嬾困扶不起，吹殘玉笙也慵理。」南宋・楊萬里

「雲壓桃花月滿空，春光嬾困倚微風。」清・黃之雋

「桃花一簇開無主，盡著風吹雨打休。」金末元初・元好問

「桃花一簇紅無主，春水三篙綠始波。」清・王丹林

★唐 杜甫

九日藍田崔氏莊

九日藍田の崔氏の莊にて

老去悲秋強自寬

老い去りて悲秋強いて自ら寛うす

興來今日盡君歡

興來つて今日君が歡を尽くす

羞將短髮還吹帽

羞ずらくは短髮を將つて還た帽を吹かるるを

笑倩旁人為正冠

笑うらくは旁人に倩いて為に冠を正すを

藍水遠從千澗落

藍水遠く千澗より落ち

玉山高並雨峰寒

玉山高く並びて雨峰寒し

明年此會知誰健

明年此の會知んぬ誰か健なる

醉把茱萸仔細看

酔いて茱萸を把つて仔細に看る

【語釈】

九日：九月九日、重陽の節句。藍田：現在の陝西省藍田県。崔氏：不明。莊：別荘。老去：年老いること。悲秋：悲しみをそそられる秋。寬：心の悩みをやわらげる。吹帽 帽子が風で吹き飛ばされること。倩：頼む。旁人：傍らのひと。藍水：藍田の東から流れる川。千澗：多くの谷と川。玉山：藍田にある山。雨峰：雨の降っている峰。

（唐詩選）（新釈漢文大系 杜甫 （上））

（関連詩句）

「俗間佳節自匆匆，老去悲秋又客中。」南宋・范成大

「老去悲秋偏作惡，病來對酒似無情。」明・王佐

「琪樹相鮮崑閩裏，玉山高並雲煙表。」南宋・丘壑

★唐 杜甫

題張氏隱居二首其一

張氏の隱居に題す二首其一

春山無伴獨相求

春山 伴無く ひとり相求む

伐木丁丁山更幽

伐木丁々 山 更に幽なり

澗道餘寒歷冰雪

澗道の余寒 冰雪を歴

石門斜日到林丘

石門の斜日 林丘に到る

不貪夜識金銀氣

貪らずして 夜識る 金銀の氣

遠害朝看麋鹿遊

害より遠ざかりて 朝看る 麋鹿の遊ぶを

乘興杳然迷出處

興に乗じて 杳然 出ずる處に迷い

對君疑是泛虛舟

君に対して 疑うらくは 是れ 虚舟に泛ぶかと

【語釈】

張氏…不詳。丁丁…木を伐採する音、伐木丁丁は詩經により、友を求める意。  
澗道…谷間の道。餘寒…春になっても残っている寒さ。歴…通る。石門…石で作った堰堤。斜日…夕日。林丘…木の茂る丘。不貪…無欲。金銀氣…土中に埋蔵されている金銀から立ちのぼる気。害…世俗の名利の害。麋鹿…鹿の類い。乘興…感興のわくままに。杳然…奥深く遠いこと、ここでは特にぼんやりした気持ちになる様子。出処…ここでは帰路に迷うことと、出処進退に迷うことをかけている。虚舟…人の乗っていない舟。

(唐詩選) (杜甫全詩訳注)

(参考詩句)

- 「春山無伴怨傷神，故作幽期一兩人。」南宋・韓流
- 「雲樹有圖憑鷹寄，春山無伴聽鶯吟。」元末明初・凌雲
- 「春山無伴獨相尋，欲覓知音聽鼓琴。」明・鄧林
- 「碧落有情空悵望，春山無伴獨相求。」明・朱樸
- 「斯千秋秩兄弟好，伐木丁丁友朋樂。」南宋・魏了翁
- 「伐木丁丁秋滿山，詩筒忽到與開顏。」元・範梈

★唐 杜甫

曲江二首其一

曲江二首其一

一片花飛減卻春

一片花飛んで春を減卻す

風飄萬點正愁人

風は万点を飄えして正に人をして愁えしむ

且看欲盡花經眼

且つ看る尽きんと欲するところの花の眼に経るを

莫厭傷多酒入唇

厭う莫かれ傷ぐること多き酒の唇に入るを

江上小堂巢翡翠

江上の小堂 翡翠 巢く

花邊高塚臥麒麟

花辺の高塚 麒麟 臥す

細推物理須行樂

細やかに物理を推すに 須く行樂すべし

何用浮名絆此身

何ぞ用いん 浮名の此の身を絆すを

【語釈】

減卻…へらす、衰えさせる。万点…多数の花びら。飄…ひるがえす、漂わせる。且…まあ。經眼…ちよつと目を通す。厭…嫌う、いやがる。翡翠…かわせみ。高塚…高い所にある塚。麒麟…想像上の動物、体は鹿、尾は牛、蹄は馬に似る。推物理…物事の道理を推察する。浮名…実際の値打ちに過ぎた評判。絆…つなぎとめる。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

(関連詩句)

- 「一片花飛落酒中，十分便罰瑠璃鍾。」南宋 楊萬里
- 「一片花飛春未知，杜陵野客已深悲。」南宋 趙蕃
- 「正須好句留春住，可使風飄萬點紅。」北宋 陳師道
- 「荳蔻梢頭春事休，風飄萬點只供愁。」北宋 謝逸

★唐 杜甫

曲江二首其二

曲江二首其二

杜甫

朝回日日典春衣

朝より回りて 日々に 春衣を典し

每日江頭盡醉歸

毎日 江頭に 酔を尽くして 帰る

酒債尋常行處有

酒債は 尋常 行く処に 有り

人生七十古來稀

人生七十 古來稀なり

穿花蛺蝶深深見

花を穿つ 蛺蝶は 深々として 見え

點水蜻蜓款款飛

水に点する 蜻蜓は 款々として 飛ぶ

傳語風光共流轉

風光に伝語す 共に流転して

暫時相賞莫相違

暫時 相賞し 相違うこと 莫れと

【語釈】

曲江：長安中心部より東南東数キロのところにある池の名、地名。朝回：朝廷からかえってくる。典：質に入れる。春衣：春の衣服。江頭：川の畔。酒債：酒代の借り。尋常：つねに。穿花：花の間を歩き来する。蛺蝶：アゲハチョウ。深々：奥深くかすかなさま。點水：水につける。蜻蜓：とんぼ。款款：ゆるやかなさま。傳語：言葉を寄せる。風光：風景、天地自然の意。流轉：絶え間なく移り変わる事。暫時：少しの間、しばし。相：お互いに。賞：めでたのしむ。莫……なかれ。違：たがう。

(注)「尋常」は「尋」：八尺、常：十六尺、とする数值の単位になり、「七十」と対になる。「借対」という。

(唐詩選)

(関連詩句)

「不勝杯酌寧辭醉，傳語風光共此嬉。」北宋 張耒  
「文園曾病猶堪酒，傳語風光奈我何。」北宋末 周紫芝



★唐 杜甫

曲江對酒

曲江にて酒に対す

苑外江頭坐不歸

苑外江頭に坐して帰らず

水精宮殿轉霏微

水精の宮殿 転霏微たり

桃花細逐楊花落

桃花細かに梨花を逐いて落ち

黄鳥時兼白鳥飛

黄鳥時に白鳥と兼に飛ぶ

縱飲久判人共棄

飲を縦にし久しく判して人共に棄て

懶朝真與世相違

朝するに懶く真に世と相違う

吏情更覺滄洲遠

吏情更に覺ゆ滄洲の遠きを

老大悲傷未拂衣

老大徒に傷む未だ衣を払わざるを

【語釈】

苑外：離宮の御苑の外、苑は芙蓉苑を指す。江頭：曲江のほとり。水精宮殿：水晶で造った美しい宮殿。転：いよいよ。ますます。楊花：柳の綿毛、柳絮。霏微：水晶の宮殿がきらきらと光るさまをいう。黄鳥：朝鮮ウグイス。白鳥：しらさぎ。兼：くとも。縦飲：ほしのままに酒を飲むこと。判：ここで世間の付き合いを放棄するの意。人共棄：世の中の人がみな自分を見捨てる。懶朝：朝廷へ出仕するのを怠ること。吏情：官吏としての心情。滄洲：東海にあるという仙人の住む所。老大：年をとること。徒傷：むなしく嘆きをかこつ。払衣：ここでは官職を辞すること。

(唐詩選) (漢文大系9)

(参考詩句)

「老大悲傷節物催，酒腸枯涸壯心灰。」北宋 陳師道

「人間歲月莽悠悠，老大悲傷只涕流。」南宋 陸游

「少壯粗豪那可得，老大悲傷復何益。」元 胡寬

★唐 杜甫

野望

野望

西山白雪三城戍

西山の白雪 三城の戍り

南浦清江萬里橋

南浦清江の 万里橋

海内風塵諸弟隔

海内の風塵に 諸弟隔たり

天涯涕淚一身遙

天涯 涕淚 一身遙かなり

惟將遲暮供多病

惟だ 遲暮を 將つて 多病に 供し

未有涓埃答聖朝

未だ 涓埃の 聖朝に 答うる 有らず

跨馬出郊時極目

馬に 跨がり 郊を出で 時に 目を 極めれば

不堪人事日蕭條

堪えず 人事の 日々に 蕭條たるに

【語釈】

野望：野の眺め。西山：成都の西北にある雪嶺を指す。三城戍：チベット族の侵入に備えるための、松城・維城・保城の三つの城塞。南浦：南に向かった水辺、成都の南、錦江の支流である浣花溪の岸辺をさしている、この岸辺に杜甫の草堂があった。清江：清い川。萬里橋：錦江にかけられた橋。海内：天下、國中。風塵：兵乱。諸弟：弟たち。天涯：天のはて、天涯孤独。涕淚：涙。涓埃：しずくと埃。遲暮：なすこともなく、だんだん年をとること。涓埃：ひとしずくの水と一つのほこり、ほんのわずかなものたとえ。聖朝：時の朝廷を尊んでいうことば。郊：都市の郊外。蕭條：物静かなさま、物寂しいさま。郊：郊外。極目：目の届かきり遠く見わたす。人事：人の世のいとなみ。蕭條：…ものさびしいさま。

(唐詩選)

(参考詩句)

「天涯霜露羈離久，海内風塵歸思賒」。南宋・黄公度

「海内風塵驚不定，天邊消息到何時」。南宋・嚴羽

「只今海内風塵昏，移家來就漁樵倫」。元・唐奎

「海内風塵皆芟莽，眼中魚水是湯伊」。明・羅倫

「不堪人事來如織，況復年華去若飛。」宋·吳芾

「朝陽纔回金屋在，轉盼不堪人事改。」南宋·岳珂

「不堪人事長乖處，聞說扁舟復西去。」南宋·袁說友

「朝陽纔回金屋在，轉盼不堪人事改。」南宋·岳珂

「天地自來虛橐籥，不堪人事日悠悠。」明末清初·釋函昱

★唐 杜甫

乾元中寓居同谷県作歌其五

乾元中同谷県に寓居し作る歌 其の五

四山多風溪水急

四山風多くして 溪水急なり

寒雨颯颯枯樹濕

寒雨 颯々として 枯樹湿う

黄蒿古城雲不開

黄蒿の古城 雲開けず

白狐跳樑黄狐立

白狐は跳梁し 黄狐は立つ

我生何爲在窮谷

我が生 何為れぞ 窮谷に在る

中夜起坐萬感集

中夜起坐して 万感集まる

嗚呼五歌兮歌正長

嗚呼 五歌す 歌正に長し

魂招不來歸故郷

魂招けども来たららず 故郷に帰らん

【語釈】

四山：四方の山。四山は自分の立ち位置を考慮すると五になる五行思想の数値の考えである。颯颯：風がさつと吹くさま。蒿：よもぎ。古城：成（同谷）県城。跳梁 はねくりまわる。窮谷：ゆきつまつた谷、同谷の地をいう。起坐：起き上がって座る。五歌：第五の歌。魂招：魂を招くこと、楚辞の「招魂」による、

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫 （上））

（参考詩句）

「寒雨颯颯枯樹濕，坐卧只多少行立。」宋末元初・文天祥

「我生何為困奔走，况乃北度烏桓城。」元・李裕

「鳥則有木魚有淵，我生何為獨偏側。」明・王立道

「中夜起坐增百憂，雲漢蒼蒼星歷歷。」元・吳師道

「蘭燈熒熒明檣梧，中夜起坐思江湖。」明・黃佐

「魂招不來守之泣，恨結玄雲貫寒日。」元・鄭元祐

★唐 杜甫

小寒食舟中作

小寒食舟中作

佳辰強飯食猶寒

佳辰に強飯すれば 食猶お寒し

隱几蕭條帶鶻冠

几に隱り 蕭條として 鶻冠を帶ぶ

春水船如天上坐

春水に船は 天上に坐するが如く

老年花似霧中看

老年に花は 霧中に看るに似たり

娟娟戲蝶過閑幔

娟々たる戲蝶は 閑幔を過ぎ

片片輕鷗下急湍

片々たる輕鷗は 急湍を下る

雲白山清萬餘里

雲白く 山清きこと 萬余里

愁看直北是長安

愁い看る 直北は 是れ長安

【語釈】

小寒食：寒食節（冬至から数えて百五日目と前後日の三日間を寒食と言い、その最期の日）。強飯：無理をして食事をする事。几：脇息。隱：もたれかかる。蕭條：ものさびしいさま。鶻冠：やまどりの羽で作った冠。娟娟：きらびやかな。閑幔：カーテン。片片：ひらひら。急湍：急流

（漢詩大系 9）

（参考詩句）

「隱隱游絲飛日影，娟娟戲蝶舞春酣。」北宋・韋驥

「雙雙新燕飛春岸，片片輕鷗落晚沙。」南宋・陸遊

「片片輕鷗淥水涯，隔溪楊柳是誰家。」明・靳學顏

★唐 杜甫

夜

夜

露下天高秋水清

露下り天高くして秋水清し

空山獨夜旅魂驚

空山 独夜 旅魂驚く

疎燈自照孤帆宿

疎灯 自ら照して 孤帆宿し

新月猶懸雙杵鳴

新月 猶お懸りて 双杵鳴る

南菊再逢人臥病

南菊 再び逢いて 人病に臥し

北書不至雁無情

北書 至らず 雁 無情

步簷倚杖看牛斗

步簷 杖に倚りて 牛斗を看れば

銀漢遙應接鳳城

銀漢 遙かに応に 鳳城に接するなるべし

【語釈】

秋水：澄み切った秋の水。空山：人氣の無い山。獨夜：独り山宿に泊まる。旅魂：旅中の心、旅情。双杵：二人で向かい合って衣を打つ砧の音。步簷：屋外の歩廊。牛斗：牽牛星と北斗星。銀漢：銀河。鳳城：長安。

(杜甫全詩訳注)

(関連詩句)

「歸來醉罷霓裳杳，露下天高夜已闌。」明・曹義

「露下天高星漢秋，長江十里稱閒遊。」明・林鏗

「循良漢傳誰能似，露下天高一鶴飛。」明・黃廷用

「長因遠道逢人寄，憶得空山獨夜眠。」明・張寧

「匹馬荒林象跡深，空山獨夜龍吟急。」清・宋銑

「短髮獨搔猿送淚，疎燈自照角添愁。」明・吳鵬

「霜月漸臨寒漏永，疏燈自照遠鍾微。」清・顧慈

「掩卷秋懷倍洒然，步檐倚杖望高天。」明・末清初・阮大鍼

★唐 杜甫

閨夜

かくや

歲暮陰陽催短景

せいぼ おんよう たんけい うなが

天涯霜雪霽寒宵

てんがい そうせつ かんしやう は

五更鼓角聲悲壯

ごこう こかく ひそつ

三峽星河影動搖

さんせつやう せいが どうよう

野哭千家聞戰伐

やく せんか せんばつを聞き

夷歌幾處起漁樵

いがか いくちか ぎしやうより起こる

臥龍躍馬終黃土

がりゆう やくば ついにこうど

人事音書漫寂寥

じんじ いしよ まろに寂寥

【語釈】

閨夜：夔州の西閣での夜。歳暮：年の暮れ。陰陽：天地間の万物を造り出す二気。天地、日月暖寒、男女のように相對する二つの気。催：うながす。短景：（冬の）短い昼間。短い日ざし。「景」：ひかり。ひざし。けしき。「景」：かげ。：「影」。この語の包含する領域が日中でややずれるか。天涯：空の涯。故郷を遠く離れた土地。ここでは作者自身の今いる州のことをいう。霜雪：霜と雪、心の潔白できびしい喩え。霽：はれる。寒宵：寒い夜。五更：午前4時前後。夜の終わり。鼓角：（軍中で時を知らせるのに用いる）太鼓と角笛。悲壯：悲しい中にも勇ましさのあること。星河：天の川。影：（星の）光。（星）影。動搖：（星の光が）揺れ動く。揺れ動く。不吉の兆し。野哭：野原に出て、墓の前で死者を哭すること。・千家：多くの家庭。幾家：何軒か。戦伐：戦い。夷歌：えびすの歌。異民族の歌。幾處：何か所かで。數處：数カ所で。是處：方々で。漁樵：漁師や樵（きこり）。臥龍：諸葛孔明を指す。躍馬：公孫述を指す。終：ついに。結局。人事：人間社会の事件。漫：とりとめもなく、そぞろに。寂寥：寂（さび）しく静かなさま。ひっそりしているさま。

★唐 杜甫

蜀相

蜀相

丞相祠堂何處尋

丞相の祠堂何れのか尋ねん

錦官城外柏森森

錦官城外 柏森々

映階碧草自春色

階に映ずる碧草 自から春色

隔葉黃鸝空好音

葉を隔つる黃鸝 空しく好音

三顧頻煩天下計

三顧頻煩なり 天下の計

兩朝開濟老臣心

兩朝開濟す 老臣の心

出師未捷身先死

師を出して未だ捷たざるに 身先ず死し

長使英雄淚滿襟

長えに英雄をして 涙襟に満たしむ

【語釈】

蜀相：三国時代の蜀の丞相の諸葛亮をいう。丞相：天子を輔けて政治を行う最高の官。祠堂：靈を祀つたところ。錦官城：成都のこと。柏：コノテガシワ。森：樹木が盛んに繁っているさま。碧草：春の青い草。自：自然と。・春色：春の気配。隔葉：葉の繁みの向こう側で。黃鸝：チヨウセンウグイス。三顧：蜀の劉備が軍師を求めて諸葛孔明に三顧の礼をとった故事をいう。天下計：天下を手中に収める計略。兩朝：先主・劉備と後主・劉禪の二朝。開濟：基礎を始め、立派に成功する。出師：出兵。捷：勝つ。英雄：国事に奔走する人物。襟：衣服のえり。



★唐 杜甫

客至

客至る

舍南舍北皆春水

舍南舍北皆春水

但見群鷗日日來

但だ見る群鷗の日に來るを

花徑不曾緣客掃

花徑曾て客に緣つて掃わず

蓬門今始為君開

蓬門始めて君が為に開く

盤飧市遠無兼味

盤飧市遠くして兼味無く

樽酒家貧只舊醅

樽酒家貧しくして只だ旧醅あるのみ

肯與鄰翁相對飲

肯えて鄰翁と相對して飲まん

隔籬呼取盡餘杯

籬を隔てて呼び取りて余杯を尽くさしめん

【語釈】

客至：客が来る。但見：ただ：だけが見える。群鷗：群をすかもめ。花徑：花の散っている小道。掃：はく。客：俗世間の人物。蓬門：貧し家の蓬で屋根を葺いた門。君：作者の母方の親戚である崔明府（白水県尉・崔のこと、「明府」：県令の尊称。）

（漢詩大系 9）

（関連詩句）

「二月三月雨晴初，舍南舍北唯平蕪。」唐末・韓偓  
「舍南舍北皆種桃，東風一吹數尺高。」北宋・王安石  
「偶得風和身亦健，舍南舍北探梅花。」南宋・陸游

★唐 杜甫

江村

江村

清江一曲抱村流

清江 一曲村を抱いて流れ

長夏江村事事幽

長夏 江村 事々幽なり

自来自來梁上燕

自ら去り自ら来る梁上の燕

相親相近水中鷗

相い親しみ相い近づく水中の鷗

老妻畫紙為棋局

老妻は紙に画いて 棋局と為り

稚子敲針作釣鉤

稚子は針を敲いて釣鉤を作る

多病所須唯藥物

多病 須つ所は唯だ藥物

微軀此外更何求

微軀 此の外に 更に何をか求めん

【語釈】

江村：川の畔にある村。清江：清らかな川の流れ。一曲：川などのひとまがり。ひとすみ。一部分。・長夏：旧暦六月。幽：奥深いさま。・自来自來：自然と行ったり来たりする。梁：はり。碁局：碁盤。須：もとめる。微軀：取るに足らない我が身。

(漢詩大系 9)

(関連詩句)

- 「扇子峽中有隱士，清江一曲照柴荆。」南宋・陸游
- 「清江一曲繞柴門，樂志軒中隱趣繁。」明・楊士奇
- 「長夏江村風日清，簷牙燕雀已生成。」北宋・張耒
- 「長夏江村亂水通，蓮花荔子醉薰風。」明・鄧雲霄
- 「一潭明月萬株柳，自来自來人不知。」唐・許渾
- 「自来自來江上燕，年年還向屋梁飛。」明・李孫宸

★唐 杜甫

宿府

府に宿す

清秋幕府井梧寒

清秋 幕府 井梧寒し、

獨宿江城蠟炬殘

獨宿すれば 江城 蠟炬残る。

永夜角聲悲自語

永夜の角聲 悲しみて自ら語る

中天月色好誰看

中天の月色 好し誰か看ん。

風塵荏苒音書絕

風塵 荏苒 音書絶え

關塞蕭條行路難

關塞 蕭條 「行路難」。

已忍伶俜十年事

己に忍ぶ伶俜 十年の事、

強移棲息一枝安

強いて移りて棲息す 一枝の安きに。

【語釈】

府：劍南西川節度使の嚴武の幕府。清秋：すがすがしい秋。井梧：いどばたのあおぎり。獨宿：一人で宿直すること。江城：錦官城（成都）。蠟炬：漆黒の中の大ろうそくをいう。井梧：いどばたのあおぎり。永夜：長い夜。角聲：角笛の音。悲自語：悲しみつつ独り言する。中天：空の真ん中。好誰看：好は感授詞「まあ」に近い。風塵：兵乱（安祿山の乱）。荏苒：しだいに時のたつさま。音書：使り。關塞：関所と塞。蕭條：物静かで寂しいさま。行路難：樂府題、道を行くのに難儀すること、転じて、世渡りの困難なことを詠う。伶俜：おちぶれるさま。十年：天宝十四歳安祿山が反してより今年まで十年である。強移：むりにひきうつる。棲息：とどまり憩う、自己を鳥にたとえる。一枝安：節度の参謀である微官を以て一枝の安息所となすことをいう。

（杜甫全詩訳注）

（参考詩句）

「高樓中天月色淨，玉山禾熟秋雲映。」北宋・蔡襄

「高堂秋空夜氣昏，中天月色爛若銀。」元末明初・胡布

「中天月色雨餘好，大海潮聲風送來。」晚清・丘逢甲

★唐 杜甫

嚴中丞枉駕見過

嚴中丞 駕を枉げて過ぎらる

元戎小隊出郊坰

元戎 小隊 郊坰に出ず

問柳尋花到野亭

柳を問い花を尋ねて 野亭に到る

川合東西使節瞻

川は 東西を合したる 使節を瞻

地分南北任流萍

地は 南北を分かちて 流萍に任す

扁舟不獨如張翰

扁舟 独り 張翰の如くあるのみならず

白帽還應似管寧

白帽 還た 応に管寧に似たり

寂寞江天雲霧裏

寂寞たる江天 雲霧の裏

何人道有少微星

何人か道わん 少微星有り

【語釈】

嚴中丞：御史中丞の嚴武。駕：乗り物。枉：ことさらに。元戎：大きな軍用車。郊坰：成都の郊外。野亭：杜甫の草堂。川合東西使節瞻：嚴武が東川と西川の兩節度使を兼ねたことをいう。瞻：仰ぎ見る。地分南北任流萍：杜甫が、長安から蜀の地に流浪してきたことをいう。流萍：流れる水草。扁舟不獨如張翰：西晉の張翰は、故郷の呉で、舟の中で琴を奏でる賀循と意気投合し、家人に告げぬまま賀循の舟に乗り合わせて入浴した。杜甫自らの当てのない流浪に喩える。白帽還應似管寧：魏の管寧は、出仕に応ぜず、海辺の僻地で、黒い帽子、袖無しに袴という質素な身なりで慎ましくくらししていた。寂寞：ひっそりとして物寂しい。江天：錦江の空。少微星：隱者のシンボルと見做された星座。

(杜甫全詩訳注)

(関連詩句)

「眠雲嘯月有餘樂，問柳尋花無限春。」 宋 李綱

「問柳尋花懶不知，登山臨水病難爲。」 宋 呂本中

「吟詩作賦晴窗裏，問柳尋花野水邊。」 南宋 周必大

「美人娟娟隔秋水，寂寞江天雲霧裏。」 南宋 楊冠卿

★唐 杜甫

登楼

登楼

花近高楼傷客心

花は高楼に近くして客心を傷ましむ

萬方多難此登臨

萬方多難 此にす

錦江春色來天地

錦江の春色 天地に來り

玉壘浮雲變古今

玉壘の浮雲 古今に變ず

北極朝廷終不改

北極の朝廷 終に改まらず

西山寇盜莫相侵

西山の寇盜 相侵すこと莫かれ

可憐後主還祠廟

憐れむべし 後主還廟に祠らる

日暮聊爲梁甫吟

日暮 聊か爲す 梁甫吟

【語釈】

客心：旅心。万方：あらゆる方面。どこもかしこも。登臨：高い所に登ってながめる。錦江：成都を流れる川、蜀で生産された錦をさらした。春色：春景色。玉壘：成都の西北の山、吐蕃との国境。北極朝廷：北極星のように不動のわが朝廷。西山：成都の西北の雪嶺。寇盜：泥棒。可憐：なんとまあ。後主：蜀の劉禪（劉備の子）。日暮：夕暮れ。梁甫吟：孔明が愛唱したという歌、齊の名宰相の晏子について歌ったもの。

(唐詩選)

(関連詩句)

「春光滿目草萋萋，花近高楼柳近堤。」 清末・夏子麟

「花近高楼恰未知，朝來忽見最繁枝。」 清末至民國・陳曾壽

「萬方多難孤尊對，千里辭家一劍留。」 明・尹臺

「丹楓繫纜一回首，玉壘浮雲安在哉。」 南宋・范成大

「玉壘浮雲千萬重，不如先生歸興濃。」 明・文徵明

★唐 杜甫

冬至

冬至

年年至日長為客

年年 至日 長に客と為り

忽忽窮愁泥殺人

忽々たる窮愁 人を泥殺す

江上形容吾獨老

江上の形容 吾れ独り老い

天邊風俗自相親

天涯の風俗 自ら相親しむ

杖藜雪後臨丹壑

藜を杖いて雪後 丹壑に臨み

鳴玉朝來散紫宸

玉を鳴らして朝來 紫宸を散ず

心摺此時無一吋

心 摺れて此の時 一寸無く

路迷何處見三秦

路に迷う 何れの処か是れ三秦

【語釈】

至日：冬至の日・忽忽：心がうつろなさま。泥殺：ひどくまつわりついて離れない。窮愁：甚だしい愁い。泥殺：甚だしく悩み苦しませる。形容：外観、模様。天涯：天のはて。風俗：気風、風習。藜：あかぎ。丹壑：赤い谷。朝來：朝早く。紫宸：天子の御殿。散：別れる、ばらばらになる。摺：やぶる、こわす。一吋：小さいこと。三秦：陝西省一带。ここは都長安を指す。

(杜甫全詩訳注)

(関連詩句)

- 「年年至日壽北堂，親不在堂衣在眼。」金・趙秉文
- 「忽忽窮愁休悵恨，東風已到玉梅前。」南宋・項安世
- 「年華添線又浮灰，忽忽窮愁不易裁。」南宋・項安世
- 「筆端風味誰能及，江上形容莫自傷。」南宋・項安世
- 「山中耆舊詩誰健，江上形容夢獨懸。」明・顧璘

★唐 杜甫

恨別

別れを恨む

洛城一別四千里

洛城一たび別れて四千里

胡騎長驅五六年

胡騎こき長驅ちやうくすること五六年

草木變衰行劍外

草木變衰して劍外けんがいに行き

兵戈阻絶老江邊

兵戈阻絶そぜつして江辺に老ゆ

思家步月清宵立

家を思せいて月に歩み清宵せいしやうに立ち

憶弟看雲白日眠

弟を憶おぼいて雲みを看み白日はくじつに眠る

聞道河陽近乘勝

聞道きくならく河陽かやう近きころ勝かちに乗のり

司徒急爲破幽燕

司徒急きゆうに為なるに幽燕ゆうえんを破やぶる

【語釈】

洛城：洛陽の街。胡騎：異民族の騎兵、安祿山軍。長驅：長い距離を駆け巡る。  
劍外：劍門山の外の地、蜀。兵戈：戦争。阻絶：隔てて阻む。江邊：錦江、浣花  
溪のほとり。清宵：ひっそりと静まった宵。聞道：くと聞いている。河陽：河南  
省孟州市。司徒：宰相のこと。幽燕：幽州と燕州、安祿山の本拠地である北京一  
帯の地。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

(参考詩句)

「五斗棲遲洛水邊，思家步月轉淒然。」明・梁維棟

「草木變衰人易老，江湖牢落雁難前。」元・趙孟頫

「山川感慨今古事，草木變衰天地秋。」元末明初・鄧雅

「草木變衰時又晚，山川搖落水還流。」明・朱樸

★唐 杜甫

聞官軍收河南河北

官軍の河南河北を收むるを聞く

劍外忽傳收薊北

劍外 忽ち伝う 薊北を收むと

初聞涕淚滿衣裳

初めて聞いて 涕淚 衣裳に満つ

卻看妻子愁何在

妻子を卻看みて 愁い何くにか在る

漫捲詩書喜欲狂

漫に詩書を巻いて 喜びて狂せんと欲す

白首放歌須縱酒

白首 放歌して 須く酒を縱にすべし

青春作伴好還鄉

青春 伴を作して 好し郷に還らん

即從巴峽穿巫峽

即ち巴峽より 巫峽を穿ち

便下襄陽向洛陽

便ち襄陽に下りて 洛陽に向かわん

【語釈】

河南：河南府。河北：河北道。劍外：長安を基本に考えて劍門の外、蜀のことをいう。薊北：薊州の北、今の河北薊天府地方、賊の根拠地。涕淚：（感激の）なみだ。卻看：顧みる，振り返る。漫：いいかげんに。詩書：「詩経」と「書経」。捲：巻き納める。白首：しらがあたま。青春：春の節作伴 青春はをいう、作伴：妻子一家つれだつて。郷：故郷（洛陽）。巴峽： 四川巴県にある峽の名。巫峽：四川巫山県にある三峡の名。襄陽：湖北省に位置する地級市。

（漢詩大系 9）

（関連詩句）

「青門掛冠春欲暮，白首放歌江上歸。」明 邊貢

「白首放歌聊快意，黃花對酒可無詩。」清 黃宅厚



★唐 杜甫

狂夫

狂夫

萬里橋西一草堂

萬里橋西一草堂

百花潭水即滄浪

百花潭水即滄浪

風含翠篠娟娟靜

風は翠篠を含みて娟々として静かに

雨裏紅蕖冉冉香

雨は紅蕖を裏して冉冉として香し

厚祿故人書斷絶

厚祿の故人は書断絶し

恒飢稚子色淒涼

恒飢の稚子は色淒涼

欲填溝壑唯疎放

溝壑に填せんと欲すれども唯だ疎放

自笑狂夫老更狂

自ら笑う狂夫老いて更に狂なるを

【語釈】

狂夫：世間に入れられぬ、気違いじみた行動をする人。萬里橋：錦江に架かる橋。  
百花潭：浣花谿のこと。滄浪：「漁夫の辞」参照。翠篠：緑の篠竹。娟娟：美しく清らかなさま。紅蕖：紅の蓮の花。冉冉：しなやかなさま。厚祿故人：大官となつて高祿をもらっている旧友。淒涼：痛ましい。填溝壑：溝や崖にはまつてのたれ死にすること。疎放：世に疎く、勝手気ままなこと。

(漢詩大系 9)

(関連詩句)

「雨裏紅蕖冉冉香，玉樽錦席高雲涼。」宋・孔平仲  
「煙綿碧草萋萋長，雨裏紅蕖冉冉香。」清・黃之雋

★唐 杜甫

佳江上值水如海勢聊短述

江上水の海勢の如きに値い聊か短述す

爲人性僻耽佳句

人と為り性は癖にして佳句に耽り

語不驚人死不休

語人を驚かさずんば死すとも休まず

老去詩篇渾漫興

老去の詩篇渾べて漫興

春來花鳥莫深愁

春來たりて花鳥深く愁うる莫かれ

新添水檻供垂釣

新たに水檻を添えて釣を垂るるに供し

故著浮槎替入舟

故より浮槎を著けて舟に入るに替り

焉得思如陶謝手

焉にか思い陶謝の如き手を得て

渠述作與同遊

渠をして述作せ令めて与に同じく遊ばん

【語釈】

僻：へんくつ。佳句：良い句、詩。老去：老い去ったとき。漫興：なんとなく感興をもよおすこと、なおざり。水檻：川に面した出窓。浮槎：いかだ。陶謝：陶淵明と謝靈運又は謝朓。渠：第三人称。

(関連詩句)

「老去詩篇多感慨，古來書卷幾興衰。」南宋・林希逸

「老去詩篇興若何，一春城郭少經過。」明・邵寶

「老去詩篇興未休，吏情終日問滄洲。」明・何景明

「醉裏江湖真有味，春來花鳥正關愁。」明・文徵明

「春來花鳥閒情在，老去山林樂事多。」明・文徵明

「春來花鳥宜晴日，湖上風烟有夢思。」明・劉鳳

★唐 杜甫

詠懐古蹟五首其一

詠懐古蹟五首 其の一

支離東北風塵際

支離たり東北風塵の際

漂泊西南天地間

漂泊す西南天地の間

三峽樓臺淹日月

三峽の樓台 日月淹しく

五溪衣服共雲山

五溪の衣服 雲山を共にす

羯胡事主終無頼

羯胡 主に事えて 終に無頼なり

詞客哀時且未還

詞客 時を哀しみて 且つ未だ還らず

庾信平生最蕭瑟

庾信は平生 最も蕭瑟

暮年詩賦動江關

暮年の詩賦は 江關を動かせり

【語釈】

詠懐古蹟…古蹟において自分の懐を詠ずる。支離…別れ別れになる、この場合兄弟と。東北…東北にある地方、河南・陝西・甘肅州。風塵…兵乱。漂泊…ただよいあるく。西南…蜀から夔州に到る地方。三峽…長江本流にある三つの峽谷の総称。瞿塘峽、巫峽、西陵峽。樓臺…瞿唐峽の樓台、夔州の西閣。日月…時間。淹…久しく留まる。五溪…辰州五溪（雄溪、楠溪、無溪、酉溪、辰溪）。五溪衣服…五溪蛮で五色の衣服を好むもの。共雲山…雲のいる山を共々にしておる、蛮俗と雑処することをいう。羯胡…胡人、安祿山をいう。主…玄宗。主…は天子、玄宗を。（実際は肅宗と対立した）。事…使える。○無頼…信頼できない。詞客…文学の士、杜甫自身。哀時…時世の事についてかなしむ。且…しばらく。庾信…梁の庾肩書の子で、徐桶の子の陵とともに文章が綺艶で、世に徐庾体とよばれる。梁の元帝が位に即くや右衛將軍に拜し、武康侯に封ぜられた。西魂に使者として行っていたときたまたま西魂が滅んだため、遂に北周に仕えて長安に留どまった。官は司宗中大夫に至った。信は北周に在って位望通頭であったとはいえずに郷関の思いがあり、嘗て「哀江南賦」を作った「將軍一去、大樹飄零；壯士不還，寒風蕭瑟。」杜甫は、自分を庾信にならぞえている。蕭瑟…意中のさびしい

ことをいう。暮年：晩年をいう。○詩賦：庾信がつくった詩または賦。江関：…と  
は江南・関中の二地。  
(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

詠懐古蹟五首其二

詠懐古蹟五首 其の二

揺落探知宋玉悲

揺落 探く知る 宋玉の悲しみ

風流儒雅亦吾師

風流 儒雅 亦た吾が師なり

悵望千秋一灑淚

千秋を悵望して 一たび涙を灑ぐは

蕭条異代不同時

蕭条 代を異にして 時を同じくせざればなり

江山故宅空文藻

江山の故宅 空しく文藻あり

雲雨荒台豈夢思

雲雨の荒台 豈に夢思ならんや

最是楚宮俱泯滅

最も是れ 楚宮と俱に泯滅して

舟人指点到今疑

舟人 指点して 今に到って疑う

【語釈】

揺落…木の葉が風に揺られて落ちる。宋玉…中国、戦国時代末の文学者。楚の大  
夫で、屈原の門下であったといわれるが確かではない。彼の作とされる『九弁』  
は不遇の士をいたむ憂愁と、俗世間への不平反発をその内容とする。特に旅人の  
別れの心情を凋落する秋景に託した冒頭の句は有名で、「宋玉悲秋」という言葉  
まで生み、後世の文学に大きな影響を与えた。詩 九弁「悲哉秋之為氣也、蕭瑟  
兮草木揺落而變衰」。儒雅…学者らしい高い教養。千秋…長い年月。悵望…恨め  
しい気持ちで遠くを眺める。蕭条…物寂しい静かなさま。代…時代。江山…川と  
山。故宅…宋玉が昔住んでいた家。空文藻…故宅は無くなっているが文章だけが  
残っている。雲雨荒…楚王と巫山の神女が夢に雲雨のちぎりをなしたという伝  
説の陽台が荒れてしまっていること。夢思…夢に思うこと。楚宮…楚の宮殿、巫  
山市にあつたとされる。泯滅…滅びること。指点…指さす。

(關連詩句)

「**搖落深知羈旅情**，飄零況是雲山隔。」清·朱彝尊

「**悲歌慷慨悲壯士**，**風流儒雅**追先賢。」明·楊慎

「**妙簡蓬瀛適可親**，**風流儒雅**更無論。」明·趙完璧

「**古來豪俊多在此**，**悵悵千秋**一回首。」宋·孔平仲

「**亦知彼地張陳跡**，**悵悵千秋**灑淚中。」明·王世貞

「**江山故宅**一丹丘，手澤蕭森古木秋。」明末清初·屈大均

「**江山故宅**鴻泥在，風月扁舟鶴夢回。」清·趙翼

「**瀟湘極浦**知何處，**雲雨荒臺**空惘然。」明·解縉

★唐 杜甫

詠懷古跡五首其の五

詠懷古跡五首 其の五

諸葛大名垂宇宙

諸葛の大名宇宙に垂る

宗臣遺像肅清高

宗臣の遺像肅として清

三分割拋紆籌策

三分割拋 籌策を紆らし

万古雲霄一羽毛

万古雲霄 一羽毛

伯仲之間見伊呂

伯仲の間に伊呂を見る

指揮若定失蕭曹

指揮 若し定まれば 蕭曹を失せん

運移漢祚終難復

運移りて漢祚終に復し難く

志決身殲軍務勞

志は決するも身は殲きぬ 軍務の勞に

【語釈】

諸葛：蜀の丞相諸葛亮孔明。宗臣：重臣（ここでは諸葛亮）。肅：おごそかなさま。清高：清らかで気品があるさま。三分割拋：魏、呉、蜀が天下三分したこと。万古：永遠。雲霄： 大空。一羽毛：孔明の偉大さを鳥（鳳凰）に例えた。伯仲之間：「伯」は長男、「仲」は次男で、両者の優劣をつけるのが難しいこと。伊呂：「伊」は湯王を補佐して殷王朝を起した伊尹、「呂」は武王を補佐して周王朝を起した太公望呂尚。蕭曹：「蕭」は蕭何（漢の高祖劉邦を補佐した最初の相国）、「曹」は曹參（蕭何に継ぐ代目の相国）。漢祚：漢王朝。

（唐詩三百首）

（関連詩句）

「萬古雲霄一鳳鸞，歸來蓬島月光團。」宋 胡銓

「堂堂遺像瞻依處，**萬古雲霄**一鳳麟。」明·何士麟  
「**萬古雲霄**高著眼，千峯林木獨成眠。」明末清初·釋函昞  
「**萬古雲霄**成斷羽，一天星月燦餘暉。」晚清·范當世



★唐 杜甫

秋興其一

秋興其一

玉露凋傷楓樹林

玉露凋傷す 楓樹の林

巫山巫峽氣蕭森

巫山巫峽氣 蕭森

江間波浪兼天沸

江間の波浪 天を兼ねて沸き

塞上風雲接地陰

塞上の風雲 地に接して陰る

叢菊兩開他日淚

叢菊 兩び開く 他日の涙

孤舟一繫故園心

孤舟 一に繫ぐ 故園の心

寒衣處處催刀尺

寒衣 處處 刀尺を催し

白帝城高急暮砧

白帝城 高くして 暮砧 急なり

【語釈】

玉露：玉のような露。凋傷：しばませ傷ませること。楓樹：楓。巫山：夔州（四川省奉節県）の東にある山。巫峽：三溪の一つで、巫山のそばの溪谷。蕭森：静かで物寂しいこと。江間：長江の流れ。兼天：天に届くばかりに。塞上：砦の付近。陰：暗くする。叢菊：野菊。他日：過去の日。孤舟：一艘の舟。一繫：つないだままである。故園：ふるさと。寒衣：冬服。刀尺：裁縫のこと。白帝城 夔州の白帝城の上にある城。蜀の劉備玄徳が亡くなった場所。暮砧：夕暮れに打つ砧。

（唐詩選）

（参考詩句）

「玉露凋傷赤岸楓，寒江月落鴈呼風。」元末明初・劉崧

「誰知玉露凋傷後，更向疏籬作意香。」明・唐伯元

「江間波浪三千頃，都與回公入酒卮。」明・陳獻章

「天末長雲逐鴈來，江間波浪起孤臺。」明・嚴嵩

★唐 杜甫

秋興其三

秋興其三

千家山郭靜朝暉

千家山郭朝暉靜かに

一日江樓坐翠微

一日江樓翠微に坐す

信宿漁人還泛泛

信宿の漁人還た泛々たり

清秋燕子故飛飛

清秋の燕子故に飛々たり

匡衡抗疏功名薄

匡衡疏を抗げて功名薄く

劉向傳經心事違

劉向經を伝えんとして心事違う

同學少年多不賤

同學の少年多く賤しからず

五陵衣馬自輕肥

五陵の衣馬自づから輕肥

【語釈】

山郭：山の中の城郭。朝暉：朝日。江樓：河に面した樓閣。翠微：薄緑色のもや。  
信宿：二晩宿泊すること。泛泛：浮かび漂うさま。飛飛：飛び跳ねる様。匡衡：前漢の大儒、家貧しく壁に孔を明けて書を読んだ。疏：上奏文。抗：上に上げる。  
劉向：前漢の学者、政治家、しばしば上奏分で皇帝をいさめたが受け入れられなかった。徑：物の道理。五陵：長安の擬革で富裕層の居住する地。衣馬自輕肥：輕衣を着て肥えた馬に乗ること、豪奢な様。

(漢詩大系 9)

〔参考詩句〕

「千家山郭潮聲裏，幾曲營門柳影中。」明・王恭

「千家山郭憑闌見，萬疊雲煙拍座浮。」清・蔣士銓

「遙憐別夜登臨怨，不減清秋燕子樓。」宋・趙鼎

「一難莫厭貧居寂，猶有清秋燕子飛。」清末民國初

★唐 杜甫

秋興其七

秋興 其の七

昆明池水漢時功

昆明こんめいの池水 漢時の功

武帝旌旗在眼中

武帝せいぎの旌旗 眼中に在り

織女機絲虛月夜

織女の機糸きしは 月夜に虚むなしく

石鯨鱗甲動秋風

石鯨せきけいの鱗甲りんこうは 秋風に動く

波漂菰米沈雲黑

波は菰米こみを漂わし 沈雲 黒く

露冷蓮房墜粉紅

露は蓮房れんぼうに冷やかにして 墜粉つひかん 紅なり

關塞極天唯鳥道

關塞かんさい 極天きょくてん 唯ただ鳥道

江湖滿地一漁翁

江湖 滿地 一漁翁

【語釈】

昆明池：長安西郊の池、漢の武帝がこの池を掘って、軍船を戦わせた。旌旗：旗指物。機絲：手にする機いと。石鯨：昆明池にあった鯨の石像。鱗甲：鱗と甲羅。菰米：まこもの実、黒い色をしている。沈雲：池に映った雲。蓮房：蓮の花の房。關塞：夔州の地。滿地：いたるところ。

(漢詩大系 9)

(関連詩句)

「媧皇煉石天無壘，織女機絲月共秋。」元・何中

「織女機絲虛夜月，芙蓉小苑入邊愁。」明・朱樸

「風清桂苑黃金樹，露冷蓮房白玉池。」明・曹學程

「我欲訪君安得往，江湖滿地一漁竿。」北宋末・周紫芝

「昔誦離騷夜扣舷，江湖滿地水浮天。」南宋・朱熹

「江湖滿地人來少，蘆葦連天雁去多。」明・張洪

★唐 杜甫

秋興其八

秋興其の八

昆吾御宿自逶迤

昆吾御宿 自ら逶迤たり

紫閣峰陰入漢陂

紫閣の峰陰 漢陂に入る

香稻啄余鸚鵡粒

香稻 啄み余す 鸚鵡の粒

碧梧棲老鳳凰枝

碧梧 棲み老ゆ 鳳凰の枝

佳人拾翠春相問

佳人と翠を拾いて 春に相い問い、

仙侶同舟晚更移

仙侶と舟を同じくして 晩に更に移る。

綵筆昔曾干氣象

綵筆は昔曾て 氣象を干せしに

白頭吟望苦低垂

白頭 吟望して 低垂に苦しむ

【語釈】

昆吾：長安の西方にある山の名前。御宿：長安の西方にある川の名前。逶迤：曲がりくねっているさま。紫閣：終南山の紫閣峰。峰陰：峰の陰。逶迤：漢陂：陝西省鄂県の西にある池の名。香稻：稲の一種。鸚鵡：おうむ。碧梧：あおぎり。鳳凰：おおとり。佳人：良き人、妻。翠：翠羽玉（碧色の宝石）（《洛神賦》「或は明珠を採り、或は翠羽を拾う」）。仙侶：仙人のような友人、李郭仙舟の故事。綵筆：絵筆。干：凌ぐ。吟望：詩を吟じつつ眺めやる。低垂：首を低く垂れる。

（漢詩大系 9）

★唐 杜甫

返照

返照

楚王宮北正黃昏

楚王宮北 正に黃昏

白帝城西過雨昏

白帝城西 過雨の昏

返照入江翻石壁

返照 江に入りて 石壁に翻り

歸雲擁樹失山邨

歸雲 樹を擁して 山邨を失す

垂年病肺惟高枕

垂年 肺を病んで 惟だ枕を高くし

絶塞愁時早閉門

絶塞 時を愁いて 早く門を閉づ

不可久留豺虎乱

久しく豺虎の乱に 留まるべからず

南方実有未招魂

南方 実に 未だ招かざるの魂有り

【語釈】

返照：夕映え。楚王宮：夔州の東、巫山に有った楚王の離宮の跡。過雨：通り雨。  
歸雲：山に帰り行く雲。山邨：山里。垂年：年老いて死期の近いこと。絶塞：遠く離れた城塞。豺虎乱：山犬と虎の乱、安史の乱。  
『楚辞、九章、抽思』 黃昏以爲期。  
『楚辞、招隱士』 山中兮不可以久留。  
『楚辞、宋玉、招魂』 魂兮歸來、南方不可以止些。

(漢詩大系 9)

〔関連詩句〕

「返照入江無遠近，波光一望思悠悠。」明末清初・歐必元

「未覺輕陰愁日暮，每看返照入江翻。」現當代・饒宗頤

「翻得杜陵巫峽語，歸雲擁樹失前村。」元・陸廣

★唐 杜甫

登高

登高

風急天高猿嘯哀

風急に天高くして猿嘯哀し

渚清沙白鳥飛廻

渚清く沙白くして鳥飛び廻る

無邊落木蕭蕭下

無辺の落木蕭々として下り

不盡長江滾滾來

不盡の長江滾々として来る

萬里悲秋常作客

万里悲秋常に客となり

百年多病獨登臺

百年多病独り台に登る

艱難苦恨繁霜鬢

艱難苦だ恨む繁霜の鬢

潦倒新停濁酒杯

潦倒新たに停む濁酒杯

【語釈】

登高：九月九日の重陽の日の風習で、高い山に登り、菊酒を飲んで厄災を払う習わし。猿嘯：猿の鳴き声。哀：かなしげである。無辺：ひろびろとして果てしない様。蕭蕭：物寂しい様子や音声の形容。不盡：尽きることがない。滾滾：水が盛んに流れるさま。萬里悲秋：見わたす限りのもの悲しい秋景色。客：流寓者。艱難：苦しく困難な目にあうこと。難儀。つらい目にあうこと。なやみ。苦勞をすること。繁霜鬢：白髪頭。潦倒：老衰のさま。濁酒：どぶろく。

(漢詩大系 9)

〔関連詩句〕

「霜飛木落蟬聲咽，風急天高雁影斜。」明・王天性

「大荒海外更東荒，風急天高碧浪長。」清末民國初

「渚清沙白水如空，人在秋光活畫中。」元末明初・李穡

「渚清沙白有蘆荻，岩奇木老多煙嵐。」明・李崇仁

★唐 杜甫

白帝城最高樓

白帝城の最高樓

城尖徑仄旌旆愁

城尖がり徑仄かたむきて旌旆愁はいせいう

獨立縹緲之飛樓

獨り縹緲ひょうびょうたる飛樓ひに立つ

峽坼雲霾龍虎臥

峽きよう坼さけ雲う霾ひりて龍虎りゅうこ臥ふし

江清日抱鼉鼉遊

江清く日抱げんたきて鼉鼉げんた遊ぶぶ

扶桑西枝對斷石

扶桑ふそうの西枝さいし對斷石たんだんに對し

弱水東影隨長流

弱水の東影とうえい長流ちやうりゆうに隨したがう

杖藜歎世者誰子

藜あかきを杖つきて世よを嘆なげくは誰たれの子こぞ

泣血迸空回白頭

泣血なきて空そらに迸ほとばしりしりして白頭めづを回まわらす

【語釈】

旌旆：旗。縹緲：はるかに広いさま。飛樓：城が高くその形成が飛んでいるようなことの形容。霾：大風が土を捲き上げて曇らすこと。龍虎臥：山峽が突兀としてわだかまる形容。鼉鼉：大海亀と鱧。鼉鼉遊：江流が激しく沸き立つ形容。扶桑：東海の東にあるという木。斷石：禹が切斷したという三峽の溪谷。弱水：西方の仙境の川。迸空：最高峰だから流す涙が空にほとばしる。

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

少陵野老吞聲哭

春日潛行曲江曲

江頭宮殿鎖千門

細柳新蒲為誰綠

憶昔霓旌下南苑

苑中萬物生顏色

昭陽殿裡第一人

同輦隨君侍君側

輦前才人帶弓箭

白馬嚼齧黃金勒

翻身向天仰射雲

一笑正墜雙飛翼

明眸皓齒今何在

血汚遊魂歸不得

清渭東流劍閣深

去住彼此無消息

人生有情淚沾臆

哀江頭

少陵の野老 声を吞んで哭し

春日潛行す 曲江の曲

江頭の宮殿 千門を鎖す

細柳新蒲 誰が為にか緑なる

憶う昔 霓旌 南苑に下り

苑中 万物 顔色を生ぜしを

昭陽殿裡 第一の人

輦を同じくし君に随つて君側に侍す

輦前の才人 弓箭を帯び

白馬嚼齧す 黄金の勒

身を翻し天に向つて 仰いで雲を射れば

一笑 正に墜す 双飛翼

明眸皓齒 今何くにか在る

血汚れて遊魂 歸り得ず

清渭 東流し 劍閣深し

去住 彼此 消息無し

人生有情 涙 臆を沾す

江頭に哀しむ



江水江花豈終極

江水江花豈に終に極らんや

黄昏胡騎塵滿城

黄昏胡騎塵城に満つ

欲往城南望城北

城南に往かんと欲して 城北を望む

## 【語釈】

江頭：曲江の畔。少陵：杜甫の住んでいたところの名。野老：田舎の老人。少陵野老：杜甫の号。呑聲：悲しみのあまり、声が出ない。春日：現実ののどかな春を。潜行：こっそりと行く。曲江：長安中心部より東南東数キロのところにある池の名。曲：くま。池の湾曲した部分をいう。江頭：曲江の畔。宮殿：紫雲楼を謂う。鎖：閉ざす。千門：全ての門。多くの門。細柳：若葉が出たばかりで、枝が細く見えるヤナギ。新蒲：初々しい緑色をしたガマ。憶昔：開元の治、天寶の平安な時代を思い起こす。霓旌：虹色の旗。鳥の羽を五色に染め、それを綴って虹を象（かたど）って作った五色旗。天子の儀式や行列に掲げる。下：行幸する。南苑：曲江の南にあった庭園。芙蓉苑のこと。苑中：御苑の。萬物：あらゆるもの。生顏色：生き生きとし出す。元氣を出す。昭陽殿：漢の成帝の建てた宮殿で、皇后の趙飛燕とその妹が住んでいた。ここでは、玄宗の宮殿で、楊貴妃が住んでいた宮殿を指す。第一人：ここでは、楊貴妃を指す。同輦：天子の輦に同乗する。非常な寵愛を賜っている女性をいう。輦：天子の乗り物で手で引く車。君側：君は楊貴妃で、楊貴妃のそば。輦前：天子の乗り物の前に（供奉している）。才人：女官の位。帶：携える。弓箭：弓と矢。弓矢。嚼齧：歯でかむ。勒：くつわ。翻身：身を翻（ひる）がえす。正：ちやうど。雙飛翼：つがいになって翼を並べて飛ぶ鳥。明眸：めいぼう、美しく澄んだ瞳。皓齒：白い歯。美人の表現。遊魂：さすらっている魂。清渭：清らかに澄んだ渭水。劍閣：劍門関。去住：去る者と留まる者、死別をいう。彼此：あちらとこちら。お互いに。蜀の玄宗と、馬嵬の楊貴妃の魂。消息：音信、たより。消長。消えることと生じること。ここでは心のやり取りという意味である。有情：感情の働きがある。霑：うるおす。臆：思い。考え。江草 川辺に生えている草。江花：川辺の花。豈：どうして：なのだろうか。終極：尽きはてる。最後に極まる。物事の最後になる。究極となる。黄昏：夕方の薄暗い時。夕闇の迫るさま。薄暮の薄暗さをいう。たそがれ時。夕暮れ。胡騎：安祿山の軍勢。安祿山は突厥、ソグドの混血児で、その軍勢も、ソグド、突厥、奚、契丹：と、多くの西北異民族が関わっている。塵：戦塵。城：長安の街。城南：長安城の南側、少陵の近くになる。城北：肅宗がいた長安城の北方にある靈武。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

悲青

青阪を悲しむ

杜甫

我軍青阪在東門

我軍青阪東門に在り

天寒飲馬太白窟

天寒く馬に飲う 太白の窟

黃頭奚兒日向西

黃頭の奚兒 日に西に向かい

數騎彎弓敢馳突

數騎 弓を彎いて 敢て馳突す

山雪河冰野蕭瑟

山雪 河冰 野は蕭瑟

青是烽煙白人骨

青は是れ 烽煙 白は人骨

焉得附書與我軍

焉ぞ得ん 書を附して我が軍に与え

忍待明年莫倉卒

忍んで明年を待て 倉卒なる莫かれと

【語釈】

青坂：咸陽の東門外にある地。東門：咸陽城の東の門。飲馬：馬に水をのませること。太白窟：太白山の窟。黃頭奚兒：頭を黄色い布で包んだ奚（異民族）と児（漢民族）の兵士（安祿山軍）。向西：洛陽から長安に咸陽に向かつて。馳突：突撃する。蕭瑟：風が吹いて物寂しい様。烽煙：のろし火。焉得：なんとかしてくしたいものだ。倉卒：あわてること。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

送鄭十八虔貶台州司戶傷其臨老陷賊之故闕爲面別情見於詩

鄭十八虔の台州司戸に貶せらるを送る、其の老に臨み賊に陥いるの故を傷み、面別を爲すを闕く、情は詩に見わる

鄭公樽散餐成絲

鄭公樽散にして餐糸を成し

酒後常稱老畫師

酒後常に稱す老画師と

萬里傷心嚴謹日

万里心を傷ましむ嚴講の日

百年垂死中興時

百年死に垂とす中興の時

蒼惶已就長途往

蒼惶として已に就く長途の往

邂逅無端出餞遲

邂逅端無く出餞遅し

便與先生應永訣

便い先生と応に永訣するべきも

九重泉路盡交期

九重の泉路 交期を尽くす

【語釈】

鄭十八虔：鄭虔、十八は排行。貶：罪により官をおとされる。台州司戸：台州は今の浙江省台州府、司戸は司戸參軍。臨老陷賊：老年になつて賊軍の中へおちこみその偽官を受けた事。故：事のわけをいう。面別：直接対面して別れをする。樽散：老朽無用の地にあることをいう。成糸：白髪のはつれたさまをいう。老画師：鄭虔は詩書画を善くし玄宗に三絶とはめられたほどの人。万里：浙江の台州までは遠く数千里、千里を超えたものは万里である。傷心：杜甫自身が心をいためること。嚴謹日：厳しい御叱りを受けた時。百年：人の一生涯をいう。垂死：鄭虔が年を取り、その上罪となつたため、生きる意欲がなく死にちかづきつつあること。中興時：肅宗が叛乱軍を逐いはらい、帝都をとりもどされた時節。蒼惶：あわただしいさま。長途往：長い旅程へとでかける。邂逅：出会うこと。無端：無由とおなじ。出餞遅：みおくるには時間がおそすぎたこと。便：仮定の助辞、たとえであつたとしても。先生：鄭虔をさす。応永訣：応の字は推量の辞、永訣は死にわかれをいう。九重泉路：幾層もの泉下、冥途をいう。交期：交情の約束をする場所であることをいう。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

乾元中寓居同谷県作歌其五

乾元中同谷県に寓居し作る歌 其の五

四山多風溪水急

四山風多くして 溪水急なり

寒雨颯颯枯樹濕

寒雨 颯々として 枯樹湿う

黄蒿古城雲不開

黄蒿の古城 雲開けず

白狐跳梁黄狐立

白狐は跳梁し 黄狐は立つ

我生何爲在窮谷

我が生 何為れぞ 窮谷に在る

中夜起坐萬感集

中夜起坐して 万感集まる

嗚呼五歌兮歌正長

嗚呼 五歌す 歌正に長し

魂招不來歸故郷

魂招けども来たららず 故郷に帰らん

【語釈】

四山：四方の山。四山は自分の立ち位置を考慮すると五になる五行思想の数値の考えである。颯颯：風がさつと吹くさま。蒿：よもぎ。古城：成（同谷）県城。跳梁 はねくりまわる。窮谷：ゆきつまつた谷、同谷の地をいう。起坐：起き上がって座る。五歌：第五の歌。  
魂招：魂を招くこと、楚辞の「招魂」による。

（新釈漢文大系 詩人編 （上））

★唐 杜甫

秦州雜詩其二十

秦州雜詩 其二十

唐堯真自聖

唐堯真とうやうしんに自おのら聖ずかなり

野老復何知

野老復やらふた何なにか知しらん

曬藥能無婦

藥いすいを曬よすに能よく婦よ無なからんや

應門幸有兒

門かどに應こたざるに幸しに兒こ有り

藏書聞禹穴

書かきを藏かくしては禹う穴けつを聞きき

讀記憶仇池

記きを讀よみては仇きゅう池ちを憶おもう

爲報駕行舊

爲ために報へんず駕か行ぎょうの旧きゅうに

鷓鴣在一枝

鷓鴣しよらうは一枝いっしに在ありと

【語釈】

唐堯：三皇五帝の堯のこと、現肅宗を比喻している。夜郎：自分のこと、杜甫の号。何知：堯の意向など知るべくもない。曬藥：薬草を日に干す。應門：門で来客に対応する。禹穴：浙江省紹興市の会稽山にある洞窟。禹が皇帝になった後、ここで病死してしまったため、会稽山の麓に埋葬した、書が埋蔵されているという。仇池：甘肅省成県にある山の名、古来より神仙の住む聖地の一つとして名高い。駕行旧：朝廷に居る旧友をいう、駕行は駕鸞の行、朝廷に入る時の様子で文官の行列のことをいう。鷓鴣：小さい鳥のこと、わずかの欲望しか持たないことの喩につかわれる。一枝 『莊子、逍遙遊篇』

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

絶句二首其一

絶句二首 其の一

遲日江山麗

遲日 江山麗わしく

春風花草香

春風 花草香し

泥融飛燕子

泥融けて 燕子飛び

沙暖睡鴛鴦

沙暖かくして 鴛鴦睡る

【語釈】

遲日：春の日、春は日が長く、なかなか日が暮れないのでこのようにいう。江  
山：川と山。江：杜甫草堂のすぐ近くを流れる浣花溪（錦江の支流）。花草：  
花と草。泥融：凍りついていた泥が春の日差しで融ける。燕子：つばめ。沙  
：川辺の砂。鴛鴦：オシドリ。「鴛」は雄、「鴦」雌。

（漢詩大系 9）

★唐 杜甫

絶句二首其二

絶句二首 其の二

江碧鳥逾白

江碧にして 鳥逾白く

山青花欲然

山青くして 花然えんと欲す

今春看又過

今春 看又過ぐ

何日是歸年

何れの日か 是れ歸年ならん

【語釈】

碧：みどりいろ、エメラルドグリーン。逾：いよいよ。然：もえる。：燃。紅い  
花が恰も焰をあげて燃え出すかのように、強烈に咲いているさま。看：みるみる  
うちに。歸年：郷里に帰る年。

（唐詩選）

★唐 杜甫

絶句

絶句

江邊踏青罷

江邊 青を踏むを罷め

迴首見旌旗

首を迴らして 旌旗を見る

風起春城暮

風起りて 春城暮れ

高樓鼓角悲

高樓 鼓角悲し

【語釈】

踏青：春、野外に若草を踏んで散歩するのが習わしで有った。旌旗：軍隊の旗指物。鼓角：騒乱を知らせる太鼓と角笛。

（杜甫全詩訳注 二）

★唐 杜甫

望嶽

岳を望む

岱宗夫如何

たいそう 夫れ如何

齊魯青未了

せいろう 青未だ了きず

造化鍾神秀

ぞうか 神秀を鍾め

陰陽割昏曉

いんぎよう 昏曉を割く

盪胸生層雲

胸を盪かして 層雲生じ

決皆入歸鳥

皆を決して 帰鳥入る

會當凌絕頂

かなら 當に絶頂を凌ぎ

一覽衆山小

衆山の小なるを一覽すべし

【語釈】

岱宗…泰山。夫…いつたい。如何…どのようであるか。齊魯…山東省東北部から西部。青…ここでは、青々とした山の緑のこと。未了…いまだ尽きることがない。まだ終わらない。造化…万物を造り出して育てるもの、造物主。鍾…あつめる。神秀…不思議に気高くひいである。陰陽…山の北側と南側のこと。切り分ける。昏曉…夕方と明け方。盪…突く、動かす。會雲…幾重にも重なった雲。決皆…目を大きく見ひらく。歸鳥…ねぐらに帰る鳥。會當…きつとくしよう。凌…しのぐ。絶頂…山の頂上。衆山…もろもろの山。

(新釈漢文大系 詩人編 )



★唐 杜甫

春日憶李白

春日李白を憶う

白也詩無敵

白や詩に敵無し

飄然思不羣

飄然ひょうぜんとして 思いは群ならず

清新庾開府

清新なるは 庾開府ゆかいふ

俊逸鮑參軍

俊逸なるは 鮑參軍ほうさんぐん

渭北春天樹

渭北 春天の樹

江東日暮雲

江東 日暮の雲

何時一尊酒

何れの時か 一尊いっそんの酒もて

重與細論文

重ねて与あたに 細やかに文を論ぜん

【語釈】

飄然：俗事にこだわらないさま。思不羣：詩の着想が非凡。清新：新しい趣。庾開府：庾信のこと。南北朝時代の文学者、開府は、地方長官の総督・巡撫などのこと。俊逸：才気がほとばしるような闊達さ。鮑參軍：鮑照のこと。南朝の宋の文学者、參軍は刺史の属官で、事務長にあたる。渭北：杜甫のいる長安一帯。江東：長江の下流、安徽省東南部・江浙省一帯、李白のいるところ。

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫 （上））

★唐 杜甫

冬日有懷李白

冬日李白を懷う有り

寂寞書齋裏

寂寞せきばくたり 書齋うちの裏

終朝獨爾思

終朝しゅうちよう ひとり なんじ 爾を思しう

更尋嘉樹傳

更に尋かじゆぬ 嘉樹の伝

不忘角弓詩

忘れず 角弓の詩

短褐風霜入

短褐たんかっ 風霜に入り

還丹日月遲

還丹かんだん 日月遅し

未因乘興去

未だ 興きように乗じて去じようくに因よしあらず

空有鹿門期

空しく 鹿門の期有り

【語釈】

寂寞：世間から離れて寂しいさま。終朝：朝の時間が終わるまで。嘉樹傳：『左傳』昭公二年の故事による。角弓詩：李白から贈られた詩。短褐：粗末で目の粗い衣服、貧者の衣服。還丹：仙人になれるという仙薬、『抱朴子』金丹傳。日月遲：手に入れるのに時間がかかる。未因乘興去：李白の所へまだ赴く機会が無いこと、『世説新語』任誕傳。鹿門：後漢の隱者龐徳公が隱棲した山、山西省襄陽市にある、『後卷書』逸民傳。期：約束。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫(上))

★唐 杜甫

贈高式顔

高式顔こうしきがんに贈る

昔別是何處

昔別れしは 是れ何れの処ぞ

相逢皆老夫

相逢えば 皆老夫

故人還寂寞

故人ま還た寂寞せきばく

削跡共艱虞

削跡さくせき 共に艱虞かんぐ

自失論文友

文を論ずる友を失いて自り

空知賣酒壚

空しく知る 売酒の壚ろを

平生飛動意

平生 飛動の意

見爾不能無

爾なんじを見れば 無きこと能わず

【語釈】

高式顔：高適の甥。故人：旧友、式顔をさす。寂寞：さびしい、互いに左遷と、漂泊・轉蓬の旅であり、おちぶれてさびしいさまをいう。削跡：朝廷の入門の名札をそこから削ってなくさせられる、放逐されることをいう。難虞：なんぎ、しんぱい。論文友：高適をいう、失友とは高適が左遷されたこと。賣酒壚：酒屋。平生：常日頃。飛動意：かつは活発にうごきたいとおもうところ。往年の英氣盛んかりしところもちをさす。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

夜宴左氏莊

夜左氏の莊に宴す

風林織月落

風林に織月落ち

衣露靜琴張

いろ 靜琴張る

暗水流花徑

暗水 花徑に流れ

春星帶草堂

春星 草堂を帯ぶ

檢書燒燭短

書を檢ずれば燭を燒きて短く

看劍引杯長

劍を看れば杯を引いて長し

詩罷聞吳詠

詩罷んで 吳詠を聞き

扁舟意不忘

扁舟 意 忘れず

【語釈】

風林：風のわたる林。織月：細くなつた月。衣露：衣上におりた露。淨琴：穢れのない綺麗な琴の調。張：琴の弦をはる。暗水：くらがりの水。花徑：花のさいている小徑。帶：とりかこむこと。檢書：書物を調べる。引：口もとへひきよせること。長：時間が長いこと。詩罷：席上で詩をつくりおわること。吳詠：江南の音調で詩をうたうこと。扁舟：小さくひらべたい舟。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

陪鄭廣文遊何將軍山林其五

鄭広文に陪して何將軍の山林に遊ぶ其の五

剩水滄江破

剩水 滄江破れ

殘山礪石開

殘山 礪石開く

綠垂風折筍

緑は垂る 風に折らるる筍

紅綻雨肥梅

紅は綻ぶ 雨に肥ゆる梅

銀甲彈箏用

銀甲 琴を弾くに用い

金魚換酒來

金魚 酒に換え來たる

興移無灑埽

興移りて 灑埽無く

隨意坐莓苔

随意に莓苔に坐す

【語釈】

剩水：余った水。滄江：青青とした川。殘山：残った山。礪石：礪石山、渤海灣岸の岩山。銀甲：琴を弾くとき指にはめる爪。灑埽：洗ったり掃いたりして家を清めること、賓客を接待するため。莓苔：こけ。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

春望

春望

國破山河在

國破れて 山河在り

城春草木深

城春にして 草木深し

感時花濺淚

時に感じては 花にも涙を濺そそぎ

恨別鳥驚心

別れを恨んでは 鳥にも心を驚かす

烽火連三月

烽火ほうか 三月さんげつに連なり

家書抵萬金

家書 萬金に抵る

白頭搔更短

白頭搔かげば 更に短かく

渾欲不勝簪

渾すべて 簪しんに勝かえざらんと欲す

【語釈】

国…：国都長安。破…：（戦乱により）破壊される。山河…：山や川など、自然の佇たたずまい。驚…：はつと驚く。烽火…：合図ののろし、ここでは戦乱のたとえ。三月…：何ヶ月も。連…：続いている。家書…：家族からの手紙。萬金…：非常に多額の金銭。貴重なこと。抵…：相当する。白頭…：しらが頭。搔…：髪をかきむしる。短…：少なくなる。渾…：すべて。まったく。簪…：冠を髪に止めるピン。不勝…：しきれない。…：ししようとする。

（唐詩三百首）

（杜甫全訳注）

★唐 杜甫

月夜

月夜

今夜鄜州月

今夜 鄜州の月

閨中只獨看

閨中 只だ独り看るならん

遙憐小兒女

遙かに憐れむ 小兒女の

未解憶長安

未だ 長安を憶うすら 解せざるを

香霧雲鬢濕

香霧に 雲鬢湿おい

清輝玉臂寒

清輝に 玉臂寒からん

何時倚虛幌

何れの時か 虚幌に倚り

雙照淚痕乾

双び照らされ 淚痕 乾かん

【語釈】

鄜州：今の陝西省富県。長安のはるか北方にあり、杜甫の妻子が疎開していた所。閨中：妻の寢室を指す。遙憐：遠くからいとおしく思うのは。香霧：香り高い霧。雲鬢：雲のように豊かでふわっとした美しい。湿：しつとりと湿る。清輝：清らかな光。月光のこと。玉臂：玉のようになめらかなで美しい腕。清輝：清らかな光。月光のこと。玉臂：玉のようになめらかなで美しい腕。双照：夫婦二人で並んで、月光に照らされて。淚痕乾：涙のあとを乾かすことができるのだろう。

(唐詩三百首) (新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

奉贈嚴八閣老

嚴八閣老に贈り奉つる  
げんはちかくろう

扈聖登黃閣

聖に扈して黃閣に登り

明公獨妙年

明公 独り妙年なり

蛟龍得雲雨

蛟龍 雲雨を得  
こうりゅう

鵬鵬在秋天

鵬鵬 秋天に在り  
ちようがく

客禮容疎放

客禮 疎放を容れ  
かくれい

官曹可接聯

官曹 接聯すべし  
かんそう

新詩句句好

新詩 句々好し

應任老夫傳

將に老夫が伝うるに任すべし

【語釈】

嚴八閣老：嚴武のこと、当時、門下省の給仕中という要職にあった。杜甫も門下省の左拾遺であったので「閣老」と呼んだ。扈：お供をする。黃閣：門下省の異称。明公：嚴武のこと。妙年：年若いこと（32歳）。蛟龍：伝説上の蛟の一種。鵬鵬：クマタカ。客禮：（目下の杜甫に）客としての礼を尽くすこと。疎放：粗雑（謙遜）。官曹：役所の部屋。接聯繫がついている。老夫：杜甫のこと（46歳）。

（杜甫全詩訳注 ㄥ）



★唐 杜甫

秦州雜詩其四

秦州雜詩其四

鼓角緣邊郡

鼓角 緣邊の郡

川原欲夜時

川原 夜ならんと欲する時

秋聽殷地發

秋に聴けば 地に殷に發り

風散入雲悲

風に散じて 雲に入り 悲しむ

抱葉寒蟬靜

葉を抱ける 寒蟬は靜かに

歸山獨鳥遲

山に帰る 獨鳥は遲し

萬方聲一概

萬方 声 一概

吾道竟何之

吾が道 竟に何くにか之かん

【語釈】

鼓角：陣中で時を知らせるなどの合図に用いる、つづみとつのぶえ。縁邊：国境の近く。・郡：古代の行政区劃で、国の下に置かれる区劃。川原：平原、広野。・殷：音声の響くさま。・發：鼓角の声がおこる。寒蟬：ひぐらし、鳴かない蟬。・萬方：四方の国々。一概：一樣。・吾道：わたしの採るべき儒者の道。竟：けつさよく。

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫（上））

★唐 杜甫

秦州雜詩其十六

秦州雜詩 其の十六

東柯好崖谷

東柯は好き崖谷にして

不与衆峰群

衆峰と群せず

落日邀双鳥

落日は双鳥を邀え

晴天養片雲

晴天は片雲を養う

野人衿險絶

野人は險絶なるを衿り

水竹会平分

水竹は会く平分す

採藥吾将老

薬を採りて吾は将に老いとす

兒童未遣聞

兒童には未だ聞か遣めず

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

復愁其三

復た愁う 其の三

萬國尚戎馬

万国尚お戎馬じゅうば

故園今若何

故園今若何いかん

昔歸相識少

昔歸るに相識少くそうしき

早已戰場多

早くも已に戰場多かりき

【語釈】

万国：すべての国々で。天下いたるところ。尚：今なお。戎馬：戦乱。故園故郷、洛陽の旧居を指す。若何：どうなっているだろうか。相識：顔見知りの人。少：ほとんどない。早已：その時すでに。

「唐詩選」（杜甫全詩訳注）

★唐 杜甫

初月

初月はつつき

光細弦欲上

光細くして弦げん上らんと欲す

影斜輪未安

影斜にして輪りん未だ安やすからず

微升古塞外

微かすかに升のぼる古塞こさいの外ほか

已隱暮雲端

已かくに隠る暮雲ぼうんの端はし

河漢不改色

河漢かかん色を改めず

關山空自寒

關山かんざん空しく自ら寒し

庭前有白露

庭前ていぜん白露はくろ有り

暗滿菊花團

暗あんに菊花きくかに満ちて団まろやかなり

【語釈】

初月…三日月。陰曆八月三日の月を指すこともある。弦…月の弦形。輪…三日月の底辺の円弧。升…のぼる。○古塞 古くからある秦州の塞。河漢…あまのがわ。關山…関所、砦のある山。白露…しらつゆ。團…まるい。

(杜甫詩注 第七刷)

★唐 杜甫

月夜憶舍弟

月夜に舍弟を憶う

戍鼓斷人行

戍鼓 人行 断え

邊秋一雁聲

邊秋 一雁の 声

露從今夜白

露は今夜より白く

月是故鄉明

月は是れ故郷のごとく明らかなり

有弟皆分散

弟有れども 皆分散し

無家問死生

家の死生を問うべき無し

寄書長不達

書を寄するも 長く達せず

況乃未休兵

況んや 乃ち 未だ兵を休めざるをや

【語釈】

戍鼓：番兵らのならすつづみ。人行：ひとどおり。邊秋：国境辺地の秋。従：…から。是：…である。有弟…このとき杜甫の弟一人は陽雀にあり、一人は濟州に在ったという。四人の弟は穎・觀・占・豊の異母弟。家…家族。況…まして。乃…それなのにもまた。

(新釈漢文大系 詩人編 杜甫 (上))

★唐 杜甫

春夜喜雨

春夜雨を喜ぶ

好雨知時節

好雨 時節を知り

當春乃發生

春に當つて 乃ち發生す

隨風潛入夜

風に從つて 潜かに夜に入り

潤物細無聲

物を潤して 細やかに声無し

野徑雲俱黑

野徑 雲と俱に黒く

江船火獨明

江船 火独り明かなり

曉看紅濕處

曉に 紅の濕處を看れば

花重錦官城

花は 錦官城に重からん

【語釈】

當春：春になる。乃：そこで。發生：春に万物が生じること。入夜：夜になる、夜まで降り続く。野徑：野の小徑。江船：江上の船。

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

後遊

後遊

寺憶曾遊處

寺は憶ゆ曾て遊びし処

橋憐再渡時

橋は憐れむ再渡の時

江山如有待

江山待つこと有るが如く

花柳更無私

花柳私無きことを更にす

野潤煙光簿

野潤いて煙光薄く

沙暄日色遲

沙暄にして日色遅し

客愁全為減

客愁 全く為に減じ

捨此復何之

此れを捨てて復た何くにか之かん

【語釈】

後遊：前に修覚寺（新潟県治の東南の修覚山にある寺）で遊び、再び遊びに来たこと。江山：川と山。花柳：花と柳。煙光：霞んだ柔らかな光。暄：あたたかい。日色：太陽の光。日色遅：日の当たる時間が長くなること

（杜甫全詩訳注）

★唐 杜甫

草堂即事

草堂即事

荒村建子月

荒村 建子けんしの月

獨樹老夫家

獨樹 老夫の家

霧裏江船渡

霧裏むり 江船渡り

風前徑竹斜

風前 徑竹けいちく斜めなり

寒魚依密藻

寒魚みつせう 密藻よに依り

宿鷺起圓沙

宿鷺しゆくろ 圓沙えんさに起る

蜀酒禁愁得

蜀酒 愁いを禁ずるを得るも

無錢何處賒

無錢 何處おまのにか賒らん

【語釈】

荒村：荒れ果てた村。建子月：11月、肅宗上弦元年の歳の始め。老夫：杜甫自身。霧裏：霧の中。江船：川船。徑竹：竹林の中の小径。宿鷺：州に宿る鷺。圓沙：丸い砂浜。賒：付けで買うこと。

(杜甫詩注九編)



★唐 杜甫

江亭

江亭

坦腹江亭暖

坦腹す 江亭の暖かなるに

長吟野望時

長吟す 野望の時

水流心不競

水の流れて 心競わず

雲在意俱遲

雲在りて 意俱に遅し

寂寂春將晚

寂々として 春將に晚れんとし

欣欣物自私

欣欣として 物自ら私す

故林歸未得

故林 帰ること未だ得ず

排悶強裁詩

悶を排して 強く詩を裁す

【語釈】

江亭：川辺のあずまや。成都の草堂の庭先にあつた。坦腹：寝転ぶ。腹ばいになる。長吟：声を長くひいて詩を歌う。野望：田野の眺め。意：心。思い。俱：ともに。寂寂：ものさびしいさま、静かなさま。晚：暮れる。欣欣：草木の生き生きしているさま。よろこぶさま。物自私：自然界の万物はそれぞれ、時（と所）を得る意。故林：昔馴染みの林、ふるさと。排悶：うさばらし。強：無理に。裁詩：詩を作る。

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫 （上））

★唐 杜甫

江漢

江漢

江漢思歸客

江漢 帰るを思ふ

乾坤一腐儒

乾坤 一腐儒

片雲天共遠

片雲 天は共に遠く

永夜月同弧

永夜 月は同じく弧なり

落日心猶壯

落日 心は猶お壯んに

秋風病欲蘇

秋風 病は蘇えらんと欲す

古來存老馬

古來 老馬を存するは

不必取長途

必ずしも長途に取らず

【語釈】

江漢：長江と漢水、及びその地方。乾坤：天と地。腐儒：役に立たない学者。片雲：浮き雲、ちぎれ雲。永夜：長い夜。長途：長旅。取：採用する。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

落日

落日

落日在簾鉤

落日 簾鉤に在り

溪邊春事幽

溪邊 春事幽なり

芳菲緣岸圃

芳菲なり 岸に緣る圃

樵爨倚灘舟

樵爨す 灘に倚る舟

啁雀爭枝墜

啁雀 枝を争いて墜ち

飛蟲滿院遊

飛虫院に 満ちて遊ぶ

濁醪誰造汝

濁醪誰 か汝を造れる

一酌散千愁

一酌 千愁を散ぜしむ

【語釈】

簾鉤…すだれとそれを掛ける留め金。春事…春の景色。幽…物静かで奥深い様。  
芳菲…花の良い匂い。圃…畑。樵爨…薪を燃やして飯を炊く。啁雀…さえずる雀。  
院…庭。濁醪…どぶろく。千愁…多くの愁い

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

漫成二首 其二

漫成二首 其二

江臯已仲春

江臯 已に仲春

花下復清晨

花下 復た清晨

仰面貪看鳥

面を仰け 貪りて鳥を看

回頭錯應人

頭を回して 錯りて人に応う

讀書難字過

書を読み 字を難しとして過ぎ

對酒滿壺頻

酒に対して 壺を満たすこと頻りなり

近識峨眉老

近く識る 峨眉の老

知予嬾是真

予が嬾は 是れ真なるを知る

【語釈】

江臯…川ぞいの土手。仲春…旧暦二月、春の盛り。清晨…清らかな朝。嬾…ものぐさ。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

可惜

惜むべし

花飛有底急

花の飛ぶこと底の急か有る

老去願春遲

老い去つては春の遅きことを願う

可惜歡娛地

惜しむべし歡娛の地

都非少壯時

都て少壯の時に非ず

寬心應是酒

心を寬うするは應に是れ酒なるべし

遣興莫過詩

興を遣るは詩に過ぐるは莫し

此意陶潛解

此の意陶潛解す

吾生後汝期

吾が生汝が期に後たれり

【語釈】

可惜：惜しい、遺憾である。底：何、どんな、なんぞ。急：あわてる。老去：老いてしまう。春遲：春の過ぎゆくのがのろのろと遅い。可惜：惜しいことだ。歡娛：歡樂。都非：すっかり：ではない。都：すべて。少壯時：若い時。寬心：心をくつろげる。應是：…だと思ふ。應：…だと思ふ。遣興：詩歌を作つたりして憂さを晴らす。莫：打ち消し。過：すぎる。此意：この思い。この感情。陶潛：東晋の隱逸詩人、陶淵明。吾生：わたしが生まれた。後：おくれる。汝期：あなた（生きていた）時。

(杜甫詩注)

★唐 杜甫

送遠

遠を送るとほをくる

帶甲滿天地

帶甲たいこう 天地に満つ

胡爲君遠行

胡爲なんすれせ 君遠くに行くや

親朋盡一哭

親朋しんぽう 尽く一哭いつく

鞍馬去孤城

鞍馬あんば 孤り城を去る

草木歲月晚

草木さく 歲月さいげつ 晩れ

關河霜雪清

關河せきが 霜雪そうせつ 清し

別離已昨日

別離べつり 已に昨日おとけつ

因見古人情

因よて見る 古人こじんの情

【語釈】

送遠：遠く旅立つ人を送る。帶甲：甲冑を着けた兵士。胡為：どうして。親朋：親戚と友人。一哭：ひとしきり声をあげて泣くこと。鞍馬：くらをつけた馬。孤城：孤立した町。関河：関所と川。別離已昨日：江淹「古別離」詩（送君如昨日、簷前露已團）をふまえる。因：よって。古人：江淹のこと

（注）江淹：中国南北朝時代の文学者。字は文通。本貫は済陽郡考城県（現在の河南省商丘市民権県）。門閥重視の貴族社会であった六朝時代において、寒門の出身でありながら、その文才と時局を的確に見定める能力によって、高位に上りつめ生涯を終えた。

（唐詩選）（杜甫詩全詩訳注）

★唐 杜甫

憶第二首其二

弟を憶う二首其二

且喜河南定

且しばらくくは喜ぶ 河南の定まるを

不問鄴城圍

問わず 鄴城ぎょうじょうの困かこみ

百戰今誰在

百戰今誰たれかたれ在る

三年望汝歸

三年、汝の帰るを望む

故園花自發

故園花 自おのずからひら發ひらき

春日鳥還飛

春日鳥 還また飛まぶ

斷絶人煙久

断絶 人煙久し

東西消息稀

東西 消息稀なり

【語釈】

河南定：洛陽が安祿山軍から奪回されたこと。鄴城圍：九節度が鄴城を包圍していること。故園：故郷。東西：東は済州、西は洛陽。消息：便り。

(杜甫詩全訳注)

★唐 杜甫

倦夜

けんや

竹涼侵臥内

竹涼 臥内を侵し

野月滿庭隅

野月 庭隅に満つ

重露成涓滴

重露 涓滴を成し

稀星乍有無

稀星 乍ちに有無

暗飛螢自照

暗きに飛んで 螢は自らを照らし

水宿鳥相呼

水に宿りて 鳥は相呼ぶ

萬事干戈裏

萬事 干戈の裏

空悲清夜徂

空しく悲しむ清夜の徂くを

【語釈】

倦夜：嫌気がさす夜。竹涼：竹林の涼気。臥内：寢床の中。野月：野原に昇った月（の光）。涓滴：小さな粒状の水滴。乍有無：見えたかと思うとすぐ消える。干戈：戦乱。徂：行く。

（杜甫全詩訳注）



★唐 杜甫

奉濟驛重送嚴公四韻

奉濟驛に重ねて嚴公を送る 四韻

遠送從此別

遠く送りて 此從り別る

青山空復情

青山空しく 復た情あり

幾時栢重把

幾時か栢を重ねて把らん

昨夜月同行

昨夜は月も同行す

列郡謳歌惜

列郡 謳歌を惜しみ

三朝出入榮

三朝 出入榮ゆ

江村獨歸處

江村 独り帰る處

寂寞養殘生

寂寞として 殘生を養わん

【語釈】

奉濟驛…成都の近くの宿場。嚴公…杜甫の援護者であつた嚴武。栢…さかざき。  
列郡…西川・東川の地方。謳歌惜…嚴武の政治上の功績を惜しみ讃える。三朝…  
玄宗、肅宗、代宗の三代。出入榮…成都と長安を往来する毎に榮達する。江村…  
川辺の村。寂寞…ひっそりとして  
物寂しい様。殘生…余生

(杜甫詩注)

★唐 杜甫

春日江村五首 其一

春日江村五首 其一

農務村村急

農務 村々急に

春流岸岸深

春流 岸々深し

乾坤萬里眼

乾坤 万里の眼

時序百年心

時序 百年の心

茅屋還堪賦

茅屋 還た賦するに堪え

桃源自可尋

桃源 自ら尋ぬ可し

艱難味生理

艱難 生理に味く

飄泊到如今

飄泊 如今に到る

【語釈】

農務：農作業。乾坤：天と地。萬里眼：万里に眼を放つ、錦江を見渡す。時序：四季。百年：人間の一生。百年心：春に会って人生の時を極めることに感慨を催す。桃源：桃源郷、ここでは浣花溪。艱難：苦しみ悩むこと。生理：生計。飄泊：…さすらい。如今：現在。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

中宵

ちゆうしやう

西閣百尋餘

さいかく ひやくじんよ  
西閣 百尋余

中宵步綺疏

ちゆうしやう きそを歩く  
中宵に 綺疏を歩く

飛星過水白

ひせい 過ぎて 水は白く

落月動沙虛

らくげつ 動きて 沙は虚なり

擇木知幽鳥

たくぼく ゆうちやうを知り  
擇木は 幽鳥を知り

潛波想巨魚

せんば 巨魚を想う  
潛波は 巨魚を想う

親朋滿天地

しんぽう 天地に満つれども  
親朋 天地に満つれども

兵甲少來書

へいこう 来書少し  
兵甲 来書少し

【語釈】

中宵：よなか、夜半。西閣：夔州寓居の西閣。西閣：杜甫の仮住まい、夔州（重慶市奉節県）にあつた楼閣。百尋：尋は八尺、18m。綺疏：あやぎぬの如くすかし彫りにした格子窓。飛星：流れ星。親朋：親戚と友達。擇木：木の名、擇棘。幽鳥：奥深い処に住む鳥。潛波：静まっている波。兵甲：兵乱。

（杜甫全詩訳注）

★唐 杜甫

日暮

ひちぼ

牛羊下來久

ぎやうようくた  
牛羊 下り来たること久し

各已閉柴門

おのおの  
各 已に柴門を閉ず

風月自清夜

ふうげつ  
風月は 自ら清夜なるも

江山非故園

こうざん  
江山は 故園に非ず

石泉流暗壁

せきせん  
石泉は 暗壁に流れ

草露滴秋根

そうろ  
草露は 秋根に滴る

頭白燈明裏

かしら  
頭は白し 灯明の裏

何須花燼繁

もち  
何ぞ須いん 花燼の繁きを

【語釈】

牛羊…牛と羊。柴門…柴を結わえて作った粗末な門。自…自然と。江山…川と山。故園…ふるさと。石泉…石の上をほとぼしる泉の水。草露…草津湯。秋根…秋の草の根。頭白 暗い中で照明が当たると、白は白に、黒も白に見えるので、真つ白に見える。花燼…灯芯がパチパチと燃えてはじけること。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

晴二首其一

晴二首其一

久雨巫山暗

久雨 巫山暗し

新晴錦繡文

新たに晴れ 錦繡の文あり

碧知湖外草

碧は知る 湖外の草

紅見海東雲

紅は見る 海東の雲

竟日鶯相和

竟日 鶯 相和し

摩霄鶴數羣

摩霄 鶴 数しば群す

野花乾更落

野花 乾いて更に落ち

風處急紛紛

風處 急にして紛々たり

【語釈】

久雨…長雨。巫山…山西省と湖北省の境にある山。錦繡…美しい絹織物。文…線上の模様。竟日…一日中。摩霄…中天。風處…風の吹くところ。紛紛…乱れ散る様。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

秋野五首 其二

秋野五首 其二

易識浮生理

識り易し 浮生の

難教一物違

一物をして違わしめ難し

水深魚極樂

水深くして魚は樂しみを極め

林茂鳥知歸

林茂りて鳥は歸るを知る

衰老甘貧病

衰老 貧病に甘んず

榮華有是非

榮華には是非有り

秋風吹几杖

秋風 几杖を吹く

不厭北山薇

厭わず 北山の薇

【語釈】

秋野：秋の野。浮生：定めなく、はかない世の中。理：ことわり。衰老：老い衰えること。貧病：貧乏で病がちなこと。几杖：脇息と杖。

(杜甫詩選

黒川洋一編 岩波文庫)

★唐 杜甫

旅夜書懷

旅夜懷いを書す

細草微風岸

細草 微風の岸

危檣獨夜舟

危檣 獨夜の舟

星垂平野闊

星垂れて 平野闊く

月湧大江流

月湧いて 大江流る

名豈文章著

名は豈 文章にて著われんや

官應老病休

官は心に 老病にて休むべし

飄飄何所似

飄々 何の似たる所ぞ

天地一沙鷗

天地の一沙鷗

【語釈】

旅夜：旅の途中での宿泊。書懷：胸の思いを書きしるす。細草：細い草。微風：そよ風。危檣：高い帆柱。獨夜：ただひとりで自分だけ起きている夜。舟：小船。星垂：地の涯まで星空が見えるさま。闊：（見わたして）幅広である。湧：わき出る。大江：長江。名：名声。豈：どうして：だろうか、疑問・反語の助辞。文章：文学。著：あらわす。官：官職。應：当然：であろう。老病：年をとって病身であること。休：やむ。飄飄：風に吹かれて軽く上がるさま、さまようさま。何所似：何に似ているだろうか。何所！：どこ、どんな、何、後に動詞を附けて、行為の目標または帰着するところをいう。天地：天と地。沙鷗：砂浜にいるカモメ。

（唐詩選）

★唐 杜甫

登岳陽樓

岳陽樓に登る

昔聞洞庭水

昔聞く洞庭の水

今上岳陽樓

今登る岳陽樓

吳楚東南坼

吳楚東南に坼け

乾坤日夜浮

乾坤日夜浮かぶ

親朋無一字

親朋一字無く

老病有孤舟

老病孤舟あり

戎馬關山北

戎馬關山の北

憑軒涕泗流

軒に憑れば涕泗流る

【語釈】

岳陽樓：湖南省岳陽市市街の北西、岳陽城の西城門上の樓閣。昔聞：以前に（言い伝えで）聞いていた。洞庭水：洞庭湖。吳楚：吳楚の地方。東南坼：吳楚の地方は、東南部分が裂けて洞庭湖となったと言う伝説がある。乾坤：天と地。日夜：昼も夜も。浮：水面に影を映して浮かび漂う。親朋：親戚と友人。無一字：一通の手紙も来ない。戎馬：軍馬。兵馬。ここでは戦いを指す。関山：関所のある山。軒：手すり。憑：よりかかる。涕泗：涙、目から出るのが「涕」、鼻から出るのが「泗」。

（唐詩選）



★唐 杜甫

江上

江上

江上日多雨

江上 日ひに 雨多し

蕭蕭荆楚秋

蕭々しょうしょうたり 荆楚けいその秋

高風下木葉

高風 木葉を下し

永夜攬貂裘

永夜えいや 貂裘てんきゆうを攬とる

勳業頻看鏡

勳業 頻りに鏡を看み

行藏獨倚樓

行藏こうざう 独り楼よに倚る

時危思報主

時危くして 主に報いんと思ひ

衰謝不能休

衰謝すいしゃにも 休やむ能あたわず

【語釈】

蕭蕭…ものさびしいさま。荆楚…南方の楚の地。高風…空高く吹き渡る風。貂裘…貂の皮ごころも。攬…手に握る、身にまとう。勳業…てがら。老い到れば勳業を立て得るか、否かを気遣うことをいう。行藏…進んで事を為すこと、退いて隠れること。衰謝…衰えること。休…思いを止む。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

放船

船を放つ

送客蒼溪縣

客を送る 蒼溪縣

山寒雨不開

山は寒く 雨開かず

直愁騎馬滑

直ちに愁う 騎馬の滑るを

故作泛舟迴

故に作す 舟を泛かべて廻るを

青惜峰巒過

青には 峰巒の過ぎるを惜しみ

黃知橘柚來

黄には 橘柚の來たるを知る

江流大自在

江流は 大だ自在なり

坐穩興悠哉

坐穩やかにして 興悠なる哉

【語釈】

蒼溪縣：四川省广元市蒼溪県。峰巒：つらなる峰々。橘柚：蜜柑やゆず。坐穩：舟が揺れずに落ち着いているさま。

★唐 杜甫

雨晴

雨晴る

天涯秋雲薄

天涯 秋雲薄し

從西萬里風

西よ從りす 万里の風

今朝好晴景

今朝 好き晴景

久雨不妨農

久雨きゅうう 農を妨げず

塞柳行疎翠

塞柳さいりゅう 疎翠を行へ

山梨結小紅

山梨さんり 小紅を結ぶ

胡笳樓上發

胡笳こか 樓上に発し

一雁入高空

一雁 高空いに入る

【語釈】

天涯：空の果て。萬里風：遠くから吹いてくる風。久雨：長雨。塞柳：塞に植えられた柳。疎翠：枯れ落ちて疎らになった葉。山梨：山梨。胡笳：葦の葉で作った縦笛。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

客亭

かくてい

秋窗猶曙色

秋窓猶お曙色

落木更天風

落木更に天風

日出寒山外

日は出ず 寒山の外

江流宿霧中

江は流る 宿霧の中

聖朝無棄物

聖朝 棄物無く

衰病已成翁

老病 已に翁と成る

多少殘生事

多少 殘生の事

飄零任轉蓬

飄零 轉蓬に任す

【語釈】

客亭：客居している所の亭。曙色：朝焼けの色。・寒山：晩秋にはすでに冠雪しているのでこういう。宿霧：前の晩から消えない霧。聖朝無棄物：「野に遺賢なし」杜甫自身棄てられた存在であるということ。「老子」。多少：いくらか。殘生：余生。飄零：おちぶれてさまよう。轉蓬：風に吹かれて転がっていく枯れ蓬。

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

江亭

江亭

坦腹江亭暖

坦腹す 江亭暖かなるに

長吟野望時

長吟す 野望の時

水流心不競

水は流れて 心は競わず

雲在意俱遲

雲は在りて 意は俱に遅し

寂寂春將晚

寂々として 春將に晚れんとし

欣欣物自私

欣欣として 物自ら私す

故林歸未得

故林 歸ること 未だ得ず

排悶強裁詩

悶を排して 強いて詩を裁す

【語釈】

江亭：川辺のあずまや、成都の草堂の庭先にある。坦腹：腹を平にして仰向けに寝転ぶ。長吟：声を長くひいて詩を歌う。野望：田野の眺め。水流心不競：水の流れるままに心も流れて、水と争うこともない、自然に任せる意。雲在意俱遲：雲がゆったり浮かんでるように、自分の気持ちもゆったりしている意。寂寂：ものさびしいさま、静かなさま。欣欣：よるこぶさま。故林：ふるさとの意。故園。排悶：心の中のもだえを払いのける。裁詩：詩を作る。卍

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

屏跡三首 其二

屏跡三首 其二

用拙存吾道

拙を用って 吾が道を存す

幽居近物情

幽居は物情に近づく

桑麻深雨露

桑麻 雨露に深く

燕雀半生成

燕雀 半ば生成す

村鼓時時急

村鼓 時々急に

漁舟箇箇輕

漁舟 箇々軽ろし

杖藜従白首

藜を杖きて 白首に従かせ

心跡喜雙清

心跡 双つながら清きを喜ぶ

【語釈】

用拙：世わたりがへたなこと。存吾道：自己の主義をたもつ。幽居：隠遁生活。物情：事物の精神、次句以下のこと。半生成：姓名の循環をいう、生まれた物は大きくなり、大きくなった物は子を生む。従白首：白髪が増えるのに任せる。藜：あかぎ。心跡：心と行跡とふたつ。双清：心と行跡とふたつながら清々しい。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

去蜀

蜀を去る

五載客蜀郡

五載 蜀郡に客たり

一年居梓州

一年 梓州に居す

如何關塞阻

如何ぞ 関塞に阻まれ

轉作瀟湘游

轉じて 瀟湘の游を作さん

萬事已黃髮

萬事 已に黃髮

殘生隨白鷗

殘生 白鷗に従わん

安危大臣在

安危には 大臣在り

不必淚長流

必ずしも 涙長えに流さじ

【語釈】

梓州：四川省綿陽市南部。如何：どうして。關塞：関所と要塞。瀟湘：洞庭湖付近。黃髮：紙が黄色くなる。安危：国家の安危。

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

不見

ふけん

不見李生久

李生りせいを見ざること久し

佯狂真可哀

狂よそおを佯い 真に哀むべし

世人皆欲殺

世人皆殺さんと欲す

吾意獨憐才

吾が意 独り才を憐れむ

敏捷詩千首

敏捷しゅんびん 詩千首

飄零酒一杯

飄零ひょうれい 酒一杯

匡山讀書處

匡山きやうざん は書を読む処

頭白好歸來

頭白とうはく 好し 歸り來たれ

【語釈】

不見：首句の不見李生の不見の二字をとる。李生：李白。佯狂：いつわって狂人のまねをする。敏捷：すばやい。飄零：おちぶれる。匡山：綿州彰明県の南にある大匡山。頭白：老人

(杜甫全詩訳注)



★唐 杜甫

落日

落日

落日在簾鉤

落日 簾鉤に在り

溪邊春事幽

溪邊 春事幽なり

芳菲緣岸圃

芳菲なり 岸に緣る圃

樵爨倚灘舟

樵爨す 灘に倚る舟

啁雀爭枝墜

啁雀 枝を争いて墜ち

飛蟲滿院遊

飛虫 院に満ちて遊ぶ

濁醪誰造汝

濁醪誰か 汝を造れる

一酌散千愁

一酌 千愁を散ぜしむ

【語釈】

簾鉤…すだれとそれを掛ける留め金。春事…春の景色。幽…物静かで奥深い様。  
芳菲…花の良い匂い。圃…畑。樵爨…薪を燃やして飯を炊く。啁雀…さえずる雀。  
院…庭。濁醪…どぶろく。千愁…多くの愁い

(漢詩大系 9)

★唐 杜甫

陪裴使君登岳陽樓

裴使君に陪して岳陽樓に登る

湖闊兼雲霧

湖は濶く雲霧を兼ね

樓孤屬晚晴

樓は孤にして晚晴に属る

禮加徐孺子

礼は加う徐孺子

詩接謝宣城

詩は接す謝宣城

雪岸叢梅發

雪岸叢梅を發き

春泥百草生

春泥百草を生ず

敢違漁父問

敢えて漁父の間に違わんや

從此更南征

此に従りて更に南征せん

【語釈】

裴使君：不詳、使君は刺史のこと。陪：お供をする。屬：当に同じ、偶々遭遇する。徐孺子：後漢の徐穉、吐蕃は彼に對してだけ礼を尽くした。謝宣城：謝朓。漁父問：『漁父辞』（滄浪之水清兮可以濯吾纓 滄浪之水濁兮可以濯吾足）。南征：岳州から南の潭州に向かうこと

（杜甫全詩訳注）

★唐 杜甫

發潭州

潭州を発す

夜醉長沙酒

夜に酔う 長沙の酒

曉行湘水春

曉に行く 湘水の春

岸花飛送客

岸花 飛んで 客を送り

檣燕語留人

檣燕 語って 人を留む

賈傅才未有

賈傅の才 未だ有らず

楮公書絶倫

楮公の書 絶倫なり

高名前後事

高名 前後の事

回首一傷神

首を回して 一に神を傷ましむ

【語釈】

潭州：湖南長沙一帯。長沙：湖南省の省都。湘水：湘江。檣燕：帆柱の上の燕。  
賈傅：前官の賈生、名は誼，洛陽の人、若くして才能を発揮し、文帝に仕え、秦の法をことごとく改めた、後に長沙王の太傅に左遷された。楮公：初唐の楮遂良、字は登善、政治家、書家。初唐の三大家の一人、河南郡公に封ぜられたが、武則天を皇后に立てることに反対したために潭州都督左遷された。神：心

(杜甫全詩訳注 四 P.817)

★唐 杜甫

春帰

春に帰える

苔徑臨江竹

苔徑 江に臨む竹

茅簷覆地花

茅簷 地を覆う花

別來頻甲子

別來 頻りに甲子

歸到又春華

歸り到れば 又春華

倚杖看孤石

杖に倚りて 孤石を看

傾壺就淺沙

壺を傾けて 淺沙に就く

遠鷗浮水靜

遠鷗は 水に浮かんで靜かに

輕鷺受風斜

輕鷺は 風を受けて斜めなり

世路雖多梗

世路 梗ること多しと雖も

吾生亦有涯

吾が生も 亦た涯り有り

此身醒復醉

此の身 醒めて復た酔う

乘興即爲家

興に乗じて 即ち家と爲さん

【語釈】

苔徑…こけむした徑。臨…目の前にする。茅簷…茅で出来たのき。別來…別れて以来。頻…たびたび。頻甲子…なんども「24」日が過ぎる。春華…春のはなやかさ。倚杖…杖に寄り掛かる。傾壺…酒を飲む。淺沙…浅い池の砂地。輕鷺…軽やかに飛ぶ燕。世路…世渡りの路。梗…ふさぐ。涯…かぎり

(唐詩選)

★唐 杜甫

傷春五首 其二

春を傷む五首 其二

鶯入新年語

鶯は新年に入りて語り

花開滿故枝

花は開きて故枝に満つ

天青風捲幔

天は青く風は幔を捲き

草碧水連池

草は碧く水は池に連なる

牢落官軍遠

牢落として官軍遠く

蕭條萬事危

蕭條として万事危うし

鬢毛元自白

鬢毛元自ら白く

淚點向來垂

淚點 向來垂る

不是無兄弟

是れ 兄弟無きにあらざるも

其如有別離

其れ 別離有るを如んせん。

巴山春色靜

巴山 春色静かなり

北望轉逶迤

北のかたを望めば 転た逶迤たり

【語釈】

故枝：去年花を付けていた枝。牢落：疎らで寂しいさま。蕭條：疎らでものさびしいさま。淚點：涙の粒。向來：今までよりもずっと。其如：くをどうしようもない。巴山：四川省の北の山脈。逶迤：遙かに遠く続くさま。

(杜甫全詩訳注)

★唐 杜甫

重經昭陵

重ねて昭陵を經たり

草昧英雄起

草昧 英雄起り

謳歌曆數歸

謳歌 曆數歸す

風塵三尺劍

風塵 三尺の劍

社稷一戎衣

社稷 一戎の衣

翼亮貞文德

翼亮 文德を貞し

丕承戢武威

丕承 武威を戢む

聖圖天廣大

聖図 天のごとく广大

宗祀日光輝

宗祀 日のごとく光輝

陵寢盤空曲

陵寢 空曲に盤り

熊羆守翠微

熊羆 翠微を守る

再窺松柏路

再び 松柏の路を窺えば

還有五雲飛

また 五雲の飛ぶ有り

【語釈】

重：再び。昭陵：唐の太宗李世民の陵墓。経：通り過ぎる。通りかかる。草昧：まだ世が開けきらず、秩序が整っていないこと、太宗の枕詞の様なもので、随末に世が乱れて混沌としていた時をさす。英雄：太宗をさす。謳歌：その人の徳をうたにつくつてうたうこと。曆數：天子の順位。帰：太宗に帰著する。風塵：戦乱によっておこるかぜほこり。三尺劍：漢の高祖は三尺の劍を提げて天下を取った、太宗もまた同様であった。社稷 天下をいう。○一戎衣：周の武王がひとたび戎衣(軍服)をきて殷の紂王を討ち滅ぼしたのによって天下が大いに定まったという意。翼亮：たすけ、たすける、太宗が高祖を輔佐したこと。貞文徳：貞は正しくして固いこと、固く守ってかわらぬこと、文徳は平和の徳。丕承：丕は大に同じ、大にとは敬語である。承とは先代の意をうけること。戢武威：戢は鳥が羽をすばめること、その様に武力の威をとりかたづけしてしまう。聖図：太宗のはかりごと。天广大：天のごとく広く大きい。宗祀：宗としてまつること、

宗とは祖について大功ある君としてみることをいう。日光輝：日のごとく光輝がある。陵寢：山陵・寢廟。盤：建築物の曲折して立つことをいう。空曲：人無き山のくま。熊羆：くま、びぐまのようなつよい番兵。翠微：山の半腹以下をいう。再窺：再とは第二回であるからいう。五雲：五色の雲。綵雲。

(唐詩選)

★唐 杜甫

夢李白二首 其一

李白を夢む二首 其の一

死別已吞聲

死別 已に声を呑み

生別常惻惻

生別 常に惻々たり

江南瘴癘地

江南 瘴癘の地

逐客無消息

逐客 消息無し

故人入我夢

故人 我が夢に入り

明我長相憶

我が長く 相い憶うを明らかにす

恐非平生魂

恐らくは 平生の魂に非ざらん

路遠不可測

路遠くして 測るべからず

魂來楓葉青

魂來たるに 楓葉青く

魂返關塞黑

魂返るに 関塞黒し

君今在羅網

君は今 羅網に在るに

何以有羽翼

何を以ってか 羽翼有るや

落月滿屋梁

落月 屋梁に滿つ

猶疑照顏色

猶お疑う 顔色を照らすかと

水深波浪闊

水深くして 波浪は濶し

無使蛟龍得

蛟龍をして得しむること無かれ

【語釈】

故人：旧友。惻惻：心を痛ませるさま。瘴癘：湿地などに発生する毒気に当てられて発生する熱病。マラリアの類。逐客：野郎に流された李白を指す。故人友人。長相憶：いつも思い慕っていること。平生魂：いつもの魂生きていくときの魂。楓葉：李白のいると杜甫が思っている江南には、楓が多い。関塞：杜甫のいる秦州のとりで。羅網：鳥あみ。李白が罪人として捕らわれていること



を指す。 落月：落ちかかる月の光。 屋梁：建物の梁。 蛟龍：みずち。 水の中に  
住み、人を呑むという想像上の生き物。ここでは李白の周りにいる悪人たちを指  
す。

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫 （上））

★唐 杜甫

夢李白二首其一

李白を夢む二首其二

浮雲終日行

浮雲終日行き

遊子久不至

遊子久しく至らず

三夜頻夢君

三夜頻りに君を夢む

情親見君意

情親しみて君の意を見る

告歸常局促

帰るを告げて常に局促たり

苦道來不易

苦に道う来るは易からず

江湖多風波

江湖風波多く

舟楫恐失墜

舟楫失墜せんことを恐る

出門搔白首

門を出でて白首を搔く

若負平生志

平生の志に負くが若し

冠蓋滿京華

冠蓋京華に満ち

斯人獨顛顛

斯の人独り顛顛す

孰云網恢恢

孰か云う網恢々たりと

將老身反累

將に老いて身反つて累せらる

千秋萬歲名

千秋万歳の名

寂莫身後事

寂莫たり 身後の事

【語釈】

浮雲：空を漂う雲。遊子：旅人、李白。局促：窮屈そうなさま。苦道：くどくど言う。舟楫：舟。冠蓋：高官の冠と傘を付けた立派な馬車、都の貴人。京華：都の美称。顛顛：憔悴、衰れたさま。恢恢：広大なさま、「天網恢々疎にして失せず」。累：繋がる、罰を受けたこと。寂莫：ひっそりとして寂しいさま。身後：死後。（新釈漢文大系 詩人編 杜甫（上））

★唐 杜甫

羌村其一

羌村其一

崢嶸赤雲西

崢嶸たる赤雲の西

日脚下平地

日脚平地に下る

柴門鳥雀噪

柴門に鳥雀噪ぎ

歸客千里至

歸客千里に至る

妻孥怪我在

妻孥は我が在るを怪しみ

驚定還拭淚

驚き定まりて還た涙を拭う

世亂遭飄蕩

世乱れて飄蕩に遭い

生還偶然遂

生還偶然に遂ぐ

鄰人滿牆頭

鄰人牆頭に満ち

感歎亦歔歔

感歎し亦た歔歔す

夜闌更秉燭

夜闌更に燭を秉り

相對如夢寐

相對すれば夢寐の如し

【語釈】

羌村：鄜州三川県（陝西省延安市）、杜甫の妻子の疎開先崢嶸 高くそびえてい  
るさま。 赤雲 夕焼雲。 日脚 雲間から差し込む陽の光。 柴門 柴の門、  
侘しく貧しい家の門。 歸客 帰ってきた旅人。 妻孥 妻と子。 飄蕩 漂泊  
すること。 牆頭 土塀のほり。 歔歔 すすり泣く。 夜闌：真夜中。 燭  
秉 蠟燭をつけかえる。 夢寐 夢。

（新釈漢文大系 詩人編 杜甫 （上））

★唐 杜甫

貧交行

ひんこうこう

翻手作雲覆手雨

手を翻せば雲と作り手を覆せば雨となる。

紛紛輕薄何須數

紛々たる輕薄 何ぞ数うるを須いん

君不見管鮑貧時交

君見ずや 管鮑貧時の交を

此道今人棄如土

此の道 今人棄てて土の如し

【語釈】

貧交行：貧しい時代の交友の歌。翻手：てのひらを上に向ける。覆手：掌てのひらを下に向ける。紛紛：混じり乱れるさま。管鮑：春秋時代の管仲と鮑叔牙。今人：現在の人。

(唐詩選)

★唐 杜甫

兵車行

兵車行

車麟麟 馬蕭蕭

車麟麟 馬蕭蕭

行人弓箭各在腰

行人の弓箭 各腰に在り

耶嬢妻子走相送

耶嬢 妻子 走りて相送る

塵埃不見咸陽橋

塵埃にて見えず 咸陽橋

牽衣頓足闌道哭

衣を牽き足を頓して道を闌りて哭す

哭声直上干雲霄

哭声 直ちに上りて 雲霄を干す

道旁過者問行人

道旁を過ぐる者 行人に問う

行人但云点行頻

行人 但云う 点行頻りなりと

或從十五北防河

或いは十五より 北河を防ぎ

便至四十四西宮田

便ち四十に至りて 西宮田を宮む

去時里正与裏頭

去る時 里正 与に頭を裏み

归来頭白還戍邊

帰り来りて 頭白きに 還た辺を成る

辺庭流血成海水

辺庭の流血 海水と成るも

武皇開邊意未已

武皇 辺を開く意 未だ已まず

君不聞漢家山東

二百州 君聞かずや 漢家山東の二百州

千村万落生荆杞

千村万落 荆杞を生ずるを

縱有健婦把鋤犁

縦い健婦の 鋤犁を把る有るも

禾生隴畝無東西

禾は隴畝に生じて 東西無し

況復秦兵耐苦戰

況や秦兵 復た 苦戦に耐うるをや

被驅不異犬与鷄

驅らるること 犬と鷄とに異ならず

長者雖有問

長者 問う有りとも雖も

役夫敢申恨

役夫 敢えて恨みを伸べんや

且如今年冬

且つ 今年の冬の如きは

未休閑西卒

未だ閑西の卒を休めざるに

県官急索租

県官 急に租を索むるも

租税従何出

租税 何くより出でん

信知生男悪

信に知る 男を生むは悪しく

反是生女好

反つて是れ 女を生むは好きを

生女猶得嫁比鄰

女を生まば 猶お比鄰に嫁するを得るも

生男埋没随隨百草

男を生まば埋没して百草に随う

君不見 青海頭

君見ずや 青海の頭

古来白骨無人収

古来 白骨 人の収むる無きを

新鬼煩冤旧鬼哭

新鬼は煩冤し 旧鬼は哭す

天陰雨湿声啾啾

天陰り雨湿るとき 声 啾々

【語釈】

兵車行：戦車の歌。「行」は歌。辘轳：ゴロゴロと車が転がる音。蕭蕭：馬の寂しげな声。行人：出征兵士。弓箭：弓矢。耶娘：父と母。塵埃：すなけむり。咸陽橋：長安の北渭水にかけられた橋。牽衣：上着を引っ張る。頓足：地団太を踏む。闌道：道をさえぎる。雲哭：声をあげて泣く。雲霄：雲のある空。道旁：道端、路傍。過者：通りすがりの者。點行：徴兵。従：…から。…より。防河：黄河防衛線の護り。便：そのまま。營田：屯田兵となる。里正：尊重。裏頭：三尺の黒いうすぎぬで頭巾のように頭を包む、戦争に行く時の装束。歸來：帰ってくる。戻ってくる。頭白：頭髮が白くなっている。還：なお。なおまた。戍邊：辺疆を防備する。邊庭：辺疆。邊境。海水：湖水。武皇：漢の武帝（唐の玄宗を指している。漢家：漢王朝のことだが暗に現在の唐王朝を指す。開邊：辺疆の

異民族を征討して、漢土の領地を拡げていくこと。山東…華山の東側の地域で中原地方。二百州…天下の半分の地、四百餘州」は全中国。千村萬落…極めて多くの村落。荊杞…いばらや枸杞(くこ)、荒地地に生える雑木。縦有…たとえ…であつても。健婦…けなげな妻。把…手にとる。鋤犁…すきと鍬。禾…稻。隴畝…畝(うね)と畦(あぜ)。畑、田圃をいう。また、民間。無東西…物が無い。況復…ましてや…であつたとしても。秦兵…秦地方(甘肅省、陝西省出身)の兵士、猛な兵士。驅…駆り立てる。長者…あなたさま…杜甫。役夫…わたくしめ。敢…あえて。・申…申す。もうしあげる。・恨…うらみ。且如…のごときは、…などは。未休…まだ終わらない。關西…函谷関以西。卒…兵卒、ここでは「派兵、出兵」といったような動詞的用法。縣官…地方の官吏、ここでは、徴税吏をいう。索…もとめる。粗…粗税。租税…租・庸・調のうちの租のこと。・従…から。出…供出する。猶…まだ。嫁…嫁(とつ)がす。・比鄰…近所。埋没…埋没する。隨…したがって。…とともに。百草…雑草。青海…ココノール湖。頭…ほとり。古來…むかしより(今まで)。無人…だれも…をする人がいない。だれも、してくれない。・收…遺骨を収集する。新鬼…新たに亡くなった亡霊。煩冤…わずらいもだえる舊鬼…以前に亡くなった亡霊。哭…声をあげて啼く。天陰…空が曇る。雨濕…雨で湿る。聲…幽鬼の泣き声。啾啾…悲しげに泣く声。

★唐 杜甫

短歌行贈王郎司直

短歌行 王郎司直に贈くる

王郎酒酣拔劍斫地歌莫哀 王郎酒酣たけなわにして劍を抜き地を斫きつて莫哀ばくあいを歌う

我能拔爾抑塞磊落之奇才 我能よく爾なんじが抑塞磊落よくせくらいらくの奇才めくを抜かん

豫章翻風白日動 豫章よしょう 風に翻よつて白日動き

鯨魚跋浪滄溟開 鯨魚げいぎよ 浪ふを跋ふんで滄溟そうめい開く

且脫劔佩休徘徊 且しばいく劔佩けんばいを脱はして徘徊はいかいを休やめよ

西得諸侯棹錦水 西のかた 諸侯しよこうを得て錦水きんすいに棹さおさし

欲向何門跋珠履 何れの門かに向つてか 珠履しゆりを跋はかんと欲ほする

仲宣樓頭春色深 仲宣樓頭ちゆうせんろうとう 春色しゆんしき深し

青眼高歌望吾子 青眼高歌せいがんこうかして吾子あしを望むむ

眼中之人吾老矣 眼中めがねの人ひとよ吾老われたり

【語釈】

短歌行：楽府題。王郎：不詳、姓は王、郎は親しみをこめた呼び方。司直：東宮御所の役人や護衛兵の目付役。斫地：地面を切りつける。莫哀：これ以上の哀しみはないという悲壮な曲。拔：拔擢、ここでは相手の才能を高く評価する程度の意。抑塞：おさえつけられていること磊落：志が大きくて小さな事にこだわらないさま。予章：巨大な楠の木。王郎の奇才にたとえる。白日動：太陽までが揺れ動く。鯨魚：くじら、王郎の奇才にたとえる。跋：踏む。滄溟：大海。劔佩：劔と腰に下げる玉。休：やめる。徘徊：歩き回る。得諸侯：自分の才能を認めてくれる諸侯を見つけて、その人に仕えること、ここでいう諸侯とは節度使のこと。錦水：四川省成都の近くを流れる川、錦江。跋珠履：珠履は宝玉で飾った靴、跋はつかけてはくこと、諸侯に仕え、上客として待遇されること。仲宣樓：湖北省荊州（江陵）にあった樓、魏の詩人、王粲がこの樓に登って「登樓の賦」を作ったため仲宣樓と呼ばれた。青眼：親しい人に対するうれしい目つき。高歌：声高らかに歌うこと。



吾子：相手を親しんでいう言葉。あなた。眼中之人：目の中に浮かぶ人、  
王郎を指す。

(唐詩選)(漢詩大系 9)

★唐 白居易

遊雲居寺贈穆三十六地主

雲居寺に遊び穆三十六地主に贈る

亂峰深處雲居路

亂峰深き處 雲居の路

共蹋花行獨惜春

共に花を蹋みて行き 独り春を惜しむ

勝地本來無定主

勝地は本来 定主無し

大都山屬愛山人

大都 山は山を愛する人に属す

【語釈】

穆三十六…不詳。亂峰…乱れ立つ山々。勝地…景勝の地。大都…おおよそ、おおむね。(勝地本來無定主は、格言)

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

234

★唐 白居易

尋春題諸家園林又題一絶

春の題を諸家の園林に尋ぬ又一絶を題す

貌隨年老欲何如

貌は年の老ゆるに随い 何如ならんと欲す

興遇春牽尚有餘

興は春の牽くに遇いて 尚お余り有り

遙見人家便花入

遙かに人家の花を見れば 便ち入り

不論貴賤與親疎

貴賤と親疎とを論ぜず

【語釈】

貌…姿、容貌。欲何如…どうすれば良いか、どうしようもない。春牽…春の誘惑。便…たちどころに。

(新釈漢文大系 白氏文集 十一)

★唐 白居易

大林寺桃花

だいりんじ

人間四月芳菲盡

人間 四月 芳菲ほうひ 尽く

山寺桃花始盛開

山寺の桃花 始めて盛んに開く

長恨春歸無覓處

長恨す 春歸つて 覓もとむる処無きを

不知轉入此中來

知らず 転じて此の中に入り来たりしを

【語釈】

大林寺：廬山の香炉峰上にある寺院。人間：人の世。世間。芳菲：よいにおいの花。春歸：春の季節が終わること。長恨：ずっと残念に思うこと。覓：求める。轉：却つて、当時の俗語。此中：（こゝ）。

（詩詞世界）（新釈漢文大系 白氏文集 三）

★唐 白居易

暮立

暮に立つ

黄昏獨立佛堂前

黄昏 独り立つ 仏堂の前

滿地槐花滿樹蟬

地に満ちる 槐花 樹に満ちる蟬

大抵四時心總苦

大抵 四時 心 総すべて苦しけれど

就中腸斷是秋天

就中 腸の断たれるは 是れ秋天

【語釈】

黄昏：たそがれ時。四時：春夏秋冬。就中：とりわけ。腸断：非常に深い愁い。是：この。動詞にあたる。

（新釈漢文大系 白氏文集 三）

★唐 白居易

晚秋閑居

晩秋の閑居 かんきよ

地僻門深少送迎

地は僻に門は深くして 送迎少なし

披衣閑坐養幽情

衣を披て閑坐し 幽情を養う

秋庭不掃携藤杖

秋庭掃わず 藤杖を携え

閑踏梧桐黄葉行

閑に 梧桐の黄葉を踏みて行く

【語釈】

地僻：陶潜「飲酒」其五「心遠ければ地自ら偏なり」とある。幽情：奥深く高雅な思ひ。藤杖：藤はつる状に生える木の総称で、かづらの杖。梧桐：あおぎり。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

府西池

府西池 ふせいち

柳無氣力枝先動

柳は氣力無く 枝先ず動き

池有波紋冰盡開

池は波紋に有りて 氷尽きて開く

今日不知誰計會

今日知らず 誰か計會す

春風春水一時來

春風春水 一時に来る

【語釈】

無氣力：なよなよしている。枝先動：枝先がまず真つ先に揺れ動く。有波紋：池の水面に波の輪状の模様が広がっている。開：氷が解ける。計會：想ひ計る。

(新釈漢文大系 白氏文集 十)

★唐 白居易

村夜

村夜そんや

霜草蒼蒼蟲切切

霜草しもぐさは蒼々あざあざとして虫切々たり

村南村北行人絶

村南村北むらみなむらきた行人絶ゆ

独出門前望野田

独り門前かどまへに出でて野田やでんを望めば

月明蕎麥花如雪

月明つきあかりらかにして蕎麥花せうばくはな雪の如し

【語釈】

霜草：霜にあつたために枯れた草。蒼蒼：しおれて青白い色。切切：虫がしきりに鳴く擬声語。村南村北：村の南も北も。行人：道を行く人。野田：野の中の田。蕎麥：そば、秋に白い花が咲く。

（新釈漢文大系 白氏文集 三）

★唐 白居易

三月三十日題慈恩寺

三月三十日慈恩寺に題すじおんじ

慈恩春色今朝盡

慈恩の春色 今朝尽く

盡日徘徊倚寺門

尽日 徘徊して 寺門に倚るよ

惆悵春歸留不得

惆悵ちゆうたうす春 歸りて留め得ざるを

紫藤花下漸黄昏

紫藤花下 漸く黄昏しじょうかか すすむか

【語釈】

慈恩寺：陝西省長安の南東3キロメートル、曲江の北にある寺。春色：春景色、春の気配。盡日：一日中。裴回：ぶらぶら歩き回る。倚：もたれる。惆悵：うれえ悲しむさま。春歸：春が過ぎ去って帰っていく。漸：ようやく。黄昏：たそがれ。

（新釈漢文大系 白氏文集 三）

★唐 白居易

秋雨 中贈元九

秋雨の中 元九に贈る

不堪紅葉青苔地

堪えず 紅葉青苔の地

又是涼風暮雨天

又是れ 涼風暮雨の天

莫怪獨吟秋思苦

怪しむ莫かれ 独吟 秋思の 苦しさを

比君校近二毛年

君に比して 校や近し 二毛の年

【語釈】

校：較と同じ、やや。二毛年…白髪と黒髪  
(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

酬令公雪中見贈訝不與夢得同相訪

令公の雪中に贈られ、夢得と同一に相い訪ねざるを訝らるるに酬ゆ

雪鷲似毛飛散亂

雪は鷲毛に似て 飛び 散乱し

人被鶴立裴回

人は鶴筆を被りて 立ちて裴回す

鄒生枚叟非無興

鄒生・枚叟は興 無きに非らず

唯待梁王召即來

唯だ梁王の召すを 待ちて即ち來たらん

【語釈】

令公：裴度。夢得：劉禹錫。鷲毛：鷲鳥の毛、雪の形の形容。鶴筆：羽毛で作った外套。鄒生・枚史 鄒陽と枚乘、白居易と劉禹錫の喩え、謝惠連「雪賦」を踏まえる。梁王：裴度を指す。謝惠迪の「雪賦」に基づく表現。

(新釈漢文大系 白氏文集 十一)

★唐 白居易

江南送北客因憑寄徐州兄弟書

江南に北客を送り因つて憑んで徐州の兄弟に書を寄す

故園望斷欲何如

故園 望斷するも 何如せんと欲す

楚水吳山萬里餘

楚水 吳山 万里余

今日因君訪兄弟

今日 君に因りて 兄弟を訪う

數行鄉淚一封書

數行の郷淚 一封の書

【語釈】

○江南：長江中下流の南側の地。○徐州：江蘇省徐州市。○故園：故郷。○望斷：とことん望見する。○楚水吳山：吳楚の地の山水。○郷淚：故郷を思う涙。  
(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

初貶官過望秦嶺

初めて官を貶されて望秦嶺を過ぐ

草草辭家憂後事

草々 家を辞して 後事を憂い

遲遲去國問前途

遅々 国を去りて 前途を問う

望秦嶺上迴頭立

望秦嶺上 頭を迴らして立てば

無限秋風吹白鬚

限り無き秋風 白鬚を吹く

【語釈】

望秦嶺：長安南方に広がる秦嶺山脈にある、秦嶺山脈を越えて南方に行く時、ふり返って北方に見える長安一帯を望む最後の場所。草草：あわただしく。辭家：家に別れを告げる。後事：あとの事。・遲遲：ものが進まないさま。去國：国都長安を去ってゆく。問前途：将来を心配する。鬚：あごひげ。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

對酒

酒に對す

蝸牛角上争何事

蝸牛角上 何事をか争う

石火光中寄此身

石火光中 此の身を寄す

随富随貧且歡樂

富に随い 貧に随い 且らく歡樂せん

不開口笑是癡人

口を開いて笑わざるは 是れ癡人

【語釈】

蝸牛角上…カタツムリの角の上、小さな世界の意。  
石火光中…火打ちの火花のように短い時間

(新釈漢文大系)



若爲南國春還至

若為南國春還また至るを

爭向東樓日又長

爭向東樓日又長きを

白片落梅浮澗水

白片の落梅は澗水に浮うかび

黃梢新柳出城牆

黃梢の新柳は城牆より出でたり

閑拈蕉葉題詩詠

閑に蕉葉を拈りとり詩を題して詠じ

悶取藤枝引酒嘗

悶て藤枝を取り酒を引きて嘗なむ

樂事漸無身漸老

樂事漸ややく無くして身漸く老ゆ

從今始擬負風光

今從り始めて擬す風光に負そむかんことを

【語釈】

若爲・爭向…いずれも当事の俗語で、文語の「如何」にあたるという、「どうしようもない」ほどの意。南国：忠州（重慶市忠県）夏は炎暑の地となる。藤枝：鈎藤の茎、この藤は漢方薬に用いられる鈎藤で、茎が中空なので、ストローのように用いることができるという。負風光：季節ごとの遊興などと無縁に生活すること。

★唐 白居易

不出門

門を出でず

不出門來又數旬

門を出でざるより來 又數旬

將何銷日與誰親

何を將つてか日を銷し誰と与にか親しまん

鶴籠開處見君子

鶴籠開く処 君子を見

書卷展時逢古人

書卷展ぶる時 古人に逢う

自靜其心延壽命

自ら其の心を静かにして 寿命を延べ

無求於物長精神

物を求むること無くして 精神を長す

能行便是真修道

能く行わば 便ち是れ 真の修道

何必降魔調伏身

何んぞ必ずしも 降魔調伏の身ならんや

【語釈】

來…以来。又…添加の意を示す副詞、更に重ねて。將…くでもって。銷日…日々  
の時間を消費する。鶴籠…鶴の鳥かご。君子…籠の中の鶴を指す。自靜其心『壯  
子』達生篇に見える「必ず斉（齋）して以て心を静かにす」を利用した表現。無  
下於物…「物」とはいわゆる外物、世俗的名利の意、『莊子』外物篇に「外物、  
必とすべからず」と。便是「即是」に同じ、とりもなにさず…である。降魔…  
仏教語、魔物を降伏させること。成仏以前の釈迦が魔王と戦ってこれに打ち勝つ  
たという故事に基づく。調伏…仏教語、身・口・意の三業を調和させ、諸々の悪  
行を抑止すること。身…身分。

(新釈漢文大系 白氏文集 十)

★唐 白居易

江樓夕望招客

江樓夕望 客を招く

海天東望夕茫茫

海天 東望すれば 夕ゆう 茫々ぼうぼうたり

山勢川形關復長

山勢 川形 關ひろくして復またた長し

燈火萬家城四畔

燈火 万家 城の四畔

星河一道水中央

星河 一道 水の中央

風吹古木晴天雨

風は古木を吹く晴天の雨

月照平沙夏夜霜

月は平沙を照す 夏夜の霜

能就江樓銷暑否

能く江樓に就ついて暑を銷しょうせんや否や

比君茅舍較清涼

君の茅舍に比すれば 較やや清涼ならん

【語釈】

茫茫：広大で果てしないさま。四畔：四辺。星河：天の川。較…：やや。

(新釈漢文大系 白氏文集 四)

★唐 白居易

春來頻與李二賓客郭外同遊因贈長句

春來たり頻りに李二賓客と郭外に同遊す 因りて長句を贈る

風光引歩酒開顔

風光は歩を引き 酒は顔を開かしむ

送老消春嵩洛間

老を送り春を消す 嵩洛の間

朝暘落花相伴出

朝に落花を暘み 相い伴いて出で

暮隨飛鳥一時還

暮に飛鳥に隨い 一時に還える

我爲病叟誠宜退

我は病叟と為りて 誠に宜しく退くべく

君是才臣豈合閑

君は是れ才臣たて 豈に合に閑たらんや

可惜濟時心力在

惜しむ可し時を濟う 心力在るを

放教臨水復登山

水に臨み 復た山に登らしむ

【語釈】

風光：景色、風景。引歩：散歩に招く。開顔：顔がはころぶ。銷春：春を過ごす。  
嵩洛間：洛水と嵩山の間、洛陽一帯。一時還：一緒に帰る。病叟：病氣もちの爺さん。宜退：引退すべき。才臣：能力のある臣下。濟時心力：世を救う胆力。放教：しむとよみ、くさせる。臨水復登山：川遊びや山登りをする、山野の遊びのこと。

★唐 白居易

尋郭道士不遇

郭道士を尋ねて遇わず

郡中乞假來相訪

郡中 假を乞いて 来りて相訪う

洞裏朝元去不逢

洞裏 元に朝し 去りて逢わず

看院祇留雙白鶴

院を看れば 祇だ留む 双白鶴

入門惟見一青松

門に入れば 惟だ見る 一青松

藥爐有火丹應伏

藥炉 火有り 丹 応に伏すべし

雲碓無人水自春

雲碓 人無く 水 自ら春く

欲問參同契中事

參同契中の事を 問わんと欲すれば

更期何日得從容

更に何れの日か 從容を得んことを期す

【語釈】

郡中：郡の役所、この場合は江州。假：休暇。洞裏：郭道士の居宅。朝元：玄元皇帝李老君（老子）の廟に参朝する。院：庭。留：留守番をさせる。丹：丹薬、仙人の不老不死の薬物。伏：火で調伏して仙丹を練ること。雲碓：雲母（仙薬の材料）を搗くからうす、水を受けて自動的に動く仕組みになっている。參同契：練丹の方法を書いた本。從容：ゆつくりと逗留すること。

（新釈漢文大系 白氏文集 四）

★唐 白居易

寄殷協律

殷協律に寄す

五歲優游同過日

五歲優游し同じく日を過す

一朝消散似浮雲

一朝消え散じ浮雲に似たり

琴詩酒伴皆拋我

琴詩酒の伴皆我を拋うち

雪月花時最憶君

雪月花の時最も君を憶う

幾度聽雞歌白日

幾度か雞を聽いて白日を歌い

亦曾騎馬詠紅裙

亦た曾つて馬に騎りて紅裙を詠ず

吳娘暮雨蕭蕭曲

吳娘暮雨に蕭々たる曲

自別江南更不聞

自ら江南に別かれてより更に聞かず

【語釈】

殷協律…不詳、「協律」は音楽を司る官。優游…ゆつたりと遊ぶ。消散…離散すること、別れ去ること。紅裙…美しい歌妓。吳娘…吳の妓女。

(新釈漢文大系 九)

★唐 白居易

宿靈巖寺上院

靈巖寺の上院に宿す

高高白月上青林

高々たる白月 青林に上り

客去僧歸獨夜深

客去り僧帰りて 独り夜深ける

葦血屏除唯對酒

葦血屏除せられ 唯だ酒に對し

歌鐘放散只留琴

歌鐘放散して 只だ琴を留む

更無俗物當人眼

更に俗物の 人眼に當る無く

但有泉聲洗我心

但だ 泉聲有りて 我が心を洗う

最愛曉亭東望好

最も愛す 曉亭 東望の好きを

太湖煙水綠沈沈

太湖の煙水 綠沈沈たり

【語釈】

高高：非常に高い。白月：満月、皓月。青林：青青とした林。葦血：臭いのする野菜と肉類、生臭物。屏除：しりぞきのける。歌鐘：歌や打楽器。放散：取り払われる。當人眼：人の眼に入ってくる。太湖：靈巖山の東にあたる。煙水：水とその上の靄。沈沈：さかなさま。

(新釈漢文大系 9)

★唐 白居易

香爐峯下新卜山居草堂初成偶題東壁

香爐峯下こうろほうか 新たに山居を卜しぼく 草堂初めて成る偶たまたまた東壁も題す

日高睡足猶慵起

日高く睡り足りて 猶お起くるに慵し

小閣重衾不怕寒

小閣きんに衾を重ねて 寒かんを怕おそれず

遺愛寺鐘欹枕聽

遺愛寺いあいじの鐘は 枕まくらを欹よけて聴き

香爐峯雪撥簾看

香爐峯こうろほうの雪は 簾すだれを撥かけて看る

匡廬便是逃名地

匡廬きやうろは便すなわち是れ名を逃るるの地

司馬仍爲送老官

司馬は仍なお 老ろうを送るの官たり

心泰身寧是歸處

心泰やすく身寧やすきは 是れ歸する処

故鄉何獨在長安

故郷こきやう何ぞ独ひとり長安にのみ在らんや

【語釈】

香爐峰：江西省九江県西南にある廬山の北峰。卜…家を建てる。

小閣：小さな建物。自宅の建物の謙譲語。遺愛寺…香炉峰の北方にある寺。欹枕

…枕をかたむける。匡廬：廬山の別名、陶淵明の隠棲の地に近い。

司馬：刺史（州の長官）の補佐役。故郷…ふるさと、自分が住むべき地。

（新釈漢文大系 三）



★唐 白居易

和李中丞与李给事山居雪夜同宿小酌

李中丞が李給事と山居し、雪夜に同宿して小酌せるに和す

憲府觸邪峨豸角

憲府 邪に触ること 豸角より峨し

瑣闥駁正犯龍鱗

瑣闥 駁正して 龍鱗を犯す

那知近地齋名客

那ぞ知らん 近地 齋名の客

忽作深山同宿人

忽ち 深山 同宿の人と作るを

一盞寒燈雲外夜

一盞の寒燈 雲外の夜

數杯溫酎雪中春

數杯の温酎 雪中の春

林泉莫作多時計

林泉 作す莫かれ 多時の計

諫獵登封憶舊臣

諫獵登封 旧臣を憶う

【語釈】

李中丞…李仍叔、唐宗室の末裔、中丞は御史中丞（官を弾劾する役）。李給事…李中敏、給事は給事中（皇帝を諫める側近）。憲府…御史台（官僚を弾劾する役所）、李中丞のこと。觸…犯罪を処罰する。豸角…伝説上の動物、不正なり物を触し、嘯むという。峨…険しい。瑣闥…給事中のこと。駁正…他人の説を非難、攻撃すること。龍鱗…皇帝。齋名客…名声を同じくする人士。忽…たまたま。一盞…一つの燈明皿。寒燈…寒々とした灯火。雲外…高山の上。温酎…暖めた酒。諫獵…政務を諫めること。登封…封禪の儀を行うこと。

（新釈漢文大系 十二上）

★唐 白居易

池上閑吟

ちじょうかんぎん  
池上閑吟

高臥閑行自在身

こうが かんこう  
高臥 閑行 自在の身

池邊六見柳條新

池辺 六たび見る 柳條の新たなるを

幸逢堯舜無為日

幸いに 堯舜無為の日に逢い

得作羲皇向上人

羲皇 向上の人と作るを得

四皓再除猶且健

四皓 再び除せられて 猶お且つ健に

三州罷守未全貧

三州 守を罷んぜられて 未だ全く貧しからず

莫愁客到無供給

愁う莫かれ 客到りて 供給無しを

家醞香濃野菜春

かうん 香り濃やかにして 野菜は春

【語釈】

高臥：世俗を離れて暮らす。閑行：…もの静かに歩く、のんびりと歩く。羲皇向上人：伏羲以前の太、太古の人民、匪俗を離れた目適の生活を送る人。四応：向山の四帖、漢の高祖に従って遊んだ、よって太子賓客の官に任ぜられたことを卜う。三川：黄訶・洛水・伊水が交錯する地。河南洛陽をいう。「三川罷守」とは、河南尹を辞めたことをいう。家醞：自家醸造の酒。供給：他人の要求に応じて物をやること。

(新釈漢文大系 白氏文集 十一)

★唐 白居易

江樓遠別

江樓の宴別 えんべつ

樓中別曲催離酌

樓中の別曲 離酌を催し もよほ

燈下紅裙閒綠袍

燈下の紅裙 綠袍に間る こうくんに りよくほう まじわ

縹緲楚風羅綺薄

縹緲たる楚風 羅綺薄く ひょうびょう ちふう らき

錚鏦越調管弦高

錚鏦たる越調 管弦高し そうそう えつちょう かんげんたか

寒流帶月澄如鏡

寒流 月を帯びて 澄めること鏡の如く

夕吹和霜利似刀

夕吹 霜に和して 利ときこと刀に似たり せきすい せきすい と

尊酒未空歡未盡

尊酒 未だ空しからず 歡も未だ尽きず

舞腰歌袖莫辭勞

舞腰 歌袖 勞を辭する莫かれ

【語釈】

別曲：別れの曲。離酌：別れの盃。紅裙：紅の裳、妓女のスカート。綠袍：綠色の上着、色によつて階級別に定められていた官吏の制服。楚風：楚（長江中流域）の地を吹く風。羅綺：羅（うすもの）と綺（あやぎぬ）、美しい衣服のこと。錚鏦：金管楽器による冴えた音の響き。越調：唐樂の音調の一つ。強く、悲痛な調子。夕吹：夕風。尊酒：樽酒。舞腰：舞う腰つき。歌袖：歌い舞う袖。

（新釈漢文大系 白氏文集 三）

★唐 白居易

早冬

早冬そうとう

十月江南天氣好

十月 江南 天氣好し

可憐冬景似春華

憐れむ可し 冬景しゆんか 春華に似たり

霜輕未殺萋萋草

霜は軽く 未だ殺らさず 萋々たる草せいせい

日暖初乾漠漠沙

日は暖かく 初めて乾く 漠漠たる沙ばくたく

老柘葉黃如嫩樹

老柘ろうたく 葉は黄にして 嫩樹どんじゆの如く

寒櫻枝白是狂花

寒桜 枝は白くして 是れ狂花なり

此時却羨閑人醉

此の時 却つて羨む 閑人の酔うを

五馬無由入酒家

五馬 酒家に入るに由無しよし

【語釈】

可憐：ああ、簡単な言葉。春華：春の陽光。萋萋：草が茂っているさま。漠漠：広大なさま。老柘：古い山桑。嫩樹：若木。狂花：狂い咲き。五馬：刺史の乗る五頭仕立ての馬車。

(新釈漢文大系 白氏文集 四)

★唐 白居易

放言

放言ほうげん

泰山不要欺毫末

泰山は毫末ごうまつを欺くを要せず

顔子無心羨老彭

顔子は老彭ろうほうを羨むに心無し

松樹千年終是朽

松樹千年終ついに是れ朽こち

槿花一日自爲榮

槿花一日みずか自ら榮もを爲す

何須戀世常憂死

何ぞ須もちいん世を恋したいて常に死を憂うを

亦莫嫌身漫厭生

亦た身を嫌みだりいて漫いとに生を厭いとう莫いとかれ

生去死來都是幻

生去り死來らばすべ都是れ幻こ

幻人哀樂繫何情

幻人げんじんの哀樂何の情かかに繫かかる

【語釈】

泰山：五岳の一つ、封禪に使われた。毫末：毛先、極めて小さな物のたとえ。顔子：顔回、孔子第一の高弟、短命であった。老彭：彭祖のこと、八百歳の長寿を保ったという。槿花：朝顔、短命なものたとえ。幻人：幻の人。何情：どんな現実、情は幻の反対概念。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

長安早春旅懷

長安 早春の旅懷

軒車歌吹喧都邑

軒車けんしゃ歌吹かすい都邑とゆうに喧かまひすし

中有一人向隅立

中ちゆうに一人の隅すみに向かつて立つ有り

夜深明月卷簾愁

夜深けて明月に簾を卷いて愁え

日暮青山望郷泣

日暮れて青山に郷を望みて泣く

風吹新緑草芽坼

風は新緑を吹いて草芽坼そらがき

雨灑輕黃柳条湿

雨は輕黃に灑いで柳条りゅうじょう湿しう

此生知負少年春

此の生少年の春に負くを知る

不展愁眉欲三十

愁眉しゅうびを展のべず三十ならんと欲す

【語釈】

軒車：幌の付いた車、高級車。歌吹：管弦と歌。都邑：都市と村。一人：白居易。  
向：於と同じ、場所を示す助辞。坼：萌え出す。輕黃：黄色い芽。愁眉：眉を寄せた愁わしげな顔つき。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

想歸田園

田園に帰るを想う

戀他朝市求何事

他の朝市ちやうしを恋いて何事をか求む

想取丘園樂此身

丘園を取りて此の身を樂しませんと想う

千首惡詩吟過日

千首の惡詩を吟じて日を過ごし

一壺好酒醉消春

一壺の好酒に酔いて春を消す

歸鄉年亦非全老

郷に帰るも年亦た全く老いたるに非らず

罷郡家仍未苦貧

郡やを罷なむれども家はなだ仍お未だ苦はなだだ貧しからず

快活不知如我者

快活 知らず 我の如き者

人間能存幾多人

人間じんかん 能く存す 幾多の人

【語釈】

戀他…かの…を恋い慕う。朝市…朝廷と市、都会をいう。何事…どんな事。丘園…丘のある田園、隱棲地。消春…春愁を消す。罷…やめる。郡…郡の役人。快活…たのしく(す)す。人間…この世の中。浮き世。能存…どれほどありえるだろうか。幾多人…どれほどの数の人。

★唐 白居易

八月十五日夜禁中獨直對月憶元九

八月十五日夜 禁中に独り直し月に対して元九を憶う

銀臺金闕夕沈沈

銀台金闕 夕べ沈々

獨宿相思在翰林

独宿 相ひ思いて 翰林に在り

三五夜中新月色

三五夜中 新月の色

二千里外故人心

二千里外 故人の心

渚宮東面煙波冷

渚宮の東面には 煙波冷ややかに

浴殿西頭鍾漏深

浴殿の西頭には 鐘漏深し

猶恐清光不同見

猶お恐る 清光 同じくは見ざらんことを

江陵卑湿足秋陰

江陵は卑湿にして 秋陰足る

【語釈】

八月十五日夜…旧暦、仲秋の名月の夜。禁中…宮中。直…宿直する。元九…中唐の詩人、元稹(779～831)を指す。銀台…「宮殿全体の美称・総称」とする説と、「宮殿の門の名、銀台門ないし、その北にあった翰林院」とする説との、二つに解釈が分かれる。金闕…天子の宮殿、「闕」は宮殿の門のこと。夕…ここでは夜、夕方ではない。沈沈…夜が静かにふけていくさま。独宿…独りで宿直する。相思…相手を思う。「相」は「互いに」という意味ではない。翰林…翰林院、詔勅等を司る役所、白居易は翰林学士であった。三五夜…十五夜。新月…「空にのぼったばかりの月」とする説と、「中天にのぼった清新な輝きをもつ月」とする説との、二つに解釈が分かれる。二千里外…長安と江陵との距離を指す。故人…昔なじみの友人、元稹を指す。渚宮…湖北省江陵の東南にあった古跡。戦国時代、楚の襄王の離宮、また、これを長安城中の実景とする説もある。煙波…もやの立ちこめた水面。浴殿…翰林院のすぐそばにあった浴室を指す。西頭…西のあたり。鐘漏…時を知らせる鐘と、漏刻(水時計)の音。深…夜が更ふけていくことを表す。猶…「なお」と読み、「やはり」「それでもなお」と訳す。恐…心配だ。気にかかる。清光…澄み切った月の光。不同見…白居易が長安で見ている月は、江陵にいる元稹には同じように美しく見えないだろう。江陵…湖北省江陵県。



一名、荊けい州しゆう。卑湿…地が低く、じめじめしている。秋陰…秋のくもり空。足…ここでは多い。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

西湖留別

西湖留別

征途行色慘風煙

征途せいとの行色いしよく 風煙ふうえん慘さんたり

祖帳離声咽管絃

祖帳そちやうの離声りせい 管絃むせ咽むぶ

翠黛不須留五馬

翠黛すいたいは須もちいざれば 五馬ごまを留とどむるを

皇恩只許住三年

皇恩りよんは只ただ許ゆるす 三年さんねんを住すするを

綠藤陰下鋪歌席

綠藤陰下りよくとういんか 歌席かせきを鋪しき

紅藕花中泊妓船

紅藕花中こうぐかうかちゆう 妓船ぎせんを泊とどす

処処迴頭尽堪恋

処々こゝへ 頭めづらを迴めぐらせば 尽いとく恋こうるに堪たえたり

就中難別是湖邊

就中なかんづく 別わかれ難がたきは是これ湖邊こへ

【語釈】

征途：旅行く道程。行色：旅立ちのようす。祖帳餞別のための宴会を開くために張った帷帳と酒宴。離声：訣別歓送の歌声。翠黛：歌妓たちのこと。

(新釈漢文大系 白氏文集 九)

★唐 白居易

過元家履信宅

元家の履信の宅をきる

雞犬喪家分散後

雞犬家を喪い分散の後

林園失主寂寥時

林園主を失い寂寥の時

落花不語空辭樹

落花語らず空しく樹を辞し

流水無情自入池

流水情無く自ら池に入る

風蕩醺船初破漏

風は蕩す醺船の初めて破漏せるを

雨淋歌閣欲傾欹

雨は淋る歌閣の傾欹せんと欲するに

前庭後院傷心事

前庭後院心を傷ましむる事は

唯是春風秋月知

唯だ是れ春風秋月の知るのみ

【語釈】

元家：元榿（白居易の親友で此の時は死去していた）。履信：履信坊、洛陽の地名。寂寥：ひっそりとして物寂しいさま。蕩：ゆらす。醺船：酒盛りをする船。傾欹：傾斜する。

（新釈漢文大系 白氏文集 十）

★唐 白居易

春江

春江

炎涼昏曉苦推遷

炎涼 昏曉 苦だ推遷し

不覺忠州已二年

覺えず 忠州 已に二年

閉閣只聽朝暮鼓

閣を閉じて只だ聽く 朝暮の鼓

上樓空望往來船

樓に上つて空しく望む 往來の船

鶯聲誘引來花下

鶯聲に誘引せられて 花下に来たり

草色句留坐水邊

草色に句留せられて 水辺に坐す

唯有春江看未厭

唯だ春江の看れども未だ厭かざる有り

縈砂繞石淥潺湲

砂を縈り石を繞つて 淥潺湲たり

【語釈】

炎涼：暑さと寒さ。昏曉：あけぼのと夕暮れ。推遷：移り変わる。忠州：現在の重慶市に設置された州。閣：楼閣、ここでは部屋という程度。句留：引き留める。淥：緑。潺湲：水が流れるさま。

★唐 白居易

送王十八歸山寄題仙遊寺

王十八の山に帰るを送り仙遊寺に寄題す

曾於太白峰前住

曾て太白峰前に於いて住み

數到仙遊寺裏來

數しば仙遊寺裏に到りて來たる

黑水澄時潭底出

黒水澄む時 潭底出で

白雲破處洞門開

白雲破るる処 洞門開く

林間暖酒燒紅葉

林間に酒を暖めて紅葉を燒き

石上題詩掃綠苔

石上に詩を題して 緑苔を掃う

惆悵舊遊無複到

惆悵す 旧遊 複た到ること無きを

菊花時節羨君回

菊花の時節 君が回るを羨む

【語釈】

王十八：王質夫。仙遊寺：陝西省周至県の南にある寺。寄題：園地に有る物をその場に行かないで題として作ること。太白峰：太白山、終南山の最高峰。黒水：黒河、南山に発し、遊仙寺の前を流れる川。潭底：淵の底。破：消える、当時の俗語。題：書き付ける。惆悵：嘆き悲しむ。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

春題湖上

春湖上に題す

湖上春來似畫圖

湖上に春來りて 画図に似たり

亂峯圍繞水平舖

亂峯 圍繞して 水平らかに舖く

松排山面千重翠

松は山面に排す 千重の翠

月點波心一顆珠

月は波心に點ず 一顆の珠

碧毯線頭抽早稻

碧毯の線頭 早稻を抽き

青羅裙帶展新蒲

青羅の裙帶 新蒲を展ぶ

未能拋得杭州去

未だ杭州を拋ち得て去る能はず

半勾留是此湖

一半勾留するは 是れ此の湖

【語釈】

湖上：西湖の上。畫圖：絵。亂峯：不揃いにそびえたつ峰々。圍繞：とりまく。  
舖：しきつめる。排：ならぶ。山面：山の表面。點：点じる。・波心：波のま  
んなか。顆：まるい物を数える量詞（助数詞）。珠：たま。碧毯：緑色のじゅう  
たん。線頭：糸の尖（さき）。抽：（穂が）出る。早稻：わせ。青羅：青いうす  
ぎぬ。裙帶：婦人服の裳裾（もすそ）のひも。展：のべる。ひろげる。新蒲：新  
たに（生え揃った）ガマ（の穂）。杭州：杭州市、作者は、杭州刺史としてここ  
にいた。一半：半分。なかば。勾留：とらえてとどめる。是……は……である、be  
動詞にあたる。

（新釈漢文大系 9）

★唐 白居易

戊申歲暮詠懷三首 其三

戊申歲暮詠懷三首 其三

七年囚閉作籠禽

七年 囚閉せられて籠禽と作り

但願開籠便入林

但だ願う籠を開らきて便ち林に入らんことを

幸得展張今日翅

幸に今日の翅を張展するを得れば

不能辜負昔時心

昔時の心に辜負する能わず

人間禍福愚難料

人間の禍福は愚にして料り難く

世上風波老不禁

世上の風波は老いても禁ぜず

萬一差池似前事

萬一 差池すること前事に似ば

又應追悔不抽簪

又応に簪を抽かざることを追悔すべし

【語釈】

七年：元和十五年（八一〇）、忠州から長安へ召還せられ、主客郎中・知制誥に拜せられて以降、この詩が作られた大和二年（八二八）末に至るまでの年月を概算して言う。この間、白居易は、中書舍人（正五品玉）・知制誥、杭州刺史（従三品）、太子左庶子（正四品上）、蘇州刺史（従三品）、秘書監（従三品）、刑部侍郎（正四品下）といった職を歴任し、官僚としては概ね順調かつ平穩な日々を送ることができたと言つてよい。囚閉：囚われ閉じ込められる。展張：のびのびと広げる。辜負：信念などに背く。人間：世間。差池：不齊一なさま、ここでは、自己の思いと現実の状況とが食い違つてしまうことをいう。前事：江州司馬に左遷されたこと。応：きつと……のはずだ。推量の辞。抽簪：官位を退くこと。

（新釈漢文大系 白氏文集 十）

★唐 白居易

春中與盧四周諒華陽觀同居

春中 盧四周諒と華陽觀に同居す

性情 懶慢 好相親

性情 懶慢にして 好く相親しみ

門巷 蕭條 稱作 鄰

門巷 蕭條として 鄰を作すに稱う

背燭 共憐 深夜 月

燭を背にして 共に憐れむ 深夜の月

蹋花 同惜 少年 春

花を蹋んで 同じく惜しむ 少年の春

杏壇 住僻 雖宜 病

杏壇 住僻にして 病に宜しきと雖も

芸閣 官微 不救 貧

芸閣 官微にして 貧を救わず

文行 如君 尚憔悴

文行 君の如くして 尚お憔悴す

不知 霄漢 待何人

知らず 霄漢 何人をお待つ

【語釈】

春中：春のまんなか、中春。 盧四周諒：盧周諒のこと、「四」は排行。華陽觀：長安の永崇里にある道観の名で、元は代宗の第五女・華陽公主の旧宅。性情：性質と心情。懶慢：怠惰。・好：容易に：できる。よく…。\*（動詞の前に置き、「好」＋「動詞」の形で）…し易（やす）い。容易に：できる。門巷：家の門と道路。戸口の並ぶ道。蕭条…もの寂しいさま。称…かなう、適合する。作隣：近所づきあいする。背燭…（月光を味わうために）燭台を後向ける。憐…いつくしむ、めめる。蹋花…花影を踏んで歩く。惜…いとおしむ。少年…若者、成年期。杏壇…学問所、講堂。僻…辺鄙である。芸閣…秘書省（朝廷直属の図書館）の別名。微…（身分や地位の）低い。文行…文学と徳行。「文行忠信」のことで、孔門教育の四大綱。君…あなた。ここでは、盧（四）周諒を指す。憔悴…やせおとろえる、やつれはてる。霄漢…大空、ここでは、朝廷を譬えていう。



★唐 白居易

春晚詠懷贈皇甫朗之

春晚懷を詠じ皇甫朗之に贈る

豔陽時節又蹉跎

豔陽の時節 又蹉跎なり

遲暮光陰復若何

遲暮の光陰 復た若何

一歲平分春日少

一歲平分するに 春日少し

百年通計老時多

百年通計するに 老時多し

多中更被愁牽引

多中 更に愁に牽引せられ

少處兼遭病折磨

少處 兼ねて病に遭いて折磨せらる

賴有銷憂治悶藥

賴に憂を銷し悶を治むる藥有り

君家濃酎我狂歌

君が家の濃酎 我が狂歌

【語釈】

皇甫朗之…皇甫曙。豔陽…春の終わりの美しい季節。蹉跎…衰退する。遲暮…老年。光陰…年月。復…いつたい、疑問の語気を強める副詞。若何…どうしたらよいか。平分…等しく分ける。兼…その上。折磨…肉体に苦痛を受ける。濃酎…濃い酒。

★唐 白居易

在家出家

在家出家ざいけしけしゅつげ

衣食支分婚嫁畢

衣食は支分し嫁畢おむる

從今家事不相仍

今よ從り家事 相あい仍よらず

夜眠身是投林鳥

夜眠りては 身は是れ 投林の鳥

朝飯心同乞食僧

朝に飯しては 心は乞食こつじきの僧に同じ

清唳數聲松下鶴

清唳せいり 數聲 松下しょうかの鶴

寒光一點竹間燈

寒光 一點 竹間ちくかんの燈

中宵入定跏趺坐

中宵ちゅうしょう 入定にゅうじょうして跏趺かふして坐ざず

女喚妻呼多不應

女喚よび妻呼たべども多ただ応たえず

【語釈】

支分：都合を付ける。婚嫁畢：子女の婚姻が終わる。仍：次から次へと起こる。  
投林の鳥：林に戻った鳥。清唳：清らかな鶴の鳴き声。寒光：冬の夜の灯火の光。  
中宵：夜半。入定：座禪に入る。跏趺：結跏趺坐：座禪の足の組み方。多：ただ、  
ひたすらに。

(新釈漢文大系 12上)

★唐 白居易

廬山草堂夜雨獨宿寄牛二李七庾三十二員外

廬山草堂に夜雨独り宿し牛二・李七・庾三十二員外に寄す

丹霄攜手三君子

丹霄たんしょうに手を携たずなう三君子

白髮垂頭一病翁

白髮こうへ 頭を垂る 一病翁

蘭省花時錦帳下

蘭省の花時 錦帳きんていの下

廬山雨夜草菴中

廬山の雨夜 草菴そうぼうの中

終身膠漆心應在

終身 膠漆こうしつ 心応に在あるべし

半路雲泥跡不同

半路 雲泥 跡同じからず

唯有無生三昧觀

唯だ 無生むじょうさんまい三昧の觀有り

榮枯一照兩成空

榮枯は一照にして 兩つながら空と成る

【語釈】

廬山：江西省九江県にある山、陶淵明隱逸の地として名高い、白居易は江州司馬としてその近くにいた。草堂：草葺きの家。寄牛二：牛僧孺。李七：李宗閔。庾三十二員外。庾敬休。員外：員外郎、定員以外の官。丹霄：天空、ここでは朝廷の喩え。三君子 長安にいる旧友たち、前記の名を指す。一病翁 白居易自身を客観視して言う。蘭省：尚書省（宮中の図書を扱う）。錦帳：錦織のとばり。膠漆：にかわとうるし、両者を混ぜると緊密に固まるので、不変の友情の喩えに用いる。半路：（人生の道半ば）。雲泥跡不同：雲泥の差が付いた。無生三昧觀：生死を超脱し、悟りを開いた境地。一照：同じ仮の現象、仏教語。空：現象界には固定的実体がなごと、仏教語。

（新釈漢文大系 白氏文集 四）

★唐 白居易

賦得古原草送別

古原草を賦し得て送別す

離離原上草

離々たり原上の草

一歲一枯榮

一歲一たび枯榮す

野火燒不盡

野火焼けども尽きず

春風吹又生

春風吹いて又生ず

遠芳侵古道

遠芳 古道を侵し

晴翠接荒城

晴翠 荒城に接す

又送王孫去

又王孫の去るを送れば

萋萋滿別情

萋々として別情満つ

【語釈】

賦得一：詩題を指定したり、詠む部分を限ったりして作った場合、詩題の前に「賦得一」と附ける。離離…：ふさふさとしたさま。枯榮…：枯れ又榮える。野火…：のび。遠芳…：か彼方まで続く芳しい春の草花。・侵…：（いつとはなしに、そろそろとひそかに）おかす。次第に入り込む。晴翠…：晴れた空の下の緑の草木。荒城…：雑草に埋まった城壁。王孫…：貴族の子弟。萋萋…：草が茂って伸びているさま。別情…：別れの思い。

★唐 白居易

薔薇正開春酒初熟因招劉十九張大夫崔二十四同飲

薔薇正しやうひまなに開あきて春酒初めて熟し 因りて劉十九張大夫・崔二十四を招まねきて同飲す

甕頭竹葉經春熟

甕頭おうとうの竹葉ちやくよう 春を経て熟し

階底薔薇入夏開

階底かいていの薔薇びい 夏にい入りて開く

似火淺深紅壓架

火に似て淺深くれない 紅 架をおさし

如錫氣味綠黏臺

錫あめの如き氣味 綠 台に粘る

試將詩句相招去

試みに詩句を將もつて 相招去あしやうきよせん

倘有風情或可來

倘もし 風情有らば 或いは來きたるべし

明日早花應更好

明日 早花 応に更に好よにかるべし

心期同醉卯時杯

心に期す 同どうじく 卯時うしの杯に醉まわんことを

【語釈】

竹葉：竹葉酒、竹の葉に浸した銘酒。餒…あめ。薔薇…ばら。招去…去は招く意、志を表す接尾辞。早花：朝に咲く花、早芳。卯時盃…卯時（午前六時頃）に飲む朝酒。

（新釈漢文大系 白氏文集 四）

★唐 白居易

聞夜砧

夜砧を聞く  
よるきぬた

誰家思婦秋擣帛

誰が家の思婦か 秋に帛を擣はくつ

月苦風凄砧杵悲

月つき苦え風かぜ凄すさまじく 砧杵ちんしよ悲し

八月九月正長夜

八月九月 正に長き夜

千聲萬聲無了時

千声万声 了おわる時無し

應到天明頭盡白

応に 天明ていめいに到らば 頭かしら尽つく白かるべし

一聲添得一莖絲

一声 添え得たり 一莖けいの糸

【語釈】

聞夜砧：夫を思う妻が夜なべの砧（きぬた）を打つ仕事をしていること。思婦：（不在の）夫を思う妻。擣帛：きぬをうすでつく。月苦：月がさえる。砧杵：砧杵悲：きぬたを打つ音が悲しげに響いてくる。天明：夜明け。一莖：ひとすじ。絲：白髪。

（新釈漢文大系 白氏文集 四）

★唐 白居易

勸酒

酒を勧む

勸君一盃君莫辭

君に勧む一盃君 辞する莫かれ

勸君兩盃君莫疑

君に勧む兩盃 君疑がう莫かれ

勸君三盃君始知

君に勧む三盃 君始めて知らん

面上今日老昨日

面上 今日 昨日より老ゆるを

心中醉時勝醒時

心中 酔う時 醒むる時に勝ざるを

天地迢迢自長久

天地 迢々として 自ら長久

白兔赤鳥相趁走

白兔 赤鳥 相い趁いて走る

身後堆金拄北斗

身後 金を 堆くして 北斗を拄うるも

不如生前一樽酒

如かず 生前一樽の酒に

君不見春明門外天欲明

君見ずや 春明門外 天明けんど欲し

喧喧歌哭半死生

喧々たる歌哭 半ば死生す

遊人駐馬出不得

遊人 馬を駐めて出で得ず

白與紫車爭路行

白与 紫車 路を争いて行く

歸去來 頭已白

歸去來 頭 已に白く

典錢將用買酒喫

錢を典して將つて用いて酒を買いて喫せん

【語釈】

面上…容貌。迢迢…遙かなさま。白兔…月のこと。赤鳥…太陽のこと。趁…追う、従う。身後…死後。拄北斗…北斗は多くの星の中で最高のところにある、これをささえるのは、高く積むことの形容。春明門…京城の門、三門のうち中の門。死生…死。遊人…遊びに行く人。白與…白木のこし、葬送に用いる。紫車…紫色の木の車、葬送に用いる。歸去來…帰りなんいざ。典錢…質入れをしてお金を借りる。

(新釈漢文大系 9)

★唐 白居易

醉中對紅葉

紅葉に對す

臨風杪秋樹

風に臨む 秋杪の樹

對酒長年人

酒に對す 長年の人

醉貌如霜葉

醉貌は霜葉の如し

雖紅不是春

紅なりと雖も 是れ春ならず

【語釈】

醉中對紅葉：酔つて、もみじ葉と向かいあう。臨風：風に当たる。杪秋：秋の末。  
對酒：酒を飲もうとする時。長年：長生きする。醉貌：酔った顔つき。霜葉：霜  
で赤くなつた葉。雖：〜だけれども、〜といつても。不是：（Aは）Bではない。

（新釈漢詩大系 白氏文集 四）

★唐 白居易

遺愛寺

遺愛寺

弄石臨溪坐

石を弄び 溪に臨みて坐し

尋花繞寺行

花を尋ずね 寺を繞りて行く

時時聞鳥語

時々 鳥語を聞く

處處是泉聲

処々 是れ泉声なり

【語釈】

時時：常に（当時の俗語）。處處：いたるところ。

（新釈漢文大系 白氏文集 三）



★唐 白居易

夜雪

夜雪

已訝衾枕冷

已まに衾枕きんしんの冷ひややかなるを訝いぶり

復見窗戶明

復またた窓戶まどの明あらかなるを見る

夜深知雪重

夜深よこくして雪ゆきの重おもきを知る

時聞折竹聲

時ときに折竹せつちくの聲こゑの聞きこゆれば

【語釈】

訝：いぶかる。衾枕：掛け布団とまくら。窗戸：窓。

(新釈漢文大系 二下)

★唐 白居易

問劉十九

劉十九に問う

綠螳新醕酒

綠螳りよとく新醕しんぱうの酒

紅泥小火爐

紅泥こうでい小火こゑの爐ろ

晚來天欲雪

晚來ばんらい天あま雪ゆきふらんと欲ほす

能飲一杯無

能よく一杯いぱいを飲のむや無なや

【語釈】

劉十九：劉軻、不詳。綠螳：碧色の美酒。新醕：新しく醸した酒。紅泥：赤く燃える練炭。爐：炉。晚來：夕方から。能：可能。

(新釈漢文大系 白氏文集 四)

★唐 白居易

戯題新栽薔薇

戯れに新栽の薔薇に題す

移根易地莫憔悴

根を移し地を易<sup>か</sup>うるも 憔悴する莫れ

野外庭前一種春

野外庭前 一種の春

少府無妻春寂寞

少府 妻無くして 春寂寞<sup>せきはく</sup>

花開將爾当夫人

花開かば爾<sup>なんじ</sup>を將<sup>も</sup>つて夫人に当てん

【語釈】

憔悴：やせ衰える、枯れる。一種：一様に。少府：県尉である白居易。寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。

(新釈漢文大系 白氏文集 三)

★唐 白居易

閑坐

閑坐<sup>かんざ</sup>

暖擁紅爐火

暖かく擁<sup>い</sup>だく紅炉の火

閑搔白髮頭

閑<sup>しずか</sup>に搔く白髮の頭

百年慵裏過

百年 慵裏に過<sup>こ</sup>し

萬事醉中休

万事 醉中に休む

有室同摩詰

室に有りて摩詰と同じ

無兒比鄧攸

兒無くして鄧攸に比

莫論身在日

身在る日を論ずる莫かれ

身後亦無憂

身後も亦た憂い無し

★唐 白居易

落花

落花

留春春不住

春を留むれども春住まらず

春歸人寂寞

春歸りて人寂寞たり

厭風風不定

風を厭えども風定らず

風起花蕭索

風起りて花蕭索たり

既興風前歎

既に風前の歎を興こし

重命花下酌

重ねて花下の酌を命ず

勸君嘗綠醕

君に勧めて綠醕を嘗めしめ

教人拾紅萼

人を教て紅萼を拾わしむ

桃飄火燄燄

桃は飄って火燄々たり

梨墮雪漠漠

梨は墮ちて雪漠々たり

獨有病眼花

独り眼花を病む有るのみ

春風吹不落

春風 吹き落ちず

【語釈】

春歸：春が過ぎ去る。寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。定：治まる。蕭索：めぐり漂うさま。風前歎：風前の灯のように老い先短いことの歎き。綠醕：美酒。紅萼：紅い花びら。燄燄：美しく盛んなさま。漠漠：一面に続いているさま。眼花：白内障などによる、かすみ目。

(新釈漢文大系 9)

★唐 白居易

適意二首其一

適意二首其一

十年爲旅客

十年 旅客りよかくと爲り

常有飢寒愁

常に飢寒きかんの愁ない有り

三年作諫官

三年 諫官かんかんと作り

復多尸素羞

復た尸素しその羞多し

有酒不暇飲

酒有れども飲むに暇あらず

有山不得遊

山有あれども遊ぶを得ず

豈無平生志

豈あに平生の志 無からんや

拘牽不自由

拘牽こうけんせられ 自由ならず

一朝歸渭上

一朝 渭上いじょうに帰り

泛如不繫舟

泛はんたること 舟を繫がざるが如し

置心世事外

心を世事の外に置き

無喜亦無憂

喜び無く亦また憂まいも無し

終日一蔬食

終日 一蔬食いちじゆうしよく

終年一布裘

終年 一布裘いちちふい

寒來彌嬾放

寒来たりれば 彌いよいよ嬾放らんほう

數日一梳頭

數日 一たびの頭を梳くしけず

朝睡足始起

朝には 睡ねむり足りて始めて起き

夜酌醉即休

夜には 酌み酔よめいて即ち休む

人心不過適

人心 適てきに過ぎず

適外復何求

適外 復また何をか求めん

【語釈】

旅客…故郷を離れた旅人。諫官…皇帝を諫める役（この場合左拾遺）。尸素…ごくつぶし、給料泥棒。平生志…平生懐いている信念。拘牽…官職や地位に拘束されること。渭上…渭水のほとり。泛…うわついたさま。世事…世間の俗事。蔬食…野菜ばかりの粗末な食事。布裘…綿入れの着物。嬾放…ものぐさでずぼら。

（新釈漢文大系 二上）

★唐 白居易

官舎小亭閑望

かんしゃしょうてい かんぼう

風竹散清韻

風竹 清韻を散じ

煙槐凝綠姿

煙槐 綠姿を凝らす

日高人吏去

日高くして 人吏去り

閑坐在茅茨

閑坐して茅茨に在り

葛衣禦時暑

葛衣 時暑を禦ぎ

蔬飯療朝飢

蔬飯 朝飢を療やす

持此聊自足

此を持って聊か自ら足り

心力少營爲

心力 業為少なし

亭上獨吟罷

亭上 独り吟ずるを罷め

眼前無事時

眼前 事なき時

數峰太白雪

數峰 太白の雪

一卷陶潛詩

一卷 陶潛の詩

人心各自是

人心 各 自ら是とし

我是良在茲

我が是とするは良に茲に在り

迴謝爭名客

迴つて名を争う客に謝し

甘從君所嗜

君が嗜う所に從すに甘んぜん

【語釈】

風竹：風にそよぐ竹。清韻：清らかな音。人吏：現地採用の下級役人。在「於」と同用の前置詞。茅葺きの粗末な家。葛衣：葛の布で作った夏用の衣。時暑：夏季の暑さ。蔬飯：野菜のおかずだけの粗末な食事。持此：このような生活態度を保つて。心力：精神と体力。營為：あくせく苦勞すること。独吟：ひとり詩を吟

ずること。眼前さしあたり。無事…何事もなく平穏なこと。太白…太白山、終南山の最高峰。自是…分の思想・言行をよしと思う。良…ほんとうに。廻…とつて返して。謝…あいさつをする。

(新釈漢文大系 二上)

★唐 白居易

客中の月

客中の月  
かくちゆう

客從江南來

客 江南從り來たる

來時月上弦

來たる時 月上弦なりき

悠悠行旅中

悠悠たる行旅の中

三見清光圓

三たび清光の円なるを見る

曉隨殘月行

曉には 殘月に隨いて行き

夕與新月宿

夕には新月と宿す

誰謂月無情

誰か謂う 月に情無しと

千里遠相逐

千里 遠く相逐えるに

朝發渭水橋

朝には 渭水の橋を發し

暮入長安陌

暮には 長安の陌に入る

不知今夜月

知らず 今夜の月

又作誰家客

又 誰が家の客と作るかを

【語釈】

客中：旅行中。江南：長江下流域、江蘇省あたり。悠悠：はるばると遠い旅路。  
清光：月の明かり。逐：おいかける、したがう。渭水橋：長安城の西にかかる橋。  
長安から西へ行く旅人は渭水にかかる橋をわたって出発した。陌：東西にのびる道。



★唐 杜牧

秋浦途中

しゅうほうちゅう

蕭蕭山路窮秋雨

蕭々たる山路 窮秋の雨

浙浙溪風一岸蒲

浙浙たる溪風 一岸の蒲

爲問寒沙新到雁

爲に問う 寒沙 新到の雁に

來時還下杜陵無

來時 還た 杜陵に下りしや無と

【語釈】

秋浦：安徽省貴地県の西南の地方、李白の「秋浦の歌」で有名。蕭蕭：物寂しい様。窮秋：晩秋。浙浙：風、鈴などのさびしい音の形容。蒲：がま。寒沙：冬の砂浜。還：もしも。杜陵：西安市雁塔区、杜牧の故郷。

(漢詩大系 14)

★唐 杜牧

春尽途中

春尽くる途中

田園不事来遊宦

田園 事とせず 来たりて遊宦す

故国誰教爾別離

故国 誰か爾をして別離せ教しむ

独倚関亭還把酒

独り関亭に倚りて 還た酒を把る

一年春尽送春時

一年 春尽きて 春を送るの時

【語釈】

遊宦：地方に行つて役人になること。故国：故郷。関亭：宿場の宿。倚：身を任せる。

(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

念昔遊 其三

昔遊を念う

李白題詩水西寺

李白詩を題す 水西寺すいせいじ

古木廻巖樓閣風

古木 廻巖かいがん 樓閣ろうかくの風

半醒半醉遊三日

半醒はんせい 半醉はんすい 遊あそぶふこと三日さんじつ

紅白花開山雨中

紅白花は開く 山雨さんうの中うち

【語釈】

昔遊：昔遊んだこと。水西寺：安徽省宣城の水西山の上にあつた三つの寺の総称。廻巖：巖を取り巻いている。半醒半酔：ほろ酔い。三日：三日間。

(漢詩大系 14)

★唐 杜牧

新定途中

新定の途中しんてい とうちゅう

無端偶效張文紀

端はしなく無たまたも 偶ちようふんま張文紀かみに効かならい

下杜郷園別五秋

下杜の郷園 別れること五秋

重過江南更千里

重ねて過ぐ江南 更に千里

萬山深處一孤舟

万山深き処 一孤舟

【語釈】

新定：浙江省杭州市建德。途中：左遷されて赴任する途中。無端：ゆくりなく、おもいも依らず。張文紀：張綱、侍御史として在任していたとき、外戚で權勢者の大將軍梁冀りようき兄弟を弾劾したが、順帝に聴き入れられず、広陵の太守に左遷された。自分も同じ運命。陝西省西安市の地名。

(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

山行

山行

遠上寒山石徑斜

遠く寒山に上れば石徑斜めなり

白雲生處有人家

白雲生ずる処 人家有り

停車坐愛楓林晚

車を停めて 坐まどろむに愛す 楓林の晩くれ

霜葉紅於二月花

霜葉は二月花よりも紅なり

【語釈】

寒山：秋から冬にかけての、さむざむとした山。石径：石の多い小道。白雲：俗世間を離れた境地を表現している。生処：湧き上がってくるところ。坐：「そぞろに」と読み、「何とはなしに」「何となく」と訳す。愛：鑑賞する。楓林：カエデの林。紅葉林。霜葉：霜にうたれて紅葉した葉。於：「Aく於B」の形で「AはBより（も）く（なり）」と読み、「AはBよりもくだ」と訳す。比較の対象を示す。ちなみにこの句から「紅於」が楓かえでの別称となった。二月花：陰暦二月。桃の花を指す。

（三体詩）（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

題齊安城樓

齊安の城樓に題す

鳴軋江樓角一聲

鳴軋たり江樓の角一聲

微陽激激落寒汀

微陽激々たる寒汀に落つ

不用憑欄苦廻首

欄に憑りて苦に廻首するを用いず

故郷七十五長亭

故郷七十五長亭

【語釈】

齊安城：広東省恩平市（杜牧はこの刺史であった）。鳴軋：悲しみに泣くような声。江樓：川に面した高殿。角：角笛。微陽：かすかな日の光。激激：水が日の光できらめくさま。寒汀：寒々とした渚。落：ここでは照らすの意。憑欄：欄干にもたれかかる。苦：ねんごろ、ねんいり。廻首：顔を向ける。故郷：住むべき所、ここでは長安。長亭：十里毎にある宿場、七十五長亭は、七百五十里。

（漢詩大系 14）

★唐 杜牧

初冬夜飲

初冬の夜飲

淮陽多病偶求權

淮陽多病にして 偶たま權を求む

客袖侵霜与燭盤

客袖 霜に侵されて 燭盤を与にす

砌下梨花一堆雪

砌下の梨花 一堆の雪

明年誰此凭欄干

明年 誰か此に 欄干に凭らん

【語釈】

淮陽多病：漢の時代の汲黯が淮陽の太守に任ぜられたとき、多病を理由に辞退した故事に自分をたとえている。權：よろこび、ここでは酒を飲むこと。客袖：旅衣。燭盤：燭台。砌下：階段のもと。凭：もたれかかる。

（漢詩大系 14）

★唐 杜牧

念昔遊三首其一

昔遊を念う三首 其の一

十載飄然繩檢外

十載 飄然たり 繩檢の外

樽前自獻自爲酬

樽前 自ら献じ自ら酬を爲す

秋山春雨閑吟處

秋山 春雨 閑吟する處

倚遍江南寺寺樓

倚ること遍し 江南 寺々の樓

【語釈】

念昔游：昔の遊行をおもいおこす。十載：十年。飄然：ふらふらとして居所が定まらないさま。繩檢：規範。自獻：自分で自分に（酒を）注ぐ。自爲酬：自分で（酒を）受ける。秋山春雨：どの季節も。閑吟：詩歌などを静かに口ずさむ。倚：寄りそう。遍：あまねく。江南：中国の沿岸部の長江以南。  
（漢詩大系 9）

★唐 杜牧

和州絶句

和州絶句

江湖醉渡十年春

江湖 酔いて渡る 十年の春

牛渚山邊六問津

牛渚山 邊 六たび津を問う

歴陽前事知何實

歴陽の前事 知る何の實ぞ

高位紛紛見陷人

高位 紛々 陥いらるる人

【語釈】

和州：安徽省馬鞍山市和県。江湖：世の中、浮き世。牛渚山：安徽省馬鞍山市にある山。歴陽前事：が陥没した話。紛紛：混じり入り乱れるさま、多いさま。  
（杜樊川絶句詳解）

★唐 杜牧

清明

清明

清明時節雨紛紛

清明の時節 雨粉々

路上行人欲斷魂

路上の行人 魂を断たんと欲す

借問酒家何處在

借問す 酒家は何れの処にか在る

牧童遙指杏花村

牧童遙かに 指さす杏花の村

【語釈】

清明：清明節。春分から数えて十五日目から三日間。紛紛：（花や雪などが）散り乱れるさま。行人：道を行く人、旅人。斷魂：心が滅入る。借問：ちよつとお尋ねするが。酒家：酒屋、飲み屋。杏花村：杏の花が咲いている村。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

宣州開元寺南樓

宣州開元寺の南樓

小樓纔受一牀橫

小樓 纔かに受く 一牀の横たわるを

終日看山酒滿傾

終日 山を看て 酒満を傾く

可惜和風夜來雨

惜しむべし 和風 夜來の雨

醉中虛度打窗聲

酔中 虚度 窓を打つ声

【語釈】

宣州開元寺：宣州宣城県の城内北側にあった寺。小樓：小さな二階の部屋。牀：寝たり腰掛けたりする器具。酒滿：多くの酒。和風：和やかな風、多くは春風。虚度：空しく時間をやり過ぐす。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

蘭溪

蘭溪

蘭溪春盡碧泱泱

蘭溪春盡きて碧泱々

映水蘭花雨發香

水に映ずる蘭花 雨に香りを發す

楚國大夫憔悴日

楚國の大夫 憔悴の日

應尋此路去瀟湘

応に此の路を尋ねて瀟湘に去るべし

【語釈】

蘭溪：湖北省境を流れて長江に注ぐ川。泱泱：水の多い様。楚國大夫：屈原。瀟湘：瀟水が湘水に合流した後の湘水の下流で洞庭湖に近いところ、瀟湘八景で名高い。

（新釈漢文大系 詩人編9）

★唐 杜牧

泊秦淮

秦淮に泊す

煙籠寒水月籠沙

煙は寒水を籠め 月は沙を籠む

夜泊秦淮近酒家

夜秦淮に泊して酒家に近し

商女不知亡國恨

商女は知らず 亡國の恨みを

隔江猶唱後庭花

江を隔てて猶唱う「後庭花」

【語釈】

秦淮：建康（南京）を貫流して長江へ注ぐ古代の運河。煙：霞は靄。寒水：寒々とした冬の川。籠：月光が河の砂に射している。・籠：つつみこむ。沙：砂州。酒家：酒屋、飲み屋。商女：妓女。亡國恨：嘗てここに都を構えていた南朝の陳の後主が酒色に耽り、國を亡ぼしたという。後庭花：『玉樹後庭花』。南朝の陳の後主が作った詩。

（漢詩大系 9）

★唐 杜牧

汴河懷古

べんがかいこ

錦纜龍舟隋煬帝

きんらん りゆうしゆう  
錦纜の龍舟は隋の煬帝

平臺複道漢梁王

へいだい ふくどう  
平臺の複道は漢の梁王

遊人間起前朝念

ゆうじん かん  
遊人間に起こす前朝の念

折柳孤吟斷殺腸

せつりゆうひと  
折柳孤り吟ずれば腸を斷殺す

【語釈】

錦纜：錦で作ったとも綱。龍舟：皇帝の御座船。平臺：河南省商丘県にある台の名、梁の武王が築いた物。複道：二階建ての廊下。遊人：旅人。間：そぞろ。前朝：昔の王朝。折柳：折楊柳の曲。斷殺腸：腸がちぎれて死ぬほど悲しくなる。  
〔新釈漢文大系 詩人編9〕

★唐 杜牧

遣懷

懐いを遣る

落魄江湖載酒行

こつしつ  
江湖に落魄して酒を載せて行く

楚腰纖細掌中輕

そよう せんさい  
楚腰 纖細 掌中に輕し

十年一覺揚州夢

じゅうねんいっかく  
十年一覺 揚州の夢

贏得青樓薄倖名

か  
贏ち得たり 青樓 薄倖の名

【語釈】

遣懷：詩歌を作つて憂さを晴らすこと。落魄：自墮落な生活を送る。江湖：ここでは江南地方。載酒：酒樽・酒壺を船に積み込むこと。楚腰：ほっそりした腰の楚の国の美女。掌中輕：手のひらの上で舞うことができるほど輕い。一覺：一ひとたび覚める。揚州：今の江蘇省揚州市。贏得：結局得たのはただそれだけであった。青樓：妓楼。薄倖：ここでは浮気男。

〔漢詩大系 9〕



★唐 杜牧

題烏江亭

烏江亭に題す

勝敗兵家事不期

勝敗は 兵家も 事期せず，

包羞忍恥是男兒

羞を包み恥を忍ぶは 是れ男兒。

江東子弟多才俊

江東の子弟 才俊多し，

捲土重來未可知

捲土重來 未だ知るべからず

【語釈】

烏江亭：安徽省の長江北岸にある亭。項羽と劉邦の天下争覇で、敗れた項羽が舟での戦場離脱を拒んだところ。烏江：安徽省東部を流れる川であり地名。・兵家：兵法家。事不期：予期することができない。男兒：立派な男である。是：強意の助辞、…である。江東：烏江の東側にある項羽の根拠地。才俊：才能にひいでた人物。捲土重來：砂塵を巻き起こす勢いで、再びやってくる。未可知：その結果はどうなるかは、まだ、知ることができない。

（漢詩大系 9）

★唐 杜牧

汴河阻凍

汴河にて凍れるに阻まる

千里長河初凍時

千里の長河 初めて凍る時

玉珂瑤珮響參差

玉珂 瑤珮 響きて參差たり

浮生恰似冰底水

浮生 恰かも似たり 氷底の水に

日夜東流人不知

日夜 東流するも 人知らず

【語釈】

汴河：隋の煬帝が造った大運河の中、黄河と淮河を結ぶ部分。・玉珂：馬のくつわにつける玉の飾り。瑤珮：貴人が腰に帯びる玉。參差：そっくり、本来は不揃いである様。浮生：はかない人生。

（新釈漢文大系 詩人編9）

★唐 杜牧

南陵道中

南陵の道中

南陵水面漫悠悠

南陵の水面漫として悠々たり

風緊雲輕欲變秋

風緊しく雲輕くして秋に變ぜんと欲す

正是客心孤迥処

正に是れ客心孤迥の処

誰家紅袖凭江樓

誰が家の紅袖か江樓に凭れる

【語釈】

南陵：安徽省南陵。漫：水が広々と広がっているさま。悠悠：ゆったりとしたさま。客心：旅心。孤迥：独りで遙か。紅袖：赤く美しい袖のある着物を着た若い女性凭：よりかかる。もたれる。江樓：川沿いの建物

(新釈漢文大系 詩人編9)

★唐 杜牧

將赴吳興登樂遊原一絶

將に吳興に赴かんとして樂遊原に登る 一絶

清時有味是無能

清時に味有るは是れ無能

閒愛孤雲靜愛僧

閑に孤雲を愛し 静に僧を愛す

欲把一麾江海去

一麾を把りて 江海に去かんと欲し

樂遊原上望昭陵

樂遊原上 昭陵を望む

【語釈】

樂遊原：長安の南東、曲江の北にあった台地、人々の遊覧の場所であった。清時：世の中が良く治まったとき。麾：州の長官の旗指物。江海：地方。昭陵：唐朝の礎を築いた（貞觀の治）太宗の陵。

(新釈漢文大系 詩人編9)

★唐 杜牧

贈漁父

漁父に贈る

芦花深沢静垂綸

芦花 深沢 静かに綸を垂る

月夕煙朝幾十春

月夕 煙朝 幾十春

自説孤舟寒水畔

自ら説く 孤舟 寒水の畔

不曾逢着独醒人

曾て 独醒の人に逢着せずと

【語釈】

漁父：老漁師。綸：釣り糸。月夕：月の出る夕方。煙朝：霧の立ちこめる朝。幾十春：幾十年。独醒人：屈原。逢着：逢着：出逢う。

(新釈漢文大系 詩人編9)

★唐 杜牧

春盡途中

春尽途中

田園不事來遊宦

田園 事とせず 来りて遊宦す

故國誰教爾別離

故国誰か爾をして別離せしむ

獨倚關亭還把酒

独り関亭に倚りて還た酒を把る

一年春盡送春時

一年春尽きて春を送る時

【語釈】

春盡途中：春の終わりに旅の途中での作。遊宦：故郷を離れて官吏となること。故國：故郷。關亭：関所にある楼台。

(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

禪院に題す

禪院に題す

舩船一棹百分空

舩船一棹 百分空し

十歳青春不負公

十歳の青春 公に負かず

今日鬢糸禪榻畔

今日鬢 禪榻の畔

茶煙輕颺落花風

茶煙 軽く颺る 落花の風

【語釈】

舩船：角で出来た舟の形をした大杯。一棹：ぐいっと一飲み（舩船と言ったので・百分：多くの憂い。或いは、すっかり全部。空：空になる。十歳：十年。不負公：誰にも負けない。鬢糸：白髪交じりの鬢。禪榻：禪寺の長いす。

（新釈漢文大系 詩人編9）

★唐 杜牧

寄揚州韓綽判官

揚州の韓綽判官に寄す

青山隱隱水迢迢

青山 隱々 水 迢々

秋盡江南草木凋

秋尽きて 江南 草木凋る

二十四橋明月夜

二十四橋 名月の夜

玉人何處教吹簫

玉人 何れの処にか 吹簫を教う

【語釈】

青山：青く見える山。隱隱：かすんではつきりしないさま。迢迢：はるかに遠くまで続いている様子。草木凋：草木が枯れる。二十四橋：揚州城の内外の水路にかかった虹橋。玉人：貴公子、韓綽を指す。吹簫：簫の笛を吹く。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

江南春絶句

江南の春 絶句

千里鶯啼綠映紅

千里鶯啼いて緑紅に映ず

水村山郭酒旗風

水村山郭酒旗の風

南朝四百八十寺

南朝四百八十寺

多少樓臺煙雨中

多少の樓台煙雨の中

【語釈】

江南：長江下流の南側の地方。水村：水辺の村、山郭：山沿いの聚落の外周の建物。酒旗：酒屋の看板になっている旗、青色。南朝：四二〇年～五八九年の間に、江南の地に興った六朝（呉、東晉、宋、齊、梁、陳）の中の宋、齊、梁、陳の四王朝で、建康（南京）を首都とした。多少：多くの。煙雨：霧雨。  
（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

送隱者一絶

隠者を送る 一絶

無媒徑路草蕭蕭

無媒の徑路草蕭々

自古雲林遠市朝

古え自り雲林市朝に遠ざかる

公道世間唯白髮

世間に公道たるは唯だ白髮

貴人頭上不曾饒

貴人の頭上にも曾つて饒さず

【語釈】

無媒：人里離れた寂しい所。逕路：こみち。蕭々：ものさびしいさま。草がゆれうごくさま。雲林：隠者の住む処。雲のたちこめる山深き林の中。市朝：人のおおぜい集まる場所。公道：公平な。貴人：身分の高い人。不曾：決してくしない。不曾饒：ゆるさない、貴人の頭も白髪となる。

★唐 杜牧

溶溶漾漾白鷗飛

綠淨春深好染衣

南去北來人自老

夕陽長送釣船歸

漢江

溶々漾々白鷗飛

綠淨く春深くして衣を染むるに好し

南去北來 人自から老ゆ

夕陽長く送る 釣船の帰るを

漢江

【語釈】

漢江：陝西省西部に源を發し、東に流れ、武漢で長江に注ぐ。溶溶 水がこんこんとたたたえているさま。漾漾：水面がゆらゆら揺れているさま。南去北來：南へ行ったり、北へ行ったりすること。

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

長洲苑外草蕭蕭

却算遊程歲月遙

唯有別時今不忘

暮煙秋雨過楓橋

懷吳中馮秀才

長洲苑外草蕭々

却つて遊程を算うれば 歲月遙かなり

唯だ別時の 今に忘れざる有り

暮煙 秋雨 楓橋を過ぐ

吳中の馮秀才を懷う

【語釈】

吳中：江蘇省呉県（蘇州市）。馮秀才：馮という姓の科挙試験合格者。長洲苑：古の苑の名、春秋時代の呉王・闔閭が遊獵した処。蕭蕭：ものさびしいさま。卻：かえって。遊程：旅路の行程。唯有：ただ。だけがある。別時：別れたとき。暮煙：夕暮れに立つもや。楓橋：江蘇省蘇州市の郊外にある橋の名。

(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

贈別

贈別

多情却似總無情

多情は却つて似たり 総て無情なるに

惟覺罇前笑不成

惟覺ゆ 罇前 笑の成らざるを

蠟燭有心還惜別

蠟燭 心有りて 還た別れを惜しみ

替人垂淚到天明

人に替わりて涙を垂れ 天明に到る

【語釈】

多情：感情が豊かで、感じやすいこと。無情：感情が乏しいこと。覺：気づく、自覚する。罇：酒壺。笑不成：哀しみのために笑顔を作ることができない。心：ろうそくの芯（心と同音）にかけている。還：また。替人：私に代わつて。天明：夜明け。

（唐詩三百首）

★唐 杜牧

金谷園

金谷園

繁華事散逐香塵

繁華の事散じて 香塵を逐う

流水無情草自春

流水無情草 自から春なり

日暮東風怨啼鳥

日暮 東風 啼鳥を怨む

落花猶似墮樓人

落花は猶お似たり 墮樓の人に

【語釈】

金谷園：西晋の石崇が洛陽の北の金谷に建てた別荘の庭園で、石崇は、ここで愛妾の緑珠と暮らしていた。繁華事：昔、金谷園で遊んだこと。香塵：香りの良い塵。墮樓人：身投げをした人、石崇の愛妾の緑珠のこと。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

題宣州開元寺水閣

宣州の開元寺の水閣に題す

六朝文物草連空

六朝の文物草空に連なり

天澹雲閑今古同

天澹く雲閑にして今古同じ

鳥去鳥來山色裏

鳥去り鳥来る山色の裏

人歌人哭水聲中

人歌い人哭す水声中

深秋簾幕千家雨

深秋簾幕千家の雨

落日樓臺一笛風

落日樓台一笛の風

惆悵無因見范蠡

惆悵す范蠡を見るに因無きを

參差煙樹五湖東

參差たる煙樹五湖の東

【語釈】

宣州：安徽省東南の宣州市。開元寺：現安徽省宣州宣城にある寺院で、正式の名称は永樂寺。水閣：水辺に建てたたかどの。六朝：六つの王朝のことで、後漢の滅亡後、建業（南京）に都した六つの王朝：文物：文化の産物。札法音楽学問芸術など、文化的な制度。澹：やすらか、穏やか。閑：しずか。今古：今と昔。山色：山の景色。水声：川の水音。深秋：晩秋。簾幕：スダレと幕。千家：多くの家々。一笛風：風に乗って、一人で吹く笛の音が聞こえて来ること。惆悵：うらみなげくさま。無因：わけが無い。見：会う、見る。范蠡：越王勾践に仕え、呉王夫差を討って会稽の恥を雪（すす）がせ、自分の果たすべき事をした後、隠棲をするとして湖に舟を浮かべて過ごした。參差：長短不揃いのさま。煙樹：靄の中に霞んで見える木。五湖：太湖を及びその周辺の湖。



★唐 杜牧

自宣城赴官上京

宣城より官に赴き上京す

瀟灑江湖十過秋

瀟灑たり 江湖に 十たび 秋を過ぐす

酒杯無日不淹留

酒杯 日に 淹留せざるごと無し

謝公城畔溪驚夢

謝公の 城畔 溪 夢を驚かし

蘇小門前柳拂頭

蘇小の 門前 柳 頭を払う

千里雲山何處好

千里の 雲山 何處か 好き

幾人襟韻一生休

幾人か 襟韻して 一生休まん

塵冠挂卻知閑事

塵冠 挂却して 閑事を知り

終擬蹉跎訪舊遊

終に 蹉跎を擬して 旧遊を訪ねん

【語釈】

自…より。宣城…安徽省宣城県。赴官…官に着く。上京…首都に上る。瀟灑…さつぱりして清らか。江湖…江南の地方。十過秋…十回秋を過ぐす、十年が経ったこと。無日…一日もない。淹留…とどまる、滞在する。謝公城畔…宣城のほとり。驚夢…目が覚める。蘇小…蘇小小のこと、南齊時代の才媛の妓女。拂頭…頭を撫でる。千里…遙か長大な路程。雲山…雲のかかった高い山。襟韻…心の持ち方がすぐれておもむきのあること。塵冠…俗世間の官僚。一生休…一生を終える。挂…かける。ひっかける。わける。卻…し去る、し棄てる、動詞の後に付き動詞を強調する。閑事…余計なこと。つまらないこと。塵冠…俗世間の官職知…分かる。どうでもいいこと。終…ついに、しまいに。擬…なぞらえる。真似る。似せる。しようと思う。蹉跎…躓く、時機を失う。訪…おとずれる。舊遊…昔、遊んだところ。また、旧友。

★唐 杜牧

九日齊山登高

九日齊山に登高す

江涵秋影雁初飛

江は秋影を涵して 雁初めて飛び

與客攜壺上翠微

客と壺を携えて 翠微に上る

塵世難逢開口笑

塵世 逢い難し 開口の笑い

菊花須插滿頭歸

菊花 須く滿頭に挿して帰るべし

但將酩酊酬佳節

但だ 酩酊を將つて 佳節に酬いん

不用登臨恨落暉

用いず 登臨して 落暉を恨むを

古往今來只如此

古往今來 只だ此くの如し

牛山何必獨霑衣

牛山 何ぞ必ずしも 涙衣を霑さん

【語釈】

九日：陰曆九月九日の重陽の日。齊山：江州と南京の中間点で、長江南岸の東南3キロメートルのところにある。登高：九月九日の重陽の日の風習で、高い山に登り、家族を思い、菊酒を飲んで厄災を払う習わし。江：長江のこと。涵：水にひたす。秋影：秋げしき。翠微：山の八合目あたり。塵世：俗世間。菊花：邪気を祓うとされるキクの花。滿頭：頭いっぱい。酩酊：ひどく酔う。佳節：おめでたい日。登臨：山に登り水に臨む。落暉：落日、沈む夕日の輝き。古往今來：昔から今まで。牛山：現・山東省臨淄県の南にある山。

(漢詩大系 9)

★唐 杜牧

潤州

潤州

句吳亭東千里秋

句吳亭東 千里の秋

放歌會作昔年遊

放歌會て作す 昔年の遊

青苔寺裏無馬跡

青苔寺裏 馬跡無く

綠水橋邊多酒樓

綠水橋邊 酒樓多し

大抵南朝皆曠達

大抵 南朝 皆 曠達なるも

可憐東晉最風流

可憐 東晉 最も風流

月明更想桓伊在

月明に更に想う 桓伊在るを

一笛聞吹出塞愁

一笛吹くを聞 出塞の愁い

【語釈】

潤州…江蘇省鎮江市。句吳亭…潤州にあった亭。放歌…勝手気ままに歌う歌。昔年遊…昔、揚州の牛僧孺を尋ねて遊んだこと。青苔寺…庭や通路が苔むした寺。酒樓…酒を売る店、妓樓。南朝…江南を占領した五代の王朝。曠達…自由でとらわれない気風。可憐…心が引かれる。桓伊…東晋の人、笛の名人。出塞…出塞行、楽府題、笛の曲。

(新釈漢文大系詩人編9)

★唐 杜牧

宣州送裴坦判官往舒州时牧欲赴官歸京

宣州にて裴坦判官の舒州に往くを送る、時に牧は官に赴いて帰京せんと欲す

日暖泥融雪半銷

日暖く泥融けて雪半ば銷ゆ

行人芳草馬聲驕

行人芳草馬声驕る

九華山路雲遮寺

九華山路雲は寺を遮り

清弋江村柳拂橋

清弋江村柳は橋を払う

君意如鴻高的的

君が意鴻の如く高的々たり

我心懸旆正搖搖

我が心旆を懸けて正に搖々たり

同來不得同歸去

同じく来たりて同じく帰るを得ず

故國逢春一寂寥

故国に春に逢えば一に寂寥たらん

【語釈】

裴坦：杜牧の同僚、後の宰相。舒州：安徽省南部の州、宣州の隣。赴官：新しい官職について赴任する。九華山：宣州の西にある山。清弋江：宣州の西を北に流れて長江に注ぐ川。鴻：おとり。的的：明らかな様。旆：旗の一種。搖搖：揺れ動くさま。故國：故郷の意味だがここでは長安。寂寥：ひっそりとして物寂しいさま。

(新釈漢文大系 詩人編9)

★唐 杜牧

商山麻澗

しょうざんまかん

雲光嵐彩四面合

うんこうらんさいしめんごう

柔柔垂柳十餘家

じゅうじゅうていりゅうしゅうじゅうの家

雉飛鹿過芳草遠

ていひびろくかぎてほうそうとく

牛巷雞埒春日斜

ぎゆうかうけいじしゅんじつ

秀眉老父對罇酒

しゅうめいろうふとんしゅ

蒨袖女兒簪野花

せんしゅうにょじこかんやな

征車自念塵土計

せいしゃみづかおちじんじ

惆悵溪邊書細沙

ちゅうたうけいへんさいせ

【語釈】

商山：長安から行く道の險所、陝西省藍田県から商県に亘る。商山麻澗：商山山中を流れる谿流。雲光：雲が日を受けて光ること。嵐彩：山から発する気が日に照らされて輝く物。四面合：四方いづれの方向にぐるりと繋がっていること。柔：なよなよとしたさま。垂柳：枝を垂らす柳。芳草：香りの良い草。牛巷：牛がゆつたり歩いてる街中の道。雞埒：鶏のねぐら。秀眉：長く秀でたまつげ、長寿を指す。罇酒：酒樽の酒。簪：簪のように刺す。征車：旅を行く車。塵土計：俗世間での身の処し方。惆悵：悲しみ傷むこと。

(漢詩大系 詩人編9)

★唐 杜牧

齐安郡晚秋

齐安郡の晩秋

柳岸風來影漸疎

柳岸 風来たりて 影 漸く疎らなり

使君家似野人居

使君の家は似たり 野人の居に

雲容水態還堪賞

雲容 水態 還た賞するに堪え

嘯志歌懷亦自如

嘯志 歌懷 亦た自如たり

雨暗殘灯碁散後

雨は暗し 殘灯 碁散するの後

酒醒孤枕雁來初

酒は醒む 孤枕 雁来たる初め

可憐赤壁争雄渡

憐れむべし 赤壁 雄を争いし渡

唯有蓑翁坐釣魚

唯だ蓑翁の 坐るに魚を釣る有り

【語釈】

柳岸：柳の植えてある岸。影：柳の葉に酔って作られる影。使君：刺史、ここでは黄州刺史（杜牧自身）。野人：田舎人。雲容：雲の姿。水態：川のありさま。嘯志歌懷：歌を歌おうという志と思ひ。自如：もとのまま。殘灯：燃え尽くそうとする灯火。孤枕：独り寝の枕。可憐：深い感慨、ああ。赤壁：曹操と周瑜が戦った赤壁の戦いの場所。渡：渡し場。蓑翁：蓑を着た翁。

★唐 杜牧

懷吳中馮秀才

吳中の馮秀才を懷う

長洲苑外草蕭蕭

長洲苑外草蕭々たり

却算遊程歲月遙

却つて遊程を算うれば 歲月遙かなり

唯有別時今不忘

唯だ別時の 今に忘れざる有り

暮煙秋雨過楓橋

暮煙 秋雨 楓橋を過ぐ

【語釈】

吳中：江蘇省吳県蘇州市。秀才：科挙の合格者、及び応じた者を指す。長洲苑：古の苑の名、春秋時代の吳王・闔閭が遊獵した処。蕭蕭：ものさびしいさま。卻：反対に。…にもかかわらず、かえつて。(副詞)。予遊程：旅をした道程。旅路の行程。別時：別れる時。暮煙：夕暮れに立つもや。楓橋：江蘇省蘇州市の郊外にある橋の名。  
(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

鄭瓊協律

鄭瓊協律

広文遺韻留樽散

広文の遺韻 樽散を留む

鶏犬凶書共一船

鶏犬 凶書 共に一船

自説江湖不帰事

自ずから説く 江湖に帰ざる事を

阻風中酒過年年

風に阻ばれ酒に中り 年々を過ぐ

【語釈】

鄭瓊協律：協律郎（楽の調剤をする官）であった鄭瓊に贈った詩  
広文：弘文館博士、鄭瓊の祖父は弘文館博士であった。遺韻：昔の遺風。樽散：無能で役に立たない人  
(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

有寄

寄す有り

雲闌煙深樹

雲闌ひろくして 樹煙に深く

江澄水浴秋

江澄みて水浴の秋

美人何處在

美人何れの処にか在る

明月滿山頭

明月 山頭に満つ

【語釈】

美人：君主、賢人。

（杜樊川絶句詳解）

★唐 杜牧

醉眠

酔眠すいみん

秋醪雨中熟

秋醪しゅうろう 雨中に熟し

寒齋落葉中

寒齋かんさい 落葉うちの中

幽人本多睡

幽人本 睡ること多し

更酌一樽空

更に酌くめば 一樽いっせん空し

【語釈】

秋醪：秋に醸すどぶろく。寒齋：さむざむとした秋の書齋。幽人：世俗との交わりを断って静かに隠れ住む人（作者自身）。空：空になる。



★唐 杜牧

題敬愛寺樓

敬愛寺の樓に題す

杜牧

暮景千山雪

暮景 千山の雪

春寒百尺樓

春寒 百尺の樓

獨登還獨下

独り登り 還た独り下る

誰會我悠悠

誰か会せん 我が悠々たるを

【語釈】

敬愛寺…洛陽の東南にあつた寺。春寒…早春の肌寒さ。悠悠…ゆったりとのんびりした様。會…理解する。

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

長安秋望

ちやうあんしゅうぼう

樓倚霜樹外

楼は倚る霜樹の外

鏡天無一毫

鏡天 一毫無し

南山與秋色

南山と秋色と

氣勢兩相高

氣勢 兩つながら相い高し

【語釈】

倚：よりかかる。霜樹：霜が降りて紅葉した木。鏡天：鏡のように明るく澄みわたった空。無一毫：ほんの少しもない。南山：終南山。秋色：秋の景色。氣勢：いきおい。相高：お互いに高め合っている。

(新釈漢文大系 詩人編9)

★唐 杜牧

獨酌

どくしやく

窗外正風雪

窗外 正に風雪

擁炉開酒缸

炉を擁して 酒缸を開く

如何釣船雨

いかんぞや 釣船の雨

篷底睡秋江

篷底 秋江に睡るに

【語釈】

窗外：窓の外。正：ちょうど。擁炉：炉にあたる。酒缸：酒がめ。篷底：舟の中、舟底。秋江：秋の川。  
(杜樊川絶句詳解)

★唐 杜牧

不飲贈酒

飲まず酒に送る

細算人生事

細やかに人生の事を算ずれば

彭殤共一籌

彭殤も共に一籌

與愁爭底事

愁と底事かを争い

要爾作戈矛

爾に戈矛と作るを要む

【語釈】

彭殤…八百歳の長寿を保ったという彭祖と幼くして死んだ子『莊子』の故事による。共一籌…どちらも々結果に過ぎないということ、籌は計算に用いる竹の棒。底事…何（口語的な言い方）。爾…酒に呼びかけて行っている。戈矛…争いの武器。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

題揚州禪智寺

揚州の禪智寺に題す

雨過一蟬噪

雨過ぎて一蟬いっしん噪さう

飄蕭松桂秋

飄蕭ひょうしやうとして松桂しょうけい 秋なり

青苔滿階砌

青苔せいはいは階砌かいていに満ち

白鳥故遲留

白鳥はくちようは故こに遲留ちりゆうす

暮靄生深樹

暮靄ぼあい 深樹しんじゆに生じ

斜陽下小樓

斜陽しゃやう 小樓しょうろうに下る

誰知竹西路

誰か知らん竹西ちくせいの路

歌吹是揚州

歌吹かすい 是れ揚州やうしゆうなるを

【語釈】

禪智寺：揚州（江蘇省揚州市）にある寺。飄蕭：風が物寂しく吹くさま。松桂：松と桂。青苔：緑色の苔。階砌：本堂に入る石の階段。故：訳があるかのように。遲留：いつまでも留まる。暮靄：ゆうもや。歌吹：歌と演奏、揚州は歓楽街であった。

（新釈漢文大系 詩人編9）

★唐 杜牧

途中作

途中の作

緑樹南陽道

緑樹 南陽の道

千峰勢遠隨

千峰 勢い遠く従う

碧溪風澹態

碧溪 風澹なる態

芳樹雨餘姿

芳樹 雨余の姿。

野渡雲初暖

野渡 雲初めて暖かに

征人袖半垂

征人 袖半ば垂る

殘花不一醉

殘花 一酔せざれば

行樂是何時

行樂は是れ 何ずれの時ぞ

【語釈】

南陽…河南省南部。遠隨…どこまでも自分に付いてくる。碧溪…水が豊かになつ  
青々戸見える谷川。雨餘…雨上がり。征人…旅人（作者自身）。

（新釈漢文大系 詩人編9）

★唐 杜牧

春惜

春を惜しむ

春半年已除

春半ばにして年已じよに除なり

其餘強爲有

其の余は強いて有りと爲す

即此醉殘花

即ち此に殘花に酔い

便同嘗臘酒

便すなわち同どもに臘酒ろうしゆを嘗なむ

悵望送春盃

悵望ちやうぼうたり春を送る盃

殷勤掃花筵

殷勤いんぎんたり花を掃ほうう筵

誰爲駐東流

誰たれか爲たに東流とうりゆうを駐とどめて

年年長在手

年々ねんねん長とこしえに手に在あらしめんや

【語釈】

徐…陰曆四月。有…ここでは春があると言う意味。臘酒…陰曆十二月に醸す酒。  
悵望…悲しく眺める。殷勤…丁寧

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

罷鐘陵幕吏十三年來泊湓浦感舊爲詩

鐘陵の幕吏を罷めて十三年 来りて湓浦に泊し 旧に感じて詩を爲る

青梅雨中熟

青梅 雨中に熟し

檣倚酒旗邊

檣は倚る 酒旗の辺

故國殘春夢

故國 殘春に夢み

孤舟一榻眠

孤舟 一榻に眠る

搖搖遠堤柳

搖々たり遠堤の柳

暗暗十程煙

暗暗たり十程の煙

南奏鐘陵道

南に奏る 鐘陵の道

無因似昔年

昔年に似るに 因し無し

【語釈】

鐘陵：洪州（江西省南昌史）。湓浦：湓水という川が流れ込むところ。檣：船のマスト。酒旗：酒屋の旗。故國：故郷。殘春：春の暮れ。榻：粗末な掛け布団。搖搖：ゆらゆらと揺れるさま。暗暗：暗くて見えない様子。程：宿場間の距離をいう、およそ十里（4里）。煙：もや。奏：走る、向かっていく。無因：すべがない。昔年：洪州の幕領で会った昔。

（新釈漢文大系 詩人編 9）

★唐 杜牧

茶山下作

茶山下ちやざんかの作

春風最窈窕

春風 最も窈窕よゆうたうたり

日晚柳村西

日は晩くる 柳村りゅうそんの西

嬌雲光占岫

嬌雲きよううん 光りて 岫しゅうを占め

健水鳴分溪

健水 鳴なりて 溪を分かつ。

燎巖野花遠

巖いわおを燎いきて 野花遠く

戛瑟幽鳥啼

瑟を戛うちて 幽鳥啼く。

把酒坐芳草

酒を把とりて 芳草に坐し

亦有佳人攜

亦また 佳人かじんの 携たずうる有り

【語釈】

茶山：顧渚山ともいう。茶の産地、朝廷に献ずる茶を送る儀式が行われた。窈窕：たおやかで美しいようす。柳村：茶山の麓にある村。嬌雲：艶やかにきらりと輝く雲。岫：山の頂。健水：勢いよく流れる水。燎：花の赤さを火が燃えるようにたとえた語。戛瑟：瑟（大型の弦楽器）を鳴らす。幽鳥：隠れた鳥。攜：手をひく

（新釈漢文大系 詩人編9）



★唐 杜牧

旅宿

旅宿  
りょしゆく

旅館無良伴

旅館 良伴無く  
りょくかん りょうはん

凝情自悄然

凝情 自ら悄然  
ぎじょう おのすか ししやうぜん

寒燈思舊事

寒灯 旧事を思い

斷雁警愁眠

断雁 愁眠を警ます  
だんがん しゆうみん

遠夢歸侵曉

遠夢帰って 曉を侵し  
えんむ せんむ

家書到隔年

家書到るに 年を隔つ  
かしょ かわ

滄江好煙月

滄江 煙月好し  
そうかう えんげつ

門繫釣魚船

門に繫ぐ 釣魚の船  
かど つな ちようぎふね

【語釈】

良伴：良い連れ合い。凝情：鬱屈たる思い。悄然：しよんぼりする。寒燈：冬の寂しい燈し。

断雁：群れからはぐれた雁。警：警は驚に同じ、目を覚まされるの意。隔年：年を越えて

滄江：青々としている河。煙月：おぼろ月。

(唐詩三百首)

★唐 杜牧

睦州四韻

睦州四韻

州在釣臺邊

州は釣台の辺に在り

溪山實可憐

溪山は実に憐われむべし

有家皆掩映

家有り皆掩映し

無處不潺湲

処として潺湲ならざるは無し

好樹鳴幽鳥

好樹に幽鳥鳴き

晴樓入野煙

晴樓野煙に入る

殘春杜陵客

殘春杜陵の客

中酒落花前

酒に中たる落花の前

【語釈】

睦州：浙江省杭州市南部。釣臺：睦州にあり、後漢初期の隱者である嚴光が釣りをしたと伝えられる。掩映：見え隠れしながらコントラストをなしていること。潺湲：緩やかに流れる水音の形容。幽鳥：葉隠に鳴く鳥の声。野煙：野でたく煙。杜陵客：長安南郊の杜陵からきた旅人。

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

村行

村行そんこう

春半南陽西

春半なかばなる 南陽なんようの西

柔桑過村塢

柔桑じゅうそう 村塢そんおに過ぎる

娉娉垂柳風

娉娉ほうほうたる 垂柳すいりゅうの風

點點迴塘雨

點々てんでんたる 迴塘かいたうの雨

蓑唱牧牛兒

蓑そばにて唱なう 牧牛ぼくぎうの兒

籬窺蒨裙女

籬まがきに窺うかがう 蒨裙せんこんの女じよ

半濕解征衫

半なかは湿しめりて 征衫せいさんを解とけば

主人饋雞黍

主人しゆじん 雞黍けいしよを饋すすむ

【語釈】

南陽：河南省南部。柔桑：柔らかい葉を茂らせた桑の木。村塢：小さな村里。娉娉：柔らかく軽やかなようす。點點：ぼつりぼつりと。迴塘：曲がりくねった池。蒨裙：あかね色のスカート。征衫：旅衣。雞黍：鳥の料理と黍飯。

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

早行

早行そうこう

垂鞭信馬行 鞭を垂れて馬まに信せて行く

數里未雞鳴 數里 未だ雞鳴ならず

林下帶殘夢 林下 殘夢を帯び

葉飛時忽驚 葉は飛びて時たちまに忽ち驚く

霜凝孤鶴迴 霜は凝りて孤鶴こかくはる迴かに

月曉遠山橫 月あ曉けて遠山横わる

僮僕休辭險 僮僕どうぼく 險を辞することを休やめよ

時平路復平 時平にして路も復また平かなり

【語釈】

早行：朝早く夜明け前に出発する。垂鞭：馬に鞭をあてないこと。信馬：馬の歩みに従って行くこと。數里：一里は約500m。雞鳴が夜明けを告げる時間。帶殘夢：夢の残りを引きずっているように、うつらうつらしていること。驚：ハット目が覚める。僮僕：荷物をついだり身の周りの世話をする下僕。辭險：険しい道を避ける。

(新釈漢文大系 詩人編 9)

★唐 杜牧

池州春送前進士蒯希逸

池州に春 前進士蒯希逸を送る

芳草復芳草

芳草復た芳草

斷腸還斷腸

斷腸還た斷腸

自然堪下淚

自然から 涙を下すに堪えたり

何必更殘陽

何ぞ必ずしも 更に殘陽ならんや

楚岸千萬里

楚岸 千万里

燕鴻三兩行

燕鴻 三兩行

有家歸不得

家有りて 歸るを得ず

況舉別君觴

況んや 君と別るる 觴をるをや

【語釈】

前進士…進士科に合格して役人になっていない人（史部詩合格前）。蒯希逸…人名、字は大隱。芳草…萌え出たばかりの香りの良い草。自然…自ずから、自然と。堪…くにするのに十分だ。楚岸…楚の国（池州）の川岸、長く続いている。燕鴻…燕の地方（北方）に返るヒクイドリ。

（漢詩大系 詩人編9）

★唐 杜牧

題宣州開元寺

宣州の開元寺に題す

南朝謝朓城

南朝 謝朓の城

東吳最深處

東吳 最も深き処

亡國去如鴻

亡國は去つて 鴻の如く

遺寺藏烟塢

遺寺は 煙塢に蔵る

樓飛九十尺

樓は飛ぶ 九十尺

廊環四百柱

廊は環らす 四百柱

高高下下中

高々下々の中

風繞松桂樹

風は繞る 松桂の樹

青苔照朱閣

青苔 朱閣に照り

白鳥兩相語

白鳥 兩に相語る

溪聲入僧夢

溪聲 僧夢に入り

月色暉粉堵

月色 粉堵に暉く

闌景無旦夕

景を闌ること 旦夕無く

憑欄有今古

欄に憑れば 今古有り

留我酒一樽

我を留むるは 酒一樽

前山看春雨

前山に 春雨を看ん

【語釈】

宣州：安徽省宣城市。開元寺：東晋のと永安寺として作られたが、開元年間に開元寺と改名された。南朝：江南を支配した五つの王朝。謝朓城：斉の時代に詩人の謝朓が太守となつてここを治めている。最深處：中心の建康（南京）から離れた所。去如鴻：鴻はひしきいどり、飛んでどんどん遠ざかる。遺寺：残された開

元寺。烟塢：霧に包まれた山間の低地。粉堵：白く塗られた塀。闕：じつくり見ること。旦夕：朝と夕べ。憑欄：欄干に寄りかかること。有今古：昔の事を思い出すこと。

(新釈漢文大系 詩人編9)

++++

★魏晉 無名氏

古詩十九首 其十一

古詩十九首 其の十一

迴車駕言邁

車を廻らして 駕して言に邁き

悠悠涉長道

悠悠として 長道を渉る

四顧何茫茫

四顧すれば 何ぞ茫茫々々

東風搖百草

東風 百草を揺かす

所遇無故物

遇う所 故物無し

焉得不速老

焉ぞ 速かに老いざるを得えんや

盛衰各有時

盛衰 各の時有り

立身苦不早

立身 早からざるを苦しむ

人生非金石

人生は 金石に非らず

豈能長壽考

豈に能く 長く壽考ならんや

奄忽隨物化

奄忽として 物に従いて化す

榮名以為寶

榮名 以つて宝と為さん

【語釈】

迴車：車の行くところ無く廻る、暗に致仕して出直すこと。駕言：言は助字、「ここに」「われ」と訓読する。茫茫：広大なさま。故物：昔あった物。壽考：何時までも長生きする。奄忽：たちまち。

(漢詩大系 4)



★魏晉 無名氏

古詩十九首其十四

古詩十九首其十四

去者日以疏 去る者は日ひびに以て疏うとく

來者日已親 來る者は日ひびに已に親しむ

出郭門直視 郭門を出でて直視すれば

但見丘與墳 但ただ丘と墳とを見るのみ

古墓犁為田 古墓は犁すかれて田と為り

松柏摧為薪 松柏は摧くだかれて薪たきと為る

白楊多悲風 白楊 悲風多く

蕭蕭愁殺人 蕭々として人を愁殺す

思還故里閭 故の里閭りりよに還らんことを思い

欲歸道無因 帰らんと欲するも道に因よる無し

【語釈】

去者：主に「死んだ人」という解釈と、「去って行った人」という解釈とがある。日以：日ごと。疎：気持ちが離れて忘れられる。來者：身近にやって来た人。親：親しくなる。郭門：町はずれにある城郭の門。但：「ただ」と読み、「ただだけ」と訳す。限定の意を示す。丘：墓のある丘。墳：土を丸く盛り上げて作った小さな墓。與：「と」と読み、「くと」と訳す。「A與B」の場合、「AとB与」と読む。墓：古くなった墓地。犁：耕す。田：平らにならした耕地。松柏：松と柏（コノテガシワ）。墓地に植えられる木。天子の陵墓には松を植え、諸侯の陵墓には柏を植えたという。摧：切り倒される。白楊：はこやなぎ。悲風：物悲しく感じられる秋風。蕭蕭：風が物寂しく吹く様子。愁殺：ひどく寂しがらせる。深く悲しませる。殺は、程度の強いことを示す助辞。故里閭：故郷の村里の入り口の門。転じて、故郷の村里の意。無因：手立てがない。

★魏晉 無名氏

古詩十九首 其十五

古詩十九首 其の十五

生年不滿百

生年 百に満たず

常懷纏歲憂

常に 千歳憂いを懷く

晝短苦夜長

晝は短かく 夜の長きに苦しむ

何不秉燭遊

何ぞ燭を秉りて遊ばざらん

為樂當及時

樂みを為すは 当に時に及ぶべし

何能待來茲

何ぞ能く來茲を待たんや

愚者愛惜費

愚者は費を惜しむを愛し

但為後世嗤

但だ後世の嗤と為るのみ

仙人王子喬

仙人 王子喬は

難可與等期

與に期を等しく可きこと難し

【語釈】

秉…手に取る。及時…時を失わず、間に合うようにする。來茲…來年。王子喬…周の太子晉、好んで笛を吹き、道士浮丘公に伴われて崇山に登り、仙人となったという。期…年寿。

(漢詩大系 4)

★漢末 曹操

短歌行

短歌行

對酒當歌 酒に對して當に歌うべし

人生幾何 人生 幾何ぞ

譬如朝露 譬ゆるに朝露の如し

去日苦多 去る日は 苦だ多し

慨當以慷 慨して當に以て慷すべし

幽思難忘 幽思 忘れ難し

何以解憂 何を以てか憂いを解かん

惟有杜康 惟だ杜康有るのみ

青青子衿 青々たる子が衿

悠悠我心 悠々たる我が心

但爲君故 但だ君が為の故に

沈吟至今 沈吟して今に至る

幼幼鹿鳴 幼々と鹿は鳴き

食野之苹 野の 苹を食う

我有嘉賓 我に嘉賓有らば

鼓瑟吹笙 瑟を鼓し 笙を吹かん

明明如月 明々たること月の如きも

何時可採 何れの時にか採るべき

憂從中來 憂いは中より來たり

不可斷絶 断絶すべからず

越陌度阡 陌を越え 阡を度り

枉用相存 枉げて用って相存す

契闊談讌 契闊 談讌して

心念舊恩 心に旧恩を念う

月明星稀 月明らかに星稀に

烏鵲南飛 烏鵲 南に飛ぶ

繞樹三匝 樹を繞ること三匝

何枝可依 何れの枝にか依るべき

山不厭高 山は高きを厭はず

海不厭深 海は深きを厭はず

周公吐哺 周公は哺を吐きて

天下歸心 天下心を歸したり

### 【語釈】

短歌行：楽府題、行は、歌・曲の意。对酒：酒を飲んだら。當：当然とするべきだろう。人生：人の命。幾何：どのくらいあるものか、いかほどもない。朝露：人生の短さを朝露の消えやすいことに喩えたもの。去日：過ぎ去った日。苦：はなはだ。慨当以慷：當慷慨の語順を換え、「以」を加えたもの。慷慨：憤いきどおり嘆くこと。憂思：心配する心。解：消し去る。杜康：古代の伝説上の人で、初めて酒を作った人、ここでは酒を指す。青青子衿：青襟の服を着た優れた若者。悠悠我心：あなたを慕う私の思いは尽きない。君：優れた若者を指す。沈吟：深く思いに沈む、深く考え込む。呦呦：鹿のか細い鳴き声を表す擬声語。萃：よもぎ。嘉賓：よい賓客。瑟：おおいこと、二十五弦。笙：管楽器の一つ、十九管または十三管の笛。擗：手に取る。中：胸中、心中。従：「より」と読み、「くから」と訳す、時間・場所の起点の意を示す、「自」と同じ。陌：東西に通る道。阡：南北に通る道。越・度：ともに、道を乗り越える。枉：無理してわざわざしてくださった。

用：…くでもって、「以」とほぼ同じ。存：訪ねる、訪問する。契闊：…ここ  
では久しぶりに再会すること。談讌：集まって歓談する。旧恩：…昔のよし  
み。昔の友情。念：…ここでは温め直す。烏鵲：カササギ、仕官先を求める優  
れた人材に喩える。周公：周公旦、文王の子、兄の武王を助けて紂王を討った。  
吐哺：…口の中の食べ物を吐き出すこと。天下：…天下の人々。帰心：…心を  
寄せる。心から従う。

(中国名詩選(川合)、漢詩大系 4)

★漢末 王粲 おうざん

七哀詩

七哀の詩 王粲 おうざん

西京亂無象  
豺虎方遘患  
復棄中國去  
委身適荆蠻  
親戚對我悲  
朋友相追攀  
出門無所見  
白骨蔽平原  
路有飢婦人  
抱子棄草間  
顧聞號泣聲  
揮涕獨不還  
未知身死處  
何能兩相完  
驅馬棄之去  
不忍聽此言  
南登霸陵岸  
迴首望長安  
悟彼下泉人  
喟然傷心肝

西京 乱れて象無く  
豺虎 方に 患を遘す  
復た 中国を 棄てて去り  
身を委ねて 荆蛮に 適く  
親戚 我に對して悲しみ  
朋友 相 追攀す  
門を出づるも 見る所無く  
白骨は 平原を蔽う  
路に 飢えたる婦人有り  
子を抱いて 草間に棄す  
顧みて 号泣の声を聞くも  
涕を揮つて 独り還らず  
「未だ 身の死処を知らず  
何ぞ能く 兩ながら 相完からん。」と  
馬を駆つて之を棄てて去る  
此の言を聴くに忍ばず  
南のかた 霸陵の岸に登り  
首を迴らして 長安を望む  
彼の 下泉の人を悟り、  
喟然として 心肝を傷ましむ。

【語釈】

西京：長安。象：正しい道、道理。豺虎：山犬と虎、悪人の喩え、董卓の死後、  
覇権を求めて争った李傕と郭汜。中國：中原地方。荆蠻：荊州。攀：車の梶棒に  
すがりついて引き留める。霸陵：前漢の文帝の墓。下泉人：苦しい生活中で周台  
の善政を慕った「下泉」の作者と「黄泉」の文帝。喟然：ため息をつくさま。心  
肝：心。

(中国名詩選(上))

★南北朝 謝朓 移病還園示親屬詩

病を移しえて園に還えり親屬に示めす詩

疲策倦人世 策に疲かれて 人世を倦み

斂性就幽蓬 性を斂め 幽蓬に就く

停琴佇涼月 琴を停めて 涼月に佇み

滅燭聽歸鴻 燭を滅して 帰鴻を聽く

涼薰乘暮析 涼薰暮に乗じて析け

秋華臨夜空 秋華夜に臨みて空し

葉低知露密 葉低れて 露の密なるを知り

崖斷識雲重 崖断えて雲の重なるを識る

折荷葺寒袂 荷を折りて 寒袂を葺い

開鏡眇衰容 鏡を開いて 衰容を眇る

海暮騰清氣 海は暮れて清氣を騰げ

河關祕棲沖 河関 棲沖を秘す

煙衡時未歇 煙衡 時に未だ歇まず

芝蘭去相從 芝蘭 去きて相い從わん

【語釈】

移病：移書(回し文で、仕官している者が退職を求める用語)為て、病と称して。  
疲策：官途に追い立てられること。斂性：人間の自然自然の性(心の働き)を身に納めて失わない。幽蓬：幽静な蓬の宿(隠棲の家園)。涼薰：涼しい風にそよぐ霞。乘暮析：暮れて風が強くなるに従って裂け折れる。荷衣：世捨て人、神仙の衣服。河關：黄河にある関所。棲沖：空しい心を宿す。煙衡：煙霧の中のかんあおい。芝蘭：香草芝蘭のような優れて多彩な師弟。

(漢詩大系 5)



★魏晉

左思

雜詩

雜詩

秋風何冽冽

秋風何ぞ冽々たる

白露為朝霜

白露朝霜と為る

柔條旦夕勁

柔條旦夕に勁く

綠葉日夜黃

綠葉日夜に黃なり

明月出雲崖

明月雲崖を出で

皦皦流素光

皦皦として素光を流す

披軒臨前庭

軒を披きて前庭に臨めば

嗷嗷晨雁翔

嗷々として晨雁翔ける

高志局四海

高志は四海に局られ

塊然守空堂

塊然として空堂を守る

壯齒不恆居

壯齒恒には居らず

歲暮常慨慷

歲暮常に慨慷す

【語釈】

冽冽：冷気の身にしむさま。柔條：なごやかな木の枝。旦夕：明け方と夕べ。勁：強く堅くなること。雲崖：雲の端。皦皦：白く光るさま。嗷嗷：騒がしくなく音の形容。晨雁：よあけの雁。四海：天下。塊然：ひとり立つさま。壯齒：若いとき。歲暮：老年。慨慷：嘆き悲しむ。

(漢詩体系 4)

★南北朝 何遜 かそん

範廣州宅聯句

範廣の州宅連句 はんこう

洛陽城東西，  
洛陽城の東西，  
長作經年別。  
長らく年を経る別れを作す。  
昔去雪如花，  
昔去るとき雪花の如く，  
今來花似雪。  
今來たるとき花雪に似たり。

【語釈】

範廣：西晉南陽順陽（河南省淅川縣）の人、県令を努めた。洛陽城：洛陽の町。  
東西：東と西へ。經年別：長年の別れ。

（漢詩大系 5）

★南北朝 何遜

相送詩

相送る詩 あいおく

客心已百念 かくしん 客心 已に百念 ひゃくねん  
孤遊重千里 こゆう 孤遊 千里を重ぬ  
江暗雨欲來 江暗くして 雨來らんと欲し  
浪白風初起 浪白くして 風初めて起る

【語釈】

客心：旅中での寂しい心。唸：心配事。孤遊：一人旅

（漢詩大系 5）

★南北朝 沈約

別范安成

范安成に別る

生平少年日

生平 少年の日

分手易前期

手を分かつとも 前め期し易すし

及爾同衰暮

爾と 衰暮を同じし

非復別離時

復た 別離の時に非ず

勿言一樽酒

言う勿かれ 一樽の酒と

明日難重持

明日 重ねて持し難し

夢中不識路

夢中 路を識らず

何以慰相思

何を以つて相思を慰めん

【語釈】

范安成：安成の内史である范岫のこと。生平：…ふだん。平生少年日：若い時。分手：別れる。・前期：あらかじめ決めた再会の時期。及：…と、および。同：同じくする、動詞。衰暮：年とつて衰える。非復：（以前の時とは）まったく異なる。復：助辞、リズムを整える。持：直接的には酒杯を持つことであり、（共に酒を酌み交わす杯を持つ機会を）持つこと。夢中不識路：夢の中で、道が分からないために（お互いが会うことができないので）、張敏と高惠の故事に拠る。張敏と高惠とは、莫逆の友であったが、離れており、会うのが難しかった。そこで、張敏は夢の中で高惠の許を尋ねて行くとするが、毎回、道に迷って途中で引き返してしまった。相思：ここでは、作者と范安成との男同士の思い合う情。

（漢詩大系 5）

★南北朝 鮑照

擬行路難十八首 其四

行路難に擬す十八首 其の四

瀉水置平地

水を瀉ぎて 平地に置けば

各自東西南北流

各自 東西南北に流る

人生亦有命

人生 亦た命有り

安能行嘆復坐愁

安んぞ 能く行きて嘆き 復た坐して愁えん

酌酒以自寬

酒を酌んで 以つて自ずから寛うし

舉杯斷絶歌路難

杯を挙げて 断絶して路難を歌う

心非木石豈無感

心は木石に非らず 豈に感無からんや

吞聲躑躅不敢言

声を吞み 躑躅して敢えて言わず

【語釈】

斷絶…声が激情のために途絶える。路難…行路難の曲。吞聲…声を出そうとして飲み込む。躑躅…足踏みをする。

〔漢詩大系 5〕

★隋末唐初 王績 野望

野望

東皐薄暮望

東皐 薄暮に望む

徙倚欲何依

徙倚して 何に依らんと欲す

樹樹皆秋色

樹々皆秋色

山山唯落暉

山々唯落暉

牧人驅犢返

牧人 犢を驅りて返り

獵馬帶禽歸

獵馬 禽を帯びて歸る

相顧無相識

相顧れども 相識無く

長歌懷采薇

長歌して 采薇を懷う

【語釈】

野望：…野原のながめ。東皐：…東の丘、沢の周囲の小高い所を指す。薄暮：…日暮れがせまるころ。徙倚：…さまよい歩く。うろうろする。欲何依：…どこに身を落ちつけようというのだろう。秋色：…黄葉して秋らしい色になること。落暉：…沈む太陽の光。牧人：…牛飼。犢：…子牛。獵馬：…獵に用いる馬。禽：…禽獣。帶：…鞍にくくりつけて。相顧：…あたりを見まわしても。ここでの「相」は語勢を添える助辞で、「互いに」の意はない。相識：…知り合い。長歌：…声を長く引き伸ばして歌うこと。采薇：…「采薇の歌」伯夷と叔斉が餓死したという故事の歌。懷：…思い出される。

(中国名詩選(中))

★唐 魏徵

述懐

述懐

中原還逐鹿

中原還た鹿を逐い

投筆事戎軒

筆を投じて 戎軒を事とす

縦横計不就

縦横の計 就らざれども

慷慨志猶存

慷慨の志 猶お存せり

仗策謁天子

策を仗いて 天子に謁し

驅馬出關門

馬を駆つて 関門を出ず

請纓繫南粵

纓を請いて 南越を繋ぎ

憑軾下東藩

軾に憑りて 東藩を下す

鬱紆陟高岫

鬱紆として 高岫に陟り

出沒望平原

出沒して 平原を望む

古木鳴寒鳥

古木 寒鳥鳴き

空山啼野猿

空山 野猿啼く

既傷千里目

既に 千里の目を傷ましめ

還驚九逝魂

還た 九逝の魂を驚かす

豈不憚艱險

豈に 艱險を憚らざらんや

深懷國士恩

深く 國士の恩を懷う

季布無二諾

季布に 二諾無く

侯嬴重一言

侯嬴は 一言を重んず

人生感意氣

人生 意氣に感ず

功名誰復論

功名 誰か復た論ぜん

【語釈】

中原：漢民族の故地、黄河下流域の華北平原一帯。逐鹿：隋朝を倒して唐朝を開くという政權奪取に活躍したことをいう。投筆：行政事務を辞めて。戎軒：戦闘に使う車。縦横計：軍略。蘇秦、張儀の合従、連衡の策。慷慨：昂ぶる心意気。杖策：乗馬用のムチを杖について。驅馬：馬に乗って、軍隊を指揮して。出關門：関より外へ出て敵を攻伐すること。纓：冠のひも、ここでは、捕虜にした夷狄を縛る縄。憑：車に乗ること。軾：車のながえの横木、転じて車。東藩：東の方の属国。鬱紆：山坂などが曲がりくねって続いているさま。陟：のぼる。高岫：高い山の峰。出沒：山道が上下して、上り下りしているさまをいう。古木：冬枯れの木や林のようす。寒鳥：寒々として、寂しげな鳥。空山：秋が過ぎて落葉してしまった山のようす。夜猿：夜に啼く猿、もの寂しげなさまをいう。既：であるうえに。であるのに。すでに。千里目：はるかな眺望。還：なおも、また。九折：坂などの曲がりくねりの多いこと。つづら折り。九折魂：長い遙かな路を努力を重ねて、曲がりくねって歩んできたわたしの魂。艱險：けわしいものごと。季布：漢初の楚人、項羽の部将として活躍する。侯嬴：戦国時代の魏の隠士の名。功名：手柄と名譽。

(唐詩選)

★唐 駱賓王

昔時人於易水送人

昔時の人 易水に人を送る

此地別燕丹

此の地 燕の丹に別かる

壯士髮衝冠

壯士 髮 冠を衝く

昔時人已沒

昔時 人已に沒し

今日水猶寒

今日 水 猶お寒し

【語釈】

易水送人：荊軻と燕の昭王の太子丹、高漸離たちと易水の畔での別れのことを指す。此地：燕（河北省北京附近の南方になる）。丹：燕の国の太子である。壯士：勇壯な男子、荊軻。今日：燕の時代と作者の詩を作った当時の政治状況を比較しての言葉。水：易水（河北省易県（易州）の附近から発し、東流して大清河に合流して、現・天津市を通過して渤海に注ぎ込む川）の流れ。猶：やはり。（唐詩選）

★唐 杜審言

渡湘江

湘江を渡る

遲日園林悲昔遊

遲日 園林 昔遊を悲しむ

今春花鳥作邊愁

今春 花鳥 辺愁を作す

獨憐京國人南竄

獨り憐む 京國の人 南竄せられ

不似湘江水北流

似ず 湘江の水 北流するに

【語釈】

湘江：湘水ともいう。広西チワン族自治区に発して湖南省を北上し、瀟水と合流して洞庭湖に注ぐ川。遲日：うらかな春の日のこと。園林：庭園の中の林。昔遊かつて遊んだ時のこと。邊愁：辺地にある身の憂愁。獨憐：ひとりわが身を憐れんでいるばかりだ。京國人：都の人。南竄：罪によって南方の土地に流されること。（唐詩選）



★唐 杜審言

和晋陵陆丞早春遊望

晋陵の陸丞の「早春遊望」に和す

獨有宦遊人

ひとり 宦遊の人のみ有りて

偏驚物候新

偏ひとえに 物候の新たなるを驚く

雲霞出海曙

雲霞 海を出でて曙あけ

梅柳渡江春

梅柳 江を渡たつて春なり

淑氣催黃鳥

淑氣 黄鳥を催し

晴光轉綠蘋

晴光 緑蘋を転ず

忽聞歌古調

忽ち 古調を歌うを聞き

歸思欲沾巾

歸思 巾を沾おさんと欲つす

【語釈】

晋陵：江蘇省常州府武進県。陸丞：不明、「丞」は、県の次官。遊望：出遊して景色を眺望すること。宦遊：故郷を離れてほかの地方に行く役人のこと。物候：万物が気候に応じて移り変わることを。雲霞：雲と、かすみ。曙：夜が明ける。淑氣：春の和気。黄鳥：朝鮮うぐいす。晴光：明るい日の光。緑蘋：浮草。古調：古風な調子の詩。歸思：故郷に帰りたいと思う心。巾：ハンカチ。沾：涙でぬらすこと。

(唐詩三百首) (Web 漢文大系)

★唐 杜審言

和康五庭芝望月有懷

康五庭芝の「望月有懷」に和す

明月高秋迴

明月 高秋に迴かなり

愁人獨夜看

愁人 独夜に看る

暫將弓並曲

暫く弓と並に曲がりしも

翻與扇俱團

翻りて扇と俱に団かなり

霧濯清輝苦

霧は濯ぐ清輝の苦しみ

風飄素影寒

風は飄えつて素影に寒し

羅衣一此鑒

羅衣 一たび 此に鑒され

頓使別離難

頓に別離をして難からしむ

【語釈】

康五庭芝：不詳。高秋：晴れわたる秋。迴：はるかに遠いさま。愁人：愁いに沈んでいる人。独夜：ひとりできびしくしている夜。將：助字。「与」と同じ。「と」と読み、「と」と訳す。清輝：清らかな月の光。苦：冷たくさえわたる。素影：白い影、月の光。羅衣：うすぎぬの衣服。鑒：照と同じ。頓：にわかに。

(唐詩選)

★唐 王勃 おうぼつ

蜀中九日

蜀中九日 しよちゆうきゅうじつ

九月九日望郷臺

九月九日望郷臺 しよちゆうきゅうじつぼうきやうたい

他席他郷送客杯

他席他郷客を送る杯 ほかせきたきやうきゃくをせうるはい

人情已厭南中苦

人情已に厭う南中の苦 にんじやういとなんちゆうのく

鴻雁那從北地來

鴻雁那ぞ北地より來る こうがんなんほくちよりきたる

【語釈】

蜀：四川省。九月九日：重陽の節句、高いところに登って酒を飲むならわしがあつた。望郷台：玄武山（蜀の東にある）にある高台の名。他席他郷：他郷での宴会。人情：作者自身の感情、望郷の念。已厭：もうあきあきした。南中：ここでは蜀のこと。鴻雁：がん。北地：都の長安、又は作者の故郷山西省。

『唐詩選』 Web 漢文大系 詩詞世界)

関連詩句

「人情已厭惟杯酒，世事其如渾局棋」(明・韓上桂)

「眉月連娟恨不開。鴻雁那從北地來。」(明・周履靖)

★唐 王勃

滕王閣

とうおうかく

滕王高閣臨江渚

滕王の高閣 江渚に臨み、

珮玉鳴鸞罷歌舞

珮玉 鳴鸞 歌舞 罷む

畫棟朝飛南浦雲

畫棟 朝に飛ぶ 南浦の雲、

珠簾暮捲西山雨

珠簾 暮に捲く 西山の雨。

閒雲潭影日悠悠

閒雲 潭に影りて 日に悠悠、

物換星移幾度秋

物換り 星移りて 幾度の秋ぞ。

閣中帝子今何在

閣中の帝子 今 何くにか在る、

檻外長江空自流

檻外の 長江 空しく自ら流る

【語釈】

滕王：唐・太宗の弟で、滕王に封ぜられた李元嬰。江渚：河畔（贛江の渚）。珮玉：おびだま。鳴鸞：（天子の）車に付ける鈴。畫棟：美しく彩色した建物の棟。南浦：江西省南昌の西南の所、滕王閣の近くを指す。珠簾：たますだれ。西山：西の山。ここでは南昌山。閒雲：静かに流れる雲。潭影：深い淵の色。悠悠：のどかな様、限りないさま、長く久しいさま、ゆったりと落ち着いたさま。檻外：手すりの外。

関連詩句

「翠屏晚對無人共，畫棟朝飛與客登。」（宋末元初・仇遠）

「煩囂洗滌毛骨爽，珠簾暮捲山光明。」（明・王子魯）

「蠟燭宵然騰絳燄，珠簾暮捲對南山。」（明・劉珣）

「閒雲潭影共斜暉，孤堞遙遙傍紫微。」（明・郭之奇）

「閒雲潭影徒回首，南浦西山空復情。」（清・朱彝尊）

★唐 王勃

秋日別王長史

秋日 王長史に別る

別路千餘里

別路 千余里

深恩重百年

深恩 百年に重し

正悲西候日

正に 西候の日を悲しみ

更動北梁篇

更に 北梁の篇を動かす

野色籠寒霧

野色 寒霧を籠め

山光斂暮煙

山光 暮煙を斂む

終知難再奉

終に知る 再び奉じ難きを

懷德自漕然

徳を懷いて 自ら漕然たり

【語釈】

王長史：未詳、長史は官名、司馬に相当。西候：秋。北梁篇：別れの詩賦。野色：野原の景色。寒霧：冷ややかな霧。山光：山の上の夕日。暮煙：夕暮れの靄。漕然：涙の流れるさま。

(三体詩)

★唐 王勃

杜少府之任蜀州

杜少府任に蜀州に之く

城闕輔三秦

城闕 三秦を輔とし

風煙望五津

風煙 五津を望む

與君離別意

君と離別の意

同是宦遊人

同に是れ宦遊の人

海内存知己

海内に知己存せば

天涯若比隣

天涯 比隣の若し

無爲在岐路

爲す無かれ岐路に在りて

兒女共霑巾

兒女と共に巾を霑すを

【語釈】

杜少府：杜と言う姓の県尉（県の検察や警察を指揮する職）。蜀州：四川省。之任：赴任する。城闕：物見台のある城門、ここでは長安城。三秦：秦の地方。輔：守られている。

風煙：風に流れているかすみ。五津：四川省にある大江（揚子江の支流）の五つの渡し場。宦遊人：故郷を離れて、任地を転々とする役人暮らしの人。海内：天下。知己：自分を真に理解してくれる人。天涯：空の果て。

比鄰：となり近所。岐路：分かれ道。ここでは別れ道。兒女：女子供。巾：ハンカチ。

（唐詩選）

★唐 張説ちやうえつ

還至端州驛前與高六別處

還りて端州驛に至る、前に高六と別れし処なり

舊館分江口

旧館分江の口ほとり

悽然望落暉

悽然として落暉を望むせいでん

相逢傳旅食

相逢いて旅食を伝えあひあ

臨別換征衣

別に臨みて征衣を換うせいい

昔記山川是

昔記ゆ山川是なりとおぼ

今傷人代非

今傷む人代非なりと

往來皆此路

往來皆此の路

生死不同歸

生死帰ること同じからず

【語釈】

還…：赦免を受けて左遷地から都へ帰ること。端州驛…：現在の広東省肇慶市の宿場町。高六…：高戩、礼部の次官であったが、作者とともに欽州（今の広西チワン族自治区）に流された。旧館…：かつて高戩と泊まった旅館を指す。分江口…：端州の近くを流れる西江の川すじが分かれる辺り。悽然…：もの悲しく、いたましいさま。落暉…：沈む太陽。落日。夕日。入日。望…：眺める。旅食…：旅先での弁当。伝…：互いに取り回して食べること。征衣…：旅の衣。換…：記念のために交換する。記…：記憶している。記憶を思い起こす。山川是…：山川の姿は今も昔と変わらない。今傷…：今は心が傷む。人代…：人の世。非…：昔のままでないこと、高戩がこの世にいないこと。往來…：行きも帰りも。皆此路…：どちらもこの同じ道を通るのに。死…：私は生きながらえ、君は死んで。不同歸…：いっしょに都へ帰ることができないとは。

（唐詩選）

★唐 沈佺期 しんせんき

邙山

邙山 ぼうざん

北邙山上列墳塋

北邙山上墳塋列なり

萬古千秋對洛城

萬古千秋 洛城に對す

城中日夕歌鐘起

城中 日夕 歌鐘起る

山上惟聞松柏声

山上 惟だ聞く 松柏の聲

【語釈】

邙山（北邙山）：洛陽の東北十里にある山、王侯公卿を始め多くの人の墓がある。  
墳塋：土饅頭の墓。萬古千秋：永遠に、長い時間。洛城：洛陽。日夕：夕方。歌鐘：歌と伴奏の鐘の音。松柏：松とコノテガシワ、墓地によく植えられる。

（唐詩選）



★唐 劉希夷

洛陽城東桃李花

飛來飛去落誰家

洛陽女兒惜顏色

行逢落花長歎息

今年花落顏色改

明年花開復誰在

已見松柏摧爲薪

更聞桑田變成海

古人無復洛城東

今人還對落花風

年年歲歲花相似

歲歲年年人不同

寄言全盛紅顏子

應憐半死白頭翁

此翁白頭眞可憐

伊昔紅顏美少年

公子王孫芳樹下

清歌妙舞落花前

光祿池臺開錦繡

將軍樓閣畫神仙

代悲白頭翁

洛陽城東桃李の花

飛び来り飛び去りて誰が家にか落つる

洛陽の女兒 顔色を惜しみ

行く落花に逢いて長く歎息す

今年花落ちて顏色改まり

明年花開きて復た誰か<sup>たれ</sup>在る。

已に見る松柏の摧かれて薪と爲るを

更に聞く桑田の<sup>へん</sup>変じて海と成るを

古人復た洛城の東に無く

今人還<sup>な</sup>お対す落花の風

年年<sup>ねんねん</sup>歳々花相<sup>あ</sup>似たり

歳々<sup>さいさい</sup>年年人同じからず

言<sup>げん</sup>を寄す全盛の紅顏子

応に憐<sup>あわれ</sup>むべし半死の白頭翁

此の翁白頭眞に憐むべし

伊<sup>こ</sup>れ昔紅顏の美少年

公子王孫芳樹の下

清歌妙舞す落花の前

光祿の池台錦繡を開き

將軍の樓閣神仙を画く

白頭を悲しむ翁に代わる

一朝臥病無相識

一朝病に臥して相識無く

三春行樂在誰邊

三春の行樂誰が辺にか在る

宛轉蛾眉能幾時

宛轉たる蛾眉能く幾時ぞ

須臾鶴髮亂如絲

須臾にして鶴髮乱れて糸の如し

但看古來歌舞地

但だ看る古來歌舞の地

惟有黃昏鳥雀悲

惟だ黃昏に鳥雀の悲しむ有るのみ

【語釈】

寄言：言葉を与えて人に悟らせる。紅顔子：少年。伊：下の言葉を強調する語、これぞ。公子王孫：貴公子たち。清歌：美しい歌。妙舞：麗しい舞。光祿：光祿勳（漢の官制で、九卿の一つ）。高官の意。錦繡：錦の縫い物。美しい物の例え。相識：友人。三春：春の三ヶ月。宛轉：眉の美しく曲がるさま。蛾眉：美女。蛾の触角のようになめらかな弧を描いた眉をしている女性で美女。須臾：忽ち。鶴髮：白髪。黃昏：たそがれ。鳥雀：小鳥

（唐詩選）

★唐 劉希夷

公子行

公子行

天津橋下陽春水

天津橋下陽春の水

天津橋上繁華子

天津橋上華繁の子

馬聲迴合青雲外

馬声迴合す青雲の外

人影動搖綠波裏

人影動搖す緑波の裏

綠波蕩漾玉爲砂

緑波蕩漾して玉を砂と爲し

青雲離披錦作霞

青雲離披して霞を錦と作す

可憐楊柳傷心樹

憐む可し楊柳傷心の樹

可憐桃李斷腸花

憐む可し桃李斷腸の花

此日遨遊邀美女

此の日遨遊美女を邀え

此時歌舞入娼家

此の時歌舞娼家に入る

娼家美女鬱金香

娼家の美女鬱金香

飛來飛去公子傍

飛び来たり飛び去る公子の傍

的的珠簾白日映

的々たる珠簾白日に映じ

娥娥玉顏紅粉妝

娥娥たる玉顏紅粉の妝い

花際裴回雙蛺蝶

花際に裴回す双蛺蝶

池邊顧步兩鴛鴦

池返を顧歩す両鴛鴦。

傾國傾城漢武帝

傾國傾城漢武帝

爲雲爲雨楚襄王

爲雲爲雨楚襄王

古來容光人所羨

古來容光は人の羨む所

況復今日遙相見

況んや復た今日遙かに相見るをや。

願作輕羅著細腰

願わくは 輕羅と作なりて 細腰に著き

願爲明鏡分嬌面

願わくは 明鏡と爲りて 嬌面を分かたん

與君相向轉相親

君と相向いて 轉た相親しみ

與君雙棲共一身

君と双棲して 共に一身

願作貞松千歲古

願わくは 貞松の千歲に古きと作らん

誰論芳槿一朝新

誰か論ぜん 芳槿の一朝に新たなるを。

百年同謝西山日

百年 同じく謝す 西山の日

千秋萬古北邙塵

千秋萬古 北邙の塵

【語釈】

公子行…貴公子の歌。樂府題。天津橋…洛陽城の西南にあつて、洛水に架けられた橋。陽春…うらかな春の日。繁華子…華やかな生活をしている貴公子。廻合…ぐるぐるめぐりながら一つになる。青雲外…青空の彼方。綠波裏…緑の波間にうつつて。蕩漾…水が揺れ動くさま。玉爲砂…川底の砂は玉を敷いたようである。青雲…青空。離披…四方に散り広がる。錦作霞…霞が錦のように照り映えている。可憐…深い感動を表す言葉。ああ。楊柳…柳の総称。傷心…心を傷ましめる。桃李…桃とスモモ。斷腸…非常に悲しいさま、非常に悩ましいさま。遨遊…気ままに遊ぶこと。美女…娼妓を指す。邀…呼び迎える。招く。歌舞…歌舞に興じるために。入娼家…遊女の家へくり込む。鬱金香…西域産の鬱金香から採った香料。的的…明るくきらきら輝いている様子。珠簾…真珠を飾ったすだれ。白日映…日光に照り映えている。娥娥…女性の姿の美しいさま。玉顔…女性の美しい顔。紅粉…紅べにと白粉おしろい。妝…化粧をして粧よそおうこと。花際…庭に咲く花の辺り。裴回…ここでは飛び回る。雙蛺蝶…二匹の蝶。池邊…池のほとり。顧歩…あちこちを振り返りながら歩く。兩鴛鴦…つがいのおしどり。傾國傾城…自分の城を危うくし、国を危うくするほどの絶世の美女の形容。漢武帝…その美女を愛した漢の武帝。爲雲爲雨…楚の襄王が巫山の巫女と契った故事による。容光…美しい顔かたち。羨…慕うの意。況復…そのうえに。まして、さらに加えて。相見…美しい女性に巡りあえようとは。願…ねがわくはくせん」と読み、「願うところは」「どうかくしたい」と訳す。自らの願望の意を示す。輕羅

… 軽いうすぎぬ。著細腰：細い腰にまといつきたい。明鏡：曇りのない鏡。  
嬌面：美しく、かわいらしい顔。分：分けてもらいたい。相向：さし向かい  
いでいると。轉：だんだんと、ますます。相親：親しい仲となる。親しみが  
募ってくる。雙棲：夫婦となつて一緒に住む。共一身：一心同体となる。貞  
松：みさおの正しい松。誰論：誰が問題にしましょう、問題じゃない。芳權：  
むくげの花。花は朝開いて夕方にはしぼむので、移ろいやすいことや、はかない  
ことに喩える。一朝新：一朝ひとあさで新しく生えてくるような、浮いた話。百  
年：百年の寿命が尽きたら。同謝：一緒に死ぬこと。西山日：西山に沈む太  
陽。千秋萬古：千年も万年も。北邙塵：北邙山の塵となつて、添い遂げましょう。  
北邙：洛陽の北にある北邙山、古くから墓地として有名。

(唐詩選)

★唐 賀知章

題袁氏別業

袁氏の別業に題す

主人不相識

主人相識らず

偶坐為林泉

偶坐 林泉の為なり

莫謾愁沽酒

謾に酒を沽うを愁うること莫かれ

囊中自有錢

囊中 自ら 錢有り

【語釈】

袁氏：未詳。別業：別荘。偶坐：主人と向かい合つて座ること。林泉：袁氏の別  
荘の林や泉のこと、名園。謾：みだりに。沽酒：酒を買う。囊中：財布の中。

(唐詩選)

★唐 陳子昂 ちんすこう

晚次樂鄉縣

晚に樂鄉縣に次ぐる わんきようけん やど

故郷杳無際

故郷杳として際無く こきょう しょう さい

日暮且孤征

日暮且お孤征す ひくれ な こせい

川原迷舊國

川原 旧國に迷い

道路入邊城

道路 辺城に入る

野戍荒煙斷

野戍 荒煙絶え やしゆう やせい

深山古木平

深山 古木平かなり

如何此時恨

如何せん 此の時の恨み いかん

噉噉夜猿鳴

噉々として 夜猿鳴く たんとく やざる

【語釈】

樂鄉縣：湖北省松滋県。杳：遙かに遠いさま。孤征：一人旅。舊國：古い都。迷：踏み迷う。辺城：いななまち。野戍：野原に立つ寨。荒煙：すさまじい人家の煙。恨：悲しみ。噉噉：哭する声。

(唐詩選)

★唐 陳子昂 ちんすうりやう

春夜別友人二首其一

春夜友人に別る二首其一

銀燭吐青煙

銀燭 青煙を吐き

金樽對綺筵

金樽 綺筵に對す

離堂思琴瑟

離堂 琴瑟を思い

別路遶山川

別路 山川を遶ぐる

明月隱高樹

明月 高樹に隠くれ

長河沒曉天

長河 曉天に沒す

悠悠洛陽去

悠悠 洛陽に去らば

此會在何年

此の会 何れの年にか在らん

【語釈】

銀燭：明るく輝くともしび。金樽：黄金飾りの酒樽、酒樽の美称。綺筵：美しいむしろ。離堂：送別の宴が開かれている座敷。琴瑟：琴（五弦または七弦）と、瑟（ふつう二十五弦）。別路：別れゆく道。長河：…天の川。悠悠：はるかに遠いさま。

（唐詩選）

★唐 陳子昂

薊丘覽古

薊丘覽古

南登碣石館

南のかた 碣石館けつせきかんに登り

遙望黃金臺

遙かに 黃金台を望む

丘陵盡喬木

丘陵は 尽く喬木きょうぼく

昭王安在哉

昭王は安くに在りや

霸圖悵已矣

霸圖はと悵ちやうとして已やんなるかな

驅馬復歸來

馬を驅まつて復また歸來す

【語釈】

碣石館：幽州の薊県の西三十里、燕の昭王が築いた碣石宮の跡。黄金台：燕の昭王が築いた台。台上に千金を置いて天下の賢者を招いた。喬木：高い木。昭王：？前279。燕の王（在位前311～前279）。霸圖：覇者となろうとする策略。悵：うらむ。いたむ。已んぬるかな：今となっては、どうにも仕方がない。復：そして

（唐詩選）



★唐 陳子昂

峴山懷古

けんざんかいこ

秣馬臨荒甸

馬に秣まぐもかいて 荒甸こうでんに臨み

登高覽舊都

高きに登りて 旧都きよとを覽る

猶悲墮淚碣

猶お悲しむ 墮淚だるいの碣かた

尚想臥龍圖

尚お想う 臥龍がりゅうの図

城邑遙分楚

城邑じやういふ遙かに楚を分かち

山川半入吳

山川なか半ば吳に入る

丘陵徒自出

丘陵は徒らに自おのすから出で

賢聖幾凋枯

賢聖は幾いくばくか凋枯ちやうこす

野樹蒼煙斷

野樹やじゆ蒼煙そうえん絶え

津樓晚氣孤

津樓しんろう晚氣ばんき孤なり

誰知萬里客

誰か知らん 万里の客

懷古正躊躇

古いにしへを懷おもいて 正ただに躊躇ちゆうちゆするを

【語釈】

峴山：湖北省襄陽の東南にある山。三国時代の劉表の根拠地。懷古：歴史上のこと  
を思い起こして懐かしむこと。秣馬：馬を一休みさせて、草を食べさす。荒甸  
：都から遠く離れた郊外の野原。旧都：元の都、襄陽。覽：高い所から下を見回  
す。墮淚碣：『晋書』羊祜伝に見える故事（ウイキ「羊祜」）。臥龍圖：「臥竜」  
は諸葛孔明のこと、「図」は孔明が軍略を示すため、石を並べて陣形を表した八  
陣図のこと。城邑：城壁に囲まれた町、襄陽を指す。分楚：楚の領域を他の地域  
と区分している。徒：無駄に、むなしく。自出：それぞれ突き出ている。賢聖：  
賢人と聖人、この辺りで活躍した劉表、羊祜、諸葛孔明などを指す。幾：どれく  
らいか、幾人か。凋枯：草木がしぼみ枯れること、転じて人が死ぬこと。野樹：  
野原に立ち並ぶ木々。蒼煙：薄暗く立ち込める霧もや。断：切れ切れに見える、  
途絶える。津楼：渡し場にある高い建物。晚氣：夕暮れの気配。孤：ぼつねんと  
立っている。誰知：誰が知ってくれよう、誰も知るまい、反語。万里客：長い旅

路を行く旅人、作者自身を指す。懐古…昔のことをしのびつつ。正…今ここに、  
ここでこうして。躊躇…迷ってぐずぐずすること。

(唐詩選)

★唐 陳子昂

登幽州臺歌

幽州の台に登る歌

前不見古人

前に古人を見ず

後不見來者

後に來者を見ず

念天地之悠悠

天地の悠々たるを念い

獨愴然而涕下

独り愴然として 涕下だる

【語釈】

幽州…現在の北京市付近。台…高樓。前…自分の生まれた前。古人…昔の人。不  
見…会うことはできない。後…自分の生まれた後。來者…未來の人。悠悠…限  
りなく永遠に続くこと。念…心中深くかみしめる。愴然いたみ悲しむ様子。涕…  
涙。

(「三体詩」詩詞世界に典故、詳説有り)

★唐 張説 ちやうえつ

送梁六自洞庭山作

梁六を洞庭山自ら送りて作る りやうろく どうていせいざんよ

巴陵一望洞庭秋

巴陵 はりやう 一望、洞庭の秋

日見孤峰水上浮

日に見る 孤峰の水上に浮かぶを

聞道神仙不可接

聞道 きくみち 神仙は接すべからずと しんせん

心随湖水共悠悠

心は湖水に随いて 共に悠悠

【語釈】

梁六：梁知微のこと。洞庭山：君山のこと。巴陵：湖南省岳陽市。洞庭：洞庭湖のこと。孤峰：一つだけ離れてある峰、ここでは君山。聞道：聞くところによれば。悠悠：うれえるさま。ゆったりとしたさま。

(唐詩選)

★唐 張説

滄湖山寺

滄湖の山寺

空山寂歴道心生

空山寂歴として道心生ず

虚谷迢遙野鳥聲

虚谷迢遙として野鳥声あり

禪室從來塵外賞

禪室は從來 塵外の賞

香臺豈是世中情

香台は豈是 世中の情ならんや

雲間東嶺千尋出

雲間の東嶺 千尋に出で

樹裏南湖一片明

樹裏の南湖 一片明らかなり

若使巢由同此意

若し巢由をして 此の意を同じくせしめば

不將蘿薜易簪纓

蘿薜を將つて簪纓に易えざりしならん

【語釈】

滄湖：岳州（今の岳陽）の南にある湖。空山：人けのないさびしい山。寂歴：ひっそりとして、もの寂しいさま、寂寞。道心：仏教を信じ悟りを得ようとする心。虚谷：人けのない谷。迢遙：遠くはるかなさま。禪室：ここでは作者が訪れた山寺を指す。塵外：俗塵を離れた世界。香台：寺のこと。千尋：非常に高いこと。南湖：滄湖を指す。一片：そのあたり一帯。巢由：巢父と許由、共に堯の時代の隠者。蘿薜：つたかずら。転じて隠者の衣服を意味する。簪纓：冠をとめるかんざしと冠のひも、転じて官吏の身分を意味する。

（唐詩選）

★唐 張説

幽州新歳作

幽州新歳の作

去歳荆南梅似雪

去歳 荆南 梅 雪に似たり

今年薊北雪如梅

今年 薊北 雪 梅の如し

共知人事何嘗定

共に知る 人事は何ぞ 嘗て定さだまらん

且喜年華去復來

且く喜ぶ 年 去り復た來きたるを

邊鎮戍歌連夜動

邊鎮の戍歌 夜を連ねて動き

京城燎火徹明開

京城の燎火 明に徹して開く

遙遙西向長安日

遙遙として 西のかた長安の日に向かい

願上南山壽一杯

願わくは 上らん 南山の壽一杯

【語釈】

幽州：河北省地方。新歳：新年。去歳：昨年。荆南：岳州（湖南省岳陽）。薊北：幽州（河北省地方）。人事：人間社会に起こる事から。何嘗：〜としようようなことはあるはずもない。年華：年月。辺鎮：国境付近の守備隊。戍歌：守備兵の歌う歌。京城：都の宮廷。燎火：宮中の庭さきで焚くかがり火。徹明：夜が明けけるまで。開：かがり火がさかんに輝くことをいう。遙遙：はるかに遠く離れているさま。長安日：はるか長安の空を望むことをいう。晋の明帝が幼少の頃、太陽よりも長安の方が遠いと言った『世説新語』夙慧篇に見える故事を踏まえる。原文はウイキソース【世説新語／夙恵】参照。「晋明帝數歳、舉目見日、不見長安」部分。

南山寿：南山の姿が永遠に変わらぬように、天子の長寿を祝福する言葉。『詩經』小雅、天保の詩に「南山の寿の如く、騫かけず崩れず（如南山之壽、不騫不崩）」とあるのに基づく。原文はウイキソース【詩經／天保】参照。

（唐詩選）

★唐 張説

幽州夜飲

ゆうしゅうやいん

涼風吹夜雨

涼風 夜雨を吹き

蕭瑟動寒林

蕭瑟として 寒林を動かす

正有高堂宴

正に 高堂に宴有りて

能忘遲暮心

能く 遲暮の心を忘る

軍中宜劔舞

軍中 宜しく劔舞すべし

塞上重笳音

塞上 笳音を重んず

不作邊城將

邊城の將と作らずんば

誰知恩遇深

誰か知る 恩遇の深きを

【語釈】

幽州：…今の北京の西南、涿県のあたり。涼風：…つめたい風。蕭瑟：…ものさびしいさま。寒林：…葉が落ちて寒々とした冬の林。遲暮心：…ここでは左遷され朝廷で活躍できず、次第に老い衰えてしまったことを悲しむ心。笳音：…胡笳の音。邊城：…邊境の町。恩遇：…みかどの恩寵。

(唐詩選)

★唐 張説

醉中作

醉中の作

醉後方知樂

醉後 方に樂しみを知り、

彌勝未醉時

彌未だ酔わざる時に勝る。

動容皆是舞

容を動かせば 皆是れ舞にして

出語總成詩

語を出せば、総て詩と成る。

【語釈】

醉中…酔っぱらった状態にあること。酔後…酔いが回った後。方…ちやうど今。彌…いよいよ。

(詩詞世界)

★唐 張九齡

照鏡見白髮

鏡に照らして白髪を見る

宿昔青雲志

宿昔 青雲の志

蹉跎白髮年

蹉跎たり 白髮の年

誰知明鏡裏

誰か知らん 明鏡の裏

形影自相憐

形影 自ずから相憐れまんとは

【語釈】

宿昔…昔、以前。青雲志…立身出世の志。蹉跎…つまづいて思い通りにならないこと。挫折を重ねているうちに。形影…「形」は自分の姿、「影」は鏡に映った像。

(唐詩選)

★唐 王翰 おうかん

涼州詞

涼州詞 りょうしゅうし

葡萄美酒夜光杯

ぶざう 葡萄の美酒 やこう 夜光の杯

欲飲琵琶馬上催

飲まんと欲すれば 琵琶馬上に催す

醉臥沙場君莫笑

酔うて沙上に臥すも 君笑うこと莫れ

古來征戰幾人回

古來 征戰 幾人が回る

【語釈】

葡萄美酒：西域産の葡萄酒。夜光杯：わずかな光で輝く、ガラス、白玉製の杯。  
催：せきたてるように弾く。うながすという読み方もある。沙場：砂漠の土の上。  
征戦：戦に行くこと。

関連詩句

「葡萄美酒玉壺寒，寫向離筵淚並殘。」（明・王世貞）

「寂寞離愁何自遣，葡萄美酒木蘭艸。」（清・羅秀惠）

「醉臥沙場亦足豪，閑將一劍磨秋水。」（清・吳升）

「主人勸客且痛飲，插劍醉臥沙場沙。」（清・譚鍾鈞）

「古來征戰虜不盡，今日還復天兵來。」（唐・李益）

「卻笑古來征戰苦，邊人空說李將軍。」（明・曾棨）



★唐 王翰

飲馬長城窟行

飲馬長城窟行

長安少年無遠圖，

長安の少年 遠図無く，

一生惟羨執金吾。

一生 惟だ羨む 執金吾。

麒麟前殿拜天子，

麒麟前殿に 天子に拝し，

走馬西擊長城胡。

馬を走らせ 西の方 長城の胡を撃つ。

胡沙獵獵吹人面，

胡沙 獵々として 人面に吹き，

漢虜相逢不相見。

漢虜 相ひ逢わんとすれども 相ひ見えず。

遙聞擊鼓動地來，

遙かに聞く 擊鼓の 地を動かして来るを，

傳道單于夜猶戰。

伝え道う 單于 夜猶お戦うと。

此時顧恩寧顧身，

此の時 恩を顧るも 寧ぞ身を顧んや，

爲君一行摧萬人。

君が為 一に行きて 万人を摧く。

壯士揮戈回白日，

壯士 戈を揮いて 白日を 回らし，

單于濺血染朱輪。

單于 血を濺らせて 朱輪を染む。

歸來飲馬長城窟，

歸り来りて 馬に飲う 長城の窟，

長城道傍多白骨。

長城の道傍 白骨多し。

問之耆老何代人，

之を耆老に問う 何代の人なりやと，

云事秦王築城卒。

云う事には 秦王 築城の卒と。

黄昏塞北無人煙，

黄昏の塞北 人煙無く，

鬼哭啾啾聲沸天。

鬼哭啾啾として声 天に沸く。

無罪見誅功不賞，

罪無くして誅せられ功あるも賞せられず，

孤魂流落此城邊。

孤魂 流落す 此の城辺。

當昔秦王按劍起，

當昔 秦王 劍を按じて起たば，

諸侯膝行不敢視。

諸侯 膝行して 敢えて視ず。

富國強兵二十年，

富国強兵 二十年，

築怨興徭九千里。

怨みを築き 徭を興す 九千里

秦王築城何太愚，

秦王 城を築くは何たる太愚，

天實亡秦非北胡。

天実に秦を亡ぼすは 北胡に非ず。

一朝禍起蕭牆內，

一朝 禍を起すは 蕭牆の内，

渭水咸陽不復都

渭水の咸陽 復た 都せず。

【語釈】

飲馬：馬に水飼うこと。長城窟：万里の長城（を作るため、土砂を採掘した跡の）窟み（の水溜まりの池）。飲馬長城窟行：樂府題。遠圖：深慮遠謀。執金吾：近衛兵の大將。麒麟前殿：麒麟閣の前の御殿（麒麟閣とは、漢の武帝が麒麟を得たときに築き、宣帝の時功臣十一人の像をこの閣上に描いた建物。詩詞では功臣の頭彰のための名譽あるところとして描かれる）。拜：拝謁する。胡：西方異民族。胡沙：胡沙：西域の砂漠の砂。獵獵：風の吹く音。漢虜：漢民族と異民族。相逢：出会う。擊鼓：軍鼓を打ち鳴らす音。單于：匈奴の首長。摧：撃ち砕く。壯士：勇壯な戰士。朱輪：朱塗りの車輪で、貴人の乗り物。道傍：道端、路傍。耆老：老人。何代：何時代。黄昏：たそがれ。塞北：砦の北、北方の辺疆の地。人煙：人家のかまどに立つ煙。鬼哭啾啾：死者の亡霊が声をあげて哀しげに泣く声。孤魂：孤独な魂。當昔：その昔。按劍：劍の柄（つか）に手をかける。膝行：膝で進む。畏れ慎むさま。築怨：民衆の怨みを買う。徭：部役。北胡：北方の異民族。蕭牆：門の内側に衝立のようにたててある土塀、転じて、門内、内輪。

咸陽…秦の始皇帝が都を置いた都市、西安の西北にあたる、渭城。復…再び。都…都となること。

(詩詞世界)

★唐 王之涣 おうしかん

涼州詞

涼州詞 りょうしゅうし

黄河遠上白雲間

黄河遠く上る白雲の間

一片孤城萬仞山

一片の孤城 万仞の山

羌笛何須怨楊柳

羌笛何ぞ須いん楊柳を怨むを

春光不度玉門關

春光度らず 玉門関

【語釈】

一片：ぼつんと一つあるさま。孤城：ぼつんと一つだけの城塞。萬仞：非常に高いこと。羌笛：西方のチベット系の人の吹く笛。楊柳：『折楊柳』の曲調、別離の曲。

(唐詩選)

関連詩句

「一片孤城日欲低，極天沙草共淒淒。」(明・歐大任)

「一片孤城帶落霞，萬山風雪客還家。」(明・歐大任)

「羌笛何須怨三弄，青青如豆更堪憐。」(明・張寧)

「巡簷為弄陽春曲，羌笛何須惱故園。」(明・張煌言)

「磧西亦有閑花草，莫信春光不度關。」(明・史鑑)

★唐 王之涣

登鶴雀樓

鶴雀樓に登る  
かんじゃくろう

白日依山盡

白日はくじつ 山よに依りて 尽つき

黄河入海流

黄河 海いに入いって 流る

欲窮千里目

千里の目を 窮めんと欲して

更上一层楼

更のほに上のほる 一層の楼

【語釈】

鶴雀樓：蒲州府永濟県の西南城上にある楼（三階建）。白日：くもりのない太陽。  
千里目：遙か彼方まで、見極めること。

（唐詩選）

★唐 王昌齡

從軍行其一

從軍行其一

烽火城西百尺樓

烽火城西 百尺の樓

黃昏獨坐海風秋

黃昏 獨り坐す 海風の秋

更吹羌笛關山月

更に吹く 羌笛 關山月

無那金闈萬里愁

那んともする無し 金闈 万里の愁い

【語釈】

從軍行：樂府題。從軍の歌。烽火城：のろしをあげる要塞。黃昏：たそがれ。海風：青海（ココノール湖）から吹いてくる風。羌笛：羌族（チベット系異民族）が吹く笛。關山月：樂府題の笛の曲名。金闈：女性の寢室の美称。

（唐詩選）

関連詩句

「烽火城西百将屯，寒烟晓爨万家村。」（明・李贄）

「烽火城西獵騎微，南樓清暇霽霜威。」（王弘誨）

「黃昏獨坐誰為伴，花影重重覆綠苔。」（明・張天賦）

「黃昏獨坐蒲團靜，隔院微風送落梅。」（明・余翔）

「閣道天街隔禁林，黃昏獨坐紫薇深。」（清・陳廷敬）

★唐 王昌齡

從軍行其二

從軍行其二

青海長雲暗雪山

青海の長雲 雪山暗し

孤城遙望玉門關

孤城遙かに望む 玉門関

黄沙百戰穿金甲

黄沙 百戰 金甲を穿つも

不破樓蘭終不還

樓蘭を破らずんば 終に還えらじ

【語釈】

青海：青海省にあるココノール湖。長雲：長く広がる雲。雪山：ここでは天山山脈。孤城：一つだけ離れてある要塞。黄沙：黄色い砂の砂漠。金甲：金の鎧、金属で出来た鎧の美称。

（唐詩選）

関連詩句

「青海長雲萬里秋，琵琶一曲淚先流。」（明・李攀龍）

「寂歷空山春鳥啼，孤城遙望海天齊。」（明・釋今嚴）

★唐 王昌齡

從軍行其三（出塞）

從軍行その三（出塞）

秦時明月漢時關

秦時の明月 漢時の関

萬里長征人未還

万里 長征して 人 未だ還らず

但使龍城飛將在

但だ 龍城の飛將をして 在ら使めば

不教胡馬渡陰山

胡馬をして 陰山を度ら教めず

【語釈】

明月：澄み渡った月。萬里長征：遙かに遠く遠征すること。龍城：匈奴の長が会合して天を祭る処、転じて、匈奴の地。広く朔北の地を指す。飛將：前漢の李廣。しばしば匈奴を破り、匈奴より「飛將軍」と呼ばれた。胡馬：匈奴の軍馬。匈奴の軍隊。陰山：陰山脈、漢はここを匈奴との国境とした。

（唐詩選）（唐詩三百首）

関連詩句

「三時舊業終應在，萬里長征亦少休。」（宋・葉夢得）

「情懷萬里長征客，身世連床且過僧。」（宋・陸游）



★唐 王昌齡

出塞行

出塞行

白草原頭望京師

白草原頭京師を望めば

黃河水流無盡時

黃河水流れて尽くる時無し

秋天曠野行人絶

秋天広野行人絶ゆ

馬首東來知是誰

馬首東來するは知る是れ誰ぞ

【語釈】

出塞行…樂府題、塞を出ていくの歌。白草…白っぽい色の草、乾燥すると白くなる草。原頭…野原、原野。京師…みやこ、ここでは長安。行人…旅人。東來…東に向かつてやってくる。

(唐詩選)

369

関連詩句

「青松月下泉臺路，白草原頭薙露聲。」(宋・歐陽修)

「白草原頭聞雁聲，黃沙磧裏馬蹄輕。」(元・郊韶)

「百花原頭望京師，黃河水流無已時。」(唐・李頎)

「枯篁漠漠吹北風，黃河水流凝不通。」(元・龍從雲)

★唐 王昌齡

重別李評事

重かさねて李りひょうじ評事に別る

莫道秋江離別難

道いう莫なかれ秋江しゅうかう離別難かたしと、

舟船明日是長安

舟船しゅうせん明日みやうじつ是これ長安。

吳姬緩舞留君醉

吳姬ごき緩舞かんぶして君きみを留とどめて醉よわしむ、

隨意青楓白露寒

隨ずい意いなれ青楓せいふう白露はくろうの寒かん。

【語釈】

評事：裁判官。吳姬：吳の地方（現・浙江省）の舞姫。緩舞：緩やかに舞う。青楓：青い楓。白露：露の美称。二十四節気の一、太陽暦で九月八、九日頃、秋の気配が著しくなる頃。

（唐詩選）

★唐 王昌齡

送薛大赴安陸

薛大の安陸に赴くを送る

津頭雲雨暗湘山

津頭の雲雨 湘山暗し

遷客離憂楚地顔

遷客の離憂 楚地の顔

遙送扁舟安陸郡

遙かに扁舟を送る 安陸郡

天邊何処穆陵關

天返 何れの処か 穆陵關

【語釈】

薛大：薛家の長男。安陸：湖北省の安陸県。津頭：渡し場。湘山：君山、洞庭湖中の西北岸の山（小島）の名。遷客：罪によって遠方に流された人〔作者〕。楚地顔：ここでは追放されて憔悴した屈原の顔を言う『漁父辞』「屈原既放，游於江潭，行吟澤畔，顔色憔悴，形容枯槁。」。天邊：天邊：大空の涯。穆陵關：安陸県の東北にあつた関の名

（唐詩選）

関連詩句

「水裏不用覓魚蹤，天邊何處觀鳥跡。」（宋・釋道樞）

「片月分明屬片鱗，天邊何處別疎親。」（明末清初・成鷲）

★唐 王昌齡

芙蓉樓送辛漸

芙蓉樓にて辛漸を送る

寒雨連江夜入吳

寒雨 江に連なつて夜 吳に入る

平明送客楚山孤

平明 客を送れば 楚山 孤なり

洛陽親友如相問

洛陽の親友 如し 相問はば

一片冰心在玉壺

一片の氷心 玉壺に在り

【語釈】

芙蓉樓：長江南岸の江蘇省京口（鎮江）の西北にある樓。辛漸……不詳。寒雨：寂しい雨、寒々とした雨。吳：芙蓉樓のある江蘇省京口（鎮江）。平明：夜あけがた。楚山：楚の山、山名不詳。孤：ぼつんと立っていること。氷心：透き通つて清い心。玉壺：玉で作った壺。（南朝宋の鮑照『代白頭吟』「直如朱絲繩，清如玉壺冰。」に基づく。）

（唐詩選）

関連詩句

「疏疏紅蓼避人開，寒雨連江雁叫哀。」（清・葉元吉）

「不愁寒雨連江暗，準備輕囊向釣磯。」（清・張景祁）

「百年苦節甘株守，一片冰心任取攜。」（明・蔣顥）

「一片冰心向南海，誰知吟表是炎方。」（明・蔡汝楠）

★唐 王昌齡

西宮秋怨

せいみやうしゆうえん

芙蓉不及美人粧

芙蓉も及ばず美人の粧い

水殿風來珠翠香

水殿 風來たつて 珠翠香し

卻恨合情掩秋扇

却つて恨む情を含んで秋扇を掩い

空懸明月待君王

空しく明月を懸けて君王を待たんとは

【語釈】

西宮：媵妾（そばめ）のいる室。秋怨：若い女性が秋の気配に感じてもの思いにふけること。芙蓉：はすの花。美人：前漢の成帝の妃であつた班婕妤。水殿：池のほとりに建てた宮殿。珠翠：真珠や翡翠の髪飾り。秋扇：秋の扇。扇は秋になれば用がなくなり棄てられるところから、寵を失つた女性（班婕妤）に喩える。懸：月が中天に懸かっているさま。

（唐詩選）

373

★唐 王昌齡

閨怨

けいえん

閨中少婦不知愁

閨中の少婦 愁を知らず

春日凝妝上翠樓

春日 妝いを凝らして 翠樓に上る

忽見陌頭楊柳色

忽ち見る 陌頭 楊柳の色

悔教夫婿覓封侯

悔ゆらくは 夫婿をして 封侯を覓めしを

閨中：妻の寢室。少婦：若妻。翠樓：青く塗つた高殿、青樓に同じ。陌頭：…道ばた。楊柳：…やなぎ。夫婿：…夫。封侯：諸侯として封ずる。

「唐詩三百首」（唐詩選）

★唐 王昌齡

送別魏三

魏三に送別す

醉別江樓橘柚香

酔いて江樓に別るれば橘柚香しく

江風引雨入船涼

江風雨を引いて船に入りて涼し

憶君遙在湘山月

憶う君が遙かに湘山の月に在りて

愁聽清猿夢裏長

愁え聽きかん清猿の夢裏に長きを

【語釈】

魏三：魏家の三男。醉別：酔つて別れる意。酔いに別れの辛さをごまかすこと。  
江樓：川のほとりにある楼。橘柚：夕チバナとユズ。江風：川風。湘山：君山のこと、洞庭湖中の西北岸の山（小島）の名。清猿：サル。もの悲しげな鳴き声を出す猿。夢裏：夢の中

（唐詩選）

関連詩句

「明朝回首沅江路，愁聽清猿和白雲。」（明・楊慎）

「不堪水驛與山程，愁聽清猿過五更。」（明・陳薦夫）

★唐 王昌齡

別李浦之京

李浦の京に之くに別る

故園今在灞陵西

故園今灞陵の西に在り

江畔逢君醉不迷

江畔君に逢い酔いて迷わず

小弟鄰莊尚漁獵

小弟隣莊に尚お漁獵せん

一封書寄數行啼

一封の書は寄す數行の啼

【語釈】

李浦…人名。未詳。京…長安の都。故園…ふるさと。灞陵…漢の文帝の陵墓。長安の東南校外にある。江畔…川のほとり。江は長江を指す。醉不迷…酒を飲んで酔えない意。小弟…おとごと。鄰莊…別莊の隣。漁獵…魚を捕って遊ぶ。

〔三体詩〕

関連詩句

「關河秋色晚蒼蒼，江畔逢君更憶鄉。」（明・李化龍）

「獨向灞陵東北望，一封書寄萬重心。」（唐・李頻）

「一封書寄南飛雁，萬里隨風到貴陽。」（明・郭諫臣）

★唐 王昌齡

梁苑

梁苑りやうえん

梁苑秋竹古時烟

りやうえん しゅうちく こじ  
梁苑の秋竹 古時の煙

城外風悲欲暮天

城外 風悲し 暮れんと欲する天

萬乘旌旗何處在

ばんじょう せいぎ  
萬乘の旌旗 何れの処にか在る

平臺賓客有誰憐

へいだい  
ほ平臺の賓客 誰有つてか憐れまん

【語釈】

梁苑：漢代に、文帝の子、梁の孝王が築いた園の名。古時：昔ながらの。烟：靄や霞。城外：城郭の外側。城外：城郭の外側。萬乘：天子に随う一万台の車、転じて天子をいう。旌旗：旗さしもの。「萬乘旌旗」で天子のこと。平臺：梁の孝王が梁園に築いた台の名。賓客：当時の文士で、司馬相如、枚乘などを指す。

(唐詩選)

参考詩句

「不知何處吹蘆管，城外風悲欲暮天。」(宋・方鳳)

「萬乘旌旗分一半，八方風雨會中央。」(唐・劉禹錫)

「萬乘旌旗衝曉過，兩宮輿輦詰朝來。」(宋・蘇頌)

「平臺賓客今何在，誰繼鄒枚從孝王。」(宋・宋祁)

「平臺賓客今何處，零落小山叢桂花。」(清・王士禛)



★唐 王昌齡

萬歲樓

萬歲樓

江上巍巍萬歲樓

江上 巍巍たり 萬歲樓

不知經歷幾千秋

知らず 經歷 幾千秋

年年喜見山長在

年年喜んで見る 山の長に在るを

日日悲看水濁流

日々悲しんで看る 水の独り流るるを

猿狄何曾離暮嶺

猿狄 何ぞ曾つて暮嶺を離れん

鸕鷀空自泛寒洲

鸕鷀 空しく自から寒洲に泛ぶ

誰堪登望雲煙裏

誰か堪えん 登望 雲煙の裏

向晚茫茫發旅愁

晩に向かつて 茫茫 旅愁を發す

【語釈】

萬歲樓：潤州城（現・江蘇省鎮江）の西南にある。巍巍：高大なさま。雄大で厳かなさま。經歷：年月が経過すること。幾千秋：何千年。鸕鷀：鵜。寒洲：寒々とした晩秋から初冬にかけての中州。登望：：楼に登って眺めること。雲煙：：雲とかすみ。茫茫：：辺りが薄暗くなってきたこと。旅愁：：旅先で感じるものさびしい思い。

（唐詩選）

★唐 裴迪 はいてき

朝川集二十首 辛夷塢

朝川集二十首 辛夷塢 しんいう

綠堤春草合

緑堤 春草合あつまり

王孫自留玩

王孫 自あて留まり玩あそぶ

況有辛夷花

況しんや辛夷花かの

色與芙蓉亂

色は芙蓉まがと乱まう有るをや

【語釈】

辛夷塢：こぶしが植わっている土手。王孫：貴族の子弟。玩：遊ぶ。辛夷花：こぶしの花。

(中国詩人選集 6)

★唐 裴迪

朝川集二十首 鹿柴

朝川集二十首 鹿柴 ろくさい

日夕見寒山

日夕 寒山を見ては

便爲獨往客

便すなわち独往どくおうの客と為る

不知松林事

知らず 松林しょうりんの事

但有麋麋跡

但ただ麋麋きんかの跡 有るのみ

【語釈】

日夕：夕方。寒山：冬枯れの山。便：すぐさま。独往：ひとりでお出かける。麋麋：鹿の類。

(唐詩選)

★唐 裴迪

送崔九

崔九を送る

歸山深淺去

山に帰りて深淺に去り

須盡丘壑美

須からく丘壑の美を尽くすべし

莫學武陵人

学ぶ莫かれ武陵の人を

暫游桃源裏

暫く遊べ桃源の裏に

【語釈】

崔九：崔興宗のこと。王維の妻の弟。九は排行。歸山：隱棲すること。深淺：山の奥深いところか浅いところか判断がつかない所。丘壑：丘と谷。武陵人：『桃花源記』の武陵の漁師。桃源：桃源郷

(詩詞世界)

★唐 高適こうせき

別董大

董大とうだいに別る

千里黄雲白日曛

千里せんりの黄雲こううん 白日曛はくじつしんし

北風吹雁雪紛紛

北風ほくふう 雁かりを吹いて 雪紛々ふんぶん

莫愁前路無知己

愁うりよう莫なかれ 前路ぜんろに知己ちぎ無きを

天下誰人不識君

天下てんか 誰人だれひとか君きみを識しらざらん

【語釈】

董大董が姓、大は排行第一（一族中の同世代の最年長者）、琴の名手、董庭蘭と思われる。千里：千里のかなたまで、空一面に。黄雲：黄色い雲、黄塵を巻き上げた雲。白日：輝く太陽。真昼の太陽。曛：暗くかすむこと。紛紛：盛んに入り乱れること。知己：知人

（唐詩選）

★唐 高適

除夜作

除夜の作

旅館寒燈獨不眠

旅館りやんの寒燈かんとう 独ひとり眠みらず

客心何事轉凄然

客心かくしん 何事なにごとぞ 転うたた凄然せいぜん

故郷今夜思千里

故郷こきやう 今夜こんや 千里せんりを思おもう

霜鬢明朝又一年

霜鬢そうびん 明朝みょうちゆう 又一年またいちねん

【語釈】

寒灯：薄暗く、寒々とした灯。客心：旅人の心。何事：どうしたことか。転：ますます。凄然：ものさびしいさま。いたましいさま。霜鬢：霜のような白い鬢。

（唐詩選）

★唐 高適

塞上聞吹笛

塞上にて吹笛を聞く

雪淨胡天牧馬還

雪淨くして胡天牧馬還えり

月明羌笛戍樓閒

月は明らかに羌笛戍樓の間

借問梅花何處落

借問す梅花何れの処にか落つる

風吹一夜滿關山

風吹きて一夜關山に滿つ

【語釈】

淨…きよらかである。胡天…えびすの地の空。牧馬…飼養している馬。還…(出かけていったものが)かえる。羌笛…西方異民族(チベット系)の吹く笛。戍樓…辺境防備用の望楼。借問…ちよつと質問する。關山…関所となるべき要害の山。

(唐詩選)

★唐 高適

送李少府貶峡中王少府貶長沙

李少府の峡中に貶せられ 王少府の長沙に貶せらるるを送る

嗟君此別意何事

嗟君此の別れ意何事ぞ

駐馬銜杯問謫居

馬を駐どめ 杯を銜んで 謫居を問う

巫峽啼猿數行淚

巫峽の啼猿 數行の淚

衡陽歸雁幾封書

衡陽の歸雁 幾封の書

青楓江上秋天遠

青楓江上 秋天遠く

白帝城邊古木疎

白帝城邊 古木疎らなり

聖代即今多雨露

聖代 即今 雨露多し

暫時分手莫躊躇

暫時手を分かつ 躊躇する莫かれ

【語釈】

嗟：感嘆詞、ああ。意何如：胸のうちの悲しみは、いかばかりであろうか。  
駐馬：両少府の馬を引きとめる。銜杯：別れの杯を口にあてる。謫居：配所。巫峽：四川省巫山県の東にある峽谷、三峽の險の一つ。啼猿：猿声。數行淚：幾すじもの涙。衡陽歸雁：衡陽は湖南省南部の町、長沙から約二百キロほど南にある。その北にある衡山には回雁峰という峰があり、北から渡ってきた雁はここから南へは飛ばずに引き返すといわれた。幾封書：何通の手紙。青楓江：長沙の近くを流れる川の名。聖代：りっぱな天子が治める御世。雨露：天子の恵みをたとえる。暫時：しばらくの間。分手：別れること。躊躇：去りかねてためらうこと。

(唐詩選)

★唐 高適

夜別韋司士得城字

夜韋司士に別れ城の字を得たり

高館張燈酒復清

高館張燈酒復た清らかなり

夜鐘殘月雁歸聲

夜鐘殘月雁歸る声

只言啼鳥堪求侶

只だ言う啼鳥だ侶を求むるに堪え

無那春風欲送行

無那春風行を送らんと欲するを

黄河曲裏沙為岸

黄河の曲裏沙岸と為り

白馬津邊柳向城

白馬津邊柳は城に向かう

莫怨他鄉暫離別

怨む莫かれ他鄉暫らく離別するを

知君到處有逢迎

知んぬ君が到る処逢迎有るを

【語釈】

司士：土木事業を管掌する地方官。高館：たかどの。張灯：灯火をあかあかと灯しし連ねる。夜鐘：夜ふけの鐘の音。残月：明け方の空に残っている月。只言：くとはかり思っていたのに。侶：なかま。無那：どうしようもない。送行：門出を見送る。曲裏：曲がついているところ。白馬津：渡し場の名。今の河南省滑県のあたり？。他郷：自分の故郷でない土地。逢迎：人が手厚く歓迎してくれること。

(唐詩選)

★唐 高適

人日寄杜二拾遺

人日 杜二拾遺に寄す

人日題詩寄草堂

人日 詩を題して草堂に寄す

遙憐故人思故鄉

遙かに憐れむ 故人の故郷を思うを

柳條弄色不忍見

柳條は色を弄して 見るに忍びず

梅花滿枝空斷腸

梅花は枝に満ちて 空しく腸を断つ

身在南蕃無所預

身は南蕃に在りて 預る所無く

心懷百憂復千慮

心に懷く百憂 復た千慮なり

今年人日空相憶

今年の人日 空しく相い憶い

明年人日知何處

明年の人日 何れの処なるかを知らん

一臥東山三十春

一臥東山 三十の春

豈知書劍老風塵

豈に知らんや 書劍風塵に老いんとは

龍鐘還忝二千石

龍鐘還た忝のうす 二千石

愧爾東西南北人

愧づ 爾 東西南北の人に

【語釈】

人日：陰曆正月七日。杜二拾遺：杜甫、杜二は排行、左拾遺であったことから拾遺と言っている。草堂：杜甫の浣花草堂。遙：遙か遠くから。故人：親しい友人。柳条：ヤナギの枝。弄色：色をさざす意。断腸：非常な悲しみ。南蕃：南方の野蛮地。預：かわる。あずかる。百憂：あれこれと考えをめぐらすこと。千慮：いろいろと考えをめぐらすこと。相憶：思い起こす。臥：仕官しないで、隠者生活をする意。東山：政治・軍事の世界に出る前、郷里で過ごしていた時期。龍鐘：年老いてつかれ病むさま。二千石：漢代の郡守の俸禄高。転じて、地方長官の意で使う。東西南北人：住所が定まらず、諸方をさまよい歩く人。

(唐詩選)



★唐 高適

田家春望

でんか しゅんぼう  
田家の春望

門出何所見

門を出でて何の見る所ぞ

春色滿平蕪

しげんしへいぶ  
春色 平蕪に満つ

可歎無知己

たん  
歎ず可し 知己無きを

高陽一酒徒

高陽の一酒徒

【語釈】

田家：田舎の家。春望：春景色の眺め。平蕪：雑草の生い茂った平地。知己：自分  
のことをよく理解してくれる人。高陽：今の河北省保定県東南。酒徒：「高陽」  
は、「酒徒」は、飲んだくれ、『史記』酈生伝に見える酈食其の故事に基づく。  
参考

(唐詩選)

★唐 高適

醉後贈張九旭

醉後張九旭に贈る

世上謾相識

世上謾に相識る

此翁殊不然

此の翁殊に然らず

興來書自聖

興來りたりて書は自ら聖に

醉後語尤顛

酔後語は尤も顛なり

白髮老閑事

白髮閑事に老い

青雲在目前

青雲目前に在り

牀頭一壺酒

牀頭一壺の酒

能更幾回眠

能く更に幾回か眠る

【語釈】

張九旭：張旭、九は排行、杜甫の「飲中八仙歌」に歌われた人物。世上：世間。  
謾：漫然。相識：顔見知りになる。興：感興。書自聖：杜甫の「飲中八仙歌」  
に「張旭は三杯にして草聖と伝う」とある、聖は聖人。顛：きちがいじみている。  
閑事：むだなこと、よけいなこと。青雲：理想・希望などにたとえる。牀頭：ベ  
ッドのあたり。

『唐詩選』 Web 漢文大系)

★唐 高適

薊北自歸

薊北自り帰る

驅馬薊門北

馬を駈る 薊門の北

北風邊馬哀

北風 辺馬哀しむ

蒼茫遠山口

蒼茫たり 遠山の口

豁達胡天開

豁達たり 胡天開く

五將已深入

五將 已に深く入り

前軍止半廻

前軍 止だ半ば廻える

誰憐不得意

誰か憐む 意を得ずして

長劍獨歸來

長劍 独り帰り来るを

【語釈】

薊北：居庸関（薊門関）の北方。薊門：今の北京市西南。辺馬：国境地方にいる馬。蒼茫：薄青く遠くまで霞んで見える様子。口：入り口。豁達：遠くまで広々としているさま。胡天：遊牧民族の地の空。五将五人の將軍。前軍：先鋒部隊。止：只に同じ。

（唐詩選）

★唐 高適

宋中

宋中そうちゆう

梁王昔全盛

梁王りやうおう 昔全盛

賓客復多才

賓客ひんきやく 復た多才

悠悠一千年

悠悠ゆうゆう 一千年

陳迹惟高臺

陳迹ちんせき 惟た高こう台たい

寂寞向秋草

寂寞じやくとして秋草しゅうそうに向う

悲風千里來

悲風ひふう 千里せんりに來きたる

【語釈】

梁王：前漢の劉武、初め皇帝の跡継ぎとされ軍功に重用されたが後に疎まれ、失意の中に死去した。悠悠：遠く遙かな様。陳迹：古跡。寂寞：ひっそりとして物寂しい様。

(唐詩選)

★唐 張旭 ちようきょく

桃花谿

とうかけい

隱隱飛橋隔野烟

いんいん 々々たる飛橋 野煙を隔つ

石磯西畔問漁船

せきき 石磯の西畔 漁船に問う

桃花盡日随流水

桃花 尽日 流水に随う

洞在清溪何處邊

洞は清溪の何れの辺にか在らんと

【語釈】

桃花谿：桃の花の繁っている谷間、陶淵明の『桃花源記』にうたわれた桃花源（桃源郷）のことを暗示する。隱隱：かすかではつきりしないさま。飛橋：高い所に架けられた橋。野煙：野原に立つ煙、野原にたちこめるもや。石磯：石の多いところ。盡日：一日中。洞：ほらあな。洞窟、桃源郷の入り口のことになる。清谿：清らかな谷川の流れ。

（唐詩三百首）（詩詞世界）

★唐 岑参

山房春事

山房春事

梁園日暮乱飞鴉

梁園の日暮 乱れ飛ぶ鴉

極目蕭条三両家

極目 蕭条たり 三両家

庭樹不知人去尽

庭樹は知らず 人の去り尽すを

春来還發旧時花

春来 還た發く 旧時の花

【通釈】

山房春事…山房での春のものの思い。梁園…漢代に、文帝の子、梁の孝王が築いた園の名、河南省東部、商丘の東にある。極目…目の届く限り。蕭条…もの寂しいさま。舊時…昔と変わらない。

〔唐詩選〕

★唐 岑参

逢入京使

京に入る使に逢う

故園東望路漫漫

故園 東に望めば 路漫々

雙袖龍鐘淚不乾

双袖 龍鐘として 涙乾かず

馬上相逢無紙筆

馬上に相逢うて 紙筆無し

憑君傳語報平安

君に憑つて 伝語して 平安を報ぜん

【語釈】

故園…ふるさと、住むべき地。漫漫…路が長々と続いているさま。雙袖…両袖龍鐘…失意のさま。涙を流すさま。相逢…に出逢う、…に（偶然に）出くわす。憑…たのむ。傳語…言伝（ことづて）する。報…知らせる。平安…無事。

（唐詩選）

★唐 岑参

玉関寄長安李主簿

玉関にて長安の李主簿に寄す

東去長安萬里餘

東のかた 長安を去ること 万里余

故人那惜一行書

故人 那ぞ惜む 一行の書

玉關西望堪腸斷

玉関を西望すれば 腸 断つに堪えんや

況復明朝是歲除

況んや 復た 明朝は是れ 歲除なるをや

【語釈】

玉関：玉門関。寄：手紙を出す。主簿：役所で、記録や文書帳簿を管理し、庶務を司る官。萬里餘：万里以上、はるばると。故人：友人何惜：どうして（手間を）惜しむのか一行書：簡単な手紙。西望：西の方を望む。堪：我慢する。腸斷：腸（はらわた）が断たれるほどの辛さ。歲除：大晦日。  
（唐詩選）

★唐 岑参

磧中作

磧中の作

走馬西來欲到天

馬を走らせて西來 天に到らんと欲す

辭家見月兩回圓

家を辭してより 月の兩回 円なるを見る

今夜不知何處宿

今夜知らず 何れの処にか宿せん

平沙萬里絕人烟

平沙 万里 人煙 絶ゆ

【語釈】

磧中作：砂漠の中で作った詩。西來：西に向かってやってきたこと。欲到天：今にも天まで届きそうだ。辭家：家を出てから。月兩回圓：月が二度満月になった、二か月経過したこと回：二廻りすること。平沙：砂漠。人煙：人家から立ち上る炊事の煙。  
（唐詩選）

★唐 岑参

送崔子還京送人還京

崔子の京に還るを送る

匹馬西從天外歸，

匹馬 西のかた 天外より帰る，

揚鞭只共鳥爭飛。

鞭を揚て 只だ 鳥と飛ぶを争う。

送君九月交河北，

君を送る 九月 交河の北，

雪裏題詩淚滿衣。

雪裏 詩を題だいて 涙衣に満つ。

【語釈】

匹馬：一匹の馬。天外：はるか遠いところ。揚鞭：鞭をあてる。交河：今の新疆ウイグル自治区吐魯蕃の西を流れる河。雪裏：雪の中。題詩：詩を作る。

(岑嘉州集)

★唐 岑参

赴北庭度隴思家

北庭に赴かんとし隴を度り家进行

西向輪臺萬里餘

西に向いて 輪台 万里余

也知鄉信日應疎

也た知る 郷信 日に応に疎なるべきを

隴山鸚鵡能言語

隴山の鸚鵡 能く言語す

爲報家人數寄書

爲に報ぜよ 家人數しば書を寄せよと

【語釈】

北庭：新疆ウイグル自治区昌吉回族自治州に設置された行政区画。隴：甘肅省南部隴山の西の地。輪臺：江西省庭州の西北にあつた県。萬里餘：一万里以上、非常に長い距離。也：また。郷信：家からの便り。應：当然である。疎：まばら。隴山：河南省信陽県の東北にある山。言語：言葉をしゃべる。家人：家族。數：しばしば。寄書：手紙を送る。

(唐詩選)



★唐 岑參

酒泉太守席上醉後作

酒泉の太守 席上酔後の作

酒泉太守能劒舞

酒泉の太守能く劒舞す

高堂置酒夜擊鼓

高堂に置酒して夜鼓を撃つ

胡笳一曲斷人腸

胡笳一曲人の腸を断つ

座上相看淚如雨

座上相い見て涙雨の如し

【語釈】

酒泉：郡名、今の甘肅省酒泉市。太守：郡の長官。席上：酒宴の席で。酔後：酒に酔ったあと。能：上手に。高堂：大広間。置酒：酒宴を開くこと。胡笳：北方民族の胡人が吹く葦あしの葉の笛。坐客：一座の客人たち。相看：互いの顔を見合わせて。

(唐詩選)

★唐 岑参

奉和中書捨人賈至早朝大明宮

中書捨人賈至の「早に大明宮に朝す」に和し奉つる

鷄鳴紫陌曙光寒

鷄は鳴いて紫陌曙光寒く

鶯囀皇州春色闌

鶯は囀りて皇州春色闌なり

金闕曉鐘開萬戶

金闕の曉鐘 万戸を開き

玉階仙仗擁羈官

玉階の仙仗 千官を擁す

花迎劍珮星初落

花は劍珮を迎え 星初めて落ち

柳拂旌旂露未乾

柳は旌旂を払い 露未だ乾かず

獨有鳳皇池上客

ひとり鳳皇有り 池上の客

陽春一麴和皆難

陽春一麴 皆和し難し

【語釈】

舍人：中書舍人、詔勅の作成などをつかさどる。早：早朝。朝：参内すること。大明宮：長安の都の東の内裏。紫陌：都の街路、「陌」は道路。曙光：あけぼのの光。皇州：天子の住む都。長安を指す。闌：物事のまつ盛りであるさま。金闕：天子の宮殿。万戸：宮殿のたくさんの扉。玉階：宮殿の玉ぎよくをちりばめた階段。仙仗：天子を警護する儀仗兵。擁：擁護する。千官：出仕するおおぜいの役人。劍珮：腰に下げる劍と佩玉、参内する役人の正装。星初落：夜が明けて星が見えなくなるのは、太陽が沈むように星が西の空から落ちると考えられていた。旌旗：旗指物、天子の旗を指す。鳳皇池：鳳池に同じ、鳳皇池のそばに中書省があったことから、中書省を指す。陽春：格調の高い歌の意。

(唐詩選)

★唐 岑参

暮春饒る州東亭送李司馬紀氣掃扶風別廬

暮春 饒州の東亭に李司馬の扶風別廬に帰るを送る

柳鞞鶯嬌花復殷

柳は鞞れ鶯は嬌びて花復た殷し

紅亭綠酒送君還

紅亭 綠酒 君が還るを送る

到來函谷愁中月

到り来れば 函谷 愁中の月

歸去磻谿夢裏山

帰り去らば 磻谿 夢裏の山

簾前春色應須惜

簾前の春色 応に須べからく惜しむべし

世上浮名好是閑

世上の浮名 好く是れ閑なり

西望鄉關腸欲斷

西のかた郷關を望めば 腸 断えんと欲す

對君衫袖淚痕斑

君に対して 衫袖 淚痕斑らなり

【語釈】

暮春：陰曆三月のこと。饒州：今の河南省盧氏県。東亭：町の東にある駅亭（宿場にある旅館）。司馬：刺史を補佐する官。扶風：今の陝西省鳳翔。別廬：別荘。鞞：垂れ下がること。嬌：可愛い声で鳴くこと。殷：黒みがかつた赤色のこと。紅亭：建物を赤く塗り飾った駅亭。綠酒：緑色に澄んだ酒、上質な酒のこと。到來：君はこの土地へ来てから。函谷：函谷関。愁中月：憂愁の気持ちを抱いて見る月。磻谿：鳳翔の南、宝雞の近くにある谷川。夢裏山：夢に見ていた山々。簾前：すだれの前。春色：春景色。須：当然すべきである。世上：世間。浮名：あてにならぬ虚名。好是：まったく。閑：どうでもいいこと。郷關：ふるさと。腸欲断腸がちぎれんばかりの悲しい思い。衫袖：着物の袖。淚痕：涙の流れた跡。

（岑嘉州集）

★唐 岑参

韋員外家花樹歌

韋員外の家の花樹の歌

今年花似去年好

今年こんねんの花は 去年こぞに似て好し

去年人到今年老

去年こぞの人は 今年こんねんに到りて老ゆ

始知人老不如花

始めて知る 人は老いて 花はなに如しかざるを

可惜落花君莫掃

惜おぼしむ可べし 落花はな 君きみ掃はらうこと莫なかれ

君家兄弟不可當

君きみが家いへの兄弟けいてい 当あたる可べからず

列卿御史尚書郎

列卿れつけい 御史ぎよし 尚書郎しょうしょろう

朝回花底恒會客

朝あさより回かえりて 花底かていに 恒つねに客きやくを会あい

花撲玉缸春酒香

花はなは玉たま缸かみを撲うつて 春酒しゅんしゆ香かばし

【語釈】

韋員外：韋姓の員外郎。始：やと。不如：く不及ばない。掃：掃く。不可當：勢威を侵すことが出来ない。列卿：大勢の高官。居並ぶ高官。御史：官吏の不正を曝（あば）いて、取り調べる官。尚書郎：行政を司る尚書省の課長級の官吏。朝：朝廷。花底：花の下。會客：客を接待する。撲：はたとあててうつ。玉缸：立派な素焼きのかめ。春酒：春にできる酒。

(唐詩選)

★唐 岑参

胡笳歌送顔真卿使赴河隴

胡笳の歌 顔真卿が使いして河隴に赴くを送る

君不聞胡笳聲最悲

君聞かずや 胡笳の聲 最も悲しきを

紫髯綠眼胡人吹

紫髯綠眼の 胡人 吹く

吹之一曲猶未了

之を吹いて 一曲 猶お 未だ了らざるに

愁殺樓蘭征戍兒

愁殺す 樓蘭 征戍の兒

涼秋八月蕭關道

涼秋 八月 蕭關の道

北風吹斷天山艸

北風 吹斷す 天山の草

崑崙山南月欲斜

崑崙山南 月 斜めならんと欲す

胡人向月吹胡笳

胡人 月に向いて 胡笳を 吹く

胡笳怨兮將送君

胡笳の怨 將に 君を送らんとす

秦山遙望隴山雲

秦山 遙かに望む 隴山の雲

邊城夜夜多愁夢

辺城 夜々 愁夢 多し

向月胡笳誰喜聞

月に向かいて 胡笳 誰か聞くを喜ばん

【語釈】

胡笳：西方の異民族の葦笛。顔真卿：字は清臣、諡は文忠、玄宗以降四代に仕えて、安祿山の乱で大功を挙げた、書家として名高い。河隴：甘肅省東南部。紫髯：赤いほおひげ、緑眼：青い目。胡人：西域の人種。愁殺：ひどく愁えさせる。樓蘭：新疆ウイグル自治区東南部にあった幻の都市。征戍兒：国境守備の兵士。涼秋：涼しい秋。蕭關：甘肅省東南端に接する寧夏回族自治区の固原の東南にある関。吹斷：吹きちぎる。天山：天山山脈。崑崙：崑崙山脈。怨：うらみがま

しい感情。秦山：陝西省の山。隴山：甘肅省東南部にある山。邊城：辺疆の町。  
愁夢：心配のあまりにみる夢、愁いをふくんだ夢。

〔唐詩選〕

★唐 岑参

白雪歌送武判官歸京

白雪歌 武判官の京に帰るを送る

北風捲地百草折  
胡天八月即飛雪  
忽然一夜春風來  
千樹萬樹梨花開  
散入珠簾濕羅幕  
孤裘不煖錦衾薄  
將軍角弓不得控  
都護鐵衣冷猶著  
瀚海闌干百丈冰  
愁雲慘淡萬里凝  
中軍置酒飲歸客  
胡琴琵琶與羌笛  
紛紛暮雪下轅門  
風掣紅旗凍不翻  
輪臺東門送君去  
去時雪滿天山路  
山迴路轉不見君  
雪上空留馬行處

北風は土を巻き 百草は折れ  
胡天の八月 即ち雪を飛ばす  
忽然として 一夜 春風来たり  
千樹 万樹 梨花開く  
散じて珠簾に入り 羅幕を湿し  
孤裘 煖ならず 錦衾薄し  
將軍の角弓 控くを得ず  
都護の鉄衣 冷きを猶著る  
瀚海の闌干 百丈の氷  
愁雲 慘淡 万里凝る  
中軍に置酒して 帰客に飲ましめ  
胡琴と琵琶と羌笛と  
紛紛たる暮雪 轅門に下り  
風は紅旗を掣くも 凍りて翻えらず  
輪臺の東門に 君の去るを送る  
去りし時 雪は満つ 天山の路  
山廻り路転じて 君を見ず  
雪上空しく留む 馬行の処

【語釈】

武判官：人名。北風：冬の風。捲地：土を巻き上げる。白草：西域や北方に生える草で、枯れて乾けば白い色になり牛馬の飼料となる折：ここでは、薙ぎ倒される意になる。胡天：西域の気候。即：ただちに。飛雪：吹雪。忽然：たちまち。千樹萬樹：多くの木々梨花：梨の花、枝に積もった雪の形容。珠簾：たますだれ。羅幕：薄絹のとばり。煖：あたたか煖い。錦衾：錦の蒲団。角弓：つので作った弓。控：弓を引く。都護：都護府の長官。鐵衣：よろい。著：着る。瀚海：ゴビ砂漠、バイカル湖、北海。闌干：星の光がきらめくさま。百丈冰：とても長く伸びたつらら。愁雲：愁しげな雲。黦淡：薄暗い。凝：凍り固まる。中軍：諸侯の三軍のうち、総大将がいる主力を成す軍。置酒：酒盛りをする。歸客：武判官のこと。胡琴：西域の絃楽器。羌笛：西方異民族の吹く笛。紛紛：入り交じって乱れるさま。暮雪：夕暮れ時の雪。下：降（ふ）る。轅門：軍門。掣：引っ張る。引く。紅旗：軍旗。輪臺：天山山脈の北側にある天山北路の要地で、現・新疆ウイグル自治区ウルムチ市附近。山迴路轉：山や路は曲がりくねったありさまを表現する。馬行處：馬の行った跡かた。

（詩詞世界）『唐詩選』吉川幸次郎、筑摩書房



★唐 岑参

行軍九日思長安故園

行軍にて九日長安の故園を思ふ

強欲登高去

強いて高きに登り去らんと欲するも

無人送酒來

人の酒を送りて来る無し

遙憐故園菊

遙かに憐れむ故園の菊

應傍戰場開

応に戦場の傍にて開くべし

【語釈】

行軍：…臨時の軍営。九日：…重陽の節句。故園：…ふるさと、長年住み慣れた地の意。強欲：…無理に〜しようとする。登高：…重陽の節句のならわし。去：…動詞の後に添える助辞、動作が向こうへ向かうことを表す。憐：…いとおしむ。故園菊：…わが家の庭の菊。応：「きつと〜であろう」、強い推量の意を示す。傍：…〜のそばに。開：…花を咲かせていることだろう。

(唐詩選)

★唐 岑参

寄左省杜拾遺

左省の杜拾遺に寄す

聯歩趨丹陛

歩を連ねて 丹陛に趨るも、

分曹限紫微

曹を分つて 紫微に限らる。

曉隨天仗入

曉には 天仗に随つて入り、

暮惹御香歸

暮には 御香を惹て歸る。

白髮悲花落

白髮 花の落るを悲しみ、

青雲羨鳥飛

青雲 鳥の飛ぶを羨やむ。

聖朝無闕事

聖朝 闕事無く、

自覺諫書稀

自から覺ゆ 諫書の稀なるを。

【語釈】

左省：門下省。杜拾遺：杜甫。拾遺は官名。丹陛：朱で塗った宮殿の階段。趨：足早に歩く。曾：役所の部局。紫微：天子の宮殿を指す。天仗：天子の行列を護衛する兵。御香：宮中で焚かれる香の香り。聖朝：時の朝廷を尊んでいうことば。闕事：政治上の欠陥。諫書：天子をいさめる書。

★唐 岑参

晚發五溪

晚くれに五溪を発す

客厭巴南地

客は厭う 巴南の地

郷鄰劔北天

郷となは鄰る 劔北の天

江村片雨外

江村へん片雨うの外そと

野寺夕陽邊

野寺へん夕陽の邊

芋葉藏山徑

芋葉う藏山徑を蔵し

蘆花雜渚田

蘆花しよ渚田でんに雜じる

舟行未可住

舟行未だ住とどむ可からず

乘月且須牽

月に乗じて且つ須らく牽くべし

【語釈】

五溪：普通は武陵の五溪を指すが、この場合は所在不明。巴南：四川省の東部。  
劔北：劔門山の北。江村：川辺の村。片雨：通り雨。野寺：野原の寺。芋葉：芋  
の葉。渚田：岸辺の畑。牽：舟を引く。

(三體詩)

★唐 岑参

南亭送鄭侍御還東臺

南亭にて鄭侍御の東臺に還るを送る

江亭酒甕香

江亭 酒甕香ばし

白面繡衣郎

白面 繡衣の郎

砌冷蟲喧坐

砌は冷くして 虫座に喧しく

簾疎月到牀

簾は疎にして 月牀に到る

鐘催離興急

鐘は離興を催して急に

弦緩醉歌長

弦は醉歌を緩うして長し

關樹應先落

關樹 心に先に落つべし

隨君滿路霜

君に隨う 滿路の霜

【語釈】

南亭…南のあずまや。鄭侍御…不詳、侍御は侍御史、御史台（檢察庁）に属する微官。酒甕…酒がめ。白面…年若き男。繡衣郎…侍御史のうち強権を有する者。砌…石畳。牀…寝椅子。離興…別離の情。醉歌…酔っ払って歌う歌。關樹…關門の樹木。

（三体詩）

★唐 劉長卿

送李判官之潤州行營

李判官の潤州行營に之く送る

萬里辭家事鼓鼙

万里 家を辞して 鼓鼙を事とす

金陵驛路楚雲西

金陵の驛路 楚雲の西

江春不肯留行客

江春は肯えて 行客を留めず

草色青青送馬蹄

草色 青々として 馬蹄を送る

【語釈】

李：… 李某、人物については不明。判官：… 官名。節度使・觀察使などの属官。  
潤州：… 江蘇省鎮江市。行營：… 節度使や觀察使の役所。万里：… 万里の彼方へ。  
辞家：… 自分の家を離れて。事鼓鼙：… 軍務に従事することとなった。鼓鼙：…  
鼓は太鼓、鼙は、騎兵が馬上で打ち鳴らす小太鼓で柄がある、転じて、軍事・軍  
務をいう。金陵：… 江蘇省南京市の古名。  
驛路：… 驛亭間をつなぐ街道。江春：… 長江のほとりの春景色。不肯：… 「あえ  
てくせず」と読み、「進んでくしよとしない」と訳す。行客：… 旅ゆく人。不  
留：… 引き留めようとはしない。青青：… 青々と茂る。馬蹄：… 馬の蹄で、馬のこ  
と。

★唐 劉長卿

酬李穆

李穆に酬ゆ

孤舟相訪至天涯

孤舟 相訪あいついて 天涯てんがいに至る

萬轉雲山路更除

万転ばんてんの雲山路 更さらに除はらなり

欲掃柴門迎遠客

柴門を払はらいて 遠客を迎えんと欲すれば

青苔黃葉滿貧家

青苔 黃葉 貧家に満みつ

【語釈】

李穆：劉長卿の娘婿。酬：詩を送られたことの返礼。相訪：尋ねてくる。天涯：地の涯。ここでは、作者（：劉長卿）の許のこと。万転：何度も向きを変える意。雲山：雲のかかった高い山。除：遠い。柴門：柴（しば）を編んでつくった粗末な門。遠客：遠くから来た客、ここでは李穆を指す。黄葉：もみじ葉、秋になつて葉が黄色く変わる葉。貧家：貧しい家、寒家。

（三体詩）

★唐 劉長卿

重送裴郎中貶吉州

重ねて裴郎中の吉州に貶せらるるを送る

猿啼客散暮江頭

猿は啼き客は散ず暮江の頭

人自傷心水自流

人は自ら傷心水は自ら流る

同作逐臣君更遠

同じく逐臣と作りて君は更に遠く

青山萬里一孤舟

青山萬里一孤舟

【語釈】

重送…重ねて送別する。再び見送る。「重ねて」とあるのは、すでに「送裴郎中貶吉州」という五言律詩があるため。裴…作者の友人、人物については不明。郎中…官名、尚書省の六部の四司の各司の長。貶…罪によって官位をおとされ、地方に流されること。吉州…今の江西省吉安市。猿啼…猿が悲しげに鳴く。客散…見送りの人々がそれぞれ帰っていく。暮江頭…夕暮れの川のほとり。水自流…水は水として無心に流れていく、水は人間の嘆きをよそに流れていく。自…「おのずから」と読むが、ここでは「自然に」の意ではなく、「人は人、水は水、それ自体として」の意。逐臣…放逐された臣下。君更遠…君の左遷先は私よりずっと遠い。青山万里…遙か彼方まで続く青々として見える山。

★唐 劉長卿

過鄭山人所居

鄭山人が所居に過る

寂寂孤鶯啼杏園

寂々として 孤鶯 杏園に啼き

寥寥一犬吠桃源

寥々として 一犬 桃源に吠ゆ

落花芳草無尋處

落花芳草 尋ぬる処無く

萬壑千峰獨閉門

萬壑千峰 独り門を閉ず

【語釈】

過…立ち寄る。鄭山人…未詳、山に住んでいる鄭氏。所居…住まい。寂寂…ひっそりしているさま。桃源…桃源郷のような所。万壑千峰 多くの谷と峰。閉門…門をしめる、世間との交際を絶つたとえ。

(三体詩)



★唐 劉長卿

吳中贈別嚴士元

吳中嚴士元に贈別す

春風倚棹闔閭城

春風 棹かきに倚よる 闔閭城くわんりふじょう

水國春寒陰復晴

水國 春寒くして陰くむり復またた晴る

細雨濕衣看不見

細雨 衣しめを湿しめして 看れども見えず

閑花落地聽無聲

閑花かんか 地に落ちて聽きくに声無し

日斜江上孤帆影

日は江上に斜かたにして 孤帆の影

草綠湖南萬里情

草は湖南に緑きにして 万里の情

東道若逢相識問

東道 相識そうしきの問うに逢あわば

青袍今日誤儒生

青袍せいぼう 今日こんにち 儒生じゆせいかと誤あたん

【語釈】

○嚴士元：唐の馮翊臨晉（いまの陝西省華陰）の人、大理司直、京兆府戸曹掾、殿中侍御史、河南の令、刑部郎中、国子司業などをつとめた。員外：定員外の郎官の役人。吳中：江蘇省蘇州市。倚棹：船を停める。闔閭城：吳王闔閭が都を置いた蘇州を指す。水國：川や湖が多い土地、水郷地帯。陰：曇る。水閣 水辺に建てられたたかどの。細雨：霧雨、ごく細かいあめ。孤帆：ただ一隻の帆掛け船。万里：非常に遠い距離。東道：東へ向かう道。相識：知り合い。青袍：唐制では官位の低い八九品役人の服。儒生：孔子の学を修める学者。

★唐 劉長卿

感懷

感懷 かんかい

秋風落葉正堪悲

秋風 落葉 正に悲しむに堪えたり、

黃菊殘花欲待誰

黃菊 殘花 誰をか待たんと欲する。

水近偏逢寒氣早

水近くして 偏ひとえに寒氣に逢うこと早く

山深長見日光遲

山深くして 長く日光を見ること遅し

愁中卜命看周易

愁中 命を卜するに 周易を看

夢裏招魂讀楚詞

夢裏 魂を招くに 楚詞を読む

自笑不如湘浦雁

自ら笑う 湘浦の雁に如かざるを

飛來即是北歸時

飛來するは 即ち是れ 北歸の時

【語釈】

感懷…心に感じた思い。水…川や湖。偏…ひとえに、すこぶる。愁中…愁いの中で、愁いを抱いて。卜命…運命をうらなう。周易…周代の占いを書いた書、『易経』。夢裏…夢のなか。○招魂…死者のたましいを招いてなぐさめ、祭る。楚詞…『楚辞』。自笑…自嘲する。不如A…Aにおよばない。湘浦…湘水のほとり。湘水は…湖南省を流れて瀟水と合流して洞庭湖に注ぐ川。

(二体詩)

★唐 劉長卿

長沙過賈誼宅

長沙にて賈誼の宅に過ぎる

三年謫宦此棲遲

三年 謫宦 たくかん 此に棲遲し

萬古惟留楚客悲

萬古 惟だ留む 楚客の悲しみ

秋草獨尋人去後

秋草獨り尋ぬ 人去りて後

寒林空見日斜時

寒林空しく見る 日の斜なる時

漢文有道恩猶薄

漢文道うこと有り 恩猶お薄しと

湘水無情弔豈知

湘水 情無くして 弔うも豈に知らんや

寂寂江山搖落處

寂々たる江山 搖落の処

憐君何事到天涯

君を憐む 何事ぞ 天涯に到る

【語釈】

長沙：湖南省長沙市。賈誼：前漢の文帝に仕えた文人。三年：長沙に左遷されて三年間とどまった。謫宦：遠方の辺地に流された役人。萬古：昔からずっと。楚客：故郷を離れて楚の地方（長江中下流域）にいる者。寒林：さびしい林。漢文：漢代の文章。湘水：湖南省を流れ、瀟水と合して洞庭湖に注ぐ。弔：人の死を悲しみ、いたみとむらう気持ち。賈誼は任地に赴く途中、「弔屈原文」を作った。寂寂：ひっそりとして、さびしいようす。江山：山川。搖落：木々の葉が散る。何事：どういふわけで、なぜ。天涯：きわめて遠い所。

（唐詩三百首）

★唐 劉長卿

送靈澈上人

靈澈上人を送る

蒼蒼竹林寺

蒼々たる竹林寺

杳杳鐘聲晚

杳々たる鐘聲の晩

荷笠帶夕陽

荷笠 夕陽を帯び

青山獨歸遠

青山に独り帰ること遠し

【語釈】

靈澈：劉長卿の友人で詩僧であった。蒼蒼：鬱蒼としたさま。竹林寺：所在不明、靈澈上人の寺と思われる。杳杳：ほのかに聞こえるさま。荷笠：背に負った笠。

（三体詩）

★唐 劉長卿

尋南溪常山道人隱居

南溪の常山道人の隱居を尋ぬ

一路經行處

一路 經行の處

莓苔見履痕

莓苔 履痕を見る

白雲依靜渚

白雲 靜渚に依り

春草閉閑門

春草 閑門を閉ざす

過雨看松色

雨を過ぎて 松色を看

隨山到水源

山に隨いて 水源に到り

溪花與禪意

溪花と禪意と

相對亦忘言

相對して 亦た 言を忘る

【語釈】

南溪：浙江省紹興市の南にある鏡湖の南溪か。常山道人：劉長卿の知人らしいが、未詳、「道人」は道士、俗世間をはなれた隱者。莓苔：こけ。履痕：履き物の跡。依：たなびく。靜渚：しずかな水ぎわの地。過雨：雨があがったあと。隨山：山路をたどる。禪意：道を修めて心を靜めること

★唐 劉長卿

新年作

新年の作

郷心新歲切

郷心きょうしん 新歲切しんさいせつなり

天畔獨潛然

天畔てんぱん 獨ひと 潛然せんぜん

老至居人下

老おい 至りて 人ひと の下しも に居り

春歸在客先

春 歸りて 客の先さき に在り

嶺猿同旦暮

嶺猿れいえん 旦暮たんぼ を同じゅうし

江柳共風煙

江柳かうりゅう 風煙ふうえん を共にす

已似長沙傳

已ふ に 長沙ちやうさ の伝ふ に似たり

從今又幾年

今いま 從り 又 幾年

【語釈】

郷心…故郷を思う心。新歲…新しい年。天畔…天の端、天涯。潛然…涙を流す。  
嶺猿…山猿。旦暮…あけくれ。風煙…春霞。長沙傳…漢代の買誼のこと、長沙の  
傳に謫せられた。

(唐詩三百首)

★唐 劉長卿

酬秦系

秦系に酬ゆ

鶴書猶未至

鶴書猶お未だ至らざるに

那出白雲來

那なんぞ白雲を出でて来たる

舊路經年別

旧路 年を経て別れ

寒潮毎日迴

寒潮 日毎に廻めぐる

家空歸海燕

家空しくして 海燕かいえん帰り

人老發江梅

人老いて 江梅ひら発ひらく

最憶門前柳

最も憶う 門前の柳

閑居手自栽

閑居して 手て自栽ずからえしことを

【語釈】

秦系…劉長卿の友人。

鶴書…朝廷が賢者を招く詔書。

白雲…白雲が湧くような山中（隠棲の地）。

閑居…することもなく、のんびり暮らす。

自栽…陶淵明が隠棲するに際して自ら柳を植えたことに倣ったこと

★唐 劉長卿

餞別王十一南遊

王十一の南遊するに餞別す

望君煙水闊

君を望めば 煙水闊く、

揮手淚霑巾

手を揮れば 涙巾を沾おす

飛鳥沒何處

飛鳥何れの処にか没し、

青山空向人

青山空しく人に向かう

長江一帆遠

長江一帆遠く

落日五湖春

落日五湖春なり

誰見汀洲上

誰か見ん 汀洲の上

相思愁白蘋

相思 白蘋を愁うを

【語釈】

餞別：旅立つ人を見送る。王十一：劉長卿の友人らしいが、未詳。煙水：霞のかかった水面。巾：ハンカチ。五湖：江蘇省と浙江省にまたがる太湖。汀洲：水ぎわと中州。白蘋：白いウキクサ。

(唐詩三百首)



★唐 劉長卿

漂母墓

漂母の墓

昔賢懷一飯

昔賢せきけん 一飯を懷おもう

茲事已千秋

茲この事 已に千秋

古墓樵人識

古墓こぼ 樵人しょうじん 識り

前朝楚水流

前朝ぜんちょう 楚水流る

渚蘋行客薦

渚蘋しよひん 行客こうかく 薦め

山木杜鵑愁

山木さんぼく 杜鵑とけん 愁う

春草茫茫綠

春草はるくさ 茫茫ぼうぼう の綠

王孫舊此遊

王孫わうそん 旧こ 此こゝ に遊ぶ

【語釈】

漂母：糸さらしのおばあさん（韓信の恩人の漂母）。昔賢：韓信。懷一飯：飢えていたとき食事を恵んでもらったこと。茲事：起句のできごと。樵人：樵。前朝：そのときのまま、此の地はそのとき楚と呼ばれた。渚蘋：渚にある浮き草の一種。行客：旅人。薦：お供えをする。王孫舊此遊：楚辞「招隠士」王孫遊不歸 春草生萋萋。

（三体詩）

★唐 劉長卿

穆陵關北逢人歸漁陽

ほくりようかんほく  
穆陵關北にて漁陽に帰る人に逢う

逢君穆陵路

君に逢う穆陵の路

匹馬向桑乾

匹馬桑乾に向う

楚國蒼山古

楚國蒼山古く

幽州白日寒

幽州白日寒し

城池百戰後

城池百戰の後

耆舊幾家殘

耆旧幾家か残る

處處蓬蒿遍

処々蓬蒿遍ねく

歸人掩淚看

歸人涙を掩いて看ん

【語釈】

穆陵關：湖北省安陸にあつた関所のことか。漁陽：河北省薊県。桑乾：山西省の北部から河北省に流れる川。楚國：戦国時代の楚の国、今の湖南省、湖北省一帯。幽州：河北省涿県。耆舊：昔なじみの人々。蓬蒿：荒れた土地に生える雑草。

★唐 劉長卿

送李中丞之襄州

李中丞の襄州に之くを送る

流落征南將

流落す 征南の將

曾驅十萬師

曾つて 十万の師を駆けさせり

罷歸無舊業

罷みて歸りて 旧業無く

老去戀明時

老い去りて 明時を恋う

獨立三邊靜

独り立てば 三邊静まり

輕生一劍知

生を輕んずること 一劍知る

茫茫漢江上

茫茫 漢江の上

日暮欲何之

日暮 何れに之かんと欲する

【語釈】

李中丞：不詳、中丞は御史中丞の略称。襄州：湖北省襄陽市。流落：他国を流浪し、落ちぶれる。征南：南方を征伐する。師：軍隊。罷：免職になる。旧業：むかしからの家業、家産。輕生：死を恐れないことを謂う。一劍知：劍だけが知っている。三邊：辺疆一帯を謂う。静：（叛乱が）静まる。茫茫：広々として果てしないさま。漢江：漢水のこと、長江の最大の支流で、その多くは湖北省を流れる。

（詩詞世界）

★唐 劉長卿

送朱放賊退後往山陰

朱放しゅほうが賊退ぞくいて後山陰しゅいんに往ゆくを送る

越中初罷戰

越中 初はつめめて戰いくさを罷やめ

江上送歸橈

江上 歸き橈せうを送る

南渡無來客

南渡 來客無なく

西陵自落潮

西陵 自おのずから落らく潮しう

空城垂故柳

空城 故柳垂こりゆうれ

舊業廢春苗

旧業 春苗を廢しゅんびようす

閭里稀相見

閭里 相りよりい見みること稀まれに

鶯花共寂寥

鶯花 共おうかに寂せきりよう寥

【語釈】

朱放：襄州（湖北省襄陽）の人、浙江省紹興市に移り鑑湖のあたりに隠棲した。  
山陰：越州の県名。越中：越州の付近（曾ての越の地）。初：ようやくと。歸橈  
：帰る舟。南渡：南の地方に亘っていくと。西陵：錢塘湖の河口。落潮：潮が引  
く。故柳：昔なじみの柳。旧業：昔の財産の田。閭里：村里、村落。

(三体詩)

★唐 劉長卿

題元錄事所居

元錄事が所居に題す

幽居蘿薜情

幽居ゆうきよして蘿薜らへきの情あり

高臥紀綱行

高臥こうが紀綱きこう行ぎょうわる

鳥散秋鷹下

鳥は散じて秋鷹しゅうおう下り

人閑春草生

人は閑かんにして春草しゅんそう生ず

冒嵐歸野寺

嵐を冒して野寺に帰り

收印出山城

印を收めて山城を出ず

今日新安郡

今日新安郡しんあんぐん

因君水更清

君に因よりて水更みづに清し

【語釈】

元録事：不詳、録事は官名（録事参軍）で、刺史に下屬する官。幽居：世を避けて静かなところに住む。蘿薜：蔦や葛、山深い処の象徴、蘿薜情とは、そこを慕う気持。高臥：高逸の心を持つて隠棲すること。紀綱：法律規則。鳥散：小人どもが恐れて退散すること。秋鷹下：元録事が隠棲したことを喩える。收印：官職を辞する。新安郡：歙州、浙江省杭州市や安徽省黄山市にまたがる。

（三体詩）

★唐 劉長卿

秋日登吳公臺上寺遠眺寺即陳將吳明徹戰場

秋日 吳公台上の寺に登り遠く眺む 寺は即ち陳の將 吳明徹の戰場なり

古臺搖落後

古台 揺落の後

秋日望郷心

秋日 望郷の心

野寺人來少

野寺 來人少に

雲峰水隔深

雲峰 水を隔てて深し

夕陽依舊壘

夕陽 旧壘に依り

寒磬滿空林

寒磬 空林に滿つ

惆悵南朝事

惆悵す 南朝の事

長江獨至今

長江 独り今に至る

【語釈】

吳公台…南朝の宋の劉誕が築いた弩台。吳明徹…陳の將軍。揺落…木々の葉が風に散る。○寒磬…寒中に響く磬の音。磬はへの字形の楽器。惆悵…不各嘆き悲しむこと。

★唐 張謂

題長安主人壁

長安主人の壁に題す

世人結交須黃金

世人 交わりを結ぶに 黃金を須う

黃金不多交不深

黃金 多からざれば 交わり深からず

縱令然諾暫相許

縱令 然諾して 暫く相許すとも

終是悠悠行路心

終に是れ 悠悠たる 行路の心

【語釈】

主人：宿の主人。世人：世間の人。結交：交際するのに。黃金：金錢。  
金の力。須：「もちう」「もちいる」と読み、「くを必要とする」と訳す。縱令：  
「たといつとも」と読み、「たとえつとも」と訳す。然諾：よろしいと引  
き受けること。相：ここでは「互いに」という意味ではなく、動作に対象があ  
ることを示す言葉。「相手に対して」の意。許：心を許す、ここでは親しく交  
際すること。終：結局は。悠悠：はるかに隔たること、ここでは疎遠で無関  
心な態度を形容する言葉。行路心：道を行く通りすがりの人の気持ち、冷淡で  
無関心な気持ちという。

(唐詩選)

★唐 張謂 送人使河源 人の河源かみずしに使用するつかいを送る

故人行役向邊州 故人行役して辺州に向う

匹馬今朝不少留 匹馬今朝少しも留とどまらず

長路關山何日盡 長路 関山 何れの日にか尽きん

滿堂絲竹爲君愁 滿堂の糸竹 君が為に愁う

【語釈】

河源：黄河の河源地方、寧夏省銀川のあたりから甘肅省蘭州あたりまでの地域。  
行役：官命によつて旅に出ること。邊州：辺境。匹馬：一匹の馬。関山：国境の山。糸竹：管弦

(唐詩選)



★唐 張謂

贈喬琳

喬琳に贈る

去年上策不見收

去年 策を上りて 収められず

今年寄食仍淹留

今年 寄食して 仍 淹留す

羨君有酒能便醉

羨やむ 君が酒有れば 能く便酔うを

羨君無錢能不憂

羨やむ 君が錢無くして 能く憂えざるを

如今五侯不待客

如今 五侯 客を待せず

羨君不問五侯宅

羨やむ 君が五侯の宅を問わざるを

如今七貴方自尊

如今 七貴方に自尊す

羨君不過七貴門

羨やむ 君が七貴の門に過ぎらざるを

丈夫會應有知己

丈夫 会はず 己に知己有るべし

世上悠悠安足諭

世上 悠悠 安足を諭る

【語釈】

喬琳…太原の人。天宝の初め進士に及第、のち地方の刺史(州の長官)を歴任した。

策…対策(皇帝の問い(策問)に答える上奏文、科挙の答案)

上…天子に提出すること。不見収…採用されない。見…「る」「らる」と読み、「くされる」と訳す。受身の意を示す。寄食…居候すること。仍…「なお」と読み、「まだ」「依然として」と訳す。淹留…長い間とどまっていること。羨…「うらやましい。君…喬琳を指す。便…「すなわち」と読み、「くすれ

ばすぐに」と訳す。不憂…平気でいられる。五侯…公・侯・伯・子・男の諸侯。待客…客を大切にもてなす、待」は接待。七貴…前漢諸帝の皇后の一族として、羽振りをかかした七つの氏族。呂りよ・霍かく・上官・丁・趙ちよう・傅ふ・

王の七氏、ここでは今を時めく貴族たちに喩える。丈夫：立派な男。会：「かならず」と読み、「かならず」と訳す。知己：自分をよく理解してくれる人。世上：世の中、世間の人。悠悠：ここでは無関心なこと。安：「いざくんぞくん（や）」と読み、「どうして〜であろうか（いやくない）」と訳す。反語の意を表す。

(唐詩選)

★唐 張謂

湖中對酒作

湖中酒に對して作る

夜坐不厭湖上月

夜坐 厭わず湖上の月

晝行不厭湖上山

昼行 厭わず湖上の山

眼前一樽又長滿

眼前の一樽 又長えに滿つ

心中萬事如等閑

心中万事 等閑の如し

主人有黍萬餘石

主人 黍有り 万余石

濁醪數斗應不惜

濁醪 數斗 応に惜しまざるべし

即今相對不盡歡

即今 相對して 歡を尽くさずんば

別後相思復何益

別後 相思うも 復た何の益あらん

茱萸灣頭歸路賒

茱萸灣頭 歸路 賒かなり

願君且宿黃公家

願わくば 君 且らく宿せよ黃公が家

風光若此人不醉

風光 此の若くして 人酔わずんば

參差辜負東園花

參差として東園の花に辜負せん

【語釈】

湖中：湖に舟を浮かべて。夜坐：夜は坐つたままで。不厭：飽きない。湖上月：湖の水面にかかる月。昼行：昼は歩き回って。眼前一樽：目の前の酒樽。又長滿：いつも酒がいっぱいに入っている。等閑：気に留めないこと、意に介しないこと。黍：きび、酒を作る原料。万余石：一万石余り。濁醪：濁り酒。どぶろく。応不惜：何の惜しまれるはずがあるう。応：「まさにくすべし」と読み、「きつとくであるう」と訳す、強い推量の意を示す。即今：「ただいま、現在。相對：向かい合って。不盡歡：思う存分喜びを尽くさなかつたら。別後：別れた後。相思：互いに懐かしがる。復何益：何の役に立つ

ものか。茱萸湾：江蘇省揚州市の東北にあつた湾という説、あるいは長沙府益陽県にあつた洞庭湖の一つの湾という説とがある。湾頭：湾の出入り口。賒：はるかに遠い。黄公家：竹林の七賢の一人、晋の王戎等が黄公の酒場で痛飲したことを懐かしんだという『世説新語』に見える故事に基づく、ここでは主人の家を指す。風光：よい景色。参差：食い違って、ここでは咲きほこっていない東園の花の心意気と食い違うこと。東園花：東の庭に咲いている桃や李の花。辜負：相手の気持ちにそむく。

★唐 戴叔倫

盧橘花開楓葉衰

出門何處望京師

沅湘日夜東流去

不爲愁人住少時

湘南即事

盧橘 花開きて 楓葉衰う

門を出でて 何れの処にか 京師を望まん

沅湘 日夜 東に流れ去る

愁人の為に 住まること 少時もせず

湘南即事

【語釈】  
湘南：湖南省湘潭県の西。即事：その場の事を詠じた詩。・盧橘：金柑。楓葉：  
楓の葉。出門：城門を出ること、郊外へ行く意。京師：帝都。沅湘：沅江と湘  
江、共に湖南省を流れて洞庭湖に注ぐ川の名。愁人：愁いを抱く人。

(三体詩)

★唐 戴叔倫

日日河邊見水流

傷春未已復悲秋

山中舊宅無人住

來往風塵共白頭

贈殷亮

日々 河辺に 水の流るるを見る

春を傷み 未まだ已まざるに 復た秋を悲しむ

山中の旧宅 人の住む無く

風塵に來往して 共に白頭

殷亮に贈る

【語釈】

殷亮：人名、不詳。河邊：川のほとり。舊宅：かつての住まい。來往：行つた  
り来たり、うろうろすること。風塵：けがれた俗世間。白頭：白髪頭、年をとつ  
たことを示す常用語。

(三体詩)

★唐 戴叔倫

夜発袁江李穎川劉侍郎

夜 袁江を發し 李穎川 劉侍郎に寄す

半夜回舟入楚郷

半夜 舟を回ぐらして 楚郷に入る

月明山水共蒼蒼

月明 山水 共に蒼々たり

孤猿更叫秋風裏

孤猿 更に叫ぶ 秋風の裏

不是愁人亦斷腸

是れ 愁人ならずとも 亦た腸を断たん

【語釈】

袁江：江西省萍鄉県を流れ、贛江に注ぐ川の名。李穎川：人名、不明。侍郎：中書省、門下省、尚書省各部署の副長官。半夜：夜中、夜半。楚郷：楚の地方。蒼蒼：青白い色。愁人：愁いを抱いている人。

（唐詩選）

★唐 戴叔倫

三閭廟

三閭廟

沅湘流不盡

沅湘 流れて尽きず

屈子怨何深

屈子 怨み何ぞ深き

日暮秋煙起

日暮 秋煙起り

蕭蕭楓樹林

蕭々たり 楓樹の林

【語釈】

三閭廟：屈原を祀った廟。沅湘：沅江と湘江、どちらも洞庭湖に注ぐ。屈子：屈原。蕭蕭：風が物寂しく鳴る音の形容、または風に吹かれて木々の葉が鳴る音の形容。楓樹：カエデの一種。

（唐詩選）

★唐 戴叔倫

江郷故人偶集客舎

江郷の故人 偶ま客舎に集う

天秋月又満

天秋にして月又満ち

城闕夜千重

城闕夜千重

還作江南會

還た江南の会を作し

翻疑夢裏逢

翻つて疑う夢裏に逢うかと

風枝驚暗鵲

風枝 暗鵲を驚かし

露草覆寒蛩

露草 寒蛩を覆う

羈旅長堪醉

羈旅 長えに酔うに堪え

相留畏曉鐘

相留めて 曉鐘を畏る

【語釈】

江郷：江南の故郷、戴叔倫の故郷。故人：昔なじみ。客舎：旅館。城闕：長安城をさす。江南會：江南から来ている人の集まり。夢裏：夢の中。風枝：風に揺れる木の枝。暗鵲：枝で眠っている鵲。寒蛩：寒々と鳴く虫、コオロギの類い。羈旅：故郷を離れて旅にあること。長堪醉：長く酔っていることで、旅の寂しさが紛れる。

(唐詩三百首)

★唐 叔淑倫

早行寄朱放

早行して朱放到寄す

山曉旅人去

山曉けて旅人去り

天高秋氣悲

天高くして秋氣悲し

明河川上没

明河川上に没し

芳草露中衰

芳草露中に衰う

此別又千里

此の別れ又千里

少年能幾時

少年能く幾時ぞ

心知剡溪路

心を知る剡溪の路

聊且寄前期

聊且前期を寄す

【語釈】

早行：朝早く出発すること。朱放：河北省襄陽の人、浙江省紹興に移り、鑑湖のあたりに隠棲して多くの名士と交わった。左拾遺に任じられた。秋氣：秋の気配。明河：銀河。川上没：川の上に見えた銀河が夜明けと共に消え去った。芳草：かぐわしい草。少年：若いとき。剡溪：浙江省紹興市の会稽山中の谷川、朱放の隠棲地。聊且：二字で一語、しばしば自分の行為を謙遜する意味。前期：将来の約束。

(三体詩)



★唐 戴叔倫

江上別張歆

江上張歆に別る

年年五湖上

年年五湖の上に

厭見五湖春

厭い見る五湖の春

長醉非關酒

長く酔うは酒の関わるに非らず

多愁不爲貧

多く愁うは貧の為ならず

山川迷道路

山川道路に迷い

伊洛暗風塵

伊洛風塵暗し

今日扁舟別

今日扁舟もて別れ

俱爲滄海人

俱に滄海の人と為る

【語釈】

張歆：人名、不詳。五湖：江蘇省と浙江省の間にある大湖。伊洛：伊水と洛水、共に洛陽付近を流れる川。暗風塵：その地方が安定でないこと。滄海：海、あてどない旅の比喩。

(三体詩)

★唐 戴叔倫

除夜宿石頭驛

除夜石頭驛に宿す

旅館誰相問

旅館誰か相い問わん

寒燈獨可親

寒燈ひとり親しむ可し

一年將盡夜

一年將に尽きんとするの夜

萬里未歸人

万里未だ帰らざる人

寥落悲前事

寥落として前事を悲しみ

支離笑此身

支離として此の身を笑う

愁顔與衰鬢

愁顔と衰鬢と

明日又逢春

明日又春に逢う

【語釈】

寒燈：冬の夜の灯。寥落：落ちぶれた様。前事：今までの人生で起こったこと。  
支離：ちぐはぐなこと。愁顔：愁いに満ちた顔。衰鬢：苦勞や老年のために艶を  
失った、又は薄くなった髪の毛

＜参考＞高適詩 「除夜作」

「旅館寒燈獨不眠 客心何事轉悽然 故郷今夜思千里 霜鬢明朝又一年」

(三体詩)

★唐 戴叔倫

汝南別董校書

汝南にて董校書に別る

擾擾倦行役

擾々たる行役に倦み

相逢陳蔡間

相逢う 陳蔡の

如何百年内

如何ぞ 百年の内

不見一人閑

見ず 一人の閑

對酒惜餘景

酒に対して 余景を惜しみ

問程愁亂山

程を問いて 亂山を愁う

秋風萬里道

秋風万里の道

又出穆陵關

又穆陵関を出ず

【語釈】

汝南：中国河南省駐馬店市の県。校書：校書郎、秘書を校堪することを司る官。  
擾擾：ごたごたしたさま。行役：仕事としての旅行。相逢：出会う。陳蔡間：陳  
と蔡の間だ（孔子が難儀したところ）。餘景：残っている光。程：道のり。亂山：  
不揃いに連なっている山々。穆陵關：山東省青州府にあった関所。

（三体詩）

★唐 司空曙

江村即事

江村即事

釣罷歸來不繫船

釣を罷め帰り来たりて 船を繫がず

江村月落正堪眠

江村 月落ちて 正に眠るに堪えたり

縱然一夜風吹去

縱然 一夜 風吹きて去るとも

只在蘆花淺水邊

只 蘆花の淺水の辺に在らん

【語釈】

江村…川辺の村。縱然…たとえ…であろうとも。吹去…吹き飛ばす。去…動詞  
の後に附いて、動作が遠ざかる、持続する感じを表す。…しさる。只在…ただ…  
にあるだけ。淺水…淺瀬。

〔三体詩〕

★唐 司空曙

徑廢寶光寺

廃せる寶光寺を經

黄葉前朝寺

黄葉 前朝の寺

無僧寒殿開

僧無くして 寒殿開く

池晴龜出曝

池は晴れて 龜出でて曝し

松暮鶴飛迴

松は暮れて 鶴飛び廻ぐる

古井碑横草

古井 碑は草に横わり

陰廊畫雜苔

陰廊 画は苔を雜じう

禪宮亦銷歇

禪宮 亦た銷歇す

塵世轉堪哀

塵世 転た哀れむに堪えたり

【語釈】

寶光寺：則天武后のときに長安に作られ、安史の乱で破壊された寺、詳細不明。  
寒殿：ひっそりとした寺。曝：甲羅干しをする。古井：古い井戸。陰廊：暗い廊下。銷歇：憩う、終わりになる。塵世：俗世間

(三体詩)

★唐 司空曙

題江陵臨沙驛樓

江陵の臨沙の驛樓に題す

江天清更愁

江天 清く更に愁う

風柳入江樓

風柳 江樓に入る

雁惜楚山晚

雁は 楚山の晩を惜しみ

蟬知秦樹秋

蟬は 秦樹の秋を知る

淒涼多獨醉

淒涼として 独醉多く

零落半同遊

零落として 同遊を半ばにす

豈復平生意

豈に復た 平生の意

蒼然蘭杜洲

蒼然たり蘭杜の洲

【語釈】

江陵：湖北省江陵。臨沙驛：江陵府に属する宿場。江天：長江と空。風柳：風にそよぐ柳。淒涼：物寂しい、痛ましい。零落：木の葉の散ること、ここでは落ちぶれること。同遊：かつての友人。豈復：反語。平生意：かつて思っていたこと。蒼然：日暮れの薄暗いさま。蘭杜：蘭と杜若、共に香草。

(三体詩)

★唐 司空曙

雲陽館與韓紳宿別

雲陽の館にて韓紳と宿別す

故人江海別

故人と 江海に別れ

幾度隔山川

幾度か 山川を隔つ

乍見翻疑夢

乍ち見えて 翻って夢かと疑い

相悲各問年

相い悲しみて 各々の年を問う

孤燈寒照雨

孤燈 寒くして 雨を照らし

深竹暗浮煙

深竹 暗くして 煙を浮かぶ

更有明朝恨

更に 明朝の恨み有れば

離杯惜共傳

離杯 共に伝うるを惜しまんや

【語釈】

雲陽：陝西省涇陽県の西北部。韓紳：韓升卿ともいう、不詳。宿別：旅館に泊まって別れの宴を張る。故人：古くからの友人、韓紳のこと。江海：長江と海、都を離れた地：江湖。幾度：何度も、遙かに。乍：突然に、不意に。翻：反対に、事実とは逆に。孤燈：一つだけともっている灯火。深竹：深い竹藪。浮煙：軽やかなもや。更有：その上。離杯：別れの杯。共傳：互いに取り交わすこと。

（唐詩三百首）

★唐 司空曙

喜外弟盧綸見宿

外弟盧綸の宿せらるるを喜ぶ

靜夜四無鄰

靜夜 四よもに鄰となり無く

荒居舊業貧

荒居 旧業こつぎよ きやうごう貧し

雨中黃葉樹

雨中 黃葉の樹

燈下白頭人

燈下 白頭の人

以我獨沈久

私の独り沈むこと久しきを以って

愧君相見頻

君の相見あひまるの 頻しきりなるに愧ず

平生自有分

平生 自おのずから分有り

況是蔡家親

況んや是れ 蔡家さいけの親なるをや

【語釈】

外弟：自分より年少のいとこ。盧綸：詩人、作者と共に、大歴の十才子と称された。四無鄰：四方に隣り合う家がないこと。荒居：あばらや。舊業：古くからの財産。沈：おちぶれていること。相見：訪れる。平生：昔から。分：身分。況是：…まして…なのだから。蔡家親：（前漢の）蔡家にも比すべき権力者の親戚。

（唐詩三百首）



★唐 司空圖

修史亭

修史亭

烏紗巾上是青天

烏紗巾上 是れ青天

檢束酬知四十年

檢束して知に酬ゆ 四十年

誰料平生臂鷹手

誰か料らん平生鷹を臂にして手に

挑燈自送佛前錢

灯を挑げて自ら仏前の錢を送らんとは

【語釈】

修史亭…司空図の亭の名。司空図が山居記に「大悲の像を刻み手て亭を構う。其の右を擬綸といい、其の著す所を志すなり。擬綸の右の亭を修史といい、職むる所を助むなり」とあり。烏紗巾…隠者のかぶる黒い頭巾。烏巾に同じ。青天…あおぞら。檢束…自分の身を引き締めること。酬知…知は、知己。誰料…反語。料は推量する、予測すること。平生…日ごろ。臂鷹手…四十年の苦勞を形容した語。佛前錢…賽錢のこと。

(三体詩)

★唐 司空圖

早春

早春

傷懷仍客處

懷を傷みて 仍お客處す

病眼却花朝

眼を病みて 却つて花朝なり

草嫩侵沙短

草は嫩くして 沙を侵して 短かく

冰輕著雨消

冰は輕くして 雨を著して消ゆ

風光知可愛

風光 愛す可きを知るも

客鬢不相饒

容鬢 相い饒さず

早晚丹丘伴

早晚 丘丹の伴

飛書肯見招

書を飛ばして肯えて招かれん

【語釈】

傷懷…心を痛めて悲しむこと。客處…故郷を離れて寓居する。却…背くこと。花  
朝…花咲く朝（旧暦二月十四日ではない）。嫩…草の柔らかいこと。容鬢…旅で  
寓居するときに衰えた髪。不相饒…勘弁しない。丹丘…仙山の名。

★唐 司空曙

賊平後送人北歸

賊平ぎて後人の北に帰るを送る

世亂同南去

世 乱れて 同おなじく南に去り

時清獨北還

時 清れて 独ひとり北に還える

他鄉生白髮

他鄉 白髮を生じ

舊國見青山

旧国 青山を見る

曉月過殘壘

曉月 殘壘を過ぎ

繁星宿故關

繁星 故關に宿す

寒禽與衰草

寒禽と衰草と

處處伴愁顏

処々 愁顏に伴わん

【語釈】

賊…安史の乱の賊軍？。時清…世情がすっかり安定する。舊國…故郷。殘壘…荒れ果てたとりで。繁星…多くの星。故關…古い関所。愁顏…愁いに満ちた顔。

(唐詩三百首)

★唐 司空圖

下方

かほう  
下方

三十年來往

三十年來往す

中間京洛塵

中間 京洛の塵

倦行今白首

行に倦みて今 白首

歸臥已清辰

歸臥して 已に清辰

坡暖冬生筍

坡は暖くして 冬にも筍を生じ

松涼夏健人

松は涼しくして 夏人を健にす

更慚徵詔起

更に慚ず 徵詔せられて起つを

避世迹非真

世を避くるも 迹た真に非らず

【語釈】

下方：山の麓の下の方。京洛：長安と洛陽。歸臥：隱棲。白首：白髮頭。清辰：清らかな朝、すがすがしい心。坡：つつみ。徵詔：勅命を受けて仕官すること。

(唐詩三百首)

★唐 王建 おうげん

望十五夜月

十五夜月を望む

中庭地白樹棲鴉

中庭地白くして樹に鴉棲み

冷露無聲濕桂花

冷露声無く桂花を湿らす

今夜月明人盡望

今夜月明人尽く望むも

不知秋思在誰家

知らず秋思の誰が家にか在る

【語釈】

望月：…月を眺めて楽しむこと。中庭：…母屋の正面にある庭。棲：…ねぐらにつく。露：…冷やかな露。桂花：…木犀の花。秋思：…秋の思いにふけっている人。

(唐詩選) (秋の詩 100選)

関連詩句

「中庭地白瀉蟾光，湛露零零桂子香。」(明・陳善)

「中庭地白樹影倒，始知鄰桂和秋老。」(明末清初・彭孫貽)

「洗兵佇待靖遐壤，冷露無聲奏凱旋。」(清・弘曆)

「掃愁亦是添愁者，冷露無聲桂影騫。」清・弘曆

「今夜月明何處宿，九疑雲盡碧參差。」(唐・許渾)

「庭柏飛霜陵漏永，可憐今夜月明中。」(宋・蔡襄)

★唐 張喬 ちやうきやう

送友人往宜春

友人往宜春を送る おうちんしゆん

落花兼柳絮

落花 柳絮を兼ね りかつしゆ

無處不紛紛

処として紛々たらざるは無し ふんぶん

遠道空歸去

遠道 空しく帰り去り えんどう

流鶯獨自聞

流鶯 独自聞く ひひとり

野橋喧碓水

野橋 碓に喧すしき水 うす

山郭入樓雲

山郭 楼に入る雲

故里南陵曲

故里 南陵の曲 くま

秋期更送君

秋期 更に君を送る

【語釈】

紛紛：一面に乱れ飛ぶさま。遠道：遙かな道。流鶯：流れ飛ぶ鶯の声。野橋：野原の中の橋。獨自：ひとり、二字でひとり、と読む。碓：ここでは水の流れを利用して突く碓。山郭：山の街。故里：故郷。南陵：安徽省南陵県。曲：一部落。秋期：秋賦（地方より，科挙に人を送ること）。

（三体詩）

★唐 張均 ちやうきん

岳陽晚景

岳陽の晚景 がくやう ばんけい

晚景寒鴉集

晚景寒鴉集まり かしくわ

秋風旅雁歸

秋風旅雁歸る りよがん

水光浮日去

水光 日を浮べて去り

霞彩映江飛

霞彩 江に映えて飛ぶ かさい

洲白蘆花吐

洲は白くして 蘆花を吐き す

園红柿葉稀

園は紅にして 柿葉稀なり くわん

長沙卑濕地

長沙は卑湿の地 ちやうさ

九月未成衣

九月 未だ衣成らず

【語釈】

寒鴉：冬のからす。旅雁：旅の雁。霞彩：夕焼け雲の美しい彩り。江：長江。洲：中洲。蘆花：蘆の花。園：庭園の中。長沙：湖南省長沙市。卑湿：土地が低くて湿気が多いこと。未成衣：冬着の支度がまだできていない。

(唐詩選)

★唐 張敬忠 ちやうけいちゆう

邊詞

邊詞 へんし

五原春色舊來遲

五原の春色 旧來遲し きゅうらいちし

二月垂楊未挂絲

二月 垂楊 未だ糸を挂けず すいよう 未だいとをかけず

即今河畔冰開日

即今 河畔 氷開くの日 そくこん へん 氷開くの日

正是長安花落時

正に是れ 長安 花落つるの時

【語釈】

辺詞：辺境を詠んだ詩。五原：関内道塩州にある町の名。現・陝西省西北部で、寧夏回族自治区と内蒙古自治区との接点近くの地で現・定辺。春色：春景色。旧来：もともと、昔から。二月：陰暦二月で、春も盛りのころ。掛糸：芽を吹いたしだれ柳の枝が垂れ下がること。即今：ただいま。正是：ちょうど……である。

(唐詩選)



★唐 張載 ちやうさい

土牀

土牀 どしよう

土牀煙足紬衾暖

土牀煙足りて 紬衾暖かに どしよう ちゆうきん

瓦釜泉乾豆粥新

瓦釜泉乾きて 豆粥新たなり がふ かわ とうしゆく

萬事不思溫飽外

万事思わず 温飽の外 ばんざい おんぼう そと

漫然清世一閑人

漫然たる清世の一閑人 まんぜん せいせい いちかんじん

【語釈】

土牀：土を塗り重ねて作った炬燵のような暖房具。紬衾：紡いで作った掛け布団。瓦釜：瓦で作った釜。豆粥：豆がゆ。温飽：暖かい衣服を着て十分に食べる不自由のない喻、飽食暖衣。漫然：とりとめの無いさま。清世：上手く収まった世の中。

（聯珠詩格）

★唐 張籍 ちやうせき

感春

春を感ず

遠客悠悠任病身

遠客 悠々として 病身に任ず えんかく

誰家池上又逢春

誰が家の池上にか 又春に逢わん

明年各自東西去

明年 各自 東西に去らば

此地看花是別人

此地 花を見るは 是れ別人ならん

【語釈】

遠客：故郷を遠く離れた旅人。悠悠：うれえるさま。池上：池のほとり。

（二体詩）

★唐 張籍 ちやうせき

哀孟寂

孟寂を哀しむ もうじやく かな

曲江院裏題名處

曲江院裏 きやうくわいんり 名を題せし処

十九人中最少年

十九人中 最少年

今日風光君不見

今日風光君 見えず

杏花零落寺門前

杏花 零落す 寺門の前

【語釈】

孟寂：不詳、進士合格同期生？。曲江院裏：慈恩寺、科挙及第者は、曲江で宴を開き、慈恩寺大雁塔に名を記する習慣があつた。風光：景色。零落：凋んで落ちる。

(三体詩)

★唐 張籍

逢賈島

賈島に逢う かとう

僧房逢着歎冬花

僧房に逢着す 歎冬花 かんとうか

出寺行吟日已斜

寺を出て 行吟すれば 日は已に斜めなり

十二街中春雪遍

十二街中 春雪遍 あまね

馬蹄今去入誰家

馬蹄 今去りて 誰が家に入らん

【語釈】

賈島：中唐の詩人。「推敲」で名高い。逢着：ばったり会う、「着」は助辞。歎冬…ふきの類。十二街：長安城の街道。

(三体詩)

★唐 張籍

寄李渤

李渤に寄す

五度溪頭躑躅紅

五度溪頭 躑躅紅なり

嵩陽寺裏講時鐘

嵩陽寺裏 講時の鐘

春山處處行應好

春山 處々行きて応に好かるべし

一月看花到幾峰

一月 花を見て 幾峰にか到る

【語釈】

李渤：中唐の詩人。（？～882年）。字は澹之。若くして嵩山の少室山に隠棲し、少室山人と号す。五渡溪：嵩山にある溪の名称。躑躅：つつじ。嵩陽寺：嵩陽書院。

（三体詩）

★唐 張籍

秋思

秋思

洛陽城裏見秋風

洛陽城裏 秋風を見る

欲作家書意万重

家書を作らんと欲すれば 意万重

復恐忽忽說不尽

復た恐る 忽々 説いて尽さざるを

行人臨發又開封

行人 発するに臨みて 又た封を開く

【語釈】

城裏：城壁に囲まれた市街の中。家書：家族へあてた手紙。意万重：「あれも書きたい、これも書きたい」と、思いが幾重にも重なること。忽忽：慌ただしいさま。行人：飛脚。

（唐詩選）

★唐 張南史 春日道中寄孟侍御 春日道中孟侍御に寄す

春來遊子傷歸路 春來遊子 歸路を痛む

時有白雲邀獨行 時に白雲の 独行を邀える有り

水流亂赴石潭響 水流 乱れ赴いて 石潭響き

花發不知山樹名 花發いて 知らず 山樹の名

誰家魚網求鮮食 誰が家の魚網か 鮮食を求め

何處人煙事火耕 何れの処の人煙か 火耕を事とす

昨日已嘗村酒熟 昨日 已に村酒の熟するを嘗む

一杯思與孟嘉傾 一杯 孟嘉と傾けんと思ふ

【語釈】

孟侍御：不詳、侍御は官名で御持史のこと。春來：春になると、「來」は助辞。  
遊子：さすらい人。獨行：一人旅。石潭：岩の多い淵。火耕：焼き畑農業。孟嘉  
：晋の人、酒好きで有名、ここでは、孟侍御をなぞらえたもの。

(三体詩)

★唐 李華

春行寄興

春行興を寄す

宜陽城下草萋萋

宜陽城下草萋萋たり

澗水東流復向西

澗水東に流れて復た西に向う

芳樹無人花自落

芳樹人無く花自ら落ち

春山一路鳥空啼

春山一路鳥空しく啼く

【語釈】

春行：春の行楽。寄興：感興を詩に託して述べる。宜陽：河南省宜陽県。  
城下：城壁の外、町の郊外。萋萋：草が盛んに茂っているさま。澗水：谷  
川の水。芳樹：芳しい花の咲いている春の木。無人：見る人もなく。花自  
落：花は独りではらはらと散っている。春山：春の山道。一路：一す  
じに。

(唐詩選)

★唐 李益 りえき

從軍北征

軍に従って北征す

天山雪後海風寒

天山 てんざん 雪後 海風寒し

横笛偏吹行路難

横笛 びつ 偏ひとえに吹く「行路難」  
こうろなん

磧裏征人三十萬

磧裏 せきり 征人 せいじん 三十万

一時回首月中看

一時 いつじ 首くびを回まわらして月中げつちゆうに看みる

【語釈】

從軍…遠征軍に参加すること。北征…北方の地を征伐すること。天山…新疆ウイグル自治区を横断する山脈。雪後…雪が晴れた後。海風…青海など西方の湖から吹く風。偏…しきりに、折悪しく。行路難…古楽府の歌曲の名、旅路の苦難を主題とする。磧裏…砂漠（ゴビ砂漠）の中。征人…遠征の兵士。一時…いつせいに。回首…振り向いて。振り返って。月中…月の光の下で。  
(唐詩選)

★唐 李益

婆羅門

婆羅門 ばらもん

回樂峰前沙似雪

回樂峯前 かいらくほうぜん 沙雪に似たり

受降城下月如霜

受降城外 じゆせきょうじやうがい 月霜の如し

不知何處吹蘆管

知らず何れの処にか 蘆管を吹く  
ろかん

一夜征人盡望鄉

一夜征人 いつちやせいじん 尽く郷を望む  
きんきやう

【語釈】

受降城…初め漢の武帝の時、匈奴の降服を受け入れるため塞外に築いたものであるが、唐の時代に突厥の攻撃を防ぐため再興した。回樂峯…山西省大同県の西にある山。東受降城の西にあたる。蘆管…胡笳、蘆笛。征人…出征兵士。  
(唐詩三百首)

★唐 李益

汴河曲

汴河の曲

汴水東流無限春

汴水 東流す 無限の春

隋家宮闕已成塵

隋家の宮闕 已に塵と成れり

行人莫上長堤望

行人 長堤に上りて望むこと莫かれ

風起楊花愁殺人

風起こりて楊花 人を愁殺せん

【語釈】

汴河・汴水：黄河と淮水とをつなぐ運河。宮闕：本来は宮殿の意であるが、ここでは隋帝の離宮を指す。已成塵：すでに荒廃して塵となつてしまつた。行人：道行く人、旅人。長堤：運河沿いに築かれた長い堤。楊花：楊柳の花、白い綿毛が飛ぶ。愁殺人：見る人を深い悲しみに沈ませる。

(唐詩選)

★唐 李益

夜上受降城聞笛

夜上受降城に上りて笛を聞く

入夜思歸切

夜に入りて帰るを思ふこと切なり

笛聲寒更哀

笛声 寒く更に哀し

愁人不願聽

愁人 聴くを願わざるに

自到枕前來

自 枕前に到り来る

風起塞雲斷

風起りて塞雲断え

夜深關月開

夜深くして関月開く

平明獨惆悵

平明 独り 惆悵す

落盡一庭梅

落尽くす 一庭の梅

【語釈】

受降城：モンゴル自治区包頭西北の黄河沿岸にあつた城塞。枕前：枕元。塞雲：寨に懸かる雲。関月：関所（国境）に懸かる月、関山月。平明：夜明け。惆悵：嘆き悲しむ。

（三体詩、「聞笛」戎昱詩）



★唐 李益

喜見外弟又言別

外弟に見<sup>あ</sup>うを喜び又別れを言<sup>う</sup>

十年離亂後

十年離亂の後

長大一相逢

長大にして一たび相い逢<sup>う</sup>

問姓驚初見

姓を問いて驚き初めて見

稱名憶舊容

名を称して旧容を憶<sup>う</sup>

別來滄海事

別<sup>べつ</sup>來<sup>らい</sup>滄<sup>そう</sup>海<sup>かい</sup>の事

語罷暮天鐘

語を罷<sup>や</sup>みて暮天の鐘

明日巴陵道

明日<sup>あした</sup>巴<sup>はり</sup>陵<sup>りょう</sup>の道

秋山又幾重

秋山又幾重ならん

【語釈】

離亂…一族が離ればなれになる戦乱。長大…大人になったこと。一…今、再び。初見…(はっとして)改めて見直す。舊容…昔の姿。別來…離ればなれになって以来。滄海事…変転の甚だしいこと。暮天鐘…夕暮れの空に響く鐘の音。巴陵…湖南省岳陽市。

(唐詩三百首)

★唐 賈至

送李侍郎赴常州

李侍郎の常州に赴くを送る

雪晴雲散北風寒

雪晴れ雲散じて北風寒し

楚水吳山道路難

楚水吳山道路難し

今日送君須盡醉

今日君を送る 須らく酔いを尽くすべし

明朝相憶路漫漫

明朝相憶わば路漫々

【語釈】

李：李白の族叔（同族で父より年少の者）李暉のこと。郎：刑部侍郎。雲散：雲が散る、李侍郎が去っていくことと掛けている。楚水吳山：楚の川と吳の山。須：「すべからくべし」と読み、「ぜひする必要がある」「くするべきだ」と訳す。相憶：互いに思い偲んでみても。漫漫：道路の長く遠いさま。（唐詩選）

★唐 賈至

西亭春望

西亭の春望

日長風暖柳青青

日長く風暖かにして柳青青

北雁歸飛入窅冥

北雁帰り飛んで窅冥に入る

岳陽城上吹笛聞

岳陽城上吹笛を聞く

能使春心滿洞庭

能く春心を使ひて洞庭に満たしむ

【語釈】

日長：春の日が長い、昼の間が長いこと。青青：青々と芽を吹いた。北雁：春になって北へ帰っていく雁。岳陽城：岳陽楼、洞庭湖に面している楼。春心：わが春の愁いを含む思い、ここでは岳陽に左遷されている作者のやるせない思いを指す。（唐詩選）

（唐詩選）

★唐 賈至

春思 其一

春思 其の一

草色青青柳色黃

草色 青々として 柳色黄なり

桃花歷亂李花香

桃花 歴乱 李花香る

東風不爲吹愁去

東風 為に 愁いを吹き去らず

春日偏能惹恨長

春日 偏えに 能く恨みを惹いて長し

【語釈】

柳色：柳の新芽の色。歴亂：歴乱：花がいつぱいに咲き乱れるさま。為：私のために。春日：うらかな春の日。偏：あいにくと、人の気も知らないで。惹恨：深い嘆きを引き起こす、惹は、引きつける、引き起こす。長：尽きることがない。

(唐詩選)

★唐 賈至

春思 其二

春思二首 其二

紅粉当墻弱柳垂

紅粉 墻に当たれば弱柳垂れ

金花臘酒解酴醾

金花の臘酒 酴醾を解く

笙歌日暮能留客

笙歌日暮れて能く客を留め

醉殺長安輕薄兒

醉殺す 長安 輕薄の兒

【語釈】

紅粉：紅白粉おしろい、ここでは紅粉をつけた女。当墻：酒場で客の接待をすること、墻は、土を盛りあげて酒壘さかがめを置いたところ。弱柳垂：しなやかな柳の枝が垂れている。金花：黄金色の花、酒の色の形容。臘酒：陰曆十二月に醸造された酒。酴醾：酒の名、唐代、寒食の日、宮中で百官にこの酒を賜ったという。解：酒の封を切る。笙歌：笙と歌。醉殺：酔いつぶす、殺は、動詞の下について意味を強める助辞。輕薄兒：品行の悪い若者。

(唐詩選)

★唐 柳宗元

曹侍御過象縣見寄

曹侍御の象県を過つて寄せられしに酬ゆ

破額山前碧玉流

破額山前 碧玉の流れ

騷人遥駐木蘭舟

騷人遙かに駐む 木蘭の舟

春風無限瀟湘意

春風限り無し 瀟湘の意

欲採蘋花不自由

蘋花を采らんと欲するも 自由ならず

【語釈】

侍禦：侍御史、皇帝の側に使える役人。象縣：嶺南道柳州の県（广西壯族自治區象州県）。破額山：象県の中の柳江のほとりにある山。碧玉：清く青く澄んでいる喻え。騷人：屈原をはじめとする『楚辞』の世界の人、曹侍御をいう。遥駐：象縣と柳州は、50里ほど離れている。木蘭舟：木欄で作った船、船の美称。瀟湘：湘水と瀟水の合流しているところ、洞庭湖の南。瀟湘意：曹侍御に逢いたいのだが果たせないこと。蘋花：浮き草の一種の花。  
（柳宗元詩集）

★唐 柳宗元

夏晝偶作

夏昼偶作

南州溽暑醉如酒

南洲の溽暑 酔いて酒の如し

隱几熟眠開北牖

几に隠つて熟眠 北牖を開く

日午獨覺無餘聲

日午独り覺めて 余声無し

山童隔竹敲茶臼

山童 竹を隔てて 茶臼を敲く

【語釈】

○夏晝偶作：夏の昼に、たまたま作った詩。○南州：南国の永州、作者が左遷された先の地。○溽暑：蒸し暑いこと。○醉如酒：（暑熱による）酔いのさまは、酒に酔ったかの如くである。○隱：よりかかる。几：机。○熟眠：熟睡。○北牖：北側のれんじ窓。○日午：正午。

○独覚…ひとり目覚める。○餘声…ほかの物音。○山童…山に住む子供。○茶臼…茶の葉をひいて抹茶にするのに用いるひき臼。(詩詞世界)

★唐 柳宗元 柳州二月榕葉落盡偶題

柳州二月榕葉落ち尽くして偶々題す

宦情羈思共悽悽

宦情 羈思 共に悽々

春半如秋意転迷

春半ばなるに秋の如く意転た迷う

山城過雨百花尽

山城の過雨 百花 尽き

榕葉滿庭鶯亂啼

榕葉 庭に満ちて鶯は乱れ啼く

【語釈】

柳州(広西壮族自治区の柳州市)。榕葉…榕樹(あこう)の葉。偶題…たまたま詩をつくる。宦情…役人としての思い。羈思…旅愁、ここでは地方勤めの愁。凄…わびしく悲しいさま。意…思い。転…ますます。迷…悲しみ悼む。山城…山あいの町、柳州を指す。過雨…通り雨。

(柳宗元詩選)

★唐 柳宗元

登柳州城樓寄漳汀封連四州

柳州の城樓に登りて漳汀封連四州に寄す

城上高樓接大荒

城上の高樓 大荒に接す

海天愁思正茫茫

海天の愁思 正に茫茫

驚風亂颭芙蓉水

驚風亂れ颭がす芙蓉の水

密雨斜侵薜荔牆

密雨斜めに侵す薜荔の牆

嶺樹重遮千里目

嶺樹重りて千里の目を遮ざり

江流曲似九廻腸

江流曲りて九廻の腸に似たり

共來百越文身地

共に來る百越文身の地

猶自音書滯一鄉

猶お自ら音書一郷に滯おる

【語釈】

柳州：広西チワン族自治区に位置する地級市。漳汀封連四州：漳州（現・漳浦）・汀州（現・長汀）・封州（現・封川）・連州（現・連県）の四つの地方、同志の韓秦、韓擘、陳謙、劉禹錫らが左遷された地方名。大荒：中原から遠く離れた所。日月の没する所。海天：広く大きい空の意。愁思：うれいの心。正：まさしく。茫茫：ぼうつとしてはっきりしないさま。驚風：激しい風。颭（風が物を）動かす、波立てる。芙蓉：ハスの花。密雨：しげく降る雨。薜荔：オオイタビ。暖地の山地に生ずるクワ科の匍匐性常緑低木。牆：垣根、塀。嶺樹：南嶺の南（嶺南）の木々、嶺々の木々。千里目：遙か彼方までの眺望。江流：川の流れ。曲：曲がり方。九廻腸：何度も曲がりくねった腸。百越：周代まで江南の浙江省南部、福建省、広東省、広西チワン族自治区からベトナムにいたる地域に住んでいた、諸々の未開民族である百越族の総称。文身：入れ墨。猶自なおまだ。音書：手紙。一郷：どこかのとある村。

（唐詩選 柳宗元詩選）

★唐 柳宗元

漁翁

漁翁

魚翁夜傍西巖宿

魚翁夜西巖に傍うて宿し

曉汲清湘燃楚竹

曉に清湘を汲んで楚竹を燃く

煙銷日出不見人

煙銷え日出でて人を見ず

欸乃一聲山水綠

欸乃一聲山水綠なり

迴看天際下中流

天際を迴看して中流を下れば

巖上無心雲相逐

巖上無心雲相逐う

【語釈】

漁翁：年取った漁師。傍：よりそう。西巖：西側のいわお。清湘：清らかな湘江（湖南省を貫流する川。）の流れ。楚竹：湘妃竹のこと、楚国に多い篠竹の類で、斑竹ともいう。煙：もや。銷：消える。欸乃：船頭が船をこぐとき調子をあわせで歌う歌、舟歌。迴看：ふり返り見る。天際：水平線の彼方。無心：考えたり意識したりする心がない、自然であること。

（唐詩選）

★唐 柳宗元

江雪

江雪じやうせつ

千山鳥飛絶

千山鳥飛ぶこと絶え

萬逕人蹤滅

万径じんじんこう人蹤滅す

孤舟蓑笠翁

孤舟さりゅう蓑笠の翁

獨釣寒江雪

独り釣る 寒江の雪に

【語釈】

千山：果てしなく連なる山々。萬逕：数多くの径。人蹤：人の通った足跡。孤舟：川に一つだけ見える舟。蓑笠：蓑笠を着ける。寒江：寒々とした川。

(柳宗元詩選) (唐詩三百首)



★唐 柳宗元

夏初雨後尋愚溪

夏初の雨後に愚溪を尋ぬ

悠悠雨初霽

悠悠 雨初めて霽れ

獨繞清溪曲

ひとり繞る 清溪の曲

引杖試荒泉

杖を引きて 荒泉を試み

解帶圍新竹

帯を解きて 新竹を囲む

沈吟亦何事

沈吟 亦た何をか事とせん

寂寞固所欲

寂寞 固より欲する所なり

幸此息營營

幸いに 此に營々を息む、

嘯歌靜炎燠

嘯歌して 炎燠を静めん

【語釈】

愚溪：湖南省永州市にある川の名、染溪と言ったが柳宗元が愚溪と改めその近くに住んだ。悠悠：時間的に長く、空間的に広く遠いこと。霽：雨がやむこと。引杖：杖について。荒泉：荒れた泉。解帶：帯を解いてくつろぐ。沈吟：深く考える、物思いに沈む。寂寞：深い静けさ。幸此：左遷されて此処に住むのを幸いとしている。息：やめる。營營：あくせくして利を求めること。嘯歌：長く詠う。炎燠：内にこもる熱気、心中の俗気。

(柳宗元詩選)

★唐 柳宗元

溪居

溪に居む

久爲簪組累

久しく簪組の累いを為す

幸此南夷謫

此の南夷を謫幸いとす

閑依農圃鄰

閑に農圃の鄰に依り

偶似山林客

偶ま山林の客に似たり

曉耕翻露草

曉に耕して露草を翻えし

夜榜響溪石

夜に榜ぎて溪石を響かす

來往不逢人

來往して人に逢わず

長歌楚天碧

長歌すれば楚天碧し

【語釈】

溪居：愚溪に住む。簪組：中央官僚を指す。南夷：永州。農圃鄰：隣近所の農家。  
衣：頼る。偶：はからずも。山林客：山に住む隠者。榜：船をこぐ櫂。楚天：南方僻地の空。

(唐詩三百首)(柳宗元詩選)

★唐 裴説はいえつ

早春寄華下同志

早春華下の同志に寄す

正是花時節

正に是れ花時の節

思君寢復興

君を思いて寢て復た興おく

市沽終不醉

市沽しこ終つひに酔わず

春夢亦無憑

春夢ま亦た憑たのむ無し

嶽面懸青雨

岳面がくめん青雨を懸け

河心走濁冰

河心かしん濁冰だくひょうを走らす

東門一條路

東門 一條の路

離恨正相仍

離恨りこん正まに相あい仍よる。

【語釈】

華下：華山（五岳の一つで陝西省華陰県の南にある）のほとり。興：起きる。市沽：街で買ってきた酒。憑：人にたのむ。嶽面：華山の表面。懸：ここでは、雨が簾をかけたように見える。青雨：清い雨。河心：黄河の中央。仍：仍旧、元のま

（三体詩）

★唐 寒山 かんざん

詩三百三首 其二

詩三百三首 其二

重巖我卜居

重巖に我居を卜す

鳥道絶人迹

鳥道人迹を絶つ

庭際何所有

庭際何の有る所ぞ

白雲抱幽石

白雲幽石を抱く

住茲凡幾年

茲に住んで凡そ幾年

屢見春冬易

屢ば春冬の易るを見る

寄語鍾鼎家

語を寄す 鍾鼎の家

虛名定無益

虛名定ず益無し

【語釈】

重巖…重畳たる岩山。鳥道…鳥だけが通う険しい道。庭際…庭先。幽石…物寂しい石。鍾鼎家…富豪や貴族の豪奢の家。

(中国詩人選集 5)

★唐 寒山

詩三百三首 其九

詩三百三首 其の九

人間寒山道

人寒山の道を問うも

寒山路不通

寒山には路は通ぜず

夏天冰未釋

夏天に氷未だ<sup>と</sup>積<sup>と</sup>けず

日出霧朦朧

日出ずるも霧<sup>むつ</sup>朦朧<sup>もうろう</sup>たり

似我何由届

我に似るも何に由<sup>よ</sup>りてか届<sup>いた</sup>らん

與君心不同

君と心同じからず

君心若似我

君の心若し我に似たれば

還得到其中

還<sup>ま</sup>た其の中に到るを得ん

(中国詩人選集 5)

★唐 寒山

詩三百三首 其五十五

詩三百三首 其五十五

桃花欲經夏

桃花夏を經んと欲するも

風月催不待

風月は催して待たず

訪覓漢時人

漢時の人を訪ね覓むるに

能無一箇在

能く一箇 在る無し

朝朝花遷落

朝々花遷りて落ち

歲歲人移改

歲々人移りて改まる

今日揚塵處

今日塵の揚がる處

昔時爲大海

昔時 大海為りき

【語釈】

風月：時の移り変わり。

(中国詩人選集一五)

★唐 寒山

詩三百三首 其二百九十

詩三百三首 其の二百九十

寒山唯白雲

寒山唯だ白雲のみ

寂寂絶埃塵

寂々として埃塵を絶す

草座山家有

草座 山家に有り

孤燈明月輪

孤灯 月輪明らかなり

石牀臨碧沼

石牀 碧沼に臨み

虎鹿每爲鄰

虎鹿 每を鄰を爲す

自羨幽居樂

自ら幽居の樂しみを羨い

長爲象外人

長えに象外の人と為らん

【語釈】

寂寂：一切の動きのない静寂の世界。草座：草で作った座布団。孤灯：ここでは月のこと。石牀：石のソファ。象外：現象を越えた高尚な世界。

★唐 寒山

詩三百三首 其二百二十六

詩三百三首 其の二百二十六

自樂平生道

自ら楽しむ 平生の道

煙蘿石洞間

煙蘿 石洞の間

野情多放曠

野情 放曠多し

長伴白雲閑

長に白雲に伴いて閑かなり

有路不通世

路に有りて世に通ぜず

無心孰可攀

心無ければ孰か攀ずべし

石牀孤夜坐

石牀にひとり夜坐すれば

圓月上寒山

円月 寒山に上る

【語釈】

平生道：平常心、南泉大師「平常心これ道なり」。煙蘿：霧に包まれた林間の蔦。  
野情：自然人の心。放曠：とらわれることのない自由さ。石牀：石で作った寢床。  
夜坐：夜坐って沈思黙考すること。  
472



★唐 鮑溶 ほうちゆう

隋宮

隋宮 ずいきゆう

柳塘煙起日西斜

柳塘 煙起こって 日は西に斜めなり

竹浦風迴鴈弄沙

竹浦 風回りて 雁沙を弄す

煬帝春遊古城在

煬帝の春遊 古城在り

壞宮芳草滿人家

壞宮の芳草 人家に満つ

【語釈】

隋宮：長安より揚州に渡る隋堤沿いに煬帝が造営した四十余所ある離宮のこと。  
柳塘：隋堤のこと。煬帝が命じて作らせた運河、通済渠の堤には、多くの柳が植えられた。烟起：もやが生じる。竹浦：揚州の竹西（地名）あたりの川辺。雁弄沙：雁が砂浜に降り立つ様子を詠じた。煬帝：隋二代皇帝。通済渠の工事には情勢も含め百万の民衆が動員され、暴政と非難された。古城：いにしえの城。壞宮…こわれた宮殿。隋宮こと。

（三体詩）

★唐 賈島 度桑乾 桑乾を度る

客舎并州已十霜

客舎 并州 已に十霜

歸心日夜憶咸陽

歸心 日夜 咸陽を憶う

無端更渡桑乾水

端無くも更に渡る 桑乾の水

却望并州是故郷

却つて并州を望めば 是れ故郷

【語釈】

桑乾…桑乾河、北京の西南を流れ、永定河となる。并州…山西省太原市。客舎…旅ぐらしをする。十霜…十年、「霜」は星霜。歸心…故郷に帰りたいと思う心。咸陽…長安の西北にあり、秦の都があつた所、ここでは長安を指す。憶…思い出す。無端…思いがけず。更渡…更に（桑乾河を）渡つて遠方へ行く。却…ふり返つて。望…眺める。故郷…住むべき所。

（唐詩選）

★唐 賈島

三月晦日贈劉評事

三月晦日 劉評事に贈る

三月正當三十日

三月 正に当たる 三十日

風光別我苦吟身

風光 我が苦吟の身に別る

共君今夜不須睡

君と共に 今夜 睡るを須いず

未到曉鐘猶是春

未だ 曉鐘に到らざれば 猶お是れ春

【語釈】

晦日…一ヶ月の月末の日、三月晦日は春の最後の日。評事…大理寺（最高裁判所）に属する下級の裁判官。正當…ちょうどになる。風光…美しい自然のながめ。苦吟…苦心して詩歌を作ること。不須…に及ばない。もちいず。睡…ねむる。曉鐘曉鐘…黎明を告げる鐘の音。猶是…なおまだくだ。

（詩詞世界）

★唐 賈島

酬慈恩寺文郁上人

慈恩寺の文郁上人に酬ゆ

袈裟影入禁池清

袈裟の影は 禁池に入りて清らかなり

猶憶郷山近赤城

猶お憶う 郷山の赤城に近きを

籬落罅間寒蟹過

籬落の罅間 寒蟹過ぎ

莓苔石上晚蛩行

莓苔の石上 晩蛩行く

期登野閣閑應甚

野閣に登るを期すも 閑 応に甚しかるべく

阻宿幽房疾未平

幽房に宿るを阻まれ 疾い 未だ平かならず

聞説又尋南岳去

聞説く 又南岳を尋ねて去ると

無端詩思忽然生

無端くも 詩思 忽然として生ず

【語釈】

慈恩寺：長安の南東、曲江の当たりにある寺、玄奘三蔵が経を翻訳した寺。文郁上人：不詳。酬：詩を寄せられそれに応える。禁池：禁中の池。郷山：故郷の山。赤城：天台山の目印である赤城峰。籬落：まがき、かきね。罅間：すきま。寒蟹：寒々とした蟹。莓苔：こけ。晩蛩：晩になくコオロギ。野閣：郊外の高殿。幽房：静かで奥深い部屋。疾未平：いまだ病が治らない。聞説：聞くところによれば。南岳：南方の山。無端：思いがけず。詩思：詩を作ろうと思う心。

(三体詩)

★唐 賈島

早秋寄題天竺靈隱寺

早秋 天竺・靈隱寺に寄題す

峰前峰後寺新秋

峰前峰後寺新たに秋なり

絶頂高窓見沃洲

絶頂の高窓 沃洲を見る

人在定中聞蟋蟀

人は定中に在りて蟋蟀を聞き

鶴曾棲處挂獼猴

鶴の曾て棲みし処 獼猴を挂く

山鐘夜渡空江水

山鐘 夜渡る 空江の水

汀月寒生古石樓

汀月 寒く生ず 古石の樓

心憶懸帆身未遂

心は懸帆を憶えども身未だ遂げず

謝公此地昔年遊

謝公は此の地に 昔年遊ぶ

【語釈】

天竺靈隱：天竺寺と靈隱寺、共に浙江省杭州市の西郊の山中にある。寄題：田の地であって、題材にして詩を作ること。沃洲：山の名、浙江省新昌県の東にある。定中：無念無想の境地。蟋蟀：こおろぎ。獼猴：猿。空江：ひっそりとした川。汀月：岸辺の月。懸帆：帆掛け船。憶懸帆：帆掛け船に乗って尋ねて行きたいと思う。謝公：晉の謝安のこと、初め勧められても出士せず、杭州付近の山中で遊び過ぎした。

(三体詩)

★唐 賈島

尋隱者不遇

隱者を尋ねて遇わず

松下問童子

松下 童子に問うに

言師採藥去

言う 師は藥を採りに去けりと

只在此山中

只だ 此の山中に在らん

雲深不知處

雲深くして 処を知らず

【語釈】

尋隱：隠棲している人。松下：松の木の下。

(唐詩選) (唐詩三百首)

★唐 賈島

暮過山村

暮に山村を過ぎる

數里聞寒水

數里 寒水を聞く

山家少四鄰

山家 四鄰に少なり

怪禽啼曠野

怪禽 曠野に啼き

落日恐行人

落日に 行人恐る

初月末終夕

初月末だ夕を終らず

邊烽不過秦

邊烽 秦を過ぎず

蕭條桑柘外

蕭條たり 桑柘の外

煙火漸相親

煙火 漸く相い親しむ

【語釈】

寒水：寒々とした川の流れ。四鄰：…あたり、四辺。怪禽：怪しげな鳥。曠野：…荒れ野。行人：旅人。初月：…三日月。未終夕：…夜を待たずに沈む。邊烽：…辺境のもの。秦：…長安地方。蕭條：…物寂しいさま。煙火：…かまどの炊飯の煙。

『唐詩選』吉川幸次郎

★唐 賈島

題李凝幽居

李凝の幽居に題す

閑居少鄰並

閑居 鄰並少に

草徑入荒園

草徑 荒園に入る

鳥宿池邊樹

鳥は宿る 池辺の樹

僧敲月下門

僧は敲く 月下の門

過橋分野色

橋を過ぎて 野色を分かち

移石動雲根

石を移して 雲根動く

暫去還來此

暫らく去りて 還た此に來り

幽期不負言

幽期 言に負かず

【語釈】

李凝：不詳。李凝ともする。幽居：静かなわび住まい。閑居：静かな住まい。少  
：まれである。鄰並：隣り合う住まい。草徑：草深い小道、田舎道。荒園：荒れ  
果てた畑。池邊：池の畔。過橋：橋を渡る。分：分かち、分け隔てる。野色：野  
原の景色。雲根：山の高いところ。幽期：奥深い約束。不負：そむかない。

(詩詞世界)

★唐 賈島

暮過山寺

暮に山寺を過ぎる

衆岫聳寒色

衆岫 寒色に聳ゆ

精廬向此分

精廬 此に向いて分かる

流星透疎木

流星 疎木を透り

走月逆行雲

走月 行雲に逆らう

絶頂人來少

絶頂 人の來たること少に

高松鶴不羣

高松 鶴 郡ぜず

一僧年八十

一僧 年八十

世事未曾聞

世事 未だ曾て聞かず

【語釈】

衆岫…多くの山々。寒色…寂しい景色。精廬…精舎、寺。向…於と同じで場所を示す。疎木…疎らな木立。走月…走るように見える月。世事…俗世間のこと。

(三体詩)



★唐 賈島

送耿處士

耿處士を送る

一瓶離別酒

一瓶離別の酒

未盡即言行

未だ尽くさざらるに即ち行かんことを言う

萬水千山路

万水 千山の路

孤舟幾日程

孤舟 幾日の程

川原秋色靜

川原 秋色静かに

蘆葦晚風鳴

蘆葦 晚風鳴る

迢遞不歸客

迢遞たり 帰らざる客

人傳虛隱名

人は伝う 虚隱の名

【語釈】

耿處士：不詳、處士は官職に就かない在野の人。秋色：秋景色。蘆葦：あし。迢遞：遙かに遠いさま。虚隱：偽の隠者。

(三体詩)

★唐 韓愈

遊城南十六首 遣興

城南に遊ぶ十六首

興を遣る

斷送一生惟有酒

一生を斷送するに惟だ酒有るのみ

尋思百計不如閑

百計を尋思するに閑なるに如かず

莫憂世事兼身事

憂うる莫かれ世事と身事とを

須著人間比夢間

須らく人間を著つて夢間に比すべし

【語釈】

城南：長安の南。遣興：楽しむ。斷送：送る、過ぎてゆく、洗い流す。世事：世の中のこと。身事：身の上のこと。人間：人間世界。著：あらわす。比：ならぞえる。夢間：夢の中の世界。

(漢文大系11)

関連詩句

「斷送一生消底物，三年光景六篇詩。」(宋・蘇軾)

「畢竟老天憐老子，幽閒斷送一生心。」(宋・葉茵)

「終日看山不厭山。尋思百計不如閑。」(宋・週紫芝)

「好景只供人借看，尋思百計是歸強。」(宋・吳潛)

★唐 韓愈

左遷至藍關示姪孫湘

左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す

一封朝奏九重天

一封朝に奏す 九重の天

夕貶潮州路八千

夕べに潮州に貶せらる 路八千

欲爲聖明除弊事

聖明の為に弊事を除かんと欲す

肯將衰朽惜殘年

肯て衰朽を將て 殘年を惜しまんや

雲橫秦嶺家何在

雲は秦嶺に横たわりて家何くにか在る

雪擁藍關馬不前

雪は藍関を擁して馬前まず

知汝遠來應有意

知る汝の遠く來たる 応に意有るべし

好収吾骨瘴江邊

好し吾が骨を収めよ 瘴江の辺に

【語釈】

藍関：藍田関、陝西省の藍田県の南にある。姪孫：自分の兄弟の孫。一封：一通の上奏文。「論佛骨表」を奉り、憲宗が仏舍利を宮中に迎えようとしたことに反対した上奏文。封：上奏文、黒い袋に入れて封をしたことからいう。朝：あさ。奏：皇帝に具申する。九重天：ここでは、王宮をいう。夕：夕べに、その日の中。貶：落とす、潮州刺史に左遷されたことをいう。潮州：広東省の東北の沿岸部に位置する。路八千：長安から潮州への道のり、八千里の道程、極めて離れていることをいう。欲爲……のために……したいと思つて。聖明：聖明な皇帝をいう。弊事：好くない事がら、仏舍利を宮中に迎えることを指す。肯：あえて……か。反語的に使う。將……をもつて。衰朽：老衰する。殘年：余命。秦嶺：長安の南側にあって、東西に横たわる大山脈。家何在……人家がどこにあらうか。擁：包み込む。馬不前：馬は（降り積もった雪のために）進まない。應：きつと……だろう。有意：意図がある。瘴江：毒氣の漂う川。

(唐詩選) (漢詩鑑賞事典)

★唐 韓愈 城南十六首 其十三 把酒

城南に遊ぶ十六首 其十三 酒を把る

擾擾馳名者

擾々として名を馳す者

誰能一日閑

誰か能く一日閑なる

我來無伴侶

我來りて伴侶無く

把酒對南山

酒を把りて南山に對す

【語釈】

把酒：酒を飲む。擾擾：ざわざわするさま。馳名：名前を売る。南山：終南山

(漢詩大系 11)

★唐 韓愈 奉和虢州劉給事使君三堂新題二十一詠 柳巷

虢州劉給事使君の「三堂新題二十一詠」に和し奉てまつる 柳巷

柳巷還飛絮

柳巷 還た絮 飛び

春餘幾許時

春は幾の時を余すを許す

吏人休報事

吏人 事を報ずるを休めよ

公作送春詩

公は春を送る詩を作るなり

【語釈】

虢州：河南省慮氏県。劉給事使君：韓愈の知人である劉伯葛、病氣の為、中央の激務である給事中を辞めて虢州刺史となった。柳巷：柳のある町。吏人：下級役人。報事：職務上の出来事を報告する。公：劉給事使君

(漢詩大系 11)

★唐 章応物

登樓寄王卿

樓に登りて王卿に寄す

踏閣攀林恨不同

閣を踏み 林を攀じて 同じうせるを恨む

楚雲滄海思無窮

楚雲 滄海 思い窮まり無し

數家砧杵秋山下

數家の砧杵 秋山の下

一郡荊榛寒雨中

一郡の荊榛 寒雨の中

【語釈】

王卿：不明。踏閣…（いくつもの）高殿を踏破する意。攀…よじ登る。恨…（一緒に来なかったことを）残念に思う。楚雲：楚の地方（長江中流域、湖北、湖南一帯）の雲。滄海：あおうなばら、青々とした海。砧杵：砧（きぬた）と杵（きね）。荊榛：イバラとハシバミ。雑木のしげみ、雑木林。寒雨：寒々とした冬の雨。

（唐詩選）

★唐 章應物

滁洲西澗

滁洲の西澗

獨憐幽草澗邊生

独り憐れむ 幽草の澗辺に生ずるを

上有黃鸝深樹鳴

上に 黄鸝の 深樹に鳴く有り

春潮帶雨晚來急

春潮 雨を帯びて 晩來急なり

野渡無人舟自橫

野渡 人無く舟 自ら横わる

【語釈】

滁洲：安徽省の滁市。西澗：西側の谷川。憐：いつくしむ・めである。幽草：奥深い谷に生ずる草。澗邊：谷川の岸辺。黄鸝：朝鮮うぐいす。深樹：生い茂った木々、木々の繁み。春潮：春の日のうしお。晩來：夕暮れになつてはじまった。

急：流れが急になる。野渡：田舎の舟渡し場。自：自然と。勝手に。横：横たわ  
っている。

(唐詩三百首)

★唐 韋應物

與村老對飲

村老と對飲す

鬢眉雪色猶嗜酒

「鬢眉は雪色にして猶お酒を嗜み

言辭淳朴古人風

言辭は淳朴にして古人の風

鄉村年少生離亂

鄉村の年少は離亂に生れ

見話先朝如夢中

先朝を話すを見れば夢中の如し

【語釈】

與……と。介詞（前置詞）。村老……村の老人。對飲……向かい合つて酒を飲む、對酌。鬢眉……びんの毛やまゆ。猶……ちようど……のようだ。嗜……たしなむ。辭……ことばづかい。淳朴……「かざりけがなくて、素直。風……すがた。おもむき。鄉村……むらざと。年少……若者。離亂……戦争や自然災害等の混乱のために、家族が離れ離れになること。見話……人々の話すところによると。先朝……以前の王朝。如夢中……夢の中のようだ。

（詩詞世界）

★唐 韋應物

休暇日訪王侍御不遇

休暇日に王侍御を訪ねて遇わず

九日驅馳一日閑

九日驅馳して一日閑なり、

尋君不遇又空還

君を尋ねて遇わず又空しく還える。

怪來詩思清人骨

怪み來たる詩思の人骨を清くするを、

門對寒流雪滿山

寒流は門に対して雪は山に滿つ。

【語釈】

御……皇帝の側に使える人。驅馳……走り回ること（当時の役人は、9日働き、1日休暇であった）。怪來……あやしむ（「來」は助辭）。詩思……詩を作ろうと思ふ心。人骨……人

★唐 韋應物 酬柳郎中春日歸揚州南郭見別之作

柳郎中が春日揚州に帰らんとし、南郭にて別れらるるの作に酬ゆ

廣陵三月花正開 廣陵 三月 花正に開く

花裏逢君醉一廻 花裏 君に逢いて 酔一廻

南北相過殊不遠 南北 相い過ぎること 殊に遠からず

暮潮歸去早潮來 暮潮 帰り去りて 早潮來たる

【語釈】

柳郎中…不詳、郎中は各司の長。春日…春ののどかな日。揚州…江蘇省揚州市  
一帯。

南郭…町の城郭の南側。見…「る」「らる」と読み、「くされる」と訳す。酬  
…お返しをする。廣陵…揚州。正…ちようど。花裏…花のもとの。酔一廻…心ゆ  
くまで一度酔いたいものだ。一廻…一度。相過…互いに行き来すること。暮潮…  
夕暮れに満ちてくる潮。歸去…引いてゆく。早潮…朝に満ちてくる潮。

(唐詩選)



★唐 韋應物

淮上喜會梁川故人

淮上にて梁川の故人に喜会す

江漢會爲客

江漢に會て客と爲り

相逢每醉還

相い逢うて毎に酔いて還る

浮雲一別後

浮雲 一別の後

流水十年間

流水 十年の間

歡笑情如舊

歡笑 情 旧の如きも

蕭疎鬢已斑

蕭疎 鬢 已に斑なり

何因不歸去

何に因りてか歸去せざる

淮上有秋山

淮上に 秋山有り

【語釈】

淮上：淮河のほとり江蘇省淮陰一帯。なお、淮河は、華中を流れる河。黄河と長江の間にあつて、長江、黄河に次ぎ、中国第三の大河。河南省南端の桐柏山に源を發し、安徽省を流れて、江蘇省の洪沢湖を経て大運河に注ぐ。後世、金と南宋との国境線となつた川。梁州：漢中市。故人：旧友。江漢：梁州中の地名、長江と漢水。曾：かつて。したことがある。為：……となる。客：旅人。相逢：出逢う。每：いつも。浮雲：空に浮いて漂っている雲、空に浮く雲のように、遠く離れていて、何の関係もないこと。流水：流れる水、水の流れ、川の水の流れ去つて再び帰らないことを謂い、歲月等の時間で一度去れば再び帰らないものを謂う。歡笑：よろこび笑う、うちとけて笑う。情：こころ。蕭疎：木の葉などが落ちてさびしくまばらなさま。鬢：耳ぎわの髪の毛。斑：まだら。斑髮（しらが混じりの髪の毛）の意。

(詩詞世界)

★唐 韋応物

自鞏洛舟行入黄河即事寄府縣寮友

鞏洛自り舟行して黄河に入る即事 府県の寮友に寄す

夾水蒼山路向東

水を夾む蒼山路は東に向むかい

東南山豁大河通

東南山豁けて大河通ず

寒樹依微遠天外

寒樹依微たり遠天の外

夕陽明滅亂流中

夕陽明滅す乱流の中

孤村幾處臨伊岸

孤村幾處か伊岸に臨み

一鴈初晴下朔風

一雁初めて晴れて朔風に下くたる

爲報洛橋遊宦侶

為に報ぜよ洛橋遊宦の侶

扁舟不繫與心同

扁舟繫がず 心と同おなじと

【語釈】

鞏洛：河南洛陽一帯。即事：その場に触れてその場のことを題材として詩を作ること。蒼山：青く茂った山、青山。豁：からつと開けているさま。寒樹：冬木立、葉の落ちた樹木。依微：ぼんやりとしたさま。遠天外：遙かな空の果て。夕陽：夕日。孤村：ひとつぼつんとある村  
伊岸：伊水（河南省にある川）の岸。朔風：北風。洛橋：洛陽にある橋。遊宦：他国に行つて役人になった人。侶：友人。扁舟：小舟。不繫：舟のとも綱を解いて流れに任せる。

（唐詩選）

★唐 韋應物

寄李儋元錫

李儋元錫に寄す

去年花裏逢君別

去年花裏君に逢いて別れ

今日花開又一年

今日花開いて又一年

世事茫茫難自料

世事茫茫自らは料り難く

春愁黯黯獨成眠

春愁黯黯として獨り眠りを成す

身多疾病思田里

身に疾病多く 田里を思い

邑有流亡愧俸錢

邑に流亡有りて俸錢を愧す

聞道欲來相問訊

聞道 来りて相問訊せんと欲すと

西樓望月幾迴圓

西樓に月を望みて幾迴か円なる

【語釈】

李儋元錫…李儋のこと、字は元錫、韋應物の友人で、甘肅省武威の人。・世事…俗世間の出来事。茫茫…ぼうつとしてとりとめのないさま、広々としてはてしな  
いさま。難自料…自分で予測し難い。春愁…春のもの思い。黯黯…心が暗い、も  
のがなしい。成眠…寝付く、寝入る。田里…村里。流亡…郷里を離れ他国にさま  
よう人。俸錢…俸給。聞道…聞くとところによると。相…動作が相手におよぶこと。  
問訊…たずねる。西樓…西側の高殿。幾迴圓…何回、月が満月になったことだろ  
うか、何ヶ月経ったことだろうか。

(唐詩三百首)

★唐 韋應物

夕次盱眙縣

夕べに盱眙縣に次る

落帆逗淮鎮

帆を落として 淮鎮に逗まり

停舫臨孤驛

舫を停めて 孤驛に臨む

浩浩風起波

浩浩として 風波を起こし

冥冥日沈夕

冥々として 日夕べに沈む

人歸山郭暗

人歸えりて 山郭暗く

雁下蘆洲白

雁下りて 蘆洲白し

獨夜憶

獨夜 秦関を憶い

聽鐘未眠客

鐘を聽きて 未だ眠らざる客

【語釈】

盱眙縣：江蘇省の淮河に臨んだ町。逗：停泊する。淮鎮：淮の畔の町。孤驛：ぼつんとある宿場。浩浩：水などの広大なさま。冥冥：暗いさま。山郭：山辺の村。蘆洲：蘆の繁る中州。秦関：関中の地、長安。

(唐詩三百首)

★唐 韋應物

長安遇馮著

長安にて馮著に遇う

客從東方來

客 東方從り來たる

衣上灞陵雨

衣上灞陵の雨

問客何爲來

客に問の何為れぞ來るやと

采山因買斧

山に采るに斧を買うに因ると

冥冥花正開

冥々として花正に開き

颺颺燕新乳

颺々として燕新たに乳す

昨別今已春

昨別れ今已に春にして

鬢絲生幾縷

鬢糸 幾縷生ず

【語釈】

馮著：韋応物の友人であった人物。遇：偶然に会う。客：馮著。灞陵：霸陵、長安の東郊の地、漢の文帝の墓がある。何爲：なぜ。采山：山でたきぎをとる（隠者）。冥冥：奥深いさま。颺颺：風に吹き上げられ翻るさま。鬢糸：白く乱れたびんの毛。縷：ひとすじ。

(唐詩三百首)

★唐 韋應物

聞鴈

雁を聞く

故園眇何處

故園 眇として何れの処ぞ

歸思方悠哉

歸思 方に悠なる哉

淮南秋雨夜

淮南 秋雨の夜

高齋聞鴈來

高齋に 雁の來たるを聞く

【語釈】

聞雁：雁の鳴く音を聞きながら、故郷を思う。故園：ふるさと。眇：はるかかなた。歸思：故郷に帰りたいと思う心。方：まさしく。悠：思う心の果てしないさま。淮南：淮水の南、滁州を指す。高齋高樓にある郡齋。郡齋は郡の太守がいる役所。

(唐詩選)

★唐 韋應物

秋夜寄丘二十二員外

秋夜丘二十二員外に寄す

懷君屬秋夜

君を懷いて 秋夜に属す

散步詠涼天

散步 涼天に詠ず

山空松子落

山空くして 松子落つ

幽人應未眠

幽人 応に未だ眠ざるべし

【語釈】

丘二十二：丘は姓、丘丹、二十二は排行。員外：員外郎、長官の補佐役。懷：懐かしく思う。属：ちようどぐにあたる。今ちようどそのときである。涼天：秋の涼しい夜空。詠：詩を口ずさむ。空：人気がなくて、ひっそりしている様子。松子：松かさ。幽人：俗世間を離れてひっそり暮らしている人、隠者、丘丹

を指す。応：「まさにくすべし」と読み、「きつとくであらう」と訳す、強い推  
量の意を示す。  
(唐詩三百首)

★唐 韋應物

東郊

東郊

吏舎跼終年

吏舎りしやに跼ますること終年

出郊曠清曙

郊けうに出いずれば清曙せいしよ曠むし

楊柳散和風

楊柳やうりゆう和風わふうに散ちじ

青山澹吾慮

青山せいざん吾わがが慮りよを澹あくす

依叢適自憩

叢そうに依よりて適た々た自まら憩い

緣澗還復去

澗せに緣よりて還かへりて復また去る

微雨靄芳原

微雨みづ芳原ほうげんに靄あたり

春鳩鳴何處

春鳩しゅんこう何れどこの処ところにか鳴なき

樂幽心屢止

幽ゆうを樂たのしみて心屢こころしばしば々しばしば止とまるも

遵事跡猶遽

事ことに遵したがひて跡あと猶なほお遽はなり

終罷斯結廬

終つひに罷やめて斯こゝに廬いほを結むばば

慕陶真可庶

陶たうを慕あこうこと真まに庶あかるべし

【語釈】

東郊：東方の郊外。吏舎：官舎。跼：拘束されてのびのびとしないこと。清曙：清らかに晴れた曙。曠：ひろびろとしたさま。和風：なごやかな風。澹：淡い、胸の思いが薄くなる。叢：くさむら。適：おりしも、丁度そのとき。澗：谷川。靄：もやがかかる。芳原：草のにおいの香しい野原。幽：奥深く物静かなさま。遵事：役人としての勤め。跡猶遽：行動が慌ただしい。罷：官職を辞める。斯：そこで。結廬：陶淵明、「飲酒其の五」。陶：陶淵明。庶：近づく。

(唐詩三百首)



★唐 韋應物

賦得暮雨送李胄

暮雨を賦し得て李胄を送る

楚江微雨裏

楚江 微雨の裏

建業暮鐘時

建業 暮鐘の時

漠漠帆來重

漠々として 帆の來ること重く

冥冥鳥去遲

冥々として 鳥の去ること遅し

海門深不見

海門 深くして見えぬ

浦樹遠含滋

浦樹 遠くして 滋いを含む

相送情無限

相い送れば 情 限り無く

沾襟比散絲

襟を沾して 散糸に比す

【語釈】

賦得：題を与えられて作った詩。李胄：人名、不詳。楚江：昔のその国、洞庭湖のあたりでの長江。建業：南京。漠漠：ぼんやりしているさま、雨で煙っているさま。冥冥：暗いさま、夜の闇がせまっているさま。海門：長江の海に流入するあたりで川幅が狭くなっているところ。深：霧が深い。浦樹：川の岸辺の樹木。散糸：降りしきる雨（『文選』）

（唐詩三百首）

★唐 韋應物

初發揚子寄元大校書

初めて揚子を発し元大校書に寄す

悽悽去親愛

悽々として親愛を去り

泛泛入煙霧

泛々として煙霧に入る

歸棹洛陽人

歸棹洛陽の人

殘鐘廣陵樹

殘鐘 廣陵の樹

今朝此爲別

今朝 此に別れを為し

何處還相遇

何れの処にか 還た相い遇わん

世事波上舟

世事 波上の舟

沿洄安得住

沿洄 安んぞ住まるを得ん

【語釈】

揚子：長江の揚州市と鎮江市の間の渡し。元大：不詳、大は排行で元家の最長年者。校書：校書郎（宮中秘書の校勘を司る）。悽悽：悲哀のさま。親愛：信愛する人。泛泛：（舟の）うかび漂うさま。歸棹：帰って行く舟。廣陵：江蘇省揚州市。還：再び。世事：世間一般のこと。沿洄：流れに沿って下ること。

（三体詩）

★唐 韋應物

幽居

幽居

貴賤雖異等

貴賤等を異にすと雖えども

出門皆有營

門を出ずれば皆營有り

獨無外物牽

独り外物の牽く無く

遂此幽居情

此の幽居の情を遂ぐ

微雨夜來過

微雨 夜來過ぎ

不知春草生

知らず 春草の生ずるを

青山忽已曙

青山 忽ち已に曙け

鳥雀繞舍鳴

鳥雀 舍を繞りて鳴く

時與道人偶

時に道人と偶し

或隨樵者行

或いは 樵者に随いて行く

自當安蹇劣

自から當に蹇劣に安んずべし

誰謂薄世榮

誰か謂う世榮を薄んずと

【語釈】

幽居：俗世間から逃れてひっそりと暮らすこと。貴賤：身分の高い人と低い人。等：等級。階級。出門：我が家を出れば。營：世渡りの営み。独：ただ自分だけ。外物：自分の外にある地位や名誉や財産など。牽：とらわれる。幽居情：隠遁生活の静かでのんびりとした心情。遂：存分に味わっている。微雨：小雨。こぬか雨。夜來：昨夜。不知：くだるうか。青山：幽居の周囲の青々とした山。忽：いつの間にか。ふと気がつけば。曙：夜が明ける。鳥雀：雀などの小鳥。舍：小さい粗末な家、ここでは幽居の住まいを指す。繞：まわりを回る。時：時には。道人：道を修行している人。偶：連れ立つ。樵者：きこり。蹇劣：動きが鈍く劣っている人、ここでは世渡りの才能がない人。安：満足する。世榮：俗世における名誉。薄：軽んじる。

(唐詩選)

コメントの追加 [h2]:

★唐 韋應物

寄全椒山中道士

全椒山中の道士に寄す

今朝郡齋冷

今朝 郡齋 冷やかに

忽念山中客

忽ち 山中の客を念う

澗底束荆薪

澗底 荆薪を束ばね

歸來煮白石

帰り来たりて白石を煮るならん

欲持一瓢酒

一瓢の酒を持ちて

遠慰風雨夕

遠く風雨の夕を慰めんと欲す

落葉滿空山

落葉 空山に滿つ

何處尋行跡

何れの処にか行跡を尋ねん

【語釈】

全椒：安徽省全椒県。郡齋：郡の役所の官舎。山中客：全椒山中道士のこと。澗底：谷底。荆薪：たきぎ。白石：仙人の食べ物とする白い石（晉書：鮑靚伝）。一瓢酒：一椀の酒。

★唐 韓偓 かんあく

尤溪道中

尤溪道中 ゆうげんどうちゆう

水自潺湲日自斜

水は自ら潺湲 日は自ら斜めなり

盡無雞犬有鳴鴉

尽く雞犬無くして鳴鴉有り

千村萬落如寒食

千村万落 寒食の如く

不見人煙空見花

人煙を見ず 空しく花を見る

【語釈】

尤溪：中国福建省三明市の県。道中：旅の途中（で作った詩）。潺湲：水がさらさらと流れるようす。盡無雞犬：にわとりや犬がまったくいない、軍隊が通過したあとの惨状を表している。有鳴鴉：カラスが鳴いているだけ、死肉を食っている情景を描写している。千村万落：多くの村落。寒食：冬至の日から数えて五日目の日のこと、陽暦では四月の初めに当たる、この日を挟んで三日間は火を断ち、煮たきしないで冷たい物を食べる風習があった。人煙：人家から立ちのぼる炊事の煙。

（三体詩）

関連詩句

「女几巉巉青插天，東流落水自潺湲。」（宋・張耒）

「水自潺湲雲自閒，須與明月出東山。」（元・盧琦）

「千村萬落花相照，盡日經行錦繡中。」（宋・黃庭堅）

「龍噴揮水十大餘，千村萬落幾爲魚。」（宋・唐庚）

「亂雲重疊樹高低，不見人烟只聽雞。」（明・王汝玉）

「高岸深谷何所有，不見人煙唯陰霾。」（清・洪繡）

★唐 韓偓

惜花

花を惜しむ

皴白離情高處切

皴白しゅうはくの離情 高處より切なり

膩紅愁態靜中深

膩紅ふかこうの愁態 靜中に深し

眼隨片片沿流去

眼は片々へんぺんの流れに沿いて去るに随い

恨滿枝枝被雨淋

恨は枝々ししの雨に淋あめがるるに満つ

總得苔遮猶慰意

総て苔の遮えざるを得て 猶お意を慰さめ

若教泥汗更傷心

若し泥をして汗あせさしむれば 更に心を傷めん

臨軒一盞悲春酒

軒に臨みて一盞いっさん 春酒悲しく

明日池塘是綠陰

明日池塘ちとう 是れ綠陰

【語釈】

皴白：しわの寄った白、凋みかけた花びら。離情：離別の思い。高處：高い木の枝。膩紅：艶やかな紅色（の花びら）。愁態：深い愁い。一盞：一杯。春酒：冬に仕込んで春に仕上がる酒。池塘：池の堤。

（三体詩）

関連詩句

「尋芳休怯春泥滑，明日池塘長綠陰。」（元・鍾虞）

★唐 韓翃

送齊山人

齊山人を送る

舊事仙人白兔公

旧と仙人の白兔公に事う

掉頭歸去又乘風

頭を掉り歸り去りて又風に乘ず

柴門流水依然在

柴門 流水 依然として在り

一路寒山萬木中

一路寒山 万木の中

【語 釈】

齊山人：人名 未詳 山人は世を捨てて山に隠れ住む人。白兔公：仙人の名。掉頭：頭をふる、事柄を否定するさま。歸去：ふるさとに帰る。柴門：しばで作った門。寒山：秋から冬にかけてのさびしい山、さむざむとした山。萬木：きわめて多くの木々。

(二体詩)

関連詩句

「山中春雨生石田，柴門流水聲濺濺。」(元・郊 詔)

「柴門流水歲將晚，藥裏書籤時自親。」(明・童 軒)

「數聲樵笛人何處，一路寒山晚翠深。」(元・周 權)

「一路寒山萬木秋，滿林風雨孤琴夕。」(明・張 寧)

★唐 韓翃

寒食

かんじよく

春城無處不飛花

春城 処として花の飛ばざる無く

寒食東風御柳斜

寒食 東風 御柳斜めなり

日暮漢宮傳蠟燭

日暮 漢宮 蠟燭を伝え

輕煙散入五侯家

輕煙 散じて 五侯の家に入る

【語釈】

寒食：冬至から百五日目にあたる日の前後三日間は、火をたくことが禁じられ、冷たいものを食べる。春城：春の都市。東風：春風。御柳：宮中のヤナギ。漢宮：漢王朝の宮殿、漢代に借りて、同時代（…唐代）の宮中。輕煙：薄く立ち上る煙。五侯：時の権力者、諸侯を謂う、公・侯・伯・子・男の五等の臣を指す。

（唐詩選）

関連詩句

「春城無處無歌舞，一曲未終天又明。」（宋・張舜民）

「定許此民同此樂，春城無處不嬉嬉。」（宋・陳造）

「九達初旭滿輜軒，寒食東風二月天。」（宋・楊億）

「寒食東風歸去後，尋盟須過蒜山東。」（宋・阮閱）



★唐 韓翃

酬程延秋夜即事見贈

程延の「秋夜即事」を贈らるるに酬ゆ

長簾迎風早

長簾風を迎うるごと早く

空城澹月華

空城月華澹し

星河秋一雁

星河秋一雁

砧杵夜千家

砧杵夜千家

節候看應晚

節候看當に晩なるべし

心期臥亦賒

心期臥すこと亦た賒し

向來吟秀句

向來秀句を吟じ

不覺已鳴鴉

已に鳴鴉なるを覺えず

【語釈】

程延…人名、不詳。長簾…ながいたかむしろ。空城…人氣のいない町。澹…淡い。月華…月の光、月の色。星河…天の川。砧杵…砧のきね、砧の音。千家…多くの家。節候…季節、事項。看…みるみるうちに。晩…終わってしまう。心期…心中に誓いをたてること（返礼の詩を作ろうと決心すること）。向來…さきごろから。秀句…送られた「秋夜即事」。鳴鴉…鳥の啼く頃（明け方）。

（唐詩三百首）

★唐 郭震 かくしん

子夜四時歌六首 其一 春歌

子夜四時歌六首 其一 春の歌

陌頭楊柳枝

はくとう 陌頭の ようりゅうし 楊柳枝

已被春風吹

已に春風に吹かれたり

妾心正斷絶

しやう 妾の心 正に断絶

君懷那得知

君が懐い な 那んぞ知るを得ん

【語釈】

陌頭…道ばた。楊柳…やなぎ妾…女性の一人称代名詞、わたし。懐…胸のうち。

(唐詩選)

関連詩句

「昨夜東風入武陽，陌頭楊柳黃金色。」(唐 李白)

「陌頭楊柳幾春風，當年曾識齊齋面。」(宋 韋奇)

★唐 貫休 かんきゆう

春山

春山 しゅんざん

重疊太古色

重疊ちゆうじゆうたり太古の色

濛濛花雨時

濛もう々もうたり花雨かいうの時

好峰行恐盡

好峰ゆく行く 尽きんきんことを恐れ

流水語相隨

流水かた語かたつて 相あい従じゆうう

黑壤生紅朮

黑壤くわいじやう 紅朮くわいじを生なじ

黄猿領白兒

黄猿かうえん 白兒はくじを領りやうす

因思石橋日

因いんりて思しう 石橋いしきやうの日

曾與道人期

曾かって 道人だうじんと期きせしを

【語釈】

重疊…たたみのように重なること。濛濛…薄暗いさま。花雨…春雨。黑壤…黒い肥えた土。紅朮…赤い野草。因…従って、そこで。道人…道を身につけた人。○石橋…天台山の景勝の地。期…約束する。

(三体詩)

★唐 丘爲きゅうゐ

左掖梨花

左掖さえきの梨花りか

冷豔全欺雪

冷豔れいえん全ぜんく雪ゆきを欺あざむき

餘香乍入衣

余香よか乍たちまち衣いに入る

春風且莫定

春風しゅんぷう且しかく定ままること莫なかれ

吹向玉階飛

吹ふいて玉階ぎよくに向むかって飛とぶ

【語釈】

左掖：宮城の正面の左の小門、門下省の別名。冷豔：ひやかかな美しさ、ここでは白い梨の花の形容。余香：漂ってくるかすかな香り。定：風が吹き止むこと。玉階：玉をちりばめた宮殿のりっぱな階段。  
(二体詩)

★唐 熊孺登

湘江夜泛

湘江に夜泛ぶ

江流如箭月如弓

江流は箭の如く月は弓の如し

行盡三湘數夜中

行尽くす三湘 數夜の中

無奈子規知向蜀

奈ともする無し 子規の蜀に向うを知るを

一聲聲似怨春風

一声 声は似たり 春風を怨むに

【語釈】

湘江：湖南省を南から北へ横断して洞庭湖に流入する川。泛：舟に乗って浮かぶ。三湘：瀟湘、瀟湘、蒸湘で、湘江の流れの全て。無奈：どうしようもない。

(三体詩)

関連詩句

「江流如箭路如梯，夜泊龍頭煙靄迷。」(宋・楊汝南)

「江流如箭石不轉，千古萬古無崩蹙。」(明・林弼)

「十六聲中運手輕，一聲聲似自然聲。」(唐・方干)

「窗下草虫相和起，一聲聲似伴愁吟。」(明・胡儼)

★唐 王周 おうしゅう

宿疏陂驛

疏陂そへき驛えきに宿す

秋染棠梨葉半紅

秋は棠梨とうりを染めて葉半ば紅なり

荊州東望草平空

荊州けいしゅうを東望すれば草空そうくうに平かなり

誰知孤宦天涯意

誰か知らん孤宦こくわん天涯の意

微雨蕭蕭古驛中

微雨しゅう蕭蕭しゅうしゅう古驛こえきの中

【語釈】

疎陂そへき驛えき：宿場の名、所在は不明であるが、詩の内容から荊州（湖北省荊州市荊州区）の西方にあつたと思われる。棠梨：カラナシ。荊州：湖北省荊州市荊州区。草平空：草原が空と一色になって、平らに広がっている。孤宦：郷里を離れ、ただ一人役人生活をしていること。宦は、宮廷に仕えること。天涯：空の果て、非常に遠い所。意：私の気持ち。微雨：小雨、細雨。瀟瀟：雨が物寂しく降る形容。古驛：古びた田舎の宿場町、疎陂驛を指す。

（唐詩選）（≡）漢文大系

関連詩句

「南山朝雲鳩逐婦，日暮微雨蕭蕭來。」（宋・張耒）

「平沙漫漫人爭渡，微雨蕭蕭客跨鞍。」（宋・陸游）

★唐 王貞白

雲居長老

うんきよ  
雲居の長老

巘路躡雲上

けんろ  
巘路 雲を躡んで上り

來參出世僧

きた  
来りて出世の僧に參ず

松欵半巖雪

そぼた  
松は欵つ 半巖の雪

竹覆一溪冰

おほ  
竹は覆う 一溪の氷

不説有爲法

うい  
有爲の法を 説かず

非傳無盡燈

むじん  
無尽の燈を 伝うるに非らず

了然方寸内

りょうぜん  
了然たり 方寸の内

應祗見南能

た  
応に祗だ 南能に見るべし

【語釈】

巘路：山の尾根道。出世僧：俗世を超越した僧（雲居長老）。半巖雪：巖を半ば蔽う雪。有爲法：世間に役立つ法。傳無盡燈：仏教用語、伝灯は仏法を承け伝えること。了然：明らかなさま。方寸：胸。南能：禪宗六祖、大鑑禪師慧能。

（三体詩）

★唐 王烈

塞上曲二首其二

塞上の曲二首其二

孤城夕對戍樓閑

孤城夕べに戍樓に対して閑かなり

迴合青冥萬仞山

迴合す青冥萬仞の山

明鏡不須生白髮

明鏡須いず白髮の生ずるを

風沙自解老紅顏

風沙自ら解す紅顏の老ゆるを

【語釈】

塞上曲：（西北方面の）とりでのほとり、国境附近の風情の曲。孤城：ぼつんと一つだけの城塞。戍樓：…ものみやぐら。迴合：…とり囲んでいること。青冥：青空。万仞：…山などが非常に高いこと。明鏡：澄みわたった鏡。須：用いる。風沙：風にまきあげられる砂ぼこり。紅顏：若者（の血色のよい顔）。

（唐詩選）

関連詩句

「迴合青冥路欲無，馬蹄盡處出平蕪。」（清・陳廷敬）



★唐 王灣 おうえん

次北固山下

北固山下に次る ほくこさんか やど

客路青山外

客路 青山の外 かくろ

行舟綠水前

行舟 綠水の前 こうしゅう

潮平兩岸闊

潮平かにして 兩岸闊く うしお

風正一帆懸

風正しくして 一帆懸かる いっばんか

海日生殘夜

海日 殘夜に生じ かいじつ ざんや

江春入舊年

江春 旧年に入る

鄉書何處達

鄉書 何れの処にか達せん きょうしよ

歸雁洛陽邊

歸雁 洛陽の辺 きん

【語釈】

次…やどる、泊まる。北固山…江蘇省鎮江の長江河畔に立つ山。客路…たびじ。  
青山…青々と樹木の茂っている山、ここでは北固山を指す。行舟…行く舟。綠水…深い水や綠樹の映じた水。闊…ひろい。風正…順風であること。一帆懸…一艘の帆掛け船が帆を揚げる、出帆。海日…海上の朝日。殘夜…まだ明け切らぬ夜。  
江春…江南の春。鄉書…郷里からのたより、郷里へのたより。歸雁…春、北方に帰る雁、雁書の意も含む。

(唐詩三百首)(詩詞世界)

参考詩句

「三千客路青山外，五十光陰白髮餘。」(明・江源)

「親舍白雲看漸近，行舟綠水去何遲。」(明・謝縉)

「潮平兩岸風帆穩，穩坐舟中且慢搖。」(明・無名氏)

「欲問松楸無恙否，鄉書何處託飛鴻。」(明・江源)

「衡陽自是無來雁，縱有鄉書何處傳。」(明・區大相)

★唐 祖詠 そえい

終南望餘雪

しゅうなん 終南の余雪を望む よせつ

終南陰嶺秀

終南陰嶺秀いで

積雪浮雲端

積雪雲端に浮ぶ

林表明霽色

林表に霽色明かるく

城中增暮寒

城中暮寒増す

【語釈】

終南…終南山、長安の南にある山の名。餘雪…残雪。陰嶺…北の峰。林表…林外。  
霽色…雨や雪が止んだあとの空が晴れた風景。城中…長安城中。暮寒…夕暮れの寒さ。

(唐詩三百首)

コメントの追加 [h3]:

★唐 祖詠

江南旅情

江南の旅情

楚山不可極

楚山極む可からず

歸路但蕭條

歸路但だ蕭條たり

海色晴看雨

海色晴れて雨を看

江聲夜聽潮

江聲夜潮を聽く

劍留南斗近

劍は南斗に留まりて近く

書寄北風遙

書は北風に寄りて遙かなり

爲報空潭橋

爲に報ず 空潭の橋

無媒寄洛橋

洛橋に寄せんに媒無しと

【語釈】

楚山：…楚の国の山々。蕭条：…物寂しいさま。海色：…海の色。江聲：…長江の波の音。聽潮：…潮騒の音に耳をすます。南斗：…星の名。劍留南斗近：…『晋書』卷三十六、張華伝。書寄北風遙：…李陵の「蘇武に答うるの書」『文選』卷四十一に「時に北風ほくふうに因り、復た德音ふくいんを惠せよ」（時因北風、復た德音）とある。報：…返事をする。空潭：…人気ひとけのないふち。橋：…たちばな。蜜柑の一種。媒：…ここではたよりを伝えてくれる人。洛橋：…洛陽の町を流れる洛水にかけられた橋。

（唐詩選）

★唐 祖詠

蘇氏別業

蘇氏の別業

別業居幽處

別業 幽處ゆうしよに居る

到來生隱心

到來すれば隱心いんしんを生ず

南山當戶牖

南山 戶牖こように当たり

澧水映園林

澧水ほうすい 園林に映ず

屋覆經冬雪

屋は覆ふわる 冬を經へし雪に

庭昏未夕陰

庭は昏くらく 未だ夕べならずして陰かげる

寥寥人境外

寥寥りょうりょう 人境じんきやうの外

閑坐聽春禽

閑坐かんざして 春禽しゅんきんを聽く

【語釈】

蘇氏：人名、不詳。別業：別荘。幽處：奥深い静かな場所。到來：やつてくる。隱心：隠遁したいという気持ち。南山：終南山。戶牖：戸口と窓。澧水：終南山のあたりに源を發し、西北に流れて渭水に合流する川。園林：木の茂る庭。寥寥：空虚なさま。人境：人の住んでいる所。閑坐：のんびりと坐っていること。春禽：春の鳥。禽は鳥。

(唐詩選)

★唐 祖詠

汝墳の別業

汝墳の別業 じよふん

失路農為業

路を失いて 農を業と為し

移家至汝墳

家…を移して 汝墳に至る

獨愁常廢卷

独り愁いて 常に卷を廢し

多病久離群

病多くして 久しく群を離る

鳥雀垂窗柳

鳥雀 窓に垂るる柳

虹蜺出澗雲

虹蜺 澗を出ずる雲

山中無外事

山中 外事無し

樵唱有時聞

樵唱 時有りて聞こゆ

【語釈】

汝墳…安徽省阜陽県。別業…別荘。失路…人生行路に行き悩むこと。廢卷…書物を読まなくなつた。虹蜺…にじ。澗…谷川。外事…身辺を取り巻く雑事。樵唱…樵の歌。

(三体詩)

★唐 詠

清明宴司勳劉郎中別業

清明に司勳劉郎中の別業に宴す

田家復近臣

田家にして復た近臣

行樂不違親

行樂 親に違わず

霽日園林好

霽日 園林好く

清明煙火新

清明 煙火新たなり

以文常會友

文を以つて常に会友し

唯德自成鄰

惟れ徳は自ら鄰を成す

池照窻陰晚

池は照る 窓陰の晩

杯香藥味春

杯は香おる 薬味の春

欄前花覆地

簷前花 地を覆い

竹外鳥窺人

竹外鳥 人を窺がう

何必桃源裏

何ぞ必ずしも 桃源の裏

深居作隱淪

深居して 隱淪と作らん

【語釈】

司勳劉郎中：司勳郎中である劉某。人物については不明。司勳：官名、官吏の勳等に関する事務をつかさどる。郎中：尚書省の六部がそれぞれ四司に分かれ、その各司の長。別業：別荘。田家：田園の別荘。近臣：天子のそば近く仕える臣下。行樂：遊び楽しむこと。不違親：親しい人たちとの付き合いを欠かさない。霽日：晴れ渡った今日。園林：田園の木々。好：新緑が清々すがすがしい。清明：清明節を迎えて。煙火新：新しい火を起こして、煙が立ちのぼっている。以文常會友：劉郎中は日頃、文雅の道をもって友人を集める（典故有り）。惟：「これ」と読み、文頭または句間において語調を転

じて強調する意を示す。鄰：仲間。池照：池の面は夕日を受けて照り輝く。  
窓陰：宴席の設けられた窓際。葉味春：酒に加えた葉草の味によって、春め  
いた気持ちになる。欄前：回廊の手すりの前。花覆地：花が地面を覆うよう  
に咲き乱れている。竹外：竹林の向こうから。鳥窺人：小鳥が人の様子を窺  
うようにして姿を見せる。何必：「なんぞかならずしもくん（や）」と読み、  
「どうして〜である必要があるのか、いやないのだ」と訳す。桃源：桃源郷。  
深居：深く隠れ住む。隠淪：隠れて世に出ないこと

(唐詩選)

★唐 願況「唐」

聽角思歸

角を聴いて帰るを思う

故園黃葉滿青苔

故園の黃葉 青苔に滿つ

夢後城頭曉角哀

夢後 城頭 曉角 哀し

此夜斷腸人不見

此夜 斷腸す 人見えざるに

起行殘月影徘徊

起ちて行けば 殘月影 徘徊す

【語釈】

角：軍中で吹く角笛。故園：故郷の庭園。思歸：望郷の念。黃葉：黄色い落ち葉。青苔：青い苔。滿：（苔の上に）散り敷いている。夢後：夢が覚めたあと。城頭：町の城壁の上から。曉角：曉あかつきの時を告げる角笛。哀：悲しげに鳴り響く。此夜：今宵（の私は）。斷腸：非常に悲しい様子。人不見：故郷にいる思う人の姿は夢にさえ出てこなかった。起行：寢床から起き上がった（庭に）行けば。殘月：有明の月。影：わが影。または、月影。徘徊：行ったり来たりする。

（唐詩選）

関連詩句

「故園黃葉三千里，深殿朱欄十二層。」（清・張英）

「此夜斷腸聽不得，月明池上鴈還來。」（明・李攀龍）

「此夜斷腸吟不得，南山又聽鷓鴣啼。」（明・余翔）



★唐 顧況

湖中

湖中

青草湖邊日色低

青草湖邊 日色低く

黃茅瘴裏鷓鴣啼

黃茅瘴裏 鷓鴣啼く

丈夫飄蕩今如此

丈夫 飄蕩すること今 此の如し

一曲長歌楚水西

一曲の長歌 楚水の西

【語釈】

湖中：湖中にて、湖は洞庭湖を指す。青草湖：一名巴丘湖、洞庭湖の東南部に瘴疫が広まるので、土地の人はこれを黄茅瘴と呼んだという。飄蕩落ちぶれて流浪すること。今如此：今このような身の上である。一曲：一節ひとふし。長歌：声を長く引き伸ばして歌うこと。楚水西：楚国の川の西方。

（唐詩選）

関連詩句

「雨昏青草湖邊過，花落黃陵廟裏啼。」（唐末・鄭谷）

「黃茅瘴裏抽身出，青草湖邊鼓棹歸。」（北宋・鄒浩）

「紅梅閣下梅香動，青草湖邊草色新。」（北宋・鄒浩）

「丈夫飄蕩今如此，一夕秋風白髮生。」（明末清初・宋琬）

「丈夫飄蕩今如此。更上江樓望江水。」（清初・董元愷）

★唐 皇甫冉

曾山送別

曾山の送別

凄凄遊子苦飄蓬

凄々たる遊子 飄蓬を苦しむ

明月清樽祇暫同

明月清樽 祇だ暫くは同にせん

南望千山如黛色

南のかた 千山を望めば 黛色の如し

愁君客路在其中

愁う 君が客路の 其の中に在るを

【語釈】

曾山：場所不明。送別：別れていく人を見送る。凄凄：ここでは落ちぶれて、寂しく辛つらいさま。遊子：旅人の君。飄蓬：風に吹かれてころがり飛ばされてゆく蓬。清樽：清らかな酒をたたえた樽。千山：多くの山々。望：眺める、遠望する。黛色：まゆずみの色、かすんで見える遠山の青黒い色に喩える。愁：憂愁に閉ざされる思いである。  
客路：旅路、(君の)行く道。

(唐詩選)

関連詩句

「杯邀明月清樽滿，簾捲西風畫扇閒。」(明・瞿佑)

「思君明月清樽處，姑篾城頭望眼遲。」(明末清初・項真)

「何當重下陳公榻，明月清樽共倚樓。」(明末清初・宋琬)

「行行獨出故關遲，南望千山無盡期。」(唐・韓翃)

「滄江煙渚暮煙收，南望千山樹色秋。」(明・朱胤柀)

★唐 皇甫冉 こうほぜん

送魏十六還蘇州

魏十六の蘇州に還えるを送る

秋夜沈沈此送君

秋夜沈々として 此に君を送る

陰蟲切切不堪聞

陰虫切々として 聞くに堪えず

歸舟明日毗陵道

歸舟明日 毗陵の道

迴首姑蘇是白雲

首を迴らせば 姑蘇は是れ白雲

【語釈】

魏十六：未詳、十六は排行。清夜：ひっそりとした夜。沈沈：静まりひっそりとしたさま。陰蛩：ひそかに鳴くこおろぎ。切切：悲しいさま。毘陵：現在の江蘇省常州市。回首：ふりかえり見ること。姑蘇：現在の江蘇省蘇州市。常州市武進区。

(唐詩選) (二体詩) (Web 漢文大系)

関連詩句

「秋夜沈沈玉宇空，蒼髯疏拂桂花風。」(明・蘇葵)

「秋夜沈沈禁漏長，錦筵紅燭對離腸。」(明・周敘)

「風景蒼蒼多少恨，陰蟲切切不堪聞。」(元末明初・孫蕢)

「暮雨連陰蟲切切，寒林送響鳥啾啾。」(清・彭孫通)

★唐 皇甫冉

送普門上人

普門上人を送る

花宮難久別

花宮 久しく別れること難たし

道者憶千燈

道者 千燈を憶う

殘雪入林路

殘雪 林に入る路

深山歸寺僧

深山 寺に帰る僧

日光依嫩草

日光 嫩草に依り

泉響滴春冰

泉響 春冰に滴たる

何用求方便

何ぞ用いん 方便を求むることを

看心是一乘

心を見る 是れ一乗る

【語釈】

普門上人…未詳。花宮…寺院のこと。燈…ここでは法灯。嫩草…やらかい若草。  
何用…不要である、反語。方便…俗人を説くために仏法の本質にかかわりないこ  
とを適宜応用すること。乘…仏の教法。

(三体詩)

★唐 皇甫冉

秋日東郊作

秋日東郊の作

閑看秋水心無事

閑に秋水を看て心無事なり

臥對寒松手自裁

臥して寒松の手自ら裁えしに對す

廬嶽高僧留偈別

廬嶽の高僧偈を留めて別かれ

茅山道士寄書來

茅山の道士書を寄せて來る

燕知社日辭巢去

燕は社日を知りて巢を辭して去り

菊爲重陽冒雨開

菊は重陽の爲めに雨を冒して開く

淺薄將何稱獻納

淺薄何を將つて獻納と稱せん

臨岐終日自徘徊

岐に臨みて終日自ら徘徊す

【語釈】

閑…のんびりとしたさま。廬嶽…江西省九江の南にある山、名刹、東林山がある（ここでは、高僧に付いての修飾語）。茅山…江蘇省句容県の南にある山、ここでは、道士についての修飾語。社日…土地の神を祭る日、春社、秋社の二回がある。獻納…補闕、拾遺の官にあるもの。臨岐…分かれ道にくる、如何にすべきかまよふこと。

(三体詩)

閑連詩句

「閑看秋水思飄然，蘊括洪纖一掬天。」（明・蘇葵）

★唐 項斯

宿山寺

山寺に宿る

栗葉重重覆翠微

栗葉 重々 翠微を覆い

黃昏溪上語人稀

黃昏 溪上 語人稀なり

月明古寺客初到

月は古寺に明るく客初めて到り

風度閑門僧未歸

風は閑門を度りて僧未だ帰らず

山果經霜多自落

山果 霜を經て 多く自ら落ち

水螢穿竹不停飛

水螢 竹を穿ちて 飛ぶを停めず

中宵能得幾時睡

中宵 能く幾時か 睡ることを得んや

又被鐘聲催著衣

又 鐘聲に 著衣を催さる

【語釈】

○重重：重なり合うさま。○翠微：緑色をした山の中腹。○黃昏：夕暮れ。○閑門：火との出入りの少ない門。○初：くしたばかり。○山果：山の木の実。○穿：くぐり抜ける。○中宵：真夜中。

(二体詩)

関連詩句

「水自潺湲月自明，黃昏溪上几回行。」（明・韓永）

「黃昏溪上寂無喧，漁艇歸來競後先。」（明・孫詢）

「月明古寺已黃昏，孤笛聲傳自遠村。」（明・文嘉）

「月明古寺客初到，睡覺東牕日已紅。」（明・朱樸）

「古琴帶月音聲亮，山果經霜氣味全。」（五代・伍喬）

「山果經霜欲熟時，苞如刺蝟碧參差。」（明・楊榮）

★唐 羊士諤

郡中即事

郡中即事

紅衣落盡暗香殘

紅衣落尽くして 暗香残る

葉上秋光白露寒

葉上の秋光 白露寒し

越女含情已無限

越女 情を含むこと 既に限り無し

莫教長袖倚欄干

長袖をして 欄干に倚らしむる莫かれ

【語釈】

紅衣：蓮の赤い花びら。暗香：どこからともなく漂ってくるかすかな香り。  
葉上：丸く大きな蓮の葉の上。秋光：秋の光。白露：露の美称。しらつ  
ゆ。寒：寒々と輝いている。越女：越（今の浙江省）の国の女。越の国は美  
人の産地といわれた。含情：感情をおさえて胸の中にしまっておき、そぶり  
でそれとなく表すこと。已無限：（愁いが）もはや限らないほど深い。長袖  
：長い舞の袖、舞衣：嬌艶なるさまをいう。欄干：欄干。

（唐詩選）

★唐 羊仕諤

西郊蘭若

西郊の蘭若

雲天宜北戸

雲天 北戸に宜しく

塔廟似西方

塔廟 西方に似たり

林下僧無事

林下僧は事無く

江清日正長

江は清く日は正に長し

石泉盈掬冷

石泉 掬に盈ちて冷たく

山實滿枝香

山実 枝に満ちて香る

寂寞傳心印

寂寞 心印を伝え

無言亦已忘

無言 亦た已に忘る

【語釈】

西郊：秋の野原。蘭若：寺。雲天：雲のたなびく空。北戸：北側の戸。西方：西方浄土。石泉：石清水。寂寞：ひっそりとして物寂しさ間。心印：仏教用語、心は仏心、印は印可・印定。無言：仏教で言う「言葉無し」



★唐 羅隱 らいいん

偶興

偶興 ぐうきよう

逐隊隨行二十春

隊を逐おい行こうに随おいて 二十春

曲江池畔避車塵

曲江池畔 きょくこうちはん 車塵を避く

如今贏得將衰老

如今贏かち得かたり 衰老を將かつて

閑看人間得意人

閑しずかに看る 人間得意の人

【語釈】

偶興：興に乗じて偶々作った詩。逐隊隨行：多くの人が科挙の試験に挑戦し、作者自身も進士及第を目指したことをいう。二十春：二十年。曲江池畔：曲江池は、池の名称。漢の武帝が都の長安（現在の陝西省西安市）に宜春苑をつくり、水流が之（し）の字の形に曲折しているので名付けた。現在、周辺は西安曲江池遺跡公園となっている。曲江の杏園では、進士に及第した者のために宴が催された。避車塵：曲江の杏園に向かう車の塵。作者は生涯及第することがなかった。如今：いま。現在。贏得：結局のところ・・・だけが得たものとして残るの意。將衰老：衰老は、年をとり元気がなくなること。將字、以て、また、將に・・・せんとするときは平字、將軍、將帥などひきいるの意のときは仄字。人間：人の世。世間。得意人：進士に及第した人たち。

（三体詩）

★唐 李延年 歌

歌

北方有佳人

北方に 佳人有り

絶世而獨立

絶世にして 独立す

一顧傾人城

一顧すれば 人の城を 傾け

再顧傾人國

再顧すれば 人の国を 傾く

寧不知傾城與傾國

寧んぞ 傾城と傾國とを知らざらんや

佳人難再得

佳人は 再び得難し

【語釈】

佳人：美人。絶世：世に並ぶものなくすぐれる而：しこうして、順接の接続詞、詩では置き字として訓読しない。獨立：ひとり抜きん出ている。顧：一度ふりかえる。傾：かたむける。人：（その佳）人（の）。城：城郭都市。再顧：再びふりかえる。寧：寧ろどうして～ことがあるうか。・傾城：諸侯の気を奪い、城市の存立を危うくするような絶世の美女。與：…と。傾國：君主の気を奪い、国家の存立を危うくするような絶世の美女。成語：「一顧傾城」「傾城傾國」

（漢詩大系 4）

★唐 李遠 りえん

黄陵廟

こうりびょう  
黄陵廟

黄陵廟前莎草春

こうりびょうぜん  
黄陵廟前莎草の春

黄陵女兒茜裙新

黄陵の女兒 茜裙新たなり

輕舟短棹唱歌去

輕舟短棹 唱歌しつづ去り

水遠山長愁殺人

水遠く山長にして 人を愁殺す

【語釈】

黄陵廟：湖南省湘陰県の北にある。舜の二妃（娥皇・女英）を祭る。湘夫人祠ともいう。湘江の女神を「湘君」といい、娥皇と女英の二人の女神からなる。娥皇と女英は舜帝の妃であったが、舜が没すると悲しんで川に身を投じ、湘江の神となつたという伝説がある。莎草：はますげ。カヤツリグサ科の多年草。茜裙：茜色の裳裾（もすそ）。輕舟：小舟。短棹：舟を操る短いさお。愁殺：悲しませる。憂鬱にさせる。殺は、強意の助字。

（三体詩）

★唐 李遠 りえん

送人入蜀

人の蜀に入るを送る

蜀客本多愁

蜀客 しよくかく 本愁い多し

今君是勝遊

今君は是れ勝遊なり

碧藏雲外樹

碧は雲外の樹に藏せられ

紅露驛邊樓

紅は 駅辺の楼に露 から わなり

杜宇呼名語

杜宇 と 名を呼びて語たり

巴江學字流

巴江 はこう 字を学 まな んで流る

不知煙雨夜

知らず 煙雨の夜

何處夢刀州

何れの処にか 刀州 ゆめ を夢みん

【語釈】

蜀客：蜀の地の旅人。本…もとから、昔から。勝遊…良き旅。杜宇…ホトトギス。  
巴江…巴蜀の地を流れる川。學字…巴という字のように曲がりくねって。煙雨…  
霧雨。夢刀州…晋の王濬の故事。

(三体詩)

★唐 石招

送人歸山

人の山に帰るを送る

相逢唯道在

相逢いて唯だ道のみ在り

誰不共知貧

誰か共に貧なることを知らざらん

歸路分殘雨

歸路 殘雨を分かち

停舟別故人

舟を停どめて故人に別かる

霜明松嶺曉

霜は明らかなり 松嶺の曉

花暗竹房春

花は暗し 竹房の春

亦有棲閑意

亦た 棲閑の意有り

何年可寄身

何年 身を寄すべき

【語釈】

道：いわゆる「道」、人の生き方の基本。誰：ただ、反語、以下の事を否定する。  
棲閑：隠棲生活。

(三体詩)

★唐 陳陶 ちんとう

隴西行

ろうせいこう  
隴西行

誓掃匈奴不顧身

誓って匈奴を掃わんとして身を顧みず

五千貂錦喪胡塵

五千の貂錦 胡塵に喪う

可憐無定河邊骨

憐むべし 無定河辺の骨

猶是春閨夢裏人

猶お是れ 春閨夢裏の人

【語釈】

隴西行：樂府題、隴西（甘肅省西部）の歌。掃：討ち滅ぼす。貂錦：美しい軍装の兵士。胡塵：異民族が攻めてくる土埃。無定河：内モンゴルオルドス砂漠から始まり、南に黄土峡谷と農地に流れ込む。下流部は天井川をなし、河道が移動して、流路が定まらないため（無定河）と呼ばれていた春閨：艶めかしい婦人の部屋

（唐詩三百首）

★唐 元稹 げんじん

江花落

江花落 こうからく

日暮嘉陵江水東

日は暮る 嘉陵江水の東

梨花万片逐東風

梨花 万片 東風を逐う

江花何処最腸断

江花 何れの処か 最も腸断

半落江水半在空

半ばは 江水に落ち 半ばは 空に在り

【語釈】

江花落：川辺に咲いている花が落ちる。嘉陵：嘉陵江（肅省から陝西省を通り四川省へと流れる大きな川で、重慶市で長江に合流する）。腸断：はらわたが断ち切れるほどの愁い、悲しみ。

関連詩句

「水竹江花何處灘，漁郎翠縷露未乾。」（明・李本）

★唐 元稹

聞樂天授江州司馬 樂天の江州司馬を授けられしを聞く

殘燈無焰影憧憧

殘燈 焰無く影憧々

此夕聞君謫九江

此の夕べ 君が九江に謫せられしを聞く

垂死病中驚坐起

垂死の病中 驚きて坐起すれば

暗風吹雨入寒窓

暗風 雨を吹いて寒窓に入る

【語釈】

殘燈：燃え尽きようとしている灯火。憧憧：揺れ動くさま。謫：流刑に処される。九江：江州（江西省北部に位置する地級市）。垂死：瀕死。坐起：起きて坐る。暗風：暗闇の中を吹く風。寒窓：冷たい冬の窓。

(唐詩選)

閔連詩句

「殘燈無焰穴鼠出，槁葉有聲村犬行。」(南宋·陸游)

「曉色入樓紅靄靄，殘燈無燄影幢幢。」(清·黃之雋)

「二星秋早駕雲車，此夕聞君寓直廬。」(北宋·宋祁)

「垂死病中魂一縷，迷離唯記漢家秋。」(明末清初·王夫之)

「歸夢不消孤客恨，暗風吹雨濕寒燈。」(明·鄭學醇)

「暗風吹雨夜蕭森，布被支吾冷不禁。」(明末清初·黃毓祺)



★唐 元稹

鄂州寓館嚴澗宅

鄂州に嚴澗の宅に寓す

鳳有高梧鶴有松

鳳は高梧こうこに有り 鶴は松しょうに有り

偶來江外寄行踪

偶たまたま江外こうせうに來たりて 行踪こうせうに寄す

花枝滿院空啼鳥

花枝かじ院いんに滿みちち 空くうしく鳥とり啼なぎ

塵榻無人憶臥龍

塵榻じんたつ 人ひとの臥龍がりりゆうを憶おもう無なし

心想夜閑唯足夢

心こころに夜よの閑かんなるを想おもいて 唯ただだ夢ゆめみるに足たりり

眼看春盡不相逢

眼まなこに春はるを尽つくくるを看みて 相あい逢あわず

何時最是思君處

何なんれの時ときか 最もも是これれ君きみを思おもう處ところ

月入斜窗曉寺鐘

月つきは斜窗しゃそうに入いる 曉寺ぎょうじの鐘かね

【語釈】

鄂州：武昌（湖北省武漢市）。鮫澗：伝米詳で元損の詩文集（元氏長慶變）では、題に「時に澗在らず」と自注かおる。鄂州で鮫澗の家に宿泊したときの作、主人の鮫澗はたまたま不在であった。高梧：あおぎり。行踪：足跡、行方。塵榻：塵にまみれた寝椅子。臥龍：隠れ住む龍、高潔な隠者。是…は動詞にあたる。

（三体詩）

関連詩句

「家住錢塘東復東，偶來江外寄行蹤。」（元末明初・孫黃）

「花枝滿院朝啼鳥，柳線垂階晚擺風。」（明・韓殷）

「已教淚眼兼旬溼，何取花枝滿院開。」（清・錢載）

「遙憐孤鶴怨空山，塵榻無人伴幽獨。」（元末明初・孫黃）

「眼看春盡為花愁，可惜朱顏變白頭。」（明・于謙）

「年老身閒無外事，眼看春盡不相逢。」（明・朱樸）

「何時最是相思處，明月高臺十二欄。」（清・吳綺）

「洞庭木落水生波，月入斜窗露氣多。」（明・卓敬）

「淒淒望斷潮陽路，月入斜窗酒未醒。」（明末清初・何鞏道）

★唐 元稹

寄樂天

樂天に寄す

閑夜思君坐到明

閑夜<sup>かんや</sup> 君を思<sup>おも</sup>いて坐<sup>ま</sup>し明<sup>めい</sup>に到<sup>いた</sup>る

追博往事倍傷情

追<sup>お</sup>いて往<sup>ま</sup>事を尋<sup>たず</sup>ね倍<sup>ます</sup>ます情<sup>なさ</sup>を傷<sup>や</sup>ましむ

同登科後心相合

登<sup>のぼ</sup>科<sup>か</sup>を同<sup>おな</sup>じくして後<sup>のち</sup>心<sup>こころ</sup>相<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>う

初得官時髭未生

初<sup>は</sup>めて官<sup>くわん</sup>を得<sup>え</sup>し時<sup>とき</sup>髭<sup>ひげ</sup>未<sup>な</sup>だ生<sup>な</sup>ぜず

二十年來諳世路

二十<sup>じゅう</sup>年<sup>ねん</sup>來<sup>き</sup> 世<sup>せ</sup>路<sup>ろ</sup>を諳<sup>あ</sup>ん

三千里外老江城  
猶應更有前途在

三<sup>さん</sup>千<sup>せん</sup>里<sup>り</sup>外<sup>がわ</sup> 江<sup>か</sup>城<sup>じょう</sup>に老<sup>らう</sup>ゆ  
猶<sup>なほ</sup>應<sup>お</sup>う更<sup>さら</sup>に前<sup>まへ</sup>途<sup>と</sup>の在<sup>あ</sup>る有<sup>あ</sup>り

知向人間何處行

人<sup>じん</sup>間<sup>かん</sup>に向<sup>むか</sup>いて何<sup>なん</sup>れ<sup>の</sup> 処<sup>ところ</sup>に<sup>お</sup>行く<sup>を</sup>知<sup>し</sup>る

【語釈】

閑夜：静かな夜。

関連詩句

「追尋往事頓成夢，回首春光倍黯然。」（北宋・游酢）

「追尋往事邯鄲道，陵壑蒼茫繞夕煙。」（清・戴亨）

「知向人間幾效靈，總傳珍產自東溟。」（明・黃衷）

★唐 元稹

遣悲懷三首 其二

悲懷を遺る 三首 其二

昔日戲言身後意

昔日戲言す 身後の意

今朝皆到眼前來

今朝 皆 眼前に到り來たる

衣裳已施行看盡

衣裳は已に施して 行々尽くるを看

針線猶存未忍開

針線は猶お存して 未だ開くに忍びず

尚想舊情憐婢僕

尚お旧情を想つて 婢僕を憐れみ

也曾因夢送錢財

也た曾て夢に因つて 錢財を送る

誠知此恨人人有

誠に知る 此の恨み 人人に有り

貧賤夫妻百事哀

貧賤の夫妻は 百事哀し

【語釈】

遺悲懷：悲しい思いを書き残す（ここでは、妻の死を悼む詩）。昔日：昔。戲言：冗談に言う。身後意：死後のこと。施：人に分け与える（形見分け）。行：だんだん。針線：針と糸。未忍開：針箱をあけることができない。舊情：（優しかった妻の）昔の心。婢僕：男女の召使い。也：また。送錢財：貧しい人々に金や品物を与える。此恨：死んだ妻を悲しむ思い。貧賤夫妻：昔貧しかったころの夫妻。百事哀：思い出すたびに万事悲しいことばかり。

（唐詩三百首）

関連詩句

「昔日戲言君記取，不教牛背聽秧歌。」（清・曹家達）

★唐 元稹

行宮

行宮 あんくわう

寥落古行宮

寥落 りようらく たり 古えの行宮 こへのあんくわう、

宮花寂寞紅

宮花 きゆうか 寂寞 せきぼく の紅 くれなゐ。

白頭宮女在

白頭 はくとう の宮女 きゆうじよ 在り、

閑坐說玄宗

閑坐 かんざ して 玄宗 げんそう を説く。

【語釈】

行宮：天子が行幸した際に、仮に設けられる皇宮。寥落：荒れはてて寂しいさま。宮花：宮中に咲く花。寂寞：ひっそりとしたものさびしいさま。白頭：白髪頭。宮女：宮中に仕えている女官。閑坐：ひまにまかせて座談する。

(唐詩三百首)

★唐 李賀

南園十三首 其八

南園十三首 其八

春水初生乳燕飛

春水 初めて生じて 乳燕 飛び

黃蜂小尾撲花歸

黃蜂 小尾 花を撲ちて帰る

窗含遠色通書幌

窓は 遠色を含んで 書幌に通じ

魚擁香鉤近石磯

魚は 香鉤を擁して 石磯に近づく

【語釈】

南園：李賀の故郷の昌谷の南園。春水：春の雪解け水。乳燕：雛を育てている燕。黃蜂：黄色い蜂。遠色：遠くの景色。書幌：書斎のカーテン。香鉤：釣り針の餌。擁：くっつく。石磯：磯部の石。

★唐 李賀

酬答

酬答

雍州二月梅池春

雍州 二月梅池の春

御水鳩鵲暖白蘋

御水の 鳩鵲 白蘋 暖かなり

試問酒旗歌板地

試問す 酒旗歌板の地

今朝誰是拗花人

今朝誰か 是れ花を拗る人かと

【語釈】

酬答：人から送られた詩に答えて作った詩。雍州：長安地方。御水：お堀の水。鳩鵲：五位鶯の類。白蘋：しろよもぎ。酒旗：酒屋の看板の旗。歌板：歌の拍子をとる板。拗：捻り折る。

(漢詩大系 13)

★唐 李賀

出城寄權璩楊敬之

城を出で權璩・楊敬之に寄す

草暖雲昏萬里春

草暖かにして雲昏し 万里の春

宮花拂面送行人

宮花面を払って 行人を送る

自言漢劍當飛去

自ら言う漢劍 當に飛び去り

何事還車載病身

何事ぞ還車 病身を載すと

【語釈】

出城：長安を出て故郷に帰る。權璩・楊敬之：人名。行人：旅立つ人。還車：故郷へ帰る車。

（漢詩大系13）

★唐 李賀

昌谷北園新筍

昌谷北園の新筍

古竹老梢惹碧雲

古竹の老梢碧雲に惹る

茂陵歸臥嘆清貧

茂陵に歸臥し 清貧を嘆く

風吹千畝迎雨嘯

風吹き 千畝 雨を迎えて嘯き

鳥重一枝入酒尊

鳥重くして 一枝 酒尊に入る

【語釈】

昌谷：河南省洛陽市に位置する県の地名、李賀の故郷。北園：北の庭園。新筍：新しい筍。老梢：古い梢。碧雲：青い色の雲。惹：まつわる、引きつける。茂陵歸臥：病のため官を辞して故郷に帰ること、漢の司馬相如が病気の為官を辞し

て故郷に帰った故事による。千畝…非常に広い土地。嘯…吠える、うなる。酒尊  
…酒樽。入…酒に影が映る。  
(漢詩大系 13)

★唐 李賀 南園十三首 其六 南園 十三首 其の六

尋章摘句老雕蟲

章を尋ね句を摘み 雕蟲に老ゆ

曉月當簾挂玉弓

曉月簾に当たりて 玉弓を挂く

不見年年遼海上

見ずや 年々 遼海の上

文章何處哭秋風

文章 何れの処にか 秋風に哭す

【語釈】

南園：李賀の故郷の昌谷の南園。尋章摘句：一章一句細かく苦心して詩を作ること。雕蟲：小事を言うが、こせこせと詩を作ること軽蔑している。曉月：曉の月（徹夜して詩を作っていることを意味する）。簾：すだれ、カーテン。挂：かかる、つるす。玉弓：弓のような月の形容、美しい弓。不見：見たまえ。遼海：満州の境、遼東の地方、国境なので戦争が絶えない。哭秋風：秋風を悲しむ、楚の宗玉の「九辨」に基づく。

(漢詩大系 13)



★唐 李賀

致酒行

ちしほこう

零落棲遲一杯酒

れいらくせいち一杯の酒

主人奉觴客長壽

主人觴を奉じ客長寿なれという

主父西遊困不歸

主父西に遊び 困して帰らず

家人折斷門前柳

家人折断す 門前の柳

吾聞馬周昔作新豊客

吾れ聞く馬周 昔新豊の客と作つて

天荒地老無人識

天荒地老 人の識る無し

空將牋上兩行書

空しく牋上 兩行の書を將つて

直犯龍顏請恩澤

直ちに龍顔を犯し 恩沢を請う

我有迷魂招不得

我に迷魂有りて 招き得ず

雄雞一聲天下白

雄雞一声 天下白む

少年心事當拏雲

少年の心事 当に雲を拏かむべし

誰念幽寒坐鳴呃

誰か念ぜん幽寒にして 坐して鳴呃せんとは

【語釈】

致酒行：酒を持ってくるように歌う歌。零落…落ちぶれる。棲遲…静かに住む。主父：漢代の学者、主父偃。馬周：唐の時代の人。新豊：陝西省臨潼県の小都会。天荒地老：荒涼として頼りなく不運でさびしいこと。牋：紙、ここでは上申書。龍顔：皇帝の顔。犯龍顔：僭越にも皇帝の目に触れさせた。恩澤…御恩。迷魂…彷徨っている魂。幽寒…ひっそりとわびしい。鳴呃…悲嘆の声を上げる。

(漢詩大系 11)

★唐 李賀

開愁歌（華下作）

開愁歌（華下の作）

秋風吹地百草乾

秋風 地を吹いて 百草 乾く

華容碧影生晚寒

華容 碧影 晩寒を生ず

我當二十不得意

我 二十に当って 意を得ず

一心愁謝如枯蘭

一心 愁謝 枯蘭の如し

衣如飛鶉馬如狗

衣は飛鶉の如く 馬は狗の如し

臨岐擊劍生銅吼

岐に臨んで 劍を撃てば 銅吼を生ず

旗亭下馬解秋衣

旗亭に下馬し 秋衣を解き

請貰宜陽一壺酒

請う貰らん 宜陽 一壺の酒

壺中喚天雲不開

壺中 天を喚べども 雲開かず

白晝萬里閑淒迷

白晝 万里 閑にして 淒迷

主人勸我養心骨

主人 我に勧む 「心骨を養え

莫受俗物相填狝

受くること莫かれ 俗物の 相 填狝するを」と

【通釈】

開愁歌：憂さ晴らしの歌。華下：華山（陝西省華陰市にある山。中国五名山の一つとして、西岳とも呼ばれる）の麓。華容：華山の姿。碧影：青緑色の影。晩寒：夕暮れの寒さ。一心：心の中一杯。愁謝：心がしなえて元気の無いこと。枯蘭：枯れた蘭。飛鶉：とんでいるうずら。岐：道が分かれる処。擊：たたく。銅吼：銅のうなり声。旗亭：飲み屋。貰：かけて買う。宜陽：河南省洛陽市の県、李賀の故郷。壺中：酒を飲んでる途中、酔中。淒迷：冷ややかでもの凄。心骨：心の力、ど根性。填狝：怒りあざけること。

（漢詩大系 13）

★唐 李賀 河南府試十二月樂詞（并閏月） 其三 三月

河南府試十二月樂詞（并閏月） 其三 三月

東方風來滿眼春

東方より風来りて 滿眼 春なり

花城柳暗愁殺人

花城 柳 暗くして 人を愁殺す

複宮深殿竹風起

複宮 深殿 竹風起り

新翠舞衿淨如水

新翠の舞衿 淨きこと 水の如し

光風轉蕙百餘里

光風 蕙を転ずること 百余里

暖霧驅雲撲天地

暖霧 雲を駆りて 天地を撲つ

軍裝宮妓掃蛾淺

軍裝の宮妓 蛾を掃うこと淺く

搖搖錦旗夾城暖

揺々たる錦旗 夾城 暖かなり

曲水漂香去不歸

曲水 香を漂して 去りて帰らず

梨花落盡成秋苑

梨花 落ち尽くして 秋苑と成る

【語釈】

河南：洛陽。府試：科擧の地方試験（李賀19歳）。十二月樂詞（并閏月）：府試の詩題であつたとおもわれ、閏月を含めて13首ある、樂詞は樂曲。滿眼：見渡す限り。花城：はなが咲き誇っている街。柳暗：柳がこんもりと茂っている（柳暗花明）。愁殺：ひどく悩ませる。複宮：幾重にも奥深い宮殿。深殿：奥深い処にある宮殿。竹風：竹の間を吹く風。新翠：新しい青緑（竹の形容、舞女の衿の両説有り）。光風：雨上がりの美しい景色。光風轉蕙：雨がやみ日さし、風が吹いて草木に光が当たる姿。驅：走らせる。撲：うちつける。掃蛾淺：浅く黛を引く。搖搖：ゆれうごくさま。錦旗：錦の旗。夾城：興慶宮と長安の東南隅にある曲江池の付近にある離宮「芙蓉園」、北部にある「大明宮」へとつながる皇帝専用の通路。曲水：曲江。秋苑：秋の庭園。

★唐 李賀

昌谷讀書示巴童

昌谷にて書を読み巴童に示す

蟲響燈光薄

虫響き 灯光薄く

宵寒藥氣濃

宵寒く 藥氣濃なり

君憐垂翅客

君は垂翅の客を憐れみ

辛苦尚相從

辛苦して 尚お相い從う

【語釈】

昌谷：李賀の故郷。巴童：四川省重慶から来た兒童。藥氣：薬におい。垂翅客：翼を垂れた鳥。辛苦：苦勞。

★唐 李賀

京城

京城

驅馬出門意

馬を驅りて 門を出でし意

牢落長安心

牢落たる 長安の心

兩事誰向道

兩事 誰に向って道わん

自作秋風吟

自ら 秋風の吟と作す

【語釈】

京城：長安。牢落：零落、さびしい。兩事：出門意と長安心。

★唐 李賀

客遊

かくゆう

悲滿千里心

悲は満つ千里の心

日暖南山石

日は暖かなり南山の石

不謁承明廬

承明の廬に謁せず

老作平原客

老いて平原の客と作る

四時別家廟

四時家廟に別かれ

三年去鄉國

三年郷國を去る

旅歌屢彈鋏

旅歌 屢鋏を弾じ

歸問時裂帛

帰問 時に帛を裂く

【語釈】

客遊：故郷を離れて異郷にあること。南山：終南山。承明廬：漢代の官吏の建物。  
平原客：平原君食客のような食客。家廟：祖先の廟。郷國：故郷。彈鋏：刀。歸  
問：故郷への手紙。帛：絹織物。

(漢詩大系13)

★唐 李賀

銅駝悲

銅駝悲しむ

落魄三月罷

落魄三月罷

尋花去東家

花を尋ねて 東家に去る

誰作送春曲

誰か 送春の曲を作くる

洛岸悲銅駝

洛岸には 銅駝 悲しむ

橋南多馬客

橋南 馬客多く

北山饒古人

北山 古人饒し

客飲盃中酒

客は飲む 盃中の酒

駝悲千萬春

駝は悲しむ 千万の春

生世莫徒勞

世に生まれて 徒勞する莫かれ

風吹盤上燭

風は吹く 盤上の燭

厭見桃株笑

見るを厭う 桃株の笑うを

銅駝夜來哭

銅駝 夜來哭す

【語釈】

銅駝：銅で作った駱駝。落魄：落ちぶれたさま。罷：終わる。洛岸：洛陽を流れる洛水の岸。橋南：洛水の南側。北山：北邙山。古人：ここでは墓。哭：泣く

(漢詩大系 11)

★唐 李賀

感諷五首 其三

感諷 五首 其三

南山何其悲

南山 何ぞ 其れ悲しき

鬼雨灑空草

鬼雨 空草に灑ぐ

長安夜半秋

長安 夜半の秋

風前幾人老

風前 幾人か老ゆ

低迷黃昏徑

低迷 黃昏の徑

裊裊青櫟道

裊々たり 青櫟の道

月午樹立影

月午にして 樹影を立て

一山唯白曉

一山 唯だ 白曉

漆炬迎新人

漆炬 新人を迎え

幽壙蚩擾擾

幽壙 蚩 擾々たり。

【語釈】

感諷：時に感じ世を風刺する。南山：終南山、長安の南にある隱棲の地。鬼雨：  
気味の悪いすごい雨。空草：…人氣の無い草むら。低迷：はつきりしないこと。黄  
昏：ほの暗いこと。裊裊：風が木を揺する姿。青櫟：青い葉のくぬぎ。午：中天。  
一山：山全体。白曉：夜明けのように明るい。漆炬：漆で作った墓場にかかげる  
灯火、鬼火。新人：新しい死人の霊。幽壙：奥まった寂しい墓穴。擾擾：集散し  
て乱れるさま。

★唐 李賀

題歸夢

歸夢に題す

長安風雨夜

長安 風雨の夜

書客夢昌谷

書客 昌谷を夢む

怡怡中堂笑

怡々たる 中堂の笑い

小弟栽澗菘

小弟 澗菘を栽つ

家門厚重意

家門 厚重の意

望我飽飢腹

我が飢腹を飽かしむるを望む

勞勞一寸心

勞勞たり 一寸の心

燈花照魚目

燈花 魚目を照らす

【語釈】

歸夢…故郷に帰った夢。書客…書生(作者)。昌谷…河南省福昌県宜陽(李賀の故郷)。怡怡…やわらぎ喜ぶさま。中堂…座敷の真ん中。澗菘…かりやす。栽…つみとる。家門…家の一族。飽飢腹…食べる心配をなくする。勞勞…疲れたさま。燈花…灯心の先に出来る燃えかす。消えかかった光。魚目…勞思つて眠れない眼。

(漢詩大系 11)



★唐 李賀

崇義里滯雨 唐李賀 崇義里にて雨に滯おる

落莫誰家子

落莫たり 誰が家の子ぞ

來感長安秋

來り感ず 長安の秋

壯年抱羈恨

壯年 羈恨を抱き

夢泣生白頭

夢に泣いて 白頭を生ず

瘦馬秣敗草

瘦馬 敗草を秣とし

雨沫飄寒溝

雨沫 寒溝に飄える

南宮古簾暗

南宮 古簾暗く

溼景傳籤籌

溼景籤籌を伝う

家山遠千里

家山 遠く千里

雲脚天東頭

雲脚 天の東頭

憂眠枕劔匣

憂眠 劔匣を枕とし

客帳夢封侯

客帳 封侯を夢む

【語釈】

崇義里：長安の坊の名。滯雨：雨に降り籠められる。落莫：さびしくうらぶれたさま。羈恨：旅愁。南宮：大常寺の詰め所のこと？。溼景：雨あいに漏れる湿つた日光。籤籌：時刻を知らせる竹籌。雲脚：雲の垂れ下がっているところ。劔匣：劔を入れる箱。客帳：宿屋のとばり。

★唐 許渾 きよこん

秋思

しゅうし

琪樹西風枕簟秋

きじゆ 琪樹の西風 ちんたん 枕簟の秋

楚雲湘水憶同遊

そうれん 楚雲 しゆうすい 湘水 同遊を憶う

高歌一曲掩明鏡

高歌一曲 明鏡を掩う

昨日少年今白頭

昨日の少年 今は白頭

【語釈】

琪樹：美しい木々、琪は玉の名。西風：秋風。枕簟：枕と簟（竹で編んだむしろ）、転じて夏の寝具。楚雲：楚の空に浮かぶ雲、楚は、湖北・湖南省一帯を指す。湘水：湘江。同遊：昔いつしよに遊んだ友人。憶：思い出す。高歌一曲：声高らかに一節ひとふし歌うこと。

（唐詩選）（Web 漢文大系）

関連詩句

「雲霞落日舒旗幟，琪樹西風響珮珂。」（宋・汪應辰）

「琪樹西風露井傍，鏡寒移影度銀床。」（元・陳謙）

「今日登高望不見，楚雲湘水各悠悠。」（唐・戴叔倫）

「我欲臨風歌大招，楚雲湘水不勝遙。」（明・王汝玉）

「頭上光陰瞥爾過，昨日少年今老大。」（宋・張詠）

「昨日少年今白首，華構咫尺歸荒丘。」（元・曹元用）

★唐 許渾

謝亭送別

謝亭の送別

勞歌一曲解行舟

勞歌 一曲 行舟を解けば

紅葉青山水急流

紅葉 青山 水は急流す

日暮酒醒人已遠

日暮 酒醒むれば 人已に遠く

滿天風雨下西樓

滿天の風雨 西樓を下る

(詩詞世界)

【語釈】

謝亭：亭の名。謝公亭ともいう。宣城の北側にあり、南齊の詩人・謝朓が宣城の太守に任じられていた時に建てたもの。謝朓が、曾てここで友人の范雲を送別したことで、後には謝亭とは宣城での送別の地として有名になった。勞歌：勞勞亭での送別の歌、転じて、送別の歌。解：舟の纜を解く。日暮：日暮れ。人：舟に乗って別れて行った人。滿天：空いっぱい。西樓：今回、送別の宴を開いた勞勞亭。

555

関連詩句

「勞歌一曲霜風暮，擊折湘妃白玉簪。」唐 羅隱  
「夢幻百年隨逝水，勞歌一曲對青山。」宋 黃庭堅  
「勞歌一曲黯離憂，酒盡人分不可留。」明 李昌祺  
「秋風紅葉青山下，準擬相携把菊枝。」宋 徐瑞  
「紅葉青山載酒行，山人新結野菴成。」元 鄧賚  
「黃橙紫蟹皆宜酒，紅葉青山且未回。」明 初 劉崧  
「日暮酒醒人已去，不堪回首見青山。」元 薩都刺  
「日暮酒醒人已遠，空教啼鳥怨流年。」明 張弼  
「日暮酒醒人已遠，鳥啼花落水空流。」明 張璜  
「獨羨一聲南去雁，滿天風雨到汀洲。」唐 吳融  
「夜半打窗人不會，滿天風雨角聲中。」宋 歐陽程  
「蟬老樹深音響別，滿天風雨帶斜陽。」宋 嚴羽

★唐 許渾

常州留與楊給事

常州にて楊給事に留与す

蒹葭水暗螢知夜

蒹葭 水暗くらくして 螢 夜を知り

楊柳風高雁送秋

楊柳 風高くして 雁 秋を送る

露滴曉花疑錦繡

露滴 曉花 錦繡を疑らし

風吹寒竹認笙簧

風吹きて 寒竹 笙簧を認む

【語釈】

常州：江蘇省常州市。留與：残しておいて与える。楊給事：不詳、給仕（天子の詔勅を審議する要職）であった楊氏。露滴：露の滴。曉花：曉の花。錦繡：錦で織った織物。笙簧：笙の笛の舌。

関連詩句

「汀洲月下菱船疾，楊柳風高酒旆輕。」（唐・陸龜蒙）

「蘆花月皎湘江晚，楊柳風高渭水秋。」（清・吳克明）

★唐 許渾

七里灘

しちりたん  
七里灘

天晚日沈沈

天<sup>く</sup>晩れて日<sup>ちんちん</sup>沈々たり

歸舟繫柳陰

孤舟<sup>りゆういん</sup>柳陰に繫なぐ

江村平見寺

江村平かにして寺を見

山郭遠聞砧

山郭遠くして砧を聞く

樹密猿聲響

樹は蜜にして猿声響き

波澄鴈影深

波は澄みて雁影深し

榮華暫時事

榮華は<sup>ざしじ</sup>暫時の事

誰識子陵心

誰か<sup>しつよ</sup>子陵の心を識らん

【語釈】

七里灘：浙江省権徳市の近くにある早瀬。沈沈：奥深いさま、静かなさま。江村：川辺の村。山郭：山の街。子陵：厳光のこと、光武帝の友人であったが、光武帝が即位しても招きに応ぜず、七里灘に隠棲した。

(三体詩)

★唐 許渾

黃陵廟

黃陵廟

黃陵廟前莎草春

黃陵廟前莎草の春

黃陵女兒茜裙新

黃陵の女兒茜裙新たなり

輕舟短櫂唱歌去

輕舟短櫂唱歌して去る

水遠山長愁殺人

水は遠く山は長く人を愁殺す

【語釈】

黃陵廟：湖南省湘陰県の北にある。舜の二妃（娥皇・女英）を祭る。湘夫人祠ともいう。湘江の女神を「湘君」といい、娥皇と女英の二人の女神からなる。娥皇と女英は舜帝の妃であったが、舜が没すると悲しんで川に身を投じ、湘江の神となったという伝説がある。莎草：はますげ。カヤツリグサ科の多年草。茜裙：茜色の裳裾（もすそ）。輕舟：小舟。短棹：舟を操る短いさお。愁殺：ひどく悲しませる。憂鬱にさせる。殺は、強意の助字。

（三体詩）

★唐 許渾

晚自東郭留一二遊侶

晚に東郭自り一二の遊侶を留む

郷心迢遼宦情微

郷心迢遼として宦情微なり

吏散尋幽竟落暉

吏散じ幽を尋ね落暉竟わる

林下草腥巢鷺宿

林下草腥くして巢鷺宿り

洞前雲濕雨龍歸

洞前雲湿おいて雨龍帰る

鐘隨野艇迴孤棹

鐘は野艇に従いて孤棹を迴えし

鼓絕山城掩半扉

鼓は山城に絶えて半扉を掩う

今夜西齋好風月

今夜西齋に風月好からん

一瓢春酒莫相違

一瓢の春酒相違うこと莫かれ

【語釈】

東郭：街の東の郊外。遊侶：遊び友だち。郷心：故郷を思う心。迢遼：遙かに遠いさま。宦情：官として仕える気持ち。吏散：役所が引けて官吏が散じる。幽：ここでは東の郊外の奥深い山。落暉：落日。竟：終わる。巢鷺：巢に住む鷺。雨龍：雨を降らす龍。野艇：野原の川を行く舟。迴孤棹：棹を上げて帰路につく。西齋：西の居間。相違：無駄になる。

(三体詩)

関連詩句

「桃源勝邑少風塵，吏散尋幽學隱淪。」(明・林鴻)

「鐘隨野艇迴孤棹，蟬拙殘聲過別枝。」(明・孫黃)

「鼓絕山城門未掩，夢和疏雨度西橋。」(元・范梈)

「鼓絕山城夜正幽，雅懷對酒更何愁。」(明・趙完璧)

「只應今夜西齋夢，不到紅雲北斗邊。」(明・文林)

「三呷鱸魚真好膾，一瓢春酒宜閑飲。」(宋・鬲仔)

「暫向世間忘爾汝，一瓢春酒肯相留。」(元・成廷珪)

★唐 許渾

咸陽城東樓

咸陽城の東樓

許渾

一上高城萬里愁

一たび高城に上れば 万里愁れう

蒹葭楊柳似汀洲

蒹葭 楊柳 汀洲に似たり

溪雲初起日沈閣

溪雲 初めて起りて 日閣に沈み

山雨欲來風滿樓

山雨 来らんと欲して 風樓に満つ

鳥下綠蕪秦苑夕

鳥は 綠蕪に下る 秦苑の夕べ

蟬鳴黃葉漢宮秋

蟬は 黃葉に鳴く 漢宮の秋

行人莫問當年事

行人 問う莫かれ 當年の事

故國東來渭水流

故國 東來 渭水流る

【語釈】

咸陽城：秦の始皇帝が都を置いた都市。一上：ひとたび上る。高城：高樓、城樓。萬里：遙か彼方まで。愁：もの悲しい、愁いに満ちた。蒹葭：葦、荻（おぎ）水辺に生えるイネ科の多年生草本の総称。楊柳：カワヤナギ、ネコヤナギ、ヤナギの総称。汀洲：中州。溪雲：溪間に生じる雲。初：たった今。閣：大きな建物。山雨：山に降る雨。綠蕪：「緑色の雑草の茂った草叢。秦苑：秦の始皇帝が咸陽に建設した宮殿の御苑。漢宮：漢の宮殿。行人：旅人。・當年：その当時。故國：故都、ここでは、咸陽。東來：東に向かってくる（流れる）。渭水：渭咸陽と長安の間を劃するように東に向かって流れて黄河に注ぐ大河。

（三体詩）

「一上高城思渺冥，情懷如夢復如醒。」（明・週憲王）

「一上高城四望寬，老逢佳節半悲歡。」（明・賀一弘）

「茅舍竹籬山掩映，蒹葭楊柳水縈紆。」（元・孟淳）



「戍鼓聲催夕照低，兼葭楊柳澹烟微。」（元·宋娶）  
「溪雲初起山圍帶，寒雨斜飛風絡絲。」（明·田登）  
「溪雲初起日沈閣，長笛一聲人倚樓。」（明·朱樸）  
「山雨欲來陰竟日，溪雲不斷氣浮空。」（宋·強至）  
「山雨欲來淮樹立，潮風初起海雲飛。」（宋末元初·汪元量）  
「蟬鳴黃葉半空山，寫盡秋聲入樹間。」（清·徐宗幹）  
「行人莫問僧年紀，嶺上喬松是手栽。」（宋·邵棠）  
「從來往返絕縱由，行人莫問來時路。」（宋·普融知藏）  
「故國東來過豐沛，高山西望識邠岐。」（清·張若需）

★唐 許渾

秋日出關題潼關驛樓

（一作行次潼關逢魏扶東歸）

秋日關に赴むかんとして潼關駅の樓に題す

紅葉晚蕭蕭

紅葉晚に蕭々として

長亭酒一瓢

長亭酒一瓢

殘雲歸太華

殘雲 太華に帰り

疎雨過中條

疎雨 中條を過ぐ

樹色隨關迴

樹色 関に従いて廻り

河聲入海遙

河声 海に入りて遙かなり

帝鄉明日到

帝郷 明日到らんとして

猶自夢漁樵

猶お自ら漁樵を夢む

【語釈】

關：皇帝の宮殿の門。潼關：陝西省潼關県の東南にあつた関所。蕭蕭：…もの寂しいさま。長亭：十里ごとにある宿場町。殘雲：雨上がりに残つた雲。太華：華山、五岳の一つで潼關の西南に聳える名山。疎雨：まだらな雨。中條：…中條山、潼關の西北にある山。河聲：黄河の水音。帝郷：長安。漁樵：魚を捕つたりたきぎをとつたりする素朴な生活。

(唐詩三百首)

★唐 許渾

下第寓居崇聖寺感事

下第して崇聖寺に寓居し事に感ず

懷土泣京華

土を懷おもいて京華に泣き

舊山歸路賒

旧山帰路賒はらなり

靜依禪客院

静は依よる禪客の院

幽學野人家

幽は学ぶ野人の家

林晚鳥爭樹

林は晩れて鳥樹を争い

園春蝶護花

園は春にして蝶花を護る

東門有閑地

東門に閑地有り

誰種邵平瓜

誰か種えん邵平の瓜

【語釈】

下第：科挙に不合格となること。寓居：仮住まい。崇聖寺：雲南省大理市の郊外にある寺。土：故郷。京華：京城（長安）の美称。舊山：故郷の山。静：静寂。依：求める。禪客院：座禅をする僧院。幽：幽趣。野人：農夫。閑地：空き地。邵平瓜：秦の東陵侯であった招平は、秦が滅んでから長安城の東門に瓜を植えて暮らしたという故事、帰農の生活に甘んじること。

『唐詩選』吉川幸次郎編

★唐 許渾

秋日赴關題潼關驛樓

秋日 關けつに赴おもむき潼關どうかん駅えきの樓ろうに題だいす

紅葉晚蕭蕭

紅葉くみれ晚ばんに蕭々しょうしょうとして

長亭酒一瓢

長亭びやう酒しゆ一いつ瓢びょう

殘雲歸太華

殘雲たい太華かに歸り

疎雨過中條

疎雨ちゆうじゆう中條じゆうに過ぐ

樹色隨關迴

樹色おの関かに隨したがいて迴めぐり

河聲入海遙

河聲か海かいに入いって遙めかなり

帝鄉明日到

帝鄉てい明日あした到いたらんとして

猶自夢漁樵

猶な自おの夢の漁樵りゆうせうを夢ゆむ

【語釈】

蕭蕭：物寂しい音の形容。長亭：十里毎に置かれた宿場。瓢：ひさご。太華：崑崙山（陝西省華陰県にある五岳の一つ）。疎雨：まだらに降る雨。中條：中條山（山西省永濟市にある山）。迴：遙かに遠い。河聲：黄河の水音。帝鄉：帝都長安。漁樵：素朴な隠棲生活。

（三体詩）

★唐 許渾

早秋三首其一

早秋三首其一

遙夜汎清瑟

遙夜汎として清瑟

西風生翠蘿

西風翠蘿を生ず

殘螢栖玉露

殘螢玉露に栖み

早鴈拂金河

早鴈金河を払う

高樹曉還密

高樹曉に還つて密に

遠山晴更多

遠山晴れて更に多し

淮南一葉下

淮南一葉下る

自覺洞庭波

自ら覺ゆ洞庭の波だつを

【語釈】

遙夜：長い夜。汎：広く漂うさま。清瑟：悽涼な秋の気配。西風：秋風。翠蘿：緑のかずら。金河：銀河。拂：かすめて飛ぶ。淮南：淮南：淮水の南の地方。

★唐 許渾

金陵懷古

きんりょうかいこ

玉樹歌殘王氣終

玉樹ぎよじゆの歌残りて 王氣おうき終わり

景陽兵合戍樓空

景陽けいよう兵へい合あして 戍樓じゆろう空し

楸梧遠近千官塚

楸梧しゆうこ遠近えんじん 千官せんくわんの塚

禾黍高低六代宮

禾黍かしよ高低かうた 六代りくたいの宮

石燕拂雲晴亦雨

石燕せきえん雲を払はらいて 晴は亦またた雨

江豚吹浪夜還風

江豚かうとん浪を吹ふいて 夜還よまた風

英雄一去豪華盡

英雄 一たび去りて 豪華かうわ尽つき

唯有青山似洛中

唯 青山の 洛中らくちゆうに似たる有り

【語釈】

金陵：南京、六朝の首都。玉樹歌：玉樹後庭歌、陳の後主が作り、宮女に詠わせた物。景陽：南京の北、玄武湖畔にあった陳の宮殿の名。戍樓：守りのための櫓。楸梧：ひさぎと桐。禾黍：きびとあわ。石燕：零陵というところに石の燕があつて、雨が降ると飛び、やむと又石になったと言われる。江豚：猪に似た魚で、波間に姿を見せると、長江に風が起ると言われる。

『唐詩選』吉川幸次郎選（三体詩）

関連詩句

「玉樹歌殘月上弓，誰將白刃斬春風。」（宋・方一夔）

「翠禽夢斷春無迹，玉樹歌殘月正昏。」（元・吳景奎）

「錫簫聲裏添惆悵，空憶松楸遠近阡。」（清・繆重熙）

「歲豐禾黍高低積，天曉雲霞散亂明。」（宋・韓琦）

「燕鴻來往書生老，禾黍高低故國愁。」（宋・馬廷鸞）

「江豚吹浪腥風濕，野鳥行空翥雪乾。」（宋・林昉）

「江豚吹浪雨颼颼，望斷天涯人白頭。」（宋・樓鑰）

★唐 蘇頲 そてい

汾上驚秋

汾上驚秋 ふんじょうきょうしゅう

北風吹白雲

北風 白雲を吹き

萬里渡河汾

万里 河汾を渡りて

心緒逢搖落

心緒 搖落に逢い

秋聲不可聞

秋声 聞く可からず

【語釈】

汾上：…汾水のほとり。汾水は山西省寧武県の西南に源を發し黄河に注ぐ川。  
吹：…吹きとばす。萬里：…都から遠く離れた旅の途中にあること。河汾：汾水。  
心緒：…心の動き。搖落：…落葉が揺れながら落ちること。秋声：…秋の物音、  
風の音や、木の葉の落ちる音。不可聞：…物寂しくて、聞くに堪えない。

(Web 漢文大系)

★唐 李頻 りひん

渡漢江

漢江を渡る

嶺外音書絕

嶺外 音書絶え

經冬復歷春

冬を経て 復た立春

近鄉情更怯

郷に近づけば 情更に怯なり

不敢問來人

敢えて 來人に問わず

【語釈】

漢江：陝西省寧強県に發し、湖北省を東南流して武漢で長江に注ぐ最大の支流。  
嶺外：広東省・広西壮族自治区あたり一体、当時は流謫の地とされた。音書：…便  
り。怯：臆病。來人：向こう（故郷の方）から來る人。

(唐詩三百首、詩詞世界) 宋之問の作とされる。

★唐 曹松 そうしやう

己亥歳

己亥の歳 きがいとし

澤國江山入戰圖

たくこく じやうざん  
沢國の江山 戦図に入る

生民何計樂樵蘇

せいみん  
生民 何の計あつてか 樵蘇を楽しまん

憑君莫話封侯事

君に憑う 語る莫れ 封侯の事を

一將功成萬骨枯

いっしやう  
一將 功成つて 万骨枯る

【語釈】

己亥歳：879年（乾符六年）、唐末の黄巢の乱（875年～84年）の最中の作品。・沢國：池や沼の多い江淮の地（江蘇省、安徽省）を指す。江山：（祖国の）山河。戦図：交戦地域。作戦地帯。入戦図：作戦地帯に入っている。戦闘地として戦乱に巻き込まれたことをいう。生民：人民。計：計画する。楽：やすらか、ゆたか。樵蘇：薪を拾うことと草を刈ること、庶民の生計のことになる。憑：たのむ。お願いする。封侯：諸侯に封ぜられること。一將：ひとりの将帥。万骨：多くの兵卒の骸。枯：ひからびる、白骨となる。

（三体詩）

★唐 孫逖

和左司張員外自洛使入京中路先 赴長安逢立春日贈韋侍御等

諸公

左司張員外の「洛自り使して京に入り、中路先ず長安に赴き、立春の日に逢い、韋侍御及び諸公に贈る」に和す

忽觀雲間數雁廻

忽ち觀る雲間數雁の廻るを

更逢山上一花開

更に逢う山上一花の開くに

河邊淑氣迎芳草

河邊の淑氣芳草を迎え

林下輕風待落梅

林下の輕風落梅を待つ

秋憲府中高唱入

秋憲の府中高唱入り

春卿署裏和詩來

春卿の署裏和詩來る

共言東閣招賢地

共に言う東閣は賢を招くの地なりと

自有西征作賦才

自ずから有り西征賦を作るの才

【語釈】

左司：尚書省に属し、吏部・戸部・礼部の執務を監督する役所。張員外：張は姓、員外は官名、長官の補佐役。洛：洛陽。京：都。中路：中途。韋侍御：韋は姓。侍御は官名。侍御史。官吏の違法を摘発する官。睹：見る。淑氣：うらかな春の気。芳草：よい香りのする草花。輕風：そよ風。秋憲府：御史の役所。御史台。高唱：格調の高い詩。張員外の詩を指す。春卿署：礼部の役所。尚書省をいう。自：こちらにはちゃんと。西征作賦：西征は西への旅、「西征の賦」を作った潘岳の故事を踏まえる。

(唐詩選)



★唐 太上隱者 答人

人に答う

偶來松樹下

偶たまたまま 松樹しょうじゆの下したに來たり

高枕石頭眠

枕まくらを高くして石頭せきとうに眠る

山中無曆日

山中やまなか 曆日れきじつ無く

寒盡不知年

寒かん盡じんくるも年としを知らず

【語釈】

太上隱者：姓名・事蹟ともに不詳。高枕：安心してよく眠ること。石頭：石のこと。「頭」は、接尾辞。山中：山中の生活。曆日：暦こよみ。寒尽：寒冬が去って春が来る。不知年：年が改まったことを知らない。

(唐詩選)

★唐 丁仙芝

餘杭醉歌贈吳山人

余杭の醉歌 吳山人に贈る

曉幕紅襟燕

曉幕 紅襟の燕

春城白項烏

春城 白項の烏

只來梁上語

只 梁上來りて語たり

不向府中趨

府中に向つて趨らず

城頭坎坎鼓聲曙

城頭 坎々 鼓聲の曙

滿庭新種櫻桃樹

滿庭 新たに種ゆ 櫻桃の樹

桃花昨夜撩亂開

桃花 昨夜 撩亂として開き

當軒發色映樓臺

軒に当たりて色を發して樓台に映ず

十千兌得餘杭酒

十千 兌え得たり 余杭の酒

二月春城長命杯

二月 春城 長命の杯

酒後留君待明月

酒後 君を留めて 明月を待ち

還將明月送君回

還た明月を將つて 君の回るを送らん

【語釈】

餘杭：浙江省杭州の西にある酒の産地。吳山人：不詳、山人は山に隱棲して仕官しない人。曉幕：夜あけがだのカートン。紅襟燕：胸のところが赤色の燕。白項烏：首のところが白い鳥、紅襟の燕とともに、吳山人にたとえる。府：役所。趨：走つてゆく。坎坎：鼓の音の擬声語。撩亂：乱雑なことの形容。軒：廊下に ついてはいる窓。十千：一万錢、美酒一斗の価格。兌：金を出して買うこと。

(唐詩選)

★唐 李羣玉

南莊春晚

南莊の春晚

草暖沙長望去舟

草は暖かく沙は長くして 去舟を望めば

微茫烟浪向巴丘

微茫たる烟浪 巴丘に向う

沅湘寂寂春帰尽

沅湘 寂々 春帰りて尽き

水緑蘋香人自愁

水は緑に蘋は香しくして 人自ら愁う

【語釈】

南莊：南の方角に別荘。春晚：春のおわり。晩春に同じ。草暖：春の日で暖かな草。沙長：はるか長い岸辺の砂浜。去舟：去り行く舟。微茫：かすかではっきりしないさま。模糊に同じ。烟浪：もやがたちこめた水面。煙波に同じ。巴丘：地名。巴陵、岳州。現在の湖南省岳陽市。沅湘：沅水と湘水の二川。寂寂：さびしいさま。また、静かなさま。蘋：多年生水草。  
(三体詩)

★唐 李羣玉

送客

客を送る

沅水羅文海燕回

沅水の羅文 海燕回る

柳條牽恨到荆臺

柳條 恨みを牽きて 荆台に到る

定知行路春愁裏

定めて知る行路 春愁の裏

故郢城邊見落梅

故郢城辺 落梅を見るを

【語釈】

沅水：湖南省北部を東に流れて洞庭湖に入る川。羅文：水面の波立つさま。海燕：うみつばめ。柳條：しだれ柳の枝。荆臺：荊州、今の湖北省江陵。定知：きつとくに違いない。故郢城：戦国時代の楚の都、江陵にあった。

(三体詩)

★唐 李羣玉 寄友二首其一 友に寄す二首其一

野水晴山雪後時 野水晴山雪後の時

獨行村落更相思 独り村路を行きて更に相思う

無因一向溪頭醉 一たび溪橋けいきょうに向いて酔うよしに因無く

處處寒梅映酒旗 処々の寒梅酒旗しゆきに映ず

【語釈】

野水：野を流れる小川。晴山：雨後や雪後の山。雪後時：雪がやんだ時。村路：村の小道。無因：原因がない。きつかけがない。溪橋：谷川にかかる橋。處處：あちらこちら。寒梅：寒中に咲く梅。早咲きの梅。酒旗：酒屋の目印の旗、のぼり。

(三体詩)

★唐 李山甫 りざんほ

方幹隱居

ほうかん いんきよ  
方幹が隱居

咬咬嘎嘎水禽聲

くわくわく かつかつ すいきん  
咬咬嘎嘎水禽の聲

露洗松陰滿院清

しやういん  
露は松陰を洗いて滿院清し

溪畔印沙多鶴跡

けいはん すな いん  
溪畔沙に印して鶴跡多く

檻前題竹有僧名

かんぜん  
檻前竹に題して僧名有り

問人遠岫千重意

えんしゆう  
人に問う遠岫千重の意

對客閑雲一片情

かんうん  
客に對す閑雲一片の情

早晚塵埃得休去

や  
早晚塵埃休んで去るを得て

且將書劍事先生

しほ  
且らく書劍を將つて先生に事えん

【語釈】

方幹：大中（八四七〜八四九）科挙を受けたが合格せず、浙江省紹興の鑑湖に隱棲した。咬咬嘎嘎：水鳥の鳴き声を表す擬声語。滿院：庭一杯。溪畔：谿のほとり。印沙：砂に印がついている。鶴跡：鶴の足跡。檻：家の周囲の垣根の手すり。遠岫：遠い山の峰。千重：幾つもの山が重なっている。閑雲：のどかに漂う雲。塵埃：俗世間の塵、汚れた俗事。○先生：方干のこと。

（三体詩）

★唐 李商隱

夜雨寄北

夜雨北に寄す

君問歸期未有期

君 歸期を問えども 未だ期有らず

巴山夜雨漲秋池

巴山の夜雨 秋池に漲る

何當共剪西窗燭

何か當に 共に西窓の燭を剪りて

卻話巴山夜雨時

却って巴山夜雨を話す時なるべし

【語釈】

歸期：家に帰る時。巴山：陝西省西郷県の南西にある山、寂しい所を指す場合が多い。西窗：西の窓、女性の部屋の窓。「卻」：振り返る

★唐 李商隱

寄令狐郎中

令狐郎中に寄す

嵩雲秦樹久離居

嵩雲秦樹 久しく離居す

雙鯉迢迢一紙書

双鯉迢々たり 一紙の書

休問梁園舊賓客

問うを休めよ 梁園旧賓の客に

茂陵秋雨病相如

茂陵の秋雨 病相如

【語釈】

令狐郎中：右司郎中(尚書省の役人を右司の長官)である令狐綯(令狐楚の子)。  
嵩雲：五岳の一つ崇山(河南省登封県の南)にかかる雲。秦樹：陝西省の樹木。  
雙鯉：二匹の鯉、雁と共に手紙をもたらす物とされている(『文選』卷二十七)。  
迢迢：遙かに遠いさま。一紙書：令狐郎中からの手紙。休問梁園舊賓客：梁園は、前漢の景帝の弟の凌の孝王の庭園で司馬相如を始めとする文人たちを賓客として招いた、自分を司馬相如をたとえ、令狐楚を孝王にたとえた物。茂陵：漢の武帝の陵墓、司馬相如が晩年病臥してすごした所。病相如：病気の司馬相如にも似た自分。

(唐詩三百首)

★唐 李商隱 無題

無題

相見時難別亦難

相い見る時は難く別るも亦た難し

東風無力百花殘

東風力無く百花残る

春蚕到死絲方盡

春蚕 死に到りて糸 方めて尽き

蠟炬成灰淚始乾

蠟炬 灰と成りて 涙始めて乾く

曉鏡但愁雲鬢改

曉鏡 但だ愁う 雲鬢の改まるを

夜吟應覺月光寒

夜吟 応に覺ゆべし月光の寒きを

蓬山此去無多路

蓬山 此こより去りて 多路無し

青鳥殷勤為探看

青鳥 殷勤として 為に探り看よ

【語釈】

春蚕：春の蚕。蠟炬：蠟燭。曉鏡：曉に見る鏡。雲鬢：豊かで美し女子の髪。夜吟：夜に吟ずこと。蓬山：蓬萊山、中国、古代における想像上の神山。青鳥：三本足の鴉、西母王のために食を採ったという、転じて使者。殷勤：ねんごろに。

★唐 李商隱

錦瑟

錦瑟

錦瑟端無五十弦

錦瑟端無くも五十弦

一弦一柱思華年

一絃一柱に華年を思う

莊生曉夢迷蝴蝶

莊生の曉夢は胡蝶に迷い

望帝春心托杜鵑

望帝の春心は杜鵑に托す

滄海月明珠有淚

滄海の月明らかにして珠に涙あり

藍田日暖玉生煙

藍田の日暖かにして玉は烟を生ず

此情可待成追憶

この情追憶となるを待つ可けんや

只是當時已惘然

只だ是れ当時のより已に惘然

【語釈】

錦瑟：立派な瑟（おおごと）。無端：わけもなく。柱：ことじ。華年：若く華やいでいた年頃。莊生：莊周、莊子。迷：自分が夢で蝶になっているのか、蝶が夢で自分になっているのかということに迷う。・蝴蝶：蝶。望帝：蜀の望帝。春心：春を思う心。托杜鵑：血を吐きながら悲しげに鳴く杜鵑（ホトトギス）に托す。滄海：青い海珠：ここでは真珠。有淚：鮫人の涙。南海に住み、水中で機（はた）を織り、泣くときは真珠の涙をこぼすという。藍田：陝西省藍田県東南にある山の名で、名玉を産する。日暖：（藍田の山に）陽光が射す。生煙：五色の雲煙が生じて宝気が立ち上る。此情：この（鬱々とした）心情。可待：何を待とうか、待つまでもない。當時：その頃、（妻が亡くなった）その頃。已：とつくに、すでに。惘然：気落ちしてぼんやりするさま。

（詩詞世界）



★唐 李商隱

無題四首 其二

無題四首 其二

颯颯東風細雨來

颯々たる東風 細雨來たる

芙蓉塘外有輕雷

芙蓉塘外 輕雷有り

金蟾齧鎖燒香入

金蟾 鎖を齧むも香を燒きて入り

玉虎牽絲汲井迴

玉虎 糸を牽き井を汲みて迴ぐる

賈氏窺簾韓掾少

賈氏 簾を窺うに 韓掾少く

宓妃留枕魏王才

宓妃 枕を留む 魏王の才に

春心莫共花爭發

春心 花と共に 発くを争うこと莫かれ

一寸相思一寸灰

一寸の相思 一寸の灰

【語釈】

颯颯：風がさつと吹くさま。芙蓉塘外：蓮の花の開く池の遙かかなた。輕雷：遠くかすかにきこえる雷。金蟾：黄金のヒキガエルの形をした錠前。齧鎖：堅く鎖されている。玉虎：虎の形をした玉のろくろ。賈氏窺簾韓掾少：（西晋の宰相）賈充の娘が簾越しに覗いて見ると、属官のか韓寿は若々しかった（二人は結婚した）『世説新語』。宓妃留枕魏王才：（上古の王女、宓妃にたとえられた魏の甄皇后は、文才豊かな魏の陳思王曹植に枕を残した。春心：恋心。一寸：僅か。相思：恋情。

（唐詩三百首）

★唐 李商隱

落花

落花

高閣客竟去

高閣客竟に去り

小園花亂飛

小園花 乱れ飛ぶ

参差連曲陌

参差として 曲陌に連なり

迢遞送斜暉

迢遞として 斜暉を送る

腸斷未忍掃

腸断れて 未だ 掃うに忍びず

眼穿仍欲稀

眼穿たれて 仍 稀ならんと欲す

芳心向春盡

芳心 春の尽くるに向かい

所得是沾衣

得る所は 是れ 衣を沾すのみ

【語釈】

竟：ついに、とうとう。小園：中庭、農作のはたけ。参差：長短のふぞろいなさま。ここでは落花が相前後しながら舞っている状態を指しながら、男女の絡み合いを言う。曲陌：曲がりくねった小道。迢遞：の葉影で見えにくかったところが横からの光に照らし出される様子を言う。斜暉：夕日。斜めの光は奥の方まで照らす、木の葉影で見えにくかったところが横からの光に照らし出される様子を言う。腸斷：はらわたが断たれるほどの愁い、  
悲しみ。未忍掃：祓い去ることが出来ない。眼穿：穴のあくほど見つめる。芳心：やるせない思い。

(唐詩三百首)

★唐 李商隱

登樂遊原

樂遊原に登る

向晚意不適

晚くれに向なんんとして 意適いじつわず

驅車登古原

車かを驅りて 古原こげんに登る

夕陽無限好

夕陽せきよう 無限むげんに好し

只是近黄昏

只ただだ 是これ 黄昏こうこんに近し

【語釈】

樂遊原：長安の東南にある遊覧の地で、長安を眺め渡すことのできる名勝地。向  
晚：夕方、暮れ方。意：思い、気分不適：調子がわるい。只是：ただ…ではある  
が（しかし）。黄昏：たそがれ。

★唐 李昌符

旅遊傷春

旅遊 春を傷む

酒醒郷關遠

酒醒むれば郷關遠く

迢迢聽漏終

迢々 漏の終るを聴く

曙分林影外

曙は分かる 林影の外

春盡雨聲中

春は尽く 雨声の中

鳥倦江村路

鳥は倦む 江村の路

花殘野岸風

花は残す 野岸の風

十年成底事

十年 底事をか成し

羸馬厭西東

羸馬 西東を厭う

【語釈】

郷關：故郷。迢迢：はるかなさま。漏：漏刻、水時計。曙分：夜が明けてくること。殘：損なわれる。成：疑問詞、俗語。羸馬：弱った馬。厭：（多すぎて）厭になる。

（三体詩）

★唐 李涉 りしやう

題鶴林寺

鶴林寺に題す かくりんじ

終日昏昏醉夢間

秋日昏々たり 醉夢の間 こんこん すいむ

忽聞春盡強登山

忽ち春尽くるを聞き 強いて山に登る

因過竹院逢僧話

竹院に過ぎりて 僧話に逢うに因りて よ

又得浮生半日閑

又得たり 浮生半日の閑 かん

【語釈】

鶴林寺：旧名・竹林寺。現・江蘇省鎮江の黄鶴山にあった寺。昏昏：深く眠っているさま。醉夢：酒に酔い、眠って見る夢、必ずしも本当に酒を飲んで酔っているとは限らない。  
忽聞：急に…と聞き。にわか…と聞き。春盡：春が尽きようとしている。強：無理に。むりやりに。因…という原因のため。過…によぎると読む場合は訪れる。竹院：庭に竹を植えている書院。又…更に。閑…のんびり。

(三体詩)

★唐 李紳 りしん

憫農二首其二

農を憫れむ二首 其二

鋤田當日午

田を鋤きて 日は午に当る す

汗滴禾下土

汗は滴たる 禾下の土 したた かか

誰知盤中餐

誰か知らん 盤中の餐 ばんちゆう そん

粒粒皆辛苦

粒々皆辛苦なることを りゅうりゅう しんく

【語釈】

鋤：たがやす。禾…あわいね。午…正午。盤…大皿。殮…夕食。粒粒…一粒一粒。皆辛苦…すべてが苦勞の結晶である。  
(詩詞世界)

★唐 李適之

罷相作

相を罷めての作

避賢初罷相

初めて相を罷ぜらる

樂聖且銜杯

聖を楽しみ且つ杯を銜える

爲問門前客

爲に問う門前の客

今朝幾箇來

今朝幾箇か來たと

【語釈】

避賢：賢人のために、自分は出世の道筋を避ける。ここでは賢人を「濁酒」にたとえ、腹黒い陰謀を避けるという意味をひそませている。聖：聖人の道、裏に「清酒」という意味をひそませている。銜杯：杯を口にあてる、一杯やる。為：さて、ところで。門前客：訪問客。今朝：今日。けさではない。幾箇：何人、俗語。

(唐詩選)

★唐 李郢 りえい

江亭春霽

江亭の春霽 しゅんせい

江籬漠漠荇田田

こうり 江籬漠々 荇田々 ばくばく こう でんでん

江上雲亭霽景鮮

江上の雲亭 霽景 鮮かなり うんてい せいけい せいきい

蜀客帆檣背歸燕

蜀客の帆檣 帰燕に背き はんしやう きえん そむ

楚山花木怨啼鵑

楚山の花木 啼鵑を怨む ていけん

春風掩映千門柳

春風 掩映す 千門の柳 えんえい

曉色淒涼萬井煙

曉色 淒涼たり 万井の煙 きやうしよく せいりよう ばんせい

金磬冷冷水南寺

金磬 冷々たり 水南の寺 きんばん れいれい すいなん

上方僧室翠微連

上方の僧室 翠微連なる すいび

【語釈】

江籬…水草の名、おんなかなずら。漠漠…広大ではつきりしないさま。荇…水草の名、あぎさ。田田…水面に広がるさま。雲亭…雲を凌いで立つ亭。霽景…晴れた景色。蜀客…蜀の旅人。帆檣…帆柱。背…逆方向に行く。楚山…戦国時代の楚の地（洞庭湖周辺）の山。啼鵑…ホトトギスの鳴き声。掩映…（千門）を蔽って照り映える。曉色…夕暮れの景色。淒涼…冷ややかに侘しい。萬井…多くの家のあがる街。金磬…金属でつくった、への字型をした打楽器。翠微…山の緑。

（三体詩）

★唐 李郢

送劉谷

劉谷を送る

村橋西路雪初晴

村橋の西路 雪初めて晴れ

雲暖沙乾馬足輕

雲暖かに沙乾き 馬足軽ろし

寒澗渡頭芳草色

寒澗 渡頭 芳草の色

新梅嶺上鷓鴣聲

新梅 嶺上 鷓鴣の聲

郵亭已送征車發

郵亭 已に送る 征車の発するを

山館誰將候火迎

山館 誰か候火を將つて迎えん

落日千峰轉迢遰

落日 千峰 転た迢遰

知君回首望高城

知る 君が首を回して高城を望むを

【語釈】

劉谷…不祥。寒澗…さむざむとした谷川。渡頭…渡し場。芳草…かおりぐさ。郵亭…駅亭。征車…旅行く車。候火…たいまつ。轉…まします。迢遰…遙かなさま。

(三体詩)



★唐 李涉

重過文上人院

重ねて文上人の院に過ぎる

南隨越鳥北燕鴻

南は越鳥に従い北は燕鴻

松月三年別遠公

松月三年遠公に別る

無限心中不平事

限り無き心中不平の事

一宵清話又成空

一宵の清話又空と成る

【語釈】

越鳥：越（浙江省）の鳥、南の方の鳥。燕鴻：燕（河北省）の鴻（雁の大きな物）、北の方の鳥。松月：松の木にかかる月。遠公：慧遠（晋のとき、廬山にいた高僧）、ここでは文上人をなぞらえる。

（三体詩）

★唐 李涉

題開聖寺

開聖寺に題す

宿雨初收草木濃

宿雨初めて收まりて草木濃し

羣鴉飛散下堂鍾

羣鴉飛び散ず下堂の鍾

長廊無事僧歸院

長廊事無く僧は院に帰る

盡日門前獨看松

尽日門前に独り松を見る

【語釈】

開聖寺：未詳。宿雨：前日からの雨、連日の雨。草木濃：草木の緑が濃い。羣鴉：からすの群れ。下堂鐘：礼拝の終わりを告げる鐘。下堂：堂からおりること。長廊：長い廊下。無事院：僧の住むところ。盡日：終日。獨看松：松は、樹齡が長く葉の色を変えないので、節操・長寿の象徴とされる。高潔な人の代名詞。松を看ている者は、李涉であると解釈するものもあり。

（三体詩）

★唐 李頎

望秦川

秦川を望む

秦川朝望迴

秦川朝に望めば廻かなり

日出正東峰

日は正に東峰より出ず

遠近山河淨

遠近山河淨く

逶迤城闕重

逶迤として城闕重なる

秋聲萬戶竹

秋聲万戸の竹

寒色五陵松

寒色五陵の松

客有歸歎歎

客に帰らんかの歎き有り

悽其霜露濃

悽として霜露濃やかなり

【語釈】

秦川：長安一帯。正東：真東。逶迤：うねうねと曲がつて長く続くさま。  
城闕：城門、転じて宮殿。万戸：長安の家々を指す。秋聲：秋の気配。寒色  
：冬げしき。五陵：漢の高祖以下五帝の陵墓、長安の北郊にあった。客：旅  
人、作者自身を指す。歎：助辞、「か」と読む、多くは「興」（与）で代用する。  
悽其：寒風の形容。其は助辞。霜露：霜と露。

（唐詩選）

★唐 李頎

題盧五舊居

盧五の旧居に題す

物在人亡無見期

物在れども人亡くして見期無し

閒庭繫馬不勝愁

閒庭に馬を繫いで 愁いに勝えず

窗前綠竹生空地

窓前の綠竹 空地に生じ

門外青山如舊時

門外の青山 旧時の如し

悵望秋天鳴墜葉

悵望する秋天 墜葉鳴り

贊岢枯柳宿寒鷗

贊岢たる古柳 寒鷗宿る

憶君淚落東流水

君を憶えば淚落つ 東流の水

歲歲花開知爲誰

歲々花開くも 知んぬ誰が為ぞや

【語釈】

盧五：不詳、五は排行。舊居：元住んでいた家。物：器物。見期：会う機会。閒庭：静かな庭。空地：踏む人もない空地。青山：青々とした山。旧時：むかし。悵望：悲しみ嘆きつつ眺める。秋天：秋の空。墜葉：落葉。贊岢：高くこつこつした山、ここでは柳の枯木の高く立っている形容。枯柳：枯れた柳。寒鷗：こごえそうな姿をしたふくろう。東流水：東へ流れ去る水、死者が再び帰ってこないことを喩えている。歳歳：来る年ごと。知：「知んぬ」と読み、「いったい／＼かしら」の意味となる。

(Web 漢文大系)

★唐 陸龜蒙

江南

江南

村邊紫豆花垂次

村邊の紫豆花垂るる次

岸上紅梨葉戰初

岸上の紅梨葉戦ぐ初め

莫怪煙中重回首

怪しむなかれ煙中に重ねて首を回らすを

酒旗青紵一行書

酒旗の青紵一行の書

【語釈】

紫豆：紫色の大豆の花。紅梨：梨の一種、詳細不明。煙中：霞の中。青紵：青色の麻布、酒屋の旗。

(三体詩)

★唐 劉商

送王永二首其一

王永を送る二首其一

君去春山誰共遊

君去らば春山誰れと共にか遊ばん

鳥啼花落水空流

鳥啼き花落ちて水空く流れん

如今送別臨溪水

如今別れを送りて溪水に臨む

他日相思來水頭

他日相い思わば水頭に來たれ

【語釈】

王永：人名、不詳。空：むなしく。如今：ただいま。送別：旅立つ人を見送る。臨：面する。溪水：谷川の水。他日：後日。相思：思いを寄せる。水頭：川のほとり。

(三体詩)

★唐 劉商

春日臥病

春日病に臥す

楚客經年病

楚客年を経て病み

孤舟人事稀

孤舟人事稀なり

晚晴江柳變

晚晴江柳變じ

春暮塞鴻歸

春暮塞鴻歸る

今日方知命

今日方に命を知り

前年自覺非

前年自ら非を覺る

不能憂歲計

歲計を憂うる能わず

無限故山薇

無限なり故山の薇

【語釈】

楚客：楚の地方の旅人。孤舟：孤舟の如く一人きりのこと。人事：世の中のこと。晚晴：夕暮れの晴れた空。江柳：川べりの柳。塞鴻：塞北の鴻雁。歲計：年ごとの生計。薇：野草、伯夷叔齊の故事。

(三体詩)

★唐 劉方平 春怨

しゅんえん

紗窗日落漸黃昏

紗窓 日落ちて 漸く黃昏

金屋無人見淚痕

金屋 人無く 淚痕を見る

寂寞空庭春欲晚

寂寞たる空庭 春 晚れんと欲す

梨花滿地不開門

梨花 地に満ち 門を開かず

【語釈】

春怨：若い女性が春の気配に感じてもの思いにふけること。・紗窗：うすぎぬを張った窓。漸：だんだんと。黄昏：たそがれになる。金屋：黄金で飾った家。見：現（あらわ）す。涙痕：涙の流れたあと。寂寞：ひっそりとしたものさびしいさま。空庭：人けのないひっそりとした庭。春欲晚：（季節の／＼人生の）春は終わろうとしている。梨花：ナシの花。满地：地面いっぱい。不開門：門をかたく閉ざして、（もはや）春の興に関心がなく、楽しむというこはしない意。

（唐詩三百首）

★唐 劉方平

秋夜泛舟

秋夜舟を泛かぶ

林塘夜泛舟

林塘 夜舟を泛ぶ

蟲響荻颼颼

虫響きて 荻颼々たり

萬影皆因月

万影 皆月に因り

千聲各爲秋

千声 各 秋の爲なり

歲華空復晚

歲華 空しく復た晩る

鄉思不堪愁

郷思 愁いに堪えず

西北浮雲外

西北 浮雲の外

伊川何處流

伊川 何れの処にか流る

【語釈】

林塘：樹木に蔽われた池。颼颼：風にさやさやと音をたてるさま。萬影：全ての物の影。歲華：今年の良い景色。郷思：望郷の念。伊川：洛陽の南を流れる川、作者は洛陽の出身。

(三体詩)

★唐 劉滄 りゅうそう

咸陽懷古

かんようかいこ  
咸陽懷古

經過此地無窮事

此の地を經過すれば窮わまり無き事あり

一望淒然感廢興

一望淒然として廢興を感ず

渭水故都秦二世

渭水の故都 秦の二世

咸陽秋草漢諸陵

咸陽の秋草 漢の諸陵

天空絕塞聞邊鴈

天空くして絶塞に邊鴈を聞き

葉盡孤村見夜燈

葉尽きて 孤村に夜灯を見る

風景蒼蒼多少恨

風景は蒼々たり 多少の恨み

寒山半出白雲層

寒山半は出ず 白雲の層

【語釈】

一望：見渡す限り。淒然：さむざむしている、悲しみ痛む。廢興：興亡。絶塞：北方国境の寨。邊鴈：辺境から飛んでくる鴈の声。蒼蒼：此处では、蒼茫と同じで、荒涼としたさま。多少：多く。（三体詩・許渾作とす）



★唐 劉滄

りゅうそう

旅館書懷

旅館にて懷いを書す

忽看庭樹換風煙

たちま 忽ち看る 庭樹の風煙を換うるを

兄弟飄零寄海邊

ひょうれい 兄弟 飄零して海邊に寄る

客計倦行分陝路

客計 行に倦む 分陝の路

家貧休種汶陽田

や 家貧にして 種うるを休む 汶陽の田

雲低遠塞鳴寒鴈

た えんさい 雲低れて 遠塞 寒鴈鳴き

雨歇空山噪暮蟬

や 雨歇んで 空山 暮蟬噪ぐ

落葉蟲絲滿窗戶

ちゆうし 落葉 虫糸 窓戸に滿ち

秋堂獨坐思悠然

しゅうどう 秋堂に獨り坐せば 思い悠然

【語釈】

庭樹換風煙：庭の木のあたりの風ももやも（季節が変わって）すっかり変わってしまつた。飄零：漂泊と零落、おちぶれて彷徨うさま。客計：旅の計画。分陝：陝州、今の河南省陝県。汶陽：山東省寧陽県（作者の出身地？）。遠塞：遠くの寨。空山：葉の落ちた人気の無い山。窗戸：窓。悠然：遙かなさま、憂鬱な物思

こ。

（三体詩）

★唐 劉禹錫 烏衣巷

烏衣巷

朱雀橋邊野草花

朱雀橋邊 野草の花

烏衣巷口夕陽斜

烏衣巷口 夕陽斜めなり

舊時王謝堂前燕

旧時の王謝堂前の燕

飛入尋常百姓家

飛びて尋常百姓の家に入る

【語釈】

烏衣巷：金陵城（南京）の南側、秦淮区の白鷺洲公園のすぐ西側にある町内の名。  
朱雀橋：南京城の南にある秦淮河の上の浮橋の名。巷口：路地の入り口。舊時：  
過ぎ去った昔。王謝：王導や謝安を出した南朝の名族。堂前：大きい建物の前。  
尋常：普通の。百姓：庶民。

（唐詩三百首）

★唐 劉禹錫

雜曲歌辭 浪淘沙

雜曲歌辭 浪淘沙

鸚鵡洲頭浪颭沙

鸚鵡洲頭 浪沙を颭し

青樓春望日將斜

青樓の春望 日將に斜めならんとす

銜泥燕子爭歸舍

泥を銜む燕子は争いて舍に歸るも

獨自狂夫不憶家

獨自 狂夫のみ家を憶わず

【語釈】

雜曲歌辭：樂府題の詩の一つ、内容は雑然としており、志を描写するものや感情を発露するものであり、宴遊や歡樂、うらみや別離の情、行役や征戍の苦勞を詠ったものがある。浪淘沙：なみが砂を洗う。淘：物を水に入れて、揺らし動かして洗う。鸚鵡洲：武漢西南（武昌）の長江にある中洲。頭：ほどり。颭：風が物を動かす、波だてる。青樓：青く塗った華美なたかどの。春望：春の眺め。日將斜：日が傾こうとしている。燕子：ツバメ。舍：家、ここでは巢。獨自：自分ひとりだけで、自は、くだけでの意。狂夫：気の狂った男（作者）。

（唐詩選）

★唐 劉禹錫

金陵五題 石頭城

金陵五題 石頭城

山圍故國周遭在

山は故國を囲んで 周遭として在り

潮打空城寂寞回

潮は空城を打って 寂寞として回る

淮水東邊舊時月

淮水東邊 旧時の月

夜深還過女牆來

夜深くして 還た 女牆を過ぎて來たる

【語釈】

石頭城：金陵（南京）市街の西にある六朝の古都の城郭。故国：古都、六朝の古都・南京を指す。週遭：めぐる。空城：嘗ての首都、実態が無くなった寂しい首都。寂寞：回：めぐる、かえる。淮水：秦淮河のこと、金陵（南京）市街の南部、西部を回る川。女牆：ひめがき、城壁の上にある高い部分と低い部分のうち、低い部分をいう。

★唐 劉禹錫 元和十一年自朗州召至京戲贈看花諸君子

元和十一年朗州自召されて京に至り戯れに花を看る諸君子に贈る

紫陌紅塵拂面來

紫陌の紅塵一面を払いて來り

無人不道看花回

人の花を看て回ると道わざるは無し

玄都觀裏桃千樹

玄都觀裏桃千樹

盡是劉郎去後栽

尽く是れ劉郎去りて後に栽えたり

【語釈】

戲贈…ふざけて詩を作って贈る。紫陌…都の市街。紅塵…賑やかな街の埃、俗塵。  
玄都觀…道教寺院の名、長安の朱雀街にあった。劉郎…仙桃を味わった伝説上の人物劉晨と自分のことを掛けたもの。

(唐詩選) 曰く付きの詩。

★唐 劉禹錫

隄上行三首 其一

隄上行三首 其の一

酒旗相望大隄頭

酒旗相望む大隄の頭

隄下連檣堤上樓

隄下の連檣堤上の樓

日暮行人爭渡急

日暮れて行人渡るを争うこと急に

槳聲幽軋滿中流

槳声幽かに軋りて中流に滿つ

【語釈】

堤上行：堤の上の歌。酒旗：酒屋の看板の旗。相望：向き合う。また、見えてくる。連檣：連なつた帆柱。槳聲：櫂をこぐ音。行人：路を行く人。

(詩詞世界)

★唐 劉禹錫

西塞山懷古

西塞山懷古

西晉樓船下益州

西晉の樓船 益州より下り

金陵王氣黯然收

金陵の王氣 黯然として收まる

千尋鐵鎖沈江底

千尋の鉄鎖 江底に沈み

一片降旛出石頭

一片の降旛 石頭を出ず

人世幾回傷往事

人世幾回か 往事を傷み

山形依舊枕江流

山形旧に依り 江流に枕す

今逢四海爲家日

今 四海を家と爲す日に逢いて

故壘蕭蕭蘆荻秋

故壘 蕭々たり 蘆荻の秋

【語釈】

西塞山：湖北省武昌の東にあり長江に臨む。西晉：三国時代を統一した国。益州：四川省成都。金陵：南京。王氣：王者を出す兆しのある感じ、雰囲気。千尋：山などの非常に高いこと、谷などの非常に深いこと、ここでは長い意。降旛：降伏の合図の旗。石頭：金陵の西にある城。往事：昔の事、依舊：昔からのありさまで変わらない。四海：四方の海、ここでは天下。故壘：昔のとりで。蕭蕭：物寂しくわびしいさま。蘆荻：あしやおぎ。

(唐詩三百首)

★唐 劉禹錫

新秋對月寄樂天

新秋 月に対して樂天に寄す

月露發光彩

月露光彩を發し

此時方見秋

此の時方に秋を見る

夜涼金氣應

夜涼しくして金氣応じ

天靜火星流

天靜かにして火星流る

蛩響偏依井

蛩は響いて偏く井に依り

螢飛直過樓

螢は飛びて直ちに樓を過ぐ

相知盡白首

相知尽きて白首

清景復追遊

清景復た追遊す

【語釈】

樂天：白居易。月露：月夜の露。光彩：あでやかで美しい輝き。金氣：秋の気配。  
火星：火星、さそり座のアンタレス。蛩：コオロギ。相知：知り合い。白首：白  
髮の老人。清景：すみきってさわやかな景色。追遊：前に行ったことのある所へ  
もう一度旅行する。

(三体詩)



★唐 劉禹錫

秋風引

秋風引

何處秋風至

何れの処より 秋風至る

蕭蕭送雁群

蕭々として 雁群を送る

朝來入庭樹

朝来 庭樹に入る

孤客最先聞

孤客 最も先に聞く

【語釈】

秋風引：秋風の歌、引は楽府題の歌の意。蕭蕭：風がものさびしく吹くさま。  
雁群：雁の群れ。朝来：朝がたから、「来」は助辞、「くこのかた」「くから今ま  
で」の意を表す。孤客：孤独な旅人、作者自身を指す。

(唐詩選)

★唐 姚合 ようごう

送崔約下第歸揚州

崔約が下第して揚州に帰るを送る

滿座詩人吟送酒

滿座の詩人吟じて酒を送る

離城此會亦應稀

離城 此の会亦た応に稀なるべし

春風下第時稱屈

春風に下第して時に屈と稱し

秋卷呈親自束歸

秋卷 親に呈せんとして 自ら束ねて帰る

日晚山花當馬落

日晚て山花馬に当りて落ち

天陰水鳥傍船飛

天陰もりて水鳥船に傍いて飛ぶ

江邊道路多苔蘚

江辺の道路苔蘚多し

塵土無由得上衣

塵土衣に上るを得るに由無からん

【語釈】

崔約…不詳。下第…科挙に落第すること。揚州…江蘇省揚州市。時稱屈…(世の人は)不当さを取りざたする。秋卷…秋に取りまとめた作品。苔蘚…こけ。無由…てがかりがない。上衣…(舞い上がって)衣に着く。

(三体詩)

★唐 姚合

贈王尊師

王尊師に贈る

先生自說瀛洲路

先生 自ら説く瀛洲の路

多在青松白石間

多く青松 白石の間に在りと

海岸夜中常見日

海岸 夜中 常に日を見

仙宮深處却無山

仙宮 深き処 却つて山無し

犬隨鶴去遊諸洞

犬は 鶴に従いて去り 諸洞に遊び

龍作人來問大還

龍は 人と作りて来たりて 大還を問う

今日偶聞塵外事

今日 偶ま聞く塵外の事

朝簪未擲復何顔

朝簪 未だ擲たず 復た何の顔ぞ

【語釈】

王尊師：不詳。瀛洲：海中の仙山、三神山（蓬萊、方丈、瀛洲）のひとつ。仙宮：仙人の宮殿。大還：仙薬を作る方法の一つ。塵外：俗世間を離れた所。朝簪：官位を示す冠を止めるピン。

（三体詩）

★唐 姚合

遊春 其の一

遊春 其の一

塵中主印吏

塵中 印を主る吏

誰遣有高情

誰か 高情有ら遣むるや

趁暖簷前坐

暖を趁いて簷前に坐し

尋芳樹底行

芳を尋ねて樹底を行く

土融凝野色

土は融けて 野色凝り

冰敗滿池聲

氷は敗れて 池声満つ

漸覺春相泥

漸く覺ゆ 春相泥むことを

朝來睡不輕

朝來 睡輕からず

【語釈】

塵中…俗世間。趁…求める。簷前…のきさき。野色…野の景色。凝…形成する。  
漸…しだいしだいに。泥…まとわりつく↓定着する。

(三体詩)

★唐 姚合

送別友人

友人に送別す

獨向山中覓紫芝

獨り山中に向いて紫芝を覓む

山人勾引住多時

山人勾引して住むこと多時なり

摘花浸酒春愁盡

花を摘み酒に浸せば春愁尽き

燒竹煎茶夜臥遲

竹を燒き茶を煎ずれば夜臥遅し

泉落林梢多碎滴

泉は林梢より落ちて碎滴多く

松生石底足旁枝

松は石底に生じて旁枝足れり

明朝却欲歸城市

明朝却つて城市に帰らんと欲す

問我來期總不知

我に來期を問えども総て知らず

【語釈】

紫芝：ひじりだけ、茸の一種。山人：山中の隱者。勾引：引き留める。夜臥遲：（語り合つて）夜寝るのが遅い。林梢：林の梢。碎滴：碎けた滴、しぶき。旁枝：脇から出た枝。却：それにもかかわらず。

（三体詩）

★唐 姚合

遊春

春に遊ぶ

官卑長少事

官は卑しくして長に事少く

縣僻又無城

県は僻にして又城無し

未曉衝寒起

未だ曉ならざるに寒を衝きて起き

迎春忍病行

春を迎えて病を忍びて行く

樹枝風掉軟

樹枝風は掉れて軟かく

菜甲土浮輕

菜甲土に浮んで輕ろし

最好林間鵲

最も好し林間の鵲の

今朝足喜聲

今朝 喜声足るは

【語釈】

僻…辺鄙。掉…震える、揺れる。菜甲…草や蔬菜の芽。足…多い。

(三体詩)

★唐 姚倫

感秋林

秋林に感ず  
しゅうりん

試向疎林望

試みに疎林そりんに向いて望めば

方知節候殊

方まよに知る節候せつこうの殊ことなるを

亂聲千葉下

乱声くた千葉下り

寒影一巢孤

寒影一巢孤なり

不蔽秋天雁

秋天の雁を蔽おおわず

驚飛夜月鳥

夜月の鳥を驚飛せしむ

霜風與春日

霜風と春日と

幾度遣榮枯

幾度いくたびか榮枯やを遣る

【語釈】

疎林…落葉した疎らかな林。節候…時節。殊…変わる。驚飛…目覚めて飛ぶ。遣…過ぐす。

607

(三体詩)

★唐 姚掇

穎川客舍

えいせん  
穎川の客舍

素琴孤劍尚閑遊

そきん こけん  
素琴 孤劍 尚 閑遊す

誰共芳尊話唱酬

たんとほうそん  
誰と芳尊を共にし話して唱酬せん

鄉夢有時生枕上

きょうむ  
郷夢 時有りて 枕上に生じ

客情終日在眉頭

かくじょう  
客情 終日 眉頭に在り

雲拖雨脚連天去

雲は雨脚の天に連つて去るを拖き

樹夾河聲繞郡流

樹は河聲の郡を繞りて流るを夾む

回首帝京歸未得

首を帝京に回らせば未だ歸るを得ず

不堪吟倚夕陽樓

吟じて夕陽の樓に倚るに堪えず

【語釈】

素琴：飾りのない琴。閑遊：あてどな旅。芳尊：良い酒。唱酬：詩を互いに贈答する。郷夢：故郷の夢。客情：旅の愁いの情。眉頭：眉の上。拖：伴う。

(二体詩)



★唐 姚揆

村行

村行そんこう

天淡雨初晴

天淡くして 雨初めて晴る

遊人恨不勝

遊人 恨み勝えず

亂山啼蜀魄

乱山 蜀魄啼き

孤棹宿巴陵

孤棹 巴陵に宿す

影暗村橋柳

影は暗し 村橋の柳

光寒水寺燈

光は寒し 水寺の灯

罷吟思故國

吟ずるを罷め 故国を思えば

窗外有漁罾

窓外 漁罾有り

【語釈】

遊人：旅人。蜀魄：ホトトギス。孤棹：孤舟。巴陵：湖南省岳陽県。漁罾：しかけ網。

(三体詩)

★唐 杜荀鶴 としゆんかく

旅舎遇雨

旅舎にて雨に遇う りよしや あ

月華星綵坐來收

げつかせいさいざらい 月華星彩 坐來收まる

嶽色江聲暗結愁

がしよくこうせいあん 岳色江声 暗に愁を結ぶ

半夜燈前十年事

半夜灯前 十年の事

一時和雨到心頭

一時に雨に和して 心頭に到る

【語釈】

旅懷：旅中のおもい。月華：月明かり。星彩：星々のきらめき。坐來収：次第にうすれていく。坐來は、いながらにして。次第に。嶽色：山の色。江聲：川の流れる音。半夜：夜中。夜半に同じ。和雨：雨音にあわせて。和は、調子を合わせ、まぜ合わせるの意。心頭：こころ。心中に同じ。

(三体詩)

★唐 杜荀鶴

春宮怨

しゅんきゆうえん

早被嬋娟誤

早く嬋娟に誤まれ

欲妝臨鏡慵

妝わんと欲して鏡に臨むに慵うし

承恩不在貌

恩を承くるは貌に在らず

教妾若爲容

妾をして若為んぞ容くら教めたる

風暖鳥聲碎

風暖くして 鳥声碎け

日高花影重

日高くして 花影重し

年年越溪女

年々 越溪の女

相憶採芙蓉

相憶いて芙蓉を採る

【語釈】

春宮怨…嬋娟誤…美貌の故に身を誤った。承恩…君の寵愛を受ける。不在貌…要望だけではない。若爲…どうして。鳥聲碎…鳥の鳴き声が入り交じって聞こえること。越溪女…西施の故事。

(唐詩三百首)

★唐 唐彦謙 とうげんけん

長溪秋思

長溪の秋思 ちやうけいしゅうし

柳短莎長溪水流

柳は短く 莎は長じて溪水 流る

雨微煙暝立溪頭

雨は微かに煙は暝くして溪頭に立つ

寒鴉閃閃前山去

寒鴉 閃々として前山に去る

杜曲黄昏獨自愁

杜曲の黄昏 獨自愁う

【語釈】

長溪：長安の南西、杜曲を流れる川。秋思：秋のものの思い。莎：はますげ。溪水：谷川の水。溪頭：谷川のほとり。寒鴉：さむぎむとした鳥。閃閃：うごめてひらめくさま、きらきら、ひらひら。前山：前方の山。杜曲：西安市長安区東少陵原の東南端。黄昏：たそがれ。獨自：「どくじ」と読み、ひとりのこと。

(三体詩)

★唐 任翻 にんほん

秋晚郊居

秋晚の郊居 しゅうばんのきょうき

遠聲霜後樹

遠聲 霜後の樹 えんせい せつごのじゆ

秋色水邊村

秋色 水辺の村

野徑無來客

野徑 客の來る無く かく きた

寒風自動門

寒風 自ら門を動かす おのずか

海山藏日影

海山 日影を藏し にちえい ぞうし

江石落潮痕

江石 落潮の痕 えんくちよう あと

惆悵高飛晚

惆悵す 高飛すること晩く ちゆうちよう こうひ おそ

年年別故園

年々 故園に別るるを

【語釈】

秋晚：秋の終わりのころ。郊居：郊外の住居。遠聲：遠くから聞こえる落ち葉の音。  
秋色：秋景色。野徑：野径。海山：海上の山。藏日影：沈む日を納める。江石：  
川辺の石。落潮痕：潮が引いていった痕。惆悵：悲しみ嘆く。高飛：天下に飛揚  
する。故園：故郷。

(三体詩)

★唐 馬戴 ばたい

灞上秋居

灞上の秋居 はじょう

灞原風雨定

灞原 はげん 風雨定まり

晚見鴈行頻

晩に くれ 鴈行 がんこう 頻りなるを見る

落葉他鄉樹

落葉 他郷の樹

寒燈獨夜人

寒灯 独夜の人

空園白露滴

空園 白露 した 滴たり

孤壁野僧隣

孤壁 野僧 しやう 隣す

寄臥郊扉久

郊扉に寄臥すること久しく

何年致此身

何れの年にか此の身を致さん

【語釈】

灞上：灞水（陝西省藍田県に源を発し、最終的に渭水に注ぐ川）のほとり。灞原  
…灞水のほとりの原野。鴈行：雁の行列。獨夜人：独りで夜を過ごしている人  
（作者）。空園：人気のない園。孤壁：ただ一つの垣。野僧：田舎の僧。寄臥  
…身を寄せて隠れ住む。郊扉：田舎の家。致此身：身を君国に捧げる。

（唐詩三百首）

★唐 馬戴

楚江懷古

楚江懷古

露氣寒光集

露氣 寒光集まり

微陽下楚丘

微陽 楚丘そきゆうに下る

猿啼樹洞庭

猿は啼く洞庭の樹

人在木蘭舟

人は在り木蘭の舟

廣澤生明月

広沢 明月生じ

蒼山夾亂流

蒼山 乱流らんりゅう夾む

雲中君不見

雲中 君は見えず

竟夕自悲秋

竟夕 自ら秋を悲しむ

【語釈】

楚江：長江のうち、湖北省南部と洞庭湖を挟む一帯を流れる部分。露氣：秋の露を含んだ大気。寒光：寒々とした光。微陽：かすかな光となった夕日。楚丘：楚の国の山並み。洞庭：洞庭湖。人：作者。蘭舟：舟の美称。廣澤：広い湿地帯。蒼山：（日暮れの）青い山々。

（唐詩三百首）

★唐 馬戴

送人歸蜀

人の蜀に帰るを送る

別離楊柳陌

別離 楊柳の陌はく

迢遰蜀門行

迢遰ちようていたり 蜀門しよくもんの行

若聽清猿後

若もし清猿せいえんを聴きての後ならば

應多白髮生

応まよに白髮はくはつの生ずること多かるべし

虹霓侵棧道

虹霓こうげい 棧道せんどうを侵おかし

風雨雜江聲

風雨 江聲かぜを雜まじう

過盡愁人處

人を愁えしむる処ところを過ぎ尽つくせば

煙花是錦城

煙花 是れ 錦城きんじやう

【語釈】

陌…街路。迢遰…遙かに遠い。蜀門…蜀への径には山が重なり門のようである。  
清猿…清い猿の声。虹霓…虹。棧道…崖に穴を空けて木を差し込んでその上に架  
けた道。愁人處…山峡の猿の鳴き声とする所。煙花…花霞。錦城…錦官城（成都）。  
（三体詩）



★唐 溫庭筠 おんていじん

利州南渡

利州の南渡 りしゅう なんと

澹然空水對斜暉

澹然たる空水 斜暉に對し たんぜん くらみず せいかい

曲島蒼茫接翠微

曲島蒼茫として 翠微に接す まげとう そうぼう すいび

波上馬嘶看權去

波上馬嘶いて 權の去るを看 はじょう いなな かい

柳邊人歇待船歸

柳邊人歇いて 船を待ちて歸る りゅうへん いこ

數叢沙草羣鷗散

數叢の沙草 群鷗散り すうそう さそう ぐんおう

萬頃江田一鷺飛

萬頃の江田 一鷺飛ぶ ばんけい こうでん いちろ

誰解乘舟尋范蠡

誰か解せん 舟に乗じて 范蠡を尋ね

五湖煙水獨忘機

五湖の煙水に 独り機を忘るるを

【語釈】

利州：四川省広元県。澹然：静かな様。斜暉：夕日。曲島：曲がりくねった島。  
蒼茫：青々として広い様。翠微：山の中腹。波上：川のほとり。權：手こぎ船。  
數叢：水辺のあちこちのくさむら。沙草：砂と草。萬頃：ひろびろとした。江田  
：川辺の田。范蠡：故事在り。五湖：江南地方の五つの湖。煙水：霞の立つ水面。  
忘機：世俗的な利益を忘れること。

(唐詩三百首)

★唐 温庭筠

送人東遊

人の東遊するを送る

荒戍落黄葉

荒戍 黄葉落ち

浩然離故關

浩然として 故關を離る

高風漢陽渡

高風 漢陽渡

初日郢門山

初日 郢門山

江上幾人在

江上 幾人が在る

天涯孤櫂還

天涯 孤櫂還える

何當重相見

何か 当に重ねて 相い見るべし

尊酒慰離顏

尊酒 離顏を慰さむ

【語釈】

荒戍：荒城、荒れた街。浩然：意を決して。故關：郷関、ふるさと。漢陽渡：漢陽（武漢市の一部）の渡し場。初日：朝日。郢門山：湖北省江陵县付近の山。天涯：空の果て。孤櫂：一つの櫂に酔ってこぐ船。尊酒：酒樽に入った酒。離顏：別れの愁いに曇る顔。

（唐詩三百首）

★唐 温庭筠

商山早行

しょうざんぞうこう

晨起動征鐸

しんき せいたく

客行悲故郷

かくこう せいのきょう

雞聲茅店月

けいせい ちてん

人迹板橋霜

じんせき はんきょう

槲葉落山路

かいよう 山路に落ち

枳花明驛牆

きか 驛牆に明きらかなり

因思杜陵夢

よ 因りて思う 杜陵の夢

鳧雁滿迴塘

ふがん 迴塘に滿つ

【語釈】

商山：山の名。陝西省商県の東南にある、漢代の初めに、四人の隠士が乱を避けて隠れ住んだことで有名、四人とも鬚ひげや眉が皓白の老人であったので、「商山の四皓」と呼ばれた。早行：早朝に旅立つこと。晨起：朝早く起きる。征鐸：旅の車の鈴。動：あるいは鈴を鳴らしつつ車を進めること。客行：故郷を離れ、旅路にあること。茅店：茅かや葺ぶき屋根の粗末な宿屋。人迹：人の足あと。板橋：木の板を渡しただけの粗末な橋。槲葉：かしの葉。枳花：からたちの花。驛牆：駅舎の土塀。因思：そこでふと思い起こされる。杜陵：長安城の東南の郊外にある高台、当時有名な行楽地であった。鳧雁：野鴨と雁。迴塘：回るように湾曲した池、曲江を指すと思われる。

(唐詩三百首)

★唐 高蟾 こうたん

春其二

春 其の二

明月斷魂清靄靄

明月 断魂 清くして靄々たり

平蕪歸路綠迢迢

平蕪 帰路 緑にして迢々たり

人生莫遺頭如雪

人生 頭を雪の如からしむ莫かれ

縱得春風亦不消

縦い 春風を得るとも亦た消せじ

【語釈】

斷魂：非常に悲痛である。靄靄：おぼろげなさま。平蕪：平らな草原。迢迢：高いさま、遙かなさま。

(三体詩)

★唐 高蟾

金陵晚眺

きんりょう ばんちやう  
金陵の晚眺

曾伴浮雲歸晚色

曾て 浮雲の 晩色に帰するに伴ない

猶陪落日汎秋聲

猶お 落日の 秋声を泛ぶに陪す

世間無限丹青手

世間 限り無き丹青の手

一段傷心畫不成

一段の傷心 画くとも成らず

【語釈】

金陵：南京。晚眺：夕暮れの眺め。晩色：夕方の眺め、夕靄。伴：傍にいる、実際にながめる。秋聲：秋の気配を感じさせる音。陪：傍にいる、実際にながめる。丹青：絵。傷心：胸を痛める気持。一段：一片

(三体詩)

★唐 高駢

山亭夏日

山亭の夏日

綠樹陰濃夏日長

綠樹陰濃にして夏日長し

樓臺倒影入池塘

樓台影を倒しにして池塘に入る

水精簾動微風起

水精の簾動いて微風起り

一架薔薇滿院香

一架の薔薇滿院香し

【語釈】

山亭：山の別荘。夏日：夏の一日。綠樹：緑なす木々。陰濃：地面に濃い影を落としている。夏日長：夏の一日がなかなか暮れない。樓台：高殿たかどの。二階建て以上の建物。倒影：その姿が水面にさかさまに映っていること。池塘：池。水精：水晶のこと。簾：すだれ。微風：そよ風。一架：棚いっぱいの。薔薇：バラ。滿院：中庭いっぱいに。  
(唐詩選)

★唐 鄭谷

淮上与友人別

淮上にて友人と別る

揚子江頭楊柳春

揚子江頭楊柳の春

楊花愁殺渡江人

楊花愁殺す江を渡る人

數声風笛離亭晚

數声の風笛離亭の晩

君向瀟湘我向秦

君は瀟湘に向かい我れは秦に向かう

【語釈】

淮上：淮水(現・淮河)華中を流れる河のほとり。楊柳：柳の総称。楊花：柳絮。柳の花が咲いた後、白い綿毛のある種子が散るさま。愁殺：ひどく愁えさせる。風笛：風に散る笛の声。離亭：送別の宴を張る亭。瀟湘：遙か南方の地湖南省。秦：長安などのある陝西省の別称。

(詩詞世界)

★唐 鄭谷

慈恩寺遇題

慈恩寺に遇ま題す

往事悠悠成浩歎

往事 悠々として 浩歎を成す

浮生擾擾竟何能

浮生 擾々として 竟に何をか能くせん

故山歲晚不歸去

故山 歳晚れて 帰りに去らず

高塔晴來獨自登

高塔 晴來たりて 独自登る

林下聽經秋苑鹿

林下 經を聽く 秋苑の鹿

江邊掃葉夕陽僧

江邊 葉を掃く 夕陽の僧

吟餘卻起雙峯念

吟余 卻つて起こす 双峯の念

曾看庵西瀑布冰

曾て看る 庵西 瀑布の氷

【語釈】

○慈恩：慈恩寺。長安にある玄奘三蔵ゆかりの名刹。○往事：過ぎ去った昔。○悠悠：のんびり、ゆったりしたさま。○浩歎：大きなため息。○浮生：はかない浮き世。○擾擾：こたごたしているさま。○竟何能：反語、なにもできない。○故山：故郷の山、故郷。○高塔：慈恩寺の大雁塔。○獨自：独り。一字でこう読む場合もある。○雙峯：広東省曲江県の雙峯寺。○菴西瀑布：雙峯寺の西にある滝。  
(二体詩)

「江邊掃葉夕陽僧。」は茶席の禅語

★唐 鄭谷

中年

中年

漠漠秦雲淡淡天

漠々たる秦雲 淡淡たる天

新年景象入中年

新年の景象 中年に入る

情多最恨花無語

情多くして 最も恨む 花に語無きを

愁破方知酒有權

愁は破れて 方に知る 酒に權有るを

苔色滿牆思故第

苔色 牆に滿ち 故第を思ふ

雨聲入夜憶春田

雨声 夜に入つて 春田を憶う

衰遲自喜添詩學

衰遲 自喜ぶ 詩学を添うるを

更把前題改數聯

更に前題を把りて 數聯を改む

【語釈】

中年：五十歳。漠漠：果てしなく広がるさま。秦雲：長安方面にかかる雲。淡淡：うっすらとしたさま。情：物に感ずる感受性。無語：言葉を理解しない。方：やつと、始めて。權：うわべだけの力。故第：元の屋敷。春田：春になって耕作に取りかかること。衰遲：何もし得ないまま老衰してしまうこと。前題：前に作った詩。

(三体詩)

★唐 杜秋娘（無名氏）

金縷衣

金縷の衣

勸君莫惜金縷衣

君に勸む惜しむ莫れ金縷の衣

勸君須惜少年時

君に勸む須らく惜しむべし少年の時

花開堪折直須折

花開きて折るに堪えなば直ちに須く折るべく

莫待無花空折枝

花無きを待ちて空しく枝を折ること莫れ

【語釈】

金縷衣：金糸で縫い取りをした立派な着物、富貴な生活。杜秋娘：唐代・金陵の歌妓。少年時：若いとき。堪折：折る値打ちがある。堪：～できる。直：ただちに。莫：（～する）な。空：無意味に～する。

（唐詩三百首）

★唐 蔡希寂

洛陽客舍逢祖詠留宴

客舍にて祖詠に逢いて留宴す

綿綿鐘漏洛陽城

綿々たる鐘漏 洛陽城

客舍貧居絶送迎

客舍 貧居 送迎絶ゆ

逢君貰酒因成醉

君に逢いて酒を貰りて因りて酔を成さん

醉後焉知世上情

酔後 焉んぞ知らん 世上の情を

【語釈】

客舍：旅館。祖詠：唐代の詩人。留宴：引きとどめて宴会をする。綿綿：長々と続いて絶えないさま。鐘漏：時を知らせるかねと水時計。貧居：貧しいすまい。絶送迎：人との付きあいが絶えて無くなったこと。貰：掛け買いをする。成酔：よっぱらう。焉：どうして、いづくんぞ、疑問や反語を表す。世上：世の中、世間。情：心、有様。

（唐詩選）



★唐 薛業

洪州客舍寄柳博士芳

洪州の客舎にて柳博士芳に寄す

去年燕巢主人屋

去年燕は巢くう 主人の屋

今年花發路傍枝

今年花は発らく 路傍の枝

年年爲客不到舍

年々客と為り 舎に到らず

舊國存亡那得知

旧国の存亡 那んぞ知り得ん

胡塵一起亂天下

胡塵一たび起りて 天下を乱しより

何處春風無別離

何れの処か 春風別離無からん

【語釈】

洪州：江西省南昌。客舎：旅館。柳博士芳：国子博士、すなわち国立大学の教授・柳芳のこと。主人：作者が寄寓する宿のあるじ。舎：故郷の家。旧国：郷里。胡塵：夷狄の戦塵、ここでは安祿山の乱を指す。

(唐詩選)

★唐 薛能 せつねう

老圃堂

老圃堂 ろうぼどう

邵平瓜地接吾廬

邵平が瓜地 吾が廬に接す

穀雨乾時偶自鋤

穀雨 乾く時 偶また自ら鋤く

昨日春風欺不在

昨日 春風 不在を欺き

就床吹落讀殘書

床に就きて 吹き落とす 読残の書

【語釈】

老圃堂：作者の書齋の名。老圃は、畑作りによくなれた農夫のこと。老農に同じ。  
邵平瓜地：邵平の瓜畑。邵平の故事あり。接吾廬：廬は、家。穀雨：二十四節気のひとつで、穀物を育てる雨の意。偶自鋤：鋤は、田畑を耕すこと。就床吹落：床に置いていた書物が吹き落とされた。讀殘書：読みかけの書物。  
(三体詩)

★唐 薛能

吳姬十首 其十

吳姬十首 其の十

自是三千第一名

自らはれ三千 第一の名

内家叢裏獨分明

内家叢裏 独り分明

芙蓉殿上中元日

芙蓉殿上 中元の日

水拍銀臺弄化生

水 銀臺を拍って 化生を弄す

【語釈】

吳姬：吳地方（現在の江蘇省一帯）には美女が多いとされる。三千：宮女の数。  
第一名：一番の美女。内家叢裏：内家は、後宮のこと、叢は、むらがる。分明：目立つの意。芙蓉殿：長安の東南、曲江の畔にあった離宮。中元日：陰曆七月十五日。化生：蠟を以て嬰兒を作り、水に浮かべる遊び。

(三体詩)

★唐 薛能 せつねい

漢南春望

かんなん  
漢南の春望

獨尋春色上高臺

独り春色を尋ねて 高台に上る

三月皇州駕未迴

三月 皇州 こうしゅう 駕 が 未だ迴らず かえ

幾處松筠燒後死

幾処の松筠 燒後に死し

誰家桃李亂中開

誰が家の桃李ぞ乱中に開く

姦邪用法元非法

かんじや 姦邪 法を用う 元法に非らず あら

唱和求才不是纔

唱和して 才を求む 是れ才ならず

自古浮雲蔽白日

いにしえ 古より浮雲 白日を蔽う おほ

洗天風雨幾時來

天を洗う風雨 幾時 いくとき 來らん きた

【語釈】

○漢南：漢水の南、湖北省江陵のあたり。○皇州：都、長安。○駕：天子の車駕。○松筠：松と竹。○乱中：黄巢の乱。○姦邪：邪悪な人間。○浮雲：奸臣。○白日：天子。○洗天風雨：周の武王が殷の紂王を撃つときに雨が降り、太公望が「洗兵雨」と言った。

(三体詩)

★唐 薛瑩 せつほう

秋日湖上

秋日の湖上

落日五湖遊

落日 五湖に遊び

煙波處處愁

煙波 処々に愁う

沈浮千古事

沈浮 千古の事

誰與問東流

誰と与にか東流に問わん

【語釈】

落日…日が沈む頃。五湖…湖南省にある洞庭湖とする説と、江蘇省南部にある太湖とする説とに分かれる。煙波…夕もやの立ち込めた水面。愁…私の心を憂えさせる。浮沈…人の世の浮き沈み。

(唐詩選)

★唐 袁枚 えんばい

春日雜詩其一

春日雜詩其一

千枝紅雨萬重烟

千枝の紅雨 万重の煙

畫出詩人得意天

画き出だす 詩人得意の天

山上春雲如我懶

山上の春雲 我が懶の如く

日高猶宿翠微巔

日高くして 猶お宿す 翠微の巔

【語釈】

春日…春ののどかな日。または、春の日差し。雜詩…感じたことを自由に詠んだ詩。千枝…多くの木の枝。紅雨…赤い花びらの散る形容。万重…幾重にも重なり、たなびいている。煙…春霞。得意天…(詩人の)心情になつた好景。懶…ここでは惰眠を貪って物憂い気分。日高…日は高く昇っているのに。猶…相変わらず。それでもまだ。

宿…宿って動かない。翠微…山の八合目あたり、薄緑色にかすんで見える。巔…山の頂上。

(漢詩大系22)

★唐 趙嘏 ちやうか

靈巖寺

靈巖寺（一作白居易詩）  
れいげんじ

館娃宮伴千年寺

かんわきゆうはん 千年の寺

水閣雲多客到稀

ひろ 水閣く雲多く客の到ること稀なり

聞説春來倍惆悵

きくならく 聞説 春來たりて倍ます惆悵すと

百花深處一僧歸

百花深き処 一僧歸る

【語釈】

靈巖寺：江蘇省蘇州のすぐ南、呉県の西南にある寺。館娃宮：呉王夫差の宮殿、美人西施のために建てた。聞説：聞くことには。惆悵：うらみなげくさま。

（三体詩）

★唐 趙嘏

江樓書感

江樓にて感を書す  
jianglou

獨上江樓思渺然

独り江樓に上れば思ひ渺然たり

月光如水水連天

月光是水の如く水は天に連なる

同來翫月人何處

同に來たりて月を翫びし人は何れの処ぞ

風景依稀似去年

風景は依稀として 去年に似たり

【語釈】

江樓：川辺の高樓。渺然：果てしなく広がる。果てしないさま。如水：水のように冴えわたる。水連天：川の水は大空まで続いている。翫月：月を眺めて楽しむこと。依稀：はっきりしないがくだ。

（唐詩選）

★唐 錢起

帰雁

きがん

瀟湘何事等閑回

瀟湘より何事ぞ等閑に回える

水碧沙明兩岸苔

水は碧に沙は明らかにして 兩岸苔むす

二十五絃彈夜月

二十五絃 夜月に弾ずまれば

不勝清怨却飛來

清怨に勝えずして 却飛し來たる

【語釈】

瀟湘：瀟水と湘江。洞庭湖に南から流れこむ二つの川の名、ここでは、この二つの川の流域一帯を指す。何事：どういいうわけで。等閑：心にかけない。水碧：水は青く澄んで。沙明：砂は白く輝いて。兩岸苔：両方の岸にはみずみずしい苔が生じている。二十五絃：二十五弦の瑟（おおごと）。清怨：清らかで哀怨な調べ。清く哀れな音。不勝：堪えきれず。却飛來：南方の瀟湘から北方へ飛び帰ること。「來」は助辞、意味はない。

（唐詩選）

★唐 錢起

秋夜同梁鎰文宴

秋夜梁鎰文と同に宴す

客到衡門下

客は到る 衡門の下

杯香蕙草時

杯は香る 蕙草の時

好風能自至

好風能く自ら至り

明月不須期

明月期すを須いず

秋水翻荷影

秋水 荷影を翻えし

晴霜脆柳枝

晴霜 柳枝を脆にす

微官是何物

微官 是れ何物ぞ

許可廢吟詩

許で詩を吟ずるを廢す可けんや

【語釈】

梁鎰：不詳、天宝年間の人。衡門：上に横木を渡したただけの粗末な門、冠木門。  
蕙草：香草の一種。不須期：期待しないでも自然に登ってくる。荷影：蓮の葉。  
脆：脆弱。是何物：反語、軽んずる意味。許可：反語、どうしてらしようか。

(三体詩)

★唐 錢起

石門春暮

石門の春暮

自笑鄙夫多野性

自ら笑う鄙夫の野性多きを

貧居數畝半臨湍

貧居數畝半ば湍に臨む

谿雲雜雨來茅屋

谿雲雨を雜えて茅屋に來り

山雀將雛傍藥欄

山雀雛を將つて藥欄に傍う

仙籙滿床閑不厭

仙籙床に満ちて閑にして厭かず

陰符在篋老羞看

陰符篋に在りて老いて看るを羞はず

更憐童子宜春服

更に憐れむ童子の春服に宜しく

花裏尋師到杏壇

花裏に師を尋ねて杏壇に到るを

【語釈】

石門：山東省臨邑県にあると思われるが、不詳。鄙夫：おろかで卑しい人。野性：性情の野暮なこと、世間の慣習や礼儀作法になじまないこと。湍：早瀬。谿雲：谿からわき上がる雲。藥欄：薬草畑の作の柵。仙籙：仙道の書。陰符：陰符経、のことで転じて兵法の書を言う。杏壇：師の教壇。

(三体詩)



★唐 錢起

谷口書齋寄楊補闕

谷口の書齋にて楊補闕に寄す

泉壑帶茅茨

泉壑せんかく茅茨ぼうしを帯び

雲霞生薜帷

雲霞うんか薜帷へいゐに生ず

竹憐新雨後

竹は憐あわれむ新雨の後

山愛夕陽時

山は愛す夕陽の時

閑鷺棲常早

閑鷺かんろ棲むこと常に早く

秋花落更遲

秋花落つること更に遅し

家童掃蘿逕

家童かどう蘿逕らけいを掃う

昨與故人期

昨 故人と期す

【語釈】

谷口：谷の水が山を出る所。楊補闕：不詳、補闕は官名、天子に供奉して諷諫をつかさどる。泉壑帶茅茨 帶は連帶の意。茅ぶきの家が谷間にある、との意、茅茨はかやぶき屋根の簡素な家。薜帷：つた、かずらで編んだ帳。閑鷺：閑な白鷺。栖：ねぐらにつく。蘿逕：蔓草の生い茂った道。

(唐詩三百首)

★唐 錢起

贈闕下裴舍人

闕下裴舍人に贈る

二月黄鸝飛上林

二月 黄鸝 上林に飛び

春城紫禁曉陰陰

春城 紫禁 曉に陰々たり

長樂鐘聲花外盡

長樂の鐘声 花外に尽き

龍池柳色雨中深

龍池の柳色 雨中に深し

陽和不散窮途恨

陽和も散ぜず 窮途の恨み

霄漢長懸捧日心

霄漢 長に懸ぐ 捧日の心

獻賦十年猶未遇

賦を獻じて十年 猶未だ逢わず

羞將白髮對華簪

羞ずらくは白髪を將つて華簪に對するを

【語釈】

闕下：は宮殿の門の下。裴：人物については不明。舍人：中書舍人。黄鸝：高麗うぐいす。上林：漢代の御苑、上林苑のこと。春城：春の宮城。紫禁：天子の宮殿。陰陰：うす暗く、ひっそりしている様子。長樂：漢代の宮殿の名、長樂宮。鐘声：鐘の音。花外：花の彼方。龍池：興慶宮内にあった池の名。柳色：青々とした柳の色。陽和：のどかな春の気。窮途：仕官をするところがなく、行き詰まった境遇。霄漢：大空。朝廷に喩える。捧日心：天子への忠誠心。獻賦：天子に賦を作つて献ずること。十年：長い間。未遇：不遇なこと。羞：恥ずかしい。華簪：華やかなかんざし、地位の高い人、ここでは裴舍人を指す。

『唐詩選』

★唐 雍陶 ようつたう

西歸出斜谷

西歸して斜谷を出ず せいきししやくくを出

行過險棧出褒斜

險棧 けんさん を行き過ぎて 褒斜 ほうや を出ず

出盡平川似到家

平川を出で尽くせば 家に到るに似たり

萬里客愁今日散

万里 ばんり の客愁 かくしゆう 今日散 こんにちり ず

馬頭初見米囊花

馬頭 ばとう 初めて見る 米囊 べいのかう の花

【語釈】

西歸…西の故郷、西都に帰る。斜谷…褒斜谷。險棧…険しい棧橋。平川…平らな河原。客愁…旅の愁い。馬頭…馬の上。米囊花…芥子の花、蜀に多い。

(三体詩)

★唐 雍陶

過南鄰花園

南鄰 なんりん の花園 かえん に過ぎる よ

莫怪頻過有酒家

怪しむ莫かれ 頻りに酒有る家に過ぎるを

多情長是惜年華

多情 たつね は長 なが に是れ 年華 ねんか を惜しむ

春風堪賞還堪恨

春風は賞するに堪え 還 ま た恨むに堪えたり

纔見開花又落花

纔 むづか かに開花 ひらく を見しに 又落花 またはな

【語釈】

過…「を過ぎる」と読むときは「通過する」、「に過ぎる」と読むときは「訪れる」。  
是…助辞、動詞の前に置かれて強調する。年華…歲月。

(三体詩)

★唐 雍陶

宿嘉陵驛

嘉陵駅に宿す

離思茫茫正值秋

離思 茫茫として 正に秋に値う

每因風景卻生愁

風景に因る毎に 卻って愁いを生ず

今宵難作刀州夢

今宵 作し難し 刀州の夢

月色江聲共一樓

月色 江声 共に一樓

【語釈】

嘉陵驛：嘉陵江（四川省を北から南に縦断し、重慶で長江に注ぐ川）にある宿場。  
離思：遠い故郷を偲ぶ気持。茫茫：果てしなく広いさま。値：会う。因：親しむ。  
刀州：四川省広元県。

（三体詩）

★唐 雍陶

和孫明府懷舊山

孫明府の旧山を懷うに和す

五柳先生本在山

五柳先生 本山に在り

偶然爲客落人間

偶然 客と為り 人間に落つ

秋來見月多歸思

秋來 月を見て 歸思多し

自起開籠放白鷗

自ら起ちて 籠を開き 白鷗を放つ

【語釈】

孫明府：未詳、明府は県令の尊称。五柳先生：陶淵明、ここでは孫明府。爲客：客は旅人。人間：俗世間。秋來：秋になる。歸思：本いた山に帰りたいという思い。白鷗：キジ科の鳥。

（三体詩）

★唐 雍陶

城西訪友人別墅

城西に友人の別墅を訪ぬ

澧水橋西小路斜

澧水橋西 小路斜めなり

日高猶未到君家

日高くして 猶お未だ 君の家に到らず

村園門巷多相似

村園 門巷 多く相い似たり

處處春風枳殼花

処々の春風 枳殼の花

【語釈】

城西：城郭の西。別墅：別荘。澧水：湖南省に源を発し、洞庭湖に注ぐ川。村園  
…むらびと。門巷：門とちまた。處處：あちらこちら。枳殼花：からたちの花

(三体詩)

★唐 雍陶

秋居病中

秋居病中

幽居悄悄何人到

幽居 悄悄しやうしやうとして 何人か 到らん

落日清涼滿樹梢

落日 清涼として 樹梢じしやうに 満つ

新句有時愁裏得

新句 有る時 愁裏しやうりに 得え

古方無效病來拋

古方こほう 效無く 病來なげう 拋つ

荒簷數蝶懸蛛網

荒簷こうえん 數蝶 蛛網しよもつに 懸かり

空屋孤螢入燕巢

空屋 孤螢 燕巢えんせうに入る

獨臥南窗秋色晚

獨り南窓みなに 臥す 秋色あきの 晩くれ

一庭紅葉掩衡茅

一庭の紅葉 衡茅けいぼうを 掩おほう

【語釈】

幽居…人里離れたわび住まい。悄悄…ひっそりとして物音のしないさま。清涼…清くて清々しいさま。樹梢…木のこずえ。新句…新しい詩。愁裏…愁いのうち。古方…古い処方の薬。病來…病気になってから。荒簷…荒れたのきば。蛛網…蜘蛛の巣。秋色…秋景色。衡…冠木門、上に横木を渡しただけの粗末な門。茅…茅葺きの粗末な家。

(三体詩)

★唐 雍陶

韋處士郊居

韋處士の郊居

滿庭詩境飄紅葉

滿庭の詩境 紅葉を飄えし

繞砌琴聲滴暗泉

砌を繞ぐる琴声 暗泉を滴たらず

門外晚晴秋色老

門外の晚晴 秋色老ゆ

蕭條寒玉一溪煙

蕭條たる寒玉 一溪の煙

【語釈】

處士：官職に就かずにいる人。郊居：田舎住まい。詩境：诗情あふれる景色。砌：石畳。秋色：秋の気配。蕭條：もの静かなさま。寒玉：冷たい玉のような水。煙：…もや、水煙。

(三体詩)

★唐 靈一

題僧院

僧院に題す

虎溪閑月引相過

虎溪 閑月 引きて 相い過ぎ

帶雪松枝掛薜蘿

雪を帶ぶる松枝 薜蘿を掛く

無限青山行欲盡

無限の青山 行く尽きんと欲し

白雲深處老僧多

白雲深き処 老僧多し

【語釈】

虎溪：江西省九江市南の南廬山の東林寺の前にある溪。閑月：農事の閑な月  
薜蘿：かずら

★唐 靈澈 れいてつ

東林寺酬韋丹刺史

東林寺にて韋丹刺史に酬ゆ いたんししむく

年老心閑無外事

年老い 心閑かにして 外事無く がいじ

麻衣草座亦容身

麻衣草坐 亦た身を容る まいそうざま

相逢盡道休官去

相逢うて 尽く道う 官を休めて去らんと お ことごとく

林下何曾見一人

林下 何ぞ曾て 一人を見ん りんか なん かつ いちにん

【語釈】

答韋丹：韋丹、字は文明。外事：外部に關すること。ここでは俗世間のできごとをいう。麻衣草坐：三衣一鉢、樹下石上などと同じように仏道の修行者をいう。何曾：何は反語。未だ曾て一人も見ることががないの意。  
(二体詩)



★唐 章莊

金陵圖

金陵の図

江雨霏霏江草齊

江雨霏々として江草齊し

六朝如夢鳥空啼

六朝夢の如く鳥空しく啼く

無情最是臺城柳

無情なるは最も是れ台城の柳

依舊烟籠十里隄

旧に依りて煙は籠む十里の隄

【語釈】

金陵圖：金陵（南京）の風景画を見て、その印象を詠んだ詩、江雨：長江に降る雨。霏霏：雨や雪などが絶え間なく降りしきる様子。江草：川辺の草。齊：一面に生はえ揃って茂っている様子。六朝：建康を都とした六つの王朝。如夢：夢のように消え去ってしまったこと。台城：玄武湖のほとりにあった宮城、建康宮。依旧：昔のままに。昔ながらに。煙籠：緑のしだれ柳が芽吹いて、春雨にけぶって見える様子。十里堤：玄武湖の十里あまりの長い堤。  
（唐詩三百首）

★唐 章莊

題酒家

酒家に題す

酒綠花紅客愛詩

酒は緑にして花は紅客は詩を愛す

落花春岸酒家旗

落花春岸酒家の旗

尋思避世爲逋客

尋思するに世を避けて逋客と為り

不醉長醒也是癡

酔わずして長く醒むるも也た是れ癡

【語釈】

尋思：いろいろとおもいをめぐらす。・避世：世の中から避けて隠退する。逋客：世をのがれ避けている人。逋：のがれる。不醉：酔おうとしない。長醒：（大勢に順応せず）常に酔いから醒めている。屈原のとった態度である。癡：馬鹿者。  
（詩詞世界）

★唐 章莊

古別離

古別離

晴煙漠漠柳毵毵

晴煙は漠々 柳は毵毵，

不那離情酒半酣

離情を那んともせず 酒半ば酣なり

更把玉鞭雲外指

更に玉鞭を把り 雲外を指せば

斷腸春色在江南

斷腸の春色 江南に在り

【語釈】

古別離…樂府題。別離の心情を詠んだ詩。晴煙…晴れた空にたなびく霞かすみ。漠漠…一面にぼんやりと立ち込めている様子。毵毵…毛髪や羽毛が細くふさふさと長いさま。離情…別離の思い、別れるときの辛い思い。不那…どうすることもできない。半酣…ほろ酔い気分。離情…別離の思い。別れるときの辛い思い。不那…どうすることもできない。半酣…ほろ酔い気分。斷腸…非常に悲しい様子。春色…春景色。江南…長江（揚子江）中流・下流の南岸地域。

（唐詩選）

★唐 韋莊

章臺夜思

章臺夜思

清瑟怨遙夜

清瑟 遙夜を怨み

遶弦風雨哀

弦を遶りて 風雨哀し

孤燈聞楚角

孤燈 楚角を聞き

殘月下章臺

殘月 章臺に下る

芳草已云暮

芳草 已に云に暮れ

故人殊未來

故人 殊に未だ来らず

鄉書不可寄

鄉書 寄す可からず

秋雁又南迴

秋雁 又南に迴える

【語釈】

章臺：章華臺のこと、春秋時代に楚の靈公が築いた行宮。清瑟：清らかな大琴。怨遙：長い夜。風雨哀：風や雨の音に似た哀怨の響きがある。楚角：楚の地方の角笛。已云暮：もう過ぎてしまった。云：助辞で「是」と同意。故人：昔からの友人。鄉書：故郷への手紙。寄：託する。秋雁：秋の雁（手紙を託する手段、作者の故郷は北にある）。

（唐詩三百首）

★唐 于鵠

南谿書齋

南谿の書齋

茅屋住來久

茅屋住して来り久しく

山深人閉門

山深くして人門を閉ず

草生垂井口

草は生じて井口に垂れ

花落擁籬根

花は落ちて籬根を擁す

入院將雛鳥

院に入る雛を將いる鳥

攀蘿抱子猿

蘿を攀ず子を抱く猿

曾逢異人説

曾て異人に逢いて説く

風景似桃源

風景は桃源に似たりと

【語釈】

來…以来。井口…井戸の口。籬根…まがきの根元。擁…蔽う。院…中庭。異人…仙人、道士など、普通の人で無い人。桃源…桃源郷。

(三体詩)

★唐 于武陵 うぶりよう

勸酒

酒を勧む

勸君金屈卮

君に勧む すす 金屈卮 きんくつし

滿酌不須辭

滿酌 まんしやく 辭 もぢ するを須 もち いず

花發多風雨

花發 ひら げば 風雨多し

人生足別離

人生 別離足る

【語釈】

金屈卮：黄金色をした取っ手が折れ曲がった大杯。滿酌：なみなみとつがれた酒。發：花が開く。

(唐詩選)

★唐 于武陵

客中

かくちゆう

楚人歌竹枝

楚人竹枝を歌い

遊子淚霑衣

遊子淚衣を霑す

異國久為客

異國に久しく客となり

寒宵頻夢歸

寒宵頻りに帰るを夢む

一封書未返

一封の書未だ返えらず

千樹葉皆飛

千樹葉皆飛ぶ

南過洞庭水

南のかた洞庭の水を過ぐれば

更應消息稀

更に更に消息稀なるべし

【語釈】

客中：旅の途中。楚人：戦国時代の楚の地方（湖北省、湖南省一帯）。竹枝：民謡の一種。遊子：さすらい人。寒宵：寒い夜。消息：故郷からの便り。

（三体詩）

★唐 于武陵

南遊有感

南遊感有り

杜陵無厚業

杜陵 厚業こくえい無く

不得駐車輪

車輪を駐とどむることを得えず

重到曾遊處

重ねて曾まつて遊あそびし処ところに到いたれども

多非舊主人

多くは 旧主人に非あらず

東風千里樹

東風 千里の樹

西日一洲蘋

西日 一洲の蘋ひん

又渡湘江去

又 湘江を渡わたりて去いれば

湘江水復春

湘江 水復またた春はなり

【語釈】

杜陵：長安の南郊にある楽游原、作者の出身地。厚業：大した財産。蘋：浮き草の一種。湘江：湖南省の領域を南から北に縦断して洞庭湖に入る川。

(三体詩)

★唐 于良史 うりようし

冬日野望

冬日の野望

地際朝陽滿

ちさい ちようよう  
地際 朝陽滿ち

天邊宿霧收

てんぺん しゆくむ  
天辺 宿霧收まる

風兼殘雪起

風は 殘雪を兼ねて起り

河帶斷冰流

河は 斷氷を帯びて流る

北闕馳心極

ほっけつ  
北闕 心極を馳せ

南圖尚旅遊

南図 尚 旅遊す

登臨思不已

登臨して 思い已ま<sup>や</sup>ず

何處可銷憂

何れの処にか 憂いを銷<sup>く</sup>す可<sup>べ</sup>き

【語釈】

地際…地の果て。天邊…空の果て。宿霧…夜からかかっていた霧。兼…まじえる。  
斷氷…くだけた氷。北闕…宮廷の北の門、転じて宮城、皇帝。馳心極…心の奥底  
から思いを馳せる。南圖…南に行くこと。登臨…高いところから下を見下ろす。



★唐 來鵬 らいほう

寒食山館書情

寒食に山館にて情を書す

獨把一杯山館中

独り一杯を把る 山館の中 ひとり いちぱいを つかる やまかんのちゆう

每驚時節恨飄蓬

時節に驚く毎に 飄蓬を恨む ときせつに おどろく まいに ひょうほうを にくむ

侵塔草色連朝雨

塔を侵す草色 連朝の雨 かいたを おかす そうしよくを れんちやうの あめ

滿地梨花昨夜風

地に満つ梨花 昨夜の風 ちの みちみつ りげは きのうの かぜ

蜀魄啼來春寂寞

蜀魄 啼き來たり 春 寂寞 しよくはく なくん くる ばる せきぼく

楚魂吟後月朦朧

楚魂 吟じて後 月 朦朧 そこん ことぶ ことぶ げつ ぼうろう

分明記得還家夢

分明に記し得たり 家に還える夢 ぶんめい に ことぶ じり かり やまに へるる ゆめ

徐孺宅前湖水東

徐孺が宅前 湖水の東 じよじよが たくぜん かいすい の とう

【語釈】

飄蓬：よもぎが風に吹かれるような漂泊の身。侵塔：きざはしにはびこる。連朝：降り続く。蜀魄：ホトトギス。寂寞：しずかで侘しいさま。楚魂：秦の地に客死した楚の懷王の化した鳥。朦朧：ぼんやりと薄れるさま。分明：はつきりと。徐孺：後漢の徐穉、隱逸の士として知られ「南州居士」と称された。作者と同じ地の出身。

(三体詩)

★唐 嚴維

丹陽送韋參軍

丹陽にて韋參軍を送る

丹陽郭裏送行舟

丹陽郭裏行舟を送る

一別心知兩地秋

一別して心は知る兩地の秋

日晚江南望江北

日晚れて江南より江北を望めば

寒鴉飛盡水悠悠

寒鴉飛尽きて水悠悠

【語釈】

丹陽：現在の江蘇省鎮江市。韋參軍：伝未詳。參軍は、武官の官位名。郭裏：郭は、城郭。行舟：通り行く舟。一別：別れること。心知：心が自然と知ること。兩地秋：別れた互いの土地が秋の気配となる。江南望江北：江は、長江。長江の南より遙か北の方角を見る。寒鴉：冬のからす。水悠悠：水は、長江の流れのこと。悠悠は、遠くはるかなさま。

(三体詩)

★唐 嚴維

歲初喜皇甫侍御至

歲初皇甫侍御が至るを喜ぶ

湖上新正逢故人

湖上の新正 故人に逢う

情深應不笑家貧

情深くして 応に家の貧なるを笑わざるべし

明朝別後門還掩

明朝別後門還た掩わば

脩竹千竿一老身

脩竹千竿一老身

【語釈】

歲初：正月。皇甫侍御：皇甫曾、侍御史は官名で官吏の非違を取り締まる役。湖上：湖のほとり。新正：年の初め。脩竹：すつきり延びた竹。千竿：沢山の竹。

(三体詩)

★嚴維 酬普選二上人

普選二上人に酬ゆ

本意宿東林

本意もとおもう東林に宿せんことを

因聽子賤琴

因りてよ子賤しせんが琴を聽く

遙知大小朗

遙かに知るだいしょうろう大小朗の

已斷去來心

已に去來の心を斷つを

夜靜溪聲近

夜靜かにして溪聲近く

庭寒月色深

庭寒くして月色深し

寧知塵外意

寧ぞ知らんな塵外の意

定後更成吟

定後じょうご更に吟を成さんとは

【語釈】

普選二上人：普と選という二人の上人、不詳。本：かねがね。東林：廬山の東林寺？。子賤：孔子の弟子で単父の幸となり、堂上で琴を弾ずるのみでよく治まつたという。大小朗：恵朗禪師を大朗、振朗禪師を小朗という、選二上人をこれになぞらえた。斷去來心：過去、現在、未來を超越していること。寧知：反語、どうして知っていようか。塵外：俗塵の外。定：已に悟りの郷地にある事。

(三体詩)

★唐 崔曙

九日登望仙臺呈劉明府

九日望仙台上登り劉明府に呈す

漢文皇帝有高臺

漢の文皇帝 高台に有り

此日登臨曙色開

此の日登臨すれば 曙色開く

三晉雲山皆北向

三晉の雲山 皆北に向い

二陵風雨自東來

二陵の風雨 東より來たる

關門令尹誰能識

關門の令尹 誰か能く識らん

河上仙翁去不回

河上の仙翁 去りて回らず

且欲近尋彭澤宰

且く近く 彭沢の宰を尋ね

陶然共醉菊花杯

陶然として 共に菊花の杯に酔わんと欲す

【語釈】

九日：九月九日、重陽の節句。望仙台：河南省陝県にあった台、漢の文帝が河上公に謁せんとしたが、公は已に上昇していたので、望仙台を築いて祭つたとある。明府：県令の尊称。三晉：韓、魏、趙を言う、晉の国が三分された。二陵：穀山（河南省西端にあり函谷関に繋がる。）にある二つの丘。關門令尹：老子から『老子』を伝えられたという尹喜。河上仙翁：『老子』を河上公。彭澤宰：陶淵明（彭澤県の県令であった）、此处では劉明府のこと。

（唐詩選）

★唐 崔曙

早發交崖山還太室作

早に交崖山を発して太室に還える作

東林氣微白

東林氣微かに白く

寒鳥忽高翔

寒鳥忽ち高翔す

吾亦自茲去

吾も亦た自ら茲より去り

北山歸草堂

北山草堂に帰らん

杪冬正三五

杪冬正に三五

日月遙相望

日月遙かに相い望む

肅肅過穎上

肅々として穎上を過ぎれば

矐矐辨夕陽

矐々として夕陽を弁ず

川冰生積雪

川冰は積雪より生じ

野火出枯桑

野火は枯桑より出ず

獨往路難盡

独り往く路 尽き難く

窮陰人易傷

窮陰人傷み易すし

傷此無衣客

傷むうらくは 此れ無衣の客

如何蒙雪霜

如何せん 雪霜を蒙るを

【語釈】

交崖山：…嵩山の南方にある山だと言われているが、詳細は不明。太室：嵩山の三十六峰のうち、東方にある一峰。東林：東の林。氣：…朝の空氣、氣配。寒鳥：…冬の鳥。高翔：…空高く飛び立つ。草堂：…いおり。杪冬：…冬の終わりに、杪は末。三五：…陰曆十五日。穎上：…穎川のほとり。肅肅：急に進む。矐矐：…ほんのりとおぼろにかすんでいるさま。川冰：…川にはった氷。野火：…鬼火。窮陰：…陰氣のきわまった冬の末。如何蒙雨霜。無衣：…冬着を持っていない。

(唐詩選)

★唐 崔塗

巴山道中除夜書懷

巴山道中除夜書懷

除夜懷有<sub>り</sub>

迢遰三巴路

迢遰<sub>たうていへん</sub>たる三巴<sub>さんぱ</sub>の路

羈危萬里身

羈危<sub>きき</sub> 万里の身

亂山殘雪夜

亂山 殘雪の夜

孤燭異鄉春

孤燭<sub>こしよく</sub> 異郷の春

漸與骨肉遠

漸<sub>しだ</sub>く骨肉と遠<sub>とほ</sub>ざかり

轉於僮僕親

轉<sub>うた</sub>た僮僕<sub>どうぼく</sub>に親<sub>か</sub>しむ

那堪正漂泊

那<sub>な</sub>んぞ堪<sub>た</sub>えん正<sub>ただ</sub>に漂<sub>た</sub>泊<sub>はく</sub>し

明日歲華新

明日<sub>みょうにち</sub> 歲華<sub>さいか</sub>の新<sub>あら</sub>たなるに

【語釈】

迢遰：遙かに遠い。三巴：蜀のこと。羈危：危険な旅。亂山：乱れ重なる山々。  
漸：しだいしだいに。骨肉：肉親。僮僕：召使い。漂泊：あちこちを彷徨う。歲  
華：年月。

(唐詩三百首)

★唐 崔塗

春夕旅懷

しゅんせきりよかい  
春夕旅懷

水流花謝兩無情

水流れ 花謝り 両つながら無情

送盡東風過楚城

東風を送り尽くして 楚城を過ぐ

胡蝶夢中家萬里

胡蝶の夢中 家 万里

杜鵑枝上月三更

杜鵑の枝上月 三更

故園書動經年絕

故園の書は 動もすれば 年を経て到り

華髮春唯滿鏡生

華髮 春は惟だ 両鬢に生ず

自是不歸歸便得

自らは歸らず 歸らば便ち得ん

五湖煙景有誰爭

五湖の煙景 誰有りてか争わん

【語釈】

楚城…不詳、洞庭湖付近にある街。胡蝶夢…『莊子』による。杜鵑…ホトトギス。  
華髮…白髮。五湖…范蠡が越を去った太湖。煙景…靄のかかった景色。

(三体詩)

★唐 崔敏童

宴城東莊

城東の莊に宴す

一年始有<sub>レ</sub>一年春

一年始めて一年の春有り

百歳會無<sub>レ</sub>百歳人

百歳会て百歳の人無し

能向<sub>レ</sub>花前幾回醉

能く花前に向いて幾回か酔わん

十千沽酒莫辭貧

十千酒を沽つて貧を辞する莫れ

【語釈】

一年…一年経つ。始…やつと。百歳…前のは百年、後のは百歳。曾無…今までに無い。十千…一万錢、大金を言う。沽…買う。辞…避ける。

(唐詩選)

★唐 崔惠童

宴城東莊

城東の莊に宴す

一月人生笑幾回

一月人生笑うこと幾回ぞ

相逢相值且銜杯

相い逢い相い値わば且く杯を銜まん

眼看春色如流水

眼に看る春色流水の如きを

今日殘花昨日開

今日の殘花昨日開けり

【語釈】

城東莊…長安の東郊にある庵の玉山草堂。一月…一ヶ月で。人生…人が生きていて。相逢…であう。逢…であう。值…ぴったりであう。且…しばしの間。銜杯…酒を飲む意。春色…春景色。眼看…みるみるうちに。

(唐詩選)



★唐 崔櫓 さいろ

山路見花

山路に花を見る

曉紅輕拆露香新

曉紅 かろ 輕 ひら 拆 ろこ 露香新たなり

獨立空山冷笑春

獨り空山に立ちて 春を冷笑す

春意自知無主惜

春意 おのずから 自 おのずから 主を惜むこと無きを知り

恣風吹逐馬蹄塵

風に恣 まか かせて吹いて 馬蹄の塵 お を逐う

【語釈】

曉紅：曉の紅色の花。 拆：發、開く。 春意：春ののどかな気持。 空山：葉が落ちて  
人氣の無い山。

(三体詩)

★唐 崔櫓

春日即事

しゅんじつそくじ  
春日即事

一百五日又欲來

一百五日 又来らんと欲す

梨花梅花參差開

梨花 梅花 參差として開く

行人自笑不歸去

行人 自ら笑う帰り去らざるを

瘦馬獨吟真可哀

瘦馬 独り吟じて 真に哀むべし

杏酪漸香鄰捨粥

杏酪 漸く香る 鄰捨の粥

榆煙將變舊爐灰

榆煙 將に變ぜんとす旧炉の灰

玉樓春暖簫歌夜

玉樓 春暖 笙歌の夜

肯信愁腸日九迴

肯えて信ぜんや 愁腸の 日に九迴するを

【語釈】

一百五日…寒食の日(冬至から数えて百五日目)。參差…入り乱れるさま。行人…旅人。瘦馬…やせ馬(に乗っている作者)。杏酪…杏の種を粉末にして飴を加えてとろりとさせたもの、寒食の終わった日に粥にして食べる。榆煙…寒食が終わった後、榆の木に灯された火の煙。玉樓…美しい楼台。簫歌…笙の調べと歌声。愁腸日九迴…調が1日に九回ねじれるような深い憂い。

(三体詩)

★唐 崔顥

黄鶴樓

黄鶴樓

昔人已乘黄鶴去

昔人已に黄鶴に乗じて去り

此地空餘黄鶴樓

此地空しく余す黄鶴樓

黄鶴一去不復返

黄鶴一たび去りて復た返らず、

白雲千載空悠悠

白雲千載空しく悠悠

晴川歷歷漢陽樹

晴川歴々たり漢陽の樹

芳草萋萋鸚鵡洲

芳草萋々たり鸚鵡洲

日暮鄉關何處是

日暮 鄉関 何の処か是なる

煙波江上使人愁

煙波 江上 人をして愁えしむ

【語釈】

昔人：昔の人、ここでは辛氏の酒屋を訪れた仙人を指す。空：ただけ。ただけばかり。余：残っている。千載：千年。悠悠：ゆったりとのどかにしているさま。晴川：晴れ渡った長江の流れ。歴歴：はつきりと見えるさま。漢陽：長江をはさんで、武昌の対岸にある町。芳草：香りのよい草花。萋萋：草が盛んに茂っているさま。鸚鵡洲：湖北省武漢市武昌区黄鶴磯の西、長江の中にある中洲。日暮：日暮れ。郷関：ふるさと。何処是：どの辺りがそれ（故郷）だろうか。煙波：もやの立ちこめた水面。江上：長江のほとり。使人愁：私の胸に、望郷の思いを起こさせる。

（唐詩選）

★唐 皎然

尋陸鴻漸不遇

陸鴻漸を尋ねて遇わず

移家雖帶郭

家を移して郭を帯ふと雖ども

野徑入桑麻

野徑 桑麻に入る

近種籬邊菊

近ごろ種ゆ籬辺の菊

秋來未著花

秋來たれども未だ花を著けず

扣門無犬吠

門を叩けども犬の吠ゆる無く

欲去問西家

去らんと欲して西家に問う

報道山中去

報道す 山中に去り

歸時每日斜

歸時は毎に日斜めなりと

【語釈】

陸鴻漸…名は羽、復州（河北）の人、安史の乱後、東南地方に集まった自然派詩人の一人。帶郭…負郭に同じ、城郭を後にすること。野徑…のみち。桑麻…桑と麻。西家…西隣の家。報道…答える。

（唐詩三百首）

★唐 殷遙 いんよう

山行

山行

寂歴青山晚

せきれき 寂歴たり 青山の晩

山行趣不稀

山行 趣 おもしろき 稀 まれ ならず

野花成子落

野花 子 し を成して落ち

江燕引雛飛

江燕 かうえん 雛 ひな を引いて飛ぶ

暗草薰苔徑

暗草 苔徑 たいけい を薰 くん じ

晴楊拂石磯

晴楊 石磯 せきき を払う

俗人猶語此

俗人 猶 これ お此を語り

余亦轉忘歸

余も亦 轉 うた た帰るを忘る

【語釈】

寂歴：ひっそりとして物寂しいさま。青山：青々とした山。成子：実を結ぶ。江燕：江上の燕。苔徑：苔むす径。晴楊：明るい柳の枝。石磯：石の河原。猶…：でさえ。轉…：いよいよ、ますます。

(三体詩)

★唐 盧全 ろどう

喜逢鄭三遊山

鄭三が山に遊ぶに逢う ていさん

相逢之處花茸茸

あい相逢うの処 草 茸々 じょうじょう

石壁攢峰千萬重

しやうへき峭壁 攢峰 千萬重 せんまんちゆう

他日期君何處好

他日 君を期す 何れの処か好からん

寒流石上一株松

寒流 石上一株の松 かんりゅう せきじゆう ひとりのしょう

【語釈】

鄭三…未詳。三は、排行。茸茸…草がさかんに生い茂るさま。峭壁…切り立ったけわしいがけ。攢峰…いくつも集まり重なっている山なみ。千萬重…多くの山々が重なるさまをいう。他日期君…別の日に再会する約束をする。寒流…つめたい流れ。

(三体詩)

★唐 盧綸

與從弟瑾同下第後出關言別

從弟瑾と同じく下第したる後 関を出ず 言別

出關愁暮一沾裳

関を出でて 愁暮一に裳を沾おす

滿野蓬生古戰場

野に滿ち 蓬は生ず 古戰場

孤村樹色昏殘雨

孤村の樹色 殘雨に昏く

遠寺鐘聲帶夕陽

遠寺の鐘聲 夕陽を帶ぶ

【語釈】

從弟…(自分より年下の男の)いとこ。瑾…いとこの名。同…(…と)いっしょに。下第…科挙の郷試落第する出関…関中(…現・陝西省中部で、四つの関の中の地。中心は都の長安)の地より出る。言別…別れの言葉を告げる。愁暮…日が暮れたことを愁える。一…もつぱら。沾…ぬらす。しめらす。うるおす。裳…衣服。滿野…野原いっぱい。蓬…ヨモギ。孤村…ぼつんと離れたところにある村。昏…(日が暮れて)くらい。殘雨…残り雨。

(三体詩)

663

★唐 盧綸

山店

山店

登登山路何時盡

登々として 山路 何れの時にか尽きん

泱泱溪泉到處聞

泱々として 溪泉 到る処に聞く

風動葉聲山犬吠

風は葉声を動かして 山犬吠え

一家松火隔秋雲

一家の松火 秋雲を隔つ

【語釈】

山店…山の中の旅館。登登…どんどん登って行くこと。泱泱…谿のせせらぎを表す擬声語。松火…松の木を燃やした灯火。

(三体詩)

★唐 盧綸

晩次鄂州

晩くれに鄂州がくしゅうに次やどる

雲開遠見漢陽城

雲開きて遠く見る漢陽城

猶是孤帆一日程

猶お是れ孤帆一日の程

估客晝眠知浪靜

估客 昼眠りて 浪の静かなるを知り

舟人夜語覺潮生

舟人 夜語りて 潮の生ずるを覺る

三湘愁鬢逢秋色

三湘さんしやうの愁鬢しゆうびん 秋色に逢い

萬里歸心對月明

万里の歸心 月明に對す

舊業已隨征戰盡

旧業 已に征戰に隨つて尽き

更堪江上鼓鼙聲

更に堪えんや 江上の鼓鼙の聲に

【語釈】

次…やどる、船泊する。鄂州…湖北省武漢市武昌。漢陽城…武漢の漢陽の町。估客…旅の商人。舟人…船頭。三湘…湖南省洞庭湖の南北、及び湘江流域一帯。愁鬢…愁いの為に白くなった髪の毛。秋色…秋景色。萬里歸心…遠い故郷に帰りたい気持ち。舊業…古くからの我が家の財産。鼓鼙…戦中に馬上で打ち鳴らす攻め太鼓。

(唐詩三百首)



★唐 盧倫

長安春望

ちやうあんしゆんぼう  
長安春望

東風吹雨過青山

東風雨を吹いて 青山を過ぐ

卻望千門草色閑

却つて千門を望めば 草色閑なり

家在夢中何日到

家は夢中に在つて 何れの日か到らん

春生江上幾人還

春は江上に來りて 幾人か還る

川原繚繞浮雲外

川原 繚繞す 浮雲の外

宮闕參差落照間

宮闕 參差たり 落照の間

誰念爲儒逢世難

誰か念わん 儒と爲りて 世難に逢い

獨將衰鬢客秦關

獨り衰鬢を將て 秦關に客たらんとは

【語釈】

春望：春の眺め。千門：極めて多くの門、帝都のこと。草色：草のありさま。：のどかなさま。繚繞：まつわりめぐる、曲がりくねり、からみついてゐるさま。宮闕：宮城の門、転じて、宮城。參差：は不揃いである様。落照：夕日。世難：世の乱離。衰鬢：抜け落ちて薄くなった耳際の毛。秦關：関中の地、ここでは長安を指す。

(唐詩選)

★唐 寶常

赴武陵寒食途次松滋渡 武陵に赴き寒食に松滋渡に次る

杏花榆莢曉風前

杏花榆莢 曉風の前

雲際離離上峽船

雲際 離々たり峽を上る船

江轉數程淹驛騎

江は転じて數程 驛騎を淹むれば

楚曾三戸少人煙

楚曾つて三戸 人煙少なり

看春又過清明節

春を看て 又過ぐ清明の節

算老重經癸巳年

老を算えて 重ねて經 癸巳の年

幸得柱山當郡舍

幸に柱山の郡舍に当たるを得たり

在朝長詠卜居篇

朝に在りて 長く詠ず 卜居篇

【語釈】

武陵：江蘇省常德市。寒食：冬至から百五日目、この前後三日間は火を使わない習慣があつた。松滋渡：湖北省松滋県の渡し場。次：宿。榆莢：なすなのサヤ。雲際：雲のある際、この場合は水平線。離離：長く連なる、又は離ればなれになる。數程：何里か。驛騎：馱馬。楚曾三戸：『史記』「項羽本紀」。清明：清明節、春分より十五日目。柱山：枉山の誤り？、枉山は武陵の東にある。郡舍：刺史の官舎。卜居篇：居を定める歌。

(三体詩)

★唐 寶篋

上陽宮

上陽宮

愁雲漠漠草離離

愁雲は漠々たり 草は離々たり

太乙句陳處處疑

太乙か句陳か 処々に疑う

薄暮毀垣春雨裏

薄暮 毀垣 春雨の裏

殘花猶發萬年枝

殘花 猶お發らく 万年の枝

【語釈】

上陽宮：現在の河南省洛陽市の西に唐の高宗が建てた宮殿、このころ已に荒廢していたらしい。愁雲：さびしき雲。漠漠：連なっているさま、うす暗いさま。草離離：草が生茂っているさま。太乙津：太掖池、池のなまえ。句陳：星の名前、星の名前を冠した宮殿の名。處處：あちらこちら。毀垣：破りくずれた垣根。殘花：散りゆく花。萬年枝：冬青樹。  
(三体詩)

★唐 寶篋

訪隱者不遇

隱者を訪ねて遇わず

籬外涓涓澗水流

籬外 涓々 澗水流れ

槿花半照夕陽收

槿花 半ば照らして 夕陽收まる

欲題名字知相訪

名字を題して 相訪るを知らしめんと欲するも

又恐芭蕉不耐秋

又恐る 芭蕉の 秋に耐えざるを

【語釈】

籬外：まがきの外。涓涓：水がちよろちよろ流れるさま。澗水：谷川の水。槿花：むくげの花。夕陽：夕日。名字：名前。相：動作が相手に及ぶこと。不耐秋：秋に負けて枯れしまう。

★唐 孟賁 もうかん

寄山中高逸人 山中の高逸人に寄す たけなかの高逸人に寄す

煙霞多放曠

煙霞 えんか 多くは放曠 ほうくわう

吟嘯是尋常

吟嘯 ぎんしょう 是れ尋常

猿共摘山果

猿と共に山果を摘み

僧鄰住石房

僧と鄰りて石房に住す じゅう

躡雲雙屐冷

雲を躡みて 雙屐冷やかに そうげき

採藥一身香

藥を採みて 一身香し かんば

我憶相逢夜

我は憶う 相逢し夜 おぼ

松潭月色涼

松潭に 月色涼しかりしを しょうたん

【語釈】

高逸人：高潔なる隱棲人。煙霞：靄と霞。放曠：からりと開けて束縛のないこと。吟嘯：詩を吟ずる。雙屐：ふたつのあしだ。松潭：松の茂る淵。

(三体詩)

★唐 孟郊

遊子吟

遊子吟

慈母手中線

慈母 手中いとの線

遊子身上衣

ゆうし遊子 身上の衣

臨行密密縫

こう行に臨みて 密々縫う

意恐遲遲歸

意に恐る遅々として帰らんことを

誰言寸草心

誰か言う 寸草の心

報得三春暉

三春の暉に報い得んと

【語釈】

遊子吟：樂府題、旅立つ人の歌。漂上：江蘇省漂陽県。身上衣：ここでは旅立つ人の衣。臨行：旅立ちに際して。密密：細かいさま。寸草心：僅かに伸びた野の草のような子のこころ。三春暉：春三ヶ月の太陽の光の恵み。母の慈愛のたとえ。

(唐詩三百首)

★唐 儲光羲 寄孫山人 孫山人に寄す

新林二月孤舟還 新林二月 孤舟還る

水滿清江花滿山 水は清江に満ち 花は山に満つ

借問故園隱君子 借問す 故園の 隱君子

時時來往住人閒 時々來往して 人間に住まるかと

【語釈】

山人：世を捨てて山中に隠れ住む人。寄：詩を人に託して送り届けること、「贈」は、詩を直接手渡すこと。新林：春になって新しく芽吹いた林。孤舟還：一艘の小舟で帰る。水滿清江：春の水が清らかな川に満ちあふれている。借問：ちよつとお尋ねしますが。

故園：古くから住み慣れた庭園、孫山人の住居を指す。隱君子：世を避けて山中に隠れ棲む徳の高い人、孫山人を指す。

(唐詩選)

★唐 儲光羲 洛陽道 洛陽道

大道直如髮 大道直きこと髪の如く

春日佳氣多 春日佳氣多し

五陵貴公子 五陵の貴公子

雙雙鳴玉珂 雙々玉珂を鳴らす

【語釈】

洛陽道：樂府題、横吹おうすい曲(馬上で奏する軍中の樂曲)に属する。大道：洛陽の大通り。直如髮：髪の毛のようにまつすぐだ。春日：のどかな春の日。佳氣：うらかな気。なごやかな気。五陵：長安北郊の地名。この付近には富豪や貴族の別荘があり、遊樂の地でもあったので遊俠の徒が多く集まっていた。貴公子：身分の高い家柄の若者。

★唐 儲光羲

釣魚湾

釣魚湾

垂釣綠湾春

釣を垂る 綠湾の春

春深杏花乱

春深くして 杏花乱る

潭清疑水浅

潭清みて 水の浅きを疑い

荷動知魚散

荷動きて 魚の散ずるを知る

日暮待情人

日暮 情人を待ち

維舟綠楊岸

舟を維ぐ 綠楊の岸

★唐 柳中庸

征人怨

征人怨

歲歲金河復玉關

歲々 金河復た玉關

朝朝馬策與刀環

朝々 馬策と刀環と

三春白雪歸青冢

三春の白雪に 青冢に帰れば

萬里黃河遶黑山

万里の黃河 黒山を遶ぐる

【語釈】

征人怨…出征する人のうらみ。歳歳…毎年毎年。金河…地名。唐代の金河県で、現・内蒙古自治区の呼和浩特市（フホト）市の南。玉關…玉門関。朝朝…毎日毎日。馬策…乗馬用の鞭。与……と。刀環…柄に銅の環がある刀のこと。三春…春の三か月。三春白雪…春の雪。青冢…王昭君の陵墓をいう。黒山…現・内蒙古自治区の呼和浩特市（フホト）市の東南にある。

（三体詩）（詩詞世界）

★唐 楊巨源

折楊柳

折楊柳

水辺楊柳翹塵糸

水辺の楊柳 翹塵の糸

立馬煩君折一枝

馬を立め 君を煩わして 一枝を折る。

惟有春風最相惜

惟だ 春風の最も相惜しむ有り。

殷勤更向手中吹

殷勤に更に手中に向って吹く。

【語釈】

折楊柳：楽府題、「楊柳」は、やなぎの総称、もともと送別に際し、楊柳の枝を折って輪にし、贈る習慣があった。水辺：岸辺。翹塵糸：若芽を吹いた柳の細い枝が黄緑色の糸のように見えること。立馬：馬を駐とどめること。惟有：ただだけである。春風最相惜：春風が柳の枝との別れを惜しむかのように。殷勤：ねんごろに。向手中：手の中で、「向」は、ここでは「く」にむかって」の意ではなく、「くで」の意を表す。  
(Web 漢文大系)

★唐 張繼

楓橋夜泊

楓橋夜泊

月落烏啼霜滿天

月落ち烏啼いて 霜天に満つ

江楓漁火對愁眠

江楓漁火 愁眠に対す

姑蘇城外寒山寺

姑蘇城外の 寒山寺

夜半鐘聲到客船

夜半の鐘声 客船に到る

【語釈】

楓橋：中国蘇州にある運河にかかった太鼓橋。霜滿天：霜の下りる気配が天に満ちること。霜は地面から上がってくるものだが、中国では天から降りてくるものと考えられていた。江楓 川沿いの楓の木々。漁火 漁船のいさり火。愁眠 旅愁を抱いてウトウトしながらたまに目が覚める浅い眠り。姑蘇：蘇州の旧名。春秋時代の呉の都。寒山寺：蘇州郊外西のキロの楓橋鎮にある、臨濟宗の寺。

(唐詩選)



★唐 張祜

胡渭州

胡渭州

亭亭孤月照行舟

亭々たる孤月行舟を照らし

寂寂長江萬里流

寂々たる長江万里に流る

鄉國不知何處是

郷国知らず何の処か是れなる

雲山漫漫使人愁

雲山漫々人をして愁えしむ

【語釈】

胡渭州：樂府題、渭州は甘肅省隴西の東南にある地名。亭亭：高く聳えたつさま。孤月：ものさびしく見える月、一片の月。行舟：通る舟。寂寂：ものさびしいさま、静かなさま。郷国：故郷。ふるさと。不知：わからない、…かどうか（分からない）。何処：どこ、いづこ。是：そうである。雲山：雲のかかった山。漫漫：ひろい。

（唐詩選）

★唐 張祜

題金陵渡

金陵の渡に題す

金陵津渡小山樓

金陵の津渡 小山の樓

一宿行人自可愁

一宿の行人 自ずから愁うべし

潮落夜江斜月裏

潮は落つ夜江 斜月の裏

兩三星火是瓜州

兩三の星火 是れ瓜州

【語釈】

金陵：江蘇省鎮江市付近の地名。津渡：渡し場。小山樓：金陵の渡し場の近くに  
ある故山の上にある樓。一宿行人：一泊した旅人（作者）。潮落：潮が引いてい  
くこと。斜月：西に傾く月。星火：星のように小さな火。瓜州：地名、江蘇省江  
都の対岸に位置する。

（唐詩三百首）

★唐 張祜 ちやうこ

孤山寺

こせんじ  
孤山寺

樓臺聳碧岑

樓台 碧岑に聳え くわいたい せいじん

一徑入湖心

一徑 湖心に入る

不雨山長潤

雨ふらざるも 山は長に潤い ふらざるも さん は なが に ぬい

無雲水自陰

雲無くして 水は自ら陰る くも なく して みづ は 自ら かげる

斷橋荒蘚合

斷橋 荒蘚合し たぎしやう せん がつ

空院落花深

空院 落花深し

猶憶西窗夜

猶お憶う 西窓の夜 な

鐘声北林出

鐘声 北林より出でしを かね せい ぺいりんより いでしを

【語釈】

孤山…浙江省杭州市の名勝、西湖の中にある山。碧岑…青緑色の峯。長…つねに。  
斷橋…湖山と岸をつなぐ橋。荒蘚…荒い苔。空院…人気のない部屋。  
○西窗…寢室。

(三体詩)

★唐 耿湜

秋日

秋日

返照入閭巷

返照 閭巷に入る

憂来誰共語

憂い来たりて 誰と共にか語らん

古道少人行

古道 人の行くこと少に

秋風動禾黍

秋風 禾黍を動かす

【語釈】

返照…夕日の照り返し。閭巷…村里、「閭」は村里の入り口の門。憂来…憂いがわき起こる。古道…古びた道、荒れた田舎道。禾黍…稲や、きびの穂。

(唐詩選)

★唐 張諤

九日宴

九日の宴

秋葉風吹黃颯颯

秋葉 風吹いて 黄颯々

晴雲日照白鱗鱗

晴雲 日照らして 白鱗々

歸來得問茱萸女

歸えり来たりて 問うを得たり 茱萸の女に

今日登高醉幾人

今日 登高 幾人かを 酔わしめしかと

【語釈】

九日宴…重陽の節句の宴。秋葉…秋の色づいた葉。颯颯…風がさつと吹くさま。晴雲…晴れた日の雲。鱗鱗…鱗のようにあでやかで美しいさま。茱萸女…茱萸を差した女。登高…重陽の節句に高いところに登って菊酒を飲むこと。

(唐詩選)

★唐 張祜

惠山寺

惠山寺けいざんじ

舊宅人何在

旧宅人何くかいす在る

空門客自過

空門客かくみずか自ら過よぎる

泉聲到池盡

泉声池に到りて尽つき

山色上樓多

山色樓に上りて多おほし

小洞穿斜竹

小洞斜竹穿うがち

重塔夾細莎

重塔細莎夾さいさはさむ

殷勤望城市

殷勤いんぎんに城市を望めば

雲水暮鐘和

雲水暮鐘に和なす

【語釈】

惠山寺…江蘇省無錫市の郊外の惠山にある寺。舊宅…古い建物。山色…山の気配。  
斜竹…斜めに生えた竹。重塔…重なった階段。細莎…細いはまなすげ。殷勤…心を込めてするさま。

(三体詩)

★唐 長孫佐輔

山家

山家

獨訪山家歇還涉

獨り山家を訪ねて 歇みて還た涉たる

茅屋斜連隔松葉

茅屋斜めに連なりて 松葉を隔つ

主人聞語未開門

主人語を聞きて 未だ門を開かず

繞籬野菜飛黃蝶

籬を繞ぐる 野菜 黃蝶飛ぶ

【語釈】

山家…山の中にある家。茅屋…茅葺きの粗末な家。

(三体詩)

★唐 樓蟾 せいたん

宿巴江

巴江に宿す は じやう

江聲五十里

江聲 五十里

瀉碧急於弦

碧を濯ぎて 弦より急なり

不覺日又夜

覺めず 日又夜

爭教人少年

争でか 人をして 少年ならしめん

一汀巫峽月

一汀 巫峽の月

兩岸子規天

兩岸 子規の天

山影似相伴

山影 相伴うに似たり

濃遮到客船

濃く遮りて客船に到る

【語釈】

巴江：三峡のあたり。江聲：長江の流れる音。碧：碧色の水。弦：弦楽器における急弦。少年：若い人。巫峽：三峡の一つ。子規：ホトトギス。客船：旅客を乗せた船。

(三体詩)

★唐 王駕 おうが

社日

社日 しやじつ

鵝湖山下稻梁肥

がこさんか 鵝湖山下 りやうとう 稻梁肥え

豚奔鷄埒半掩扉

とんせい 豚奔 けいじ 鷄埒半ば とぎ 扉を掩す。

桑柘影斜秋社散

そうしや 桑柘影斜めに しよ して 秋社散ず

家家扶得醉人歸

家々 たふ 醉人を扶けて得て歸る

【語釈】

社日：土地神を祀る日。立春後第五の戌の日を春社、立秋後第五の戌の日を秋社という。鵝湖山：荷湖山ともいう。信州鉛山県、現在の江西省鉛山県にある山。稻梁肥：晩秋の豊作をいう。梁は穀物。豚奔：豚を飼っているところ。奔は、穴。豚は坑で飼われていた。鷄埒：鶏を飼っているところ。埒は、鳥のねぐら。桑柘：桑の木。影斜：夕暮れ。

(三体詩)

関連詩句

「豚柵雞棲一畝宮，呼來兒女脫青紅。」（清・趙翼）

「仙山住久即神仙，豚柵雞棲屋數椽。」（清・丘逢甲）

「桑柘影斜山日暮，醉飽歸來同笑語。」（元末明初・王冕）

「修竹掩映溪左右，桑柘影斜溪前後。」（清末近現代初・朱子鏞）

「雲安酒濃麴米賤，家家扶得醉人迴。」（宋・范成大）

「重到張公泊船處，家家扶得醉人歸。」（宋・釋紹嵩）

★宋 安王石 重將

重將

重將白髮傍牆陰

重ねて 白髪を將つて 牆陰に傍い

陳迹茫然不可尋

陳迹 茫然として 尋ぬ可からず

花鳥總知春爛熳

花鳥 総て知る 春の爛熳たるを

人間獨自有傷心

人間には 独り自ら傷心有り

【語釈】

重將…かさねて…を（以て）、詩の第一句の最初の二字を充てて、詩題としてい  
る。重…かさねる。將…をもつて。白髮…老人、ここでは、作者のことに。傍…  
さまよう。陳迹…むかし物事のあつたあと、古くから今に残っているもの。茫然  
…ぼんやりしているさま。不可尋…たずねることができない。総…すべて。爛熳  
…光り輝くさま。人間…俗世間。独自…には。傷心…心を傷めること。

（中国詩人選集二―4）



★宋 王安石 北山

北山ほくざん

北山輪綠漲橫陂

北山 綠を輸いして 橫陂おうひに漲みなぎる

直塹回塘灑灑時

直塹ちよくせん 塘回とうかい 灑々せんえんの時

細數落花因坐久

細かに落花を数うるは 坐ること久しきに因より

緩尋芳草得歸遲

緩ゆるやかに芳草を尋ね 帰ること遅きを得たり

【語釈】

北山：鐘山。輪綠：堀の水に鐘山の緑が映っている。陂：池、堀。直塹：真つ直ぐな堀。回塘：円く巡っている堀。灑灑：水が一杯できらきら光るさま。

参考詩句

「細數落花因坐久，起来幽思有誰知。」（明・程敏政）

「細數落花無限恨，心隨流水到人間。」（明・鄧雲霄）

「頻遇好花開笑口，緩尋芳草憇閒踪。」（明・謝遷）

「緩緩尋芳草，悠悠理釣船。」（明・黃佐）

（中国詩人選集二一四）

★宋 王安石

遊鍾山

鍾山に遊ぶ

終日看山不厭山

終日山を見て山に厭かず

買山終待老山間

山を買いて終に待たん山間に老ゆるを

山花落盡山長在

山花落ち尽くして山長えに在り

山水空流山自閑

山水空しく流れて山自ら閑かなり

【語釈】

終：ひさしく

(漢詩名句辞典)

参考詩句

「小樓纔受一牀橫，終日看山酒滿傾。」(唐・杜牧)

「我來端坐已寒暑，終日看山默無語。」(宋・呂本中)

「久厭朱袍裏玉仙，幅巾藜杖老山間。」(宋・周紫芝)

「擾擾何年斷俗緣，從今便合老山間。」(宋・張綱)

★宋 王安石 書湖陰先生壁二首其一 湖陰先生の壁に書す 二首其一

茆簷長掃靜無苔

茆簷長に掃つて靜かに苔無し

花木成畦手自栽

花木畦を成して手自栽ゆ

一水護田將綠繞

一水 田を護つて綠を將つて繞り

兩山排闥送青來

兩山 闥を排して 青を送つて來たる

【語釈】

湖陰先生：楊徳逢の号、南京に隱棲した王安石の近くに住んでいた。茆簷：茅草の軒。長：とこしえに、ここは、いつもの意味。靜：ニューアンスとして淨の意。畦：一区切りの畑。排闥：門を押し開く。  
(中国詩人選集二：4)

参考詩句

「初得兩山排闥來，滿期突兀老相陪。」(宋・曾丰)

「一水橫橋碧作彎，兩山排闥翠成環。」(宋・李曾伯)

「萬景橫前方領略，越山仍欲送青來。」(宋・釋妙弘)

「夏口波光將綠繞，漢陽樹色送青來。」(明・陳璉)

★宋 王安石 鐘山即事

鐘山即事

澗水無聲繞竹流

澗水 声無く 竹を繞つて流る

竹西花草弄春柔

竹西の 花草 春柔を弄す

茅簷相對坐終日

茅簷 相對して 坐すること終日

一鳥不啼山更幽

一鳥啼かず 山更に幽なり

【語釈】

鐘山（鍾山）：南京の東側にある紫金山の旧名。即事：事に触れて、その場のことを題材として詩を作ること。澗水：谷川の水。竹西：竹林の西側あたり。花草：花の咲く草。春柔：春の柔らかな気配。弄：表す、めぐる。茅簷：かやぶきの軒端。幽：奥深く静かなさま

（漢詩大系1.6）

参考詩句

- 「好應月白長廊下，澗水無聲人自閒。」（宋・鄭俠）  
「千里出山雲有色，一源投澗水無聲。」（宋・釋文準）  
「綠葉成陰春已歸，茅檐相對兩斜暉。」（宋・聞人武子）  
「茅簷相對坐終日，只說桑麻語自真。」（宋・方岳）  
「一鳥不鳴風不動，忽聞林下響纒車。」（宋末元初・方回）  
「幾回挂笏度閒雲，一鳥不鳴春寂寂。」（元末明初・唐桂芳）

★宋 王安石 夜直

夜直

金爐香盡漏聲殘

金炉香尽きて漏声残す

翦翦輕風陣陣寒

翦々たる輕風 陣々として寒し

春色惱人眠不得

春色人を悩まして眠り得ず

月移花影上欄干

月は花影を移して 欄干に上らしむ

【語釈】

金爐：宮中のある美しい金属製の香炉。香盡：香が燃え尽きる。漏声：水時計の水のしたたる音。「漏」は漏刻。残：音がかすかになる。翦翦：肌寒い風が吹く形容。輕風：そよ風。陣陣：一陣の風ごとに。春色：春の景色。惱人：人を物思いにふけさせる。眠不得：眠ろうとしても眠れない。移：位置を移す。花影：花の影。

(宋詩選注 1) (中国詩人選集二―4)

参考詩句

- 「剪剪輕風漠漠寒，玉肌蕭瑟粉香殘。」(宋・謝逸)
- 「半亭涼月落花香，剪剪輕風颭燭光。」(明・張弼)
- 「春色惱人無畔岸，亂飄風袖拂梅花。」(宋・范成大)
- 「江草初生江水流，便覺春色惱人愁。」(明・高啓)
- 「竹裏高亭燈燭光，月移花影上西廂。」(宋・陳造)
- 「月移花影來窗外，風引松聲到枕邊。」(宋・白玉蟾)

★宋 王安石

烏塘

烏塘

烏塘渺渺綠平堤

烏塘 渺々 綠平かなる堤

堤上行人各有携

堤上の行人 各携うる有り

試問春風何處好

試問 す春風何の処にか好きかと

辛夷如雪柘岡西

辛夷雪の如き 柘岡の西

【語釈】

烏塘：王安石の本籍地である江西省臨川県にあった池。渺渺：水がひろびろとしている様。試問：試みに問う、「ちよつとお尋ねしますが」程度の意。行人：旅人。携：引き連れる。辛夷：こぶし。柘岡：臨川県と金谿県の間にある丘、王安石の母の実家の近く。  
(中国漢詩人選集二一四)

★宋 王安石

金陵即事三首其三

金陵即事三首其三

昏黒投林曉更驚

昏黒林に投じ 曉更に驚く

背人相喚百般鳴

人に背いて相い喚び 百般に鳴く

柴門長閉春風暖

柴門長に閉じて 春風暖かく

事外還能見鳥情

事外に還た能く鳥の情を見る

【語釈】

金陵：南京、南朝の古都。即事：その地で見たまを詩に作ること。昏黒：日暮れ。投林：鳥がねぐらである林に帰ってくる。驚：目が覚める。背人：人の目に付かないこと。百般：多くの鳴き方で。柴門：粗末な柴の門。事外：浮き世の外。還：却って。

(中国漢詩人選集二一四)

★宋 王安石

鍾山晚步

しょうざんばんぽ

小雨輕風落棟花

しょうけいふうれはなを落とす

細紅如雪點平沙

さいこうのゆく平沙に点ず

權籬竹屋江村路

けんりちくおくこうそんみち

時見宜城賣酒家

時に見る宜城酒を売る家

【語釈】

鐘山（鍾山）：南京の東側にある紫金山の旧名。棟花：せんだんの花，晩春に咲く。細紅：梅檀の小さな紅色の花びら。平沙：平らな砂。點：点々と散らばる。權籬：むくげの生け垣。竹屋：竹で作った家。江村：川の畔にある村。宜城：湖北省宜城県。

（中国詩人選集二 4）

参考詩句

「小雨輕風春一半，去年今日在嚴州。」（宋・楊萬里）

「小雨輕風寒食後，一春惟酒是生涯。」（明・管訥）

「城郭村墟共水雲，權籬竹屋映柴門。」宋・蘇轍

「行盡天涯白髮新，權籬竹屋著閑身。」宋・陸游

★宋 王安石 金陵即事三首 其一

金陵即事三首 其一

水際柴門一半開

水際の柴門は 一半開き

小橋分路入青苔

小橋は 路を分かちて 青苔に入る

背人照影無窮柳

人に背きて 影を照す 無窮の柳

隔屋吹香併是梅

屋を隔てて 香を吹きおくるは 併びに是れ梅

【語釈】

金陵：南京、南朝の古都。即事…その地で見たままを詩に作ること。柴門…柴で作った粗末な門。青苔…青い苔。併…すべて。

関連詩句

「三三兩兩市船回，水際柴門尚未開。」（宋・陸游）

「水際柴門一扇開，白頭羸病亦堪哀。」（宋・陸游）

「小橋分路各西東，寂寂松窗半掩同。」宋・孫覲

「水沒溪痕不見沙，小橋分路入山家。」（元・張仲深）



★宋 王安石 初夏即事

初夏即事

石梁茅屋有彎碕

石梁茅屋灣碕有

流水澗澗度兩陂

流水澗々として兩陂を渡る

晴日暖風生麥氣

晴日暖風麥氣を生じ

綠陰幽草勝花時

綠陰幽草花時に勝れり

【語釈】

初夏即事：初夏みるままに、「即事」はその場の情景をそのまま詩にすること。  
石梁：石の橋。茅屋：茅葺きの家。灣碕：湾曲した岸の先端。澗澗：水がさらさらと流れるさま。兩陂：兩岸の堤。麥氣：麦の熟した香。綠陰：緑の木の木陰。  
幽草：深く生い茂ったさま。花時：花が咲いている（春の）景色。

（中国詩人選集二 4）

関連詩句

- 「石梁茆屋雨蒼苔，春風一笑冰容開。」（宋・孫覿）
- 「立馬蕭蕭野水南，石梁茅屋暫停驂。」（明・程敏政）
- 「古烟蒼蒼封寒松，流水澗澗山重重。」（宋・李復）
- 「流水澗澗白石灘，疎林紅葉半凋殘。」（明・董紀）
- 「晴日暖風催鳥語，翠梢高處轉柔音。」（宋・釋道潛）
- 「晴日暖風千里目，殘山剩水一人心。」（宋・范成大）
- 「說與游人莫惆悵，綠陰幽草一般天。」（宋・蒲壽成）
- 「小院回廊日正長，綠陰幽草自生香。」（元・馬臻）

★宋 王安石

悟真院

悟真院

野水從橫漱屋除

野水從橫 屋除を漱ぎ

午窗殘夢鳥相呼

午窓 殘夢 鳥相い呼ぶ

春風日日吹香草

春風 日々 香草を吹き

山北山南路欲無

山北山南路無からんと欲す

【語釈】

悟真院：所在不明。屋除：のきばのたたき。午窗：昼間の窓。殘夢：覚めかけた眠り。香草：良い香りの草。

(中国詩人選集二 4)

参考詩句

「春風日日雨時時，寒力潛從暖勢衰。」(唐・齊己)

「溪南溪北村村水，春雨春風日日愁。」(宋・周紫芝)

「今朝萬里秋風起，山北山南一片雲。」(唐・杜牧)

「山北山南雪意忙，梅花未肯鬪寒芳。」(宋・沈與求)

★宋 王安石

葛溪駅

葛溪駅

缺月昏昏漏未央

缺月 昏昏 漏未央

一燈明滅照秋牀

一燈 明滅 秋牀を照らす。

病身最覺風露早

病身は最も覺ゆ 風露の早きを

歸夢不知山水長

歸夢は知らず 山水の長きを。

坐感歲時歌慷慨

坐して歲時に感じては 歌は慷慨し。

起看天地色淒涼

起ちて天地を看れば 色は淒涼たり。

鳴蟬更乱行人耳

鳴蟬更に行人の耳を乱し。

正抱疎桐葉半黃

正に疎桐の葉の半は黄なるを抱く。

【語釈】

葛溪駅：江西省弋陽県にあった宿場。缺月：欠けた月。昏昏：暗いさま。漏…：水時計。央…：尽きる。漏未央…：まだ夜が明けないこと。明滅…：明るくなったり暗くなったりする。秋牀…：秋の寢床。風露…：風と露。歸夢…：故郷に帰って行く夢。歳時…：年月。慷慨…：心が高ぶって嘆き傷む。淒涼…：物寂しい。鳴蟬…：鳴いている蟬。抱…：しがみつく。疎桐…：疎らになった桐。

(中国詩人選集二一四)

参考詩句

- 「薄暮寺橋人獨立，一燈明滅數聲鐘。」(宋・王銍)
- 「細詠新來木犀句，一燈明滅夜沉沉。」(宋・楊萬里)
- 「歸夢不知湖水闊，夜來還到洛陽城。」(唐・戎昱)
- 「歸夢不知江水隔。煙帆飛過平如席。」(宋・方岳)

★宋 王安石

姑胥郭

姑胥郭

誤褫雲巾別故山

誤つて雲巾を褫いで 故山に別る

抵吳由越兩間關

吳に抵るも 越に由るも 兩つながら間関たり

千家漁火秋風市

千家の漁火 秋風の市

一葉歸舟暮雨灣

一葉の歸舟 暮雨の灣

旅病悵悵如困酒

旅病 悵々 酒に困しむが如く

鄉愁脈脈似連環

鄉愁 脈々 環を連ぬるに似たり。

情知帶眼從前緩

情に知る 帶眼の 從前より緩きを

更恐顛毛自此斑

更に恐る 顛毛の 此れ自り斑ならんことを

【語釈】

姑胥郭：姑蘇（江蘇省蘇州市）の城郭外の街。雲巾：隱者のかぶる頭巾。褫：体につけている物を脱ぐ。故山：故郷の山。間関：旅の途中で苦勞をするさま。悵悵：黙っているさま。困酒：悪酔いする。鄉愁：故郷を思つての愁い。脈脈：絶えず起こってくるさま。連環：連なりあつた珠の輪、解き放せず何処までも続いている古都の喩え。情知：確かにそうだと知る。帶眼：帯の留め穴。顛毛：頭頂の毛。自：～から。

（中国詩人選集二 4）

★宋 王安石

題齊安壁

齊安の壁に題す

日淨山如染

日は淨く山は染まるが如く

風暄草欲薰

風は暄しく草は薰せんと欲す

梅殘數點雪

梅は残す 数点の雪

麥漲一溪雲

麥は漲ぎる 一溪の雲

【語釈】

薰…良い香りがするさま。漲…一杯に広がる。

★宋 王安石

梅花

梅花

牆角數枝梅

牆角 数枝の梅

凌寒獨自開

寒を凌ぎて 独自に開く

遙知不是雪

遙かに知る 是れ雪ならざるを

爲有暗香來

暗香の 来たれる 有るが為なり

【語釈】

牆角…垣根のかど。牆…垣根。凌…しのぐ寒…さむさ。獨自…じぶんひとり。遙知…はるかに離れていても分かる。不是…はくではない。爲有…があるため。暗香…どこからともなく漂ってくる香り。

(宋詩選)

(詩詞世界)

★宋 王安石

散髮一扁舟

散髮一扁舟

散髮一扁舟

散髮一扁舟

夜長眠屢起

夜は長くして眠り屢起く

秋水瀉明河

秋水に明河泻ぎ

迢迢藕花底

迢々たり藕花の底

愛此露的皦

此の露の的皦たるを愛し

復憐雲綺靡

復た雲の綺靡なるを憐われむ

諒無與歌絃

諒に与に歌絃するもの無けれども

幽獨亦可喜

幽独も亦た喜ぶべし

【語釈】

散髮：役人を辞めること。秋水：秋の清らかな水。明河：天の川。迢迢：遠く遙かなさま。藕花：蓮。的皦：きらきら輝くさま。綺靡：はなやかに美しいさま。諒無：まことにくれないけれども、諒は、次に述べられることを確認する副詞。幽獨：閑に独り住まいする。

(中国詩人選集二一四)

★宋 王安石

北山帰暮示道人

北山に暮に帰り道人に示す

千山復萬山

千山復た万山

行路有無間

行路は有無の間

花發蜂遞繞

花は発いて蜂は遞に繞り

果垂猿對攀

果は垂れて猿は對して攀ず

獨尋寒水度

獨り寒水を尋ねて度り

欲趁夕陽還

夕陽を趁いて還らんと欲す

天黒月未上

天黒くして月未だ上らず

兒童初掩關

兒童初めて関を掩う

【語釈】

北山：鐘山のこと。道人：僧。有無間：有るとも無いともいえないような状態。  
遞：つぎつぎと。對：二匹ならんで。攀：引つ張る。趁：おいかけて。掩：閉じ  
る。

★宋 王安石

静憩即事

静かに憩う即事

徑暖草如積

徑は暖かくして草は積むが如く

山晴花更繁

山は晴れて花は更に繁げる

縱横一川水

縱横 一川の水  
いっせん

高下數家村

高下 數家の村  
こうか

靜憩鷄鳴午

静かに憩えば鷄は午に鳴き  
ひる

荒尋犬吠昏

荒に尋ねれば犬は昏に吠ゆ  
くれ

歸來向人説

歸り来たりて人に向つて説く

疑是武陵源

疑うらくは是れ武陵源なるかと  
ぶりようげん

【語釈】

縱横：真つ直ぐでなく、縦横に蛇行しているさま。高下…山の斜面に点在しているさま。荒：荒地。武陵源：桃源郷のこと、武陵の地の傳説。



★宋 蘇軾

贈東林總長老

東林の総長老に贈る

溪聲便是廣長舌

溪聲は便ち是れ広長舌

山色豈非清淨身

山色は豈に清淨身に非ずや

夜來八萬四千偈

夜來 八万四千偈

他日如何舉似人

他日如何んぞ人に舉似せん

【語釈】

東林：東林寺、廬山の南麓に西林寺と並んである。廣長舌：釈迦の説法。清淨身：佛菩薩の清淨の身。八万四千：数の多いこと、仏典によく見える。舉似：他人に示し告げること。似：助辞。

（漢詩大系17）

★宋 蘇軾

初冬作贈劉景文

初冬の作劉景文に贈る

荷盡已無擎雨蓋

荷は尽きて 已に雨を擎ぐるの蓋無く

菊殘猶有傲霜枝

菊は残して 猶お霜に驕るの枝あり

一年好景君須記

一年の好景君 須らく記すべし

正是橙黃橘綠時

正に是れ 黄橙橘緑の時

【語釈】

劉景文：劉季孫のこと、景文は字、父は北宋の將軍。荷：蓮。擎：持ち上げる。差し上げる。蓋：かさ。残：そこなわれる。すたれる。猶有：なおがある。傲霜：霜にあっても枯れない。傲：ものともしない。須：すべきである。黄橙橘緑：橙が黄色くなり、橘が緑色になるころ、初冬の小春日和の時節、この詩を語源とする成語になっている。

（漢文大系 17）

★宋 蘇軾

山村

山村

煙雨濛濛鷄犬聲

煙雨濛々として 鷄犬の聲あり

有生何處不安生

有生 何れの処か 生を安んぜざる

但教黃犢無人珮

但だ黃犢をして 人の珮ぶを無から教めば

佈穀何勞也勸耕

佈穀 何ぞ勞せん 也た耕を勸をむるに

【語釈】

煙雨：霧雨。濛濛：鷄犬聲：平和な農村の様。有生：この世に生を受けたあらゆる物。黃犢：子牛。珮：帶玉。佈穀：カツコウ、佈穀（二種を播け）と農耕を勧めるという。

（転句、結句には、故事、風刺有り）

（漢詩大系17 「山邨」に作る）

★宋 蘇軾

望海樓晚景五絶其二

望海樓の晚景五絶 其二

横風吹雨入樓斜

横風 雨を吹き 樓に入りて斜めなり

壯觀応須好句誇

壯觀 応に須らく好句もて誇るべし

雨過潮平江海碧

雨過ぎ 潮平らかにして 江海 碧なり

電光時掣紫金蛇

電光 時に掣く 紫金の蛇

【語釈】

望海樓：望湖樓のこと、西湖畔の建物。横風：横様に吹く風。吹雨：雨を吹きつける。壯觀：おおきく立派な眺め。応須：本当に：すべきである。好句：良い詩。誇：ほめる。江海：川と湖。碧：あおみどり。電光：稲光時：ときどき。掣：ぱつと光る，引く・紫金：純粹の金。

（漢詩大系 17）

★宋 蘇軾

望海樓晚景

望海樓の晚景

青山斷處塔層層

青山断ゆる処 塔層々

隔岸人家喚欲應

岸を隔つる人家 喚べば応えんと欲す

江上秋風晚來急

江上の秋風晚に來ること急なり

為傳鐘鼓到西興

為に鐘鼓を伝えて西興に到る

【語釈】

望海樓…西湖近く鳳凰山の中腹にある樓で望潮樓とも呼ばれた。晚景…夕暮れの景色。青山…青緑の山。層層…幾重に重なっていること。鐘鼓…鐘と鼓の音。

(蘇軾詩集一)

★宋 蘇軾

梅花二首 其一

梅花二首 其一

春來幽谷水潺潺

春來 幽谷 水潺潺

的皜梅花草棘間

的皜たる梅花 草棘の間

一夜東風吹石裂

一夜 東風石を裂いて吹き

半隨飛雪度關山

半ば飛雪に従って関山を渡る

【語釈】

春來…春が来る。幽谷…奥深い谷。潺潺…浅い水の流れるさま、さらさら。的皜…鮮明なさま。草棘…草やいばら。東風…春風。關山…関所のある山、国境の山。

★宋 蘇軾 中秋月

中秋の月

暮雲收盡溢清寒

暮雲 収まり尽きて 清寒溢る

銀漢無聲轉玉盤

銀漢 声なく 玉盤を転ず

此生此夜不长好

此の生 此の夜 長に好からず

明月明年何處看

明月 明年 何れの処にか看ん

【語釈】

暮雲：暮れの雲。收盡：すっかりなくなる。清寒：清らかな寒さ。銀漢：銀河。日暮れ方、雲はすっかり無くなって、さわやかな涼気がみなぎり、玉盤：月のこと。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾 溪陰堂

溪陰堂

白水滿時雙鷺下

白水満る時 双鷺下る

綠槐高處一蟬吟

緑槐高き処 一蟬吟ず

酒醒門外三竿日

酒は醒む門外三竿の日

臥看溪南十畝陰

臥して看る溪南十畝の陰

【語釈】

溪陰堂：『溪前堂』ともする、揚州儀真県の東、范氏の園の堂の名。白水：清らかな水。きれいな水。双鷺：つがいになっているサギ。緑槐：青々としたくわい。吟：(セミが)鳴く。酒醒：酒が醒める意。三竿日：日が竹竿を三本つぎ合わせたほどの高さに上(のぼ)る。臥看：寝転んでみる。溪南：谷の南側。十畝：10畝(ほ)ぼ)。約60アール。畝：1畝は約1.82アール。十畝陰：谷一帯の日陰の地を指す。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

夜泛西湖五絕其四

夜西湖に泛ぶ五絶其の四

菰蒲無邊水茫茫

菰蒲 無辺 水茫茫

荷花夜開風露香

荷花 夜開きて 風露香し

漸見燈明出遠寺

漸く見る 燈明の 遠寺に出ずるを

更待月黑看湖光

更に月の黒きを待ちて 湖光を看ん

【語釈】

菰蒲：まこもやがま。茫茫：遠く広がるさま。漸見：長い時間がたつて。燈明：西湖の四聖館の前に、燈明が浮かぶという。風雨の中では一層良く光李、月明の晩にはやや薄く、雷電の時には、稲妻と輝きをあらそったという。湖光：前記燈明のこと。

(漢詩大系 17)

701

★宋 蘇軾

飲湖上初晴後雨

湖上に飲す初め晴後に雨ふる

水光激艷晴方好

水光 激艷として 晴れてまさに好く

山色空濛雨亦奇

山色 空濛として 雨もまた奇なり

欲把西湖比西子

西湖を把て 西子に比せんと欲すれば

淡粧濃抹總相宜

淡粧濃抹 総べて相宜ろし

【語釈】

水光：湖の水面が輝いているさま。激艷：さざ波が揺れているさま。山色：山の色。空濛：朦朧としたさま。奇：独特の趣がある。西施：春秋時代の美女。欲：くしようとする。淡粧：薄化粧。濃抹：厚化粧。相宜：ふさわしい。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

惠崇春江曉景

惠崇の春江曉景

竹外桃花三兩枝

竹外の桃花 三兩枝

春江水暖鴨先知

春江 水暖かにして鴨先ず知る

蒹葭滿地蘆芽短

蒹葭は地に満ち蘆芽は短かし

正是河豚欲上時

正に是れ河豚の上らんと欲する時

【語釈】

惠崇…宋初の画僧。建陽(福建省)の人。北宋山水画の三大家の一人で、特に雁・鷺・鳥などの絵を得意とした、また、詩人でもあり、九僧の一人としても知られる。竹外…竹の生えている向こう側。桃花…桃の花。三兩枝…二、三の枝。春江…春の川。水暖…水がぬるくなる。鴨…鴨の群れ。先知…真つ先に感知する。蒹葭…よもぎの一種、フグの毒を消すという。滿地…一面に生い茂る。蘆芽…蘆…あしの芽、フグの毒を消すという。短…まだ短い。正是…ちょうど今である。河豚…フグ。欲上時…川をさかのぼってくる時期 (漢詩大系17)

★宋 蘇軾

六月二十七日望湖樓醉書

六月二十七日望湖樓にて酔いて書す

黑雲翻墨未遮山

黒雲 墨を翻して未だ 山を遮らず

白雨跳珠亂入船

白雨 珠を跳らせて 乱れて船に入る

卷地風來忽吹散

地を巻き 風来たつて 忽ち吹き散す

望湖樓下水如天

望湖樓下水 天の如し

【語釈】

望湖樓…西湖畔の建物、看経楼とも、先徳楼ともいう。寶石峰にあったというが現在はない。黒雲…黒い(雨)雲。翻…ひっくり返す。反対になる。ひるがえす。遮山…(雨雲が)山を遮(さえぎ)る。白雨…にわか雨、夕立。跳…はねる。珠…真珠。卷地…地面をまきあげる、風の勢いの強いさま。忽…たちまち。吹散…(雨粒を)吹き飛ばす。

★宋 蘇軾 湖上初晴後雨二首其の一

湖上に飲す 初め晴れ後に雨ふる 二首 其の一

朝曦迎客艷重岡

朝曦客を迎えて 重岡に艶なり

晚雨留人入醉郷

晚雨人を留めて 醉郷に入らしむ

此意自佳君不會

此の意自ら佳なるに 君会せずや

一杯當屬水仙王

一杯 当に水仙王に属すべし

【語釈】

朝曦：朝日。客：自分のこと。留人：帰ろうとする人（自分）を引き留める。醉郷：『醉郷記』に有るような世界。意：酔い気持ち。転句：陶淵明の「飲酒其の五」をふまえるか？

（漢詩大系 17）

★宋 蘇軾 和楊公濟梅花十絶 其五 再び楊公濟の梅花十絶に和す其の五

春入西湖到處花

春は入る 西湖 到處の花に

裙腰芳草抱山斜

裙腰芳草 山を抱きて斜めなり

盈盈解珮臨煙浦

盈盈として 珮を解き 煙浦に臨み

脈脈當壚傍酒家

脈々として 當壚 酒家に傍う

【語釈】

楊公濟：楊蟠、浙江省台州市の人、蘇軾と詩の交換があった。裙腰：細くて長い道。盈盈：女性の容姿のしなやかさま。解珮：故事。煙浦：靄のかかっている浦。脈脈：情を含んで相見るさま。當壚：酒屋の店番をする。

（續国譯漢文大成 蘇東坡詩集 四）

★宋 蘇軾 和黃龍清老三首 其一 黃龍清老に和す三首 其一

萬山不隔中秋月 萬山隔ばんざんてず 中秋の月

一雁能傳寄遠書 一雁能く伝えて 遠書を寄す

深密伽陀枯戰筆 深密しんみつ 伽陀かだ 枯戰こせんの筆ひつ

真誠相見問何如 真誠 相見て 問う何如ん

【語釈】

黃龍：黃龍山、寧州（現在の雲南省の部分を分割した州）の西にある山。深密：解深密經の略。伽陀：諷誦：暗唱して唱える。枯戰筆：躍動で震えた筆跡。真誠：…本当に。相見：…会って。

（續国譯漢文大成 蘇東坡詩集 六）

★宋 蘇軾 陌上花 清平調引 其一 陌上花 清平調引 其一

陌上花開蝴蝶飛 陌上花はくじょうか開ひらくいて 蝴蝶かちょう飛とぶ

江山猶是昔人非 江山は猶お是せにして 昔人せきじんは非なり

遺民幾度垂垂老 遺民 幾度いくどか 垂々すいすいとして老い

遊女長歌緩緩歸 遊女は長く歌う「緩緩かんかんとして帰れ」と

【語釈】

陌上：路辺。江山：山河。猶是：…もとのまま。遺民：呉や越に仕えた人。幾度：…年を重ねる毎に。垂垂：次第に。遊女：遊びに来ている女達。緩緩：ゆるゆる。

（中国詩人選集二―5）



★宋 蘇軾

書李世南所畫秋景

李世南の画く所の秋景に書す

野水參差落漲痕

野水參差として漲痕落ち

疎林欹倒出霜根

疎林欹倒して霜根を出す

扁舟一棹歸何處

扁舟一棹何処にか帰る

家在江南黄葉村

家は江南黄葉の村に在り

【語釈】

李世南…北宋の画家、字は唐臣、山水画に巧み。・野水…野中の流れ。參差…長短不揃いのさま。落…減る。漲痕…増水時、水が漲った時の痕かた。疎林…樹木のまばらな林。欹倒…かたむきたおれたさま。敬…かたむく霜根…霜の降りた。扁舟…小舟。棹…さお。江南…長江下流の南側の地方。

(中国詩人選集二―6)

★宋 蘇軾

山村五絶 其三

山村五絶 其三

老翁七十自腰鎌

老翁七十自ら鎌を腰にし

慚愧春山筍蕨甜

慚愧す春山筍蕨の甜きを

豈是聞韶解忘味

豈に是れ韶聞て解く味を忘るるならんや

邇來三月食無鹽

邇來三月食に塩無し

【語釈】

慚愧…羞じること。この場合は、有りがたく思う気持ちをつくめて、「なんとまあ」と感嘆を示す俗語。筍蕨…タケノコとわらび。甜…美味である。豈是…どうして(反語)。聞韶…孔子が、舜の音楽である韶を聴いて、三月の間、肉の味を忘れるほど感動したという故事による。解…能と意。邇來…それより。食無鹽…王安石が塩の密売を取り締まった為に、塩が買えなくなつた。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

東欄梨花

東欄の梨花

梨花淡白柳深青

梨花は淡白にして 柳は深青

柳絮飛時花滿城

柳絮 飛ぶ時 花城に満つ

惆悵東欄一株雪

惆悵す 東欄 一株の雪

人生看得幾清明

人生 看得るは 幾清明

【語釈】

東欄：密州の官舎の東側の欄干。梨花：梨の花。淡白：淡い白色。深青：深い緑色。柳絮：柳の白い綿毛のついた種子。花滿城：町は花ですっかり埋まってしまう。城：城壁で囲まれた町。惆悵：嘆き悲しむこと。傷み悲しむこと。東欄：密州の官舎の東側の欄干。株雪：一本の梨の木の花を雪に喩えている。清明：二十四節気の一つ。春分から十五日目。看得：見ることができる。  
(Web 漢文大系)

★宋 蘇軾

題西林壁

西林の壁に題す

橫看成嶺側成峰

横より看れば嶺を成し 側よりすれば峰と成る

遠近高低總不同

遠近 高低 総て 同じからず

不識廬山真面目

廬山の真面目を識らざるは

只緣身在此山中

只だ身の此の山中に在るに緣る

【語釈】

西林：西林寺、廬山（江西省九江市南部）のふもとに西林寺と東林寺があった。題壁：壁に詩を書きつけること。横看：横の方から眺めわたすと。成嶺：連なつた山になる。側：そば。成峰：鋭く聳える峰となる。廬山：山の名、江西省九江市の南方にある。真面目：本来の姿。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

東坡

東坡

雨洗東坡月色清

雨は東坡を洗いて月色清し

市人行盡野人行

市人は行き尽くして野人行く

莫嫌犖确坡頭路

嫌う莫かれ 犖确 坡頭の路

自愛鏗然曳杖聲

自ら愛す鏗然たる杖を曳く声

【語釈】

東坡：地名（蘇軾が自ら名付けた）。市人：城内の人。野人：城外の人、農民。  
犖确：山の石が角張っている形容。坡頭：堤の上。鏗然：金属などがカラカラなる音。

（中国詩人選集二一五）

★宋 蘇軾

吉祥寺賞牡丹

吉祥寺にて牡丹を賞す

人老簪花不自羞

人は老いて花を簪し 自らは羞じず

花應羞上老人頭

花は応に羞ずべし 老人の頭に上るを

醉歸扶路人應笑

酔歸路に扶けらるるを 人 応に笑うべし

十里珠簾半上鉤

十里の珠簾半ば 鉤に上せらる

【語釈】

吉祥寺：杭州にあった寺院名、ボタンの名所。賞：見て楽しむ。簪：かんざしをさす。不自：別に～とは思わない。酔歸：酔って帰ること。扶：支える。応：応に～すべし、当然：であろう。珠簾：玉スダレ。鉤：簾をとめるかぎ。

（中国詩人選集二一五）

★唐 蘇軾

食荔枝

荔枝を食す

羅浮山下四時春

羅浮山下 四時の春

盧橘楊梅次第新

盧橘 楊梅 次第に新たなり

日啖荔枝三百顆

日に荔枝を啖うこと 三百顆

不辭長作嶺南人

辭せず 長へに嶺南の人と作るを

【語釈】

荔枝：中国南方原産の果物。羅浮山：広東省惠州市と広州市との中間点の博羅にある山の名、道教の十大名山の一。四時：春夏秋冬の四つの季節の総称。・盧橘：金柑。楊梅：ヤマモモ。次第：つぎつぎと。啖：食う。顆：つぶ。不辭：い  
とわない。長作：永遠にくとなる。嶺南人：広東人。  
(序あり) (漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

和孔密州五絶 其三 東欄梨花

孔密州の五絶に和す 其三 東欄の梨花

梨花淡白柳深青

梨花は淡白にして 柳は深青

柳絮飛時花滿城

柳絮飛ぶ時 花城に満つ

惆悵東欄一株雪

惆悵す 東欄 一株の雪に

人生看得幾清明

人生 幾たびの清明をか看得ん

【語釈】

孔密州：蘇軾の後任として密州の知事になった孔宗翰のこと。

【語釈】

欄：花でぐるりと囲まれた柵。惆悵：悲しく物思いにふけるさま。清明：二十四節気のひとつ、陽暦4月5日又は6日。

★宋 蘇軾

春夜

春夜

春宵一刻值千金

春宵一刻值千金

花有清香月有陰

花に清香有り 月に陰有り

歌管樓臺聲細細

歌管樓台 声細々

鞦韆院落夜沈沈

鞦韆院落 夜沈々

【語釈】

春宵：春のよい。一刻：わずかな時間。値：ねうち。千金：膨大な金。清香：清らかな香。陰：かすんでいること。歌管：歌声や管楽器の音。声細細：かすかな声。鞦韆：女性が乗って遊ぶぶらんこ。院落：中庭。夜沈沈：夜がしんしんと更けていくさま。

(中国詩人選集二二六)

集外詩

★宋 蘇軾

澄邁驛通潮閣

澄邁驛の通潮閣

餘生欲老海南村

余生老いと欲す 海南の村

帝遣巫陽招我魂

帝 巫陽をして 我が魂を招かしむ

杳杳天低鶻沒處

杳々として 天低れ 鶻の没する処

青山一髮是中原

青山一髮 是れ中原

【語釈】

澄邁驛：海南島の北岸、海南省澄邁県の宿駅。通潮閣：澄邁駅にあつた楼閣。余生：残りの人生。欲老：老いの人生を送るつもりである。海南村：海南島の村。「帝」：天帝、ここでは時の皇帝徽宗。巫陽：巫女の名、屈原の靈魂がさまよつているのを天帝が憐れんで、巫陽に命じてその靈魂を呼び戻させた故事による。遣：「遣AB」の形で「AをしてB(せ)しむ」と読み、「AにBさせる」と訳す。杳々：はるか遠いさま。天低：大空が水平線において来ているさま。鶻：はやぶさ。没：消える。隠れる。青山一髮：髪一筋のように見える青い山並み。中原：ふつうは中国の中心とされる黄河中流域。

★宋 蘇軾

新城道中二首其一

新城道中二首其一

東風知我欲山行

東風 我が山行せんと欲するを知り

吹斷簷間積雨聲

吹断す 簷間 積雨の聲

嶺上晴雲披絮帽

嶺上の晴雲は 絮帽を披らせ

樹頭初日挂銅鉦

樹頭の初日は 銅鉦を挂く

野桃含笑竹籬短

野桃は笑みを含みて 竹籬短かく

溪柳自搖沙水清

溪柳は自ら揺れて 沙水清し

西崦人家應最樂

西崦の人家 応に最も樂しむべし

煮芹燒筍餉春耕

芹を煮て 筍を燒き 春の耕に餉す

【語釈】

東風…春風。吹斷…吹きちぎる。簷間…のきば。積雨…ながさめ。絮帽…わたぼ  
うし。初日…朝日。挂…ぶら下げる。銅鉦…どら。溪柳…谷の岸の柳。沙水…渚  
の水。西崦…西の山。春耕…春の農作業。餉…弁当を作る。

★宋 蘇軾

除夜野宿常州城外二首之一 除夜常州城外に野宿す 二首

の

行歌野哭兩堪悲

行歌 野哭 両ながら悲しむに堪えたり

遠火低星漸向微

遠火 低星 漸く微に向かう

病眼不眠非守歲

病眼 眠らず 歳を守るにはあらず

鄉音無伴苦思歸

鄉音 伴なく 苦に帰るを思ふ

重衾脚冷知霜重

重衾 脚冷かにして 霜の重きを知り

新沐頭輕感髮稀

新沐 頭軽くして 髮の稀なるを感ず

多謝殘燈不嫌客

多謝す 殘燈 客を嫌わず

孤舟一夜許相依

孤舟 一夜 相依るを許すに

【語釈】

常州：江蘇省常州市。行歌：通行者が歌う歌。野哭：野原の泣き声、死者の葬式。向微：だんだん微少になる。守歳：元旦の夜明けまで起きていること。重衾：何枚も重ねた掛け布団。殘燈：消えかかったともしび。許：わざわざしてくれらる。

(中国詩人選集二一五)

★宋 蘇軾

正月二十日、往岐亭、郡人潘、古、郭、三人送余於女王城  
東禪莊院

正月二十日、岐亭に往く、郡人潘、古、郭の三人、余を女王城東の禪莊院に送る

十日春寒不出門

十日春寒 門を出でず

不知江柳已搖村

知らず江柳 已に村に揺らぐを

稍聞決決流水谷

稍や聞く決々 氷谷に流るるを

盡放青靑沒燒痕

尽く青々を放ちて 燒痕を沒す

數畝荒園留我住

數畝の荒園 我を留めて住ましめ

半瓶濁酒待君溫

半瓶の濁酒 君を待ちて温む

去年今日關山路

去年今日 關山の路

細雨梅花正斷魂

細雨 梅花 正に魂を断つ

【語釈】

春寒：春のまだ浅い頃の寒さ。江柳：川辺の柳。稍：だんだんに、次第に。決決：さらさらと水の流れる音。氷谷：凍った谷。燒痕：野の草を焼いた痕。半瓶：瓶の半分。関山：関所のある山。

(續国譯漢文大成 文学部 第16卷)



★宋 蘇軾

雪後書北臺壁二首其一

黃昏猶作雨纖纖

黃昏猶お雨纖々たるを作し

夜靜無風勢轉嚴

夜靜かにして風無きも勢転た嚴なり

但覺衾裯如潑水

但だ覺ゆ衾裯水を澆するが如く

不知庭院已堆鹽

知らず庭院已に塩を堆するを

五更曉色來書幌

五更曉色書幌に來たり

半夜寒聲落畫簷

半夜寒聲画簷に落つ

試掃北臺看馬耳

試みに北台を掃つて馬耳を看れば

未隨埋沒無雙尖

未だ埋没に従わずして双尖有り

【語釈】

北臺：城壁を利用した見晴台。黄昏：夕暮れ。纖纖：細いさま。轉：いよいよ。嚴：厳しい激しい。衾裯：掛け布団と単衣の寝間着。潑：水をぱつとばらまく。鹽：雪のたとえ。五更：明け方。曉色：雪が晴れて半月に照らされた月明かり。書幌：書齋。寒聲：かりがねの声（李白詩：「北風海雁吹南渡落寒声」。畫簷：彩色された軒。馬耳：馬耳山。雙尖：二つのとんがり。

（漢詩大系 17）

★宋 蘇軾

予以事繫御史臺獄，獄吏稍見侵，自度不能堪，死獄中，不得一別子由，故作二詩授獄卒樛成，以遺子由，二首其一

予事を以つて御史台の獄に繋がる，獄吏稍見侵さる，自ら度るに堪うる能わず，獄中に死し，子由に一別するを得ざらんと，故に二詩を作り獄卒樛成に授け，以つて子由に遺る，二首其一

聖主如天萬物春

聖主 天の如く 万物春なるに

小臣愚暗自亡身

小臣は 愚暗にして 自ら身を亡ぼす

百年未滿先償債

百年 未だ満たず先ず債を償い

十口無歸更累人

十口 帰る無く 更に人を累せん

是處青山可埋骨

是の処 青山骨を埋ずむ可し

他時夜雨獨傷神

他時 夜雨 独り 神を傷ましめん

與君今世為兄弟

君と 今世 兄弟と為り

又結來生未了因

又 結ばん 來生 未了の因を

【語釈】

御史臺：高級官僚を監督する役所。稍見侵：ことさら過酷に扱うように指示をうける。獄卒樛成：樛成問烏なの獄吏。聖主：聖明なる天子。天：恵みをもたらす天。償債：過去の罪を消すこと。十口：十人の家族。累：迷惑をかけること。青山：青緑の山。神：こころ。未了因：この世では尽きることがなかった因縁。

(漢詩大系17)

★宋 蘇軾

病中遊祖塔院蘇軾

病中祖塔院に蘇軾と遊ぶ

紫李黃瓜村路香

紫李 黃瓜 村路香ばし

烏紗白葛道衣涼

烏紗 白葛 道衣涼し

閉門野寺松陰転

門を閉す野寺は 松陰に転じ

欹枕風軒客夢長

枕を風軒に欹てて 客夢 長し

因病得閑殊不悪

病に因つて閑を得たるは 殊に悪しからず

安心是薬更無方

安心 是れ薬なり 更に方無なし

道人不惜階前水

道人は 階前 水を惜まずして

借與匏樽自在嘗

匏樽を借与して 自在に嘗めしむ

【語釈】

紫李：紫色の李。黄瓜：きゅうり。烏紗：烏紗帽（黒色の帽子）。白葛：白色の葛布。道衣：官僚などの平服。風軒：風通しの良い家。客夢：うたた寝。安心：心を安んずること。方：薬の処方の方。道人：法師。匏樽：茶碗。

（蘇東坡詩集 第三冊）

★宋 蘇軾

和子由澗池懷舊

子由の澗池懷旧に和す

人生到處知何似

人生 到る處 知んぬ 何にか似たる

應似飛鴻踏雪泥

應に 飛鴻の 雪泥を踏むに 似たるべし

泥上偶然留指爪

泥上 偶然として 指爪を留むるも

鴻飛那復計東西

鴻飛ばば 那ぞ復た 東西を計らん

老僧已死成新塔

老僧は 已に死して 新塔を成し

壞壁無由見舊題

壞壁は 旧題を 見るに由無し

往日崎嶇還記否

往日の崎嶇 還た記するや否や

路長人困蹇驢嘶

路長く 人困しみ 蹇驢嘶きしことを

【語釈】

子由：弟の蘇轍の字。澗池：県名、河南省、洛陽の西約90キロにある。懷旧：昔のことをしのぶ。人生：人の一生。到処：行く先々。知何似：何に似ているだろうか。知：疑問、いつたいうだろうかの意。応：「まさにすべし」と読み、「きつとくであろう」と訳す。飛鴻：舞い降りた鴻。雪泥：雪解けの泥。泥上：泥の上に。指爪：爪のあと。留：残している。那：「なんぞ」と読み、「どうして〜か（いや〜ではない）」と訳す。反語を表す。計東西：東へ行ったのか西へ行ったのか推し量る。老僧：五年前、兄弟で澗池の寺に泊めてもらった時、世話になった老僧のこと。名を奉閑といった。新塔：新たに立てた老僧の石塔。壞壁：くずれた寺の壁。旧題：五年前、二人が寺の壁に書きつけた詩。無由見：見つけるすべもない。往日：あの日。昔日。崎嶇：山道が険しく、歩きにくいさま。還：いまもなお。記：記憶する。否：文末に付いて、「そうなのか、違うのか」と聞くときの言葉。路長：道は遠く。人困：人は疲れ。蹇驢足の不自由な驢馬。

(漢詩大系17)

★宋 蘇軾

次韻周長官壽星院同錢魯少卿

周長官が壽星院にて同じく魯少卿を餞するに次韻す

琉璃百頃水仙家

琉璃百頃水仙の家

風靜湖平響釣車

風靜かに湖平かにして釣車響く

寂歷疎松敲晚照

寂歷たる疎松 晩照を敲て

伶俚寒蝶抱秋花

伶俚たる寒蝶 秋花を抱く

困眠不覺依蒲褐

困眠して覺えず 蒲褐に依ることを

歸路相將踏桂華

歸路 相將ちて桂華を踏む

更著綸巾披鶴氅

更に綸巾を著けて鶴氅を披る

他年應作畫圖誇

他年応に画図と作して誇るべし

【語釈】

周長官：錢塘県の令である周邠。壽星院：杭州の北、葛嶺にあつた寺院。魯少卿：魯有開。琉璃：青色の寶石、ここでは湖。百頃：広さが広いこと。水仙家：水仙は水の女神。釣車：釣り竿のリール。寂歷：草木がまばらで物寂しいさま。疎松：まばらな松。伶俚：孤独で頼りなく物寂しいさま。困眠：疲れて眠ること。蒲褐：円座、僧侶の座具。桂華：月光。綸巾：青い絹の布で作つた頭巾、諸葛孔明がかぶつた物。鶴氅：鳥の羽で作つた衣服。畫圖：絵画。

★宋 蘇軾

是日宿水陸寺，寄北山清順僧二首 其一

是の日に水陸寺に宿し、北山の清順僧に寄す 二首 其一

草没河隄雨暗村

草は河隄に没し雨は村に暗し

寺藏脩竹不知門

寺は脩竹に蔵れて門を知らず

拾薪煮藥憐僧病

薪を拾いて藥を煮僧の病を憐れみ

掃地焚香淨客魂

地を掃き香を焚きて客の魂を淨む

農事未休侵小雪

農事未だ休まざるに小雪を侵し

佛燈初上報黃昏

佛灯初めて上りて黃昏を報ず

年來漸識幽居味

年來漸く識る幽居の味

思與高人對榻論

高人と榻を対して論ぜんことを思ふ

【語釈】

水陸寺：杭州城外の寺。北山：西湖北部の寺。清順：詩僧で王安石とも交わりがあった。河隄：蘇軾が開いた運河？。脩竹：長い竹。客：蘇軾のこと。小雪：二十四節気の一（陰曆十一月）。幽居：世のわずらわしさを避けて静かにくらすこと。高人：清順のこと。榻：長椅子。

（中国詩人選集二一五）

★宋 蘇軾

正月二十日、與潘、郭二生出郊尋春、忽記去年是日同至女  
王城作詩、乃和前韻

正月二十日、潘郭二生と郊を出で春を尋ぬ、忽ち記す去年是の日同じ

く女王城に至りて詩を作る、乃ち前韻に和す

東風未肯入東門

東風 未だ肯えて 東門に入らず

走馬還尋去歲村

馬を走らせて 還た尋ぬ 去歳の村

人似秋鴻來有信

人は秋鴻に似て 来りて信有り

事如春夢了無痕

事は春夢の如く 了に痕無し

江城白酒三杯釀

江城の白酒 三杯の釀

野老蒼顏一笑溫

野老の蒼顏 一笑の温

已約年年為此會  
故人不用賦招魂

已に約す 年々 此の会を為さんと  
故人 用いず 招魂を賦するを

【語釈】

東風：春風。去歲：昨年。秋鴻：秋の鴻。釀：すっぱい。招魂：屈原の招魂賦

(續国譯漢文大成)

★宋 蘇軾

新城道中二首其一

新城道中二首其一

東風知我欲山行

東風 我が山行せんと欲するを知りて

吹斷簷間積雨聲

吹断す 簷間の積雨の聲

嶺上晴雲披絮帽

嶺上の晴雲は 絮帽を披むり

樹頭初日挂銅鉦

樹頭の初日は 銅鉦を挂く

野桃含笑竹籬短

野桃 笑を含みて 竹籬短かく

溪柳自搖沙水清

溪柳 自ら揺れて 沙水清し

西崦人家應最樂

西崦の人家 応に最も樂しむべし

煮芹燒筍餉春耕

芹を煮 筍を燒きて 春耕に餉す

【語釈】

新城…今の新登、杭州の西南にあり。積雨…降り続いた雨。嶺上…峠。絮帽…綿帽子。披…ひつかぶる。初日…出たばかりの太陽。銅鉦…どら。挂…ひつかける。沙水…砂を流れる水。西崦…西の山。春耕…春に農作業をしている人。餉…人に送ること。

(中国詩人選集二―5)



★宋 蘇軾

自興國往筠，宿石田驛南二十五里野人舍

興國よ自り筠よに往き、石田驛南二十五里の野人の舍に宿る

溪上青山三百疊

溪上けいじょうの青山 三百疊

快馬輕衫來一抹

快馬 輕衫けいさん 來つて一抹いちまつす

倚山脩竹有人家

山よに倚る脩竹しゅうちく 人家に有り

横道清泉知我渴

道みちに横たわる清泉 我わがが渴かつを知る

芒鞋竹杖自輕軟

芒鞋ぼうい 竹杖あし 自おのずから輕軟

蒲薦松床亦香滑

蒲薦ぼせん 松牀しょうじょう 亦また香滑こうかつ

夜深風露滿中庭

夜深よるけて 風露 中庭ちゅうていに満つ

惟有孤螢自開闔

惟ただだ 孤螢こていの自おのずから開闔かいこつする有り

【語釈】

輕衫：軽い着物。一抹：ひとなすり、さつと行くさま。脩竹：竹藪。芒鞋：すすきで出来たわらじ。輕軟：軽やかなさま。蒲薦：ガマで出来たむしろ。松床：松で出来た寝台。香滑：滑らかで香りが良い。開闔：明滅。

(續国譯漢文大系 蘇東坡詩集 三)

参考図書

中国文学歳時記 夏 黒川洋一他編 同朋舎  
(詩詞世界)

★宋 蘇軾

泗州除夜雪中黃師是送酥酒二首其一

泗州除夜雪中、黃師是送酥酒を送る 二首其一

暮雪紛紛投碎米

暮雪 紛紛 碎米を投じ

春流咽咽走黃沙

春流 咽々 黃沙に走る

舊遊似夢徒能說

旧遊 夢を似つて 徒らに能く説き

逐客如僧豈有家

逐客 僧の如く 豈に家有らんや

冷硯欲書先自凍

冷硯 書かんと欲すれば 先ず自ら凍り

孤燈何事獨生花

孤灯 何事ぞ 独り花を生ずる

使君夜半分酥酒

使君 夜半 酥酒を分かつ

驚起妻孥一笑譁

妻孥を驚起して 一笑譁し

【語釈】

泗州：江蘇省淮安市。黃師是：陳州の人で蘇轍の共となり、蘇軾の友人でもあった。碎米：雪の形容。酥酒：酒の異名。咽咽：太鼓の音の重なるさま。逐客：追放された家臣（蘇軾自身）。使君：刺史。妻孥：妻子。

（續国譯漢詩大成

蘇東坡詩集 三三）

★宋 蘇軾

八月七日初入贛過惶恐灘

八月七日 初めて贛に入り惶恐灘を過ぐ

七千里外二毛人

七千里外 二毛の人

十八灘頭一葉身

十八灘頭 一葉の身

山憶喜歡勞遠夢

山は 喜歡を憶いて 遠夢を勞し

地名惶恐泣孤臣

地は 惶恐と名づけて 孤臣を泣かしむ

長風送客添帆腹

長風は 客を送りて 帆腹に添い

積雨浮舟減石鱗

積雨は 舟を浮かべて 石鱗を減ず

便合與官充水手

便え合に官の與に 水手に充てられるべくも

此生何止略知津

此生 何ぞ止だ 略ぼ津を知るのみならんや

【語釈】

贛：贛江、江西省を北へ流れ鄱陽湖に入る。惶恐灘：贛江を万安県から遡って贛県につくまでの難所の一つ。七千里：開封の都から偏謫の地惠州までの距離（実際は二千三百里）。二毛：頭に白髪が交じること。十八灘：難所の数。一葉：一つの小舟に乗ること。喜歡：「錯喜歡舖」のこと、旅人が山路がそこでなだらかになったと勘違いして喜ぶ場所にある舖（宿場）。勞：人に世話をかけること。遠夢：遠い地を夢見ること。孤臣：よるべを失った臣下。長風：遠くから吹いてくる風。積雨：長く降り続く雨。石鱗：流れる水が立てる鱗のような波。減石鱗：推量が増して危険な岩を深く沈めること。充：役目を与えられる。水手：水先案内人。津：渡し場

（漢詩大系17）

★宋 蘇軾

倦夜

けんや

倦枕厭長夜

けんちん 長夜を厭う

小窗終未明

しょうせう 終に未だ明らかならず

孤村一犬吠

こせん 一犬吠え

殘月幾人行

ざんげつ 幾人か行く

衰鬢久已白

すいびん 久しく已に白し

旅懷空自清

りよかい 空しく自ら清し。

荒園有絡緯

こうえん 絡緯有り

虚織竟何成

きよしよく 竟に何をか成す

【語釈】

倦夜：眠りにつけず寢明かした夜。倦枕：寝る枕。旅懷：旅の思い。絡緯：こおろぎ。虚織：からおり。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

太白山下早行，至橫渠鎮，書崇壽院壁

太白山下早行して、横渠鎮に至り、崇壽院の壁に書す

馬上續殘夢

馬上に残夢を續ぎ

不知朝日昇

朝日の昇るを知らず

亂山橫翠幃

亂山翠幃横わり

落月澹孤燈

落月孤燈澹わし

奔走煩郵吏

奔走郵吏を煩し

安閑愧老僧

安閑老僧に愧ず

再遊應眷眷

再遊応に眷々たるべし

聊亦記吾曾

聊か亦た吾曾を記せよ

【語釈】

太白山：陝西省の西南部にある山。横渠鎮：陝西省寶雞市眉縣東部。崇壽院：不明。殘夢：明け方近くになつてうとうとしながら見る夢。翠幃：緑の嶺。郵吏：宿場の役人。安閑：安らかで静かな暮らし。眷眷：心にとめて思う慕うさま。

（和漢名詩選評釈）

★宋 蘇軾

過永樂文長老已卒

永樂に過ぎれば 文長老 已に卒せり

初驚鶴瘦不可識

初めは驚く鶴の如く瘦せて 識る可からざるを

旋覺雲歸無處尋

旋ち覺ゆ 雲のごとく歸りて 尋ぬる処無きを

三過門間老病死

三たび門を過ぐる間に 老・病・死

一彈指頃去來今

一斷指の頃 去・來・今

存亡慣見渾無淚

存亡は見るに慣れて 渾て涙無し

鄉井難忘尚有心

鄉井 忘れ難く 尚心有り

欲向錢塘訪圓澤

錢塘に向わんと欲して 円沢を訪う

葛洪川畔待秋深

葛洪の川畔 秋の深るを待たん

【語釈】

永樂… 文長老…蘇軾と同郷の僧。老病死…三回の訪問のうちに、文長老は、老、病、死の三つの相を呈した。一彈指…ひとたび指をはじく程度の短い間。去來今…過去、現在、未来。存亡…生者と死者。鄉井…郷土。錢塘…浙江省杭州市。圓澤…僧の名。葛洪…晋の道士。(典故あり)

(蘇軾詩集 三)

★宋 蘇軾

出潁口初見淮山，是日至壽州

潁口を出で初めて淮山を見る，是の日壽州に至る

我行日夜向江海

我が行日夜 江海に向う

楓葉蘆花秋興長

楓葉 蘆花 秋興長し

長淮忽迷天遠近

長淮 忽ち迷う 天の遠近

青山久與船低昂

青山久しく 船と低昂す

壽州已見白石塔

壽州 已に見る 白石の塔

短棹未轉黃茅岡

短棹 未だ轉ぜず 黃茅の岡

波平風軟望不到

波平かに風軟らかく 望み到らず

故人久立煙蒼茫

故人久しく立たん 煙 蒼茫たるに

【語釈】

潁口：淮水に潁水が流入するところ。淮山：淮水流域の山並。壽州：安徽省壽県。  
江海：江は長江。長淮：長い淮水。低昂：高くなったり低くなったりすること。  
黃茅：黄色い茅。望不到：眺望がきかないこと。故人：親友、ここでは出迎えの人。  
煙：もや。蒼茫：水面などの青々として果てしなく広いさま。

(漢詩大系 17)

★宋 蘇軾

舟中夜起

舟中夜起

微風蕭蕭吹菰蒲

微風蕭蕭として菰蒲を吹く

開門看雨月滿湖

門を開きて雨と看るに月は湖に滿つ

舟人水鳥兩同夢

舟人水鳥 両ながら夢を同じうし

大魚驚鼠如奔狐

大魚 驚鼠するは狐の奔るがごとし

夜深人物不相管

夜深くして人物 相管せず

我獨形影相嬉娛

我独り 形影 相嬉娛す

暗潮生渚弔寒蛭

暗潮 渚に生じて寒蛭を弔い

落月挂柳看懸蛛

落月 柳に掛かりて懸蛛を見る

此生忽忽憂患裏

此の生 忽々として憂患の裏

清境過眼能須臾

清境 眼を過ぎるは能く須臾ならんや

鷄鳴鐘動百鳥散

鷄鳴 鐘動して百鳥散る

船頭擊鼓還相呼

船頭に 鼓を撃ちて還た相呼ばわん

【語釈】

蕭蕭：物寂しいさま。菰蒲：まこもどがま。驚鼠：おどろいて逃げかくれる。人物：人と物。不相管：互いに関わり合いのないこと。形影：身体と影法師。嬉娛：楽しくたわむれる。暗潮：暗闇の中で押し寄せる波。寒蛭：みみず。懸蛛：糸で垂れ下がった蜘蛛。忽忽：すみやかに通り過ぎていく行くさま。憂患：憂い心配すること。清境：清らかな場所。須臾：少しの愛だ。能須臾：しばしの間もとどめることができない（反語）。船頭：舟の舳先。

（漢詩大系 17）



★宋 蘇軾

新城陳氏園、次晁補之韻

新城陳氏の園、晁補の韻に次す

荒涼廢圃秋

荒涼たり 廢圃の秋

寂歷幽花晚

寂歷たり 幽花の晚

山城已窮僻

山城 已に 僻を窮わめ

況與城相遠

況んや 城と相い遠さかるをや

我來亦何事

我來るは 亦た何事ぞ

徙倚望雲巘

徙倚して 雲巘を望む

不見苦吟人

苦吟の人を見ず

清樽為誰滿

清樽 誰が為にか滿つ

【語釈】

新城：現新登、杭州の西南にある県名。晁補：字は無咎、蘇門四学士の一人。廢圃：廢れた園、陳氏園。寂歷：物寂しいさま。幽花：人の目に付かぬ花。山城：山の中の町、新城を言う。徙倚：たちもとる。巘：こしきの形のやま。清樽：酒樽、酒器。

(中国詩人選集二一五)

★宋 蘇軾

和子由踏青

子由の踏青に和す

東風陌上驚微塵

春風陌上微塵を驚かし

遊人初樂歲華新

遊人初めて楽しむ歳華の新たなるを

人閑正好路傍飲

人は閑にして正に路傍の飲に好しく、

麥短未怕遊車輪

麦は短かくして 未だ遊車の輪を怕れず

城中居人厭城郭

城中の居人城郭を厭い

喧闐曉出空四鄰。

喧闐として曉に出でて 四隣空し

歌鼓驚山草木動

歌鼓 山を驚かして 草木動き

簞瓢散野鳥鳶馴

簞瓢 野に散じて 鳥鳶馴る

何人聚衆稱道人

何人ぞ 衆を聚めて 道人と称し

遮道賣符色怒瞋

道を遮ぎり 符を売りて 色 怒瞋す

宜蠶使汝繭如甕

「蚕に宜しきは 汝の繭をして 瓶の如くならしめ

宜畜使汝羊如麋

畜に宜しきは 汝の羊をして 麋の如くならしむ」と

路人未必信此語

路人 未だ必ずしも 此の語を信ぜざるも

強為買服禳新春

強いて為に買ひ服して 新春を祓う

道人得錢徑沽酒

道人 錢を得て 徑に酒を沽い

醉倒自謂吾符神

酔倒して 自ら謂う 「吾が符は神なり」と。

【語釈】

踏青：春の野に遊ぶ行楽。陌：田の間の道路，東西を陌、南北を阡という。微塵  
：小さな塵、砂塵。驚：動かす。遊人：遊び楽しむ人。初：やっと。歳華：年月。  
閑：ひま。遊車：行楽客の車。怕：おそれる。城郭：街での生活。喧闐：人が一  
杯で喧しいさま。四鄰：隣近所。空：空っぽなさま。歌鼓：歌や太鼓の音。簞瓢  
：飯を盛る竹器と酒を入れる瓢箪。烏鶯：からすと鶯。馴：なれる。何人：なに  
ものか。道人：僧侶、道士。符：お札。色：顔色。怒嗔：気力の激しいこと。色  
怒嗔：力んで顔が真っ赤になる。麩：くじか。路人：道を行く人。強：ここでは、  
仕方なくの意。為：（道人）の為に。買服：買って身につける。襪：お祓いをす  
る。酔倒：酔いつぶれる。

（漢詩大系17）

★宋 蘇軾

月夜客與飲酒杏花下

月夜客と杏花の下に飲酒す

杏花飛簾散餘春

杏花 簾に飛んで 余春を散す

明月入戸尋幽人

明月 戸に入つて 幽人を尋ぬ

褰衣步月踏花影

衣を褰げ 月に歩して 花影を踏めば

烟如流水涵青蘋

烟として 流水の青蘋を涵すが如し

花間置酒清香發

花間に置酒すれば 清香発す

爭挽長條落香雪

争でか長條を挽きて 香雪を落さん

山城薄酒不堪飲

山城の薄酒 飲むに堪へず

勸君且吸盃中月

君に勸む 且く吸え 盃中の月

洞簫聲斷月明中

洞簫 声は断ゆ 月明の中

惟憂月落酒盃空

惟だ憂う 月落ちて 酒盃の空しからんことを。

明朝卷地春風惡

明朝 地を巻いて 春風悪しくば

但見綠葉棲殘紅

但だ見ん 緑葉の殘紅を棲ましむるを

【語釈】

余春：晩春。幽人：世を避けて静かに暮らしている人。褰：裾を持ち上げる。烟：明らか。青蘋：青々とした水草。置酒：酒宴を開く。争：どうしてしようか。長條：長い枝。

香雪：白い花の形容。ここでは杏の花をさす。山城：山にある町、いなかの町。洞簫：尺八に似た竹製の吹奏楽器。捲地：大地の砂塵をまきあげる強い風の吹くさま。殘紅：散り残っている赤い花

★宋 蘇軾

初發嘉州

初めて嘉州を発す

朝發鼓闐闐

朝に発して鼓闐々

西風獵畫旃

西風画旃を獵かす

故鄉飄已遠

故郷飄として已に遠く

往意浩無邊

往意浩として無辺なり

錦水細不見

錦水は細にして見えず

蛮江清可憐

蛮江は清くして憐れむべし

奔騰過佛脚

奔騰して仏脚を過ぎ

曠蕩造平川

曠蕩して平川に造る

野市有禪客

野市禪客有り

釣臺尋暮煙

釣台暮煙を尋ぬ

相期定先到

相期す定らず先に到るを

久立水潺潺

久しく立つ水の潺々たるに

【語釈】

闐闐…太鼓の音。畫旃…絵の描かれた旗。獵…動かす。飄…忽ち遠のく。往意…前途にはせる気持。浩…際限もなく広く行方の見定めがたいさま。錦水…長江の上流岷江。蛮江…青衣江と陽山江。奔騰…水が滾り流れること。佛脚…川の急流の場所。曠蕩…広々として窮屈でないさま。平川…平らな川。野市…田舎町。禪客…故郷を離れて旅をしている禪僧。定…きつと。潺潺…さらさらと水が流れるさま。

★宋 蘇軾

梵天寺見僧守詮小詩清婉可愛、次韻

梵天寺にて僧守詮の小詩清婉にして愛すべきを見て次韻す

但聞煙外鐘

但だ聞く煙外の鐘

不見煙中寺

見ず煙中の寺

幽人行未已

幽人行きて未だ已まず

草露濕芒屨

草露芒屨を濕おす

惟應山頭月

惟応に山頭の月の

夜夜照來去

夜々來去を照らすなるべし

【語釈】

梵天寺：方松嶺（杭州城内にあり）の西南にある寺。僧守詮：不詳。小詩：三韻の詩。清婉：清くしなやか。煙：もや。幽人：世を避けて静かに暮らしている人、僧守詮。芒屨：草履。來去：往來の道。

（中国詩人選集二一五）

★宋 蘇軾

徐州、往南京、馬上走筆寄子由五首其一

徐州を罷めて、南京に往かんとし、馬上に筆を走らせて子由に寄す 五首

其一

吏民莫扳援

吏民 扳援する莫かれ

歌管莫淒咽

歌管 淒咽する莫かれ

吾生如寄耳

吾が生 寄するが如き耳み

寧獨為此別

寧ぞ 独り 此の別れを為さんや

別離隨處有

別離 隨處に有り

悲惱緣愛結

悲惱 愛に縁つて結はる

而我本無恩

而して 我は 本 恩無し

此涕誰為設

此の涕は 誰が為に設くるや

紛紛等兒戲

紛紛として 兒戲に等し

鞭鞅遭割截

鞭鞅 割截に遇うは。

道邊雙石人

道邊なる 双つの石人

幾見太守發

幾たびか 太守の發するを見し

有知當解笑

知有らば 當に解く笑うべし

撫掌冠纓絕

掌を撫ちて 冠纓を絶たん。

【語釈】

吏民…人民。拔援…引く、引き留める。歌管…管楽器。凄咽…悲しみむせび泣く。  
寄…仮に身を寄せる。悲惱…悲しみ悩み。紛紛…衆多のさま。鞭鞞…むちとあぶ  
み。割截…断ち切る。纓…冠のひも

(漢詩大系 17)



★宋 蘇軾

寒食雨

寒食の雨

自我來黃州

我の黃州に來りしより

已過三寒食

已に三たびの寒食を過せり

年年欲惜春

年々春を惜しまんと欲すれども

春去不容惜

春去つて惜しむを容れず

今年又苦雨

今年又雨に苦しむ

兩月秋蕭瑟

兩月秋蕭瑟たり

臥聞海棠花

臥して聞く海棠の花の

泥汚燕脂雪

泥に燕脂の雪を汚さるるを

暗中偷負去

暗中偷かに負いて去る

夜半真有力

夜半 真に力有り

何殊病少年

何ぞ殊ならんや 病める少年の

病起頭已白

病より起きれば頭已に白きに

【語釈】

寒食：当時から百五日目から三日間、火を使うことを止める習わし。蕭瑟：ものさびしいさま。兩月秋蕭瑟：春なのに、秋のように物寂しい。燕脂雪：紅色で化粧した白意花びら。（莊子の故事有り）。

（漢詩大系 17）

★宋 蘇軾

金山寺與柳子玉飲，大醉，臥寶覺禪榻，夜分方醒，書其壁

金山寺にて柳子玉と飲して、大醉し、宝覺の禪榻に臥し、夜分に方めて醒め、  
其の壁に書す

惡酒如惡人

惡酒は惡人の如し

相攻劇刀箭

相攻むこと 刀箭より劇し

頽然一榻上

頽然たり 一榻の上

勝之以不戰

之に勝つに 不戰を以つてす

詩翁氣雄拔

詩翁氣 雄拔に

禪老語清軟

禪老語 清軟なり

我醉都不知

我酔いて 都て知らず

但覺紅綠眩

但だ覺ゆ紅緑の眩しきを

醒時江月墮

醒めし時 江月墮ち

撼撼風響變

撼々として 風響変ぜり

惟有一龕燈

惟だ 一龕燈の有るのみ

二豪俱不見

二豪は 俱に見えず

【語釈】

金山寺：鎮江城外の寺。柳子玉：柳瑾のこと、王安石と同年の進士。寶覺禪榻：寶覺は僧の名、禪榻はその部屋の座禪の床。刀箭：刀と矢。頽然：ぐったりとしたさま。榻：寝台のことだがここでは禪榻。詩翁：柳瑾のこと。雄拔：ずばぬけている。禪老：寶覺のこと。清軟：俗気がなくものやわらか。撼撼：かさかさという音。龕燈：仏前の灯明。二豪：二人の豪傑。

★南宋 陸游

舟中感懷三絕句呈太傅相公兼簡岳大用郎中 其二 陸游

舟中感懷の三絶句 太傅相公に呈し兼ねて岳大用郎中に簡す其の二

雨打孤篷酒漸消

雨は孤篷を打ち酒漸く消す

昏燈與我共無聊

昏燈 我と共に無聊

功名本は無憑事

功名 本はれ憑る無き事

不及寒江日兩潮

及ばず 寒江の日に兩たび潮さすに

【語釈】

篷：船室の上を多う苦屋。昏燈：薄暗いともしび。無聊：心に屈託があつて憂鬱なこと。無憑：頼りにならない、宛てにしがたい。日兩潮：日に二回満潮になる、大自然の確実さ。

(漢詩大系 19)

739

★南宋 陸游

贈猫

猫に贈る

裹鹽迎得小狸奴

塩を裹みて 迎え得たり 小狸奴

盡護山房萬卷書

尽く 山房 万卷の書を護る

慚愧家貧策勲薄

慚愧す 家貧しきて 勲に策ゆること薄きを

寒無氊坐食無魚

寒に氊坐無く 食に魚無し

【語釈】

裹鹽：猫を貰った家に塩を送る習慣があつた。狸奴：猫の一種。山房：書齋。氊坐：敷物

(中国名詞集) 岩波書店

★南宋 陸游

劍門道中遇微雨

劍門道中微雨に遇う

衣上征塵雜酒痕

衣上の征塵 酒痕を雜う

遠游無處不消魂

遠游 処として魂を消さざるは無し

此身合是詩人未

此の身合に是れ詩人なるべきや 未や

細雨騎驢入劍門

細雨 驢に騎つて劍門に入る

【語釈】

劍門：四川省劍閣県にある山で、北方から関所があった  
征塵：旅の埃  
消魂：心を烈しく動揺させること

★南宋 陸游

秋懷

秋懷

園丁傍架摘黃瓜

園丁 架に傍いて 黃瓜を摘み

村女沿籬采碧花

村女 籬に沿いて 碧花を采む

城市尚餘三伏熱

城市 尚お余す 三伏の熱

秋光先到野人家

秋光 先づ到る 野人の家

【語釈】

秋懷：秋の思い。園丁：畑をつくる人傍：そう。架：苗を支える柱。摘：つむ。  
黃瓜：キュウリ。村女：村娘。籬：かきね。碧花：アサガオ。尚餘：なおも余し  
ている。三伏：猛暑の候。野人：庶民。

(詩詞世界)

★南宋 陸游

十一月四日風雨大作

十一月四日風雨大いに作る

僵臥孤村不自哀

孤村に僵臥して自ら哀しまず

尚思爲國戍輪臺

尚お思う 國の爲に輪臺を成らんことを

夜闌臥聽風吹雨

夜闌にして臥して風の雨を吹くを聴けば

鐵馬冰河入夢來

鐵馬 冰河 夢に入りて来る

【語釈】

僵臥：病に倒れて床に伏す。孤村：他の村を遠く離れた寂しい村。戍：まもる。輪臺：西域（現・新疆）にある地。夜闌：夜がふける。臥聽：横になってきく。鐵馬：武装した兵士の乗った馬、鉄騎。冰河：凍り付いた山河の風景。

（中国詩人選集二二八）

★南宋 陸游

寄題朱元晦武夷精舍

晦の武夷精舍に寄題す

身閑剩覺溪山好

身閑にして剩お覚ゆ 溪山の好しきを

心静尤知日月長

心静かにして尤も知る 日月の長きを

天下蒼生未蘇息

天下の蒼生 未だ蘇息せず

憂公遂與世相忘

憂ふ 公の遂に世と相ひ忘るを

【語釈】

朱元晦：朱熹。武夷精舍：朱熹が武夷に建てた学舎。閑：のんびりして暇なさま。剩：そのうえに。溪山：谷や山。尤：とりわけ。蒼生：人民。蘇息：生きかえる。公：朱熹。遂：このまま。

★南宋 陸游

縦遊深山隨所遇記之四首 其二

縦たてに深山しんざんに遊び遇あひう所に従したがいて之を記す 四首 其二

山徑さんけい 敲危きやうい 細棧さいせん 通

山路さんろ 敲きやうち危いくして 細棧さいせん 通じ

孤村こ村 小店せきやう 夕陽せきやう 紅

孤村こ村の小店せきやう 夕陽せきやう 紅なり

竹郎ちくろう 有廟あり 臨江りんかう 際

竹郎ちくろう 廟やしろ 有ありりて 江際かうさいに臨のぞみ

木客もくかく 無家むか 住す 箒中しゆうちゆう

木客もくかく 家か 無なくして 箒中しゆうちゆうに住すむ

【通釈】

山徑…山の小径。敲危…急な傾斜になつて足下の危ないこと。細棧…細い棧橋。  
孤村…一つぼつとりとある村。竹郎…竹の神（故事有り）。江際…川際。木客…  
山の精。箒…竹

（中国詩人選集二二八）

★南宋 陸游

小園四首 其一

小園四首 其の一

小園せうえん 煙草えんそう 接隣けつりん 家

小園せうえん 煙草えんそう 隣家りんかに接つし

桑柘そうしや 陰陰いんいん 一徑いつけい 斜

桑柘そうしや 陰々いんいんとして 一徑いつけい 斜なめなり

臥ふ 詠陶詩えいとうし 未終いま 卷

臥ふして 陶詩とうしを讀よみ 未だ卷かんを終おえず

又また 乘微雨まじびう 去ゆ 鋤瓜ちゆうか

又また 微雨びうに乗のじて 去ゆきて 瓜うりを鋤すく

【語釈】

小園…小さな畑。煙草…かすみに包まれた草原。桑柘…クワやヤマグラ。陰陰…  
薄暗く、もの寂しいさま。陶詩…陶淵明の詩。乘…くを利用して。微雨…こさめ。  
去…出かける。鋤…すきで耕す。

(参考文献) 『中国詩人撰集二一八』

★南宋 陸游

小園四首 其三

小園四首 其三

村南村北鶉鳩聲

村南 村北 鶉鳩の聲

水刺新秧漫漫平

水は新秧を刺して 漫々として平らかなり

行徧天涯千萬里

行くこと遍し 天涯 千萬里

漫漫從鄰父學春耕

却つて隣父に従いて 春耕を学ば

【語釈】

村南村北：村のあちこちで、村中で。鶉鳩：鳩の一種。刺：苗が水面から出てい  
る様の表現。新秧：植え替えられたばかりの苗。漫漫：広くはるかなさま。天涯  
：故郷を遠く離れたきわめて遠いところ。却：反対に。従：くより。鄰父：とな  
りの親父さん。春耕：春の農作業の支度。

(漢詩大系 19)

★南宋 陸游

宿楓橋

楓橋に宿る

七年不到楓橋寺

七年到らず 楓橋の寺

客枕依然半夜鐘

客枕依然たり 半夜の鐘

風月未須輕感慨

風月未だ須おす 軽がるしく感慨するを、

巴山此去尚千重

巴山 此を去つて尚お千重。

【語釈】

楓橋：寒山寺の所在地の名、またそこにある橋の名。客枕：旅先で、枕をして横になる。旅枕。依然：相変わらず。半夜：夜半。風月：風と月、風流なもの。巴山：陝西省西郷県の西南にある山。任地の夔州の近く。

(詩詞世界)

★南宋 陸游

夜歸偶懷故人獨孤景略

夜歸り偶たま故人の獨孤景略を懷う

買醉村場半夜歸

酔を村場そんじやうに買かいて半夜に歸る

西山落月照柴扉

西山せいざんの落月らくげつ柴扉さいひを照らす

劉琨死後無奇士

劉琨りゆうこん死して後奇士無し

獨聽荒雞泪滿衣

獨ひとり荒雞こうけいを聽きいて泪なだ衣いに満みつ

【語釈】

獨孤景略：陸游と知り合いの豪傑の士、名は策、景略は字。買醉：酒を買って飲むこと。村場：村。半夜：夜中。柴扉：柴で作った粗末な扉。劉琨：晉代の豪傑。奇士：世俗とは異なる志や才能を持つ人。荒雞：夜中に鶏が鳴くこと、事變の起こる前兆とされる。

(漢詩大系19)



★南宋 陸游

落梅二首其一

落梅二首其二

醉折殘梅一兩枝

醉いて折る 殘梅 一兩枝

不妨桃李自逢時

妨げず桃李 自ら時に逢うを

向來冰雪嚴凝地

向來 冰雪の凝ること 嚴しき地に

力幹春回竟是誰

力めて春の回るを幹むるは 竟に是れ誰ぞ

【語釈】

落梅：花の散った梅の木。残梅：殆ど花の散った梅の木。不妨：じやまをしない。  
逢時：酔いチャンスに巡り会う。向來：かねてから。嚴凝：堅く凝り固まる。力  
幹：力一杯回転させる。

(中国詩人選集 二一八)

★南宋 陸游

沈園二首

沈園二首

城上斜陽畫角哀

城上の斜陽 画角哀し

沈園非復舊池臺

沈園は 復た旧池台に非ず

傷心橋下春波綠

傷心す 橋下 春波の緑なるに

曾是驚鴻照影來

曾て是れ驚鴻 影を照らし来たれり

【語釈】

沈園…山陰の会稽（浙江省紹興市）にある沈（しん）氏の庭園。・城上…城郭の上。畫角…角笛。復…また（語調を整える用法）。池臺…庭の池中や池に面して建つ高殿。傷心…心をいためること。春波…春の池の水の波。驚鴻…おどろいて飛び立つおとり、転じて、美人の体の軽くなやかなさま、また、美人。影…姿。

746

夢斷香消四十年

夢は断え香は消えて四十年

沈園柳老不吹綿

沈園 柳は老いて綿を吹かず

此身行作稽山土

此の身 行くゆく稽山の土と作らんも

猶弔遺蹤一泫然

猶お 遺蹤を弔いて 一に泫然たり

【語釈】

夢…前妻・唐琬との夢のような偶然の出逢い。香…前妻・唐琬の色香。四十年…前妻・唐婉との別離以降の歲月。綿…柳絮。行…ゆくゆく、やがて。稽山…会稽山のこと、浙江省紹興市の南南東にある山。猶…なお、引き続き。弔…古（いにしえ）をしのぶ。遺蹤…あとかた、遺跡。一…ひとえに。泫然…涙をほらはらと流すさま。

（漢詩大系 19）

★南宋 陸游

十一月四日風雨大作

一月四日風雨大のとき作る

僵卧孤村不自哀

孤村に僵卧して 自ら哀まず

尚思爲國戍輪臺

尚国の為に輪臺を戍らんことを思う

夜闌卧聽風吹雨

夜闌にして卧して聽く風の雨を聞けば

鐵馬冰河入夢來

鐵馬 氷河夢に入りて来る

【語釈】

僵卧：死んで硬直したような形で眠ること。孤村：ぼつんとある村。戍：守る。  
輪臺：新疆ウイグル自治区の土地の名であるが、ここでは金との国境を指す。闌  
：夜が深くなること。鐵馬：軍馬。氷河：凍った黄河。

(漢詩大系19)

★南宋 陸游

灌園

かんえん

少攜一劍行天下

少にして一劍を攜え天下を行き

晚落空村學灌園

晚には空村に落ちて灌園を学ぶ

交舊凋零身老病

交旧 凋零して身は老病

輪困肝膽與誰論

輪困たる肝膽誰とともにか論ぜん

【語釈】

灌園：畑に水をやる。転じて、農業に従事する。少：年が若い。攜：携える。行天下：世の中を渡る。空村：人気のない村。さびれた村。灌園：畠に水をやる。転じて、農事に従事する。輪困：屈曲したさま。肝膽：こころ。與誰論：誰と共に論じようか。

(中国漢詩人選集 二―8)

★南宋 陸游

示兒

見に示す

死去元知萬事空

死に去らば元知る万事空なるを

但悲不見九州同

但だ悲しむ九州の同じきを見ざるを

王師北定中原日

王師 北のかた中原を定むるの日

家祭無忘告乃翁

家祭 忘るること無かれ乃翁に告ぐるを

【語釈】

元：元来。もともと。九州：中国全土。王師：皇帝の軍隊。定：平定する。中原：漢民族の故地である黄河中下流域の平原のこと。家祭：先祖を祭る儀式。乃翁：おやじさま。目上の者が目下の者に対して使う自称、陸游自身のこと。

(漢詩大系 19)

★南宋 陸游

遊山西村

山西の村に遊ぶ

莫笑農家臘酒渾

笑う莫かれ 農家の臘酒 渾れるを

豊年留客足雞豚

豊年 客を留むるに 雞豚足れり

山重水複疑無路

山重 水複 路無かきと疑がうに

柳暗花明又一村

柳暗花明 又一村

簫鼓追隨春社近

簫鼓 追隨して 春社近く

衣冠簡朴古風存

衣冠 簡朴にして 古風存す

從今若許閑乘月

今より若し閑に月に乗ずるを許さば

拄杖無時夜叩門

杖を拄き時無く夜門を叩かん

【語釈】

臘酒：十二月に仕込んだ酒。春社：春の祭り。柳暗花明：田舎の美しい景色の有様。衣冠：正装、祭りの時に着る衣服。簡朴：簡単で飾り気がないこと。乗月：月の光に誘われて散歩する。無時：好きなときに。

★南宋 陸游

秋興

秋興

白髮蕭蕭欲滿頭

白髮蕭々として頭に満ちんとす

歸來三見故山秋

歸來三たび見たり故山の秋

醉憑高閣乾坤迢

酔うて高閣に憑れば乾坤迢り

病入中年日月遒

病んで中年に入れば日月遒なり

百戰鐵衣空許國

百戦の鉄衣空しく国に許せしも

五更畫角只生愁

五更の画角只だ愁いを生ぜしのみ

明朝烟雨桐江岸

明朝煙雨桐江の岸

且占丹楓繫釣舟

且く丹楓を占めて釣舟を繫がん

【語釈】

蕭蕭：白髪が風にそよぐさま。歸來：故郷に帰ってから。故山：故郷の山。高閣：…高楼。憑：遠くを眺める。乾坤：天地。迢：視野の中に入る。日月遒：月日が急激に過ぎて尽きてしまうこと。鐵衣：よろい。許國：国に身を捧げる。五更：夜明けがた。畫角：ラッパのような金樂器。烟雨：きりさめ。桐江：錢塘江の上流で、浙江省桐廬付近。且：ひとまず。丹楓：赤く色づいた楓。占：占め尽くす。釣舟：釣り船。

★南宋 陸游

馬上口占

馬上の口占

大耋光陰豈自期

大耋の光陰 豈に自ら期せんや

即今堪喜亦堪悲

即今喜に堪え 亦た悲に堪えたり

關河隔絶初心負

關河 隔絶して 初心 負かれ

憂患侵尋舊學衰

憂患 侵尋して 旧學衰う

羸馬涉溪孤店路

羸馬 溪を涉る 孤店の路

栖鴉滿樹曉霜時

栖鴉 樹に滿つ 曉霜の時

憑鞍殘夢悠然覺

鞍に憑る殘夢 悠然として覺め

又得浮生一首詩

又得たり浮生 一首の詩

751

【語釈】

口占：口から出た言葉が詩になった即興の詩。大耋：非常な高齢、通常八十（易经）。光陰：年月。即今：現在。關河：関所のように交通を遮っている河、ここでは長江。負：そむくこと。憂患：愁える、心配事。侵尋：次第に侵攻し拡大すること。舊學：昔習った学問。羸馬：瘦せた馬。孤店：一つだけ離れた村。栖鴉：ねぐらに住んでいる鳥。殘夢：夜明けに近い頃、浅い夢の中で見る、はっきりしない夢。悠然覺：急にではなく自然に覚める。浮生：はかない浮き世の人生。一首詩：この詩のことをいう。

（漢詩大系 19）

★南宋 陸游

舟行蕪黃間雨霽得便風有感

舟にて蕪黃の間を行くに雨霽れ便風を得て感有り

天青雲白十分晴

天青く雲白く十分に晴れ

帆飽舟輕盡日行

帆は飽き舟輕く尽日行く

江底魚龍貪晝睡

江底の魚龍 晝睡を貪り

淮南草木借秋聲

淮南の草木 秋声を借る

好山縹緲何由住

好山縹緲として何に由りてか住す

華髮蕭條只自驚

華髮蕭條として只自ずから驚く

莫怪時人笑疏懶

怪しむ莫かれ時人の疏懶を笑うを

宦情元不似詩情

宦情は元詩情に似ず

【語釈】

蕪黃：蕪州（湖北省蕪春県）と黃州（湖北省黃岡県）。便風：順風。帆飽：帆が風を一杯に孕む。盡日：一日中。魚龍：魚と竜（水底に住むと信じられていた）。淮南：長江の淮河が合流する以南の地帯。借秋聲：秋の気配をちよつと聴かせてくれる。縹緲：遠くかすかなさま、遙かに遠いさま。何由住：住むよしもない。華髮：白髪交じりの髪。蕭條：物寂しいさま。疏懶：なまくら、役人として勤めるのに消極的なこと。宦情：役人として勤めようという気持。



★南宋 陸游

春晚

春晚

五十六翁身百憂

五十六翁 身に百憂

年來轉覺此生浮

年來 転た覚ゆ 此の生の浮なるを

山川信美故郷遠

山川 信に美なるも 故郷遠く

天地無情雙鬢秋

天地 無情 双鬢秋なり

社後燕如歸客至

社後 燕は歸客の如く至り

春殘花不爲人留

春殘 花は人の爲に留らず

一觴一詠從來事

一觴一詠 從來の事

莫笑扶衰又上樓

笑う莫かれ 衰を扶けて 又樓に上るを

【語釈】

雙鬢：両方の耳のあたりに生えている髪。秋：ここでは、「秋霜」で白くなること。歸客：帰ってくる旅人。社：村祭り。一觴：盃一杯の酒。一詠：詩を一つ作ること。

★南宋 陸游

晚泊松滋渡口

晚に松滋の渡口に泊す

小灘拍拍鷓鴣飛

小灘 拍拍として 鷓鴣 飛び

深竹蕭蕭杜宇悲

深竹 蕭々として 杜宇 悲し

看鏡不堪衰病後

鏡を看るに堪えず 衰病の後

繫船最好夕陽時

船を繫ぐに最も好し 夕陽の時

生涯落魄惟耽酒

生涯 落魄して 惟だ酒に耽り

客路蒼茫自詠詩

客路 蒼茫として 自ら詩を詠ず

莫問長安在何許

問う莫かれ 長安何許にか在ると

亂山孤店是松滋

亂山 孤店 是れ松滋

【語釈】

松滋：湖北省荊州市に位置する県級市。小灘：小さな灘。拍拍：鳥の羽音の擬声語。鷓鴣：う。蕭蕭：物寂しい様。杜宇：ほととぎす。衰病：病み衰えること。落魄：おちぶれて当てもなく漂泊すること。客路：旅の道。蒼茫：遙かに遠く又薄暗くて見定め難いさま。長安：ここでは南宋の都、臨安を指す。亂山：脈絡が採れず立ち並ぶ山。孤店：小さな宿場。

★南宋 陸游

吾道非邪來曠野

江濤如此去何之

起隨烏鵲初翻後

宿及牛羊欲下時

風力漸添帆力健

鷓聲常雜雁聲悲

晚來又入淮南路

紅樹青山合有詩

望江道中

望江の道中

吾が道非なるか 広野に來たる

江濤此の如し 去りて何くにか之かん

起つは 烏鵲の初めて 翻る後に隨い

宿るは 牛羊の下らんと欲する時に及ぶ

風力漸く添いて 帆力健に

鷓聲常に雜えて 雁聲悲し

晚來又た入る 淮南の路

紅樹青山合に詩有るべし

【語釈】

江濤…川の波。烏鵲…かささぎ。下…山に放牧してある家畜がねぐらに着くために降りて来ること。添…増し補う。健…力強い。鷓聲…盧の音。晚來…夕暮れがた(來は助辞)。淮南…淮水…河南省桐柏山に源を發し、安徽省、江蘇省を経て洪沢湖に注ぐ、中国第三の川。合…くすべきだ、くするのが当然だ。  
(漢詩大系19)

(詩詞世界)

★南宋 陸游

數間茅屋鏡湖濱

數間の茅屋 鏡湖の浜

暮春

暮春

萬卷藏書不救貧

万卷の藏書 貧を救わず

燕去燕來還過日

燕去り 燕来たりて 還た日を過ごし

花開花落即經春

花開き 花落ちて 即ち春を経たり

開編喜見平生友

編を開いて 平生の友を見るを喜び

照水驚非曩歲人

水に照して 曩歲の人に非ざるに驚く

自笑滅胡心尚在

自ら笑う 胡を滅さんとせん心 尚在りて

憑高慷慨欲忘身

高きに憑れば 慷慨して 身を忘れんとするを。

【語釈】

暮春：春の終わり。數間：間口數間。茅屋：茅拭きの粗末な家。鏡湖：中国安徽省蕪湖市鏡湖区にある湖。編：書物。曩歲人：久しい以前の年の人（自分自身の過去）。胡：異民族（金）。慷慨：いきおどりなげく。身：自分を大切にしようとする意思。

★南宋 陸游

懷舊

旧を懐う

身は人間一斷蓬

身は是れ 人間の一斷蓬

半生南北任秋風

半生 南北 秋風に任す

琴書昔作天涯客

琴書 昔 天涯の客と作り

蓑笠今成澤畔翁

蓑笠 今 沢畔の翁と成る

夢破江亭山驛外

夢は破る 江亭 山驛の外

詩成燈影雨聲中

詩は成る 灯影 雨声中

不須強覓前人比

須いず 強いて前人に比を覓むるを

道似香山實不同

香山に似たりと道ふも 実は同じからず

【語釈】

斷蓬：ちぎれた蓬、秋になると風に吹かれてさまよう。半生：人生の半分。琴書：琴と書物、共に風流なもの。天涯：天の果て、極めて遠いところ。客：旅人。蓑笠：みのかさ、獵師が身につけるもの。澤畔：沢、沼、池のほとり。江亭：川辺にある東屋。山驛：山中の宿場。前人：前の時代の人。香山：香山居士（白居易）。

★南宋 陸游

憶從南鄭入成都

感奮  
感旧  
憶う 南鄭なんてい従り 成都せいとに入りしとき

氣俗豪華海内無

氣俗きせき 豪華ごうかなること 海内かいだいに無し。

故苑燕開車載酒

故苑こえん 燕えん開いて 車くるまに酒さけを載せ

名姬舞罷斗量珠

名姬めいき 舞ま罷やいやみて 斗ますもて珠しゆを量はかれり

浣花江路青螭舫

浣花かんかの江路かうろ 青螭せいぢの舫ほう

榭柳毬場白雪駒

榭柳せりゅうの毬場きゆうじやう 白雪はくせつの駒こま

回首壯遊真昨夢

首こゝろを回めぐらせば 壯遊そうゆう 真まに昨夢せきむ

一竿風月老南湖

一竿いつかんの風月ふうげつ 南湖なんしうに老おゆ

【語釈】

南鄭… 氣俗…土地の氣風・風俗。海内…全世界。故苑…昔の蜀王の宮殿。燕…宴。名姬…美しい妓女。浣花江…成都の西を流れる川。青螭…青龍の飾り。舫…舟。榭柳…成都内の地名。毬場…ボロに似た競技をする場所。壯遊…壯年のころの遊び。一竿風月…一本の釣り竿に世情を忘れて風月を楽しむ。南湖…鏡湖。

(漢詩大系19)

★南宋 陸游

臨安春雨初霽

臨安の春雨初めて霽る

世味年來薄似紗

世味年來薄きこと紗に似たり

誰令騎馬客京華

誰か馬に騎りて京華に客たらしめし

小樓一夜聽春雨

小樓一夜春雨を聽き

深巷明朝賣杏花

深巷明朝杏花を売る

矮紙斜行閑作草

矮紙斜行閑かに草を作し

晴窗細乳戲分茶

晴窓細乳戯れに茶を分かつ

素衣莫起風塵嘆

素衣起す莫かれ風塵の嘆

猶及清明可到家

猶お清明に及びて家に到る可し

【語釈】

臨安：南宋の首都、浙江省杭州市。霽：雨が晴れる。世味：浮き世の味わい。紗：うすぎぬ。京華：花の都。小樓：泊まっている小さな旅館の2階。深巷：通りから奥に引つ込んだ路地。矮紙：幅の狭い巻紙。斜行：文字の行をそろえず、心そのままに書き散らすこと。作草：草書を書く。細乳：牛乳のように細かい泡の立つ煎茶。分茶：茶を入れること。素衣：白い衣。風塵嘆：旅先での苦勞の嘆き。清明：清明節（春分から15日目）。

（漢詩大系19）

★南宋 陸游

閑意

閑意

柴門雖設不曾開

柴門設くと雖も曾て開かず

為怕人行損綠苔

人の行きて 緑苔を損ずるを怕るる為なり

妍日漸催春意動

妍日 漸く 春意を催して動かしめ

好風時捲市声来

好風 時に 市声を捲いて来たる

学経妻問生疎字

経を学ぶ妻は問う 生疎の字

嘗酒児斟激灑盃

酒を嘗むる児は斟む 激灑の盃

安得小園寛半畝

安にか小園の 寛さ半畝なるを得て

黄梅緑李一時栽

黄梅 緑李 一時に栽えん

【語釈】

閑意：余裕のあるのどかな気持ち。柴門：柴で作った粗末な門。緑苔：緑の苔。  
妍日：良い日。春意：春になるうとする気配。市声：町の声。安得：どこかに、  
何とかしたい物だ。半畝：百坪余り。



★南宋 陸游

半世無歸似轉蓬

半世 帰る無く 轉蓬に似たり

今年作夢到巴東

今年 夢を作して 巴東に到る

身遊萬死一生地

身は遊ぶ 万死 一生の地

路入千峰百嶂中

路は入る 千峰 百嶂の中

鄰舫有時來乞火

鄰舫 時有りて 来りて 火を乞い

叢祠無處不祈風

叢祠 処として 風を祈らざるは無く

晚潮又泊淮南岸

晚潮 又泊す 淮南の岸

落日啼鴉戍堞空

落日 啼鴉 戍堞空し

【語釈】

半世…人生の半分。無歸…故郷に帰ることなく。轉蓬…風に吹かれて転がる蓬。  
巴東…四川省の東、夔州。遊…旅行。嶂…高い峰。叢祠…草藪の中にある荒れた祠。  
晚潮…夕方の潮。淮南…鎮江のあたりの長江南岸付近。啼鴉…無くからす。  
戍堞…地方警備のための小さな城塞。空…人影が無い。

★南宋 陸游

書憤

憤を書す

早歳那知世事艱

早歳そうさい那なぞ知らん世事せじの艱かたきを

中原北望氣如山

中原ちゅうげん北望ほくぼうして氣山きざんの如し

樓船夜雪瓜洲渡

樓船ろうせん夜雪やせつ瓜洲かしゅうの渡と

鐵馬秋風大散關

鐵馬ていば秋風しゅうふう大散たいさんの關かん

塞上長城空自許

塞上さいじょうの長城ちやうせい空しく自ら許みずかせしも

鏡中衰鬢已先斑

鏡中きやうちゆうの衰鬢すいびん已まに先まづ斑まだらなり

出師一表真名世

出師しゅしの一表いつひょう真まことに世よに名なあり

千載誰堪伯仲間

千載せんざい誰たれか堪たえん伯仲はくちゆうの間かん

【語釈】

早歳：若いころ。那：反語、どうして。世事：世の中の事々。艱：難しい。中原：黃河流域の平野、金の占領地。樓船：高い櫓を組んだ舟。瓜洲渡：長江の江蘇省鎮江と向かい合う合渡り場。大散關：関中西部から秦に入る境界の要衝。出師一表：諸葛孔明の出師表。伯仲間：伯は兄、仲は弟、優劣の付けがたいこと。

★南宋 陸游

露坐二首其二 露に坐す二首其二

岸幘臨窗意未便

岸幘がんさくし 窓に臨めども 意未だ便ならず

又拖筇杖出庭前

又 筇杖きょうじょうを拖着ひきて 庭前ていぜんに出ず

清秋欲近露霑草

清秋 近づかんと欲して 露草うろくを霑ぬし

皎月未升星滿天

皎月こうげつ 未だ升のぼらずして 星天せいてんに満つ

過埭船爭明旦市

埭たいを過たぐる船は争あう 明旦みやうたんの市いち

蹋車人廢徹宵眠

車くるまを蹋ふむ人は廢やす 徹宵てつせうの眠ね

齊民一飽勤如許

齊民せいみん 一飽いっぽう 勤いんむること 許かくの如く

坐食官倉每惕然

坐まして 官倉くわんそうを食くらい 毎つねに惕然てきぜんたり

【語釈】

露坐：夜、露天に椅子を持ち出して坐る。岸幘：頭巾を上に入れて額を現すこと、くつろいださま。意未便：気持ちが悪く、一つすつきいりしないこと。筇杖：竹の杖。皎月：白く明るい月。埭：土で作った水門。明旦市：明日の朝早く開かれる市。蹋車：田に水を引くための水車。齊民：一般の人、平民。飽：飽きるほど食べる。官倉：年貢米を収める倉。惕然：不安に襲われ平静な心でいられないさま。

(中国詩人選集 二―8)

★南宋 陸游

過野人家有感 野人の家を過ぎりて感有り

縱轡江皋送夕暉

轡を江皋に縦つて夕暉を送る

誰家井臼映荆扉

誰が家の井臼か 荆扉に映ずる

隔離犬吠窺人過

籬を隔てて犬は吠え 人の過ぎるを窺い……

滿箔蠶饑待葉歸

箔を満つる蚕は餓え 葉の帰るを待つ

世態十年看爛熟

世態十年 看ること爛熟

家山萬里夢依稀

家山 万里 夢に依稀たり

躬耕本是英雄事

躬耕 本是れ 英雄の事

老死南陽未必非

南陽に老死するは 未だ必ずしも非ならず

【語釈】

縱轡：馬の手綱をゆるめ、その歩みに任せて進むこと。江皋：河の岸辺。夕暉：夕日の光。井臼：井戸と臼。映：ちらりと見える。荆扉：柴で作った粗末な扉。箔：蚕棚。世態：世の中の有様。爛熟：すっかりなれて知り尽くすこと。家山：故郷の山。依稀：はつきりしないさま。躬耕：自分で百姓仕事をすること。南陽：河南省の地名（諸葛亮が出盧する前に隠棲していたところ）

★南宋 陸游

九月三日泛舟湖中作 九月三日、舟を湖中に泛ぶるの作

兒童隨笑放翁狂

兒童笑うに隨す 放翁の狂と

又向湖邊上野航

又湖辺に向つて 野航に上る

魚市人家滿斜日

魚市の人家 斜日満ち

菊花天氣近新霜

菊花の天氣 新霜近し

重重紅樹秋山晚

重々たる紅樹 秋山晚れ

獵獵青帘社酒香

獵々たる青帘 社酒香し

鄰曲莫辭同一醉

鄰曲 辭する莫かれ 同一に醉するを

十年客裏過重陽

十年 客裏 重陽を過ごせり

【語釈】

湖：鏡湖（中国安徽省蕪湖市鏡湖区にある湖。）隨：…のままにする，放つておく。放翁：陸游の号。湖邊：湖のほとり。野航：原野の中にある小さな渡し場。斜日：夕日。重重：重なり合うさま。紅樹：紅葉した樹木。獵獵：風にあおられてバタバタするさま。青帘：青いのぼり、酒屋の旗。社酒：春祭、秋祭に飲む酒、ここでは後者。鄰曲：隣近所、曲は部落の一位。客裏：旅暮らしのうち。重陽：…重陽の節句。

（漢詩大系19）

★南宋 陸游

山園雜詠五首 其二 山園雜詠五首 其二

殘春終日在林亭

殘春終日 林亭に在り

散髮披衣醉復醒

髮を散じ 衣を披きて 酔い復た醒む

科斗已成蛙閣閣

科斗かんと已に成り 蛙閣々かづら

櫻桃初結子青青

櫻桃おうとう初めて 子を結びて 青々せいせい

魚遊滄海寧濡沫

魚は滄海そうかいに遊ばば 寧んぞ沫しほに濡れんや

禽慕雕籠即翦翎

禽とりは 雕籠とうろうを慕わば 即ち翎はねを翦きられん

薄晚東風吹小雨

薄晚はくばん 東風 小雨を吹く

笑携長鏡伴畦丁

笑つて長鏡ちやうきんを携たずえて 畦丁きていに伴なう

【語釈】

散髮：かみをふりみだす。披衣：衣の帯結はず前をふりみだしたまま、散髮と共に、だらしない様を言う。科斗：おたまじやくし。閣閣：帰るの鳴き声、閣閣。雕籠：彫刻を施した美しい鳥かご。薄晚：薄暮。鏡：先の尖ったスコップのような道具。  
濡沫：荘子の故事有り。

★南宋 陸游

驛舎

駅舎

閑坊古驛掩朱扉

閑坊かんぼう古驛こえき朱扉しゆひを掩とぎざす

又憇空堂綻客衣

又くうどう空堂に憇かいて客衣かくいを綻つぐろう

九萬里中鯤自化

九万里中こんおのずか鯤こん自おのら化かし

一千年外鶴仍歸

一千年外な鶴仍なお歸かへる

遠庭數竹饒新筍

庭を遠めぐりて竹を數かぞうれば新筍しんじん饒おほく

解帶量松長舊園

帯を解ときて松を量はかれば旧園きゅうえんより長ながず

惟有壁間詩句在

惟ただ壁間へきかんに詩句しきうの在ある有あり

暗塵殘墨兩依依

暗塵あんじん殘墨ざんぼく兩ふたつながら依い々いたり

【語釈】

閑坊：ひっそりとした町。古驛：古い宿場。空堂：人のいない部屋。客衣：旅の衣。承句、転句：故事有り。舊園：もとの太さ。壁間詩句：作者が前に来たとき壁に書き付けてきた詩。暗塵：黒い塵。殘墨：残っている墨の跡。依依：心懐かしい形容。

★南宋 陸游

百花過盡綠陰成

漠漠爐香睡晚晴

病起兼旬疏把酒

山深四月始聞鶯

近傳下詔通言路

已卜餘年見太平

聖主不忘初政美

小儒唯有涕縱橫

新夏感事

百花過盡盡くして緑陰成り

漠々たる炉香 晚晴に睡る

病より起き 兼旬 酒を把ること疏れに

山深くして 四月 始めて鶯を聞く

近ごろ伝う 詔を下して 言路を通ずと

已に卜す 余年 太平を見んことを

聖主 忘れず 初政の美

小儒 唯だ涕の縦横たる有り

新夏に事に感ず

【語釈】

新夏：初夏（陰曆四月）。漠漠：あてどなく広がるさま。爐香：香炉の香り。晚晴：晴れた夕方。兼旬：二十日。通言路：天子に対して意見を奏上することを許す（秦檜の死）。卜：占う、予見する。餘年：死ぬまでの間。太平：金を滅ぼした後の平和。聖主：高宗。初政美：金と戦うことを行ったこと。小儒：つまらない学者、自分のこと



★南宋 陸游

春寒連日不出

春寒連日出不出

海棠花入燕泥乾

海棠の花は燕泥に入りて乾き

梅子枝頭已帶酸

梅子は枝頭において已に酸を帯ぶ

老去懶尋年少夢

老去尋ぬるに懶し年少の夢

春分不減社前寒

春分減ぜず社前の寒

著書敢望垂千載

書を著すは敢えて千載に垂れんことを望まんや

嗜酒猶須隱一官

酒を嗜むは猶お一官に隠れんことを須つ

正是閑時無客過

正に是れ閑時客の過る無く

小庭斜日倚闌干

小庭斜日闌干に倚る

【語釈】

春寒：春のまだ浅いころの寒さ。燕泥：燕が巢を作るのに使う泥。梅子：梅の実。枝頭：枝の先。老去：年をとつてゆく(去は助辞)。年少夢：若い人が春と共に抱く浮かれ心。社：春の祭りと厭きの祭り、ここでは前者。垂：後世に伝える。隠一官：一つの官についたまま俗世との縁を絶つて孤高の生活を送ること。須：待ちうける。過：訪問する。

★南宋 陸游

春雨三首 其一

春雨三首 其二

狼藉殘花滿地紅

狼藉たる殘花 地に満ちて紅なり

擁衾孤夢雨聲中

衾を擁して孤り夢めむ 雨声中

人生十事九堪嘆

人生十事 九は嘆るに堪え

春色三分二已空

春色三分二は已に空し

但有老盆傾濁酒

但だ 老盆の濁酒を傾くる有り

不辭衰鬢對青銅

辭せず 衰鬢の青銅に対するを

長貧博得身強健

長貧 博ち得たり 身の強健なるを

久矣無心咎化工

久しいかな 化工を咎むるに 心無きを

【語釈】

狼藉：乱雑。衾：ふとん。堪：状態を持ち続ける。春色三分：春を1月、2月、3月に分ける。二已空：1月、2月は過ぎ、已に3月である。老盆：昔から使っている杯。濁酒：どぶろく。濁酒：どぶろく。衰鬢：苦労や老年の為につやを失ったり、少なくなつた髪。青銅：青銅製の鏡。博得：獲得する。咎：とがめる。化工：造化の紙の仕業（自分に与えられた不遇な運命）。無心：くする気もしくなつた。

（漢詩大系19）

★南宋 陸游

樓上醉歌

樓上の醉歌

我遊四方不得意

我れ四方に遊んで意を得ず

陽狂施藥成都市

陽狂して藥を施す 成都の市

大瓢滿貯隨所求

大瓢 滿ち貯えて求むる所に随い

聊爲疲民起憔悴

聊か疲民の為に憔悴を起こす

瓢空夜靜上高樓

瓢空しく夜靜かにして高樓に上り

買酒捲簾邀月醉

酒を買い 簾を捲き 月を邀えて酔う

醉中拂劍光射月

醉中 劍を払えば 光 月を射る

往往悲歌獨流涕

往々 悲歌して 独り流涕す

剗卻君山湘水平

君山を剗却せば 湘水平かに

斫卻桂樹月更明

桂樹を斫却せば 月更に明らかならん

丈夫有志苦難成

丈夫 志有るも 苦だ成り難し

修名未立華髮生

修名 未だ立たざるに華髮生ず

【語釈】

遊四方：あちこちを旅行すること。不得意：満足な結果が得られない。陽狂：狂人のふりをする。施藥：民衆に藥を与える、隱者、道士の仕事であった。大瓢：大きな瓢箪。聊：どうやら、まずまず。起：癒やす、治療する。憔悴：病み疲れること。空：からになる。流涕：涙を流す。剗卻：削り取ってしまう（卻は助辞でくってしまう）。斫卻：切り取ってしまう。桂樹：月にあると言う桂の木。丈夫：才能の優れた立派な男性。修名：優れた名声。華髮：白髪。

（詩詞世界）

★南宋 陸游

滄灘

滄灘

百夫正謹助鳴觶

百夫正に謹しくして鳴觶を助く

舟中對面不得語

舟中 對面して語るを得ず

須臾人散寂無譁

須臾にして人散じ寂として譁無く

惟聞百丈轉兩車

惟だ百丈兩車の転ずるを聞くのみ

嘔嘔啞啞車轉急

嘔々 啞々 車の転ずること急に

舟人已に沙際立

舟人已に沙際に在りて立つ

霧斂蘆村落照紅

霧斂まりて蘆村落照紅いに

雨餘漁舍炊烟濕

雨余の漁舍炊煙濕う

故郷回首已千山

故郷 首を回らせば已に千山

上峽初經第一灘

峽に上るに初めて徑る第一灘

少年亦慕宦遊樂

少年亦た慕えり宦遊の樂しみ

投老方知行路難

投老方めて知る行路の難きを

【語釈】

滄灘：釣行中の地名，急流の地。百夫：舟に乗っている大勢の人。謹：大声で話し合う。鳴觶：觶の音。須臾：程なく。寂：静かなさま。譁：がやがや騒ぐ声。百丈：長い船の引き綱。兩車：引き綱をかけて回す二つの車。転：回る。嘔々：ごろごろ。啞啞：ぎいぎい。舟人：船人達。沙際：岸の砂浜。斂：おさまる。蘆村：白い芦の花が咲いている村。落照：沈む夕日の照り映え。雨餘：雨上がり。漁舍：漁師の家。千山：多くの山が連なっているさま。峽：三峽の難所。第一灘：最初の急流。少年：若いころ。宦遊：役人となって各地を廻ること。投老：老年にさしかかること。行路難：旅路の苦労、世渡りの難しさ。

（漢詩大系19）

★南宋 陸游

村夜

村夜そんや

寂寂山村夜

寂々たる山村の夜

悠然醉倚門

悠然として 酔いて 門に倚る

月昏天有暈

月昏くして 天に暈あり

風軟水無痕

風軟かにして 水に痕なし

迹爲遭讒遠

迹は讒に遭ふが爲めに遠ざかるも

身由不仕尊

身は仕へざるに由りて尊し

敢嗟車馬絶

敢て嗟かんや 車馬の絶ゆるを

同社自鷄豚

同社自ら雞豚あり

【語釈】

寂寂：寂しく静かなさま。悠然：…ところが遙かに遊んでのんびりしているさま。  
倚：寄りかかる。暈：かさ。痕：水面の波紋。迹：…これまでの業績、行動。讒：  
讒言。車馬：訪問客が乗ってくる馬や車。同社：…民家二十五戸（社）の仲間。自  
…今までのことはともかく、同社は同社で。

（漢詩大系19）

★南宋 陸游

小立

小立

紅樹園廬晚

紅樹園廬の晩

碧花籬落秋

碧花籬落の秋

荒陂船護鴨

荒陂船鴨を護もり

斷岸笛呼牛

斷岸笛牛を呼ぶ

酒賤村村醉

酒は賤くして村々酔い

山寒寺寺幽

山は寒くして寺々幽なり

聊須岸烏幘

聊か須らく烏幘を岸うし

小立埭西頭

埭西の頭に小立すべし

【語釈】

小立：たたずむこと。紅樹：紅葉した樹木。園廬：農場の中に作られた小屋。碧花：朝顔。籬落：生け垣。聊須：まずまずすることにしよう。岸：高くする、かぶっている頭巾を後ろにずらせる。烏幘：黒色の頭巾。埭：水門

(漢詩大系 19)

★南宋 陸游

江樓

江樓

急雨洗江樓

急雨 殘瘴を洗い

江邊閑倚樓

江邊 閑かに樓に倚る

日依平野没

日は 平野に依りて没し

水帶斷槎流

水は 斷槎を帯びて流る

擣紙荒村晚

紙を擣く 荒村の晚

呼牛古巷秋

牛を呼ぶ 古巷の秋

腐儒憂國意

腐儒 憂国の意

此際入搔頭

此際 搔頭に入る

【語釈】

江樓：川辺の樓。倚：寄りかかる。依：寄り添う。斷槎：筏の切れ端。腐儒：書物を読むばかりで実社会を知らず、役に立たない学者。搔頭：頭を搔くこと、同意手良いか分らず落ち着かぬ気持ちの表現。（典故：詩経）

（漢詩大系 19）

★南宋 陸游

閨雨

雨を聞く

慷慨心猶壯

慷慨して心猶お壯なるも

蹉跎鬢已秋

蹉跎として鬢已に秋なり

百年殊鼎鼎

百年殊に鼎鼎々

萬事祗悠悠

萬事祗だ悠悠々

不悟魚千里

魚の千里なるを悟らず

終歸貉一丘

終に貉の一丘なるに帰せん

夜闌聞急雨

夜闌にして雨の急なるを聞き

起坐涕交流

起坐すれば涕交に流る

【語釈】

慷慨…いきおどりなげく。蹉跎…時期を失する。鬢已秋…鬢が霜が降りたように白くなること。百年…一生のこと。鼎鼎…引き留めようもなく過ぎ去ること（陶淵明…飲酒）。祗…只に同じ。悠悠…はるかなさま、自分とは無関係な位置にある。魚千里…池中で千里を泳いでもまだ池の中にいる（故事）。貉一丘…人間は一つの丘の中の貉のように、変わりが無いということ（漢書）

（漢詩大系 19）



★南宋 陸遊

雜感六首 其六

雜感六首 其六

春晚晴還雨

春晚れて晴れては還た雨ふり

村深醉復醒

村深くして酔いては復た醒む

溪添半篙綠

溪は半篙の緑を添え

山可一窗青

山は一窓の青きに可る

藥品隨長鏡

藥品は長鏡に隨い

花名記小屏

花名は小屏に記したり

閑身倅無事

閑身は倅いに事無し

吟嘯送餘齡

吟嘯して餘齡を送らん

【語釈】

春晚：晩春になる。篙：舟の棹。可：当と同意、丁度くと向き合う。鏡：農具の一種、スコップのようなもの。小屏：小さな屏風。

(漢詩大系 19)

★南宋 陸游

幽居歲暮五首其三

幽居歲暮五首其三

老去転無事

老い去っては転た事無く

室空惟一床

室空しくして惟一

臥時幽鳥語

臥する時幽鳥語り

行処野花香

行く処野花香る

巷北観神社

巷北に神社を観て

村東看戲場

村東に戲場を見る

誰知屏居意

誰か知る屏居の意

不独為耕桑

ひとり耕桑の為ならず

【語釈】

転…ますます。幽鳥…奥深い処に住む鳥。巷北…町の北。神社…神のやしろ、祭り。戲場…芝居小屋。屏居…隠居。意…こころ、気持ち。耕桑。耕したり桑を育てたりすること、農作業。

(陸游詩選 一海知義編 岩波文庫)

★南宋 陸游

山頭の石

山頭の石

秋風萬木實

秋風 万木實れ

春雨百草生

春雨 百草生ず

造物初何心

造物 初めより何の心ぞ

時至自枯榮

時至りて 自ら枯榮

惟有山頭石

惟だ有り 山頭の石

歲月浩莫測

歲月 浩として測る莫し

不知四時運

四時の運るを 知らず

常帶太古色

常に 太古の色を帯ぶ

老翁一生居此山

老翁 一生 此の山に居し

脚力欲盡猶躋攀

脚力尽きんと欲して 猶お躋攀す

時時撫石三歎息

時々石を撫して 三歎息す

安得此身如爾頑

安んぞ此の身の爾の如く頑なるを得ん

【語釈】

實…木が枯れる。造物…造物主。枯榮…枯れたり花が咲いたりする。浩…無限名物の形容。四時運…四季が廻る。老翁…自分のこと。躋攀…よじ登る。三歎息…何度ため息をつく。頑…頑丈

(中国詩人選集(二一八))

★宋 黄庭堅

鄂州南樓書事

鄂州南樓書事

四顧山光接水光

四顧すれば 山光水光に接し

凭闌十里芰荷香

闌に凭れば十里 芰荷香る

清風明月無人管

清風 明月 人の管する無く

并作南樓一夜涼

并わせて作す 南樓 一夜の涼

【語釈】

鄂州：湖北省武漢市の長江以南の地区。書事：事柄の感慨を書きしるす。山光：山の景色。水光：水面の輝き。闌：手すり。凭：もたれる。芰荷：菱と蓮。管：司る、支配する。

（漢詩大系18）

関連詩句

「四顧山光如鏡裡，陶然既醉且忘歸。」（明・王元鳳）

「白髮丹心論底事，清風明月屬閑人。」（宋・韓琦）

「清風明月虛無境，白雪陽春寂寞心。」（宋・黄庶）

★宋 黄庭堅

乞猫

猫を乞う

秋來鼠輩欺猫死

秋來 鼠輩 猫の死するを欺り

窺甕翻盤攪夜眠

甕を窺い盤を翻して 夜眠るを攪す

聞道狸奴將數子

聞道く 狸奴數子を將ゆと

買魚穿柳聘衙蟬

魚を買い 柳に穿ちて 衙蟬を聘せん

【語釈】

秋來：秋になつてから。聞道：聞くところによれば。狸奴：ねこま、猫の総称。  
衙蟬：猫の総称。聘：まねく。

(中国詩人選集二一七)

関連詩句

「買魚穿柳不蒙聘，深蹲地底老欲枯。」(宋 韓駒)

「爾點驚倒眉山蘇，買魚穿柳無狸奴。」(明 黄佐)

★宋 黄庭堅 雨中登岳陽樓望君山其一 雨中岳陽樓に登り君山を望む其一

投荒萬死鬢毛斑

荒こうに投ぜられて万死鬢毛斑ばんまなり

生出瞿塘灘瀕關

生きて出る瞿塘灘瀕かの關

未到江南先一笑

未だ江南に到らざるに先まず一笑し

岳陽樓上對君山

岳陽樓上君山くんざんに對す。

【語釈】

岳陽樓：湖南省岳陽市の西門の樓。洞庭湖に面し、楼上からの眺めが美しいこととで有名。山：洞庭湖中にある山。荒：辺境の地。投：流される。万死：何度も死ぬ思いをすること。死を覚悟すること。鬢毛：鬢びんの毛。左右側面の耳ぎわの毛。斑：白髪まじりになること。生出：生きて通り抜けることができた。瞿塘：瞿塘峡。四川省奉節県の東にある。長江の三峡の一つ、船の難所。灘瀕関：灘瀕堆の難関、瞿塘峡の入り口にある大暗礁長江最大の難所、「関」は難関の意であるが、ここでは関所の意も懸けている。江南：ここでは作者の故郷、分寧（江西省修水県）を指す。一笑：ちよつと笑うこと。

（中国詩人選集二一七）

関連詩句

「一身去國六千里，萬死投荒十二年。」（唐・柳宗元）

「傷哉生出瞿塘險，翻落黃梁一夢中。」（宋・文天祥）

「未到江南心已喜，隔江山色碧相招。」（宋・楊萬里）

「無端砧杵驚殘夢，未到江南第一州。」（明・于謙）

「岳陽樓上春已歸，湖中鴻雁拍波飛。」（宋・黃庭堅）

「岳陽樓上望重湖，混合乾坤入太虛。」（宋・鄒浩）

★宋 黃庭堅

次韻王穉川客捨二首王穉川の「客捨」に次韻す二首

五更歸夢常苦短

五更の帰夢 常に短きに苦しみ

一吋客愁無奈多

一寸の客愁 多きを奈する無し

慈母每佔烏鵲喜

慈母毎に佔わん 烏鵲の喜びを

家人應賦屢屨歌

家人応に賦すべし 屢屨の歌を

【語釈】

王穉川…王玠（詳細不明）。五更…明け方、明け方まで。歸夢…故郷の夢。一吋…心は胸の中の一寸の所にあるとし、寸心、方心とも言ふ。客愁…旅の愁い。無奈…どうしようもない。烏鵲喜…カササギが鳴くと良いことがあるとされる。家人…家の人、ここでは妻。屢屨歌…屢屨は戸を押さえる木、典故あり。

（漢詩大系 18）

★宋 黄庭堅

黔南謫居

黔南に謫居す其の一

相望六千里

相い望む 六千里

天地隔江山

天地 江山を隔つ

十書九不到

十書 九たびは到らず

何用一開顔

何を用つてか 一たび顔を開かん

【語釈】

黔南：貴州省黔南布。謫居：地方に流されていること。相望：ここでは故郷のほうを眺めやること。開顔：笑顔をする。

(漢詩大系 18)

★宋 黄庭堅

六月十七日晝寢

六月十七日晝寢ぬ

紅塵席帽烏鞞里

紅塵 席帽 烏鞞の里

想見滄洲白鳥雙

想見す 滄洲 白鳥の雙

馬齧枯萁喧午枕

馬は枯萁を噛みて 午枕に喧しく

夢成風雨浪翻江

夢は風雨の浪 江に翻えるを成す

【語釈】

紅塵：人通りの多い所に起こる砂埃。席帽：帽子の一種で、四方に網を垂れた物。烏鞞：黒い長靴。想見：想像する。滄洲：川のほとり、隠者の住むところ。雙：つがいで並ぶこと。枯萁：枯れたまめがら。午枕：昼寝。夢成：夢の中ではくようである。

(漢詩大系 18)



★宋 黃庭堅

竹枝詞

竹枝詞ちくしし

浮雲 一百八盤縈

浮雲 一百八盤まどに縈い

落日 四十八渡明

落日 四十八渡とに明らかなり

鬼門關外莫言遠

鬼門關外 遠しと言いう莫かれ

四海一家皆弟兄

四海は一家皆弟兄

【語釈】

竹枝詞：劉禹錫が始めた物で、地方の民謡、風俗などを七言絶句の形で詠った物。  
一百八盤：三峡地帯から黔州に到るまでの道中の地名、七曲がりの類い。縈：か  
らみつく。四十八渡：地名、四十八渡：地名、四十八の渡しがあることに由来す  
るか？。鬼門關：関所の名前。四海一家皆弟兄：世の中の人々は全て一家族で有  
り兄弟であるという「論語」の子夏の言葉に由来する。

(中国詩人選集二二七)

★宋 黄庭堅

夜發分寧寄杜澗叟

夜分寧を發し杜澗叟に寄す

陽關一曲水東流

陽關の一曲 水は東に流れ

燈火旌陽一釣舟

燈火 旌陽 一釣舟

我自只如常日醉

我自 只 常日 醉いの如し

滿川風月替人愁

滿川の風月 人に替わって愁う

【語釈】

杜澗叟：名は槃、故郷の友人。陽關一曲：王維作「送元二使安西」送別会で歌われた。旌陽：分寧東郊の山の名で故郷に近い。一釣舟：自分を釣り船に喩えている。滿川：川一杯。

関連詩句

「醉裏不辭金爵滿，陽關一曲腸千斷。」（唐・馮延巳）

「陽關一曲動山月，別淚千行盈酒船。」（宋・張耒）

「滿川風月今誰主，猿鶴哀鳴蕙帳空。」（宋・韓澆）

「借取尊前秋好處，滿川風月送君還。」（清・查慎行）

★宋 黄庭堅

和涼軒二首其二

涼軒に和す二首其二

茗椀夢中覺

茗椀夢中より覺む

荷花鏡裏香

荷花鏡裏に香る

涼生只當處

涼の生ずるは 只だ当所

暑退亦無方

暑の退ぞくも 亦た無方

【語釈】

涼軒：不明。茗椀：茶を飲むこと。荷花：蓮の花。鏡裏：池の中（水面が鏡のよ  
うな池）。當處：心の中で思えばの意。無方：心の中で思えばの意。

（漢詩大系）

関連詩句

「青鞋布襪秋歸早，猶有荷花鏡裏香。」（宋・釋行海）

「小橋虹影截波光，面面荷花鏡裏粧。」（金・趙秉文）

★宋 黄庭堅

寄黄幾復

黄幾復に寄す

我居北海君南海

我は北海に居り君は南海

寄雁傳書謝不能

雁に寄せて書を伝えんとするも能わざるを謝す

桃李春風一杯酒

桃李春風一杯の酒

江湖夜雨十年燈

江湖夜雨十年の燈

持家但有四立壁

家を持つるも但だ四立の壁有るのみ

治病不斲三折肱

病を治すに三たび肱を折るを斲めず

想得讀書頭已白

想い得たり書を讀んで頭已に白く

隔溪猿哭瘴煙藤

溪を隔だてて猿は哭く瘴煙の藤に

【語釈】

黄幾復：名は介、幾復は字、作者と同郷で同族、少年時代からの親友、この時、幾復は広州四会県（広東省）の知事であった。北海：この詩が作られた時、黄庭堅は山東省徳平鎮の長官をしていた、渤海湾に近いためこう言ったもの。南海：黄幾復がいた広東省四会県は南シナ海に近いためこう言ったもの。寄雁伝書：雁書、蘇武の故事を踏まえる。謝不能：そこまでは行けないと断られた。江湖：二人の故郷の江西豫章の湖。十年灯：十年勉学の灯を共にしたこと。持家：生計を維持する。四立壁：部屋には何もなく、周囲に壁が立っているだけという貧しい様子。三折肱：何度も試行錯誤を繰り返して名医になれる、転じて、成功するには苦労が必要だという喩え。斲：求める。瘴煙：南方の山川から立ち込める毒気。

（漢詩大系18）

関連詩句

「桃李春風多惠政，鸞皇雲路半門生。」（宋・劉摯）

「懸知後日逢迎際，桃李春風兩不言。」（宋・賀鑄）  
「春風桃李花開日，秋雨梧桐葉落時。」（唐・白居易）  
「場屋秋風三島夢，江湖夜雨四愁詩。」（宋・蕭立之）  
「我讀江湖夜雨編，西風搔首一凄然。」（宋・高斯得）

★宋 黃庭堅

戲詠江南土風

戲れに江南の土風を詠ず

十月江南未得霜

十月江南未だ霜を得ず

高林殘水下寒塘

高林の殘水 寒塘に下つ

飯香獵戶分熊白

飯は香しく 獵戶 熊白を分ち

酒熟漁家擘蟹黃

酒は熟して 漁家 蟹黃を擘く

橘摘金苞隨驛使

橘は金苞を摘みて 驛使に従い

禾春玉粒送官倉

禾は玉粒を春きて 官倉に送る

踏歌夜結田神社

踏歌 夜結ぶ 田神の社に

游女多隨陌上郎

遊女 多く従う 陌上の郎に

【語釈】

土風…土地の風俗。殘水…僅かの水。寒塘…寒々とした隄。熊白…熊の美味な脂肪。蟹黃…蟹の黄色な身。金苞…橘の実、朝廷への献上物であった。驛使…宿場にあ馬を乗り継いで遠隔地の連絡に当たる公用の使者。春…白でつく。玉粒…米粒の美称。官倉…租を治める倉。踏歌…手を繋ぎ足をふみながらして音頭をとって歌う歌。結…集まる。游女…游歩する女。陌…あぜ道。

（中国詩人選集二二七）

★宋 黄庭堅

思親汝州作

親を思じよしやうう汝州じよしやうの作

歳晚寒侵遊子衣

歳かく晩くれて寒かんは遊ゆう子の衣いを侵おかす

拘留幕府報官移

幕府くふに拘く留りせられて官移かんいを報はす

五更歸夢三百里

五更ごこうの帰き夢む三百里

一日思親十二時

一日いちにち親おやを思おもう十二時

車くるま上吐茵元不逐

車くるま上かみ茵いんに吐はくも元もと逐おわず

市中有虎竟成疑

市いち中ちゆう有ありて竟いに疑ぎいを成なす

秋毫得失關何事

秋毫しゆい毫の得と失し何事なにことか関かんする

總爲平安書到遲

總すべて平安へいあんの書しよ到たるが遅おそきが為なり

【語釈】

汝州：河南省臨汝県。遊子：旅人。幕府：長官が部下を選任する権利を持つ役所。官移：公文書。歸夢：故郷を思ふ夢。十二時：一日中。茵：しとね。元：もとも。逐：放逐する。秋毫：秋動物の毛、極細かい者の形容。

(中国詩人選集二一七)

関連詩句

「客枕五更歸夢短，新詩千首後人看。」(宋・陸游)

「萬里客魂迷楚峽，五更歸夢隔胥濤。」(宋・陸游)

「二月春容山色裏，五更歸夢雨聲中。」(宋・晁公遡)

「秋毫得失肯悲歡，北固山邊更一看。」(宋・史堯弼)

「曾子何曾解殺人，市中有虎未為真。」(明・王鏊)

コメントの追加 [h4]:

★宋 黄庭堅

登快閣

快閣に登る

癡兒了却公家事

癡兒了却す 公家の事

快閣東西倚晚晴

快閣 東西 晩晴に倚る

落木千山天遠大

落木 千山 天は遠大

澄江一道月分明

澄江 一道 月は分明

朱絃已爲佳人絕

朱絃 已に佳人の爲に絶つ

青眼聊因美酒橫

青眼 聊か美酒に因りて横わる

萬里歸船弄長笛

万里 帰船 長笛を弄し

此心吾與白鷗盟

此の心 吾 白鷗と盟す

【語釈】

快閣：慈恩寺内の楼閣。癡兒：馬鹿息子。了却：完了する。公家：朝廷。倚：寄りかかる。澄江：澄んだ河、贛江を指す、江西省を縦断して鄱陽湖に注ぐ。朱絃已爲佳人絶：知己の死を意味する、ことの名人伯牙の故事。青眼：歓びのまなざし、阮籍の故事。歸船：故郷に帰る船。白鷗：自由な生活の象徴。

(中国詩人選集二一七)

関連詩句

「霜風落木千山遠。護霜雲散晴晞暖。」(宋・趙師俠)

「北風落木千山空，海城偶見江文通。」(元・大圭)

「澄江一道山前過，短櫂平分浪痕破。」(明・程敏政)

「姚侯送我遊黃灣，澄江一道晴無瀾。」(清・查慎行)

「大江流日夜，此心吾與白鷗盟。」(清・崑方)

★宋 黃庭堅

清明

清明

佳節清明桃李笑

佳節清明桃李笑

野田荒冢只生愁

野田の荒冢 只だ愁を生ず

雷驚天地龍蛇蟄

雷は驚かす 天地 龍蛇の蟄

雨足郊原草木柔

雨は足りて 郊原 草木柔かなり

人乞祭餘驕妾婦

人は祭餘を乞いて 妾婦に驕り

士甘焚死不公侯

士は焚死に甘んじて 公侯たらず

賢愚千載知誰是

賢愚は千載 誰か是たるを知らんや

滿眼蓬蒿共一丘

滿眼の蓬蒿 共に一丘

【語釈】

清明：24節気の第5番目、春分から15日目。佳節：自出度い日。野田：野外の田畑。荒冢：荒れた田畑。驚蟄：眠（冬眠）りを覚ます。郊原：郊外と原野。祭餘：墓のお供え物のお余り。驕：自慢話をする（『孟子』の故事）。士：春秋戦国時代の介子推のこと（「寒食」の言われ）。蓬蒿：雑草の茂った草叢。

（中国詩人選集二一七）



★宋 黄庭堅

出城送客過故人東平侯趙景珍墓

城を出て客を送り故人東平侯趙景珍の墓を過ぐ

朱顔苦留不肯住

朱顔 苦に留むれども肯て住らず

白髮政爾欺得人

白髮 政爾として人を欺き得たり

嬋娟去作誰家妾

嬋娟 去りて誰が家の妾作る

意氣都成一聚塵

意氣 都て一聚の塵と成る

今日牛羊上丘壠

今日 牛羊 丘壠に上れども

當時近前左右嘖

當時 近前すれば左右嘖りき

花開鳥啼荆棘裏

花開き 鳥啼く荆棘の裏

誰與平章作好春

誰と與に平章して 好春を作さん

【語釈】

朱顔：若い人の顔。苦：ねんごろ。住：とどまる。白髮：白髪頭。政爾：まさか、まさしく。嬋娟：姿の美しい様。自分に使えていた美人。一聚塵：ひとかたまりの土、ここでは墳墓。丘壠：墳墓。近前：近づくこと。嘖：怒ること。荆棘：いばら。平章：品評すること、めぐること。

(漢詩大系18)

関連詩句

「花開鳥啼晝寂寂，酒闌燭明夜沈沈。」(宋・黄庭堅)

「清猿警夜兮鶴報晨，花開鳥啼兮長如春。」(元末明初・劉基)

「不知詩史千年下，誰與平章贈處篇。」(明・陳獻章)

★宋 黃庭堅

王充道送水仙花五十枝欣然會心爲之作詠

王充道 水仙花五十枝を送る 欣然として心に会い之が爲に詠を作す

凌波仙子生塵襪

波を凌ぐ仙子塵を生ずる襪

水上輕盈步微月

水上に輕盈として微月に歩ゆむ

是誰招此斷腸魂

是れ誰か 此の斷腸の魂を招き

種作寒花寄愁絕

種えて寒花と作し 愁絶を寄せたる

含香體素欲傾城

香を含む体素は 城を傾けんと欲し

山礬是弟梅是兄

山礬は是れ弟 梅は是れ兄

坐對真成被花惱

坐して對すれば 真成に 花に悩さる

出門一笑大江橫

門を出でて一笑すれば 大江横わる

【語釈】

王充道：不詳。欣然：非常に喜ぶ。會心：自分の気持ちにぴったりすること。凌：乗り越える。仙子：仙女、洛水の女神・宓妃、水仙をたとえた。襪：靴下。輕盈：なおやか、かるやかなさま。微月：かすかな月の光、三日月。愁絶：悲愁の極。體素：白い体、水仙の花のたとえ。山礬：ジンチョウゲ類の木。真成：本當に。被：受け身を表す助辞。大江：長江。

(中国詩人選集二一七)

関連詩句

「凌波仙子襪生塵，露冷風淒微月夜。」(宋・曾幾)

「凌波仙子靜中芳，也帶酣紅學醉粧。」(宋・范成大)

「寄語金華老仙伯，凌波仙子更凌空。」(宋・楊萬里)

「水上輕盈步洛神，人間一顧盡含顰。」(明末清初・彭孫貽)

「坐對真成在江國，淡煙微雨暗扶疏。」(宋・王鈇)

「簷鵲數聲清夢斷，出門一笑遇詩仙。」(宋・張順之)

「野意淒涼遠俗情，出門一笑亂山青。」(宋・鄒輓)

★宋 黄庭堅

次韻答斌老病起獨游東園二首其一

次韻して斌老の「病より起き独り東園に遊ぶ」に答う二首其の二

萬事同一機

万事 同じく一機

多慮乃禪病

多慮 乃ち禪病

排悶有新詩

悶を排して 新詩有り

忘蹄出兔徑

蹄を忘すれて 兔徑を出ず

蓮花生淤泥

蓮花 淤泥に生ず

可見嗔喜性

見るべし 嗔喜の性

小立近幽香

小しく立ちて 幽香に近づく

心與晩色靜

心 晩色と与に静なり

【語釈】

斌老：黄斌老、画と墨竹を得意とした。一機：幻法（魔術）。禪病：禪定に入っても妄想を生じて心身共に病むこと。悶：もだえ。蹄：わな。兔徑：兔の通り道。淤泥：汚れたどろ。嗔喜性：喜怒哀樂の性情。幽香：ゆかしい香り。晩色：夕方の景色。

（中国詩人選集二一七）

★宋 黄庭堅

次韻答斌老病起獨游東園二首 其二

次韻して斌老の「病より起き独り東園に遊ぶ」に答う二首 其二

主人心安樂

主人心安樂に

花竹有和氣

花竹和氣有り

時從物外賞

時に物外の賞に従い

自益酒中味

自ら酒中の味を益す

斲枯蟻改穴

枯を斲りて蟻は穴を改め

掃籜筍迸地

籜を掃きて筍は地より迸し

萬籟寂中生

萬籟寂中に生ず

乃知風雨至

乃ち知る風雨の至るを

【語釈】

斌老：黄斌老、画と墨竹を得意とした。主人：黄斌老のこと。物外：現象界の外。賞：めであること。酒中味：陶淵明飲酒十四に由来。枯：枯れ木。斲：斧を入れて切る。籜：竹の皮。萬籟：天地万物のどよもす物音。寂中：静寂な中。

(中国詩人選集二一七)

★宋 黄庭堅

次韻德孺感興二首

德孺の感興に次韻す二首 其の二

眼前嘗廢忘

眼前 嘗に廢忘す

事往更追尋

事の往けるを 更に追尋せんや

愛酒陶元亮

酒を愛しては 陶元亮

著書王仲任

書を著しては 王仲任

寒蒲雖有節

寒蒲 節有りと雖ども

枯木已無心

枯木 已に心無し

客至還須飲

客至らば 還た須らく飲むべし

逢歡起自斟

歡に逢いては 起つて自ら斟まん

【語釈】

德孺：范純粹、范仲淹の末子、黄庭堅と親交があった。眼前：目の前のこと。嘗…常。廢忘：捨て去る、忘れ去る。事往：過ぎ去ったこと。追尋：思い起こして考える。陶元亮：陶淵明。王仲任：後漢の文学者、『論衡』の著者。寒蒲：冬のがま。枯木已無心：枯れ木のように無心で栄華を求めない。

★宋 林逋 りんぼ

蒼茫沙觜鷺鷥眠

片水無痕浸碧天

最愛蘆花經雨後

一蓬煙火飯漁船

秋江写望

秋江 望を写す

蒼茫たる沙觜 鷺鷥眠る

片水 痕無く 碧天を浸す

最も愛す 蘆花 雨を経たる後

一蓬の煙火 漁船の飯するを

(詩詞世界)

★宋 林逋

山園小梅

山園小梅

衆芳搖落獨暄妍

衆芳搖落して 独り暄妍

占盡風情向小園

風情を占め尽くして 小園に向こう

疎影橫斜水清淺

疎影橫斜 水清淺

暗香浮動月黃昏

暗香浮動 月黃昏

霜禽欲下先偷眼

霜禽下らんと欲して 先ず眼を偷み

粉蝶如知合斷魂

粉蝶如し知らば 合に魂を断つべし

幸有微吟可相狎

幸いに微吟の 相狎るべき有り

不須檀板共金尊

須いず檀板と 金尊を共にするを

【語釈】

衆芳：多くのかぐわしい花。暄妍：あたたかくうつくしい。横斜：斜めにのびた枝。暗香：どこからともなく漂ってくる香り。霜禽：霜がれどきの鳥、白い鳥。粉蝶：白い蝶。偷眼：ぬすみ眼でみる。斷魂：びっくりする。檀板：楽器 梅檀の木で作る歌の調子をとる板。金尊：黄金の酒樽、りっぱな酒樽。

★宋 林逋

梅花

梅花

吟懷長恨負芳時

吟懷 長（つね）に恨む 芳時に負（そむ）けし時

為見梅花輒入詩

梅花を見しが為に 輒（すなわ）ち詩に入る

雪後園林纔半樹

雪後の園林 纔（わずか）に半樹

水辺籬落忽橫枝

水辺の籬落 忽ち横枝

人憐紅艷多応俗

人の紅艷を憐れむこと 多く応に俗なるべし

天与清香似有私

天の清香を与えしは 私有るに似たり

堪笑胡雛亦風味

笑うに堪えたり 胡雛の亦風味ありて

解将声調角中吹

声調を将って 角中に吹くを解せんとは



★宋 梅堯臣

魯山山行

魯山の山行

適與野情愜

適たまま野情かなと愜かない

千山高復低

千山高まく復また低まし

好峯隨處改

好峯隨處に改まる

幽徑獨行迷

幽徑ゆうけい獨ひとりり行まくまに迷まう

霜落熊升樹

霜落ちて熊樹に升り

林空鹿飲溪

林空しくして鹿溪に飲む

人家在何許

人家何許にか在る

雲外一聲雞

雲外 一声けいの雞けい

【語釈】

魯山：河南省の葉県から汝水の支流を西にさかのぼったところにある。野情：自然を愛する心。愜：満足する。幽徑：奥まってひっそりとした小徑。雲外：雲の彼方。

★宋 歐陽脩

豊楽亭游春

豊楽亭に春を遊ぶ

緑樹交加山鳥啼

緑樹交加して山鳥啼き

晴風蕩漾落花飛

晴風蕩漾として落花飛ぶ

鳥歌花舞太守醉

鳥歌い花舞いて太守酔う

明日酒醒春已歸

明日酒醒むれば春已に帰らん

【語釈】

豊楽亭：安徽省の滁州に欧陽脩が作ったあずまや。交加：枝と枝が交わる。蕩漾：…のどかにゆるぎ動く。太守：欧陽脩自ら。春歸：春が去る。

参考詩句

「樽前鳥歌花舞，歸路星翻漢回。」（宋・黃庭堅）

「樽前誰唱醉翁曲，鳥歌花舞催紅粧。」（宋・周紫芝）

「明日酒醒空想像，清吟半逐夢魂銷。」（宋・蘇軾）

「明日酒醒船鼓鳴，沙邊破埃不知名。」（宋・張耒）

（和漢名詩選評釈）

★宋 歐陽脩

豊楽亭遊春

豊楽亭に春を遊ぶ

紅樹青山日欲斜

紅樹青山 日斜めならんと欲す

長郊草色綠無涯

長郊の草色 綠涯り無し

遊人不管春將老

遊人は管せず 春將に老いんとす

來往亭前踏落花

亭前に來往して 落花を踏む

【語釈】

紅樹：赤い花の咲いている樹木。青山：青々と草木の茂っている山。長郊：広々と広がる野原。無涯：果てしない。遊人：春の行樂に出かけた人々。不管：気にかけない。春將老：春がもうすぐ過ぎ去ろうとしていること。亭前：豊楽亭の前。來往：行ったり来たりすること。  
〔漢詩鑑賞事典〕

★宋 歐陽脩

別滁

別滁

花光濃爛柳輕明

花光は濃爛にして 柳は輕明

酌酒花前送我行

酒を花前に酌みて 我が行を送る

我亦且如常日醉

我も亦た 且く常日の如く酔わん

莫教絃管作離聲

絃管をして離聲を作さしむること莫かれ

【語釈】

滁：滁州（南京の西北郊）のこと。花光：花の彩（いろど）り。濃爛：色濃く鮮やか。色濃く華やか。輕明：軽やかで明るい。酌酒：酒盛りをする。花前：花の咲き乱れるところで。行：旅立ち。且：しばし、短時間を謂う。常日：普段の日。弦管：琴と笛、管絃。離聲：別れの調べ。

（宋詩選注 1）

★宋 歐陽修

戲答元珍

戯に元珍に答う

春風疑不到天涯

春風疑うらくは天涯に到らざるかと

二月山城未見花

二月の山城未だ花を見ず

殘雪壓枝猶有橘

殘雪枝を圧して猶お橘有り

凍雷驚筍欲抽芽

凍雷 筍を驚かし芽を抽さんと欲す

夜聞歸鴈生鄉思

夜歸鴈を聞きて郷思を生じ

病入新年感物華

病新年に入りて物華に感ず

曾是洛陽花下客

曾是是れ洛陽花下の客

野芳雖晚不須嗟

野芳 晚しと雖も嗟くを須いず

【語釈】

元珍：定宝臣、このとき峽州判官（長官の属官）であった。疑：あたかもこのようである。天涯：空の果て、自分のいる地のこと。山城：山間の街。凍雷：寒空に鳴り響く雷。抽：草木が芽を出すこと。歸鴈：春、北に帰る鳥。病入新年：病が新年になっても治らないこと。物華：美しい自然の景色。野芳：野辺に咲きにおう花。不須：～するには及ばない。

（宋詩選注 1）

★宋 歐陽修

送張生

張生を送る

一別相逢十七春

一別相逢う十七春

頽顔衰髮互相詢

頽顔衰髮互いに相詢

江湖我再爲遷客

江湖に我れ再び遷客と爲り

道路君猶困旅人

道路 君は 猶お 旅に 困む人

老驥骨奇心尚壯

老驥 骨奇にして 心尚お壯なり

青松歲久色逾新

青松 歲久しくして 色 逾よ新なり

山城寂寞難爲禮

山城 寂寞 礼を爲し難し

濁酒無辭舉爵頻

濁酒 辭す無かれ 爵を挙げる こと頻りなるを

【語釈】

頽顔：しわが増え衰えた顔。相詢：互いに確かめ合う。遷客：官位を下げ地方に移される人、左遷される人。骨奇：骨相がすぐれている、ここでは風格がすぐれている。難為禮：十分なもてなしが出来ない。衰髮：髪が抜けた白髪。江湖：川や湖、ここでは地方のこと。老驥：老いた名馬、ここでは英雄が晩年不遇なこと。寂寞：さびしく不自由なさま。爵：酒杯

★宋 歐陽修

晚泊岳陽

晩に岳陽に泊す

臥聞岳陽城裏鐘

臥ふして聞く 岳陽城裏がくようじょうりの鐘

繫舟岳陽城下樹

舟を繫なぐ 岳陽城下の樹

正見空江明月來

正に見る 空江くうじょうに明月の來たり

雲水蒼茫失江路

雲水 蒼茫そうぼうとして 江路を失ううを

夜深江月弄清輝

夜深くして 江月 清輝せいこうを弄ろうし

水上人歌月下歸

水上人は歌ういて 月下に帰かえる

一闕聲長聽不盡

一闕いっけつ 声長くして 聴きけども 盡つきず

輕舟短楫去如飛

輕舟 短楫たんしゅう 去ゆくこと 飛とぶが如し

【語釈】

城裏：街の城壁の中。城下：街の城壁の外、郊外。空江：静まり広々とした長江。  
雲水蒼茫：水面と霧の境がはっきりしないこと。蒼茫：ぼんやりとしてはつきりしないさま。江路：船の行き来する行路。弄清輝：月が夜空を明るく照らし、川面を輝かせるさま。一闕：一つの曲。輕舟短楫：輕快に進む船と短い櫂。

(宋詩選注 1)

★宋 歐陽修

遠山

遠山 えんざん

山色無遠近

山色無遠近し

看山終日行

山を看て終日行く

峯巒隨處改

峯巒 ほうらん 処に従つて改まる

行客不知名

行客 こくかく 名を知らず

【語釈】

遠山：遠くに見える山。山色：山の景色。無遠近：「遠近」は、ここでは道程のこと。「無遠近」は、進む距離を気にしない、構わないという意。峰巒：山のみね。行客：旅の途上にある人。

『王安石及び宋詩別裁 五言絶句訳注』

★宋 范成大

四時田園雜興其一

四時田園雜興其一

柳花深巷午雞聲

柳花の深巷 午雞の聲

桑葉尖新綠未成

桑葉尖新綠 未だ成らず

坐睡覺來無一事

坐睡 覚め来たりて 一事無し

滿窗晴日看蠶生

滿窓の晴日 蚕の生るるを見る

【語釈】

柳花：柳の花、柳絮ではない。  
深巷：奥深くいりこんだ村里。午鶏：昼に鳴くニワトリ。尖新：枝の先が尖って新しい。坐睡：居眠り。無一事：何事もない。滿窗：窓いっぱい溢れるさま。  
晴日：晴れた太陽の光。

（宋詩選）



★宋 范成大

四時田園雜興其十五 四時田園雜興其十五

胡蝶雙雙入菜花

胡蝶 双々として 菜花に入る

日長無客到田家

日長くして 客の田家に到る無し

鷄飛過籬犬吠賣

鶏は飛びて 籬を過ぎ 犬は賣に吠ゆ

知有行商來賣茶

知る 行商の来たりて 茶をかう有るを

【語釈】

胡蝶：蝶・双双：つがいに揃った様子。菜花：菜の花。田家：農家。賣：孔

(范成大詩集)

★宋 楊萬里

舟泊吳江三首其二 舟吳江に泊る三首其二

江湖便是老生涯

江湖 便ち 是れ老生涯

佳處何妨且泊家

佳處何ぞ妨げん 且つ 家に泊するに

自汲松江橋下水

自ら汲む 松江 橋下の水

垂虹亭上試新茶

垂虹亭上 新茶を試む

【語釈】

吳江：蘇州の南にあり太湖の南に位置する。江湖：地方官としてあちこちを転々とする事。佳處：良い所。松江：太湖より流入して上海の北で海に注ぐ。垂虹亭：吳江県の東にあり、利往橋と言われた橋の上に築かれた亭。

(漢詩大系 16)

★宋 楊万里

閑居初夏午睡起

閑居初夏午睡より起く二絶句其の二

梅子留酸軟齒牙

梅子は酸を留めて 歯牙を軟にす

芭蕉分緑与窗紗

芭蕉は緑を分かちて 窓に与う

日長睡起無情思

日長く睡起して 情思無く

閑見兒童捉柳花

閑に見る 兒童の 柳花を捉うるを

【語釈】

閑居：静かな生活。梅子：梅の実。留酸：酸っぱさが口に残る。軟齒牙：歯が浮いたように感じる。窗紗：窓に張った薄い紗のカーテン。睡起：昼寝より起きる。無情思：何も思うことがない、何となく物憂い様子。閑看：のんびりと眺めている。

(漢詩大系 16)

★宋 楊万里

三三徑

三三徑

三徑初開是蔣卿

三徑初めて開きしは 是れ蔣卿

再開三徑是淵明

更に三徑を開きしは 是れ淵明

誠齋奄有三三徑

誠齋 奄有す 三三徑

一徑花開一徑行

一徑花開けば 一徑を行く

【語釈】

三三徑：九の道を作りその一つ一つに異なる花木を植えた。蔣卿：蔣詡。淵明：陶淵明。誠齋：作者の雅号。奄有：残らず占有する。

(漢詩大系 16)

★宋 楊萬里

夏夜追涼

夏夜涼を追う

夜熱依然午熱同

夜熱 依然として 午熱に同じ

開門小立月明中

門を開いて小立す 月明の中

竹深樹密蟲鳴處

竹深く 樹密にして 虫鳴く處

時有微涼不是風

時に微涼有あるも 是れ 風ならず

【語釈】夜熱：夜になってもまだ残っている暑さ。午熱：昼間の暑さ、真昼のうだるような暑さ。小立：しばらく立ったままでいる。月明：月あかり。竹深：竹林がこんもりと深く生い茂っている様子。樹密：樹木が薄暗くなるほど鬱蒼と生い茂っている様子。時：ときどき。時おり。微涼：かすかな涼しさ。

(漢詩大系 16)

★宋 蘇舜欽

淮中晚泊犢頭

淮中 晚に犢頭に泊す

春陰垂野草青青

春陰 野に垂れ 草 青々たり

時有幽花一樹明

時に幽花の一樹に明らかなる有り

晚泊孤舟古祠下

晩に孤舟を泊す 古祠の下

滿川風雨看潮生

満川の風雨 潮の生ずるを見る

【語釈】

淮中：淮河の中。犢頭：犢頭磯、淮河の中部の岸边にある渡し場の名前。春陰：春の暗雲。垂野 原野の上に低く垂れ込める。田野が暗雲によつて覆われていることを形容する。幽花 ひっそりと静かで辺鄙な場所の花。明：明瞭、ここでは、花の色が鮮やかで、人目を奪うことをさす。古祠：古い廟。川：河流。潮生 潮が満ちる。

(中国詩人選集二 一 1)

★唐末宋初 張泌

寄人二首 其一

人に寄す二首 其一

別夢依依到謝家

別夢 依々として 謝家に至る

小廊迴合曲闌斜

小廊 迴合して 曲闌斜めなり

多情只有春庭月

多情 只有り 春庭の月

猶爲離人照落花

猶お 離人の為に 落花を照らす

【語釈】

寄：詩を手紙で送る。別夢：別れた後相手のことを思う夢。依依：相手のことを思うさま。謝家：才女の家、(恋人である) 女性側の家。小廊：小振りな渡り廊下。小振りなまわり廊下。建物(：正房)の両外側の廊下。迴合：周囲をめぐる。曲闌：まがった欄干。多情：情愛が深く感じやすいこと。只有：ただ：だけがある。ただ：よりほかはない。離人：別れていった人、ここでは作者自身。

(唐詩三百首)

★宋 蘇舜欽

初晴遊滄浪亭

初めて晴 滄浪亭に遊ぶ

夜雨連明春水生

夜雨明に連つて春水生ず

嬌雲濃暖弄陰晴

嬌雲 濃暖 陰晴を弄す

簾虛日薄花竹靜

簾は虚しく日薄くして花竹静かに

時有乳鳩相對鳴

時に乳鳩の相い対して鳴く有り

【語釈】

初：たった今。滄浪亭：江蘇省蘇州市にある庭園。蘇舜欽が作り、江南の名園の中で最も古いものの一。連明：明け方にまで続く。春水：春になって、氷や雪がとけて流れる水。嬌雲：あでやかな雲。濃暖：たけなわの暖かさ。弄：めぐる。微晴：かすかな晴れ。乳鳩：子供の鳩。

(漢詩大系 16)

★宋 蘇舜欽

夏意

夏意

別院深深夏簾清

別院 深々として夏簾清く

石榴開遍透簾明

石榴 開くこと遍く簾を透して明かなり

樹陰滿地日當午

樹陰 地に滿ち日は午に当たり

夢覺流鶯時一聲

夢覺むれば流鶯時に一声

【語釈】

夏意：夏のおもむき。別院：別に建てた建物、離れ。深深：奥深い。簾：竹の表皮や葦などを編んだ敷物。石榴：ざくろ。簾：すだれ。樹陰：木の陰。滿地：地面一杯に。午：天頂。日當午：正午。

(宋詩選注 1)

★宋 蘇舜欽

秋宿虎丘寺數夕執中以詩祝因次元韻

秋、虎丘寺に宿すること數夕、執中、詩を以つて祝らる、因りて元韻にて次す

生事飄然付一舟

生事飄然として一舟に付す

吳山蕭寺且淹留

吳山の蕭寺且く淹留す

白雲已有終身約

白雲已に有り終身の約

醪酒聊驅萬古愁

醪酒聊か驅る万古の愁

峽束蒼淵深藏月

峽は蒼淵を束ねて深く月を蔵し

巖排紅樹巧裝秋

巖は紅樹を排して巧みに秋を装う

徘徊欲出向城市

徘徊して出でて城市に向わんと欲するも

引領烟蘿還自羞

領を引く煙蘿に還た自ら羞す

【語釈】

虎丘寺…江蘇省蘇州市にある寺。執中…寺僧のしかるべき者。祝…賜う。生事…なりわい、官吏としての仕事。飄然…風に漂い動く。吳山…蘇州は春秋時代吳の都であったので、蘇州の山。蕭寺…普通の寺のこと。淹留…逗留すること。醪酒…良い酒。驅…追っ払う。峽…山あい。蒼淵…蒼い淵。引領…遠く眺めてその方に行こうとすること。烟蘿…靄の籠めた葛。

(漢詩大系 16)

★宋 王禹偁

日長簡仲咸

日長何計到黄昏

日長ければ何の計か黄昏に到らん

郡僻官閑晝掩門

郡は僻に官は閑にして昼門を掩ざす

子美集開詩世界

子美の集は開く詩の世界

伯陽書見道根源

伯陽の書は見る道の根源

風飄北院花千片

風は北院に飄えりて花千片

月上東樓酒一罇

月は東樓に上りて酒一罇

不是同年來主郡

是れ同年の来りて主郡ならざれば

此心牢落共誰論

此の心牢落として誰と共にか論ぜん

★宋 王禹偁

村行

村行

馬穿山徑菊初黃

馬は山徑を穿ち 菊初めて黄なり

信馬悠悠野興長

馬に信せて悠々 野興長し

萬壑有聲含晚籟

万壑 声有り 晚籟を含み

數峯無語立斜陽

數峯 語無く 斜陽に立つ

棠梨葉落胭脂色

棠梨葉は落とす 胭脂の色

蕎麥花開白雲香

蕎麥花開いて 白雲の香

何事吟餘忽惆悵

何事ぞ吟余 忽ち惆悵たるは

村橋原樹似吾郷

村橋 原樹 吾が郷に似たり

【語釈】

村行：村を行く。馬穿山徑：馬で山道を通り抜けること。信馬：馬に乗り、馬にまかせて好きなように歩き回る。悠悠：ゆったりりのんびりして、心楽しいさま。野興長：野外の遊興がとても味わい深い。壑：山の谷。晚籟：日暮れ時に風が山の洞穴に吹き付けて発せられる音。棠梨：白棠・杜梨ともいう。胭脂：化粧用の紅色の顔料。蕎麥：そばと麦、白い花を咲かせる。何事：どうして、何ゆえ。吟餘：詩を作った後。惆悵：ものがなしい気持ちになる。○原樹 原野に生い茂った樹木。

(宋詩選注(1))

関連詩句

「皇都萬家欲何往，信馬悠悠成獨行。」(元・宋綬)

「明日渡江應轉首，數峰無語晚連空。」(宋・釋德洪)

「蕎麥花開如雪鋪，新霜寒早半欲枯。」(宋・姚勉)

「蕎麥花開草木枯，沙頭雨過茁蘑菇。」(元・胡助)



★宋 司馬光

客中初夏

客中の初夏

四月清和雨乍晴

四月清和雨乍晴

南山當戸轉分明

南山戸に当たつて転た分明

更無柳絮因風起

更に柳絮の風に因つて起る無く

惟有葵花向日傾

惟だ葵花の日に向かつて傾く有り

【語釈】

客中：旅の途中。清和：清くなごやかなさま。分明：はっきりして明かなさま。  
葵花：向日葵  
清和：爽やかで清々すがすがしい気候、また、陰曆の四月一日をもいう。乍  
：急に、さつと。南山：南の方に見える山。当戸：戸口の真正面に、「当」  
は向かい合うこと。転：いよいよ。分明：はっきりと見えている。更無：  
少しもくなくない、まったくくなくない。  
柳絮：柳の白い綿毛のついた種子。因風起：風に吹かれて乱れ飛ぶ。葵花  
：ひまわりの花。

(漢詩大系 16)

★宋 唐庚

醉眠

醉眠

山静似太古  
日長如小年

山静かにして太古に似たり  
日長くして小年の如し

餘花猶可醉  
好鳥不妨眠

余花猶お酔うべし  
好鳥睡りを妨げず

世味門常掩

世味門常に掩い

時光簾已便

時光簾已に便なり

夢中頗得句

夢中頗りに句を得たるも

拈筆又忘筌

筆を拈れば又筌を忘る

【語釈】

太古…大昔。小年…小一年。餘花…春咲き残っている花。世味…世俗のこと。時光…季節。簾…竹のごと。忘筌…目的を達して手段を忘れること、莊子の故事。

(三体詩)

★宋 寇準 こうじゅん

離心杳杳思遲遲

離心 りしん 杳々 ようよう として 思 し 遅々 ちち たり

深院無人柳自垂

深院 しんいん 人 にん 無く 柳 やなぎ 自 みづか ら垂 た る

日暮長廊聞燕語

日暮 にちぼ 長廊 ちやうらう に 燕語 えんご を聞 き く

輕寒微雨麥秋時

輕寒 けいかん 微雨 びう 麥秋 ばしゅう の時

【語釈】

離心：別離の情。杳杳：遙かに遠いさま。遲遲：気が進まないさま。深院：奥まった中庭。日暮：ひぐれ。燕語：燕のさえずり。輕寒：弱い寒さ。微雨：こぬか雨。麥秋：陰曆四月。

(詩詞世界)

★宋 秦觀 しんかん

春日

春日 しゅんじつ

一夕輕雷落萬絲

一夕輕雷 万糸を落し

霽光浮瓦碧參差

霽光 瓦に浮かんで 碧 參差 せいこう さいさ

有情芍藥含春泪

有情の芍藥 春涙を含み ゆうじょう せんやく しゅんなみ

無力薔薇臥曉枝

無力の薔薇 曉枝を臥す むりきょく せいげい ぎょうじ

【語釈】

一夕：とある夕方。輕雷：軽い雷。萬絲：数え切れない程の糸、即ち雨。霽光：雨で洗われたように出てきた日の光。參差：入り交じって不揃いの様。

（漢詩大系 16）

★宋 秦觀

秋日三首其一

秋日三首其一 しゅうじつ

霜落邗溝積水清

霜は邗溝に落ちて 積水清し しもは かんこう に落ちて せきすいせい

寒星無數傍船明

寒星 無數 船に傍いて明かなり かんせい 無数 せん に ぼういて てるかなり

菰蒲深處疑無地

菰蒲深き処 地無きかと疑うに こほ 深き ところ 地無きかと 疑うに

忽有人家笑語聲

忽ち人家 笑語の声有り たちまち 人家 笑語の 声有り

【語釈】

邗溝：淮河と長江を繋ぐ運河。隋・煬帝が完成させた。積水：積もった水、深い水。菰蒲：まこもとがま。寒星：寒空の星。傍：よりそう。

（詩詞世界）

★宋 陳与義 ちんよぎ

登岳陽樓二首其一

岳陽樓に登る 二首 其の一

洞庭之東江水西

洞庭の東 江水の西

簾旌不動夕陽遲

簾旌 れんせい 動かず 夕陽 せきやう 遅し

登臨吳蜀橫分地

登臨 とうりん ず 吳蜀 おうふん 横分の地

徙倚湖山欲暮時

徙倚 しい ず 湖山 暮れんと欲する時

万里來遊還望遠

万里 來遊して 還 かえ って遠くを望み

三年多難更憑危

三年 難 多くして 更に 危に憑る

白頭弔古風霜裏

白頭 いじしえ 古を弔う 風霜の裏 うち

老木蒼波無限悲

老木 あおなみ 蒼波 無限の悲しみ

【語釈】

岳陽樓・岳州(現・湖南省)の北部の洞庭湖畔の岳陽の街を囲む城壁の西門の樓。  
洞庭：洞庭湖。江水：長江の流れ。簾旌：カーテンの布、のれん。遲：ぐずぐず  
としている。登臨：高い所に登って、下をながめわたす。吳蜀：東の国と西の国  
の意として使う。吳：江蘇省と浙江省の北半分。蜀：現・四川省。横分地：横に  
区切っているところ。徙倚：さまよう。欲暮：暮れかける。暮れなすむ。萬里：  
長大な道程を謂う、遙々と。來遊：来て遊ぶこと。還：また、かえって。望遠：  
遠くの方を眺める。多難：金国が南侵して、汴京(開封)を失い、宋の朝廷が南  
遷するという事態を指す。憑危：高い所の窓辺に寄りかかる。憑：寄りかかる。  
危：高い、最も高いところ。白頭：白髪頭、転じて老人。弔古：遺跡等で往事の  
人を祀つたり、昔に想いを馳せること。風霜：風と霜、きびしく激しい環境。蒼  
波：青黒い波。あおい波。蒼浪。碧浪。無限：限りない。

(宋詩選注 2)

★宋 程顥

秋日偶成

秋日偶成

閑来無事不從容

閑来事として 從容ならざるは無し

睡覺東窗日已紅

睡り覺むれば東窓 日は已に紅なり

萬物靜觀皆自得

萬物靜觀すれば 皆自得す

四時佳興與人同

四時の佳興は 人と同じ

道通天地有形外

道は通ず天地 有形の外

思入風雲變態中

思いは入る風雲 變態の中

富貴不淫貧賤樂

富貴にして淫せず 貧賤にして楽しむ

男兒到此是豪雄

男兒此に到らば 是れ豪雄

【語釈】

偶成：偶然の思いつきで作った詩。閑来：暇になってから。從容：ゆったりと落ち着いたさま。靜見：心靜かに物事を見極める。自得：処を得て納得する。四時：四季。佳興：よい趣。有形外：形の無いもの。變態：ここでは世相の移り変わりの定まらないさま。富貴：富んで身分の高いこと。淫：むさぼる。貧賤：貧しく身分が低いこと。到此：このような状況に達すれば。豪雄：すぐれた人物

(漢詩大系 16 宋詩選)

★宋 程顥

郊行即事

郊行即事

芳原綠野恣行時

芳原 綠野 行を恣にする時

春入遙山碧四圍

春は遙山に入りて 四圍 碧なり

興逐亂紅穿柳巷

興ずれば 乱紅を逐いて 柳巷を穿ち

困臨流水坐苔磯

困ずれば 流水に臨みて 苔磯に坐す

莫辭盞酒十分醉

醉する莫かれ 盞酒 十分に酔うを

祗恐風花一片飛

祗だ恐るる 風花 一片 飛ぶを

況是清明好天氣

況や是れ 清明の好天氣

不妨游衍莫忘歸

妨ず 游衍して 帰るを忘るるを

莫は？

【語釈】

郊行：郊外を散歩すること。芳原：花の美しく咲いている草原。遙山：遙かな山。四圍：周囲。亂紅：乱れ飛ぶ赤い花びら。柳巷：柳並木の道筋。苔磯：苔の生えている川辺の石。盞酒：坏に入った酒。清明：二十四節氣の一つ、春分後十五日目。游衍：歩き回る。

(宋詩選)

★宋 戴益 たいえき

探春

春を探る さく

終日尋春不見春

終日 春を尋ねて 春を見ず

芒屨踏破嶺頭雲

芒屨 踏み破る 幾重の雲

歸來偶把梅花嗅

帰り来たりて 試みに梅花を把りて嗅げば

春在枝頭已十分

春は枝頭に在りて 已に十分

【語釈】

探春：春のけしきを尋ね歩くこと。盡日：一日じゆう。終日。芒屨：わらじ。踏遍 すみずみまで歩きまわる。隴頭：隴山のほとり、隴山は今の陝西省と甘肅省の境をなす山の名。昔呉の陸凱が江南太守であった時、隴頭に在った親交の范曄に対し梅花と詩一首を添えた書信を寄せた故事により「隴頭雲」は梅花を連想させる。歸來：帰り道に。来は助辞で意はない。

★宋 戴復古 たいふくこ

江村晚眺二首其一

江村晚眺二首其二

江頭落日照平沙  
潮退漁舫閣岸斜  
白鳥一雙臨水立  
見人驚起入蘆花

江頭の落日平沙を照らす  
潮退いて漁舫岸に閣かれて斜めなり  
白鳥一雙水に臨みて立つ  
人を見て驚起して蘆花に入る

【語釈】

江村晚眺：川辺の村の夕暮れの眺め。江頭：川のほとり。平沙：果てしなく広がっている砂原。潮退：潮が引く。漁舫：細身の小舟で刀の形をしているもの。擱：停泊する。一双：一つがい。驚起：おどろいて飛び立つ。蘆花：アシの花。

(漢文大系 16)



★宋 戴復古

淮村兵後

淮村兵後じゅんそんへいご

小桃無主自開花

小桃 主無く自ら花を開く

烟草茫茫帶曉鴉

烟草 茫茫 曉鴉を帶ぶ

幾處敗垣圍故井

幾処 敗垣 故井を囲む

鄉來一一是人家

鄉來 一々 是れ人家

【語釈】

淮村：淮河（南宋と金との国境）流域の村落。兵：戦い（金軍の侵入）。烟草：霞みでぼんやりとした遠くの草むら。茫茫：草が多く生えて乱れているさま。晚鴉：夕暮れに鳴きながら単に戻るカラス。敗垣：壊れた垣根。故井：古井戸。向來…今まで。一一…ひとつひとつ。是…は…である、be動詞にあたる。

（詩詞世界）

★宋 戴復古

釣臺

釣臺ちようたい

萬事無心一釣竿

万事無心 一釣竿

三公不換此江山

三公にも換えず此の江山

平生誤識劉文叔

平生 誤りて 劉文叔を識り

惹起虛名滿世間

虚名を惹起して世間に満たしむ

【語釈】

釣臺：敵子陵が宮廷生活を辞し、富春山に住み、その中腹の岩場で釣りをしていたところ、敵陵釣台ともいう。無心：何も考えないこと。三公：最高位の三つの官職。後漢では大尉、司徒、司空。平生…その昔。劉文叔：後漢の光武帝劉秀が皇帝になる前の名前、敵子陵は劉文叔の親友であり、光武帝が即位したとき招かれたが出士しなかった。虚名…実力の伴わない名声。

（漢詩大系 16）

★宋 魏野

登原州城呈張貴從事

原州の城に登り 張貴従事に呈す

異郷何處最牽愁

異郷 何れの処か 最も愁いを牽く

獨上邊城城上樓

独り上る辺城 城上の楼

日暮北來唯有鴈

日暮 北來するは 唯だ鴈有るのみ

地寒西去更無州

地寒くして西に去れば 更に州無からん

數聲塞角高還咽

数声の塞角 高く還た咽ぶ

一派涇河凍不流

一派の涇河 凍りて流れず

君作貧官我爲客

君は貧官と作り 我は客と爲る

此中離恨共難收

此の中の離恨 共に收め難し

【語釈】

原州：甘肅省鎮原県。張貴：人名、経歴不詳。従事：地方の州で採用する属官。  
牽：引つ張る。邊城：国境の街。北來：来たから来る。塞角：砦で時を告げる角  
笛。涇河：曲がりくねって流れる川。貧官：下級役人、張貴従事のこと。離恨：  
別れなければならぬ恨み。

(漢詩大系 16)

★宋 魏野

書友人屋壁

友人の屋壁に書す

達人輕禄位

達人 禄位を輕んじ

居処傍林泉

居処 林泉に傍う

洗硯魚吞墨

硯を洗えば 魚は墨を呑み

烹茶鶴避煙

茶を煮れば 鶴は煙を避く

閑惟歌聖代

閑にして惟だ 聖代を歌い

老不恨流年

老いて流年を恨みず

静想閑来者

静かに想う 閑來の者

還応我最偏

還た応に 我最も偏なるべし

【語釈】

達人：達観している人、友人のこと。禄位：俸禄と官位。居処：住んでいるところ。林泉：林の中の泉。閑：静かで落ち着いたさま。聖代：太平の世。流年：流れていく歲月。閑来：閑散となつて以来。偏：偏屈者。

(漢詩大系 16 題名は異なる)

★南宋 文天祥 ぶんてんしやう

過零丁洋

れいていよう  
零丁洋を過ぐ

辛苦遭逢起一經

辛苦遭逢一經より起こる きんくそうほういっけいよりおこる

干戈落落四周星

干戈落々たり四周星 かんからくらくたりしゅうしゅうせい

山河破碎風拋絮

山河破碎して風絮を拋わし さんかぱくさいふうたうじよ

身世飄搖雨打萍

身世飄搖して雨萍を打つ しんせいひょうりやううひよう

皇恐灘頭說皇恐

皇恐灘頭 皇恐を説き きようこうだんとうきようこう

零丁洋裏歎零丁

零丁洋裏 零丁を歎く れいていようりれいてい

人生自古誰無死

人生 古自り誰か死無からん いんしんこじえよ

留取丹心照汗青

丹心を留取して汗青を照さん たんしんりゆうしゆい

【語釈】

零丁洋：…広東省の珠江の河口付近の海の名、「零丁」は、落ちぶれて孤独であること。辛苦：…辛いことに遭って苦しむこと。遭逢：…遭遇する。出くわすこと。起一經：…経書を修めて、二十歳で進士に及第し、仕官したこと。干戈：…戦争。落落：…思うようにならないさま。「寥落」に作るテキストもある。四周星：…四年。破碎：…破壊された。絮：…柳絮。柳の白い綿毛のついた種子。拋：…吹き散らす。身世：…わが身一代。一生涯。飄搖：…さすらう。漂い動く。萍：…浮き草。雨打萍：…浮き草を雨が打ち叩く、不安なこと喩え。零丁：…落ちぶれて孤独であること。歎：…嘆く。自：…は「より」と読み、「くから」と訳す。丹心：…忠誠の真心。留取：…留めておく。「取」は助字。汗青：…歴史書を指す。照：…史上に名を輝かせたい。

(中国名詩選(下) 川合)

★南宋 文天祥

金陵駅二首 其一

金陵駅 二首 其の一

草合離宮転夕暉

草は離宮に合して夕暉転ず

孤雲飄泊復何依

孤雲飄泊して復た何くにか依る

山河風景元無異

山河風景元異なる無きも

城郭人民半已非

城郭人民半ば已に非なり

满地蘆花和我老

地に満つる蘆花は我と和に老い

旧家燕子傍誰飛

旧家の燕子は誰に傍いてか飛ぶ

従今別却江南路

今より別れ却る江南の路

化作啼鵑帶血歸

化して啼鵑と作り血を帯びて帰らん

【語釈】

金陵駅：金陵（南京）の宿場。孤雲：ただひとつの離れ雲、孤独の人。飄泊：故郷を離れてさまよい身を寄せる。復：また、ふたたび。依：よる。城郭：都市。已非：とつくにまなくなっている。・满地：地面いっぱいになる。芦花：アシの花。・和：〜といっしょに。旧家：昔から続いている家。燕子：ツバメ。傍：そう。別却：別れてしまう。江南：長江下流の南岸地域一帯。化作：〜になつて。啼鵑：啼くホトトギス。帶血：血を附着させて。帰：本来の居所（祖国）へかえる。

★金 元好問 げんこうもん

巳五月三日北渡三首其三

癸巳五月三日北渡三首其三

白骨縱横似亂麻

白骨 縱横 乱麻に似る

幾年桑梓變龍沙

幾年 桑梓の 龍沙に變ぜし

只知河朔生靈盡

只だ知る 河朔 生靈の尽くるを

破屋疏煙卻數家

破屋 疏煙 卻つて數家

【語釈】

北渡：黄河を南から北へ渡ること。青城（山東省高青県）から聊城（山東省聊城市）へ連行されたことを指す。縦横：あたり一面。乱麻：乱れもつれた麻糸のように散らばっていることの形容。幾年：もう何年になるだろうか。桑梓：桑と梓、転じて、父母の地・故郷・郷里の意。龍沙：西北の砂漠地帯の通称。只知：ただくと聞いて知っていた。河朔：黄河の北、河北。生靈：人民。尽：全滅させられた。破屋：こわれた家。疎煙：まばらな人家の煙。却：予期に反して。數家：數軒。

（漢詩大系20）

★金 元好問

俳體雪香亭雜詠十二首 其二

俳躰 雪香亭雜詠十二首 其二

落日青山一片愁

落日 青山 一片の愁

大河東注不還流

大河 東に注いで 還流せず

若為長得熙春在

若為ぞ 長えに 熙春の在るを得て

時上高層望宋州

時に 高層に上りて 宋州を望まん

【語釈】

青山：青緑の山。一片愁：あたり一面にただよう愁情。還流：流れが廻って帰ってくる。若為：どうにかして。熙春：熙春閣、蒙古軍が汴京を占領したときも、この建物は破壊されず残されていた。時：しばしば。宋州：河南省歸徳府、哀宗は、河北から此の地に落ちのびていた。

(漢詩大系 20)

関連詩句

「憐君更去三千里，落日青山江上看。」(中唐 劉長卿)

「殘花舊宅悲江令，落日青山弔謝公。」(唐末至五代 韋莊)

★金 元好問 げんこうもん

俳體雪香亭雜詠十二首其十

はいたいせつこうぎょうえい  
俳體雪香亭雜詠十二首其の十

暖日晴雲錦樹新

だんじつ せいうん きんじゆ  
暖日 晴雲 錦樹新たなれども

風吹雨打旋成塵

風吹き 雨打ち 旋ち塵と成る

宮園深閉無人到

宮園深く閉ざし 人の到る無く

自在流鶯哭暮春

自在の流鶯 暮春に哭す

【語釈】

晴雲：晴れ渡った空に漂う雲。錦樹：花を付けた美しい樹木。旋：一転して。自在：自由に飛び回る。流鶯：枝から枝に飛び回る鶯。哭：声を上げて泣く。

(漢詩大系 20)

関連詩句

「暖日晴雲知次第，東風不用更相催。」(唐·令狐楚)

「詩如春風入花骨，暖日晴雲入竹石。」(宋·王庭珪)

「一徑穠芳萬藥攢，風吹雨打未摧殘。」(唐·陸希聲)

「最是牡丹堪痛惜，風吹雨打漸離枝。」(宋·李至)

「刺桐枝上紅如錦，自在流鶯盡日啼。」(明·黃佐)



★金 元好問

壬辰十二月車駕東狩後即事其一

壬辰十二月車駕東狩の後の即事其一

翠被匆匆見執鞭

翠被 匆匆 鞭を執るを見る

戴盆鬱鬱夢瞻天

戴盆 鬱々 夢に天を瞻る

只知河朔歸銅馬

只だ知る 河朔の 銅馬に帰するを

又說臺城墮紙鳶

又説く 台城 紙鳶墮つと

血肉正應皇極數

血肉正に応ず皇極數、

衣冠不及廣明年

衣冠及ばず広明の年に。

何時真得携家去

何れの時にか 真に家を携さえて去くを得て

萬里秋風一釣船

万里の秋風 一釣船ならん

【語釈】

車駕：天子の車。東狩：東方を巡狩（天子が地方を巡行し視察）すること、ただし、この場合は、都の汴京を離れて落ち延びること。即事：目にした出来事、物事を題材に詩を作ること。翠被：翡翠の羽で飾った外套。匆匆：あわただしいこと。戴盆：自由に点を見ることが出来ないこと。鬱鬱：気持ちが悪さがる。河朔：河北の地。銅馬：賊兵。臺城：六朝時代の都（南京）の天子の居城。墮紙鳶：救援のために挙げられた凧が落ちる（包囲された汴京の救援の望みが絶たれたこと）。血肉：（金王朝の）血統。皇極數：王朝の命運について書かれた書物。衣冠：高位高官。廣明年：唐の僖宗の年号（898年）、黄巢の乱の時、逃れた僖宗に付き従う高官は殆どいなかった故事。携家：家族を引き連れる。萬里秋風：万里の地を吹き抜けてゆく秋風。一釣船：一つの釣り船、安定した生活。

（漢詩大系20）

関連詩句

「萬里秋風吹錦水，誰家別淚濕羅衣。」（唐・杜甫）  
「今朝萬里秋風起，山北山南一片雲。」（唐・杜牧）  
「萬里秋風天外意，日斜閑啄岸邊苔。」（北宋・歐陽修）

★金 元好問

壬辰十二月車駕東狩後即事五首 其二

壬辰十二月車駕東狩後即事五首 其二

慘澹龍蛇日鬥爭

慘澹として龍蛇 日々鬥爭し

干戈真欲盡生靈

干戈 真に生靈を尽くさんと欲す

高原水出山河改

高原 水出でて山河改たまり

戰地風來草木腥

戰地 風来つて草木腥し

精衛有冤填瀚海

精衛 冤みの瀚海を填むる有り

包胥無淚哭秦庭

包胥 涙の秦庭を哭する無し

并州豪傑知誰在

并州の豪傑 知る誰か

莫擬分軍下井陘

軍を分ちて 井陘を下らんと擬すること莫かれ

【語釈】

慘澹：むごたらしいさま。龍蛇：龍は金軍、蛇は蒙古軍。鬥爭：鬭争。干戈：戦鬭。生靈：人民。「高原水出山河改」：思いがけない蒙古軍の侵入で世の様が変わったこと。精衛：女性の名（典故有り）。冤：恨み。填瀚：蒙古、ゴビ砂漠一帯。包胥：春秋時代の楚の太夫である申包胥（故実あり）、一句の意味は涙を絞って援軍を頼む者もないし、その宛もないと言う事。并州豪傑：并州は山西省一帯、豪傑の出るところとされる。知誰在：誰も存在刷ることを知らない。井陘：河北省井陘県。莫擬：「欲す」と同意、くしようとしなないのか。

★金 元好問

壬辰十二月車駕東狩後即事五首 其三

壬辰十二月車駕東狩の後の即事其の三

鬱鬱圍城度兩年

鬱鬱として圍城に 兩年を度る

愁腸飢火日相煎

愁腸を 飢火は日々に相い煎る

焦頭無客知移突

焦頭ありとも 客の突を移すを知る無し

曳足何人與共船

曳足ありとも 何人か船を共にせん

白骨又多兵死鬼

白骨 又 兵死の鬼多し

青山元有地行仙

青山 元 地行の仙有り

西南三月音書絕

西南 三月 音書絶え

落日孤雲望眼穿

落日孤雲 望眼を穿つ

【語釈】

鬱鬱：気がふさがつて楽しまないさま。圍城：囲まれた汴京城。度兩年：あしかけ〇年を経過する。愁腸：愁いの心。飢火：激しい飢餓。相煎：火であるように痛めつける。焦頭：頭にやけどをした人。焦頭無客知移突：故事に基づく、「災いに慌てふためいた人はいるが、災いを事前に忠告した人は、我が国にはいなかった。」の意。曳足何人與共船：故事に基づく、「仮に後漢の馬援のような將軍がいても、その將軍と舟を共にして苦勞を分かつような者はいない。」の意。青山：青緑の山。元：もともと。地行：地上にある。地行仙：仙人のような安逸な生活を送っている高官。音書：たより。孤雲：ちぎれ雲。望眼穿：遠くを見る目をえぐる。

(漢詩大系20)

関連詩句

「莫行百里一回頭，落日孤雲靄新畫。」(北宋・蘇轍)

「憑高游目快遐瞻，落日孤雲與水兼。」(北宋・張耒)

「淮山漠漠水潭潭，落日孤雲自不堪。」(宋・饒節)

★金 元好問

憔悴南冠一楚囚

歸心江漢日東流

青山歷歷鄉國夢

黃葉瀟瀟風雨秋

貧裏有詩工作崇

亂來無淚可供愁

殘年兄弟相逢在

隨分齋鹽萬事休

夢歸

歸るを夢めむ

憔悴す 南冠の一楚囚

歸心 江漢 日々東流す

青山 歴々たり 郷国の夢

黄葉 瀟々たり 風雨の秋

貧裏 詩の工に崇りを作す有り

乱来 涙の愁いに供すべき無し

残年 兄弟 相逢うて在らば

分に隨う齋塩に 万事休しとせん

【語釈】

憔悴：つかれおとろえる。南冠：囚われの身。歸心：故国に帰りたい気持ち。江漢：長江と漢江。東流：東向かつて流れる、このように故国に帰りたい。青山：青緑の山。歴歴：ありありと目に映るさま。郷國：故国。瀟瀟：物寂しいさま。貧裏：貧しい暮らしのうち。詩工作崇：氏の上手いことが災いになる。亂來：乱が起きてから。供：そえる。殘年：残りの人生。隨分：身分にあった。齋鹽：粗末な食事。萬事休：それだけでよい。

(漢詩大系20)

関連詩句

「歸心江漢朝宗水，滯跡周南太史書。」(元末明初・張昱)

「東望鄉關萬餘里，歸心江漢轉依依。」(明・顧璘)

「青山歷歷水悠悠，今日相逢明日秋。」(中唐・張籍)

「已知無心更無礙，青山歷歷孤雲飛。」(北宋・沈遼)

「翠華此日知何在，黃葉瀟瀟萬歲山。」(明・揭軌)

「青山點點雨初過，黃葉瀟瀟霜已多。」(明・林弼)

★金 元好問

夢裏鄉關春復秋

眼明今得見并州

古來全晉非無策

亂後清汾空自流

南渡衣冠幾人在

西山薇蕨此生休

十年弄筆文昌府

爭信中朝有楚囚

太原

夢裏の郷関春復た秋

眼明に今并州を見るを得たり

古来晋を全うするに策無きに非らず

乱後清汾空しく自ら流る

南渡の衣冠幾人が在る。

西山の薇蕨此の生を休せん

十年筆を弄す文昌府

争で信ぜん中朝に楚囚有りとは

太原

【語釈】

夢裏：夢のうち。郷関：ふるさと。眼明：はっきりと。并州：中原から真北側にあたる地域、元好問の故郷。晋：春秋戦国時代の国。清汾：清らかな汾河の流れ。南渡衣冠：并州から黄河を渡って汴京に向かった役人達。西山：首陽山（山西省水済県の南にある）。薇蕨：ワラビとゼンマイ、伯夷叔斉の故事。休：安息をあたえる。弄筆：官吏として勤務する。文昌府：朝廷。争信：どうして信じられよう。中朝：朝廷の中。楚囚：捕虜。

（漢詩大系 20）

関連詩句

- 「夢裏郷関雲満路。釵壓緑鬢蟬半鞞。」（清・徐燦）
- 「客中愁思真如病，夢裏郷関不當歸。」（清・張心淵）
- 「傳聞一馬化爲龍，南渡衣冠亦願從。」（盛唐・孫逖）
- 「中原景物久荆棘，南渡衣冠隨梗蓬。」（南宋・黄公度）
- 「西山薇蕨蜀山銅，可見夷齊與鄧通。」（北宋・王禹偁）
- 「西山薇蕨東陵瓜，前村烟雨黄犢車。」（宋末元初・趙必豫）

★金 元好問

岐陽三首 其二

岐陽三首 其二

百二關河草不橫

百二の關河 草 横たわらず

十年戎馬暗秦京

十年の戎馬 秦京暗し

岐陽西望無來信

岐陽を西望すれども 來信無く

隴水東流聞哭聲

隴水 東流して 哭声を聞く

野蔓有情縈戰骨

野蔓 情有りて 戰骨に縈い

殘陽何意照空城

殘陽 何の意あつてか 空城を照らす

從誰細向蒼蒼間

誰に從つてか 細かに 蒼々に向つて問わん

爭遣蚩尤作五兵

争で 蚩尤をして 五兵を作らしめたるやと

【語釈】

岐陽：長安の西150キロメートル、鳳翔路にある城市。百二：二人で護れば、百人に敵することができる堅固な地勢。關河：函谷関と黄河。草不横：草も生えない。十年戎馬：長い間の戦い。秦京：新の都咸陽で今の西安。來信：便り。隴水：甘肅省を流れる川の名。哭聲：慟哭の声。情：情け心。野蔓：野にはびこる蔓草。縈：まとわりつく。戰骨：戦いで死んだ人の骨。殘陽：夕陽。何意：どのような思いで。空城：誰もいなくなつてがらんとした城市。細：くわしく。つまびらかに。向……に。蒼蒼：運命を司る天。問：天に問いかける。争：どうして……か。遣……に……をさせる。蚩尤：黄帝時代の諸侯の名、兵乱を好み、黄帝に滅ぼされた人、ここでは、モンゴル軍をも指している。五兵：五種の兵器。弓矢、爰（ほこ、しゆ）、矛（ほこ、ぼう）、戈（ほこ、か）、戟（ほこ、げき）等。

（漢詩大系 20）

関連詩句

「佳城萬古淒涼地，隴水東流猿夜聲。」（宋・王庭珪）

★金 元好問

後飲酒五首其四

後飲酒五首其四

萬事有定分

万事分に定め有り

聖智不能移

聖智も移す能わず

而於定分中

而うして定まれる分中に於いて

亦有不測機

亦た機を測る有らず

人生桐葉露

人生は桐葉の露

見日忽已晞

日を見ては忽ち已に晞わく

唯當飲美酒

唯だ當に美酒を飲むべし

儻來非所期

儻來は期す所に非らず

【語釈】

定分：定まっている運命。聖智：聖の智恵、何でも通じないものが無いほどの知恵。移：動かし変える。機：瞬間的なきっかけ。晞：乾く。儻來：たまたま偶然にやってくるもの、名声、富貴などを言う。非所期：期待する物ではない。

(漢詩大系 20)

★金 元好問

飲酒五首 其二

飲酒五首 其二

去古日已遠

古を去りること日 已に遠く

百偽無一真

百偽一真無し

獨餘醉鄉地

独り醉郷の地を余し

中有羲皇淳

中に羲皇の淳有り

聖教難為功

聖教 功を為し難く

乃見酒力神

乃ち見る 酒力の神

誰能釀滄海

誰か能く滄海を醸し

盡醉區中民

尽く区中の民を酔わしめん

【語釈】

古：古い理想の時代。醉郷：酒に酔うだけで酔い理想の世界。羲皇淳：帝王伏羲の純朴さ、極めて純朴でのんびりした世界。聖教：聖人の教え。神：人力では計り知れない不思議さ。滄海：大海。釀：醸して酒にする。區中：世界中。

(中国詩人選集第二集 9)



★金 元好問

落魄

落魄

落魄宜多病

落魄多病に宜し

艱危更百憂

艱危更に百憂

雨聲孤館夜

雨聲孤館の夜

草色故園秋

草色故園の秋

行役魚鱣尾

行役魚鱣尾

歸期烏白頭

歸期烏白頭

中州遂南北

中州遂に南北

殘息付悠悠

殘息悠悠に付かんか

【語釈】

落魄：落ちぶれたさま。宜：ふさわしい。艱危：国難。孤館：一軒家。行役：戦  
に行くこと。鱣尾：赤い尾、魚が疲労すると尾が赤くなるという。歸期：故郷に  
帰る時。中州：中国、ここでは金の領土。南北：蒙古軍によって国が二分された。  
殘息：余生。悠悠：世間の煩わしさから離れてのどかな生活を送ること。

(漢詩大系 20)

★元 薩都刺

雪中渡江過山飲暘谷簡上人房 其二

雪中に江を渡り山を過ぎ暘谷の簡上人の房にて飲む 其二

山酒吹香出小槽

山酒 香を吹き 小槽より出で

燈前痛飲汚青袍

灯前に痛飲して 青袍を汚がす

夜深夢醒知何處

夜深くして 夢醒むれば 何處なるかを知らんや

老鶴一聲山月高

老鶴 一声 山月高し

【語釈】

暘谷：日出づる処。簡上人：簡という僧侶。房：家。山酒：山村で醸（かも）した酒。吹香：香りが噴き出す。小槽：水、酒などを入れる器。青袍：…青衫で、ひとえの短い衣で、地位の低い官吏の着る服。知何處：どこにしていることやら（分かろうか）。

（詩詞世界）

★明 高啓

出郭舟行避雨樹下

郭を出で舟行して雨を樹下に避く

一片春雲雨滿川

一片の春雲 雨川に滿つ

漁簑欲借苦無縁

漁簑 借りんと欲して 縁なきに苦しむ

多情水廟門前柳

多情の水廟 門前の柳

遮我孤舟半日眠

我が孤舟を遮ぎって半日眠る

【語釈】 漁簑：漁夫の着る蓑。水廟：竜王の廟

関連詩句

「兩行綠樹當隋岸，一片春雲限楚天。」（北宋・張耒）

「潤陵望斷憶玄暉，一片春雲渭水涯。」（南宋・何夢桂）

「退朝西殿承平日，一片春雲奏鳳笙。」（元・薩都刺）

「一片春雲出岫飛，長松猶挂女蘿衣。」（元末明初・胡奎）

★明 高啓

雨中閑臥

うちゆうかんが  
雨中閑臥

牀隠屏風竹几斜

牀は屏風に隠り竹几は斜めなり

臥看新燕到貧家

臥して看る新燕の貧家に到るを

閒居心上渾無事

閑居心上渾べて事無く

对雨唯憂損杏花

雨に対して唯だ憂う杏花を損わんことを

【語釈】

牀…寝台。竹几…竹製の机。新燕…始めてきた燕。閒居…閑でいること。心上…身の上。体。

★明 高啓

階前苔

かいぜん  
階前の苔

莫掃雨餘緑

掃う莫かれ雨世の緑

任滿閒階路

満つるに任せよ閒階の路

留藉落來花

留めて落ち来る花に藉ぎ

春泥免相汗

春泥の相汚すを免れしめん

【語釈】

掃…掃き捨てる。雨餘…雨上がり。緑…苔のこと。閒階…階段。藉…敷物となる。春泥…春の泥。

★明 高啓

春日憶江上二首 其一 春日江上を憶う二首 其の一

一川流水半村花

一川の流水半村の花

旧屋南隣是釣家

旧屋の南隣是れ釣家

長記歸篷載春醉

長えに記す 帰篷に春酔を載せ

雲籠殘照雨鳴沙

雲は殘照を籠め 雨は沙に鳴りしを

【語釈】

江上…川の畔。半村…村の半分（を蔽う）。旧屋…古い建物。釣家…漁夫の家。  
帰篷…帰りの苦舟。春酔…春の快い酔い（こ）ち。籠…おおう。殘照…夕日

関連詩句

「指點東城歸路寫，一川流水鬧棲鴉。」（宋・王之道）

「四坐春山有秋色，一川流水見桃花。」（元・吳當）

「四壁青山列畫圍，一川流水逐驂駢。」（明・韓邦奇）

「數點寒鴉投遠樹，一川流水遶孤村。」（清・田雯）

★明 高啓

採茶詞

採茶詞

雷過溪山碧雲暖

雷過ぎて溪山碧雲暖かに

幽叢半吐槍旗短

幽叢半ば吐く槍旗の短きを

銀釵女兒相應歌

銀釵の女兒相應歌し

筐中摘得誰最多

筐中摘み得るは誰か最も多き

歸來清香猶在手

歸り来たりて清香猶手に在るに

高品先將呈太守

高品は先ず將つて太守に呈す

竹爐新焙未得嘗

竹爐新たに焙れども未だ嘗を得ず

籠盛販與湖南商

籠に盛りて販りて与う湖南の商

山家不解種禾黍

山家は解くせず禾黍を種うるを

衣食年年春雨

衣食年年春雨に在り

【語釈】

雷過：啓蟄の頃、茶摘みの季節。碧雲：碧色の雲。幽叢：静かな深い茂み。槍旗  
：茶の葉の形を形容する言葉。釵：斜めに突き刺す簪。筐：かご。高品：高級品。  
竹爐：茶をあぶる炉。湖南商：湖南省から来る商人。禾黍：稲ときび、作物。

(中国漢詩人選集2-10)

関連詩句

「銀釵女兒闌顔色，一聲夢覺聞清歌。」(明・徐庸)

「銀釵女兒脂粉香，竹枝歌裏唱悠揚。」(明・徐庸)

「衣食年年半有無，冷風寒雨在江湖。」(明・鄭文康)

★清 朱佩蘭

傷心最是無家客，衣食年年出硯田。」(清)

★明 高啓

偶睡

偶睡

竹間門掩似僧居

竹間門は掩おほされて 僧居そうきよに似たり

白荳花開片雨餘

白荳花は開く 片雨へんりゆうの余よ

一榻茶烟成偶睡

一榻いっとうの茶煙 偶睡ぐすいを成し

覺來猶把讀殘書

覺さめ来たれば 猶なほお把にぎる 読殘よめざんの書

【語釈】

偶睡：たまたま眠の睡り。僧居：寺。片雨：ある地域の一部分にだけ降る雨。餘：あと。榻：こしかけ。茶煙：茶を沸かす煙。覺來：目覚めてくる・猶：なおま  
だ。把：手に取る。持つ。読殘書：読みかけの本。

(詩詞世界)

関連詩句

「酔後回機冲宿鷺，竹間門掩曲房深。」(明・鄧雲霄)  
「步到上方殊寂寞，竹間門掩老僧棲。」(晚清・林占梅)  
「一榻茶煙清夢熟，因思松瀑灑冰簾。」(元・錢惟善)  
「一榻茶煙清似水，金釵劃作斷腸紋。」(明・王彥泓)  
「一榻茶煙晝掩關。杏花消息燕鶯瞞。」(清・吳藻)

★明 高啓

山中別寧公歸西塢

山中にて寧公の西塢に帰るに別る

一上香臺看落暉

一たび香台に上って落暉を見る

沙村孤樹晚依依

沙村孤樹晚に依依たり

老僧不出青山寺

老僧は出でず青山の寺

只有鐘聲送客歸

ただ鐘聲の客の帰るを送る有り

【語釈】

寧公：寧殿、人物不詳。西塢：浙江省寧波市？。香臺：仏殿。落暉：沙村：砂浜の村。夕日。依依：遠くぼんやりとしたさま。青山：隠逸の地。

関連詩句

「老僧不出迎朝客，已住上方三十年。」（中唐・賈島）



★明 高啓

蜀山書舎図

蜀山の書舎の図

山月蒼蒼照煙樹

山月 蒼々として 樹を照らす

碧浪湖頭放船去

碧浪湖頭 船を放ちて去く

隔林夜半見孤燈

林を隔てて 夜半 孤燈を見れば

知是幽人読書処

知る 是れ 幽人 書を讀む処

【語釈】

蜀山：所在不明。書舎：書齋。山月：山の上にかかった月。蒼蒼月が青白いさま。  
煙樹：霞の中にかすんで見える木々。碧浪湖頭、碧浪湖のほとり、現在の碧浪湖は、浙江省湖州市吳興区にある川の名。孤灯：ぼつんと一つ灯つているともし火。  
幽人：俗世間を避けてひっそりと暮らしている人。

(Web 漢文大系)

関連詩句

- 「直哭的山月蒼蒼。野猿啼老松枝上。」(元・宮大用)  
「孤琴引興青山墅，山月蒼蒼鳥聲曙。」(明・郭廔)  
「碧浪湖頭翰墨香，山蜂遊趣午陰涼。」(元・張雨)  
「偶然將作清漪看，碧浪湖頭一釣艖。」(明・王世貞)  
「門前雙桂更作門，路人知是幽人屋。」(南宋・楊萬里)  
「恠來落葉兼風下，知是幽人讀楚騷。」(明・李東陽)  
「微妙叢樹兩間屋，知是幽人舊適軸。」(明・沈守正)

★明 高啓

逢吳秀才復歸江上

吳秀才と逢い復た江上に帰る

江上停舟問客蹤

江上舟を停どめ客縦を問う

亂前相別亂餘逢

亂前相別れ亂余に逢う

暫時握手還分手

暫時手を握り還た手を分つ

暮雨南陵水寺鐘

暮雨の南陵水寺の鐘

【語釈】

秀才：学者、知識人階級のこと。復：ふたたび。江上：河の畔、川の水面。客蹤：旅人としての行跡。亂：元末の張士誠の叛乱。餘……後。暫時：しばらくの間。還：また。南陵：地名。水寺：水辺にある寺。

(詩詞世界)

関連詩句

「江上停舟潮未回，漢安時事入重思。」(宋末元初・釋雲岫)

「林間解珮傷蒼葢，江上停舟感揭車。」(元末明初・劉崧)

「江上停舟繫水楊，伴人鷗鳥自成行。」(明・皇甫汈)

「江上停舟望九華，水雲如障卷晴霞。」(明・李震)

★明 高啓

送呂卿

呂卿を送る

遠汀斜日思悠悠

遠汀斜日思悠悠

花拂離觴柳拂舟

花は離觴を払い 柳は舟を払う

江北江南芳草徧

江北江南芳草徧し

送君併得送春愁

君を送って併せて春愁を送るを得たり

【語釈】

呂卿：呂殿。遠汀：遠くまで引いたみぎわ。斜日：夕日。悠悠：うれえるさま。離觴：別れの杯。春愁：春の愁い。

関連詩句

「灑東灑西一萬家，江北江南春冬花。」（唐・杜甫）

「夾河爲郡不如古，江北江南作冗官。」（北宋・梅堯臣）

「春風春雨花經眼，江北江南水拍天。」（北宋・黃庭堅）

「田夫田婦肩頰擔，江北江南家滌場。」（北宋・黃庭堅）

★明 高啓

江村即事

江村即事

野岸江村雨熟梅

野岸江村雨梅を熟す

水平風軟燕飛迴

水平らかにして風軟らかく燕は飛回す

小舟送餉荷包飯

小舟餉を送る荷包の飯

遠旆招沽竹醞醕

遠旆招いて竹醞醕を売る

【語釈】

野岸：野原を流れる川の岸。江村：川のほとりの村。餉：弁当。荷包：腰などに付ける物入れ。旆：旗。竹醞醕：竹の中で醸したどぶろく。

★明 高啓

梅花六首其一

梅花六首其一

瓊姿只合在瑤臺

瓊姿 只合に 瑤台に在るべし

誰向江南處處栽

誰か 江南に向かつて 処々に栽えたる

雪滿山中高士臥

雪満ちて山中 高士臥し

月明林下美人來

月明らかにして 林下 美人來る

寒依疎影蕭蕭竹

寒は依る疎影 蕭々の竹

春掩殘香漠漠苔

春は掩う殘香 漠々の苔

何郎去自好詠無

何郎去つて自り 好詠無し

東風愁寂幾回開

東風愁寂 幾回か開く

【語釈】

瓊姿：清らかに美しい姿（梅のこと）、瑤台：仙人の住むうてな。江南：長江の南側の地方、江蘇、安徽、江西省の地域。高士：高尚な人（梅のこと）。美人：梅をさす。依：寄り添う。疎影：疎らな花の陰。蕭蕭：物寂しい様。殘香：花が落ちた後の香。漠漠：一面に広がっているさま。何郎：梁の詩人の何遜、揚州の官舎にあつた梅を見たいばかりに、転勤した。愁寂：寂しいこと。

関連詩句

「吟成枕上呼兒寫，雪滿山中謝客眠。」（明末清初・錢澄之）

「風來江上波濤闊，雪滿山中草木寒。」（清・何其超）

「雪滿山中無蠟屐，掩關寂寂夕陽藩。」（清・吳蘭畹）

「月明林下獨凝神，疏影橫斜爲寫真。」（明・謝五娘）

「風起窗前聞解籜，月明林下堪容屐。」（清・曹貞吉）

「春掩殘香烟漠漠，曙分疎影月冥冥。」（明・劉師邵）

「卻憶江南碧桃樹，東風愁寂爲誰開。」（清・屠寄）

★明 高啓

梅花六首 其三

梅花六首 其三

翠羽驚飛別樹頭

翠羽驚きて飛ぶ別樹の頭

冷香狼藉情誰收

冷香狼藉誰を情て收めん

騎驢客醉風吹帽

驢に騎する客酔いて 風に帽を吹かれ

放鶴人歸雪滿舟

鶴を放つ人歸りて雪舟に満つ

淡月微雲皆似夢

淡月微雲皆夢に似たり

空山流水獨成愁

空山流水独り愁を成す

幾看孤影低何處

幾看る孤影低何する処

只道花神夜出遊

只だ道う花神 夜出でて遊ぶと

【通釈】

翠羽：うぐいす。冷香：冷たい梅の花の香り。狼藉：占め尽くしているの意。情：借りる、手助けしてもらう。驢：ろば。放鶴人：林逋のこと、梅を妻とし鶴を子として故山に隠棲した。淡月：おぼろ月。空山：人気のない山。低何：彷徨う。

(漢詩大系 2 1)

関連詩句

「曉來翠羽驚飛去，應爲煙鐘樹杪撞。」(南宋・劉克莊)

「翠羽驚飛江上鳥，白蘋開滿江邊花。」(清・黃琮)

「放鶴人歸惟野鳥，釣魚船冷有眠鷗。」(明末清初・彭孫貽)

「淡月微雲對倚樓，無聲河漢自西流。」(南宋・吳儆)

「三花兩葉開枝上，淡月微雲動水邊。」(南宋・釋元肇)

「淡月微雲窺色相，曇花時現法輪中。」(明・蘇學程)

「空山流水空流花，飄然已去凌青霞。」(北宋・歐陽修)

「別後空山流水裏，不知幾度碧桃開。」(元末明初・徐賁)

「鼓罷瑤琴策杖還，空山流水聽潺潺。」(元末明初・陶安)

「絕壑寒林惟有月，空山流水四無鄰。」(明・蘇平)

★明 高啓

梅花六首 其六

梅花六首 其六

斷魂只有月明知

斷魂<sup>だんこん</sup> 只<sup>ただ</sup>だ 月明<sup>げつめい</sup>の 知<sup>し</sup>る 有<sup>あ</sup>り

無限春愁在一枝

無限<sup>むげん</sup>の 春愁<sup>しゅんしゆう</sup> 一<sup>いっ</sup>枝<sup>し</sup>に 在<sup>あ</sup>り

不共人言唯獨笑

人<sup>ひと</sup>と 共<sup>とも</sup>に 言<sup>い</sup>わ<sup>ず</sup> 唯<sup>ただ</sup>だ 独<sup>ひとり</sup>り 笑<sup>え</sup>み

忽疑君到正相思

忽<sup>たちま</sup>ち 疑<sup>あ</sup>い 君<sup>きみ</sup>の 到<sup>あ</sup>る かを 疑<sup>あ</sup>い 正<sup>ただ</sup>に 相<sup>あ</sup>い 思<sup>おも</sup>う

歌殘別院燒燈夜

歌<sup>うた</sup>は 残<sup>のこ</sup>る 別<sup>べつ</sup>院<sup>いん</sup>に 燈<sup>あかり</sup>を 燒<sup>や</sup>く 夜<sup>よ</sup>

妝罷深宮覽鏡時

妝<sup>そう</sup>は 罷<sup>や</sup>む 深<sup>ふか</sup>宮<sup>みや</sup>に 鏡<sup>かがみ</sup>を 覽<sup>み</sup>る 時<sup>とき</sup>

舊夢已隨流水遠

舊<sup>ふる</sup>夢<sup>ゆめ</sup> 已<sup>すで</sup>に 流<sup>なが</sup>水<sup>みづ</sup>に 従<sup>したが</sup>って 遠<sup>とほ</sup>く

山窗聊復伴題詩

山<sup>やま</sup>窓<sup>まど</sup> 聊<sup>いさな</sup>か 復<sup>また</sup>た 伴<sup>とも</sup>いて 詩<sup>うた</sup>を 題<sup>め</sup>せり

【語釈】

斷魂：魂を断つほど心に染みる想い。春愁：春のもの悲しさ。相思：相手のことを思う。別院：別の建物。妝：よそおい。深宮：宮殿や家の奥深い所。舊夢：過ぎ去ったはかないこと

(漢詩大系21)

関連詩句

「醜怪驚人能嫵媚，斷魂只有曉寒知。」(宋・蕭德藻)

「傷心日暮煙霞起，無限春愁生翠眉。」(唐・張祜)

「無限春愁莫相問，落花流水洞房深。」(唐・趙嘏)

「灑池城郭半遺基，無限春愁挂落暉。」(唐末・吳融)

★明 高啓

早春寄王行

早春 王行に寄す

江水江花只自春

江水江花 只だ自ら春なり

不知容易解愁人

知らず 容易に 人を愁えしむるを解すを

山川寂寞衣冠泪

山川 寂寞 衣冠の泪

今古消沈簡冊塵

今古 消沈 簡冊の塵

草草逢人空識面

草々 人に逢い 空しく面を識り

匆匆為客莫容身

匆匆 客と為りて 身を容るる莫し

十年憂患誰相慰

十年の憂患 誰か 相慰さむ

頼得君家是近鄰

頼に 君が家 是れ近鄰なるを得たり

【語釈】

王行：元明間 蘇州の人、北郭十才子の一人。寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。衣冠：着物と冠、礼装。消沈：活気がなくなる。簡冊：竹簡から転じて手紙。草草：はやばや。匆匆：忙しいさま、あわただしいさま。憂患：心配のこと。

(國譯漢文大成)

関連詩句

「人生有情淚霑臆，江水江花豈終極。」(唐・杜甫)

「臨江把臂難再得，江水江花豈終極。」(北宋・王安石)

「江水江花同臭味，海南湖北各山川。」(北宋・謝逸)

「江水江花自今古，湖南湖北足風濤。」(宋・王庭珪)

「山川寂寞繁華後，都邑蕭條魚鳥間。」(北宋・張耒)

「山川寂寞客子迷，草木搖落壯士悲。」(南宋・陸游)

「山川寂寞非常態，市井蕭條似破村。」(宋末元初・汪元量)

「山川寂寞英雄死，有客悲歌吊黍離。」(明・朱謀賢)

「今古銷沉幾項斯，由來作者不祈知。」(宋・曾由基)

「今古消沉詩句裏，河山浮動酒杯中。」(金・劉昂霄)

「今古銷沈餘釣艇，斷腸重聽暮潮聲。」（明末清初·施閏章）  
「迎暉山下此來游，草草逢人易唱酬。」（清·董瑋）

「事國十年憂患同，酣歌幾日暫相從。」（北宋·歐陽修）

「十年憂患本誰知，慚愧仙翁有舊期。」（北宋·蘇轍）

「牢落雙泉一病翁，十年憂患掃還空。」（宋·李光）

「相對小窗賓客散，十年憂患不須論。」（宋·李光）



★明 高啓

初夏江村

初夏の江村

輕衣軟履歩江沙

輕衣軟履 江沙を歩く

樹暗前村定幾家

樹暗くして 前村定めて 幾ばくの家ぞ

水滿乳鳧翻藕葉

水満ちて 乳鳧 藕葉を翻えし

風疏飛燕拂桐花

風疏にして 飛燕 桐花を払う

渡頭正見橫漁艇

渡頭 正に見る 漁艇の横わるを

林外時聞響緯車

林外時に聞く 緯車の響くを

最是黃梅時節近

最も是れ 黃梅の時節近く

雨餘歸路有鳴蛙

雨余の帰路 蛙の鳴く有り。

【通釈】

輕衣：軽快な着物。軟履：柔らかい靴。江沙：河原の砂。前村：行く手の村。乳鳧：鴨の雛。藕葉：蓮の玻。渡頭：渡し場。緯車：糸車。黃梅時節：海の実の色づく季節。雨餘：雨上がり。

(中国詩人選集)

関連詩句

「雨餘歸路淨朝塵，草色新州又一新。」(明・龐嵩)

★明 高啓

次韻西園公詠梅二首其二

西園公の梅を詠ずに次韻す二首其の二

雪中無伴只孤芳

雪中 伴無く 只だ 孤芳

倚竹元非翠袖妝

竹に倚るも 元 翠袖の妝に非らず

馬上忽逢臨水驛

馬上 忽ち逢う 水に臨む驛

鶴邊忽見向山房

鶴邊 忽ち見る 山に向かう房

春愁寂寞天應老

春愁 寂寞として 天 応に老ゆべし

夜色朦朧月亦香

夜色 朦朧として 月 亦た香る

此地一尊聊自戀

此地 一尊 聊か自から恋ゆ

揚州迴首已淒涼

揚州 首を迴らせば 已に淒涼

【語釈】

孤芳：独りだけ良い香りを放って咲いている。翠袖：青緑色の衣の袖、女性の衣服を示す。鶴邊：鶴のいるあたり。春愁：春の愁い。寂寞：ひっそりとして物寂しいさま。夜色：夜の景色、気配。一尊：一樽の酒。揚州：江蘇省揚州市。淒涼：物寂しい。

(國譯漢文大成)

関連詩句

「春愁寂寞天應老，夜色朦朧月亦香。」（元末明初・高啓）

★明 高啓

尋胡隱君

胡隱君を尋ぬ

渡水復渡水

水を渡り復た水を渡り

看花還看花

花を看還た花を看る

春風江上路

春風江上の路

不覺到君家

覺えず君が家に到る

【語釈】

胡隱君…胡という名前の隱者、詳細不明。

水…川。

★明 高啓

送前進士夏尚之歸宜春

前進士夏尚が之きて宜春に帰るを送る

淒涼庾開府

淒涼 庾開府

老去復如何

老去りて復如何

故國歸鴻少

故國 歸鴻 少なく

新朝振鷺多

新朝 振鷺 多し

菊荒應自嘆

菊荒れて応に自ら嘆じ

麥秀竟誰歌

麥秀で誰が歌か竟きる

相送堪愁思

相送りて 愁思に堪えたり

蕭蕭楚水波

蕭々たり 楚水の波

【語釈】

夏尚：人名。宜春：江西省西部の地級市。淒涼：痛ましい。庾開府：北周の文学  
家 庾信のこと。南陽郡新野県の人。南朝の梁に生まれ、前半生は皇太子蕭綱（後  
の簡文帝）配下の文人として活躍した。侯景の乱後の後半生は、やむなく北朝の  
北周に身を置くことになり、代表作「哀江南賦」をはじめ、江南を追慕する哀切  
な内容の作品を残した。愁思：悲しみ愁う物思い。蕭蕭：寂しいひっそりとした  
さま

コメントの追加 [h5]:

コメントの追加 [h6]:

★明 高啓

歩至東皋

歩して東皋に至る

斜日半川明

斜日半川明るく

幽人每獨行

幽人毎に独り行む

愁懷逢暮慘

愁懷暮に逢いて慘たり

詩意入秋清

詩意秋に入りて清し

鳥啄枯楊碎

鳥は啄ばみて枯楊碎け

蟲懸落葉輕

虫は懸かりて落葉輕ろし

如何得歸後

如何んぞ帰り得たりし後

猶似客中情

猶お客中の情に似たるや

【語釈】

東皋：東の水辺の土地。斜日：夕日。半川：川の半分。幽人：自然の豊かさを愛する人（自分の事）。愁懷：心にわだかまる愁。慘：深刻になる。詩意：詩を作ろうとする心。枯楊：枯れたネコヤナギ。蟲懸：蓑虫のような虫がぶら下がる。如何：どうしてか。客中：たびの途中。情：心  
（中国詩人選集）

★明 高啓

雨篷

雨篷

楚雨滿汀洲

楚雨汀洲に満ち

瀟瀟灑客舟

瀟々として客舟麗し

夢驚孤枕夜

夢は驚く孤枕の夜

愁掩一篷秋

愁は掩う一篷の秋

葦葉寒相戰

葦葉は寒に相戦い

灘聲暗共流

灘聲は暗く共に流る

此時湘浦上

此の時湘浦の上

同聽隻沙鷗

同に聴くは隻だ沙鷗

【語釈】

雨篷：雨に濡れた舟の覆い。楚雨：楚の地の雨。汀洲：なぎさと中州。瀟瀟：雨がもの寂しく降るさま。夢驚：夢が覚める。孤枕：独り寝。一篷：一つの舟、孤舟。葦葉：葦の葉。灘聲：急流の音。相戦：そよぐ。湘浦：湘水の入り江。隻：一つの。

★明 高啓

水上盥手

水上に手を盥う

盥手愛春水

手を盥あいて 春水を愛す

水香手應緑

水は香しく 手ま將に緑なり

泔泔細浪起

泔うん々として 細浪起り

杳杳驚魚伏

杳よう々として 驚魚伏す

惆悵坐沙邊

惆悵として 沙辺に坐す

流花去難掬

流花去さりて 掬すくい難し

【語釈】

盥：手を洗う。泔泔：水の豊かに漲ること。杳杳：暗いさま、遙かなさま。惆悵  
…痛み悲しむさま

(漢詩大系 21)

★明 高啓

悲歌

悲歌 ひか

征途險巖

せいと けんざい  
征途 險巖

人乏馬飢

ひと つか  
人乏れ 馬飢えたり

貧少不如富老

富老は 貧少に如かず

美遊不如惡歸

びゆう  
美遊は 惡歸に如かず

浮雲隨風

浮雲は 風に隨い

零亂四野

しや  
四野に 零亂す

仰天悲歌

天を仰いで 悲歌すれば

泣數行下

なみだ  
泣 數行下る

【語釈】

征途…旅の途中。險巖…険しい。美遊…楽しい旅。惡歸…傷つき帰る喜び。零亂…乱れ落ちること。

(漢詩大系21)

(搜韻と違いあり)



★明 袁凱 えんがい

京師得家書

京師にて家書を得たり けいし

江水三千里

江水三千里

家書十五行

家書 かしょ 十五行

行行無別語

行々 別語無し

只道早還鄉

只道 い 早く 郷 かえ に還れと

【語釈】

江水…長江の流れ。三千里…都の南京から作者の故郷、松江県華亭までの距離。家書…家からの手紙。行行…どの行にも。每行。別語…ほかの言葉。

(元明詩概説)

★明 袁宏道

謝于楚由川入楚將東歸歛復北上有姬在燕也

謝于楚 川由り楚に入り 將に東のかた歛に帰り復た北上せんとす、  
の燕に在ある有れば也 姫

蹄輪汨汨幾曾閒

蹄輪 汨汨 幾ぞ曾て閑ならん

鬢髮蕭騷塵滿顏

鬢髮蕭騷 塵は顔に満てり

卷裏携來三峽水

卷裏 携え來る 三峽の水

夢中吟去九華山

夢中 吟じ去る 九華山

一江春月浮輕舸

一江の春月 輕舸を浮かべ

萬樹濃花念小鬟

滿樹の濃花 小鬟を念う

世態飽經鹹苦盡

世態 飽くまで 鹹苦を経尽くす

爭如歸臥酒壚間

争でか 如かん 酒壚の間に歸臥するに

【語釈】

謝于楚：作者の詩友。川：四川。歛：安徽省の南西の境に近い県、墨の産地として有名。姫：謝于楚の若い妻。燕：北京。蹄輪：馬車。汨汨：水が流れるように、先へ先へと進むさま。幾曾：何曾よりも口語的な言葉。閒：閑でゆったりしたさま。蕭騷：髪がほつれたさま。卷裏：詩巻の中。九華山：安徽省の青陽県にある山。小鬟：かわいい小娘、謝于楚の妻。

(中国詩人選集二―11)

★明 袁宏道

感事

事に感ず

湘山晴色遠微微

湘山の晴色遠く微々たり

盡日江頭獨醉歸

尽日江頭に独り酔いて帰える

不見兩関傳露布

見ず 兩関の露布を伝うるを

尚聞一殿未垂衣

尚お聞く 一殿未だ衣を垂れずと

邊籌自古無中下

辺籌古 自り中下無し

朝論于今有是非

朝論今に于いて是非有り

日暮平沙秋草亂

日暮平沙秋草乱れ

一雙白鳥避人飛

一雙の白鳥人を避けて飛ぶ

【語釈】

湘山：洞庭湖の東にそびえる秀麗な山。微微：奥深く静かなさま。盡日：終日。  
兩関：二つの国境の要地。露布：勝ち戦の報告。垂衣：天子が政治を行うこと  
(曉瞬の故事)。邊籌：边境に対する戦略と政策。朝論：朝廷に於いて行われる  
議論。是非：あまたこうだという論争。平沙：平で広い砂原、砂漠。

(中国詩人選集二一11)

★明 袁宏道

江上送別

江上の送別

颯颯征鴻帶雨飛

颯々として征鴻 雨を帯びて飛び

孤帆無計駐斜暉

孤帆 斜暉を駐むるに計無し

西風蘭杜香流水

西風 蘭杜は流水に香しく

落日雲霞浣客衣

落日 雲霞は客衣を洗う

野店無人花自發

野店 人無く花 自ら発

秋江有路夢先歸

秋江 路有りて 夢先に帰る

年來贈別傷同調

年來 別れに贈るに 調べを同じゅうするを傷む

郢曲如君和者稀

郢曲 君の如きひとには和する者稀なり

【語釈】

颯颯：風の吹く様、ここでは羽音をたてること。征鴻：空を渡っていく雁。斜暉  
：夕日。蘭杜：香りの高い秋の野草の一種。雲霞：夕焼け雲。客衣：旅人の衣。  
野店：野端の旅館。郢曲：素晴らしい曲（故事）、相手の別れの歌を褒めて言う。

(中国詩人選集二二一)

★明 袁宏道

内に答う

内に答う

少年讀書求富貴

少年書を読んで富貴を求め

白手青龍能自致

白手もて青龍を能く自ら致さんとす

屈首空云事已成

首を屈して空しく云う事已に成れりと

到頭轉覺官無味

到頭 転じた覺ゆ官の味無きを

一尺剛腸五尺身

一尺の剛腸 五尺の身

我非兒女寧拜人

我 兒女に非ず 寧んぞ人を拜せんや

萊子有妻終是隱

萊子 妻有れども 終に是れ隠る

原憲無病莫憂貧

原憲 病無ければ 貧を憂うる莫かれ

我腕如綿面似紙

我が腕は綿の如く 面は紙に似たり

未得一錢先羞死

未だ一錢を得ざるに先ず羞死せんとす

書生無才不解食

書生 才無く 食ることを解せず

不是將身比秋水

身を將つて秋水に比ぶるに是らず

【語釈】

内…妻。少年…若いとき。白手…素手。青竜…竜、科擧の試験を懸けたもの。屈首…身を屈して微官でいること。到頭…結局。萊子…春秋時代の楚の人、七十になっても、赤ん坊のマネをして、親を喜ばせたという。原憲…孔子の弟子で、貧困の中にあっても節を守った。羞死…恥ずかしさの余り死ぬ程の思いをする。不解…できない、そうする能力が無い。秋水…澄み切った物の喩え。

(中国詩人選集二一11)

★明 袁宏道

暮春偕同署諸君子飲郭外

暮春 同署の諸君子と偕に郭外に飲む

滑滑春流瀉縠紋

滑々たる春流 縠紋を瀉ぎ

嵐光映照石榴裙

嵐光 照し映ず 石榴裙

今朝止許談風月

今朝は止だ風月を談ずることのみを許し

何日相從問水雲

何の日か 相從いて水雲を問わん

細雨乍收山鳥喜

細雨 乍ち收まりて 山鳥喜び

亂畦行盡草花薰

乱畦 行尽くせば 草花薫る

海棠枝底烏紗側

海棠の枝底 烏紗側くも

未覺飛觥到十分

未だ覺えず 飛觥の 十分に到れるを

【語釈】

滑滑：油のように滑らかなさま。縠紋：縮緬の縞模様。嵐光：明るい山の色。石榴裙：ツツジのように赤いスカート、妓女を指す。今朝：今日。相從：連れ立つ。亂畦：縦横に入り乱れたあぜ道。烏紗側：黒い紗の帽子が横にゆがむ、酩酊した様。飛觥：互いに杯を応酬し合うこと。

(中国詩人選集二一11)

★明 袁宏道

暑中舟行入村舍偕冷雲及明教居士其一

暑中舟行して村舎に入る、冷雲及明教居士と偕たり 其一

深林棗實紅

深林 棗実紅く

沙鳥立陰中

沙鳥 陰中に立つ

曠野雲燒日

広野 雲は日を燒き

平川雨洗風

平川 雨は風を洗う

酒香知社近

酒は香りて社の近きを知り

村靜識年豊

村は静かにして年の豊かなるを識る

漸看河橋上

漸く看る 河橋の上に

提携有老翁

提携される 老翁の有るを

【語釈】

冷雲：中郎の同友だった僧侶の一人。明教居士：不詳。棗實：夏目の実。沙鳥：川の州に住む鳥。陰中：日陰。社：村祭り、ここでは秋社。漸：次第に。提携：手を引かれる。

(中国詩人選集二二11)

★明 袁宏道

月下坐小閣

月下小閣に坐す

雛女笑咿啞

雛女笑いて咿啞

疏簾委委斜

疏簾委々として斜めなり

酒澆清苦月

酒を澆ぐ清苦の月

詩慰寂寥花

詩もて慰む寂寥の花

影落回風鴈

影は 風を回ぐる 鴈より落ち

光分坐樹鴉

光は樹に坐す鴉を分かつ

侍兒供茗碗

侍兒茗碗を供す

幽事在山家

幽事 山家に在り

【語釈】

雛女：女の赤ん坊。咿啞：幼子が喋ったり笑ったりする声の形容。疏簾：粗い目の簾。委委：ゆつたりとして落ち着いたさま。酒澆：澆酒、神や死者を祭るときに地面に酒を注ぐこと。清苦月：痛々しくも清らかな月。回風鴈：風に乗って舞っている鴉。分：分からせる。茗碗：お茶を入れた茶碗。幽事：この世ならぬ美の世界。

(中国詩人選集二二一)



★清 吳偉業

梅村

梅村

枳籬茅舍掩蒼苔

枳籬茅舍蒼苔掩

乞竹分花手自栽

竹を乞い花を分ち手自ら栽う

不好詣人貪客過

人に詣るを好まず客の過るを貪り

慣遲作答愛書來

遅く答を作るに慣れて書の來たるを愛す

閒窗聽雨攤詩卷

閑窓に雨を聴きつつ詩卷を攤げ

獨樹看雲上嘯台

獨樹に雲を看つつ嘯台に上る

桑落酒香盧橘美

桑落の酒香しくして盧橘美なり

釣船斜繫草堂開

釣船斜めに繫げば草堂開く

【語釈】

梅村：吳偉業の故郷太倉の西にあった山莊。枳籬：カラタチの垣根。茅舍：茅葺きの家。蒼苔：青い苔。手自栽：自分の手で植える。詣人：人を訪問する。過：やってくる。慣遲作答：返事を遅く書く。閒窗：静かな窓。詩卷：詩書。攤：ひろげる、開く。嘯台：、河南省尉氏県にあり、晋の阮籍がこの台に登って詩を吟じたと伝える場所、これにちなんで名付けた台？。桑落：酒の銘柄。盧橘：きんかん。釣船：釣り船。草堂：草葺きの家、自分の家を謙遜して言う。

(中国詩人選集 二一12)

関連詩句

「枳籬茆舍也生春，今雨欣逢客到頻。」(明末清初・汪琬)

「枳籬茅舍石衢隈，馬踏輕泥不作埃。」(清・弘曆)

「我生壯志常卓犖，不好詣人相徵逐。」(清・許傳霈)

「桑落酒香碧玉壺，美人不來空我思。」(明・王九思)

「桑落酒香初下馬，貂榆珍重晚風前。」(清・張英)

★清 吳偉業

自信

自ら信ず

自信平生懶是真

自ら信ず 平生懶は是れ真なりと

底須辛苦踏春塵

底ぞ須いん 辛苦して 春塵を踏むを

每逢墟落愁戎馬

墟落に逢う毎に 戎馬を愁い

却聽風濤話鬼神

却つて 風濤を聴いて 鬼神を語る

濁酒一杯今夜醉

濁酒 一杯 今夜酔い

好花明日故園春

好花 明日 故園の春

長安冠蓋知多少

長安の冠蓋 知んぬ多少ぞ

頭白江湖放散人

頭は白し 江湖 放散の人

【語釈】

自信：自分で分かる。懶：怠けること。真：本当の姿。底須：「何必」と同じ、なんぞ必ずしも～せん、強い否定。辛苦：辛い思いをして苦しむ。春塵：「俗塵」俗世間の塵。墟落：人のいない集落。戎馬：戦い。却：また。風濤：風波の音。鬼神：超人的な力を持つ霊的存在。濁酒：どぶろく。故園：故郷。冠蓋：冠と車の蔽い、出世した高貴な人。江湖：朝廷に対して田舎を言う、隠者の住むところ。放散：わがまま。

関連詩句

「自信平生非木石，誰憐半世混泥塗。」（南宋・李呂）

「自信平生有道緣，頻煩白鶴寄瑤箋。」（元・張翥）

「自信平生愛登覽，夕陽高處重徘徊。」（元末明初・陳基）

「底須辛苦訪蓬萊，唾手功名亦快哉。」（南宋・劉克莊）

「世路巖嶇吾倦至，底須辛苦爲膏粱。」（南宋・方岳）

「濁酒一杯家萬裏，燕然未勒歸無計。」（北宋・范仲淹）

「濁酒一杯秋滿眼，可憐同意不同斟。」（北宋・王安石）

「濁酒一杯休萬慮，長林烟暝暮鴉還。」（北宋・韋驥）  
「長安冠蓋皆塗地，仍喜先生葬碧岑。」（唐末五代初・歸仁）  
「長安冠蓋多豪傑，誰肯論交到爾汝。」（北宋・趙文昌）  
「早聞聲價滿京城，頭白江湖放曠情。」（中唐・張籍）  
「何須更學鴟夷子，頭白江湖一短船。」（唐・趙嘏）  
「五陵書劍隨行李，頭白江湖一釣舟。」元末明初・胡布

★清 王士禎

江上

江上

吳頭楚尾路如何

吳頭楚尾路如何

煙雨秋深暗白波

煙雨秋深くして 白波暗し

晚趁寒潮渡江去

晩に寒潮を趁いて江を渡り去けば

滿林黃葉雁聲多

滿林の黃葉 雁声多し

【語釈】

吳頭楚尾：江南（吳の地方）のこと。煙雨：霧雨、こぬか雨。白波：しらかなみ。暗：ほのかにそれと分かるだけ。寒潮：寒い冬の潮。趁：後を追う。去：行く、出かける。

（漢詩大系 23）

関連詩句

「烟雨秋深紫翠浓，仙人楼阁暮重重。」（明・郑真）

「今日歸來頭併白，滿林黃葉臥秋風。」（元・朱晞顔）

「滿林黃葉肅霜天，挑盡殘燈未得眠。」（明・韓雍）

★清 王士禎

真州絕句

真州絕句  
しんしゅうぜつこ

江幹多是釣人居

江幹は多く是れ釣人の居

柳陌菱塘一帶疏

柳陌 菱塘 一帶疏なり

好是日斜風定後

好し是れ 日斜めにして風定まる後

半江紅樹賣鱸魚

半江の紅樹 鱸魚を売る

【語釈】

真州：揚州と南京の中間にある長江北岸の都市。江干：川の岸。釣人：漁夫。  
柳陌：柳の生えた路。菱塘：菱の生えた池の隄。半江：江が柳の間だから見え隠れしている。紅樹：紅葉した木。

（漢詩大系23）

関連詩句

「豆棚瓜架偏宜雨，柳陌菱塘易得秋。」（清・汪芑）

「柳陌菱塘接大江，青山隱隱水茫茫。」（近現代・宛敏灝）

「好是日斜人去後，一天紅葉下西風。」（清・薑實節）

「好是日斜風定候，半江波影醺春衫。」（清末近現代初・連橫）

「半江紅樹買魚回，洗手作羹同下箸。」（清・許詠仁）

「一記沉雷收宿雨，半江紅樹漲晴暉。」（當代・熊東遨）

★清 王士禛

秦淮雜詩

秦淮雜詩

年來腸斷秣陵舟

年來 腸斷す

秣陵の舟

夢繞秦淮水上樓

夢は遠る

秦淮 水上の樓

十日雨絲風片裏

十日の雨糸

風片の裏

濃春煙景似殘秋

濃春の煙景

殘秋に似たり

【語釈】

秦淮：建康（南京）を貫流して長江へ注ぐ古代の運河、周辺は歓楽街。雜詩：興の赴くままに作った詩。年來：数年この方。腸斷：はらわたが断ち切れるほどの悲しみ、愁い（ここでは、心の底から思い焦がれていたという意味）。秣陵：南京の近くにある地。雨絲：細かい雨。風片：軽い風。濃春：春のたけなわ。煙景：霧の中の景色。殘秋：秋の末。

（漢詩大系 23）

★清 王士禎

夜雨題寒山寺寄西樵禮吉 二首其二

夜雨のとき寒山寺に題し、西樵・礼吉に寄す

二首其の二

楓葉蕭條水驛空

楓葉蕭條として水駅空し

離居千里悵難同

離居千里同じきことの難きを悵む

十年舊約江南夢

十年の旧約江南の夢

独聴寒山半夜鐘

独り聴く寒山半夜の鐘

【語釈】

寒山寺：江蘇省蘇州市の西郊で楓橋鎮にある寺。寄：手紙を出す。…に寄（よ）す。西樵：王士禎の上の兄・禮吉：王士禎の次の兄。楓葉：カエデの葉。蕭條：水驛：船着き場の宿場。離居：離れて暮らす。千里：遙かな道のりを謂う。悵…うらめしい。同：共に過ごす。十年：十年前からの舊約：昔の約束。江南：長江下流地帯の南岸部、風光明媚なところ。夢：夢を見る。寒山：寒山寺のこと。半夜：夜半。

（漢詩大系23）

関連詩句

「楓葉蕭條山下月，戍樓殘火幾家秋。」（明・王恭）

「近來詩境誰能會，獨聽寒山寺裏鐘。」（清末近現代初・廉泉）

★清 王士禛

聞雁

雁を聞く

縹緲涼天數雁鳴

縹緲たる涼天 數雁鳴く

幾家砧杵起秋聲

幾家の砧杵 秋声を起こす

懷人江上楓初落

人を懷えば 江上 楓初めて落ち

臥病空堂雨易成

病に卧せば 空堂 雨成り易すし

尺素經時常北望

尺素 時を経て 常に北望し

暮雲無際且南征

暮雲 際無く 且に南に征かんとす

沅湘一帶多兵甲

沅湘 一帶 兵甲多く

莫動高樓少婦情

高樓少婦の情を 動かすこと莫かれ

【語釈】

縹緲：遙かにして広いさま。涼天：涼しい大空。砧杵：衣を打つときに使う砧と槌。秋聲：秋が来たことを感じさせる音。懷人：正常に出ている夫。空堂：人気の無い部屋。尺素：手紙（素はしろぎぬ）。北望：北側の空を望む。無際：はてしない。沅湘：沅水と湘水、共に湖北の洞庭湖に注ぐ。兵甲：戦争。高樓少婦：高樓にいる年若い婦人（曹植「七哀詩」による）。

（漢詩大系 23）

関連詩句

「萬壘鼓聲生夜月，幾家砧杵落秋城。」（明・釋宗泐）

「一簇帆檣秋浦外，幾家砧杵夕陽中。」（明・陳贄）

「北望微塵何處是，暮雲無際草蒼茫。」（明・劉效祖）

「一葉蒲帆指石城，暮雲無際與天平。」（清・鄧顯鶴）

★清 王士禎

秋柳四首 其の一

秋柳四首其の一

秋來何處最銷魂

秋來 何れの処に最も銷魂なる

殘照西風白下門

殘照 西風 白下の門

他日差池春燕影

他日 差池たり 春燕の影

祇今憔悴晚煙痕

祇今 憔悴す 晚煙の痕

愁生陌上黃鸝曲

愁は生ず 陌上 黃鸝の曲

夢遠江南烏夜村

夢は遠し 江南 烏夜の村

莫聽臨風三弄笛

聴く莫かれ 風に臨む三弄の笛

玉關哀怨總難論

玉關の哀怨 総て論じ難し

【語釈】

秋柳：秋、柳の木について王士禎が四首の詩を作り、仲間に和韻を求めた物。秋來：秋になってから。銷魂：魂がなくなるほど悲しいこと、断腸。殘照：日が沈んだあとの残輝。西風：秋風。白下：今の南京。他日：昔、差池：長短不揃いのこと、燕の羽の形容。祇：助辞、但に同じ。憔悴：やつれた形容。晚煙：夕靄。陌上：道の上。陌上黃鸝曲：唐の太宗が遠征の途中、道ばたで馬が死んだのを悼んで作らせた曲。烏夜村：浙江省海塩の南にあると言う村。三弄笛：三度笛を吹く。玉關：玉門関。哀怨：（玉門関出征の兵士が、笛を聞いて抱く）悲しい心持ち。

（漢詩大系23）

関連詩句

「秋來何處看秋水，南苑飛泉玉不如。」（明・薛蕙）

「秋來何處看遺跡，寂寂無言斂翠蛾。」（明・張輔）

「殘照西風一片愁。疏楊畫出六橋秋。」（宋・楊舜舉）

「向來吹帽插花人，盡隨殘照西風去。」（宋・劉剋莊）



★清 王士禛

即目

即目

蕭條秋雨夕

蕭條たる秋雨の夕

蒼茫楚江晦

蒼茫として楚江晦し

時見一舟行

時に見る一舟の行くを

濛濛水雲外

濛々たる水雲の外

【語釈】

即目：目にふれたものをそのまま現した詩。蕭條：もの寂しいさま。蒼茫：広々として、はてしのないさま。楚江：楚の国の川の意で長江のこと。晦：暗い。濛濛：霧などがたちこめて暗いさま。水雲：水の上に湧く雲。外……の彼方（かなた）に。

（漢詩大系 23）

★清 王士禛

青山

青山

晨雨過青山

晨雨 青山を過ぎ

漠漠寒烟織

漠々として寒煙を織る

不見秣陵城

秣陵城を見ず

坐愛秋江色

坐に愛す 秋江の色

【語釈】

晨雨：明け方の雨。漠漠：ひっそりとして物寂しい形容。寒煙：寒い霧、もや。織：はた糸のごとく、もやもやと立ちこめること。秣陵城：金陵（南京）。坐：ただ何となく。

（漢詩大系 23）

★清 王士禛

壤塗早發 壤塗にて早に発す

夢迴峽月落

夢は迴ぐりて峽月落ち

卧聽舟人語

卧して聽く舟人の語

風便五更潮

風は便なり五更の潮

天明到南浦

天明に南浦に到らんと

【語釈】

壤塗：地名、四川省万県の南。峽月：山の狭間の月。風便：順風であること。五更：午前四時頃。天明：夜明け。南浦：四川省万県

(漢詩大系 23)

★清 王士禛

漫興十首 其十

漫興十首 其十

少日論兵事

少き日 兵事を論ぜしに

空驚老下身

空しく驚く 老下の身

拊膺成一歎

膺を拊ちて 一歎を成し

食肉爾何人

食を肉うは 爾何人ぞ

劇孟能傾楚

劇孟 能く楚を傾むけ

弦高竟却秦

弦高 竟いに秦を却ぞく

白頭清鏡裏

白頭 清鏡の裏

歸卧故山春

歸りて卧せん 故山の春に

【語釈】

老大：年をとったこと。拊膺：胸を打つ。食肉：高貴な身分の人。劇孟：漢代の遊侠の親分。弦高：春秋時代の鄭の国の商人。

(中国詩人選集二一13) 典故多し。

★清 張問陶

過黃州 黃州を過ぐ

蜻蛉一葉獨歸舟

蜻蛉一葉 獨歸の舟

寒浸春衣夜水幽

寒は春衣を浸し 夜水幽なり

我似橫江西去鶴

我は江を横ぎり 西に去る鶴に似て

月明如夢過黃州

月明に夢の如く 黃州を過ぐ

【語釈】

黃州：湖北省黃岡市一帯。蜻蛉：とんぼ。一葉：小さな船。

★清 鳳鵠

春寒 春寒し

漫脫春衣浣酒紅

漫に春衣を脱いで 酒紅を浣う

江南三月最多風

江南 三月 最も多風

梨花雪後醑蘼雪

梨花 雪後に 醑蘼の雪

人在重簾淺夢中

人は重簾 淺夢の中に在り

【語釈】

漫：何となく。春衣：春着。酒紅：酒のシミで赤くなった痕。浣：洗う。江南：長江中流・下流の南岸地域。最多風：最も風がよく吹く季節である。梨花：梨なしの花。雪後：雪のように咲いた梨なしの白い花が散った後。醑蘼：バラ科の落葉小低木、頭巾いばら。醑蘼雪：頭巾いばらの花が雪のように咲く。人：作者を指す。重簾：二重のすだれ。淺夢：うとうとしながら見る夢。

(Web 漢文大系)

## 参考文献

- 「漢詩大系」シリーズ 株式会社 集英社  
「中国詩人選集」シリーズ 株式会社 岩波書店  
「新釈漢文大系」シリーズ 株式会社 明治書院  
「唐詩選」 株式会社 岩波書店  
「唐詩選詳説」 株式会社 岩波書店  
「唐詩選」 株式会社 筑摩書房  
「唐詩三百首」 株式会社 平凡社  
「唐詩三百首詳解」 株式会社 大修館  
「対訳唐詩三百首」 株式会社 勉誠出版  
「三体詩」 株式会社 朝日新聞社  
「唐詩選・三体詩」 国会図書館デジタルコレクション  
「杜甫全詩訳注」 岩波文庫  
「杜甫詩注」 株式会社 筑摩書房  
「白楽天詩選」 株式会社 岩波書店  
「柳宗元詩選」 岩波文庫  
「岑嘉州集」 株式会社 白帝社  
「杜樊川絶句詳解」 国会図書館デジタルコレクション  
「宋詩選注」 東洋文庫  
「宋詩選」 朝日新聞社  
「元明詩選概説」 岩波文庫  
「范成大詩選」 株式会社 幻冬社  
「中国名詩選」(松枝茂夫) 岩波文庫  
「中国名詩選」(川合康三) 岩波文庫  
「國譯漢文大成」 国会図書館デジタルコレクション  
「石川忠久 100選シリーズ」 三栄出版  
「漢詩鑑賞事典」 講談社学術文庫  
「和漢名詩選類評釈」 株式会社 明治書院